

三木清関連資料

第3輯

座談会集一

三木清の参加した対談・座談会を、西田幾多郎関連で『第2輯』に収載したものと「文学界座談会」を除き、1940.4までの分をすべて収める。

凡例

- 底本に於ける旧字体を新字体に直した。基本はシフトJISに収まるが、第二水準まででない二倍の踊り字「く」は、ユニコードが使われている。
- 満州・欧州の「州」は、基本的に「洲」が使われているが総て「州」に代えている。
- 新仮名遣いにしたが、口語体の「ぢゃ」はそのままとした。
- 一部、送り仮名の統一をした。
- いくつか漢字交じりの副詞を平仮名に変えた。
- カタカナ表示の人名表記を統一した。
- 外国語のカタカナ表記は、半ば日本語化したものはそのままであるが、作成者の判断で原語を追加した。また、表記の統一もした。
- 底本にあったルビは適宜取捨した。総ルビの雑誌・新聞についてはルビをほぼ棄てた。
- あきらかな誤記・誤植は脚注なしで訂正した。断定し難いものに「ママ」とルビを振る。
- 新聞・雑誌では改行時に句読点が抜けたと思われる箇所が多数ある。句点が読点のみのものも或る。それらは適宜追加・訂正した。
- 判読出来ないまたは文字が欠けている箇所がある。※「#」で示す。
- 脚注は、すべて作成者の追加したものである。一言だけの注は文中に【】で記す。

○参加者略歴はネットなどを通じて調べたもので、登場回数が一度の方は冒頭に、他は巻末にあります。発言があつても雑誌などの編集関係者で略歴不明の方が居られます。また学生で参加した方も不明です。

三木清関連資料第3輯 座談会集一

目次

座談会・自由主義検討	1933.9	6
座談会・社会学	1934.11	45
合評・一九三五年の政治・思想の主流的動向	1935.1.1～5	73
座談会・能動精神	1935.3	82
座談会・純粹小説を語る	1935.6	137
座談会・最近世情批判	1935.7	164
座談会・青年を語る	1936.5.4	210
座談会・新しき世代の家庭教育を語る	1936.6	221
座談会・時代と文芸思想の行くべき道	1937.1.1～24	251
座談会・現下の重要教育問題	1937.2	300

座談会・日本政治の特殊性を討する	1937.5	326
座談会・読書と教養のために	1937.6	369
座談会・国民性の陶冶	1937.6	417
座談会・学生・学生を語る	1938.8	449
座談会・時代の皮膚に触れて	1938.8.1	480
座談会・いかに革新すべきか	1938.10	487
座談会・国民再組織の動向	1938.12.6～13	538
三氏を囲む学生座談会・平賀肅学を学生はどう観るか	1939.3	573
参考記事「学部抗争」		605
座談会・読書界の傾向を語る	1939.5	608
座談会・知性文化の方向を語る	1939.5	632
【参考】矢崎弾「三木氏との雑談」	1939.7.5	674
討論会・国民動員と世論	1939.8	684
参考コラム「学芸展望」		729
座談会・青年学生に待望す	1939.11	732
座談会・文化の空虚を衝く	1940.1	755

座談会・国内の現実を打開せよ	1940.1	787
対談・知識階級の使命	1940.4	823
参加者略歴		844

自由主義検討 座談会

いでしょうか。

芦田 均

芦田 座長は大分経験が多いようだから、請う隗より始めよと云うところですね。

麻生 久：1891～1940、大分県出身、東京帝大卒、東

清沢 それぢや芦田さんに聞きますが、何か不自由

京日日新聞記者、労働運動家、社会大衆党書記長。

を味わったことがありますか。

長谷川如是閑

芦田 私は一番最後に……

石浜知行

記者 石浜さんはありませんか、言論の圧迫か何か

清沢 冽

に付て？……

倉田百三：1891～1943、広島県出身、劇作家。

石浜 さあ……

三木 清

佐々 金の不自由が第一でしょう（笑声）

佐々弘雄

清沢 言論は自由ですか。

長谷川 言論の自由は清沢君の言論が一番自由ぢや

清沢 座長を強制されて、少し閉口ですが、ぢや是

ないですか。

から座談会を始めます。さつき自由主義は知ら

清沢 そうですかね。然し云いたいことを全部言っ

ないが不自由主義ならみんな経験を持つて居る

て居るかどうかわれませんか。

と云うお話がありました、それに付て何かな

これ迄の自由主義者

清沢 さつき麻生さんでしたか、吉野さん【吉野作造 1878～1933】が死なれる前に、本当の強味が出て、是から本当に働ける所だったと云う話でしたね。

麻生 僕は日本に於ける自由主義者としての純乎とした信念を持った典型的な時代は吉野先生達で止めを刺して居ると思います。自由主義者としての典型的な人としては、吉野先生なんか最後の人だった様に思います。そして晩年の吉野先生はファッショの擡頭に対して信念的に猛烈に戦う意思をもっていた。だから〇〇のやり方に対する反対的態度の中にも烈々として捨身的であった。私は死なれる直前の吉野先生の中にそう云うようなことを痛感して居りましたね。今日の多くのインテリは実生活の態度に於いては自由主義であるが、思想的には非常に混合物が多くて、純乎たる自由主義者としての信念を

もっている人はない様に思われます。今日のインテリの多くは五〇パーセント、マルキシスト、五〇パーセント、ファッショと云った風に色々なものが混合している。私は純乎たる典型的な自由主義者としては吉野さん乃至その時代の人

に止めを刺す様に思います。

清沢 例えば尾崎さん【尾崎行雄 1858～1954】の如きはどうですか。

麻生 あの人なんかもそうじゃないですか。

清沢 語り第一期に出た人々が戦いに強いというわけですか。

麻生 尾崎さんは吉野さんより純でないかも知れませんが、せんね。実際の政治家であるだけに……

三木 今度の京大の佐々木さん¹なんかどうですか。

麻生 あれは吉野さん時代の人ぢやないでしょう

1 佐々木惣一か？京都帝国大学法学部長でちょうどこの頃滝川事件で辞職した。

か。若干の違いはあつても……佐々木さんとか、吉野さんはあの時代の学者ですね。

清沢 新渡戸さん【新渡戸稲造 1862～1933】なんか少し違いますか。

佐々 やはりそうでしょうね。どうでしょうかね。

芦田 新渡戸先生は私の先生だから、出来るだけよく言う積りだが、吉野先生と新渡戸先生と較べると、多少違ってやしないかと思えますね。新渡戸さんの方が余程人間が妥協的に出来て居るのぢやないかと私は思ふんです。昔話になるけれども、丁度新渡戸先生が第一高等学校の校長をして居られた頃に所謂新渡戸門下と云う一つのグループがあつて現在では色々な方面に走つて居るが、中に二人ばかり非常な熱心なキリスト教信者がありましてね。そうしてその一人の藤井君は不幸にして二年か三年前に死にました。今一人黒崎と云う人が残つて居る、是が関西に

教会を持つて今尚お戦つて居る。其人が寧ろ本当のリベラリストとしての強味を持つて居るのぢやないかと云う気がするのです。もう一つのグループは例えば鶴見祐輔君とか、公使になつて居る笠間君とか……

倉田 矢内原（忠雄）君はどうでしょうか。

芦田 矢内原君はもう一つそれより時代が遅いんです。新渡戸グループの最初のグループではありません。前田多門君が一番先輩です。だから其二つのグループが其意味に於いて多少かけ離れて来たのです。藤井とか黒崎とかは熱心な求道者で其意味に於いて後年内村先生【内村鑑三 1861～1930】の感化を受けたのぢやないかと思ひます。このグループを二つ合せて割つたら新渡戸先生が出るような気がします。

清沢 美濃部達吉さんはどうですか、其薰陶を受けた方はありませんか。

佐々 美濃部先生は思想的な戦いをやると云うよう

なことは余りされない。広汎に見ればやったとも云えるでしょうが。社会思想的な方面と云うよりも、法律制度の方面に貢献された。日本の公法制度其他に自由主義制度を織込んだ人ですね、だからやはり法律家的な、学者的な立場のリベラリストとも言えましょうね。

石浜 新渡戸さんは個人的には知りませんがたしかに妥協的ですね。

倉田 僕もそう思いますね。一高時代からそう考えていましたが、其点で気に入らなかつたですが、それは尾崎さんの方が政治運動をやつたからかも知らないが、此間の文藝春秋なんかの議論でも、自由主義者としては突っ込んだ所がありますね。

浪人会時代

石浜 例えば吉野さんの浪人会との演説会と云うよ

うな時に、新渡戸さんならば彼処迄行かないと思うが、どうだろうか。

佐々 そうかも知れないね。

石浜 僕は個人的にはちつとも知らないですが……

麻生 あの時の相談相手が僕ですね。

佐々 麻生さんなんかがもつて行つたのぢやありませんか。

麻生 もつて行つたかも知れないが、あの時の経緯が面白いね。先生達が大阪で長谷川先生等をやつつけて帰つて来た。其頃僕は日日に居つたのですが、日日新聞と吉野さんの間に或る事で経緯が出来ちやつた。それで僕が仲に立つて吉野さんを紹介して日日新聞と吉野さんと仲直りをやつたのです。そうして居る間に日日新聞が浪人会のことを書き立てて来た。そうして向う

1 1908 田中弘之らによって結成された国家主義政治結社

からもそう云うような立会演説をやりたいと云うので、再々大学に押かけて来たのです。或る夜吉野先生が来てどうしようかと云う相談です。

其時には吉野先生は気があつたのです。それを僕はおりやなぎいと強調したのです。「それぢややろう」、と言われたが、然し先生は大体に物の考え方は甘かった様です。詰り総てに對して甘いのです。朝日に入るのも僕は止めたのです。先生は新聞社と云うところを非常に甘く考えて居つたのですが、僕は新聞社はあなたが外に居つて考えるのと違ふ、それより大学に居つてやつた方が宜いと言つたんですが、然し其時は遅かつたのです。先生は非常にそう云うように物を安易に考える性質があつたのです。で浪人会に對してもそれ程氣にして居なかつた。なあにと云う氣があつたのです。それで僕は介添役を引受けるからおやなぎいと音頭取りをやつたので

す。だから僕が持つて行つたと云うよりも、吉野先生の安易な氣持ちが割合に氣輕に浪人会との立会演説を決行させたのでした¹。

佐々 仰る通り吉野さんは思想的な議論を大いにやられた。しかし思想の戦いをする際も思想の交換と言いましようか、そう云うような氣持ちを考へて居られた。だから争うと云う考へは余りなかつた。実力的な氣持は余りないんです。あの頃いつか大学の控室の中で、先生の云つたことに、『登校の途中であちらから暴漢がやつて来た時は此方の横丁に逃げる。右の方から来た時には左の露路に逃げようと思へて居る。』と非常に卒直で自然であつた。そして、柔道部の学

¹ この経緯については、朝日新聞社社長に浪人会の一員が暴行を加へ——これで大阪朝日が右傾化し彼らにとつて成功であつたが——、吉野作造が『中央公論』1918年12で強く非難した。それに対して浪人会が押しかけられるようになった。で、吉野がそれでは公開演説会で決着しようと思へた。という経緯も流布されている。

生が護衛を申込んだら先生はそれをびつたりと断った。そう云うことを先生は嫌いなんです。

麻生 僕が最近の吉野先生は非常に棄身的なところが出来ていたと云うのは、其安易な気持が段々清算されて、死ぬる直前には非常な鬭争的な態度をもって来られていた事を云うのです。前の吉野先生の安易さがすっかり清算されて、非常に強い、しんみりした悲壮味を持った先生でした。私は先生のなくなられる前一年位一つの小さな会によつて、先生と交渉を持っていたのですが、先生の〇〇のやり方に対する態度の中には実に烈々たる気魄があつた。私も久し振りに先生と接触して驚かされたのでした。それに身体もあゝなつて居つたし、家庭のことも甘いところを通り越して色々な苦勞をして棄身になられたのでしよう。非常に強さが出ていた。以前はそうではなかつた、安易な、勝ち誇つたような処があつ

たね。

佐々 又時代が安易さを裏づけてた時でしたね。

麻生 そうです。丁度潮流に乗つた時でしたね。

麻生 倉田さん。浪人会が吉野さんに向つて討論を申込んで演説会をやりましたが、現在は其當時より其人達の勢力はあるのでしょうか。仮に何かの意見が相違する場合に其人達が堂々と自由主義者と討論会をやるとう云うようなことはありませんか、あなたの知つて居るファツシヨの人、なんかで……

倉田 私はファツシヨ団体の人を知つてゐるわけでもない……

清沢 いや、失礼。

倉田 僕は吉野さんからそう生き／＼した魅力のある感じは受けませんでしたよ。新渡戸さんよりはつきりしていられるかも知れないけれども……

清沢 其他の学者で自由主義者としてもつと強く戦つて居る人はありませんか。

石浜 今中（次磨）氏なんかどうですか、僕は今中氏はちつとも知らないんですが……

佐々 真面目な学者ですね。勉強家の方ですよ。自由主義的な實際運動をやろうと考えているとは思いません。

自由主義者とは何か

倉田 一体自由主義と云うものはどう云うものになるかと云うと、分らなくなる、僕は三木君の朝日新聞【「自由主義者の立場」第二巻収録】に詳しく書かれたのを見たが、却つて分らなくなりましたね。清沢さんが新潮に書かれたように私は「自由を求めることを主義とすると云う意味で自由主義者である」と云う考えになつて来ると大變はつきりして来ると思うが、又外のこと

で分らなくなる。僕は分析すると分らないから、斯う云う風に思つたのですが、自由主義者とは、まあ、マルキストでもなくアナキストでもなく、ファシストでもなく、社会民主主義でもない、詰り一定の政治的主張に対する関心をまだもつて居ない処の知識階級、そう云うものを私は自由主義者と思います。そう云う意味で、僕は例えば一般の学生層だとか、青年知識階級と云うものは、マルキストとして立たない、ファシストとして立たない、そう云うような人は、私は広い範囲で自由主義者の中に入れて宜いぢやないかと思います。何故かと云うのに、其人達がマルキストでもなく、ファシストでもないと言ふ場合に、何で自分の生活を導いて居るかと言へば、やはり是は自由主義だろうと思ひます。広い意味の人格の自由とか、そう云うような自由主義で自分達の生活を導いて居るだろうと思

います。まだ自分にファシストとか、マルキストとかの態度を決めて居ない、或は文壇や、一般的の知識階級で、ファシストでもなく、マルキストでもない、そう云う人は自由主義者となる、積極的に自由を求めることを主義としては居ないかも知れないが、其人は何で生活を導いて居るか、事実上人格の自由とか、理想主義とか、そう云うものでそう云う人達は自分の生活を導いて居るだろうと思います。そういう人達は僕は自由主義者の範疇の中に入れて宜いと思います。夫で自由主義者の範疇が非常に広くなると思いますが。そう云う人達が僕の考えでは、やがて自分の態度を結局政治的に決めなくちゃならぬような位置に立つと思います。そう云う場合にマルキストより、ファシストの方に協力した方がいゝと思うのです。と云う意味は結局自由主義者と云うものはマルキストよりファシスト

に協力すべき性格のものと思うのです。そう云うような意味で自由主義者とは何かと云うことを考えると、非常に広い範囲になるのだけれども、兎に角今の時代で、自分をマルキストでないとして別の立場で考えて居るような人は、何かやはりマルキシズムと云うものに對する根本的不調和が性格にあるのだ。マルクス主義は非常にはつきりした一つの主張を持った強い、立派な主義であるから、それに対して自分が敢えてマルキストでないと云うからには、それ自体が何かマルキシズムに對する根本的不満があるのだろうと思います。だから広い範囲の今の学生とか、青年とかの社会層が、マルキストとして自分を考えて居ない、そう云う自由主義的のものは僕等の意味で此国民主義の方に大いに加担し得る可能性があると思つて居るのです。それで僕はあゝ、謂うものを書いたのであつて

……

佐々 そうすると前の定義と喰い違つて来ますね。

政治と自由主義は分離する

倉田 其定義は自由主義とは、アナキストとか、マルキストとか、ファシストとか又社会民主主義者とかいうような一定の政治的主張を未だ発して居ない処の……

芦田 其定義は全然反対だ。自由主義と云うものは、そんな曖昧なものでない。

倉田 自由主義と云うのは自由と云うものを欲して居る人たちであつて、政治的に共產主義であるとか、アナキストとか、ファシストとか云う一定の政治的主張に対する関心を持たない、……殊に文壇人なんかそうです。

芦田 政治的主張があるから自由主義ですね。人間の発達は個性の自由から発足するというのが自

由主義であつて、凡ての拘束から人間を解放する処に社会の進歩があると云う見方です。唯今お話の総ての得体の分らぬものを集めて自由主義者だと云う定義にはどうも私は反対せざるを得ない。

倉田 然し其人達が自覚した人であれば、何かの原理で自分達の生活を導いて居る筈である。それは自由主義の外にはない。そういうまだ政治的関心が起つて居ない人たちです。そうでないと自由主義者の範圍が非常に狭くなる。

芦田 そう云うものは自由主義でないと思います。それは何でもないと思います。

倉田 そう云うのは併し広い範圍ですね。

三木 それは全然政治的関心を持つて居ないというのではなく、或る意味に於いて関心を持つて居るのではないのですか。政治が文化を圧迫するとか、政治がとかく強権的になる傾向があるとか

いうことに対して反対だと云う意見を持つて居る、その意味でそう云う人達も政治に関心を持つて居るのではないのですか。

倉田 それだと消極的な意味になつて来ます。事實は政治的に関心を持つて居る知識階級と云うものは少ないですよ。だからそう云う人たちは、自分の自由を束縛されさえしなければ宜いと云うのです。だからファシズムにしても、マルキシズムにしても自分の自由を束縛して働きかけて来る、それだからいけないと云うのです、そういういゝ意味の個人主義者若くは文壇人的で、未だ本当の政治的関心を発して居ないのです。

三木 余り今のファッショが強権に依つて働いて来るから、それらの人も自分を自由主義者として意識して来るので、そこに政治への関心が既に動いている筈です。

倉田 それを反抗するようになれば、もうファッ

シズムに対して反対しなければならぬと云う一定の政治的関心を起したのです。そうなれば右とか左とかに態度を決めなくてはならなくなり、どちらにもつかぬ、漠然たる自由の主張者というようなものでは居られなくなると思う。殊に僕等の文壇の仲間に於いてですね、それでどつちもつかぬ自由主義者というものは本当には政治的関心を起して居ないんですよ。事實、それが現実の自由主義者の有様だと思います。そうしないと自由主義の範囲が非常に狭くなると思う。

芦田 今の倉田さんの言う自由主義は政治上の自由主義ではつきりしたものを意味して居らぬ。貴方の自由主義というものは何か芸術家か詩人か文学者か、そつちの方の自由主義でしょう。

倉田 文学の範囲にもそれが多いですけども、一般の青年の学生社会層の広い範囲を占めたもの

と思うんですがね。

三木 それは一種の文化主義ぢやありませんか。詰り政治と文化とを対立させて考えるとき、政治がとかく強権的なもので、それが働いて来ればどうしても文化というものが圧迫される傾向があるということから、文化主義者が自由主義者になるんじゃないですか。

倉田 それに対して反対しなければならぬという関心を起せば、それが何かにならなければならぬ、マルキストになるか、ファッショになるか、或は自由主義者の行く道から言えばアナーキストになるべきもんじゃないかと思うんです。しかしそういう風になって来ればもうはつきりアナーキストと言う色彩が着くと思うんですよ。

三木 積極的に政治胡関心を持った自由主義者もあるわけでしょう。そういう人が政治的関心を持っているからと云つて、必ずファッショになると

いうわけではなく、それが政治上の自由主義者なのです。

政治上の自由主義者

倉田 政治的関心を持った自由主義者とは例えばどういうことを要求するのか。そういう狭い意味で自由主義者というのが用語例の本当の意味かも知れぬけれども、どういうことを主張するんです。

芦田 政治的に関心を持つ自由主義者とは、それは個人の自由を基礎として個性の完成を助けることを目的とする。この自由を拘束する多数の条件を排斥することが政治の目的であつて、個人の自由を多少でもゆがめるような方向に力を用いるべきではないという主張です。だから力を用いるというよりもパーシユエーション【Persuasion】(説得)によつてこれを動かすとい

うことが極めて大ざっぱな政治上の自由主義の行き方でしょうね。だからファッショとかマルキシズムとか言うような方向とは全く反対だと思ふんですね。そういう意味に於いて自由主義者がファッショに落ち着くべきものだというお説には私は反対なんです。

倉田 そうですか、僕は政治上の自由主義者の要求はどうもはつきりしないんです。形から言ったらどういうことですか、社会民主主義の如きものですか。

社会民主主義と自由主義

芦田 社会党とリベラリズムとははつきり限界が付いて居ると思うんですな。社会民主党になれば、個性の自由発展ということよりも社会というものを一つの機械的組織と見て個人の平均とか均一とかいう点に重きを置いて居るんでしょう。

個人というものは社会民主党の立場から見れば極めて軽いものとして取扱われるんじゃないんですか。そういう風に思うがどうですか。

長谷川 政治上の自由主義なんていうのは、専門家の佐々君が説明されようが、芦田さんの御自分の立場から今説明もあつたけれども……

芦田 佐々君からもう少し学理的なお話を一つどうぞ……

長谷川 僕はたゞ両極は一致してコミュニニストも同じことを言つて居るのを見る。コミュニニストは自由主義者はファッショ化すると言つて居るが。

生命主義に立てば

倉田 もう少し言い度いのは、僕は自由主義者とファシストとが結び付く可能性が何故あるかという、僕が何故マルキシズムに賛成出来ずファ

シズムに肩を持つかと言えば、その要求はやっぱり自由の要求から来ている。僕等は経済的のことはよく解らぬけれども、主として自分の生命主義という立場から、例えば自由競争ということですね、これを僕等は重んじ度い、マルキシズムの画く理想的社会のプランの共産的平等、等価ということが僕等の生命主義の要求と合わないということですね。ゲーテが「自由と平等と同時に約束するものは香具師である」と言っている。平等ということは片方で自由ということの束縛ですからね、人間の詰り生命が天然に於いて生命の質量があつて、差別の付くべきものを平等にしようということから、其処に生命力の強いものから言うとは非常に制限されるという風に感じて来る、それと第一人間が平等でなくちゃならないということは宇宙間の何処にも書いてある訳ぢやない。僕等はそれは生命の存在

し又生長する法則と合わないと思う。其処に生命の質量に応じた差別を認めて貰いたい。それを認めず平等とすることは不自由と感ずる、僕は今の時代で、マルキシズムは立派な人道主義的のものであるのに自由主義者が敢てそれになり得ないで居るといふことは、それ自身で、マルクス主義を自由の束縛として感じているんじゃないかと思う。所がファシズムの方ではそういうことの差別とか共産といふことでも、私有も許すし、企業といふものも許す。個人のインシヤチブを尊重する。露骨に言えば、五百円の店を出して千円にする所の喜び、その喜びの中に生命の生きたものゝ発展して行く喜び、そういう所に生きるものゝ喜びの大事なものがある。そういう意味で企業といふことをもつと認めて貰いたい、自由競争のない社会は死んだ社会である。そういう点でナチスもファッショも

個人のイニシヤチプ、企業を認める余地があるし、又ローマンチックと英雄主義の精神を生かす余地があつて、僕は自由主義者というものはマルキシズムよりもファシズムに近い性格があると思う。

三木 倉田さんのお考えはファシズムの中に自由主義者の希望を内密に読み込んでおられるようだ。

佐々 倉田さんの朝日新聞にかゝれたものを読んでファシズムになる運命観だと解した。それでその運命観に従おうと言うんでファシズム理論としては展開して居ないようですね。

倉田 それはスペースが短かくて書けなかつたけれども、私の方でも相当に考えては居るつもりですけれど……

清沢氏の「心構え」

石浜 清沢さん、『新潮』に書かれた自由主義は『心

構え』だというその『心構え』ということを読明して下さい。

清沢 あれはアティテュード [attitude] といつてもよければ、フレーム・オブ・マインド [frame of mind] といつてもいいもので、政策がその上に建設されるところの心構えだという意味です。たとえばマルキシズムが英国に行くと、ドイツやロシアと違つたものになる。なぜならばこれを受け入れる心構えが異なっているからなのです。リベラリズムは英国人には常識になつて居る。

三木 自由主義は主義ではなくて心構えだということですネ。

清沢 僕のいうのは斯ういうことなんです。自由ということそれ自身は政策でも何でもなくして、『どうぞ干渉して呉れるな、自由にしてくれ』ということですネ、従つてそれは現代の社会に対する批評精神にはなるけれども、其のこと自身

が政策でも何でも無い。それが政策たらんがために、コムミュニズムなり社会主義なりを持つて来なければならぬ。

三木 併しそうすると非常に身勝手ではありませぬかね。自分丈はどうぞ自由にして呉れというのであつて、積極的な、例えばマルキシズムとかファシズムとかにおけるような積極的な政策というものを自分には持たないで、たゞ自分丈は自由にして呉れというならば……

清沢 僕の言うのはそうぢやない。政策はあるんですけれども、われ等の云うリベラリズムは政策ではないということです。リベラリズムを、ただ自由を求めるという意味、進歩主義というような意味ならば、この名を甘受する。併し政策としてなら、搾取なき世界の実現を企図する社会主義の目掛けるものと変つたことはいないと私は繰り返して書いています。それから今の自由主義

というような言葉ですが、大分解釈が区々だと思う。十九世紀の自由主義というものは御承知の通り資本主義と共に発達したものであるけれども、現在目前の問題で、アメリカであのルーズヴェルトがやつて居るようなことですね、これは従来の自由主義から転換して統制主義になつて居るんです、所がその統制主義をやつて居る人を今リベラリストと言つて居る。無論資本主義はその俥にしておくのは事実だが、無制限的な自由から統制経済に向おうとしている。これをリベラリストと言つて居る。外国でもリベラリズムというものの対するはつきりした意味がないようで、たゞ進歩的という意味に使われるようです。その意味に於いて僕はリベラリストたることを甘受するので、政友会すらが資本主義は正を叫んで居る昨今、資本主義其のものを主張する立場にとられるのは迷惑だ。斯う

いう立場です。

石浜 僕が心構えということ聞いた訳は、多分今貴方の仰ったようなことだろうと想像して居ったんですが、そうすると自由主義というものは何時の時代にもあつたということになりますね。

自由主義は何時の時代にもあつた

清沢 そうです。それを私は『新潮』にも書いて居ります。人間が人間の形をとつた時から開放され度いという気持がある。それがその時の開放さるべき最も便利な政策と結び付くんですね、それで十九世紀には資本主義と一番結び付くことが人間を自由にすることであつたからそれと結び付いた。併し乍ら資本主義が今のようになつて、其の次に一番人間を開放するには、どういう方法がいいかと言えば、今度は生産から分配の問題に移る社会主義と結びついた。そこで自

由主義アティチュードの問題は政策は時代によつて人間を開放するものと結び付く、併し乍らそのアティチュードは開闢以来あつたんです。

三木 ラングショー¹というイギリスの学者が同じことを言つて居るようです。社会主義とリベリズムの歴史的機能をいう本を書いて居るが、その中にリベリズムというものは要するに人間が自由になろうとする要求で、それは人類の文化の発生と共にあることで、従つてリベリズムは歴史的に形を変えるものであつて、現代では自由党よりも社会主義的の労働党の方が寧ろ自由主義を代表して居るというようなことを言つて居ります。そういう風に非常に広い意味に解すれば、要するに自由主義は主義とも言えなくなるので、それで心構えとか仰るのかも知れませぬが、併し現実の問題としては現代にお

1 John Langshaw Austin, 1911 - 1960、英国の哲学者

ける自由主義がどうかということが問題になる、自由主義を心構えというような広い意味に解しても、今日の自由主義はどういうものかということが我々の問題です。丁度唯物論と観念論とは昔から何時でもあつた思想形態だろうと思いますが、併し今問題になつてゐるのは、観念論にしても唯物論にしても、例えばギリシャにおける唯物論とか観念論とかではなくて、現代のそれがどうかということであるのと同じように、今の自由主義は何かということの問題にしなければならぬ。そうすればそういうものに就てどういうお考えですか。

現段階の自由主義

清沢 現代の我々の立場がどうかというんですね。

三木 現代の我々の求める自由の心構えはどういう具体的な形をとるかということです。社会民主々

義かそれともそれ以外の何かということです。

佐々 やはり社会改良主義でしょう。

三木 従つて今日我々のいう自由主義は社会民主々義のことになりませぬか。

佐々 いや其処には差別があります。同じに見る立場もあるが現実の政策としての差別があります。

倉田 政治上の自由主義とはどういうことですか。

佐々 普選の徹底とか、婦選——婦人参政権とか、住居の自由という意味で住居を建設するとか、経済的自由を保障する意味で社会政策を實行する。それから個人的な自由を保障する為に思想の自由とか、或は信仰の自由を意味する色々具体的政策があるだろうと思う。もつと詳しく言えば……

倉田 私有だとか共産とかそういうことに就ては自由主義者はどうです。

佐々 今清沢さんの言うような刻々に於けるアティ

チュードの問題として自由主義を解すれば終局の理想論は余りやらないものと云わねばならぬ。思想家なり理論家なりが自由主義というものをずっと引き延ばして哲学論や宇宙観をやる場合なら別ですけれども、具体的に見れば右に述べたような諸政策を指すかと思う。

麻生 自由主義の現段階に就てはどうかというならば資本主義と結び付いた自由主義を論じなければ問題にならぬと思う。

清沢 麻生さんの立場はどうですか。

麻生 僕はそう思っているんです。現段階に於ける自由主義とは何んだと言え、やはり資本主義と結び付いた自由主義を話さなければならぬ。

石浜 今の資本主義と結び付かぬ自由主義がありますか。

麻生 それでも清沢さんのような解釈が今此場に出ているのですから。

石浜 清沢さんの言われるように自由主義を『心構え』として、超時代な一般的・抽象的な観念とすると、例えばローマの終り頃に奴隷解放の運動にクリスチャンが立った時に自由が主張された。それから中世の終り農奴の解放の時に自由が呼ばれた。そういう場合の自由の気運も清沢さんによれば自由主義ということになる。併し

今日一般に使っている自由主義という言葉は心構えというような超時代的でなくて、やはり一つの歴史的産物としての自由主義というんぢやないかと思うんです。すなわち封建時代の社会関係やイデオロギーを打倒しようとする資本主義的自由主義をいうのです。だから自由主義ということについての見解の出発点が清沢さんののは非常に違って居るんぢやないか。

清沢 自由主義は何かといわれるから、私の解釈するものはこうだといったまでです。つまりわれ

等の目がける政策は搾取なき世界の実現だ。しかしそんな世界には中々ならぬし、また下手をすればムツソリニやヒトラーその他の国々に見られるように飛んでもない反動になる。しかしわれ等は現在よくても悪くても資本主義機構の下に生活しています。せめては現に持っているわれ等の自由が奪われないように現実の問題に打つかつて行く。それがわれ等の立場なのです。

麻生 だからそれでは論題にならないでしょう。
石浜 ならぬなあ。

無産階級運動者の立場から

佐々 麻生さん、実際運動をなさる立場から言つて、今の自由主義的空氣と言われる一般的の傾向です、それをどうお考えですか。

麻生 僕は現在の資本主義が墮勢に生きて居ると同じように、自由主義も墮勢で生きて居ると思う。

思想的にファッショに対するファイティング・スピリットも持っていないし、マルキシズムに對して防衛して行く思想的な闘争力もない。だから極めて空漠なものだろうと思います。現段階に於ける自由主義と云うものはどの方面にも戦う力でなくして、墮勢で存在して居るのが現段階だと思ふのです。だから僕等の方でもそう大して当てにして居ないのです。自由主義として思想的にも政治的にも両方に対して戦う力は持っていないと思います。併し、資本主義が没落の途をたどりながらもなお現実を支配していると同じように、自由主義も思想としては没落しているがなお日本の現実生活を支配していると思うのです。何故なら未だ次ぎに来るべきものが来ないからです。

佐々 芦田さん、其点はどうですか、統制経済と云うことが屢々言われるのですが、又政友会では資

本主義の是正と云うことを云っていますね。此間に政策としてのニューアンスの差があるだろうと思います。資本主義の是正と言われるのは、丁度ジョン・スチューアート・ミルが自由主義を主張して、終わりの頃にはソシアル・ジャスティス【Social justice 社会正義】と云う思想に到達して、自由主義に依つて基礎づけられた資本主義の弊害を是正して行くと云う傾向になつて行きましたね。あれと同じような性質のものとお考えになつて居るのですか、或は又統制統済と云うことの言い方を一寸変えて言われたのか。

資本主義の是正

芦田 政友会の言う資本主義の是正と云うことは、統制経済主義という風な組織だったものを意味するものに非ずして、余りに高度の資本主義的形態に依る統制組織は弊害が多いですから、今

日の高度の資本主義の弊害を是正して行くと云う位な、極く広漠たる意味に使つたものだと思いますね。

佐々 独占を稍緩和すると云う意味ですか。

芦田 そうです。

麻生 社会政策的な意味でしょう。

芦田 そうです。今の政治にも少し社会政策的な政治を加味しなければならぬという意味だと思います。

佐々 例えば、三井とか三菱で製紙会社などの株を売り放つたり、地方銀行と離れたと云うようなことは、あれも如何にも中流以下に資本の自由を許すと云うことにもとれますけれども、そうして又社会的な非難を薄くすると云うことにも取れるけれども、もつと突込んで見ると、あれは資本課税と言いますか、大財閥に対して課税をやると云うようなことが起るのを避けて、そ

の緩和手段のような意味を持つて居るようにも受け取れる。かような財閥のとの態度をやはり資本主義は止の一種とお考えですか。

芦田 今のあなたのお話の点は余り気がつかなかったのですが、私共はあゝ謂う製紙の株を売り放つとか、各方面の絶対多数の株を買い占めないと云う風なやり方は、要するに現代の財閥が世間の批評を苦にして、成るべく風あたりを強くしないと云う位な意味でやつて居るので、財政的大課税を避けようとか、何方かと云えば算盤玉でやつて居る仕事ではないと云う風に私共今日迄考えて居つたのですがね。

佐々 所がどうもそうでないぢやないかと思ひますがね。

自由主義者の積極性

芦田 今麻生君が言われたのは、馬場恒吾君に弁

明させると一番徹底されるだろうと思ひますが、詰り戦うべき力を持つて居ないと言われるが、馬場君をして言わしめれば、戦うと云う意味が違ふのだ、斯う云うのです、自由主義と云うものは別に力を以て相手を押えつけると云う主義ではない。相手の自由をも尊重しなければならぬ。相手を説得して、詰り自分達の主張に同意させると云うことは自由主義者の本分であるけれども、力を以て相手方を押えつけると云うことになれば、もう是は自由の範圍を逸脱して居るのだらうと思ひます。

麻生 それは一つの解釈の仕方だろうと思ひます。

清沢 けれども馬場君と雖も自由主義と云う意味を社会民主主義と云う程度に解釈して居ると思う。十九世紀の自由主義其俚、階級を丸で離脱した自由主義、観念的に資本主義と結び付いて居る自由主義、自由主義をそう狭く、詰り十九世紀

の自由主義そのものだと言ふ風に解してしまえば、殆ど議論が出来なかないか。詰り問題は英国の労働党、ドイツのゾチアル・デモクラット【Sozialdemokrat 社会民主主義者】、そう云う風なもの迄がファッシズムとマルキシズムに対して自由主義の中に入れられないか。問題はそこにあると思う。

三木 そういふ風なものを今日では自由主義の一種と見なければ、現在政治的に考えられる自由主義はあまり狭くならないでしょうか。

芦田 イギリス人の書いた説明、ラムゼー・ミューアー¹あたりの書いたニュー・リバアティの説明に依ると、イギリスの労働党と云うものは、全く自由党とは立場を異にして居ると見て居ります。

1 Ramsay Bryce Muir, 1872 - 1941, 英国の歴史家、自由党の政治家。

三木 然し先に云つたラング・ショーの意見では、今日のリベラリズムを代表するのはもはや自由党でなくして、労働党だということですが……

芦田 それは理論的に言えるかも知れないが、社会通念としては、まだイギリスの労働党が自由主義なりと云う説明はつかないのぢやないかね。

清沢 英国の新聞や書物を見ると、リベラリズムと云う場合には、大抵キャピタルで書いてあつて、自由党のことだ。自由党と云うのは、ロイド・ジョージ親子三人の率ゆるファミリー・パーティ¹、サムエルの率ゆる二三十人の政党、外相サムモンの率ゆるもの、それ位に非常に小さく分れる少数党だ。最近ファッショの傾向に対して英国でも自由党の擡頭と云うことは云われるけれども勢力は微々たるものだ。現在、リベラリズムを比喩で論ずる場合に、自由党でなく、社会民主党迄いかないと——恐らく麻生さんな

んかの立場もそう云う風でいらつしやると思うが、リベラリズムと云うものは論じられないと思います、どうですか。

麻生 余り問題をそう広くしないで、日本に於ける常識的な立場から、マルキシストの立場、自由主義者の立場、ファッショ的な立場と云うものを論じて行かないと現段階に於ける論にならないと思います。

佐々 通念としては芦田さんの言われることが一番宜いと思います。

自由主義は国際的に同時的ではない

長谷川 僕は諸君が自由主義と云うものを、世界的に、又歴史的に同時に存在するものと考えて居る傾きがあるのぢやないかと思っています。自由主義は、一つのアティテュードとしても、政策としてもインターナショナルに時間的に同時に

あるものではない。十九世紀は自由主義時代だといつても、それを何処へでももつて行くと云う事は物にならないと思います。当時のアフリカの黒人には少くとももつて行けない。南洋の土人にもないのです。自由主義と云うのは、詰りイギリスの十九世紀の自由主義と云うことで、あれがまあ自由主義と云う術語の起源でもあつたろうが、それはイギリスで十九世紀にあつた形態でそう云う形態が遅れて起つた所では自由主義は十九世紀のものではないでしょう。ギリシャ時代には機械が発達しなかつたから十九世紀のイギリス式の自由主義はなかつたけれども、然し清沢氏の所謂アティテュードとしての自由主義はあつた。近代の自由主義は、産業革命に伴つたものだからそれとは違ふけれども、その産業革命が遅れて起つて、資本主義が遅れて発達した所では、イギリス式の自由主義と云うも

のも遅れて其処に起る訳である。だから日本ならば日本が、二十世紀の今日に於いて、その資本主義の段階に於いてイギリスの十八九世紀の何処かに共通な点があると云うことになる、其イギリス式の自由主義が今日の日本に起ると云うことになる理窟でしょう。政治的の言葉としての自由主義と云うものは、このイギリス流の自由主義のことだろうと思います。抽象的な自由主義と云うものは佐々君の自由主義だの、アティテュードの自由主義と云うものはあるけれども、今使われる自由主義と云うのはこの資本主義の發達に伴う自由主義です。それならば産業のある形態から必然に起る訳だから、日本の産業の形態に必然の事情があるとするならば、其処に自由主義が今の日本に起つていると考えられる。だからもうヨーロッパになくなったか」と云つて、日本にないと云うことはないと思

います。ヨーロッパでもスペインなどはこれだといつていい。殊に日本に自由主義と云うことが現に問題になつてゐる理由は、日本自身、世界的の資本主義の行詰りの影響をうけて、恐慌状態となつて統制經濟だとか、ブロック經濟だとかが唱えられ、抽象的に自由主義の没落とか、何とか云うことを考へて見たけれども、考へて見るばかりではなく、満州事變であるとか、何であるとか、色々なことをやつて見たが、何うもそれが日本の現在の國家經濟の當面の急を救う途にならぬ。それは世界的の資本主義没落のイデオロギーに合致した、自由主義からの解放だったが、その方針で徹底し得るかどうか、と云うことは疑問になつて來たのではないか。少くとも○○○○と云うような態度、是は今のアティテュードとして考えれば、自由主義でない『不』自由主義で、又國家主義でインタナシヨ

ナルの態度ではない。所謂孤立国家主義の態度で、非常に国内の統制を強力にして、そうして国際関係は排他主義で、自給自足主義に行く、時と場合では「世界を敵として戦う」と云うことで、とにかく自由主義と云うものではなかっただろうと思います。これは極短い期間だが、とにかくそう云うちよつとした期間があつた。併ながらそうやつて見た結果、そんならばそれで徹底出来るかどうかと云うと何うも六づかしい。例えば日本の国際的地位と云うものは、イギリスとは喧嘩しては困る、アメリカと喧嘩しては日本の農村が成立たない、南米にもアフリカにも平和的に貿易関係で進出せねばならぬ。やはり国際的である。日本の商工業が所謂政治的の帝国主義一方では行けない、満州にはそれで行けても、アフリカに対してはそれでは行ける訳はない。印度に対して政治的の帝国主義で

は行けない。僅かに支那に対してだが、それも大事の支那本部に対してはそれでは行ける訳はない。僅かに満州だが、これは日本資本主義の現在にとつては、急場の間に合わない。日本の資本主義が今日飯を食おうとするには満州では間に合わない。日本の資本主義の当面の生活問題としては、丁度イギリスの資本主義のマンチェスター時代見たように、今の処主として輕工業によつて世界に進出しなければならぬ。現に英米もそれを一番怖れている。然しそれには日本は平和主義で行かなければ出来ない、そうすると国内的統制でも、そういう産業の段階から自然平和主義で、国際親善主義で行かねばならぬこととなる。丁度資本主義の平和時代と云うようなものを今、日本はもつて居るのぢやないか。無論市場が狭くなつて、競争が激化しているから国際的にも危険はあるが、日本自身はどうし

たつて平和主義自由主義を他国に対して主張して行かなくちやならぬのぢやないかと云うことに考へつゝいたのぢやないかと思ひます。けれども、今の資本主義そのものが、詰り初期の政策上の自由放任主義ではむづかしいと云うことになつてゐるので、統制経済と云うことを言ひ出しているが、今もお話のあつたように中々それが行われない。部分的に行われて居るとしても、それはまだ独占主義への過程、即ち単なる合同位のものらしい。今の日本の資本主義の状況では、何だか自由主義を脱し切らないと云うことがあるので、精々その位のところをマゴマゴしてゐて、それで例の協力的な政治と云うものも唱えられ、現に成立してゐながら、他方で政党などが単独政党主義であるとか、憲政常道主義であるとか云うことを未だに突つ張つて居る理由ぢやないかと思ひます。憲政常道主義とか、

政党主義とか云う以上、全然自由主義を棄てたというようなことは、ちよつとむづかしくはないかと思ひます。だから根本的に、公式的に、自由主義と云うものは、ファツシヨ化すると云うことは、世界の形勢としてあるにしても、日本の特有の立場として自由主義と云うことを政治家なり、文藝春秋なりが思ひつゝいてゐるのぢやないかね。僕はたゞ客觀的にいうのだけれども。

現実自由主義の支配

麻生 僕は斯う思うのです。客觀的に見て齋藤内閣は希望もなければ、確信もないけれども、然しネキスト【next】に來たるものがないから、兎に角現実を支配して行くと同じように、今の現実自由主義は日本を支配して居ると思ふ。ファツシヨをやつて見ても民衆が受け付けない、受け付けないと云うことは、皆自由主義を主義として

意識して居る訳ではないけれども、現実には自由主義が支配して居るからだと思う。其支配して

居る自由主義に希望があるかと云うと、希望はない。戦う力はもたないが、ネキストに來たるものがはつきりしない。ネキストに來たるものがはつきりしないから、墮勢で以て続いて行くものと思います。ネキストに來るべきものが來ないと云うのは、日本の情勢は、未だしかく簡単にネキストに移り得ない情勢にあるからです。

長谷川 詰りそれは資本主義の墮勢だろう。

芦田 そうです。資本主義の墮勢で、現実はずっと続いて行くだろうと思います。中々潰れやしないと思います。

三木 長谷川さんのお話の日本の資本主義の現状は日本の地理的な特殊性から來て居るのぢやないでしょうか。

長谷川 そう云うこともありましょうが、それも経

済的ではありませんか。産業の組織がそうであると云うことになるでしょう。

三木 つまり日本のファッショは封建主義的要素を多分に含んでいるというのですね。この封建主義を打破ろうとすると云う処に自由主義が浮かんで來る。

清沢 自由主義と云うのは、資本主義的な自由競争と云うのですか。

長谷川 そうです。それが日本の歴史的立場に依つて時間的にも、内容的にも違つて來ますが、少くとも、英米などに対して、日本は今自由競争主義を主張しています。聯盟を脱退するとか、ブロック経済で行かなければならぬとか、いつて見たが、日滿ブロック経済も当座の間に合わない。又日本のブロック経済は滿州だけでは將來も間に合わぬということは、僕は専門家ではないが、専門家がそういうています。詰り支那

も入り、印度も入り、アフリカも入れれば宜いが、そう云う広大なイムペリアルイズム【imperialism】は日本がそれをやることは出来ない。印度なり、アフリカなり、中央アジアなり、東ヨーロッパなりの未開拓の方面を日本の市場にすると云うことは、日本のブロック経済では出来ない。やはり国際的平和主義で喰い込むのでなければならぬと考えているのではないですか。

清沢 あなたが自由主義と云われるかわりに社会民主主義と云ったら、議論に大変食い違いを生じますか。

長谷川 大した食い違いも生じないでしょう。たゞ日本の資本主義の程度では、まだ社会民主主義まで考えないで、兎に角もつと日本の資本主義を発展させるために、産業上及び政治上の封建的勢力を淘汰して行こうと云う段階だったのです。然しその資本主義が世界の不景気で弱めら

れたので、そこで封建勢力がモリ返してそれが政治的に反映されて、詰り満州政策もやって来たのでしよう。然しそれもやはり行詰りの打開の急場の間には合わない。そこで行詰った強力的外交政策を打開する必要を感じているのではないか。それにはどうしても憲政常道を維持してそうしてブルジョア政党の力をもつと発達させて、そうして少くとも現在の政治形態を維持して行こうとする。それは例えば民政党、政友会が一緒になることはありましょう。協力内閣もつゞけるでしょう。然しそれは一つのやはり資本主義的の段階を維持する為の態度で、封建勢力で行こうと云うのではなくして、封建勢力を淘汰しようとする努力だろうと思います。

ソシアル・デモクラットとリベラリスト

芦田 清沢さんはソシアル・デモクラットを自由主

義者の中に入れたがる傾向があるが、具体的政策を見れば、成程君の言う通り、安部先生の書物の中にある社会大衆党の政策に今では自由主義の政党でも異存は無いかも知れないが、然し思想的態度はソシアル・デモクラットと自由主義と云うものは全然区別しなければ意味を為さんと思います。

清沢 僕の意味は資本主義と、反資本主義と二つの勢力が対立する。詰り資本主義に賛成するか、資本主義に反対するかと云う場合に、自由主義はどちらに傾くかということが大切だと思うのです。そして無産党の勢力は反資本主義に方へゆくべきものだと思う。其中には共產主義もあるだろうけれども、それ程左翼に行かないで、其反資本主義の陣営の中に自由主義、社会民主主義と云うものを入れないと……

長谷川 是は芦田さんの方が多少譲歩しても宜いで

しよう。ロイドジョージ【David Lloyd George】の一九一〇年の所謂『革命』予算、あれはやはり社会民主主義を余程加味して居たのですからね。

芦田 それは今佐々君の言われた社会政策的な……ロイドジョージ予算と云うものは……

長谷川 それはリベラリズムの政党がやったものだから……

芦田 それは社会政策的と云うことと、社会主義的と云うことには差がある。

長谷川 實際また自由党と労働党との協力内閣なんかも出来たのですから。

佐々 具体的政策の一致ですね。イデオロギーの目標は違いますがね。

観念的自由主義

記者 自由主義と言いますね、まだ自自由主義と云うものの中には観念的な、例えば戦争に対して

ブルジョア戦争にも反対する、プロレタリア戦争にも反対すると云うような、平和主義的な自由主義ですね、そう云ったものがありますかね。

長谷川 是も現在の日本では封建的な勢力が政党に對して〇〇を加えて居りますから、資本主義者もブルジョア政治家も恐らく平和主義だろうけれども、詰り其政治的立場を判然させずに居る。そうしてその封建的勢力と政治的に協力して行くということになっていて、全然對立して〇〇と云うことはちよつとむづかしくなっているだろうと思う。然し日本がどっちの方に本質的に立つて行くかと云うことは定まっていると政治家は考えているのではないか。それならば平和運動というようなものも強ち弾圧しないようになるのではないか。イギリスではマクドナルドでも平和運動と云うことは盛んにやつて居て、ブルジョア政党も労働党もやつて居ます。あゝ

謂う風には日本はやれない事情もあるが、然し現在とはそれと本質的に違つた方に向つていと云う意味はないと思います。暫くそう云う本質的な方向の強調は遠慮して居ると云うことでしよう。さっきの佐々君の話の、遠慮した外觀を見せているが、実は算盤玉に外れて遠慮すると云うことにはならぬだろうと思います。聯盟をば脱退しなければならぬと云うことになってしまつたけれども、是は実は彼等は※「#2字空き」とは考へて居るか何うか疑問です。

自由主義運動は可能か

記者 そうすると国際聯盟の脱退に反対しまして、清沢さん、芦田さんなんか反対を唱えましたね。やはりあゝ謂うことは一つの自由主義的な運動でしょうか。

長谷川 それは無論自由主義的なものでしょう。実

際の衝に当って居る政治家は表向きにそれを出していなのだやありませんか。

記者 出した方が賢いですか、出さない方が賢いのですか。

長谷川 それは当面の政略の問題で、私は實際政治を知らないのでよくは分らんが……

三木 そうすると長谷川さんの仰るのはコミュニストが普通に日本資本主義の現段階と考えて居るのと違って、よほどそれから後戻りすることになりませんか。

長谷川 そこは少し違うのです。日本の資本主義の当面の段階に於いて、例えば満州事変に対しても公式的のイムペリアルイズム【imperialism 帝国主義】とはデテイル【details】に於いて異った点をもつもので、あれはやはり日本の当面の※「#3 字空き」形態の影響から来ていると見るのです。だから何があれを押えようとしているのである

かということが問題になるだろうと思います。あれは起った。然し日本の政治の過程に於いてああ謂う発展を押えようとして居る事実がある。それは何処から来ているかと云うことです。色々な法律問題まで起つていますがたとえば統帥権問題のように、そういう問題の起り得る根柢は何処にあるというのです。それは日本の資本主義の段階に伴う矛盾でしょう、だから極く是は利那的な問題である。けれども要するに資本主義の過程と云うものは利那的に動いて行つて、機會主義で行くものです。現在の日本の資本主義をその当面の形態で見え行くと、封建的の発展は資本主義で修正されなければならぬ。

反ナチス運動の効果

記者 リベラリズムが吾々の考えでは文化運動にかなり得ず、實際の政治運動には発展しないと

いうんですね。しかし仮りに反ナチス運動はヒットラーの政策に対する一つの政治的危機を醸し出すような事態を生ずれば、何かの意味で政治的效果を挙げるぢやありませんか。

佐々 三木さん、先達てのナチスへの抗議はどうですか。

三木 あの運動は直接に政治的效果を期待したものでないでしょう。倉田さんの云われたような文化主義的な方へ考えが多かったのではないのでしょうか。文化というものは、他のものに比して個人の自由な活動を許さなければ発達しないでしょうから、文化に従事する者は強権主義に對して特に不安を感じるのではないんですか。文化を愛する者は理論が固定することに対して或る自然的な嫌悪を持つて居ると思う。従つて

1 1933.13 長谷川如是閑・新沼格らとナチスの焚書事件
に抗議し、続いて学芸自由同盟を立ち上げる。

マルキシズムのようなものにしても、それを一つの絶対的なものとして信奉することができないで、もつと個人の自由な活動を認めて、何か新しいものを創造して行こうというような要求をもっている。文学とか思想とかいう高度の文化に携つて居る者は、誰もそういう要求を持つて居るんじゃないかと思います。マルキシズムを取り容れることも自由でありたい。ところが今度の京大事件²のようなものが起り、また検閲などにしても段々と厳しくなつて、自由主義者達の活動が抑えられて来るので、文化従事者の間に自由主義が起つて居るのだらうと思います。しかし是は政治上の自由主義とは多少性質が違ふようです。

麻生 たゞ併し僕は今長谷川先生の云つたような順

2 滝川事件、1933.4.22 文相鳩山一郎は京都帝国大学法学部教授滝川幸辰の辞職を京大総長に要求した。

当なものの行き方ですな、それに対して僕は日本が或危険性を持つて居ると思うんです。そういう風に段階的に行かない間に、やはり〇〇〇な一つの可能性があると思う。というのは日本人はそれほど段階を追うて進み得る歴史的訓練がないんですよ。例えばファッショというんでしょう。そうすると今度の五・一五事件のあの陳述を見ると、あれは吾々には何年か宣伝して来た通りのことを皆云つて居るんです。××の中でも上の方はブルジョア的で政略的であつても下の方ははつきりあゝいう思想を持つ様になつてゐる。打倒すべきものに対しては今日の無産党と共通点を持つてゐるのです。これがどう云う風に発展して行くかは将来の重大問題だと思ひます。

無産政党のファッショ化

清沢 麻生さんは無産党ということを言われるが、貴方の無産党は無産階級のどの位の数を代表して居るか、詰り現代の氣勢は所謂ファッショに行くものゝ方が多くて、貴方の無産党が相率いてファッショ的になつて貴方の言われるイデオロギーを持つて居る人が非常に少ないんじゃないかありませんか。

麻生 勿論広い国民的気分から云うなら日本全体がファッショ的でしょう。それは国情の然らしめるところです。併し政治的形態から云うファッショに対しては民衆はそれを受けつけない。民間からあゝいうファッショに行つたものは殆んど今日四分五裂してしまつたでしょう。一例をひけば赤松君が代表した国家社会党なんていうものも今日では解消の姿です。

石浜 麻生君は五・一五事件の被告の主張と無産党の主張と同じ所があるという、それはどういふ

点？ 例えば……

麻生 どういう点というか、向うは極めて科学的でなく感情的で、其中に封建的の残存物があるから徹底せぬ。しかし一種のアンチ資本主義というか……

石浜 アンチ資本主義を主張して居るから、五・一五の事件、あれはファッショぢやないということは云えないぢやないか。例えば今の国家社会主義の諸党は、大体勢力がないけれども、そういうものにしろ、独逸のナチスにしろ表面では資本主義の打倒を云つて居るではないか。

麻生 勿論現状の俣で一致点があると云うのではない。五・一五事件の全体を蔽つてゐるのはファッショ的だ。併しその中に多分に盛られてゐる反資本主義の思想の發展して行く事情如何に依ては日本は特殊の形態をとるだろうとも思う。何故かならばどの勢力だつて一つで改革を行う力

は結成されぬ。階級的にどれも本当に長い歴史を持つて居らぬ。日本の労働階級だつて、大体資本主義自体が非常なる沢山の封建的残存物を持つて居る。労働階級だつて沢山のそういうものを持つて居る。だから僕は日本は一つの特殊の途を辿る可能性があると思う。

三木 そこに軍人と云つても所謂徴兵されて行つた者と士官という軍人を〇〇にする中産階級と違ふんぢやありませんか？

麻生 しかしそういう分類のみを以ていかない所がある。例えば日本の労働階級は総て労働階級として結成されて居るように文筆論者は云うんですな。日本の労働運動のリーダーは非常に困難だ、それは何故かという封建的残存勢力が非常にあつて、自治に訓練されて居らぬ、だから親方を直ぐ要求する。公式的理論に酔つ払つてゐる共産主義者は現実を見ない。日本の労働階

級は英吉利や何かのように自治的に訓練されてずつと行つた者とは非常に違うんです。本の上からイデオロギー的に綺麗に分けて労働階級はいつも革命的精神に燃えて居るように云つて居るけれども、實際生活に触れて居る僕等に取つてはそんなこと云つて居られんですな。

ファツシズムと労働階級

三木 そうなれば五・一五事件のイデオロギーとかなり違つて来ますね。

麻生 勿論さきほども云つた通り五・一五事件の全体を蔽うものはファツシヨ的である。だがあの中に含まれている思想の中にはプロレタリア的に發展して行く要素が多分に含まれている。それがどう云う風に發展して行くかということは大きな問題だと云うのです。

佐々

一般的に政党の発達を見ると日本では英吉利や独逸と違つて、階級的の分化が政党的な形をとる迄に行つて居らぬと思う。イタリーの戦鬭的ファツシヨとドイツのナチスの場合と日本との場合はかなり違う。イタリーではソシアリストの代議士が百何十人という勢力であつた。この社会党が政權に参与した時期を経てファツシヨに行つた。ドイツではゾチアル・デモクラツトが中心になつてコアリチオン【Koalition 連立】・ポリテイクをやつた後をうけてナチスがやつたんですね。それ迄に日本の無産政党は発達して居らぬから、今のあゝいう所謂ファツシヨ運動の目標が、底を突詰めれば、同じ性質を持つて居るといふことが云えても、具体的の現れ方としてはやはり反財閥的の傾向を強調する度合いが独逸の場合より強いようですね。

倉田

長谷川

自由主義檢討

倉

長谷川

41

に頑張つて居るんだろうと思う。詰り、だから

う。

或程度まで自由主義的のものがある。校内の言論、行動の自由ということを今学生は頻りに主張して居るが、これも教授のうちにもある主張だが、是も○○○○に主張して居るというのは事実と違つて居つて、やはり自由主義的に主張して居る。校内の新聞でも自由主義的で其圈内で運動して居つて、相当効果的である。だから必ずしもそういう風な日本の現在の状態から来た自由主義を、たゞ抽象的政治哲学や経済学の問題と一緒にして、自由主義が現代に成立つかどうかというようなことにクツつけて考えてはいけないと思います。一体哲学の自由主義などは今の学生を引摺る力はないと思う。京大の先生なり学生なりの考へて居る自由というのは、もつと学徒の現実の自由行動の自由を得たいという、もつと具体的ものだろうと思

言論の圧迫に備えて

清沢 最後に言論の圧迫に備えて、と云うのです。

言論の圧迫に備えて自由主義者及び之れに連なる人はどうすれば宜いか。

芦田 防弾チョッキを着ることさ（笑声）

記者 ナチス反対の文化聯盟見たような、ああ謂う可能性はないのですか。

清沢 第一そう云う勢力を一つものに出るのですか。一方に於いては○○○○が団体的になつて、威武をふるつて居る。それに反対する勢力と云うものは、私の考へなんかでは出来ませんね。

佐々 嘗つての黎明会が出来たように……

長谷川 あれはもう出来ないでしょう。

三木 勿論今は出来ないでしょう。然し現在の自

由主義はその頃の自由主義と大分違うでしょう。実際の氣特に於いても……

佐々 違ふ。唯其言論を守つてファッショと對抗して行こうと云ふことの為に黎明会のような会が出来ると云うと、客觀的には困難でないかと思ひます。

三木 其処に日本のインテリゲンチヤの外国のインテリゲンチヤに較べての弱さがある。

長谷川 やはりそう云ふことから、團結したり、殊に政治家の自由主義的な團結をする必要があると思ひます。今の言論の弾圧と云ふことは、やはり○○○な強力に妥協する為に政府が所謂多少自分の必要以上に弾圧を加えて居るということがないだろうか。

清沢 それは事実だ。

長谷川 だから言論の方もやはり多少緩和されてもいゝのぢやないか、そんな風に考へているも

のもあるうと思ひます。瀧川問題のように一年も経つてやると云ふことは、やはり貴族院の議論であるとか、枢密院の何であるとか、反動勢力であるとか、政党大臣が議會で叱られるとか、そんなことが影響してゐるのでしょうか。そこに政治家なり、インテリなり、学者なりの、殊に国家の大学のプロフェッサーなどの、日本の国家の統制された機関内の人が自由主義の運動を起すことが宜いと思ひます。反国家運動でなく、国家的の運動としての自由主義と云うものは、直接国家の統制をうける機関にある大学であるとか、弁護士団体とか、許されれば、英國でマクドナルドもやるという風に、官吏でも宜し、政治家、政黨員と云うようなものは無論です。そうして国家的の團結の力を強めることになるのが順当なのだが、果して何んなものか。反ナチスと云うようなものも、イギリスではロード・

何々と云うようなものが加っている。国家的立場の運動としてはそういう風にならないと有力になれず、また実際の目的は達せられない。

清沢 其中心になるのは無産政党か、それとも普通の政党になるか、普通政党も随分やつつけられて居るが……

長谷川 普通政党ですよ。

芦田 普通の政党は自分の良心に鑑みれば、当然立つべきと思います。が其処に政権乗っ取りの便宜如何と云うような考えが入る場合には、極めて無気力なものになる。

佐々 やはり現在の自由主義運動の本質と云うものは進歩主義的な傾向であると思う。

芦田 日本の政党発達史の中を見れば、板垣さんの自由党でも、改進黨でも、皆自由主義が根本の勢力になって居るから、比時代の精神が残って居る限り当然其方向に動くことだろうと思いま

す。

佐々 唯資本主義向上期の政治と性質が違つて居るから新自由主義とでも称してゆくかも知れん。

三木 新自由主義は上田貞次郎¹さんがもうやつて居ますよ。

佐々 あれは議論だけでまだ運動とは云えない。
記者 では、この辺でどうも有難うございました。
(レインボウ・グリルにて)

底本：『文藝春秋』1933.9

1 1879～1940^{*} 経済学者、『新自由主義』1927

社会学 座談会

「集団社会学原理」批判と満州問題

出席者（五十音順）

今井時郎：1889～1972、東京帝国大学哲学科社会学専攻卒、社会学者

杉森孝次郎

田辺寿利【田邊壽利】：1894～1962、北海道出身、東京帝大中退、社会学者、フランス社会学の研究紹介。

圓谷^{つむらや} 弘【円谷弘】：1888～1949、秋田県生れ、日本大学法律科、京都帝国大学哲学科選科卒、社会学者、日本大学教授、理事長。

古野清人——発言なし

本田喜代治：1896～1972、兵庫県生れ、東京帝国大学哲学科社会学専攻卒、社会学者、法政大学・

名古屋大学教授。

松原 寛：1892～1958、長崎県生まれ、京都帝国大学哲学科卒、哲学者、毎日新聞社から日本大学、日本大学に芸術学科を創設した。

松本潤一郎——発言なし

三木 清

司会者

今夕は御忙しい所を御集まり下さいまして有難うございます。暫くぶりで顔を合せたいと云う希望があちこちにあった事が一つ、最近満州から帰られた杉森さんに満州談を聴こうと云う事が一つ、も一つは先般発表された圓谷氏の著書を批判して戴き、又それを契機とし媒介として社会学の種々な問題につき御高見を伺いたい、こういったことが今夜の集まりの主な目的で御座いますから、どうか宜しく御願います。

松原

先ず最初に社会学界の最近の情勢を今井さん

から話して戴きたい。

日本独自の社会学

今井 私は田舎者で松本君でも来られると宜いところですが、最近、独自の社会学なるものを日本の社会学徒が考える傾向が段々現はれて来たことは非常に結構だと思う。自然科学の方では疾くにそう云う傾向があるけれども、文化科学、社会科学の方で、そう云う独自な見解を以て独自な境地を拓いて行く——勿論西洋人の考え、西洋人の觀念の体系を問題にすることは必要だけれどもそれは要するに肥^{こや}しなだから——そう云う肥しの下に自分がどう云う木として育つかと云うことが問題なんだから、そうして肥しがもう相当利いたのではないか、そろ／＼木が伸びても宜い時節だと思えますが……。杉森先生は夙にそう云う点を考えて居られるので僕の

尊敬する学者の一人です。それから圓谷君の今度の著書などはそう云う意味で確かに意義があると思う。

現象学と社会学。特殊研究の必要

田辺 僕は現象学と云うものが能く分らぬから其中に色々詳しいことを聴いて行こうと思えますから、其点は今御話は出来ませんが、ドイツではあんなに盛んだけれども、現象学と云うものを社会学の中に取込んで来ることがどれだけの効果があるか僕には分らぬ。余り大家ばかり前に置いて僕のような末輩が言うのは何だけれども、僕は在来の社会学に対して不満が一つあるのです。それは哲学と社会学をゴツ／＼に居ると云うことである。事実の研究を一つもせず、理論を立て、行くと云うことは僕は科学ではあり得ないだろうと思います。其点で今迄原理だ

とか、概論だとか、たくさん日本に出て居るけれども、それは僕は哲学であつて科学ではないと思う。正直に言うと反対の立場にあるのだけ

ども、圓谷君の本はそう云う点に於いて一番特色があると思う。圓谷君は、日本社会の研究を一番先にやつた。「我国資本家階級の發達と資本主義的精神」は本としても最も先鞭を附けたもので實際コンペラティーヴ【comparative 比較的】に向うの社会と此方の社会を見て居る。そう云う風に出来たものだからあれは非常に面白いと思つて居る。社会学の概論書には事実研究も何もせずにいきなり書いたものが随分あると思う。日本の社会学と云うものは大体それだろうと思う。それでは哲学にもならず、科学シエンスにもならず、中途半端だと思ふ。君のは事実の研究から出發して行つて、現在日本に於いてどう云うものが必要かと云うことで出来て来たのだから

ら非常に意義が深いと思う。それが今までの多くの社会科学書と類を異にして居る所だろうと思う。

では方法の問題だと思ひますけれども、細かい問題はやはり斯う云う所では色々聞いて自分の考えも述べなければならぬけれども、そう云う考えで現象学から社会学に飛込んで行くことが必要であるかどうかと云うことを問題にして見たので、圓谷君の本は現象学を包含して更にそれから飛躍した形になつて居るから、僕は是からそう云うことを研究しなければならぬと思つて居る。だから其点では僕は若し言えば暴論になるけれども、あの本の意義と云うことを考へて見ると、日本で唯一のものだと思ふ。其点は外の人もそう云う風に認めて居るのではないかと思ふ。あの本だけで考へちゃいけないので、今までの社会学者と云うものは事実を研

究せず、所謂理論から出発すると云う欠点を有つて居た。階級を論ずる人が、どう云う社会どう云う階級に就てどう云う研究をしたか。何もやつて居ない。階級一般は知つて居るけれども、事実として階級は知らない。そう云うやり方である。圓谷君の本は原理だからあゝ云う形で出たけれども、出発点及背後にあるもののが意義附けて居る。日本で社会学通論とか概論と云うものが若し出るならば、是はそう云うものだろうと思う。西洋人の書くものは西洋人のイデオロギーで自分等の社会を見て書いて居る。殊に支那の研究などは日本でもあるが外国でもやつて居る。日本の事実と云うものは非常に特質があると思う。そこで向うと此方をコンパラティヴに見て、所謂向うの帰結が向うの通論となつて出て来る。それを其俚に取つて来てはいけないので、向うの事実の研究の結果と較べ

て見て、コンパラティヴに考えて見れば、其結果日本のものが出て来る。日本でそう云うものは今まで余りなかったのではないかと思う。併し實際そうでなければならぬ。自分の周りの社会が一つも分らないで社会学を書くと言うならば自分の社会と何の關係もなく理解が出来ない。学生など平気で聴いて居れば宜いけれども、一寸頭の良い学生はおかしいと思う。どうしても是はやはり社会学者でそう云うものを書くものは——特殊研究ならば別だけれどもあゝ云う風に社会学として出るものは、日本で研究したもの、と、外国の研究と比較した結果書いたものでなければならぬ。そう云う点から言えば圓谷君の本は確に日本のあゝ云つたものとしては劃期的なものではないかと思う。高田さんの原理を攻撃する訳ではないけれども、あれは西洋人のやつた研究で、あれを外国語に訳したら寧

ろ西洋人の方が分るのではないかと云う疑点がある。併し時代から考えてそれは許せるけれども、今ではあゝいう行き方は許せぬのではないかと思う。極く変な訳の分らない話ですけどもそう云う氣持です。

哲学と社会学

松原 僕は社会学は一寸も分らないが、御蔭で社会学を今度勉強させて貰った訳であります。今御二方の御話の通りに、非常に独自の境地を拓いて居ると云うような意味に於いて、是は多大の貢献を齎したものと云うことは、是は誰しも認める所だろうと思いますが、いま御二方に依つて述べられたように、私が見る所では、集団社会意識と云うものをば絶対純粹な形に独立な存在意義を認めた所に特色がある。そうしてそれはフツサールの現象学的方法を以て基礎附けた

と云うような所に意義があると思うのですが、又田辺さんの御話になった通りに、其現象学的方法は更に圓谷君が其前期に於いて、彼の前期の労作に現れた歴史的な研究と云うものが其奥に更に潜んで居ると云うことは、彼にとつて非常な意義を与えたものであると思うのです。一番の特色として、村の研究とか、或はあゝ云う風な発生的に考えた所に大變僕等は興味を有つた。併し難を言えば、あれ程と言つても宜いと思うのですが、歴史に興味を有つて、今迄其方面に研究を続けたであろう所の彼が、もう少し歴史に精細周到な顧慮があつたならば、更に錦上花を添えるものではないかと思う。端的に言えばあつさり過ぎると云うような嫌いが無いか。それから今一つ現象学と云う武器を持つて來たからと言つて、我武者らに観念的哲学をやつた積りでいるらしいけれども、是は非常に彼

の勇敢さを示すものでありまして、色々なそう云った特色なりユニークさがあると云う外に、

私は外の方に依つて恐らくは解かれないう所、所の彼の持味と云うものを彼の著述の中に見出す。それは傍若無人な態度を以て我武者らに突進すると云うのが彼の日頃の持前であります。

この点は彼と共に居るとよく其特色がわかるのでありますが、そこが誠によく——それこそ彼の言葉を以て言えばあるが俚の姿に——出て居ると云う所が一番ユニークなところではないかと思う。はたが何と言おうと、外の学者が何と言おうと御構いなしに燕の機関車が突進する如き様は、彼ならではの出来なうと思ひます。

今井 それは僕が一番先に言おうと思つて居る所だつたが……（笑声）……全く同感だ。此処に居られる御歴々はどなたも傍若無人でない方は

ないだろうと思ひますけれども、圓谷式傍若無人は確に出て居りますね。

田辺 尤も圓谷君としてはあれは最初のもので是から本當のものに行く訳でしょう。

圓谷 そうです。そう云う風に纏めた訳です。

田辺 あれがどう適用されて行くかと云うことは是からだろうと思ひますね。

圓谷 あれに付て哲学の人々から相当排撃があるだろうと思つて居りますが。

松原 それは排撃はあるよ。あれでは吾々に失業者が起るよ。君の所に行くとか全く観念論哲学は解消しなくてはならぬのだから……（笑声）。

今井 まだ僕はよくは拝見して居りませぬが、一寸拝見した印象はそれです。些か傍若無人に辟易した気味がある。それより僕は斯う云うことを直感したのです。現代の一般の社会意識に大いにアップルする野心もあつたろうと思つた。

斯う云うことを今、一番受け入れる時ではないかと思う。

松原 それは如何に其意味に於いて彼が野心的であるかと云うことは「カフェー文化の諸現象」と云うのが先ず野心的だった。ところが是は彼の期待に外れて一寸失敗した形なんだよ。

誇り僕から言うと「カフェー文化の諸現象」が展開したものが今度の社会学だろうと思います。是に於いて彼にとつては全く昔の雪辱戦だと思ふ。其意味に於いては是は成功したものであると思う。彼は余り野心的であつた為に失敗しまた成功したのだと……。

社会学の方法。社会と個人の問題

三木 僕は社会学が専門でないのですが、併し社会学の本は昔から割合に好きで読んで居ります、今度の本を見て感じたことは、第一に是まで日

本で出た社会学原理とか或は社会学概論と云うような本と非常に感じが違う、性質が違ふと云うことで、つまり是までの社会学原理とか概論と云うものは大体社会の形式と云うような方向を執つて居るものが多いだろうと思ひますが、そう云うような本としては兎に角形式社会学の立場を執ればあゝ云う概念と云うものは非常に纏まり易い。形式的に色々纏めて行くことは出来るでしょうが、今度の本はそう云うことでなくて、歴史的な事実、実証的な事実と云うものに立脚して、而も兎に角一応纏つて体系附けられて居ると云うこと、それは今後日本の社会学者が非常に学ばなければならぬ点だろうと思ひます。其成功の程度などと云うことに付きましては色々批評があるだろうと思ひますけれども、併しそれは最初に初めて新しい仕事をする者の当然免れない所の欠陥はあるとしても、兎に角

其方向、其道に於いて非常に是までの社会学者に反省を与える点があるのです。それで私自身の

考えから言えば、社会学と云うようなものはやはり今度の本に示されたような、あゝ云う歴史、実証的事実と云うようなものを基礎として、それから体系附けて行くと云うような方法が唯一の方法であり、又是まで日本に一番欠けて居た所だろうと思います。そう云う点に於いて今度の本は何れにしても非常に反省になると思います。それで個々の問題に付て色々批判することは勿論重要ではなくて、全体の意図或は学的な方針と云うようなものに付て非常に学べき点があるので、圓谷氏の所謂傍若無人振りは其点に於いて非常に私は賛成です。是までの日本の社会学原理とか社会学概論と云うような本に較べて全く傍若無人であると云う所に非常に新しい道が示唆されて居る。今後の日本の社

会学と云うものが進むべき道がそこにあるのだと思います。

で私自身の考えから言えば社会学と云うものが圓谷氏のように、其元はと言えばデュルカイム【Émile Durkheim】などから来て居る。そう云う影響があるだろうと思いますが、兎に角集團意識、或は個人意識と云うものを度外視した集團現象と云うようなものから出発すると云うことは当然のことであつて、是まで社会と個人と云うような問題は非常に有名になつて居りますけれども、併し、そう云う問題は元来ないのであると思います。そう云う問題は学問から言へば嘘の問題で、唯哲学の問題、哲学の問題としても、人間が社会或は世界から超越すると云うようなメタフィジカルな意味に於いて初めて個人と云うような問題が出て来るので、そうでない限り一般に世間とか、社会とか、世界とか

云う、そう云う客観的な世界に於いては個人、社会の問題と云うものは所謂シャインプロブレム【Scheinproblem 疑似問題】で、問題でないだろうと思います。そう云う意味に於いて社会学が個人的な現象を無視すると云うことは私は非常に賛成なので、そう云う点に於いても今度の本は非常に私に興味が深いんです。そう云う問題に就て唯抽象的に議論せず、内容的な問題を取扱われて行くと云う所は中々傍若無人であるけれども、併し又非常に手際もよくて面白く読めたのであります。一体に日本の社会学者の本は實際読みにくくて困るものですが、そう云う点に於いても今度のような書物がきっかけになって、誰にでも分る、吾々にも役に立つような本が出来ることは非常に望ましいことだと思えます。それから現象学と社会学と云うような問題になって来ると是は随分色々難しい問題がある

だろうと思いますが、併し例えばフッサールの現象学に於いて見ても、フッサールの現象学の根本的な立場と云うものは、哲学上はインタースペクチビズム、語り主観と主観との間の立場、日本語では間主観性【Intersubjektivität】と云うようなことになりますが、個人的な立場でもなく、又是までの所謂超個人的な、カント的な自我と云うようなものでなくて、インタースペクチビズムと云うようなことに於いては、或る意味に於いては社会学なんかも一つの考え方を示して居るだろうと思います。語り社会学的な主体、サブジェクトと云うようなものは決して個人でもなければ、所謂超個人的な自我と云うようなものでもなしに、インタースペクティブなものだと思います。そう云う意味に於いて現象学のフッサールのような考え方も非常に社会学に取入れることが出来ると思います。そう云う

意味に於いて、個人主義的な立場、及び形而上学的立場を取らない圓谷氏の本が現象学と云うようなものに何か結び付こうとして居ることは、どれだけ成功したかと云うことに付きましては色々問題があるにしても、非常に試みとして面白いと思います。

それから今日では現象学も新しい方向に——即ちハイデッガーなどの立場に於いて社会学にも独逸あたりでは色々応用されて居るようですが、そう云う立場に於いても色々議論があると思いますが、兎に角ハイデッガーなど、及び又或る意味に於いてハイデッガーに影響を与えて居るデイルタイと云うようなものゝ、歴史的或は社会的な事実と云うものを哲学的な中心の問題として行くと云うことは、現象学の一つの観察、或は哲学に対する新しい現象学の一つの特色だろうと思います。そう云う点に於いても

圓谷氏の書物は社会学的な原理を、歴史的な或は客観的な事実に即して考えて行くと云う考え方なので、其点は非常に面白いと思います。色々細かい問題に付ては言えると思いますが兎に角圓谷氏の所謂傍若無人振りが、従来の日本の謂わば非常に一般的な或はアカデミックな社会学の傾向の特徴であつた抽象的な形式的な社会学に対して、新しい社会学の今後進むべき道を勇敢に示して居ると云う点には非常に賛成でありまして敬意を表したいと思います、私は其位にして置きます。

社会学の対象としての個人

本田 今迄言われた所で殆ど附加えることはありませんが、唯高田さんが十月号の「社会学徒」に書いて居られた問題と関聯するかと思いますけれども、社会と云うとどうしても結局物質的な

基礎を離れることは出来ないとしても、兎に角意識でありますから一つの表象として世に現はれて来るのです。そうすると社会と云うものはやはり社会意識だと云うことになる。そうすると個人が表象しなければ社会意識と云うものは起つて来ないので、個人と社会との問題がやはり其意味に於いてあると思います。

其場合に社会的な或るものが個人を制約して行つた所がそれは詰り社会意識と離れた個人意識と云う風に考えて居る訳ではないのですけれども、兎に角社会的なものが或る制約を個人に加える。そこに個人の問題がやはりあるのではないかと思います。それで社会学の問題で、そういう意味で社会が個人に或る形を与えるとか、其意味で社会が個人を造るとか云つたような場合の問題は、心理学の問題でなしに私は社会学ではないかと思つて居ります。そう云う問題が

圓谷氏の社会学では何処に入るのだろうと云う疑問がある。その位の所であとは別にありません。

三木 僕は個人の問題は詰りメタフィジカルな意味以外には問題にならないと思う。詰り吾々が本当に個人と云うものを意識すると云うことはメタフィジカルな立場に立ち得るからであつて、又社会的にそう云うことはないのではないかと思います。

田辺 社会学の対象に入るかどうかと云うことが、問題なのでしょう。

三木 世界と云うものを客觀的に見て行く意味に於いては個人の問題はどうしてもないのでないかと思ひます。

松原 其代り個人と云うものを全然アウフヘーベン【Aufheben 止揚・揚棄】することはやはり一つの抽象ではないか。

三木

併し其個人と云うものは何かと云うことを内容的に考えて見ますと、一つの身体と云うものを考えるから個人と云う風に別々に考えて居るけれども、内容的に考えて行けばなか／＼ないのではないかと思います。あるとすれば非常にメタフィジカル【metaphysical】形而上学的な問題で、吾々はメタフィジカルな意識に於いて成り立って居るので、どうも個人と云うものはないと云う気がする。

松原

それはないと云う気がしても宣いよ。それは考え方なんだから……併し圓谷君の場合に就ては、僕は個人を否定するにはもう少し研究が必要だと思う。

今井

それが社会学の領域に入るかどうかは別として、社会学が出来てから今日まで、余り凡ゆる方面に社会学に期待が多過ぎると思う。だから社会学は非常に迷惑ではないか。例えば個人の

問題にしても、僕は是は哲学の問題だろうと思つて居たが、併し三木君に依ればそう云う形でも哲学の問題にならぬらしいが、個人と云うことになれば是は社会学の領域に入らぬと思う。併し個人のフィジカルな方面は生理学がやつて居り、メンタルな方面は心理学がやつて居る。心理学と社会学の共通点がフランスあたりではある。それが心理学の特色になつて居る。そう云う風に事実あるので、社会学の中になければならぬと云うことはない。社会学者は要するに哲学者の眞似ばかりして居る。だから哲学者にもなれず科学者にもなれず、中ぶらりんで今まで来たのではないか。其現状を打破しなければ科学として一步も進めない科学なんだから……。

三木

それは対象を制限しなければならぬ。

田辺

何でも今まで入れ過ぎたからいけないのだ。個人と云うものでもそう思います。フランス人

とかイギリス人とか云うものはあるけれども、個人一般と云うものはない、科学では一定の社会的条件で規定された個人と云うものしかないのだから、個人一般と云うものは吾々の方には入らないのだ。

それだから実験心理学などと云うものはおかしな点があると思う——。学校なんかで盛にやって居るのは何故かと云うと社会に規定された個人と云うものを考えないのです。小学校でクラス五十人か六十人の個人を集めて実験してそうして何歳の児童は斯うだと云う断定を下す。それ程誤ったことはない。何故ならば、社会に依つて知能の発達が皆異なるのだから。例のモースがジュネーヴのピアジェをやつつけたのは有名なことだが、ピアジェはジュネーヴの有閑階級の実験をした結果、子供の知能が六つとか七つとかから発達すると云うことを発見した。

そう云う風に実験心理学者は子供は斯う云うものだとか云うことを言うが、實際はそうではない。各々の社会に依つて皆違ふので、モースはピアジェをとちめるのにアルジェリーの例を引いた。フランス人だから自分の国の近い所をわざわざ例に引いたのだと思うが、全くあの辺では子供は四つか五つで奴隷に売られるか、そうでなければ家に居ても親父の手伝をして繩をなつて居る。アルジェリー人、ユダヤ人、アラビア人、皆そうである。それは皆實際四つ位から発達する。幾つ目にどう云うものを入れるかと云うことを知つて居つて繩をなつて行く。其結果で以てすっかりとちめてしまった。そう云う訳で社会学を無視しては心理学は成立しないので、そう云う点で個人と云うものそれ自身は暫く問題にならないのだが、心理学から個人の心理なら心理と云う問題に實際に打つかつて

来る時に、必ずそう云う型タイプの、或る社会の型に規定された形になって出て来る。そうして始めて社会学的になる。単に個人と社会と云うようなものでは出て来ない。個人と云うものは何処にもなし、社会と云うものも何処にもないのだから、結局どれだけの社会と云うものを抽象して行つて始めて或る一つのを産み出すので、始めから社会を持ち出すと間違つてしまう。随分長い間、議論と云うものはそう云う抽象的なもので終つて居た。

三木 心理学でも本当に個人と云うものを論じて居る訳ではないのです、個人の一面ではあるが……。

田辺 それは社会に規定されたものとして、フランスなどでは、心理学の最後は社会学に求めなければならぬと云うことで、心理学の主流は社会学と結んでやらなければならぬようになった。

僕はそれが日本の一般の心理学者に欠けて居る所だと思う。

三木 個人と云うものはメタフィジカルな根柢、そう云う意識に於いてでなければ、本当の意味に於いて個人と云うものは考えられないのです。そう云うことを此頃考えて居ります。哲学には勿論なるけれども、社会学とか、教育学とか、心理学などは個人を問題にするけれども、兎に角メタフィジカルなものを認めなければ、個人と云うものは出て来ないと思うのです。

本田 社会は？。

三木 社会はそう云うことがなくても考えられる。詰り吾々が客観的のものを見て行くには社会的に見て行くより仕方がない。何処まで行つても社会的にしか見られない。詰り其根柢は——社会其ものの根柢はメタフィジカルに考えなければならぬけれども、認識の立場から言えば、個

人の認識はメタフィジカルな根拠なしには認識出来ない。社会は客観的にでも、詰りメタフィジカルなものを見なくても認識出来る。又客観的に認識して行けば何処までも個人と云うものはなくなってしまう。

哲学と科学。一般論と特殊研究

松原 まあ個人と社会の問題は哲学上の議論とすると大きな問題になって座談会の問題に向かないと思います。それで之を圓谷君の著述を中心にして考えるならば、又今の問題にも関聯して言う、現象学の方法を徹底したのは宜いし哲学を駆逐しようと云うのは宜いが、一体僕等があれを読むと、歴史的な背景があつたとしても、寧ろ哲学とさえ言えるものではないかと思う。そうすると彼の場合に於ける哲学と社会学との限界と云う風なものは、どう云う風な限界に於

いて考えるかと云うことが問題になる。

田辺 寧ろそれは哲学と心理学のものではないか。科学者は其処まで進歩しません。

松原 進歩しないのは宜い。そう言われるのは宜いのだが、彼が用いた方法はどう云うのか。現象学と云うのは哲学の領域にあるのだから、そのことは考えても宜いと思うのだ。

圓谷 僕は、哲学の出発点は今僕等が考えて居るような社会学を探して居つたのではないか、と云う考えを有つて居る。

本田 それでは社会学が出来たら哲学は要らないと云うのですか。

圓谷 そう云う訳です。哲学はあゝ云うものを探して居つたのではないか。

三木 兎に角哲学は社会哲学的な基礎に立たなければならぬと云うことは事実だろう。是までの哲学は社会哲学的なものを基礎的に認めなかつ

た。寧ろ応用的に考えたと言ふことはあるだろう。

松原 僕は其点は寧ろ圓谷君の狙つて居たようなものを哲学に於いては阻つて居たのではないかと思ふ。

圓谷 そう言つても宜いのだ。それを今迄哲学者が其処迄来ないものだから社会学の方から行つたのだ。

松原 是は集團意識と言ふものを原理とする世界觀の学と云う風にも言えると思います。色々の根拠から……

三木 やはり哲学に於いては個人の問題はあると思ひます。

田辺 しかし科学の対象にはならないでしょう。

三木 個人と云うものは科学の対象にはならない。心理学は個人の共通的なものを研究して居るのだから。

松原 だから現象学的な所から出発した圓谷君は当然そこに入らなければならぬ。

田辺 僕は哲学が分らぬし、実際の哲学が何処まで進歩して居るか知らずに言うのはなんだけれども、三木君などは日本では殊に氣を附けて居られるだろうけれども、皆さんの考えが實際ポジティヴに出て来る社会学の帰結を利用して居ない。だから正直に言うると今度の「集團社会学原理」より「我国資本家階級の発達」の方が貴重なんだ。あゝ云うことが社会学者の領分なんだ。それだから日本の社会学者と云うものは僕自身の考える社会学者と一寸違うので、何でも普遍的なことを言つて居れば学者のようなことになる。だから哲学者から見ると滑稽であろうし、此方から見ると実際科学者でないようなことになつてしまふのだね。

結局實際的な事実の研究と云うものは、其帰

結と云うものは必ず一般社会学を動かして来る。恰度物理学で言うならば、アインシュタインの一つの原理とか、医学に於いてはワクチンの発見とか、X光線の発見とか、そう云うたつた一つの発見と云うようなものが物理学の全体をガラツと変えて行くのだ。實際そう云うようなことからでなければ変えられないのに、日本では通論的改変と云うようなことをやって居ると云うことはあり得ない。だから特殊研究と云うものは何処までも特殊研究として終つてはならない。必ず帰結は一般社会的に附くのだ。例えば家族なら家族を研究する。研究した結果は家族の連帯なら連帯と云うものから社会連帯と云うものになり、西洋人のやったのは西洋人のやったので宜いから、日本人の社会の研究が出来るのだから、日本の家族を研究する場合に、所謂家族研究で以て西洋人がやったことに修正を加

え得る。其結果は必ず一般社会を動かして行くのだが、日本の学者にはそれが欠けて居ると思う。

だから家族をやる人は家族、犯罪をやる人は犯罪と、スペシャリストで結構である。一般論は何も産み出しはしないのだから。社会学の限界とか云うことは實際出来るものではない。スペシャルな研究をして行かなければ科学は一步も進まない。それを哲学の部分までも受持たせれると社会学者と云うものはディレッタントになる。次の社会では日本の社会学もそう云う風になるだろうと思ひますけれども、そう云う所に寧ろ哲学者と云うものは社会学者に対して役割を与えるだろうと思う。同じ子供であつても各民族で違い、社会で違い、階級で違ふと云うことになる。どうしても社会と云うものを考えなければ外の方は分らない。そう云う風に社会

学に影響して来る。社会学者の方が進まないから心理学も十分進まないものと思う。コントだつて、実際コントの一番良い所はあとのシステムです、寧ろ今まで彼の原理として馬鹿にされた最後の方が良いので、始めのは云わば見本であつて、彼が所謂知識社会学を作つて、社会的に規定された個人と云うものを研究したのはそれからとだ。あれから今花を咲かせているフランスの社会学は出て来た。

満州問題

圓谷 それでは社会学の特殊問題として、杉森さんの満州談を聴きましょう。

杉森 それでは粗末な報告しか出来ないと思いますが、報告を目的として申し上げます。私は満鉄の夏期大学から、八月中旬から下旬に掛けまして七箇所ばかり講演をするようにと云う話

を受けまして、それが契機となつて此夏満州へ参りました。八月十二日に大連に着きまして、二十九日には安東を日本に向つて発ちました。そんな訳で、往復を入れて二十五日の旅でありました。私が満州に参りました契機はそう云うものでありますが、行くことになりましたから私の目的は、実は主として自分が此の際少しでも満州に関する認識を増したい、若くは作りたいと云うことにございました。その関係で、向うに居ります間に不精な私としては出来るだけ勉強して、自ら満州の人々に努めて質問を發して、自分としては認識的に裨益した積りで居ります。

満州と北支那との關係

杉森 私が偶々知ったことは皆さんには自然既に知り抜いて居らるることのみに思いますか

ら、何を申上げて宜いか非常に迷いますが、結論としては私は、やはり満州国の発生及存在は、日本に取つては其必要なる、謂わば大陸主義の第一歩たるべきものである。若くは吾々としては、日本としては、大陸主義の第一歩たらしむべきものであると云うことを考えて帰つて参つたのであります。無論何等新しい考えであらう訳はありませんが、外に是れと云う結論的な考えは発生致しませぬので、第一歩であると云えば自然第二歩とか第何歩と云うものが予想された形になりますが、其第二歩と云うようなものは、具体的に言えはどういうものかと言いますと、是は一つは北支那に満州国が伸びることであると思ひます。無論それは満州国と云う名前が北支那に適用されるようになることを私として意味した訳ではございませぬ。もつと実質社会的にでございます。名称的ということでは勿

論ありませぬし所謂形式的でも大体ないのでございます。そこで北支那との關係がどんな風になつて居るかと言うことも成るべく知りたいと思つて、色々調べましたが、存外好いようでございます。詰り一つには御承知の山東農民が満州に季節的に、少くも数十万人やつて参ります。其中には満州に落着いてしまう者もありますけれども、多くの者は解氷期に来て結氷期に山東等々の連中は勿論何等日本若くは満州国の強制に依て満州に来るものでないことは明かであります。要するに満州の現に有つ治安と産業が、彼等の生活の必要若くは慾望を刺戟してそう云う現象が生じて居ると見られます。且つ彼等は御承知の通り非常に儉約でありまして、満州で稼いだ収入の大部分をば郷里山東に於いて使うという事実があるようです。満州に居る間は郷里

に残して来た妻子眷族に送金する。それから自分が帰る時にも比較的大金を身に附けて帰るそうであります。此ことは日本としては存外注意すべきことだろうと思います。即ち要点に於いて其現象は経済的であり、若くは広く生活的である。而うして又其言葉の或る意味に従えば大衆的であります。而うして先刻も申しました通り何等日本若くは満州国に依る強制とか圧迫とかいうことが其原因を構成して居ない。

それから大連が今非常に繁昌して居ります。埠頭の事務所長の関という人に直接聞きました。が、事変前二倍に営業が上つて居るそうです。斯ういう発達を数字的に言つても現在の満州は商業等に於いては示して居ると言つて宜からうかと思うのでございます。それから大連の現在の満人商人の資本は、系統に於いては其七割まで山東に属するそうです。詰り山東に自分の兄

弟が居るとか、父母が居るとか、親類があるとかいうので、そういう連中から金を貰つて来て大連で商売して居るとか、色々の形でありましようが、七割程資本系統は山東に属して居るそうあります。斯様なことが自ら原因若くは契機となつて、北支那の満州国に対する、及日本に対する感情は頗る好いようで、詰り社会的になつて居るようであります。今こう申すことは何等私の認識でありませぬ、又輕々しく言うべきでないことかも知じませぬが、満州に行つて役人をして居る、而も上の方の役をして居る満人或は広く元の支那人は、彼等自身の興味に基いてやはり北支那の方に大分望みを立てゝ居るようです。斯の如くにして吾々は、あの辺の将来社会を或る程度まで試みに予測することが必ずしも絶対に不可能ではないと思うのでございます。詰り満州国及日本の経済工作が、満州国と現在

の北支那との間の社会的關係を一層發達させるようになるかも知れないと先ず思います。そこに色々政治的形式というものも必要になって参りましょうが、其辺は決して窮屈に、満州国が北支へ伸びるとか、況や日本が北支へ伸びるとかいうようなことになる必要はないと思うのでございます。

満州の發展性・創造性

杉森 私は大連に着きまして、翌日あたり旅順に参りました。無論戦跡は訪いました。其時にも感じたことでありますが、どうも社会というものを経史的に見ないといけないので、大連は今日堂々たる商業都市でありますけれども旅順というものが歴史的には一つの貢獻をなして居る。若しも旅順がなかったならば今日の大連というものもなかったらうと思われれます。同じよ

うなことが新京へ行きまして一層深く感ぜられました。今井さんは事変前の、長春時代の新京を何回か御覧になった方ですが、私は大正二年に長春をほんの素通りしたことがあります。是は殆ど言うに足らぬ経験でありました。併し今度新京へ行つて見まして分析的若くは実証的というよりは、ゲシュタルト・プシコロギー【Gestaltpsychologie ゲシュタルト心理学】の方法に依つて、インサイト【Insight 洞察】、アインリヒト【Einsicht 洞察】の方法に依つて、是は一つの驚くべき現象であるつくづく思いました。要するに此点は、昨日か今日の東京の新聞に、此間満州へ立ちましたイギリスの実業家の人々の報告だか話だかが出て居りましたが、やはり私と大体同じような印象を有つたらしいと思つて私は其記事を読みました。斎藤大使が其少し前にやはり向うを廻つた時の感じだか印象だかが

新聞に載つて居たのを見た時にも、私はやはり誰が見ても同じような感じがあるのだと思ひました。兎に角恐しい發展振りと云うよりはクリエーティヴネスが感ぜられます。是も併し三年前及それから暫く続いた所の日本の満州に於ける行動、或は大陸に於ける行動と云うものがなかつたならばあり得なかつたことに違ひない。是等のことを考えまして人類の社会の進歩と云うものは、或る人々が信ずる如く、單純に、而して平和的な方法のみに依つては成し遂げられ得ないものであると云うことをも今更の如く感じた次第でございます。無論それが一つの普遍的な法則であるとは存じませぬけれども、そう云うことも随分あるということは新京を見た時にも感じた次第であります。

満州国へは技術移民を送れ

杉森　そこで移民の問題が満州でも大分日本人に依つては意識されて居りますが、是は無論のことであります。そこで私は、是は技術移民に集中することが日本としては必要であると考えた次第であります。何となれば、噂に聞いた苦力、というものを今度眼のあたり見ました。如何にも純粹労働に於いては苦力若くは広く満人或は支那人というものは天才的なものであると感じました。純粹労働というものはテクノロジーが発達するに従つて社会的に廢滅に歸するものでありますから、吾々が純粹の労働に於いて天才でないことは長い目から見れば必ずしも悲しむべきことではないと思います。而して今日の産業の為に純粹労働というものも一つの欠くべからざる要因であることは申すまでもない。そう

1 クーリー、半奴隷的労働者、低賃金で定職と呼べない仕事に従事する肉体労働者。

しますと、根本方針の一つとしては、技術移民に日本は集中すべしと斯う感じました。そうすれば苦力若くは満人或は広く支那人と両立するのですから、技手、技師と言ったようなものがグン／＼向うに行くようでなければならぬ。唯行った所で仕方がないから、無論やはり工場をおこさなければならぬと感じました。何処におこすかと言えば、大変短時日の旅行で口幅ったいことを言うように自分の耳にも響きますが、私は先ず大連に興すべしと思います。其理由は、彼処は現在に於いて一つの自由港であります。だから関税がない。詰り安東州²より奥の方の満州に較べて、其点に於いて大連は異なるものである。それから生産の中心と分配の中心は成るべく空間的にも近く隣りした居る方が便宜を有つと思います。斯様な訳で、大連ならば実に一つ

2 「安東省」のことか？現「遼寧省丹東市」付近。

の都市として発達して居りますから色々便宜がある。それからやはり日本人がたくさん満州に住込むことが日本としては必要であると思います。そうでなければ満州は日本の為に意味をなさないと思います。此方に居て、アブセンチー、オーナーシップ、アンド、コントロール【absence ownership and control 不在者所有支配】をやつて行く、こうということは愚な考えであろうと思うのでございます。旁々工業移民と云う方に集中したら宜かろうと思います。家族連れで住込むことが出来るようであれば移民は成功しない。其見地から言いましたも、工業移民ならば、何れ現在ある大都市の附近に住込むことになりますから其点も都合が好いと思います。

西力東漸史と満州国

杉森 それから大連から奉天、新京、^{ハルビン}哈爾濱まで参

りましたが、是等の都市へ参りまして、二十年、三十年、或はもつと短かく五六年と云う位の人々に日本人の話などを成るべく訊くようにして見ましたが、やはり日本としては大陸に——と申しましたも事実上満州、それから所謂極東に先ずなりますが、其社会を延長するようにならないと将来が甚だ困難であろうと感じました。そんな関係で、分り切ったことでありますけれども、やはり追憶させられたこともありました。

日清戦争の結果、日本が一度遼東に伸び、それが三国干渉に依つて又支那に渡つたと云う所に、既に今日の関係が或る程度に指し示されて居ると云うことを今度も感じた訳であります。詰り大体に於いて、西の力が東に及ぶというのは甚だ不完全な表現でありますけれども、そう云う風に決まつて居った。近世の一つの傾向として決まつて居った。即ち科学がヨーロッパに

発達したものですから、それは必然産業に適用され、戦争に適用され、而して一方に於いてはアジアとか、極東の方に其ヨーロッパ人が進出して来るということは、是はもう謂わば唯物的必然に属する。所が其時日清戦争と云う現象が発生した。日本が其勢を幾らか阻止した。同時に或る意味に於いては西洋の方に進出したということを今度も感じた訳であります。だから今度満州に居ります間にも、其仮定の下に——ヒポテーゼ [hypotheses] の下に、歴史の一部分を意識的に見ることも面白いことであろうと感じた次第であります。そこで、そう思つて見ますと、一八九五年に三国干渉があつて成功し、それから一八九八年には露骨に西力東漸が発生した。ドイツが山東に、ロシアが満州にフランスが揚子江以南に、イギリスが揚子江沿域に伸び

- て来て、翌年にはジョン・ヘイ¹の門戸開放政策が合衆国を背景として発生した。其翌年即ち一九〇〇年には北清事変²があった。あれに日本も加わって居ると云うことは甚だ面白いと思います。大体に於いては、あれは西力東漸に属する現象である。其翌年に日英同盟が出来た。是が又西力東漸の歴史に一つの複雑さを与えた意味をも有って居って面白い。又日本が支那に伸びたと云うよりも、意味に於いては西洋の方に伸びたと考えられるが故に其關係に於いても面白いと思つた次第であります。日露戦争の結果日本が満州をロシアから取つたことは、意味に於いては日本がそれだけ西洋に進んだこと、或は喰込んだことであると今度も感じた次第であります。此将来は、近世の歴史の一大側面であり
- 1 John Milton Hay, 1838 ~ 1905、アメリカのジャーナリスト、外交官。
2 義和団事件ともいう

る所の西力東漸の勢が、若くは傾向が、偶々白人の経済的興味が、極東に於いて大なる経済的価値を有する支那に集つて居つた間に、即ち日本は其意味に於いて問題ともされなかつた間に、其日本は却つて白人が東洋に伸びて来た原因を学び取つた。即ちサイエンスを学び取つて之を産業に武力に適用した。そこで此方は小さく向うは大きい、対象は不釣合になつて居りますけれども、それでも兎に角日本が支那に進み、白人の力が東に進んで来るのと衝突して、此二つの力の關係が幾多の形態に於いて混成して今日までの歴史の一部を組織して居ると云うことを今度も感じた訳であります。どうしてもそう云う歴史の光に照して見ましても、日本は面倒な分析や理窟を捏ねるまでもなく、寧ろゲシュタルト・プシコロギーの方法に従つて、地図を拡げて見ますと、第一これっぽかりの土地では將

来が立行かぬと思います。其時は感情で認識の責任の問題を片附けたくなりますけれども、時間を取れば是は論証の出来ることであると今度も思つた次第でございます。

対滿政策の根本方針

杉森 先刻、技術移民に集中すべきだと云うことを申しましたけれども、其技術と云うものは、此節のことでございますから、所謂物質技術のみを意味する訳に行かない。どうしても社会技術の意味しなければならぬ。物質方面の技術の場合にサイエンスが必要である如く、社会技術の方面にもサイエンスが必要である。其ことばの正しき意味に於いてソシアルサイエンスが必要であることは申す迄もない。それで立法、行政組織、経営、管理、企業、教育と云うような方面に、日本が反省して努力を加うべき余地が、

対滿政策或は極東政策と云うものからして実には大いと感じた次第であります。偶々私は鄭孝胥¹と二時間近く話しましたが、其時にあの人は王道と云う言葉を使ってあの人の意見を私にも又聴かせて呉れました。そこで別に議論の出来る筈もなし、又議論すべき場合でなかつたことでもあります、私は其時には深く感じました。多くものを言ひませぬ、喋るには喋りましたけれども、感じたことを其僣言わなかつたのです。始めて会つた人ですから……遠慮も手伝つたのであります、私は鄭孝胥がどう云う考えを有つて居るかを社会的見地からして多く問題としませぬけれども、日本の対滿政策と云うものの為にもソシアルサイエンスの背景たるべきもの、即ち其言葉の正しき意味に於いての哲学、或は倫理学です。或は理論でも宜いです。指導意識

1 1860～1938、清の外交官から満州国務総理

でも宜いのです。是が実に肝腎だと思つた次第であります。それで私は今王道と云う言葉を此処で問題とする意志を有つて居りませぬ。王道に關する批評はしませぬが、正しき或は良き社会技術は正しき而うして良き倫理学に立つものでなければいかぬと思います。例えば政治はやはり其資格若くは責任を有つものでなければいかぬと思います。満州に居る間は頻りにそう思いました。今もそう思つて居ります。それは例えはどう云う言葉で言い表され得るか云々と、私は人間道主義と云う言葉で表され得ると思ひます。人間ならば男女を問わず老幼を問わず、民族に拘らず職業に拘らず、多少現にそれであるが、もつとくそれである方が宜い。それであるべきだと云うことの考えられ得るものが詰り正しき倫理学の原則でなければいかぬと考えたのであります。政治もやはり之に直接立つも

のでなければいかぬ。人間中の或るもののみが偶々それであると云うようなものは、倫理学の原則たる資格に於いては無論欠けて居る。此辺は非常に迂濶なことのようではあるが、併し大いに意識的完成の一つの対象——オブジェクト【Object】——ゲーゲンシュタント【Gegenstand】とする必要があると云うことを、今回の旅行中も、又帰りました後にも頻りに感じました、前から感じて居つたことでもありますけれども、旅行中に其感を新たに致した次第でございます。細かいことに注意を払うことになりますと限りがなく、又私として用意を有つて居りませぬけれども、対満政策の根本方針と云うものは、吾々も発言の義務があるように——權利があるかどうかは第二の問題として——義務があるように感じた次第であります。良い意味に於いての普遍妥当なるものが対満政策の根本にも十分取入

れられる必要があると云うことでございます。其意味に於いてやはり理性に立つことが對滿政策として必要だと思つたのであります。唯所謂道德の見地から必要であると云うよりも、それは言うまでもないが、然らずんば政治的に成功しないと云うことを感じました。幾らかその裏附とも言うべき実証的材料を今度も人から聞いたり何か致しましたけれども、是は申上げなくても皆様がもう御承知のことゝ存じますから申上げませぬ。何か満州へ行つたことに就て話せと云う圓谷君の命令でありましたので、何等新しいことはございませぬが是だけ申上げた次第であります。(文責記者)

附記 十月十三日夜、丸の内「マール」で開かれた座談会の席上では、上記の外にも、種々な話題について興味深く有益な談話が交換されました

が、誌面がないため残念乍ら掲載を見合せます。なお松本潤一郎氏は御差つかえのため遅れて出席されましたため、遺憾乍らお話を伺うことが出来ませんでした(編者)

底本：『社会学徒』1934.11

合評 一九三五年の政治・思想の主流的動向

合評者

長谷川如是閑

杉森孝次郎

室伏高信

三木清

青野季吉

「I」「動か静か、ファシズム」

記者 一九三五年に於ける政界思想界の主流を為す動向と、その人物と題してお話を願いたいのですが、先ず長谷川さんにご二、三年間、世界的の傾向となっているファシズムが、今年はどう変化するか、お願いします。

1 1934年は、日産コンツェルンは拡大し、財閥の満州への進出が始まり、軍需関連産業は活況で増築する工場が多数で熟練工は引つ張りだ。一方、米作は前年の豊作が一転、東北の冷害・西日本の早魃・室戸颱風の被害で大凶作となる。(近代日本総合年表より)

長谷川

私は予言をしないことにしているので、ただ現在のことをいう外はないが、「世界的」にたとえばファシズムはもう行く所まで行き、その「試行錯誤」による経験も一段ついたようである。世界といつても、国々で段階は同じでないからファシズムといつてもいろいろ態度や質の差はあるが、極端なものは行き詰まって後戻りをしているし、まだそこまで行かないものは立ち直って考えているといった工合である。これはつまり一時不安に駆られて非常に焦慮していたものが、多少現実の情勢に惹き^マずられて落着いて来たとも見える。ヒトラーが急進派を弾圧²するに至ったというようなこともその現れであろう。しかし、経済関係が最近のように互いに高い障

2 レーム事件、1934年、ヒトラーはナチス党の権力の基である私兵部隊(武装人員五十万とも)の幹部を殺害した。最高幹部レームはヒトラーの盟友でもあったが、射殺された。この後ヒンデンブルク大統領は死去し、ヒトラーは大統領兼首相となる。

壁を築くというような情勢が、もつと清算されない限り、依然として緊張の状態を続けるだろうが、世界的に景気がどうなるか、それによつて内外の情勢が左右されるわけだ。統制主義の経済は日本ではだいぶ下火になつたが、情勢のもつと悪い国では益々その傾向をとるだろうし、従つて政府もファッショ化を続けるだろう。

青野

ことは世界の資本主義国を支持しているファシズムの動揺期にはいるのぢやないかとおもつています。イタリーはまだ安定性を持つてゐるが、ドイツのファシズムはすでに昨年から民衆の下層部の反対勢力の擡頭に悩んでいる。その他、一時ファッショ的な傾向の強かつた日本やフランスはすでに昨年中にファッショ勢力が少なくとも表面では一歩後退しているんじゃないかとおもう。

1 輸出入禁止制限撤廃条約・関税休戦協定より脱退・満州の石油専売法（ブロック時代に突入）

ないかとおもう。日本なんかでも公然とブルジョア政治界でも日本の将来の政治はドイツ的独裁よりも、イギリス的な挙国一致政治の方が適当しているという意見が擡頭しているのではないか。しかしそのイギリス的強力政治というものも、その内部には勿論、ファッショ性を持つてゐるもんだが、ヒットラー流のファシズムとは区別されるべきものであらう。

記者

青野

日本の立場はどうでしょう？
日本は三五年の危機といわれるような具合に相当困難な立場に置かれるとおもう。しかしある一部の人が非常に誇張するような難局におかれるか、どうかは問題です。たとえば去年の政界においても外交工作ということが主位におかれており、内政問題が非常に困難に置かれてゐるから国際関係の方は決して一直線に進むことは許されないでしょうね。

記者 室伏さん、今年のファシズムの傾向はどうなるでしょうか。

室伏 ファシズムはドイツでもイタリーでも建設期に入っているので格別の変化が起ころうとは思えないし、創業期の華々しさはないだろう。けれどもファシズムはその性質からいつて絶えずその内部から灼熱されなければならないから建設期とはいっても、イデオロギーがたえず高揚もされ、刺戟もされてゆかなければならない。その間に自らに創造的進化が行われるわけであるが、しかし大体において対外的な関係から、その注意が内部的なものへと向けられて行くであらう。

記者 日本のいわゆる危機に際しての動きは？

室伏 日本のファッショ運動は対外関係への緊張さから導かれて来たもので、この点は所謂三五・六年の危機として今年も一層にこの点に油がかけ

られるであろうが、しかしこの種の情熱は冷却するのほかはないであろうか。無理が永遠した例はないのだからね。

三木 僕は従来の国民主義的なものではなく、ことは国際主義的な、協調的な傾向が対外的には出て来やしないかとおもう。軍縮会議でも、とにかく世界各国とも決裂されるのを極力避けるというようになりはしないでしょうか。国内では、それと同様にファシズムの部分的な退却が行われるんじゃないかとおもう。ただ、政党がどういう風に乗り出して来るか、こんどの通常議会の動きでずいぶんと影響されるでしょう。それに日本のいまの政治的支配力を握っている方面でも、様々な対立があるということであるから勢い内部的には力が弱められるんじゃないですかね。僕はそれから或る意味で強権政治に対する反省がだんだん世界的になってくるん

ぢやないかとおもう。対外的には国際性という観念が逆に強まって来るが、一方そういう必要を感じながら、内部では農村問題やその他の社会問題¹がますます紛糾して来るので何等かの統制をとらなくてはならないのだが、といってマルクシズムに徹底することも出来ないだろうし、やはり外部では国際主義、内部では国民主義で統一をとるといような矛盾した現象が今年はめだつて来るでしょう。

「2」自由主義は何処へ

記者 杉森さんに、今年の世界の動きをお話し願いたいのですが、先ずマルクシズムは、どうでしょうか。

杉森 マルクシズムはあのままの形で復活しないで
 1 1934年は秋から冬にかけて東北地方は冷害で大凶作となった。借金累積・娘の身売りなど、加えて厳寒で行き倒れも出るなど惨状をきわめた。

しょう。殊に技術の発達した国々に於いて、その必然があります。なぜというと、いわゆるプロレタリアートは今にして明白に、いよいよ明白に生産の主力ではない。技術が労働にとつて代りつつあるのだ。だから技師を中心とする産業改革運動は急に一九三五年に飛び出すわけではないが眼立たないながら、その目覚めをはじめるでしょう。そして我々はこの運動を起こさなければならぬ。日本の満州国移民も技術本位でなければたち行かぬように増々なっていくでしょうし、現に学校世界の入学志願者の分類が、工学方面に集注して行くが、これなども根柢に技術工学への世界的動向が差控えているのです。

記者 一番活潑だと思われるファッショはいかがでしょうか。

杉森 ファッショは個人を余りに浅く解釈する点

に於いては破産の運命を持つ。国民主義を永久の方針とするならば、そこにも破産の原因がひそんでいる。しかし、ここ暫く世界はほとんどことなく国民主義へ内進する必然があるからその限りに於いてファッショは繁栄する。ドイツのアウトアルキー²はその代表的なるものだ。しかしファッショに於ける統制経済的側面は失敗と改正をかさねつつ伸びて行く必然がある。なぜといえはいわゆる自由主義経済は、要するに大修正をうける歴史的必然がある。アメリカのN・R・A³があのように行き悩みながらも国民的支持を失わないところにその証拠がある。もちろんN・R・Aとイタリアの統制経済と、ナチスの経済政策とは共通の運命のものです。

2 Autarctic 自給自足経済圏あるいはその政策をいう
3 New Deal 全国復興行政のこと。
ニューディール政策で作られたが、この年違憲とされ廃止される。

記者 ではリベラリズムは？

杉森 自由主義は機械の力と科学の概念的、論理的統制力と必然的集団主義との現代に於けるものを自身に取り入れざる限り、思想界に於ける高等ルンペンの悲運を辿るほかない。

記者 三五年度の政界思想界を概括して結論としましては？

杉森 技術主義の社会運動化は意識的には未発達ながら、今なお続々世界全面的なる軍拡均一の奥にも働いている。軍備工業と重工業と化学工業との間口は金城鉄壁はない。世界が一九二九年十月以降即ちアメリカをさえ猛襲し来れる経済恐慌以来、資本主義と社会主義の比較検討に没頭して産業資本家までが生産を危ぶんで来た。しかし生産を休んでは研究することすら出来ない。この生産の、即ち消費の絶対的需要がたまたま軍拡の角度から夜明けを持ちはじめたのだ。

こんなわけで世界は怖ろしく反動的に見えるけれども実は産業革命の大進展が、その基礎工作を為しているのだ。思想も政治もこれを把握するのでなければ経国済世の実は納め得ないでしょう。

記者 青野さん、一般思想から文芸思想については如何ですか。

青野 ファシズムに対する批判思想としてリベラリズムの擡頭ということが一般にいわれ、その傾向は確かに見えていとおもう。しかし、それは思想界に於ける批判精神の現れであつて、一個の政治勢力となり得るとは、とうてい考えることは出来ない。すでにファッショ思想にも反対し、リベラリズムにも失望し、前途の方向を失つた人々は、この一、二年來、例の不安思想、懷疑思想に掴まれている、また非常に素朴な一般民衆は宗教的、迷信的な境地にさえも入つて

いる。そういう否定思想、遊離思想は三五年に於いては一層深まつて行くのではないかとおもう。同時に積極的な、行動的な、進歩的な思想の擡頭することも考えられる。日本でいえば不安の文学に対して積極性、行動性の文学が唱道されはじめており、それがまた一片の希望に過ぎないかも知れないが、決して輕視されることを許されまいとおもう。

「三」時代をリードするもの

記者 昨年度に現れた不安、懷疑の精神というものが、今年はどういう風に現れるか。また宗教なども、もつと流行するでしょうか。長谷川さんにお願ひします。

長谷川 世界的に陰鬱な空氣が多少でも明るくなることを希望されているが、これも各国の実力なり、自信なりの問題で、それにはもつと各国と

も自国の情勢の客観的認識を確かにして、互いの情勢を明らかにして共同する傾向をとるに限るのだが、多少そういう風に進んでいるようにもおもわれる、いわゆる窮して通ぜざるを得ないのである。そうなると戦争の危機なども自ずから緩和されるわけである。これも程度の問題で、合理的解決の方法を多少でももっているものは、懷疑といっても極端に行かず、自信が残っているわけである。宗教復興もその意味でいろいろある、原始宗教的なものもあれば文化宗教的なものもある。日本などは後者の方だから、多少余裕のある側であろう。尤も原始宗教的のものがあるが目下の流行としては文化的の方である。

記者 三木さんに文芸思想についてお伺いします。

三木 芸術派の間から起こった行動主義も、今年は積極的な内容を与えることが根本問題です。行動主義といっても不安、懷疑の精神と別なもの

ではなく同じものですね。否定の精神というものとは五十歩百歩で、裏表のものだけで何も違うんじゃないとおもいます。行動主義も今のところファシズムかマルクシズムに行くよりほかないが、しかし新しいリベリズムの世界観を確立すれば別だが、それ以外は結局従来と同じものですよ。左翼の文学が来年盛んになるとは考えられないし、行動的ヒューマニズムにどういう風な内容を与えるか、それを誰が与えるか興味がありますね。

記者 どういう人が内容を与えるでしょう？

三木 それは見当が付きませんが、みんなが覗っているんじゃないんですか。文学の方じゃ行動主義からファッショに転向する作家も出てきてるんじゃないかと思われれます。芸術派の間から行

1 「ねら」とルビを振っている、「狙」か

動主義¹が提唱されたことは、日本の文学が伝統的となっている私小説、心境小説の克服されることで、その点では非常に意義のあることですね。

記者 昨年のように宗教も賑やかでしょうか。

三木 今までのような仏教復興というものは下火になつて行くのぢやないでしょうかね。いまの仏教自身の立場からいえば、もつと高級なジャーナリストが出て活躍すれば、いい効果を上げるでしょうが、三四年度に活躍した仏教方面のジャーナリストでは駄目だろうと思います。

記者 長谷川さん、日本の政界、思想界では本年は、どういう人々が活躍するでしょうか。

長谷川 予言ではなく希望であるが、直観的人々よりも頭脳的人々に働いて貰いたい。

¹ フランスのマルロー・フェルナンデスらの提唱から始まる、座談会「能動精神」1935年を参照

記者 青野さん人物として政界の方でリードする人は誰でしょう。

青野 政界の新指導者が現れるかどうかということは非常に難しい問題で、おそらく三五年は、従来の指導者の権威の失墜の過程であつて、それに代わるべき新人物はまだ明確な形では出現しないのではないかとおもふ。しかし、独裁型の人物が凋落して綜合型の人物が次第に擡頭するであろうというとはいわれる。日本の例を見ても軍部でも荒木型の人物よりも、南型の人物が迎えられ、政界では床次型²の人物が迎えられるような工合である。

記者 次いで思想界方面の人物はいかがでしょう。

青野 日本思想界というものはいわゆる新人物がヒヨイヒヨいと現れるんで見当がつかない。た

² 床次竹二郎、万年首相候補と言われ、なれなかった

たとえば宗教復興の友松圓諦³氏のようなものが出
現しようとは誰も前もって想像もしなかったで
あろう。且つ想像してみたところで仕方のない
ことであると同時に松岡洋右⁴式、鶴見祐輔⁵式の
人物が、あんなに早く没落しようとは何人も想
像しなかったでしょう。

記者 誰か人物で主流をなすような人はいません
か、室伏さん。

室伏 あまり見当たらないが、政界では床次が中心と
なるような空気がだんだんと濃厚になって行く
のではないかと思う。それによつて政界の分解
作用と、新しい綜合作用とが行われるのではな
いでしょうか。

³ (ともまつ せんたゐ、1895～1973) 仏教復興運動(真理運動)を開始、無宗派仏教

⁴ (1880～1946) 外交官、政治家。国際連盟総会に主席
全権として派遣され、8年(1933)満州国に関する決議案に
反対して退場、連盟脱退に至った。戦後、A級戦犯に指名さ
れたが判決前に病死した。

⁵ (1885～1973) 官僚・政治家・著述家

能動精神 座談会

世界観について

能動精神是非論

機械論

同伴者性と進歩性

知識階級と能動性

発生の根拠

テロリズム

ファッショとの関係

マルキシズムとの関係

新しい可能性

自由探究の精神

浪漫的傾向

秩序の問題

誤解

希望

テロリズム再論

発展の可能性

発展のコース

出席者

武田麟太郎

木下半治：1900～1989、兵庫県出身、東京帝国大学

卒、政治学者、著書「日本国家主義運動史」、ソレ

ル『暴力論』訳

阿部知二

舟橋聖一：1904～1976、東京生まれ、東京帝国大学

国文科卒、小説家、作品『木石』『花の生涯』

三木 清

戸坂 潤

窪川鶴次郎：1903～1974、静岡県出身、日本共産党

員、文芸評論家、晩年石川啄木研究

森山 啓：1904～1991、新潟県出身、東京帝国大学

中退、詩人・小説家、作品『海の扇』

蜷山芳郎：1907～1999、群馬県出身、東京帝国大学

政治学科卒、ジャーナリスト、外交評論家、同盟

通信特派員としてビルマ・インドに就く、著書『イ

ンド・パキスタン現代史』等

田辺茂一

世界観について

田辺 では、これから始めます。今日のテーマは、能動的精神についてというのですが、これは過般この座談会で取上げた「リベラリズムについて」、「文学の指導性」、「知識階級の問題」、「思想性について」というような座談会も、悉く一聯の能動精神に関する論争であつて、これらの問題が幸いにして昏迷した時代の時代観というようなものに一つの触発を与え、芸術派の積極面に対しては能動性を賦与し、またプロレタリア側の人には注目的な関心を喚び起したというようなことは、この精神の現れが社会のあらゆる層に期待されていたということを如実に反映せることであつて、今日能動主義の欠陥として、観念の先行とか、思想体系の不備というようなことが言われて居りますが、所謂時代の転換期のような時において、一種の専制主義というよ

うなものが横行し始めようとしている場合に、人々の精神に活潑な批判精神を齎らして、これに能動性を与えて行くことは、或る意味の重要な価値があるのではないかという風に考えている次第であります。

これまで能動主義に対しては、一つの行動綱領もない、薄弱性なものであるとか、或は目的意識のない盲目的な、流動性なものであるから、将来はファッショと合流するであろうというようなことについて、だいぶ非難があつたんですが、それらの非難が、われ／＼能動主義を主唱している者たちにとっては、却つて良い糧となり、高い高さ、深い深さという方へ考えさして、今日われ／＼が孕んでいる能動主義の精神が、初期の観念性を脱却してたゞ一つ文学だけでなく、経済、社会、階級等に対しても、或はまた、それを縛っている権力というようなものに対して、

或は権力の発動に対して、十分吟味、批判して行こうという段階にまで達したように考えて居ります。

で、所謂非常時局において、国内統制を紊したり、或はまたいろ／＼の迷妄な指導理論をもつて、聡明に——例えば流行の、政党政治の不振というようなことを、聡明に詰（な）つて行くことだけが知識階級の役割ではなくて、あくまで民衆の幸福、政治意識の徹底、秩序の正常化ということのために、われ／＼知識階級が全智全能を挙げ、て闘つて行くことがわれ／＼の仕事であると思ひますし、また同時にそういうことの準備のために、いろ／＼の資料を蒐集して、報道して行き、それが自己完成になつて行くというようなことも、この知識階級の役割だと思つています。……そしてかゝる際において知識階級が政治勢力の中に重大な立場を有つて行くということが

あくまで必要であると思ひます。そこでこの能動主義は所謂社会現実をよく見ない、これに眼を覆つていて、自分の利害關係に関知しな※〔#1 字欠〕というような人々に対して、新しい反省と、示唆を促し、また曾てあつた運動におけるアデーションとか、テロとか、政治的暴露というような方法についても、何か新しい、正しい方法、発展的な方法を見出させる方面に努力して行こうという一つの精神で、またひらく言へば、これは人間復興の精神であり、指導者をわれ／＼の中に求めて行くというような精神でもあつて、この精神を拡充することによつて社会のあらゆる部門に働きかけて、不安的な空気を進んで一掃して行きたいというのがわれ／＼の希望である次第であります。文学の方面においても、こういう精神を採り入れて、所謂良心をもつて社会現実を見ながら、芸術性を普遍し

て行くということが新しい文学の姿であるという風に考えていたわけであります。今日は文壇の方々も列席されて居りますので、多少この座談会が文学理論的な傾向をもつかとも思いますが、私としては広い意味に能動精神を解釈している次第でありますから、どうか御遠慮なく今日は能動的精神に関する意味で究明していただきまして、今日まだ未熟な能動主義のかずかずの欠陥、或は跛行性というようなものを指摘していただきたいと思つてゐる次第であります。

で、今日の進行係は私にやらしていただきますが、最初、かなりこれまで問題にして来てあるから重複するかと思いますが、知識階級と世界観というようなことについて何かお話を願いたいと思います。能動的精神はどうしても一つの、思想はないけれども、新しい世界観というようなものをもつて、或はそれを樹立することに準備

して行かなければならないと思つて居りますが、いろ／＼な思想の挾撃を受けてゐる立場にあるようでもあります。こういう精神における世界観というのはどういう方向へもつて行つたらいかにというようなことについて……。

戸坂

むつかしいよ、これは……。能動精神というのは、つまりこれから世界観を作ろうということじゃないですか。一定の世界観があるのではなく、世界観に能動的な形を与えようという活動ぢやないですか。

田辺

はあ。

能動精神是非論

窪川 ちよつと。大森義太郎氏がいろ／＼能動的精神の問題については痛烈な言葉を並べてるようです。その一番攻撃の的になつていた舟橋聖一氏に、あゝいう攻撃に対して、——まあ

あそこでは能動的精神の内容に対して具体的にこれという批判はしていなかったと思うんです。全体の主張者のテーマから切り離されて、いろいろ部分的に亘つてはなか／＼読者の興味を唆るような批判をやつていたと思うんですが、全体の意図というようなものを念頭においての批判というものはあまり現れていなかったんじゃないかと思うんですが。——それで、そういう点に対して舟橋氏から一つ具体的に、あゝいうものを中心にして何か述べていたゞくと、大変話がしよいと思うんですけど……。

舟橋 あれは僕がこの間、十二月に大森さんの「統知識階級論」という論文の中にあつた、大森さんの所論の曖昧なところなんかを追求して見たことがあるんですけど、その上に丁度「文学二人論争」の窪川さんと青野さんとの論争の中に、やつぱりあの大森氏の意見を否定するような向

きがあつた、それから窪川さんの都新聞の時評の中に、やつぱり大森氏の意見に対する意見があつた。そういうものを綜合されて答えられたらしいんですけど、しかし実に肝賢な、われわれが質問したことには全然触れてなくて、その文章の中にあつた別の小さな部分的な、或は枝葉のような、言葉の上の揚足取みたいなものをもつて行つて、こつちが質問した一番の要点が全然答えてないように思つて居るのです。例えば今のリベリズムの問題でも、大森さんは、今のリベリズムというのは自由経済から出発してる。自由経済というのは、つまりブロック経済に対する自由経済だということ、そういう意味で自由経済主義というのは、つまり統制経済主義から圧迫を受けている。その自由経済思想というものに結局今のリベリズムは、脈を引いているが故にブルジョアイデオロギーであ

るといふ見解なんです。その点が僕は全然大森さんの認識が間違つてるように思ふんですが、今日のリベラリズムというものが、ブルジョアイデオロギーによるところの自由経済、或は産業資本の後押しによつてゐる自由経済思想から出て来たリベラリズムだということは、全然僕はわからないんですけどね。そういうことに混乱が非常にあるように思ふんですが、そういうことを聴きたいんです。それにはなるべく僕は正しく大森氏の駁論を見ていたんですけれど、今日終つたところまでを見てみると……一つも答へられていない。そういう点でも大森さんの説はどうも牽強附会の説になる傾向があるというように信じてゐるんですけれど……。つまりブロック経済に対して自由経済は反対である。であるからアンチファシズムである。そういう、アンチファシズムだという点ではわれ／＼が言うリ

ベラリズムも、それから自由経済思想のリベラリズムも、それは同じだという。しかし、それがファシズムという一つの対象に対して共同戦線にはなつても、それとこれとが全然一緒のもんだということはないですね。

森山 つまりね、舟橋君がリベラリズムという名前でやつた主張の内容を大森さんは充分汲まずに居つて、リベラリズムとは何ぞやというその概念から、彼一流のリベラリズム批判をやつてゐる。それにあの森氏の主張全体については、またあとで皆が話されるとして、能動的精神とか、行動主義とかインチキだと言つてゐるね。そうしてインチキ万年筆屋を持出して来てるんだね。(笑声) 僕等がこうやつて能動精神について論議する場合に、われ／＼があつたインチキ万年筆屋であつて、その中にサクラも居る……などという風に見られちゃ困るし、あたつていないね。

僕は、あれを読んだ時に、大森さんだつてあれが駄洒落であつて、譬喩としても非常に拙いことは認めて居るわけなんだがね、その拙い譬喩を持出しているところにも、あの人の態度がよく出てると思うんだ。一体能動主義、行動主義というものが未だ取るに足らないものであるとしてもその意味でならば、インチキというような言葉では片付かない。万年筆なんてものはちつとも発展しないもんだね。あんなのは拵へて置けばインチキなまゝなんだよ。(笑声)しかし彼は例えば筍を見て、これはインチキな竹だと言つたり、蟬のまだ殻をくつつけて羽のないのを見てね、これはインチキな蟬だという風に言う、そういうところもあるのだと思う。つまり現在起つて来ている氣運がどういう性質のものであつて、それが今後どう発展し得るかという、少くとも所謂その一般的な可能性を問題にして、

それに自分の有つてる力を注ぎかけて、それを大森さんの主張通りに引摺つて行こうというくらしい態度をもつては臨まれていない、と思うんだ。その点が僕は最初に不満なんだね。

舟橋

それからね、なぜ能動精神をそんなにやつ付けなければならぬかということね。揚足をとつてまでそれほどやつ付けたらどれほど良いことがあるかという点がぼくにはわからん。つまり能動精神を弥次り倒すことがどれだけ有益であるかということね。それがはつきりしてない。勿論大森さんがあれほどやつ付けるんだから、やつ付けたゝめに非常に良いことがあるというならば、それは弥次つてもよいし、やつ付けてもいゝけれども、それがちつともわからない。なぜこんなにやつ付けたらよいかということが皆にもはつきりしないから、大森さんの意見がなにか空廻りしちゃつて、説得力がないん

だと思うんだ。所謂迷妄をやっ付けるといふ根拠がはつきりすればいいんだが、あれぢや何のためにやっ付けるのか、そこがみんなにわからないんじゃないかと思うんだ。

森山 そうです。たゞね、大森さんが主張しているところは、非常に一般的なことではあるけれども、能動主義が現在のような状態で論議されている原因、またそれが演ずる社会的役割について、また一般的な危惧は述べて居ることになっている訳だね。つまり今のところでは能動主義というものは反プロレタリア的な役割を演じはしないか、という風な一般的な危惧を人々には有ち得るが、それを目前において大森氏は物を言つた。

舟橋 それは一時中條さんなんか言つてたんだろう。

森山 そこを大森氏の主張が、非常に一般的なもの

であるけれども、一般大衆の間にある危惧に照応して一般論を述べて居るといふ点で、大森氏の議論はたゞ取るに足らない、とも言えなくなつて来るんだね。

戸坂 大森氏の一般論については僕は意見があるんですがね。大森氏はなぜ能動精神とか、行動主義が問題になるか、またインテリの問題がなぜ今更問題になるか、そういう意味を理解してないと思う。たゞ従来の極く一般的な形で問題を蒸し返して居るに過ぎない。その一つの結果として、大森氏はインテリが一つの階級だということ、つまりそういう意見なんですがね、帰著するところ。階級を見るといふことは大森氏に言わせると、個人の問題は問題でない。何か集団として論ずればそれで沢山だと言う。しかし今の問題はそうでないんだと思う。集団としてそれは論じ得るし、論じなければならぬ場合もある

けれども、各個人の、殊にまた自分たちの、またその他の人達の主体的な問題が中心になるんです。インテリゲンチヤの主体的な何かという、インテリジェンスだと思うんですね。自分のインテリジェンス、乃至プロレタリアならプロレタリアのインテリジェンスを如何に使つて社会運動なり、文学その他の文化運動に参加するかという問題として見るべきでしょう。そういう問題として見ないので、大森氏は。だから非常に一般論にならざるを得ないんです。

森山 そうです。それから、あの能動精神というだけでは、海のものとも、山のものともつかない。つまりファッショへ行くか、プロレタリアート側に来るかかわからないという、そういう一般論から、われ〱が芸術家的実践において今日「能動的」であろうとする、一つの氣運を単に一掃するということは実際の芸術家の努力とその社

会生活というものをあまり念頭に置いてないんじゃないかと思うんだね。それは元のドイツの芸術派的作家たちが現在のようなナチス治下ではどういふよう状態にあるかと考えれば、――例えばハインリッヒ・マンについて最近語られています、彼なんか最初何もプロレタリア的な、階級的な立場に立つたということを主張して来ていたわけではないが、しかし彼が自分の精神活動、芸術的活動の、ほんとの自由を欲するとすれば、自由がないということを痛感して来てるんだね。それでナチス治下では、現実に対する作家の考え方や、それから空想やね、そういうものまでもナチス的に限定されている。だから非常に型にはまった創作、芸術家が非常に窮屈に感ずる文学的型をナチスは設定してしまふんだね。それだから、芸術家として本当に自由澆測と創造しようとするというだけでもの

能動的精神を、社会的に縛つて居るんだと思う。

それだから芸術派の人も、そういう社会情勢の下では、自分は本当に芸術家として、生活に向つて能動的でありたい、芸術家として自由に振舞い、自由に創造したいという慾求が、抑えられた切実な自分の苦悩としても出て来るわけだね。日本でも芸術派の作家たちが能動的な精神を唱えたという、その直接の動機はどうであつたにしても、現在のような社会状態の中で自分の活動の結果を恐れることなく、本当に自由な創造活動を行い、自分の才能も伸したい、そうしなければならぬと感ずるということは、それだけでも先ず一つの意義をもっていると思うのです。

武田 つまり、大森さんはそういう意義を認めないんだね。

森山 そういうことをも具体的に考えていないと思

うんだ。

武田 それね、押しつめてくと、知識層の評価の問題だろうと思うんだ。あの労農派の戦術論ね、そういうものと繋りがあるんじゃないかね、知識層に対する見方がね。そこから来てると思われるんだ。そういう関係、(窪川に、)君説明できんかね。

機械論

窪川 あのね、僕都新聞でちょっと触れたんだけどね、今僕もそのことを言おうと思つたんだけど、大森さんなんかの理論は、あの人達の政治理論、全無産階級理論と非常に関係があるようです。あの人たちは階級相互の関係、そのいろいろな條件による摩擦の仕方だね、そういうものを具体的に現実の諸条件の中で見ないで言ってるんだね。それはちよつとこゝで一口に言え

ないかも知れないんだが、プロレタリアートの戦略問題なんかについて、前に猪俣氏なんかで所謂帝国主義理論を唱えた時分に、現在は帝国主義の段階である。だから来るべき××はプロレタリア××である。そこからわれ／＼の戦略は成立するといつて、当面何を為すべきかに就いてはただ成りゆきに委せるという風に、現実の日本の社会のいろ／＼な階級構成、その力の作用の仕合う状態なんというものを全然見ない。だから封建的要素というものを全然結果においては抹殺してしまうような——存在は認めていても、社会の全体の関係の発展の力としてそういうものを見ないというような、それは今はあまり問題にされてないんですけども、そういう政治理論から非常に糸を引いてるようですね。そういう政治理論も、やはりあの人達

1 自主規制による伏せ字で「革命」か？

全無産階級理論というような、——プロレタリアートのヘゲモニーを全然解消して、われ／＼の階級相互の関係の発展が、自然発生的にマルクス主義という思想が観念的に存在するといふ、ただそれだけで、闘争さえやって行けば階級闘争は発展するという風な、——そういう理論と非常に関係があるんです。それでさつき戸坂氏も言われたと思うんですが、知識階級を独立した階級として見ることでですね。あの人は勿論、例えば現在の社会構成をプロレタリアートとブルジョアジーという二つの基本的階級構成ということは認めてるんですね。しかしやっぱりその中間に知識階級という一つの独立した階級を認めてるんですよ。それではつきりと、今動的的精神が問題になつてゐる場合の、それが属している階級層だね、そういうものに対する規定が全然違つてゐるわけなんだね。そこは今までの

座談会でもいろいろ言われているし、此処で繰返すまでもないと思うんですが、そういうところから必然的に、所謂小ブルジョアジーの革命性と、それから保守性、それから反動性、そういうものを具体的な情勢の中で認識しないんだね。現在のように非常にファッショ的な支配が強化して来る過程では、当然小ブルジョアジーはブルジョアジーに対して非常に反抗するわけなんだね。それはブルジョアジーはその発展過程においては……小ブルジョアジーの利害を蹂躪^マすることなしには発展出来ないんだから、そこから小ブルジョアジーは当然ブルジョアジーに対して闘争するわけなんです。しかしそういう闘争が革命的であるか、反動的であるか、或は保守的であるか、単なる抽象的なマルクス主義理論では片付かない訳ですね。で、僕なんか初め、過去一個年の文学のいろいろな歩みを考え

て来た場合に、その歩みと関聯して見ると、文学において知識階級問題の現れた初期ですね、その時分には、それまでの歩みと関聯して、やっぱり観念的なものを非常に認めたわけなんです。しかしそれは、或は能動的精神の主張、それ自体の中に、ファッショ的な要素があるとか、萌芽があるとか、それから進歩的な要素がありはしないかとか、あれこれと手探りするような、そういう風には言わなかったんですね。例えば青野氏なんか、ファッショ的な萌芽があるとか、ないとか、そういうところに論題の中心を向けているようですけれども、少なくとも僕なんかの問題にしたのは、主張それ自体の中にそういう萌芽とか、危険性とかいうものがあるというんぢやなくて、その主張が社会全体の現在の動きの中でどういう役割を客観的には果させられるかというその主張の外^{そと}ですね。その現実の働き

において問題を提出したわけですから。だからね、主張者の理論の中にそういうものがあるとか、ないとか、そういうことは決して問題にしなかったのです。それは今言った小ブルジョアジーの問題におけるいろいろなブルジョアジーに対する闘争というようなものが、或る場合にはさつきも言ったように革命的にもなり得るし、それから保守的にも——まあ本質的には非常に保守的なあれですが、そこから必然的に反動的に作用がなる場合がある。そういう意味からその作用を問題にしたわけです。その後都新聞の時評

なんかにおいては、僕はその後そういう主張の発展を辿って来て、ずっと見方が変わって来たわけなんですけれども、大森氏なんかは、能動的精神がその後ずっと発展して来ているのに、相変わらず同じような講壇的マルクス主義思想を表現しているわけですが、あれなんかも端的に機

械論や観念論が現れていると思う。少し話が横へ外れるんですが、舟橋君の初の主張の中には今までのプロレタリア文学若くはマルクス主義思想との関係というものが非常にあの意識の中に濃厚だったと思うんです。

舟橋 うん。

窪川 その中には明かに中條（百合子）さんが指摘されたような、報復的アナキーのようなところが、主観的にはどうであろうと、響いていたことは事実であろうと思う。

舟橋 論調の上にね。（しかしマルキシズムの欠陥を正しく攻撃することが直ちに報復的だとするのは、マルキストとして反省が足りなさすぎる、舟橋）

窪川 そう。主観より別箇にね。論調の上にそういうものがあつたと思うんです。しかしいろいろ、いわゆる十把一からげに言うマルクス主義

批判の中でも、——僕は勿論自分独りがいゝ子になろうとは思わなければ、——いろいろの傾向があると思うんです。同じマルクス主義者たちの批判の中にも、その批判の仕方の観念性とか、機械性というようなものを見る場合にも、プロレタリアートの全体の闘争の方向です。そういうものに対する立場の相違から来る機械性、観念性、そういうものもあるし、それから理論の不十分さや、認識の不足のために、自らその結果として現れて来たそういう観念性や機械性もあると思うんです。それで僕は、そう一口に言うとは非常に悪意的になるようですけれども、大森氏なんかの議論には、全然プロレタリアの発展方向に対する立場の相違から来る機械性、観念性という、そういう質的に一般機械性、観念性とは違ったものを、少くとも僕自身は見てるわけなんです。その点、だからさつ

き司会者の言葉にもあったように、能動的精神がその具体的内容を、社会問題、文学問題、あらゆる問題に互つて獲得して行く過程においては、能動的精神というものを活かしたものとして発展して行くことを図るためには、小ブルジョアの現実におけるいろいろな要求とか、受けているいろいろな被害とか、そういうものを実際に見て行かないで、プロレタリアートの優位性を傲慢に押し付けるものを徹底的に撥ね退けなければ、さつき言った具体的内容の獲得とか、発展とかいうものは出来ないんじゃないか、そういう風に僕は考えたんで、冒頭に大森氏の議論についてもつと忌憚のない意見を舟橋氏に喋つて貰いたかつたわけなんです。

三木 その能動精神というのですね、それが筈のように発表して行くものとすれば、その発表して行くところは、結局マルクス主義の方へ行く

と言われるんですか。それともファッショへ行くか、或は何か第三のものが出て来るというのですか。

同伴者性と進歩性

窪川 僕はそこでね、非常に面白いあれがあるんですが、今まで進歩性とか、同伴者性とかいうことがいわれましたね。例えば大森氏の概念の中には同伴者性という概念はあっても、進歩性という概念は全然ないんです。その点は舟橋君の五分の没落性と五分の進歩性ですか、そういうものが同伴者性だということをいわれて、なか／＼面白いと思つたんですが、一口にいえば、同伴者性というものゝ発生を考えれば、あれはたしか千九百二十四年頃の、ソビエトの漸く戦時共産主義時代を脱出して、新経済政策にはいるうとしたその時期であらうと思う。そういう

時期は、ソビエトのインテリゲンチヤというのはどういう状態に置かれていたかといえ、あの戦時共産主義時代の、まあ小ブルジョア・インテリゲンチヤにとっては、非常に辛かった時期ですね。そういう時期を抜出して、漸くプロレタリアの政権というものが、自分たちの生活というものをよい方向へ導いて行かれるのではないかということを見出しかけた訳なんです。要するに現実の方向というものを認識することが可能になった時期であらうと思う。そこにまず、そういう現実の発展の指導者であるところの指導権というのですか、プロレタリアートの政権というようなものを、まず初めに認識したわけですね。それはまあ当然だろうと思うんですが。だから同伴性というものゝ規定というものには非常に政治的なものであると思う。先ずプロレタリアートの独裁、ソビエト政権を承認

するということが、一応一般インテリゲンチヤの生活全体に対しての規定をもったわけです。そういう政治的なものが同伴者性というものであつて、だから現実に同伴者の作家と名づけられた作家の作品はそういう規定の範囲内ではソビエトの現実の發達の方向に沿つて居る訳だけれども、しかしわれ／＼の現実に対する理解というものは非常に広汎なものであつて、政治的方面ばかりから接触するということはありません。他のいろいろの問題においては非常に複雑な古い、ソビエトの發展方向とは全然反するものや、或はそれに反対しないまでもそれに沿わないものが非常にあるわけなんです。だからそういう場合にわれ／＼が同伴者性を評価するのは、その發展の方向に沿つて居る点を引出して評価するわけなんです。だから日本においても、やつぱり同伴者性というものは、大体

において、プロレタリアートの指導による階級闘争というものを先ず承諾するかしらないかという、それが同伴者性の出發点であつたらうと思うんです。そういう型は何時も單純な、完璧な型では存在しないけれども、一応そういうことが言えると思うんです。しかし進歩性というのはそういうプロレタリアートの階級闘争を承認するとかしないとかいうことから出發してないで、先ず現実の人間生活の向上すべき方向ですね、全体として……そういうものをわれ／＼の生活において何等かの意味で見出して行かうという、そのような努力から来るものが僕は進歩性というようなものであつたらうと思うんです。それだから、能動的精神にいろいろな矛盾もあれば欠陥もあるわけですね。ところが、その場合にすぐ、プロレタリアートの階級闘争を承認するとかしないとか、或はそれに直接役立

とうとする意図をもって居るとかいいたか、大森氏などは、そういうところに能動的精神をやっつける根拠を見出して居るわけなんです。しかし能動的精神の少くとも現在到達して居る段階を見れば、現実に向ってそういう方面から近付いて居るのではなくて、さつきもいわれたようなわれ／＼のインテリジェンス、要するに人間の向上を図ろうとするために現在われわれを阻碍して居るあらゆるものを撥ね退けて自由な発展を認めようという、そこにあるんだろうと思うんです。だからそういう進歩性の概念を全然理解しないで、それに対して全然別箇のいろいろな要求を持出しても、進歩的なものゝ、真実の発展は僕はないと思うんです。それで、進歩性というものは、ジードの、今度の文芸の二月号に出て居るソビエト作家大会報告書の司会の言葉の中に非常によく現れて居ると思うんで

すが、あそこではやつぱりプロレタリアートの階級闘争に直接参加するとか何とかいうことは問題にしない。何とかうまい言葉を使っていたな……追随とか、そういうものではなくて、われ／＼は何処までも現実の真実を追求して行くんだ。そうすれば結局そういう階級闘争の目的と一致する。それは少くともわれ／＼の心の中で一致するというようなことを言つて居るのです。だから厳密に分析して行けば、われ／＼の進歩性というものは窮極においてはそういうものと一致するか、或はそれに沿うて行くものでなければならぬけれども、同時にプロレタリアートの発展の方向を歪曲するようなものは絶対に進歩的なものではありませんと思うのです。だから今三木さんの質問されたように、マルクス主義に当然統一する、合流するということとはそれは進歩性の徹底した場合はそうなる

思うんですが、しかし進歩性一般の理論としてはそこまでは行かないと思うのです。その場合には既に単なる進歩性ではなくて、それこそ真実の意味でのそれは進歩性で、プロレタリアートの事業、任務、プロレタリアートの有つて居る人類に対する進歩性というような、そういう非常に明確な歴史的なものになるんじゃないか、そう思うんです。だからそういうようにならなくとも、プロレタリアートの発展の方向に何等かの意味で役立つ限りそれは常に進歩性であつて、役立つということは非常に一般に変な意味に取られて居るらしいんですが、それがジードの言葉にも出て居るように、要するに現実の真実の理解により一層近づいて居るということの表明に外ならないのぢやないかと僕は考えるんです。

知識階級と能動性

蜷山 ちよつと……若いんで、何も考えが纏まらないんですが、窪川さんの話を聴いていて思ひついた、自分の感想を言わせていただければ、今大森氏が能動的精神を唱える人に対して色々の機会に批判をして居る、まあその一番纏つて居るものとしては「文芸」の二月号に出て居るものではないかと思うんですが、結局纏つて居るといえば纏つて居るんですが、また一方からいえば、理論的に言えばちつとも纏つていないということとも言えると思うんです。で、窪川さんの感想を聞いて見ると、結局大森氏なんかの懷いて居る政治理論、またマルクス主義理論（？）というものに対して、もつと真実のマルクス主義理論というものを懷いている窪川さん達が批判を下した。つまりプロレタリアート側から見た能動的精神というものを説明し、殊にその社

会的根拠を明かにしたんじゃないかと思う。その説には僕なんかは大賛成なんですけれども、しかし、まだ能動的的精神というのは直接プロレタリアートの問題ではなくて、無論プロレタリアートも関心を大いに有たなければならぬんですけれども、能動的的精神と言われるのは、社会層からいえば、小ブルジョア層の中にあるインテリゲンチヤが、自分が人間としてどう途を切開いて行つたらよいかという問題の現れぢやないかと思う。即ち窪川さん達のおっしゃるのは、既にプロレタリア側に立つた人から見た問題で、能動的の精神で一番問題になるのは、インテリゲンチヤが自分自身の問題として何を、どう打開して行つたらよいかという問題ぢやないかと僕は思うんです。それで能動的の精神の世界観がどうの、理論体系を付したらどうのという問題も、そこから起つて来るのではないかと思

うんです。そういう考をすると、それがファシズムに行くかマルキシズムに行くか、どうかという詮議立ての問題は先ず次の問題（世界観や理論体系で速記録になし）になつて、どう自分が在るかという態度の問題になるのではないかと思うんです。それが、能動的の精神を言う場合、自分の問題として取上げた場合、一番大きな問題になるのではないかというような気がするんですけれども……。

戸坂 今の御説ですと、やはりインテリゲンチヤというものが、何か小ブル層の固有なものだというようなことが仮定されて居るように思うんです……。

蜷山 いや、固有だとは言わないんです。小ブルジョア層として、のインテリゲンチヤと言つたので、現在問題になつて居るのは、プロレタリアートのインテリゲンスを言つて居る訳ぢやないんで、

能動的精神を唱えた人が自身の生活から言つて居る……。

戸坂 それは唱えた人はそうですが、しかしわれわれはプロレタリアートの中におけるインテリゲンツを問題にしてもいいんじゃないですか。僕はインテリゲンツという觀念に対して特別の見解を有つて居るんですがね。必ずしも文学的な、或は理論的な才能ばかりがインテリゲンツでなくて、もつと人間的に基本的な、技術的な、技能的なものがインテリゲンツの初歩的なものであると思うんです。そういう生産機構に全く結びついて、人間の生産生活においてすぐ現れるインテリゲンツであると思う。そういうのは生産技術家であるとか、そういったものによく現れて居ると思うんですね。ですから、そういう風に拡めるといいですか、狭めるといいですか、インテリゲンツを考え直して見ると、プロ

レタリアートの問題にもそのまゝなるのぢやないですかね。

蜷山 えゝ。そういう問題の立て方をすれば、なると思うんです、今イギリスなんかで行われている「スターリンとウエルズの論争」に就いての論争から見ても、相当技術者というものが問題になっていると思うんですよ。しかし今日本で問題になっているのは、技術としてのインテリゲンチャぢやなくて……

戸坂 いや、問題になつてゐないよりも、何を問題にすべきかゝそもゝぢやないかと思うんですが……

森山 問題は二つあつて、その二つとも問題にすべきだと思ふですね。

蜷山 二つあるですね、それは。僕はそうしたらいいと（森山さんの提議の如く）思うんです。

森山 一つは能動的精神を唱え出した人たちが最も

よく代表して居るような、作家の生き方や、「内部的な」問題ですね。

戸坂 それはね、僕は文学の専門家ではないから……。文学者の唱へ出したことを、内部的にばかり考え得ないんですよ。

森山 「内部的」というと語弊があるが、さつきあなたの言われた個人的という風に……。

戸坂 あ、そうですか、それでいろいろな面から問題が提出されるんじゃないかと思う。大森氏はサラリーマンというような立場から問題を提出して居ると思うんです。あれはサラリーマンのイデオロギーだろうと思うんですね。それから雑誌なんかの読者層のイデオロギーじゃないかと思うんですよ。それから作家なんかは、作家としての立場からインテリゲンチヤの問題を出しているでしょう。それ以外の出し方がまだあるのぢやないかと思う。

森山 そうですね。

戸坂 それは僕は単に抽象的に言うんじゃない、僕なんかのしょっちゅう考えてることは技術の問題なんです。その意味から一般の文化、所謂上層建築を考えるにも、生産面から考えて行かなければ唯物論的でないという風に考えるので、先ず技術的なインテリゲンツを問題にすべきぢやないか。しかしまあ此処で夫を今問題にしようというのぢやない。

三木 そういう風に問題にすれば、いま議論されている世界観の問題でなくはしないですか。一定の世界観の内部における問題となつて、世界観を獲得しようとして闘っている能動精神の問題でなくなりはないですか。インテリゲンチヤの問題を単に技術の問題と見てしまえば、問題が主體的に促えられない。

戸坂 いや、そうぢやないんだと思うな。

森山 技術者の場合もやっぱり同じ……

戸坂 やつぱり同じ世界観でも違う根柢があると思うんだね。

森山 問題の立て方によつてはね。

三木 問題の立て方によつてはあるけれども。今インテリゲンチヤの問題がいくら主観的内部的に問題にされているといつても、マルキシズムとかファシズムとかいう理論、そしてその行動が現存しているということはその場合われ／＼にとつてもはや外部の問題ではなく、十分内部的な問題になつてゐる。しかもその何れに真理があるかといえはマルキシズムにより多くの真理がある。マルキシズムの真理を認めざるを得ないけれども、しかし、どうしてもまだマルキシズムぢや満足出来ないという、そういうところ

に能動精神の問題があるんじゃないかと思うね。

戸坂 そういうイデオロギーにいきなり満足出来

るか出来ないかという問題ぢやないと思うんだ。そのイデオロギーの発生する地盤、例えば生産の關係とか、技術の発達というものから、一定のイデオロギーに満足を感じたり、不満を感じたりするわけだ。その根柢に遡つて、技術的關係というものが一体どういう風に、現在行詰つて居つて、——資本主義的生産關係でね。——

その行詰りから、当然技術家というものがちゃんと生活の矛盾を感じて来ていると思う。例えば大学で東電に技術家を採用しないのはけしからんというような問題に著眼するとか、それからまあ技術家の聯盟を作ろうぢやないかというような、官吏の技師たちの運動があるとか、プリミチヴな形であるけれども、そういうような動きが当然出て来ると思う。そういうところから私の言う世界観というのが当然出て来ると思う。

田辺 戸坂さんののは、やはり唯物史観の世界観の上に立って技術家智識階級というのを認めた上で……

戸坂 えゝ。そういう意味ですね。

田辺 唯物史観をもつかどうかということは、今われ／＼知識階級はわかつていないということぢやないのですか。

三木 もしわかつておれば、第一能動精神を議論する必要もなくなるでしょう。

戸坂 いや、そうぢやないんだろう、と思うんだ。

発生の根拠

窪川 話を進めるため……僕はやはり大森氏は、今の能動的精神は輸入ものでね、まがいものだということを非常に強調して居ると思うんだ。それは東京日々新聞でも、「文芸」でも盛んに言っていると思うんです。フランスや、イギリスや、

アメリカには今の知識階級の能動的精神が、要するに行動主義が発生する根拠があるということ、非常にまことしやかに……

戸坂 本物だということですな。

窪川 発生する根拠があるから発生したんだ。だから本物だ。しかし日本にはないと、こう言っているわけだね。しかし、今戸坂さんの言われたこと、問題は結局同じことになるかも知れないと思うんですが、先ずインテリゲンチヤの能動的精神が日本において現在発展し得るかどうかが、要するに、今戸坂さんが言われたですね、これから世界観を獲得して行こうとして居るんじゃないか、こういうように言われたんですが、それもやっぱり現実的根拠がなければ不可能なわけなんだね。だからそういう大森氏の見解が正しいものかどうか、事実日本において能動的精神が発展し得る可能性、現実的根拠があるもの

かどうか、その点について話を先ず進められたら非常にいゝんじゃないかと思うね。

森山 大森さんへの批評を随分やった後だから、それにけりをつけて見るんですね。

窪川 それがやつぱり能動的精神の発展を図る道行きとして、先ず序幕ぢゃないかと思うんですけど……。

三木 えゝ、そうですね。それをやりたいですね。

蟬山 それはしかし、さきほど窪川さんのおっしゃった通りでいゝんじゃないですか、それで問題は済んで居るんじゃないですか。

窪川 舟橋君なんか、どういうようにお考えなんですか、あゝいう否定に対して、いや、あるとか、ないとか……。

舟橋 僕は作家として言う外ないんですよ。外のこととはわからないし、作家として言うより外ないんだ。しかし僕は作家がいろいろ呟やいたこと

が世論化していゝと思うんだ。それを技術者の一方へもって行つて話をつけてもいゝと思うんだ。

森山 だから僕はさつき言つた二つの問題があつて、それが二つともつながり合つていると思う。

戸坂 別の問題ぢゃないんだ。

舟橋 僕は要するに創作が今までのような苦しみ方から生み出していけなくなつたということから始まつてゐるんで、なにもなにか社会事業をしようとか、文学運動を僕独りて起そうというのではなくて、小説を書く苦しみ方がちがつて来た、今までの苦しみ方で小説が書けなくなつたということから出て居るんでね。そういう呻り声みたいなのが始まりだつたと思うんですよ。だけれども、それをたゞ呻り声に過ぎないものとか、呟やきに過ぎないものにしてしまふということ、は、要するに今までの作家の退嬰性とか、消極

性とかいうものでやつぱりそういうものも世論化し、つまり社会化したり、行動化したりすることが大事なことであるという認識を有ったんですからね、僕自身には非常に根拠があるので。根拠どころぢやない。絶対的真実なんですよ、僕には。しかしそういうことは必ずしも僕の個人的なものではなくて、僕のような作家が沢山あるに違いないという考え方をもっているから、自分の呻り声や、呟きを世論化して行っただけ、それが多くの人に反響を与えたと思うんで、そういう意味で、二三の文壇人の動きに過ぎないと言われるけれども、初めは二三の文壇人の動きだったかも知れないけれども、とにかく自分たちの言ったことは結局みんな大きな世論になって行っただろうと思うんですね。そういう意味で能動的精神は今後発展し得る根拠は十分あるし、それ以外に、殊に芸術派の作

家なんというものは、今まで何にも出来なかった。癩癩をさえ起せなかったような状態にあつたし、それは作家ばかりぢやなくて、多くのそういう知識階級の人たちが沢山今の現実の社会の中にあると思うんですよ。今作家も作品の中で癩癩が起せないし、一般のインテリゲンチヤも、みんな胸に蟠^{わだかま}りが沢山あつて、それが爆発すべき時だというのは非常に必然性をもっていると思う。もちろんジードやフェルナンデス¹なんかには非常にアンチファツシヨのモメントが鮮明です。日本にはそれほど明瞭なモメントはないという人もあるが今社会情勢にかなり強烈なファツシヨ的な動向があつて、その段階の中でわれわれが呻り声を発したり、怒ったり、癩癩を起したり、これは私は非常に根拠があると

1 Ramon Fernandez (1894～1944) フランスの作家・評論家、共産党系から晩年は対独協力に。

思う。

テロリズム

田辺 ファッションというようになことに関聯して、われ／＼はこうやって、小さい声で座談会を開いているわけだけど、いろ／＼思想の検討をして行く途次において、どうしてもテロリズムというような圧迫のために、かなりいろいろの問題が惹き起されて、歪曲されて、こういう座談会だけではなく、議会というものを否定されて来るといような情勢になっている次第ですが、そういうテロリズムの脅怖感というようなものを人々からなくなすということは、テロリズムに対する十分の批判をわれ／＼がして行つて、そういう横行或は……勿論そういうテロリズムに賛成する人もあるかと思いますが、かなり今後の社会情勢上必要な、検討してよい

問題だろうと思うんですが、そういう暴力というようなことについて、木下さんあたりはどうでしょう。非常にむづかしい、厭な問題ですが……。

木下 は、（笑声）近頃面白と思つたのはね、先だつてキーロフ²が殺されたでしょう。あれが今ロシアでテロリズムとして非常に問題になつて居るんですね。テロリズムがいけないということとを一般民衆にわからせようとして非常に努力して居るのですが、テロリズムそれ自身は、僕の個人的見解から言えば、テロでなければいけない場合があるんですよ。……テロリズムも、われ／＼がこれを判断するには、やっぱりその時の社会的情勢によつて決めるより外にしよう

2 セルゲイ・キーロフはスターリンの懐刀であつたが「ゴゴリン」殺され、スターリンは大規模の陰謀があつたと大粛清のきっかけとした。後年フルシチョフはスターリンこそが彼を暗殺したと主張する。

がない。テロリズム一般を問題にしてテロリズム・アン・ジェネラル (terrorisme en général) というものがよいとか、悪いとかというようなことは言えないと思うんですよ。何でも一般論は出来ないわけですけども、テロリズムって、やはりその時／＼によつて、よい悪いを決めなければいけないと思うんです。けれども、今の日本においては、テロというのはホワイト・テロしかないのです、その限りにおいてはテロはいけないと、それは大いに声を喰らして言わなければならぬと思うけれども、社会が變つて、逆の時代になつて来ると、テロがあつてもいい、と思う。そんな時にセンチメンタルなアンチテロリズムを言うべきぢやないと思うんですね。だからいろいろ／＼われ／＼が問題にする場合に、その時のいろいろの社会情勢によつて決めるより外にしようがないと思う。それは日和見主義ぢや

なくて、そうするのが政治的に正しいのぢやないかと思うんです。今ロシアでも非常にテロはいけない、——キーロフがやられ、バルツォがマルセイユ事件¹で殺された、その二つを促えて、ロシアではテロリズムはいけないということを非常に説得しているんで、僕は大変これを面白
いと思つてゐるんですがね。

田辺 そう／＼。スターリンのウエルズとの問答録なんか見ると、事実在即して解決しなきゃいけないというような立場で、暴力は認めているよ
うですね。

木下 とにかくテロリズム一般についていえることは、個人的テロリズムはいけない、階級的テロリズムは正しいという風にいわれているわけですね。しかし個人的テロだつて……(こゝで僕は、

¹ フランス外相バルツォと、ユーゴ国王アレキサンデルがマルセイユで暗殺された。

「世の中にはテロでゝも行かなきゃ、わけの分らない奴がいる」ということをいおうとしたのでした——木下

田辺 そういうのはないんじゃないですか、みんな階級的意識でやつてるんだから。

木下 まあそうですね。

戸坂 しかし国家権力というのはテロの本源でしょう。物理的な強制力がなければテロはないですからね。

木下 だから今の日本においてテロリズムを否定することはいいと思うんですよ。今のテロリズムは進歩的な側にのみ加えられて進歩的な側から加えられるテロリズムは問題になっていないですからね。

窪川 結局第三者からテロリズムがいゝか悪いかを批判するのは、そのテロリズムが人間生活にどういうものを齎そうとする目的であるかという

ことによつて判断するより仕様がないですね。

木下 それよりは仕様がないですよ。だからテロリズム一般のいい悪いということは言えないと思う。

ファツシヨとの関係

舟橋 それからさつきお話の能動的精神がファツ

シヨに行くということね、僕は初めからファツシヨということぢやなく、寧ろ僕としては反ファツシヨということだったんだ。従て今の能動的精神は右へゆくも左へゆくもなく断然、進歩的な性質をちゃんとあらわしている。だからどうもファツシヨに行くかも知れないということとは、僕としては甚だわからないんです。

戸坂 それはしかし、マルクス主義一般に反対するからぢやないですか。(笑声)(附記、マルクス主義一般には反対している筈がない。たゞ、従

来のそのの欠陥を攻撃しているのだと思う。舟橋)

三木 マルクス主義を全部的に認めないなら、それはファッショだというのはあまり単純過ぎる……。

戸坂 それはさつき窪川氏が言われたようにいろんな段階、種類がある。本当のものもあればにせのものもある。そういうものを一般的にやつけるから大森氏は一般的なマルクス主義者(笑声)……。

舟橋 お前は反マルクス主義的とか、お前は反動的とか、お前はプロレタリアの利益に無関心であるということをつてケチをつけるならまあ仕方がないと思うですよ。いう奴にはいわせておけと思う。僕はそんなに偉くないから。しかしファッショ的だというのは何を根拠にいうのかわからん。第一、ファッショというものは、はっ

きりした一つの形になつているんじゃないか。

木下 はつきりしてないですよ。

三木 ファッショつてそうはつきりしてないでしょうね。

戸坂 日本にファッショがあるかないかという問題さえあるのだから。

武田 能動精神というのはそういう意味で消極的だ。ファッショ的空氣にインテリゲンチヤ的な反抗を感じたことから出ているんで……

蟬山 僕もそう思う。

武田 その意味からいえば世界觀の樹立とかその發展ということとはそう問題として考えられないと思うんだね。ファッショ的なそういうものが形成されて行くに従つて軌轢が出来て来る。その軌轢が問題だね——その能動主義精神なるものとね。それになつて来たらファッショに行くかも知れないんだ。負けちゃうかも知れない。

舟橋 負ける場合だよ、それは。つまり敗北だよ。

武田 そうなんだ。負ければ行くかも知れないんだ。だからもつと切迫して来なければ、能動精神というものが本当にどういふものか判らないと思うんだ。

舟橋 だから、マルクス主義だつて敗北すればファッショになったかも知れないというので、だからマルクス主義は反動的とは言えないと思う。

窪川 そうは言えない。

武田 そう、マルクス主義というものはそんなものだとは思わないね。ところが、能動精神というのは一つの反抗形態でね、それ自体単独で形成される思想ぢやないと思うね。だからもつと切迫して見なければ判らない。

窪川 一番簡単な例がね、たとえば合理性とかね、統一性とか、秩序の要求とか、それが能動的精

神の直接の主張であつたかどうかは知らないが、少くとも能動的精神に關聯してあつちこつちでそういう言葉が見えるんですがね、そういう風なものは何によつて齎されるかね。それはまあ人間個人の精神生活という風な方面から合理性とか、秩序とかいう言葉は、殊に不安とか、懷疑の生活の中にあつては非常に妥當な響きを持つていると思うんです。しかしそれでもやはり、それが實現して社会生活の中に作用する時には、一つの社会問題なんだね。たとえばネオ・ヒューマニズムなんかにおいては、人間の発見という風な方面から非常に説いていると思うんですが、しかしそれが窮極においては、やはり社会的な方面から問題になるわけなんです。それは恰度哲学的唯物論と唯物史観との關係のようなものだろうと思うんですが、社会的な方面から見ると、そういう秩序とか合理性という

ようなものがどういふ生活の合理性であり、秩序であるかということが非常に問題になると思うんです。たとえば今の現存秩序は非常に混乱してるわけですね、しかしファシズムはこれを合理化し、統一しようとしている、そこに統制経済とか、思想の統一機関の設置（思想統制の参謀本部と報道された著作権委員会の如き——窪川）とか、実に躍如たる統一性の政策が現れていると思うんです。しかしプロレタリアートもやはり合理性とか、統一性を要求するわけだね。しかしそれは人間生活のどういう形態においてそれを要求するかという問題になると、決定的に相違してると思う。だから単に合理性一般、統一性一般で問題を押して行くと……僕は前にもそんな例を簡単に挙げたことがあるんだが、いま農民が非常に困っている。ファッショは続々とオルガナイザーを派遣して××を××

しているとか聞いていますが——農民の要求を貫徹しようと。そのためには××××××××××××××するよりほかなしといって、さかんにやつてるとか。しかしそういう風なものかどういふ方向へ行くものが、非常に問題になると思うですね。その意味でその合理性とか統一性というようなものゝ主張の中にどんな反動的なものや危険なものがあるとかないとかいっても、問題は僕は決まらないと思うんだ。やっぱり実際の現れを見ないと。だから——さっき何と言ったかな……ファシズムには主観的には行かないということは、それは貴方（舟橋）の作品や貴方の全生活を綜合して見ればわかると思うんです。マルクス主義に行く人は誰も、僕なんか殊にそうだが、マルクス主義に変わったのは別に思想的や経済的、社会的問題に関心を持ったわけぢやなくて、結局自分の文学に行詰って、新しいも

のを求めようとしてそういう方向へ歩んで行つたわけだが、——それは僕個人の実例なんだけれども。だからその場合にそういう主観をはつきりと吾々は見ることが大切だと思うんです。しかし同時に、そういう主張が一つの思想或は社会性としてどういう階級のもの的一致するものかということは、やはり具体的に観察しなければ、理論だけでは問題にならないと思うんですね。その点で、たゞ主観だけを主張して行くと、問題が解決しないんじゃないかと思うんです。

マルキシズムとの関係

三木 しかしね、根本的な問題は、能動精神というものマルキシズムの立場からいろいろ説明される、その説明に能動精神自身が満足できるかどうかということだ。

戸坂 いや、例えば大森氏の説明に満足しないこと

は明かだ。

三木 いや、他の説明にしても、満足できるかどうか、それが根本的なことぢやないかと思う。もしもマルクス主義から自分が説明されて、それで満足できれば、マルクス主義者になつてしまふだろうと思う。しかしやつぱりそこにギャップがあるのぢやないか知ら、唱えている人には。

戸坂 ギャップがあるとすれば、さつき窪川氏が言つた通りに、能動的精神というものは今は非常に一般的な形でしかないんですよ、それが今後具体的に決定されてどうなるかということ現在の与件の下では全くの可能性でね、どういう方向にあるというかということを現在すぐ断定するのは意味がないと思う。それはまあ非常に一般的だ、ところがマルクス主義というものはもつと具体的に限定されて来ている。この一般的な状態と具体的な限定との間の開きとして、

そのギャップが出て来ているんだな。

窪川 だからさつき蛾山さんの言われたようにやはり知識階級の側からも、問題は勿論考察されなければならぬと思うんです。しかしそれは特定の立場を持たざるを得ないわけだし、或る場合には知識階級自体の立場から知識階級の問題を問題にすることができるし、プロレタリアートの立場から問題にすることができると思うんですが、それはさつきから言うように二つのものが窮極において一致することになると思うんです。またならなければならぬ。――

舟橋 ジードなんか窮極において一致してるんじゃないですかね。

窪川 そうなんです。別にそれを一致させる方向へ問題を論理的に発展させるんじゃないで、そういう知識階級の能動的精神を主張させるにいたった要求だね、それから事情を客観的に明か

にして、その要求をもつとどん／＼発展させて行けば、それは当然具体的な形を持つし、それが一つのブルジョアジーに対する要求となつて――それは何も経済的な問題だけじゃないと思うんです。文学の仕事をする上に於いてもいんな要求があるし、思想の発展の上に於いても――、要求という言葉は妥当しないけれども、今日の社会に対していろいろな発言慾求があるわけだね。――そういうものをどん／＼発展させて行つて、それが正常に発展すれば、やはりプロレタリアートもそういうものを要求してるんだから、当然一致するように行くと僕は考えるんです。

蛾山 そう／＼。
舟橋 それはそうだ。

新しい可能性

田辺 能動主義の發展とか、可能性とかいうことについては多少お考えをお持ちのようで、三木さんなんかこの間集りみたいなものをおやりになったようですが、どうでしょう、そういう見透し——というのではないが……

三木 私はこう思うのです、能動精神というものが現れているのは、勿論現実のファッショの攻勢に対する反抗というようなものからであることは明瞭だろうと思うんですけども、しかしいわゆる能動精神その他これに類するものが現れながら、しかもマルクス主義に行かないのは、たとえば今日そういうものが現れて居る情勢を考えるにあたって、マルクス主義者が分析した通りのもので満足し得ないところがどこかある。そのことをはつきり言おうとしているために、マルクス主義に対するいろ／＼な攻撃にもなるんだらうと思うのですが、その攻撃の当

否は別として、とにかくマルクス主義が現在のファシズムを説明する説明の仕方、或は自分達インテリゲンチヤなり、能動精神を抱いている人間を説明してくれるその説明の仕方に、自分たちの感じてゐるものと食い違いがある。そこで、何か新しい可能性がないかと考えるようになる。——人類の解放とか、人間性の解放とか、或はプロレタリアートの解放とか、そういうことに対する良心や熱意は十分あるが、しかしそういう問題に対する理論になつて来ると、マルクス主義よりほかに何か可能性がありはしないか、そういう探求の精神というものがあからこそ、初めて能動精神というものが独立の——独立といつちやおかしいけれど、それ自体意味をもった一つの力となりうるのではないでしようか。従つて、これが發展して行けば、少なくとも現在のまゝのマルキシズムにはなりえない

と思う。或はマルキシズムが變つてそういうものに近づくか、或は能動精神がマルキシズムを変化させて行くか——そうしてマルキシズムに近づいて行くということはありえても、現在マルキシズムが与えて居るような説明にはおそらく満足を感じていないだろうと思う。そこに能動精神というものがマルキシズムにもなれない、ファッショには勿論というところの……

戸坂 現在の処それは確かにそうですね。

田辺 今のそれで、強いて現在する主義の範疇に属さしめれば、まあ自由主義の特殊性というようなところへ行きますね。

自由探求の精神

三木 そう。自由主義という言葉がいろ／＼悪く使われるので困るわけだけれども……。能動精神は自由探究の精神だと思う。

森山

能動精神というものの、どこか宙に浮いてゐるんぢやなしに、たとえば最初の提唱者だった舟橋君が今までのような行き方では作家として行詰るほかはないというので、もつと積極的に生活を探求して、芸術の上で真実を追求しよう、そのことは結局に於いて社会の進行の方向に一致するであろう、自分はマルキシズムが正しいかどうかはまだわからないし、第一、そういった思考上でわかるわからないは別として、とにかくプロレタリアートの闘争の中には未だ入り込むことができない状態にある、そういう生きた一人の作家として現在どうして生きて行くか、そういうことゝ結びついてゐるわけなんです。そういう場合に、舟橋君が自分はファシズムには反対だということをたと言葉の上でもはっきり言つて居られ、しかしながらたゞプロレタリアートの現実的な闘争には直ちに入り込むこ

とができないとされているのに対して、それを一口に反動的だとか、ファッショだとかいうのは、僕は甚だ当たらないと思うんです。それは作家というものは、さつき窪川君が、プロレタリアートの闘争に参加し、またプロレタリア的な世界観の正しさというものを充分承認していなくとも、現在の社会生活の客観的に真実な芸術家としての把握という仕事によつて、客観的にはプロレタリアートの事業と決して矛盾しない、寧ろそちらの方へ近づいて行くという人を進歩的という風に規定していたと思うですね。そういう作家達を、マルキストでないから反動的だという風には決して言えないと思うんです。そういう作家達が特にファシズムには反対だという場合には、それこそ日本の現在の状態が、まだいろ／＼の封建的な遺物が生活の中に生きたものとして動いているからでもあるし、また作

家として自分の言いたいことをとことんまで表現して行くということに対しても一つの半封建的な社会的制約が感じられているわけです。そういうものをはつきり意識して、ファシズムには反対だと言われているのかも知れないと思うんです。

舟橋 ファシズム——今の、阿部君どうですか。

阿部 それはしかし舟橋君も、君、民族主義ということを前の座談会で言った。

舟橋 民族主義的動向が今世界の新動向としてあるという事実は述べたが、僕自身がファッショだとはいわなかったぜ。

森山 そういう経緯をくわしくは知らないけれども……。

阿部 そういうことは別だけれども、その前にちよつとお訊したいんですが、窪川氏や森山氏がいま話されたことはマルキズム乃至はプロ

レタリアートという道においてお話になったんですか。

森山 主観的希望においては、そうです。

阿部 たゞ僕としては、リベラリスト的な立場に於いてであつたか、そうではなかつたか、ということをききたかつたのです。

窪川 いま、殊に僕なんか法律関係やいろんなことで発言の自由を奪われているので、いわゆる奴隸的な言葉を使わなければならないんですが、問題は、自分はマルクス主義者であるとか、プロレタリアートの側に立つてるとかいふことを宣言するとか、乃至は、どこかに完璧なマルクス主義の思想というものが存在していて、何時も吾々が頭の中でその方とみこうみしながら、それに照らし合せて物を言つてるといふようなあれではなくて……

阿部 それはよくわかる。

窪川 現実の発展の仕方に対してどういう風に理解を持つならば正しいかという——それが所謂実践というものだろうと思うんですが、それよりほかにないわけなんです。

浪漫的傾向

阿部 それはよくわかるし、僕がさっき言ったのも決して皮肉で言つたわけでもなんでもないんですがね。たゞそういう意味で僕は、立場はちがうかも知れないけれども、今の能動的精神というものに対して満腔の——たとえば、舟橋君と僕とは色々違うかも知らないけれども、肯定をしているんです。たとえば大森氏が行動主義なり能動精神というものをきめつけたというように思っているか知れないし、またそういうものを社会理論にあわせて見れば矛盾があるかも知れないけれども、問題は、少なくとも吾々文

学者にとつての問題は、今のこの状態で吾々インテリゲンチヤの中に、何かそういう風な社会的な氣持に対して突き進んで行きたいという氣持があるというこの現実ですね。たとえば、それは非常に消極的なものだけでも、ロマンティズムなんてありますね。あれだつて、ロマンティズムが現代において可能性があるかないかということよりも、現代の人間がロマンティズムか何か憑かれようとする氣持ですね。文学は現実の己の生活というものに、どうしても地べたにひつかゝるものがある。その意味から僕は、いろいろの思想の關係があつたところで、能動精神というものに、意味をみとめる。それからもう一つ僕が言わなければならぬと思うことは、窪川氏が言われた合理主義、秩序のことですね。あれはあの時に僕は言わなければならなかつたのだらうと思うんですね。でも、僕

がたとえばファシズムに関心を持つ——ファシズムというものもいろいろあるでしょうね、……たゞあの場合簡単にそういう言葉で表わしたんですが、そういうものに、これは僕の個人的な問題ですけども、つまり合理主義とか秩序とかいうものを大いに求めて行つてみると、それが一つの問題を提出していることは事実です。そうしてそれが現実の日本の階級でどうなつてゐるかなんということはまた大變な議論になりましようから時を改めて論ずることがあるとして、僕は能動的精神の代表者として言うんぢやなしに合理主義とか秩序というものゝ立場からいうと、窮極において賛成するか反対するかは別として、今のファシズム的な動きなんというのは、今の文学をやつてゐる人が「あゝファシズム」かといつて、頭から馬鹿に考へてゐるほど單純に済ませる問題ぢやないと思つてゐるん

だ。僕は文士の端つくれにすぎないけれども、かなり必然性があるんだ。

武田 そうだよ。

阿部 それで舟橋氏に対する答にもなると思う。窮極において賛成するかしないかに拘らず、つまり実際今の人間を動かしている一つの大きなものだからね。

舟橋 たとえば能動的精神がファッションになるかマルキシズムになるかという揚げ足取りみたいなことがあつたんだ。その場合にいわれているファシズムの意味と君のいうのとちがうんじゃないか。

武田 それはまたちがう。

阿部 それはちがうんだ。とにかく能動的精神というものは、それは今の窪川氏が嘆ぜられたような一種の奴隷的日本のインテリゲンチヤの境涯などというものからして、確然としたことは言

えないという点もあるけれども、今後ということになれば、いろいろなことがあるだろうということは言えるな。

秩序の問題

窪川 しかし、貴方のその民族主義やファシズムに關聯した秩序の問題ですね、秩序という問題はまあ精神的な方面からいえば非常にやゝこしくなるし、それについては三木さんあたりから説明していた方がずっと具体的に解りいゝと思うんですが、社会生活における秩序という方面から問題にした場合ですね、たとえばドイツにおける焚書事件ね、ドイツにおいてヒットラーの制覇の下に秩序をもし求めんとすれば当然あの焚書事件をやらざるをえないし、それからまたナチス内部の紛争から起つたあゝいう血なまぐさい、非人間的なクーデターをも必然

的ならしめるし、今度のザールの選挙投票においても、——あまり具体的に話せないんですが、——吾々が人間として想像できないようなあらゆる方法をとって、あの投票にヒットラーが勝利をもたらすべき目的をもっているんな手段が投票の仕方に対して行われた。そういう風な秩序の求め方もあると思うんです。それからそれと全然別箇な、焚書事件に抗議したような、そういう秩序の求め方もあると思うんです。それは日本の学芸自由同盟²なんかもやはりそうだと思うんですが、その場合には明かにプロレタリアートの要求した合理性、秩序もあると同時に、また知識階級のインテリジェンスを防衛し

1 現ドイツ・ザールラントは元フランス領であつたが普仏戦争後ドイツ領になる。第一次大戦後国際連盟の管理地になつてゐた。1935年一月住民投票によりドイツに復帰した。
2 1933.7.10 徳川夢声を会長に三木清・長谷川如是閑・美濃部達吉・大佛次郎らが結成し、12月には会員333名までになったが、活動らしいことはできず、1937解散。

ようにする、そういう知識階級の要求も非常に明瞭に含まれてゐたと思うんですね。だから秩序、合理性という風な問題も、哲学的な方面から勿論近づきうるんですけども、社会的な方面からも問題にして、やはり両方から問題にして行かないとはつきりしないと思う。いま言つたような話から推論して行くと、たとえば能動的精神が、出発点として知識階級のインテリジェンスを防衛しようという建前であつたとすれば、合理性、秩序性への要求という風なものは正反對物だと思ふんです。だから能動的精神に沿うような合理性、秩序性という風なものは、また全然反對のものとして出て来るんじゃないか

阿部 舟橋君と僕とではいろいろとちがうだろうが、さっき言つたインテリゲンチヤが何か求めようとする、変な洞窟的な心境文学に対する争いという点では一致してるといふ風に僕は見て

る。それは窪川氏のあれですがね、僕は、或は御存知かも知らないけれども、文学を始めてから主知主義というものを言ってたんです、そうすると主知主義というものはどうしても合理的精神や秩序の精神……。

窪川 そうです。

阿部 それは貴方のいわれた哲学——というと三木さんが居られてちよつと困るですがね（笑声）、哲学的な方面から実は入って行つたんです。

窪川 えゝ、そうだと思ふんです。

阿部 それが次第に、たゞ観念の問題だけでなしになつて来た時に、僕の眼の前に現れた一つの形として、非常に広い、漠然たるものでしょうけれども、統制的なものというのか、そうしてこれは個人的な問題であらうけれども、僕はそれに興味を持つたんですね。それはそうとして、例えば暴力の問題でも、リベラリズムからいえ

ば、どんな場合でも暴力はいけないという議論が出やしないかと思ふんです。それを殆んどもうこの一座が、暴力も或る場合にはいゝという時には、リベラリズム的な精神から現実の社会がどつちかの形に脱れようとして、出ようとしているんじゃないかと思ふですね。そういう場合に、リベラリズムというような広い立場で文学が行けた時代は非常にいゝ時代で、それが今行詰つた。そこで能動的精神とか、或はプロレタリア文学とか、いろ／＼ものが出て来たんですがね。

誤解

木下 ちよつと中座して聞かなかつたんですが、能動的精神がファツショへ行くかどうかということについてはやつぱりそういう風な誤解があるんですよ。実はこの間阿部氏にも学校で話し

たんですが、その能動的精神が問題になったんで、僕は、ファッショになつて行く点があるんじゃないかということを客観的に言われているし、僕もそういう気がしたんで、そういう風に話したんですよ。それからまあ今日の座談会のテーマを知つたので慌てゝそういうものを読んでみて、さしむきそういう危険がないということがわかつたんですが、ファッショが危険だというのは、主観的にファッショでないと自認していて、しかも情勢が迫つて来ると、たとえばプロレタリアートの生活とか、大衆とか、民衆とかいうものゝ安寧、幸福を深く憂えているという非常にいゝ分子が、客観的には、ファッショの陣営に立つところ、ところにファッショの危険性があり、警戒すべき点があると思うんですよ。主観的に自分がファッショでないと云うことゝ、客観的にそれがファッショになつてると

いうことは別問題で、現に日本のファッショは大抵ファッショぢやないと言つてゐるんです。まあ名前を挙げると差支えがあるから挙げないですが、或る右翼団体の人が、ファッショ反対とはつきり言つてゐるんですからね。そこで、主観的にファッショでない、無産者大衆の生活を思ふという個人的には非常にいゝ人が、たまくマルクス主義のいろんなことにあきたらないで、しかし何とかして大衆の生活を改善したいという、人道主義的というか何というか、まあ、いゝ意図の上に立ちながら、しかも大きな意味ではその反対に、歴史の進行に対してブレーキをかけるという風な側に廻る。そこに、僕等からいへば、ファッショの危険な点がある。個人的にはいゝ人が行くんでね。惜しい（笑声）といつてはおかしいが、危険がある。

阿部 それはしかし、木下さん、一舟橋君、一能動

的精神の問題ではなくて、こう言うとますますいけないかもわからないけれども、恐らくここにいる人、或は大森義太郎氏もこめてものの、今のインテリゲンチヤの問題ぢやないですか。

木下　そう。だから大きな危険があるというんだ。

たとえばイタリーのファッショでも、ドイツのナチスでも内証があるんですよ。それは個人的な内証もありますが、大きな眼で見た内証は、ファッショはファッショ革命と言っていますからね、——僕等の定義からいえばありや革命ぢやないと思うんですが、ファッショ革命、ナチス革命と公言しているし、実際にも若い闘士の間にはファッショ革命、ナチス革命という意識があるんですね。それは、大衆の生活を政善したい、しかし具体的にいえば共産党の政策があきたらぬ、だから共産党の政策以外の方法をもって革命をなすと主観的には、まあ簡単にいえば

非常にいゝ人なんですな。しかしそのいゝ人が支持しているナチスなり、ファッショなりの幹部は、そういう下層のいゝ闘士とはまた別な考えを持っている。そういう若いファッショなりナチスの主観的な政治的意見と、それからファッショ幹部なりナチス幹部なりの、歴史的な自己の役割をハッキリ見透した政治的方策との間には、矛盾が必ずあるんです。それはいまイタリーのファッショといういかにも統一されているようですけれども、現に去年の夏あたりでも、他方の相当の幹部——名前を忘れたですが、ボロニアか何処かの書記長なんかダムツソリーニに反対して島流しにあっているんですよ。（これはボロニア区書記長だったマリオ・ギネリです——木下追記）。それはナチスでも今もあるし、おそらくザールの問題が済めば第二の六・三〇事

件¹が起るだろうという噂があるんですが（もう起って——木下追記）そういう風なのは結局、主観的には歴史の進行に添っていると自認しているファッショ乃至ナチスと、そうでない、自己の歴史的な立場をはつきり見ている幹部との軋轢なんですね。だから能動主義など、いうものに対しても、これは今はいゝが将来ひよつとしたら変りはしないかという危惧が、漠然とあると思うんです。僕も現にこうした危惧をこの間持っていて、それは非常に軽率だったけれども——読みもしないで、あの時（阿部に）そういう危険がたしかにあると話したですね。読んで、舟橋氏もしくは今能動精神を唱えていられる方々の能動主義にはさしあたりその危険はないと、まあわかったわけなんですがね。しかし

1 630 は前出のレーム事件のことか、次のもう起っているは不明。

遠い将来を見渡せば、そうした危険がないと言いきれないと思うんだ。その点を僕は舟橋氏に、おべつかを言うようですが、好意といいますか、関心を持つている広い意味の友達の一人として、警戒されることを希望したいんだ。それは阿部氏にも言いたいんだ。

森山 それは大切なことだと思います。

木下 それは（そういう危険は）あるですよ。くどいようですが、主観と客観とは一致しないんでね。いまカン／＼のファッショで、個人的には非常にいゝ闘士があるんですよ。惜しい闘士だと思うんですよ。しかし何となく左翼にあきらない。それは左翼の戦術がまずいこともあるし、いろいろ原因があるんですけれどもね。

希望

田辺 しかし時によると、今の社会機構の複雑性

というようなものは、マルキシズムでも解決できないところにあるので、能動主義精神をファシズムに一致させようという風なことも希望していないけれども、またマルキシズムの理論に合致させようということも希望していないけれども、時代の権力の鍵——というと変だけれども、そういうものを握っているのは、案外能動主義精神というようなものが一番民衆の信頼をうけるので、たとえばムッソリーニの思想というようなものも結局は、或る時はファシズムのいゝところを取り、或る時はマルキシズムのいゝところを取るといような段階を通じて来たんぢやないかと思うんです。いま能動主義が非常に漠然朦朧としているという風にきめつけられたようですが、その中に能動主義のいゝところがあるんじゃないかと思うんですがね。

戸坂 能動主義の一つの興味は、それが社会へ出て

行くという気持にあるですね、そしたら当然実行的になるんだね——考えの上だけでも。政治理論が必要だし、経済理論も必要になって来るが、そういうことになるのと今のように言っていないらなくなるかも知れない——田辺さんの言われるようには。その点ではまだ問題が非常に一般的でね、非常に未発達だから。

テロリズム再論

武田 テロリズムの問題はどうしたんです。

田辺 大体あれば、時にテロリズムも目的のために
は……

武田 それは一般論なら仕方がないけど、テロリズムと文化および文学の問題はどうなったんですか。

戸坂 それと、テロリズムに関係して戦争という問題があるんじゃないですかね。

武田 もちろん。

木下 まあレーニンなんか、個人的テロはいかんが階級的テロはいゝということを知りかえし言っていますね。

武田 いや抽象的なテロリズムの是非じゃなくて、今日のインテリゲンチヤがテロリズムによつて非常にシヨックをうけ、恐怖を感じて、憂鬱になつてゐるんだだけだね。それぢやそれをどうするかというんだよ。吾々のそのテロリズムに対する切り抜け方だな。

戸坂 心の構え。

武田 そういうことがやはりあると思うんだな。

舟橋 それはともあるですね。

木下 そういうことは實際、能動主義でもつて押して行くことは非常に困難なことだ。非常なあれを覚悟しなきゃならん——社会状況が逼迫して来れば。

戸坂 それは自由主義でも同じで、つまり自由主義

を徹底させようとすれば、非常な障害があるですからね。いわゆる自由主義ぢやもう駄目になつてくるのですからね。

発展の可能性

窪川 大森氏なんかの——理論ぢやなくつて——言
い分の勝ち味はですね、インテリゲンチヤがこれまで、マルクス主義思想なり或はプロレタリアートの闘争が真実に人間生活の発展のためのものであるという風な見解と、それから今までの自分達の生活の行詰りから血路を求める、そういうことからプロレタリアートの階級闘争に参加して行つたわけなんだ。そこから、いま問題になつてゐるテロリズムというふうなものや、拘禁というふうなものに堪えられなくて、また単なる知識人という風な、何等の主張も要求も

持っていない、不安とか、絶望、懷疑というようなものゝ生活に戻つて来た。そういう現在に至るまでの日本の進歩的なインテリゲンチヤの歴史ですね、その歴史に見られる絶望性、無力という風なもの、それをはつきりと前面に出して、それで知識階級というものはよほどしつかりしなければ、たとえ社会の発展のためにそういう闘争に参加するとしてもなか／＼不可能である、だからいゝ加減のところ、こつちの邪魔にならないように、しかもその範囲内で進歩的なことをやっていたらいゝだろう、こういう言い分だろうと思うんです。今ぢや、今までの知識階級のそういう歴史に照らして見て非常に能動的な主張をするようになったのは、彼の階級理論からいえば全然根拠がないわけですね。だから僕は、それに太刀打ちして行かなければならないし、それから何故、今までそういうよ

うに無力であつたのに、いま能動的たろうとしているか、その根拠を明かにして行かなければならないと思う。それで、まあそこには、個人なり能動的精神という思想の内容の問題ではないんですけれども、一番初め僕が言つたように、インテリゲンチヤがいかに今日の社会を構成する階級層としては無力であつたにしても、そういう能動的精神が発展できるだけの可能性があると思うんです。発展できる可能性があるということは同時に、そういう絶望や無力に陥らないだけの根拠を示すということにもまたならなきゃならないと思うんですけれども、そこで、全体的にいつて階級闘争が非常に激化している時ですね、たとえば今のドイツのように、あゝいう混乱状態に陥つて、わずかに人為的な或る種の力で均衡を保っているというような時には、現実にもうインテリゲンチヤの問題は起つてい

ないですね——おそらく僕等の想像では。また日本では、階級闘争が非常に激化していた二三年前までの五六年間というものは、知識階級それ自体の問題というものは殆んどなかったと思うんです。そういうのは単なる現象として見過ごせるものでなくてやはりそういう風にプロレタリアートの階級闘争が激化しているような状態では、インテリゲンチヤは自己の問題をそういう風に提出するだけの余地がないんだらうと思うんです。それは現実的にも理論的にもそうだろうと思うんです。もし何等かの意味で自分が社会生活に対して発言しようとするば、それが小ブルジョアジーとしての要求であるとすればやはり当然プロレタリアートの闘争に参加して行くことになるんだし、だからあんなに堂々とインテリゲンチヤがプロレタリアートの闘争に参加したと思うんです。それは主観的には、

個人々々について言ってみればいろんな事情があつて参加し、中には所謂マルクスボーイ的に参加した者もあるけれども、社会現象としてはやはり自分達の要求がそこにおいて充たされるから入つて行つたと思うんです。いま、そういう風な自分達の要求を充たすような闘争が、現実にはまき起つていないわけですね。しかも、作家が行詰つて困つてしまつたように、そういう要求をますく熾烈ならしめて行くような社会的な矛盾や、いろんな條件というようなものが発展しているんだから、そこに知識階級の能動性という風に、プロレタリアートとの関聯なしに、知識階級という独自の階級意識のもとに、しかもどこまでも自分達の要求を發展させ、満足させて行きたいという、そういう事態がひき起されて来たんじゃないか。まあ口で言つてもあまりうまく言えないんですけれども、そこが

僕は問題だと思っんです。今後もし、いろんな條件が變つて階級闘争が激化して來た場合に、今の能動的精神がどういふものとしてその過程を過程して行くかという、将来の見透しまでも考へてみた場合にです、非常に問題があるだらうと思っんです。

木下 とにかくですね、こういう反動的になつてゐる世の中で能動的の精神を唱へることそれ自身が、非常に深い覺悟と勇氣を要することなんです。だからいゝゆる能動主義よりも左翼に立つてゐる人達は、こういう一つの萌芽を親切に育て、行く必要がある、そういう意味で、大森君がどう言つたか僕は知らないけれども、こういう反動的でない、少くとも進歩的な側に立つ一つの提唱は非常にいゝことだと思つてゐるんです。だからそういう萌芽を、直ぐにマルクス主義ぢやないから叩けとか、ファッショになりそ

うだからどうか言うのは、その人がマルクス主義者であれば間違つたマルクス主義者であるし、とにかくこういう反動的な時代でね、ファッショ以外の理論を唱へるということは非常な勇氣を要すると思っんです。單なる國際法の理論家でも、学校の先生でも、今まで平気で講義されてゐた教科書的な國際法に照らして日本の外交を批判すると直ちに暴力のお見舞にあずかるという世の中で、そういう点は勿論覺悟されてゐるだらうと思っんですが、そういうことを覺悟されてなお能動主義というものを敢然と唱へるということは勇氣のあることだといつていゝと思っんですがね。

窪川 それでね、その發展が非常に困難だという話がありましたね……

木下 僕はそういうことは言わなかつたと思っんだけれども、とにかく能動主義を徹底して行こう

とすれば、今はまだいゝけれども、しかしまあ早くいえば階級闘争の激化——なんて難く言わなくてもいゝですが、帝国主義戦争の場合でも、リベラリストから左は命まで覚悟しなきゃいかん。その覚悟がなければ自由主義すら徹底的には唱えられないですよ。

三木 ちよつとお伺いしますがね、どうも能動精神の行き着く先のことがちつともわからないようですが。たとえばマルクス主義理論が説くような形で革命が必ず来るといふことになれば、能動精神というものゝ存在する余地はなくなつてしまひはしないか。マルクス主義が予想しているのは多少異つた形で世界の変革なり人類の解放なりが行われるというような可能性を認めなければ、能動精神の発展の余地がなくなりはないか？ 現在能動精神というものを唱える期間があるとしたつて、それが僅かのものである

るとすれば意味のないことなんだから…。

戸坂 だけど能動的精神というものがそれ自身独立して育つて行くということは僕は想像されないな。

三木 それは能動精神という名前ぢやないだろうし、独立したもののぢやなしに異つたものになるかも知れないけれども、しかし現在あるいろいろな理論が予想しているとは異つた可能性を感じて、それを探求する……

戸坂 ということを想定していることは、主観的に本当なんだ。その主観的の想定がね、客観的にはそうは行くまいというんだ。

三木 全く行かないとすれば、能動精神というものは要するにつまらない……

戸坂 そうはならない。

三木 つまらないと言わなければ、結局どちらかへ行かなければならないから、現在お勝手にお唱

えなさい、しかし結局は……

戸坂 いや、そうぢやない。やつぱりこれはインテリゲンチヤが唱えるのであつて、ね、インテリゲンチヤが自分の問題として考えるんだから……。

三木 それは客観的に見ればそうだろうけれども、自分自身唱える側から見ればそう簡単に行かないだろうと思う。唱える側からいえば、自分達は将来どうしたらいいか、もしもマルクス主義の言う通りになる、或はファシズムの理論通りの××が来るといふことになれば……

戸坂 しかしいまマルクス主義というものが、眼の前に教科書みたいなのがあつて、それをそのまま承認しろとは誰も言うまい。

三木 しかし根本的な点においては、歴史とか社会××とかいふものに対しては一定の理論がある筈だ。一定の理論がなければマルクス主義とい

うものも成り立たないから、その一定の理論にもとづいて、歴史なり社会なりがどのような形式をとつて進むかということを予想しているわけでしょう。その予想が的確だと信じられるならば、別に能動精神というものを唱える必要はなくなるだろうと思うな。そこに、はつきり自分ぢや言えなくても、何か、どうもそうぢやない、なほ他に可能性があるんぢやないかということが感ぜられているんぢやないか知ら。

戸坂 いや、それならば問題はもう一遍出発のしなおしになるんだがね。

三木 しかし能動精神の主張者にとつては、そこがやつぱり一番重要な関心事だろうと思う。

窪川 そうなんです。しかし、能動主義の発展が非常に困難ぢやないかというお話がさつきあつたようですから、僕は非常に心配したんですがね。それは見透しからいえば、困難であるというこ

とは想像できると思うんです。しかしその観点から能動主義の問題は論ぜられないと思う。

戸坂 いや、待つてくれ。その困難という意味がとり違えられているんじゃないか。いろんな困難にぶつかって覚悟を要するということ……。

窪川 それなんですよ。そういう観点から能動主義の問題は扱えないと思うんです。ということは同時に、吾々がいろんな言論だね、それはマルクス主義理論であるから、何時もプロレタリア××ならプロレタリア××を目標に置いてそこからすべての問題を論じている、だから現在の能動主義理論がそれに合わなければ捨てるとか、つまらないものとするという風な意味ぢやなくて、そういう目標があればあるほど、そこへ到達する現実の発展の過程というものが問題になると思う。能動主義も、もし真実に現実の発展に即して行くような方向を取るとすれば、それ

はやはりマルクス主義理論の内容の具体物の一部とでも合つて来るわけなんです。しかしそれは、能動主義理論というものが存在的には別にマルクス主義理論でなくともかまわないわけなんですけれども、しかし現実の発展の過程はそういうものをも自分の歴史的発展の方向の中に内包しているわけですね。だから能動主義精神が非常に問題になって来るので、その観点から……。

三木 どうもあなた方の話はやつぱりマルクス主義の立場から能動主義をどれだけ評価するかになつて、それだけぢや能動的精神を唱える人は満足しないんじゃないかと思うな。そういうことなら結局唱えなくてもいい、ということになる。

武田、木下 いや、そうはならない。
三木 唱えなくてもいい、というのは少し言い過ぎたと思うけれどもね。

発展のコース

窪川 だから、問題を一番はつきりさせるのはね、能動的精神を、どういう要求をもって主張するかだね。たとえば作家ならば、一番基本的な問題は人間をどう見るか、たとえばフェルナンデスなんか、ジードでも、小松清氏の紹介している「人間論」の中で非常に具体的であつたと思うんですが、瞬間の行為の認識という風なものが非常に綿密だと思うんですが、そういう風に、作家の立場から見れば、今日の現実の中において人間をどう見るか、或は思想性と芸術性のプラスというようなことを説かれていたと思うんですが、そういう問題もやはり創作方法の問題になつて来ると思ふんです。だから能動的精神の立場に立とうとすれば、一人の作家として現実をどういう風に描いて行こうとするかという

ような問題が、必須になつて来ると思ふんです。それからまた、これを社会的な問題にうつして行けば、現在起っているいろんな社会問題に対して吾々はどういう理解を持たねばならないか、そこにはまた非常な広汎な社会問題が起つて思ふんですが、その場合に、能動的精神の思想は常に何を要求しているかという、そこだろうと思ふんです。要求という言葉はどうも非常に卑俗に理解されているので使いにくいんですが、それがどん／＼発展させられて行けば、それこそいま三木さんの言われた能動的精神そのものゝ満足が得られて行くんじゃないかという風に僕は考へるんです。

舟橋 とにかく三木さんがいま言われたことは、能動的精神というものは右になるか左になるか、どっちかにしかならないんじゃないかという一点張りで今まで批判されていたのを打開された

んぢやないですかね。

三木 どうも、他の可能性を目指しているんだらうと思うですね。その可能性は、たとえば二つのものゝ綜合であるか、或は一方へより近く立つて、しかも一方を新しくさせるか……。

戸橋 第三の立場ぢやないと僕は思うね。僕はあくまで窪川説に賛成なんだ。やっぱりマルクス主義の具体化の一つの筈になつて行き、発展の一つのコースになつて行くものだと思う。

舟橋 それはそうだ。

戸橋 たとえば舟橋なら舟橋という作家がいかにマルクス主義のことを憶えても、それが直ぐに書けないんぢやないですか。そしたらやっぱり、能動的精神という、創作方法か何か知らないが、それでやって行くよりほかない。そうしてだん／＼やって行つて能動精神というものが具体化されて行つて、そうして僕に言わせればマルク

ス主義が同時に發展して行く、それと結びつくだらう。こういう意味で、能動主義が實際に積極的なものになるだらうという風に解しているんですよ。

舟橋 (窪川に) 貴方も、今までのマルクス主義の中に入つてるといふ風に自分を規定しているわけぢやないでしょう。

窪川 そうぢやない。

三木 そうすればマルクス主義が非常に漠然として来る……

戸橋 それはイデオロギーというものは、これはブルジョアイデオロギーとか、これはマルクス主義とか、これはその中間物とか、バラバラにあるものぢやなくて、その間にしよつちゅう闘争があつて、要するに真理は一つしかないんだ。それは集中して行くよりほかない。

木下 僕は大体反ファッシヨ的な一つの流れとして

評価しているんだね。

三木 それはそういうことは言えるでしょう。

田辺 まだ御議論はありましようが、まあ各自の立場から能動主義を充分に検討していたゞきました。まだく前途遼遠のようですけれども、今晩はこれで終了いたします。どうも有難うございました。

※底本には誤植が多数ある。明らかなもの三十数ヶ所は修正した。確定し難い箇所のみ、《ママ》とした。

底本：『行動』（1935.3月号復刻版臨川書店）

「純粋小説」を語る

豊島与志雄

三木清

谷川徹三：1895～1989、愛知県生まれ、京都帝国大
学哲学科卒、哲学者・評論家、法政大学教授。

横光利一：1898～1947、福島県生まれ（少年期は三
重県）、早稲田大学中退、小説家、俳人、作品『旅愁』
など

川端康成：1899～1972、大阪市生まれ、東京帝国大
学国文学科卒、小説家

深田久弥：1903～1971、石川県生まれ、東京帝国大
学哲学科中退、小説家・著述家、作品『日本百名山』
河上徹太郎：1902～1980、長崎市生まれ、文芸・音
楽評論家、全集（勁草書房）

中島健蔵

中山義秀（発言無し）：1900～1969、小説家

小野松二：1901～1970、雑誌『作品』創刊者、編集
者

小野 ではこれから始めます。

横光さんの「純粋小説論」は、理論的にはまあ言
葉の不十分な点もあると思われるかもしれませんが、
向うで言われている純粋小説というようなものは
これから非常に発展すべきものであり、また
発展さすべきものであると思われますので、そ
ういうことに就いていろいろお考えを述べて戴
きたいと思います。

横光 あゝ、いうものぢやなくって、他のことを自由
にしてもらったらどうです。

小野 まあそれも結構ですけども、あゝいうエッ
セイがあったのをテキストとして、もう少し拡
がりを持ちながら話をして戴きたいのです。

河上 あのエッセイには非常に沢山の問題が含まれ

ていて：謂わば僕は書き方が狡いエッセイだと思ひますが。一番言いたいところは何かですか。

横光

つまり僕としちゃあ表現の問題なんですがね、まあ言いたいと思うところは。……それはね、表現の問題ばかりを言うとしても言えるものぢやないですしね。そこは秘密で言えないと僕は書いてあるんですけれども、其処の秘密を細かく書けば、それまでの段取りを進める途中で、いろいろの問題に引つ懸つちまうんですからね。けれども其処を書くとなると、どうしても長篇を書かねばならぬということになるし、若し長篇を書くとするば、今のような時には、どういう風に書けば良いかというようなことを書かなかちやならぬし、これが秘密というのですが、まあ僕としちゃあ、却つてみなの人にそこを質問してみたような結果になつたんですね。ただそれでいろいろ人の意見を聞いてみて、それで

もつて考え直そう、そういう風な、まあ僕にもまだよく分らぬことが多い。けれども今の純文学の作品のような書き方をしているはもう結局雑誌文学になつてしまふ。ところがこれは吾々が困るばかりでなく、これからの人も困るに決つてゐるし、今のところ、どちらにしたつていい方法に行つてゐるとはちつとも思わないもんですから。

河上

あれを読んで一番感じたことは、現代小説が如何に困難か、そういうことですな。

横光

谷川さん。この月の「改造」でこう仰つた——外国ぢや小説では、昔から神というものを思索して来たから、それで困ると神を考へて思索をまとめ、また発展させ、そうして次の思索に役に立ててゐるが、日本にはそういうものがないから、一つは日記文学のようなものに行つてしまひ、あるいは夢を追わずにはいられぬと

いう風になつてしまわざるを得ないと仰言つたですね。あれはまあしょっちゅう吾々とか、それより若い人々はそういうことに何時も困つて、現に困っているんですしね。何かそのまま放つて置いていいものか、どうかと、そういうことを考えなくちゃいられぬときです。何かここから進まなければならぬ。とまあそういう風に今僕は考えているときなんですが、さてそれをどうしたらいいかということはなかなか見つけ難い。見つけ難いんならそのまま見つけずに捨ててをいても良い、というようなもんぢやなし、見つけられないというなら、なにかそこにまた方法を考えなくちゃならぬから、純粹小説というものを漠然としながらも考えていくと、その外国の神に代る何かを考えていくにちがいないと、まあそんな風にも思えるんぢやないかというような氣もするんです。

谷川 僕も横光さんのは拝見しました。横光氏の論文を批評した人達に、結局これは難しい言葉で言っているけれども、極めて平凡なことを言っているんじゃないか、というような意見があつたようです。つまり純粹小説というような名前でもつて、結局小説の本道とか本格の小説とか、そういうものを主張している、そういう風に見ている。横光さんの言われた一番言いたいこと、表現の問題を、あの人達は捉えなかつた。ところで、近代の小説という形式が出来てからの最も本格的な、純粹小説というものは本格小説というものに言い換えた方がいいのだと思ひますけれども……けれども十九世紀の本格小説が生れた社会的条件というものは、今ないようですし、一旦本格小説が完成した形式として存在する場合には、そういう小説を現在生もうとするのはこれは結局あんまり意味がないことで

しょうからね。だから同じ本格小説でも、新しい時代の本格小説として生むためには、小説という一つの形式の中に含まれている、変な言い方だけれどもポテンシャルなエネルギーを外に出さなくちゃあならない。それが結局方法の探究だろうと思いますが、その問題に引つ懸つて、作家としての横光さんの実際の問題に懸つてくれば、先刻言われたように直ぐ表現の問題になります。併しこうなると、それを表現の問題とすると、結局理論ちゃ解決の出来ない問題で、結局作家がその作品を作るといふ実践の上で示す他ない問題になりはしないかと思ひますね。

中島 純粹小説という言葉ですが、あれは、谷川さんが今仰言るのは本格小説と同じだというらしいのですが、そういう風なおつもりでしたか。

谷川 僕の理解が間違っているかも知れませんが、ジードなんかの言っている純粹小説と、この純

粹小説とは違うのぢやありませんか。

横光 それは僕はね、ジードの言つたのとは違ふと思ひます。けれどもジードの言つた意味の純粹小説というものは今はね、ああいう風なことを日本で言つてもまだとても駄目です。けれども今としての純粹小説論というのは是非必要だと思ふんです。

谷川 よく読むとぼんやりは分りますがね。狙い所はつきり掴めないのは無理はないと思ひますがね。

横光 狙い所というものはああいうもんぢやあないでしょう。僕は定めてありません。

中島 まあないでしょう。あり得るもんでもなければ……

小野 従來の本格小説との違いは、所謂従來用いられたものには横光さんの所謂純粹小説の中の一大要素である通俗小説的なもの、そういうも

のが含まれていないということとで差別があるのぢやないですか。

横光

僕は小説を見るのに、ああいう通俗小説という言葉を含むといかぬと思うんですよ。けれども充分言わなければ含んで来ているから……。純粹小説は中島氏の言つて居られた小説の機能としての問題として、もっと考えなければならぬと僕も思う。小説の機能というものを、もう一ぺん考え直す時だと思ふんです。

豊島

そうなつて来ると問題は根本から考え直さなければならぬと思うな。というのは、要するに横光君が言つたのは小説作法の問題を言っているんでしよう。小説作法の問題という可笑しいけれども、それはまあ別として、描写か、表現か、とそういったような根本問題に考えを進めて行くと、吾々文学者にとつて当面の問題となるものは、小説作法の問題よりもう一つ前

に、第一に吾々は何を言いたいか、言いたいことがあるか、どれだけ言いたいことを持つてゐるか、それが重大だ。言いたいことを沢山持つていたら、他の事柄はすぐに突破出来る。言いたい事が何人にもなくつて、小説作法の上でどういう小説を作つて行くかという問題になつて来ると、それは作法だけの問題であつて、何と云うか、技巧の方面、学的な探究で解決出来るだろう。ドストエフスキーなんか、ふんだんに言いたい事を持つていたから、ああいう作が出来たんだろう。吾々だつて、頭の中に何かもやもやと、沢山言いたい事を持つていて、たまらないという張り切つた氣持でいたら、技巧的な問題なんかすぐに突破出来ると思う。その前提、吾々がふんだんに言いたい事を持つてゐるといふ前提の下に、純粹小説を考えるか、或は言いたい事がそう沢山なくつて、小説そのものを救

うにはどうしたらいいかという場合か、どちらかを決定しなければならぬまい。その二つの場合というものは、理論的にははっきり分けられないけれども、作者にとつては直接当面の問題になつて来るし、批評家から見ても大体見当はつくだろう。そこで、一体どつちの場合なのか。

個人々々を離れて云つても、吾々現代のインテリゲンチヤというものは、一体、ほんとに云いたいことをふんだんに持っているかいけないか。言いたい事がなかつたら、こいつは少し変なことになつて来る。言いたい事がふんだんにあつたら、純粹小説というようなことも比較的たやすく解決出来るのではないかと思う。

横光 今みたいな時には一つ言いたいことがあつて、それを書いて行くでしょう、そうするともう幾らでも問題が出て来てね、とても短篇としてそこだけちよん切つて書くということが出来

なくなつてゐる。何か書けと言つても、理論の立つ所は理論が立つてしまつてゐるしね。立つてゐるところでは、何もならぬし。

豊島 はつきりした縁縁がなくなつてゐるんだね。

横光 何か一つ問題を書けば、すべての問題がからんで来て、それをどいつもこいつも書かねば意味をなさぬというようなときですからね。僕なんか、文芸時評やつてくれと頼まれて、それはいやだから、というと、問題があるのを批判して廻つて見てくれと言われて、それで引受けてちよつとやつて見たんですけれどもね。いろいろ問題が出て来たもんだからそつちにもこつちにも引つ懸つて行つて……ああいう標題になつてしまつたんです。純粹小説に就いてという感想という風に書いたのです。向うは論にしてみました。そういう所がいろいろ問題が起るんでしょうけれどもね。引つ懸つてみるとまだま

だ足りないし。ところが最初の偶然の問題と必然の問題に一番人はひっかかって困ったが、僕はああいうものは引かかってもうろうつもりぢやあなかつたんです。単に段取りとして書いて見たんですが、三木さんにちよつとお聞きしたいんですけれどもね、前からちよつと疑問があつたんですけれども、自然科学と哲学で偶然という言葉を用いますね。あれは小説の偶然と何処も違わないんじゃないかと思うんですが、同じぢやないんですか。

三木 私なんかと同じだと思いますね。今表現の問題と言われたのですが、哲学の方でも同じような問題を持っていると思います。例えば、これまでのような、所謂書齋の哲学者として、ジャーナリズムとは無関係にやつて行く場合、既にその学問に与えられている形式というようなものがあるのですが、一旦ジャーナリズムに出て来

ると、ジャーナリズムの要求に従つて枚数の制限もあり、問題取扱いの範囲も決められているわけです。そうすると或る問題は打切らなければならぬ。残された問題が幾らもあるのですが、読者はそのことを考えてくれず、自分自身にしても自分の書いたものにいつも不満を感じているわけですね。本当の思想家として生きて行こうとするとこれまでのような哲学の形式に安心が出来ない、ジャーナリズムも現代の社会の重要な現象であつて、それにも意味がある。それにぶつつかると、そこに通俗性の問題が出て来ると思ふのです。この通俗性とこれまでのような学問としての或純粋性を持たせるという事とは如何に関係して来るかというような問題に何時もぶつつかつて居ると思います。従つて其処に矢つ張り表現の問題がある。豊島さんの言つたように、言いたい事をもつて居るという

ばかりでなしに、何か新しい形式を見出さなければならぬような時になっているんじゃないでしょうか。ジャーナリズムのもつ社会的機能を全然無視すれば問題はなく、これまでの形式で容易にやつて行けるけれども、あつたものが要求されているというには何か社会的な必要

も意義もあるのだらうと思う。そしてそこへ来ると今までの所謂純粋な学者のような気持では嫌になつて書けないだらうと思う。併しやはり書かなくちゃならず、また或純粋性も要求されるとすれば、如何にぶつつかつて行くか。ジャーナリズムというものの持つような社会の要求に如何にぶつつかるかという問題が純粋性の側からあるんじゃないですか。

中島 書かなくちゃならないものがあるという事が問題ぢやないんですか。

豊島 書かなくちゃならないというのが沢山ある

場合を前提としないで、そういう事は沢山なくつてもいいから学的に小説はどういう風にこれから発展させたいか、という問題になると、少し違つて来る。主観的には同じだが、客観的には違ふ。

三木 書かなくちゃならない問題を沢山持つているとしても、それを書く場合に今のジャーナリズムの機構ではどうしても全部の問題を書ききれない。書ききれないばかりでなしに、これまでのような純粋性を保とうとすれば誰も読んでもくれない。然し単なる通俗性になつてしまつてはいけない。そこに新しい純粋性の問題があり、それから表現の問題も重要な問題になつて来ると思う。

豊島 その点は、社会とか生活とかの問題に關聯して来るから、そいつを止めるとして、シェスト

フの虚無よりの創造、あの虚無というものはどういうような虚無なのかという事は、吾々がはっきり考えてもいい問題だろうと思う。ナツシングではないのだからね。あの虚無よりの創造の虚無というものは、どういう虚無ですか、非常に重要な問題だろうと思う。哲学と、あの虚無というものはどういふもん分か分らないが、どういふもんですね、あれがおかしいと……

河上 やつぱり主観の一つの形式ではないですか。

横光さんの云う第四人称の設定という事がありましたけれども、幾分通じるものがあるんじゃないですか。

豊島 虚無が四人称と通じるという事はあり得よう。四人称ということは、僕も以前から考えていたことで、横光君の説を面白く読んだ。小説

1 1855-1938 本名 Lev Isakovich Schwarzmann ロシアの哲学者・批評家、ロシア革命後亡命、不安の文学で知られる。

作法の一つとしての四人称というものでなく、もっと深い意味の四人称というものを考えているのでしよう。僕も四人称というものは重大な問題になると考えているんですが、これについて理論をはつきり確立したら、純粹小説の議論も余程見透しが付きはしないかと思いますが。

河上 あれはドストエフスキーの「悪霊」の「私」のようなものが理想ではないですか。

横光 私は「罪と罰」を読んでいる時に初めの中はラスコールニコフばかりを書いていて、真ん中まで行った時に妹とか友人になつて書いている。「白痴」になるともう均衡して行っている。「悪霊」になるとこれぢや駄目だと思つて「私」が出て来るでしよう。「私」が出て来ると、「人がこう思つた」というような描写は出て来ない。非常に少くなる。「思つた」という言葉で、ここぢやドストエフスキーが非常に弱つたんじゃないかと思

います。

豊島 「悪霊」の「私」は、非常に混乱していると
 思いますがね。

横光 混乱してるところぢやなくて、出て来ると、
 抑えよう、抑えようとしている。

豊島 あの「私」は、或る点まで存在している人物
 になっている、「私」が肉体を少し持っている。
 然し、全然存在しない人物で肉体が少しもない、
 そういう「私」というものが四人称でしょう。

横光 あの「私」は四人称ですが、あれもちよつと
 失敗していると思うんです。

豊島 「悪霊」の後の方では「私」に人物的存在も
 ないし、肉体もないし、或る点まで行っている。
 始めの方はどうもね。

横光 けれどもね。あれは枚数があれだけあるから
 欠点が少いと思う。僕も「紋章」を書いている時、
 あの倍の枚数があれば、もう少し「私」は肉体

を消して見せられたと思うんですが。

豊島 「紋章」にはそういう所がありますね。

横光 併し四人称というものは、何か文法家でも
 造ってくれると良いが、そういうわけにもいく
 まいが、……これからの小説は慥かに僕は四人
 称がなくなつちやあ書けんと思うですね。

豊島 僕もそう思っている。

横光 フローベルなんか見ていると四人称は三人称
 に密着していて、これを密着させると鈍重にな
 る代りに、非常に客観的になる。けれども、「私」
 という一人称にくつつけてしまうと大困りです。

豊島 併し「私」というものを、実際の私という
 言葉を使つても、作中に於いて、そういう人物
 が全然存在しないようにすることは出来る。そ
 れは実際の作品の中では現実的に非存在なのだ。
 それは作者自身の立場であり、ものを見る観点
 なんだ。非存在的な「私」、それを確立させるこ

とが出来る……

横光 そうなると四人称どころぢやないですよ。

豊島 言葉では四人称とでも云うよりほかはないが

……併し「私」に全然肉体を持たせないのが理想ぢやないですか。

横光 持たさない方がいいと思つたけれども、併し又そうとばかりも言えぬ所があるですな。矢つ張り出て来る以上はちよつと持たして見たくなるし。持たしちやあ失敗だと思ふけれども、どうしても持たさずにはおけないところもある。

河上 「悪霊」の「私」の肉体は生きていますわ。

横光 実に苦心していると思ふね、抑えるのに。

もうこれからは例えば雑誌なんかへ小説書く時には、ああいう枚数で雑誌小説を書くにはフォルムで書くより仕方がないでしょう。フォルムで書くより仕方がなくなつたということが、困り出した原因だと思ふな。芥川氏なんか死ぬ

少し前の、死ぬ三四年前の時は、フォルム小説の全盛であつたので、一番都合がよかつた。そのときの形式をそのまま、まだ雑誌小説としてやろうとしているんだが、あの頃は問題が何もなかつたから良かったものの、今はもう問題だらけだから、フォルムでは小説は書けない。僕は此の間「戦争と平和」と「罪と罰」とを一緒に読んで見ましてね。読んでみている時に、或る人物を客観的に書いて行つて、途中でその人物が困ると、独白をさす。二三行でさすのだが、難しい所に行くとき必ず独白さしている。兎にまで独白さしている。これをやらぬと長篇なんか書けるもんぢやない。谷崎潤一郎氏が「文章読本」で日本人は主人公が「思つた」という所を括弧して書く。があれば非常に嫌いだと思つてゐる。何故嫌いかという所はちつとも書いてないが、そこに一番リアリティという意味の問題がある。

私もやって見るけれども括弧を非常に嫌いな癖に、どうしてもやらずには居られないのでやってしまう。あれをやると、やったところで、日本人はこれは嘘だと思ってしまう。拵え事だと思わしてしまう。外国の小説を読んでいるとそんなときには、少しも嘘と思わないのに、日本人が書く嘘だと思うんだから、日本の作家はつらいですよ。

豊島 括弧を使うからいけないんじゃないですか。

横光 括弧を使わないともうフォームになってしまふ。

豊島 括弧を使わなければならないという気持になるのはいけない。括弧を使わないと作者としての真実性に対する嘘が混って来るでしょう。その括弧を使わなくつてもそれが真実であるという所まで行っていればいいんだけど、そこが問題ですね。

横光 僕は括弧を使わないようにやって見ようとしたんだけど、あれは使った方が欠点が出て、その……使わないに越したことはないと思います。でも、どうも使わなげや駄目ですね。結局は使う方が勝た。

豊島 読者の側から云うと、何だか困って誤魔化したなと思うんです。

中島 作品の中の「私」というのと、作者の本当の「私」というものがあるでしょう。作者の「私」が作品の中へ筋道の媒介剤みたいなものになつて這入って来るというのは全く違うのですか。

横光 媒介になつて這入って来るだけぢやなかったね。

中島 作中の人物の中に、多かれ少かれ、作者から分れたものが這入って行く、ところがそれを今度は自分ともつかず、小説中の人物ともつかない方のものだけが這入って行くという事はない

んですか。

小野 小説には作者があつて、そうしてその作者といふのは、つまり四人称なるもの、そういう「私」といふものは現れなくても、必ずその奥に引つ込んでゐるんじゃないですか。

横光 「私」と書かなくても、四人称といふものはどうしても出来ますな。こいつの処分が一番困りますね。「私」でなくつてもいいけれども、何んだつてこれには閉口たれるね。

三木 そういう言葉はなくつたつていいわけでしょう。

中島 一体そういうところがぎつきの本当の虚無ぢやないかね。虚無からの創造というような行き方で動いて行くんだと思うがね。それからつまりその四人称が肉体を持つとなると、「私」になつたり「私」以外のものになつたりする。「紋章」なんかでは色んなものになつてゐる。そういう

事は根本的な問題ではありませんか。作者がある事件を進めるエネルギーのようなものになつてしまふという事は問題ではありませんか。

横光 それは面白いですね。

豊島 エネルギーといつてもよいかも知れぬが、それは作者の私でもないし、或るクリエーションの場合、創造をする場合に、創造するその人であると同時に観点なんだから。そのポイントというものが非常に重大になつて来る。

中島 作者ではなくても、何か表面では大した役割はないようदैて、細工をして、全部を動かしているものがあつて、而もそれがとにかく直接に作中の人物の一人として関与してゐるというような……

豊島 そのものであると同時に、人物なんかを批評し、動かす物のポイントなんでしょう。

三木 併し観点と言つてしまふと、悪いんじゃない

かね。

豊島 観点と言えば少し可笑しいけれども。

三木 だから矢つ張りエネルギーというか、非人称的な、非人称ではあるけれども、一種の人間性を持つてゐるものとても。

中島 そんなものは今までの小説では問題ではなかつたんでしょう。それが今は非常に重要性を持ち出して来て、それでいろいろ困るんじゃないですか。

横光 これは、ある人間が、ある事に関して意識してしまつたか、何も意識せぬかという所ですからね。

中島 恐らく意識せずにはられないんじゃないぢやありませんか。

横光 つまり、せずにはいられぬ人間になつたからそれで書けなくなつたのでしょうか。

中島 だからその変なものが、小説構成の要素とで

もいうか、人称代名詞臭くなつたんじゃないですか。せんか。

谷川 それを場と言つちやいけないんですか。場所の場です。一般に小説というものは現実の空間時間に於いて行われるものぢやない、一種の特定のある。次元と言つてもいい。三次元に対して四次元というような事を言うでしょう。そうすれば観点というような場合の主観性を持たないし、いつたい場というものは一つのエネルギーを持ち得るんじゃないね。

横光 場という自然というような解釈になつてしまふんですか。

谷川 場という時には自然という形態を全然含まないでもいいんですがね。

中島 まだすつかり読まないから分らないけれども、スタンダールに就いてのヴァレリーの批評の中で、スタンダールは自分の小説の中に出て

来る人物を踊らしている。ところがそれだけでは我慢がなくなつて自分でその色んな人物の中に這入つて踊り出す。それで色んな問題が起るといふようなことがあるけれどもね。別にそれが欠点というのではなくつても、作家の自我と作品との問題には随分面白い事があると思うのですけれども……。意識し出すと何かしら作者自身で困つちまうのでしょうか。四人称というものがある事は困らないけれども、それが、他の人称に色々くつつく事が困る。どうしても自意識があればそれにまた気がつくし、いつの間にか変な所へくつつくのが困るんぢやありませんか。横光さんの「紋章」の中では四人称が「私」になつたり、他へ行つたりしていきましょう。

横光 どこへもくつつくんですよ。どうしたつくつくんですな。これのくつついたことを意識した表現というものは今まで日本文学にない

でしょう。伝統がないでしょう。何かその……そりやあ意識していなかったというほど強味はないんだが、併し意識してしまつた以上は、ここについたなと直ぐ思いますからね。それで困るんですよ。そこへ先刻のエネルギーなんてものがぐんぐん出て来ちゃあ全く困るですな。そうなる所りやあ敵はぬからフォルムで押してやれ、と思つてやると。意識も消えてしまふんですが、それぢやあ本当の小説は書けませぬからな、フォルムぢやあ。

三木さんはつまり、思う事と行動する事との間のことを擬態と言つていらつしやるんですね、あれを一つ。

三木 姿勢。アティチュード。

横光 あれをもう少し細かく云つてくれませぬか。僕は非常に難しいと思う。

三木 普通に行動という場合には私がその行動の

主体として決められているわけですがね。姿勢と言う場合にはそのような私が私として決められていない状態を言っているわけですね。そういう点に於いてどちらへ行こうが自由なわけですね。私を行為の主体としてどういう方向に決めるか、そこに一種の自由がある。併しそこに生れて来て居るものとしては既に行動的なものですが、一度行為として外に出てしまえばもう客観的なものになってしまう。行為という意味が既になくなっているとも云われるわけです。普通に言っている行為に移る前の自由な状態というものがあるだろうと思いますよ。小説家というものはそういうような状態に自分を置くことが出来なければ、本当の小説は出来なと思います。客観的な既に行為されてしまった行為をそのまま写して行くというのでは小説にならないでしょうから、そういうような行為に出るまで

の行為というものがあろうと思う。それは或る意味で私の行為とも云うことのできぬもので、私のものとして決められているのは普通に云う意味の行為で、行為されてしまった行為であると思う。私は何かに動かされて居るのであつて、その場合に動かしているものは私でありながら私でないという意味を持っている。行為は私というものに対するそういう自由さをもっていると思います。

横光 そのつまり今仰言つたところの自由さと虚無というのとどういう関係ですか。

三木 虚無は私を動かして居るものですが、それは別に客観的にあるものでなく、私でありながら私として決められない、まだ決められていないものです。私として決つてしまえば既に虚無ではなくなり、むしろ私はそういうものに決められて来る。私の行為として決められて来る場合

の自由が虚無で、そこにつまり創造というようなものが可能ではないかと思う。

横光 川端の末期の眼はどうか、末期の眼は。

川端 うん、末期の眼か、まあそれに近いな。

横光 それは難しいね、河上氏の虚無はどう。

河上 矢つ張り一種の純粋性という風なものです。つまりチェーホフの場合でいうと、今の世の中では人間がてんでんばらばらな存在だから、そのばらばらさの中にある一つの根本規定みたいなものが必要になりますね。そういうものを考えているんじゃないかと思いますが、シエストフが言つた場合には……

谷川 シエストフの言っているのはニーチェの言っている価値の転換と違いますか。僕にはどうもそういう風に思われるのです。シェークスピアの場合でも、ドストエフスキーの場合でも、チェーホフの場合でもシエストフは何時でも一

つの転機をつかまえていきましょう。その転機によつて今まで価値としていたものを全然無価値とするでしょう。そこに虚無が出て来る。ところがまたニーチェの意味のニヒリズムというのは所謂ニヒリズムに徹底することに依るニヒリズムの克服なんですからね。シエストフのもそういう風にとれば創造的なものになり得る。

河上 その方が僕が言つたよりも本質的な説明ですね。ある一つの秩序が壊れて次のものが出る。

中島 当然前に何か秩序がある、それが崩れてまた当然その次に何か或る秩序が起らなければならぬ。その間の混沌期というような……

谷川 え、そうです。

中島 説明としてはそんな風にでも云えば割合のみ込み易いのではないかと思う。

三木 然しそれは非常の時期にあるものではないに、何時でもあるのではないかね。自分の行為

には、その根柢に何時でもそれが否定されて行くところがある。自分の思想は論理的に必然的に発展して行くという内的傾向をもっている。

それがフォルムと云われるものだろうと思う。そういうフォルムが出て来るとそれに従わずして何時でも否定する可能性がある。このものが本当に働いて来ると、そこに始めて生きたフォルムが生れて来るのではないかね。否定の可能性が働いているものと、いないものと、フォルムの生命と意味が非常に違っている。

河上 シェストフが死という事を言いますね。矢張りそういう意味ではないですか。死があらゆる瞬間に於いて生の微分値みたいなものになって這入って来る。

中島 つまりそういうような転換というか何というかそういうものが特殊な事ではなくて非常に日常的に、しょっちゅう起り得る事だというのが

シェストフなんかを読んでピンと来る所ぢやないか。

三木 しょっちゅうあるといっても、普通の日常生活に始終現れて来ると云うのではない。芸術の場合、フォルムは非常に純粹で数学的な必然性を持つていると思う。思考する場合、論理というようなものがあるのと同じだろう。何か書き始めるとそういうものが働いて来る。然し同時にそれを否定するものがいとも働いているとき、そこに始めて芸術が生きて来るのではないかと思う。

中島 本質的な偶然というものはそういうものではないませんか。

横光 僕も聞こうと思ったのだが、日常性というのはどういうことかと思つてね。

中島 そういう事が普通に何時でも起り得る……。
横光 僕は日常性というのは、偶然性の集合だと思

う。どうもそうとより思えない。

中島 必然と偶然の関係というようなことになる
と、変に理屈になつてしましますがね。つまり
非常に簡単な事とも考えられるんじゃないので
すか。

横光 日常性とか……

中島 必然とは偶然なり。偶然とは乃ち必然なり、
と学生に言われた時に、はてな、と思つたとい
つか言われましたが、文学で言う必然というの
は、あり得るとか、そうなるべきだとかいうよ
うな意味の必然ではありませんか。つまり蓋然
ですが、どうもむずかしい事になつてしまふだ
ろうと思う。だから突込んで言えませぬが過
去のことは必然の結果であつたとは言えるが、
未来には必然はあるかないか分らない、ただ蓋
然だけがある。それがずっと順々に動いて行く
のだが、日常生活というものはその動きの中に

純粹小説を語る

あつて、先の方は必然だか偶然だか、とにかく
必然ではない。必然と偶然との間に現在動いて
いるものだから日常のことはどつちとも言えな
い。

横光 必然と偶然との間には、内面的な論理関係は
成り立つものではないと思うが。

中島 そうぢやなくつて、出来てしまうものは必然
的な結果で、先にあるものは偶然しかない。怪
しい言いまわしだが、偶然と必然との境目を現
在というものがずっと通つて行く。そこに引つ
懸つて小説家が困つてしまうのではないかな。

横光 そういう意味では必然性というものは却つて
問題ぢやないと思ひますね。僕はもう小説で必
然性というものは、書く事は絶対に出来ないと思
うね。結局偶然性ばかり書いていると思ひま
す。

中島 それで困りますか。それでいいんじゃないで

すか。

横光 僕はそれでいいと思いますよ。

中島 本当の生活から言えば兎に角どういう形式か知らないけれども、現在というものがあつて、とにかく或る結果が刻々に出て来るでしょう。小説家というものはそれを人工的に、普通の實際の早さよりもずっと早く進めなければならぬから、そこで偶然とか必然とかの問題が起り得るではありませんか。

横光 とにかく結局は行動をするから意思が出るのか、意思が出るから行動するのか決定しなくちゃならぬ。そりゃあそういう場合小説というものは、矢つ張り偶然を重んじないと仕末がつかぬので、行動するから意思が出て行くと決定せねばならぬ。とにかく小説家はそう思うより小説というものは成立たぬでしょう。そりゃあ君、小説は、最初の一行が、もうどんなものでも偶

然なんだからね。偶然を一番とするよりしようがない。

中島 それは併し小説家だけの問題ですね。普通の生活の場合には考えられないですね。

横光 併し文字を使わなくちゃならぬですからね。文字を使うなら誰だつてそう考えなくちゃならないでしょう。

三木 必然性というものは物理学から言つても、偶然性の集合と考えられるでせう。統計的な必然性なんだから。個々のものは偶然なんだ。全体から見れば必然なんだ。僕が死ぬか、あなたが死ぬかは偶然であるけれども、日本人全体が幾人死ぬかということは統計的に必然的である。……吾々の日常生活というものは統計的に見れば必然性に従っているか知れないけれども、主体的には何時でも偶然的なものがある。

中島 そういう風に考えて来るとつまり確率の問題

になって来るでしょう。プロバビリティの問題になって来るでしょう。そうなれば結局小説家には分ったって何んにもならない事になりはしませんか。

三木 何んにもならない事ではないと思うな。一定のイデオロギーというものを認めてそれに従って書いて行くという場合と、色々の偶然的なものの一つの必然的なものに纏って行く、纏って行くところは書かれてしまわなければ分らないという場合、そういう二つの場合が考えられるのではないか。前のは凡て必然であり、後ののは偶然ではあるけれども必然である。

中島 横光さんの云うのは後の場合ですね。

谷川 僕なんかそういう点についてはカント主義者だな。必然というものはつまり自然の世界だな。

中島 だから小説家は……

谷川 だから小説家にとつては問題にしないでい

い。簡単に言つて、そうなんです。必然という事が小説家にとつて問題になるのは、たとえば或る心理を追跡する場合の現実性の度合というようなものにひつかかつてではありませんか。それからもう一つ、今の人が特に必然性というものに悩まされるすればマルクス主義的な世界観、あれのつまり、公式主義的な考え方がまだ不当に皆んなを脅しているのではないかと思ひますがね。

三木 必然性の問題は結局リアリティの問題だろうね。自分が書いている人物がリアルであるかというような……。それ以上の哲学というものは小説の問題にしないでもいいんではないかと思ふ。

豊島 けれどもそれは自然という言葉に換えていいかね。或る人物を頭の中で考える時は、ああこうとその動きがはつきり立てられていても、原

稿紙に向つて書いてゆく段になつて、どうしてもその人物はそういう風に動かない場合がある。

谷川 スタンダールを読んでいると、こないだ「パルムの修道院」を読んだのですが、この場合主人公は傷をして血を多量に失つたために、生來のロマンティックな性質がなくなつたとか、血を多量に失つたためにフランス語を忘れて自然に自國のイタリア語が出て來たとか、そんなことを一つの生理的心理的必然として説明している。ああいう説明は人を喰つていて僕は非常に愉快だと思ふ。

中島 小説では、そういうものがリアリティを掴む要素になることがありますからね。

谷川 スタンダールの場合には非常に効果的です。そういう説明は普通の場合は單なる説明として余計なものと思われるが、あそこでは決して余計ではない。

中島 小説のリアリティと、普通のリアリティとを同じように取扱つては困ることが多い。ある一方は創つて出来る世界で、もう一つはとにかく在る世界、その間には本質的な差がなければならぬ。

横光 文学の問題で、リアリティの問題ほど難しいものはないですね、何と云つても……

小野 「純粹小説論」の中に、偶然にリアリティを与えるということがありましたね。あれはどういう意味ですか。

横光 それはリアリティの説明をしなければ。リアリティの説明は、これがまた偶然と必然を避けるわけにはいかぬ。さつき言われた血が出た時に……

小野 それでまあ純粹小説ですね、あれには通俗小説のような偶然を従来排したのに対してもつと取入れるというのですか。

横光 通俗小説の中に出て来る偶然というものは、

如何にも必然性を帯びない偶然性で、つまりリアルティを持たぬ、ただ大偶然ばかりだ。

小野 そうすると偶然性にリアルを与えるということとは偶然に必然性を持たすということなんですか。

横光 まあそうですね。

小野 それで百枚や二百枚位の短篇では通俗に終わってしまったって純粋小説には達しないという意味だったのですね。

横光 そうでもないです。

中島 あれはすぐ通俗だ、という批難が出て非常に困るという手近な問題から出たのではないか。ある種の表現を見るとすぐに通俗だという大ざっぱな批難が出るが……

横光 そんな通俗という言葉は、必要ないですよ。
中島 それが本当でしょう。それにだんだん尾鰭が

ついて……

横光 僕の知っている人で小説を書いている人が沢山あるが、それがちよつと通俗小説的な事件になって来ると、これは通俗小説になったから止めようと筆を下してそれ以上書かないという人が沢山いる。そんな事を気にしていちやあ良い小説は絶対に書けるもんぢやないし、しかし、そこで、役にも立たぬ処で変に皆んな困っているんぢやないかと思いますがね。そんなこと考えるの無益なんですがね。

中島 豊島さんが「椎の木」を書かれた時なんかそういう意図も多少なかったんでしょうか。

豊島 「椎の木」なんかには意識的に多少あった。然し、ドストエフスキーみたいに、色んな人物を一つ場所で開催させるために、色んな事件と一緒に突発させるために勝手なことをする。その場合、読者に、これは不自然だとか、こいつ

は通俗的だとかいう感じを持たせない位に創造すべきもの、或は表現すべきものがそこにあればそれでいいと思う。織込むものを作者が実際に

持っていないとそういう事は出来ない。出来ない場合にそういう事をするのが通俗小説であつて、人物や事件を勝手に操つても、それはたゞの手段で、必然の手段で、表現すべきものがそこに出て来さえすればいい。その表現すべきものをはつきり掴んでいればそれですむと思う。勝手な操りが出来るか出来ないかは、表現すべき事を持つているか持っていないかで決定されると思う。

中島 表現すべきものを持つている場合、それが……

豊島 それは自然に出来る。それだけのものを内に持つていれば、何でも勝手に駆使されるものだけれども、それが出来ないところに、作者の淋

しさがある。事件や人物を輻輳さしたつて、それで何を表現するか、その根本的なものが欠けては、何にもならない。

三木 要するに、恋をすれば詩人なり、とか云うそれと同じ事だね。

豊島 そういう事になるかも知れない。

横光 それは一番先の問題に帰るのだ。谷川さんの仰言つた神を日本人が考えなかつたが、外人はそういう窮極の場合に思索の根源を神に持つて来るといふ、しかし日本人にはそれが無い。ないからそのままにしていられるかといふと、そうもいかぬから、そこで、それに代る何かなくちゃならぬ。

谷川 私は一例として神の問題を引いたのだけれども、ジードのいう、事実を繁殖させるイデエ、事実を繁殖させる力を持つているイデエ、それはつまり直観の巨大な泉をたたえたイデエなん

ですが、そういう大きな泉をたたえたイデエ、
そういう文化の伝統が日本にない。

三木 東洋の自然というのはそれではないかな。

横光 僕も矢つ張りそう思うな。自然を東洋人は神の代りに置いてしまう。自然を認めるか認めないかという事は、吾々の思想の発展の根源になるのではないかと思う。それが小説とか色んな問題に関係して来る。

豊島 自然そのものの認めかたによつては、心境小説も非常に高度な文芸になり得る。

三木 そうだ、なり得るよ。

深田 スタンダールだとか、ドストエフスキーの「罪と罰」だとか、純粋小説の例として引かれていけるようなものが日本に出たとしたら、読者が大勢あるでしょうか。読者は随分あるらしいが、スタンダールとか、ドストエフスキーとかいう名前に酔つて居るのかも知れませんし……

横光 それは絶体にあの通りにはならぬと思うけれども、ああいう作品はこれから出るべきだと思いますね。それは、どうしたつて自然をどう認めるか、という所から出て来るのではないかと思ひますがね。あの「悪霊」なんかでも、結局は自然をいかにして認めるかということ展開しているような感じがしますね。だから、ドストエフスキーはどうしたつて出て来る人間を大抵殺してみなければおれなくなつてゐる。

谷川 自然というものを大きく解すれば。

豊島 併し所謂客観的な自然、その自然に屈服された境地に於ける人間というものを承認するか、自然を征服しようとする人間を承認するか、そのいずれかで大變違つて来るでしょうね。

谷川 自然を征服するという事は、これは本当に出来すかね。

豊島 切実な問題ですね。理想的な考え方だけれど

もね。

横光 作家がどう自然を征服するか、という事は一番僕は難しくって必要だと思うが。それは小説を書く場合に、何かの意味で、作家は自然を征服しなければならぬですから。

谷川 横光さんが言われたその意味ではね。つまり事実を繁殖させる意味で。事実を繁殖させるというのは、つまり、自然征服という意味を含んだものですかね。併しそういう意味に用いられた自然と、もつと大きい自然と……。自然というと又これはあらゆる意味に用いられるもので非常に曖昧になると思いますが、自然という意味を中心にして論ずると問題はなかなか……

豊島 とても解決がつかない。

谷川 あらゆる意味に用いられるから。

横光 虚無よりの創造というのは一番巧く征服したんではないですか。

河上 そういうものですね。

横光 ああいう場合、自然というのは何か巧く言葉える言葉はないんですかね。もう少しこう……此処で誰か決めては。

深田 西洋ぢやないですか、そういう意味の自然という言葉は。

谷川 西洋でも自然という言葉は多面的な色々な意味に用いていますね。ただその広狭深淺の間に何処かに通じているものがあるのでしょうか。そのために始めて意味の分るような事になるんですからね。

河上 矢張り曖昧だから面白いんだね。

豊島 話が違うけれども三木君の世代という言葉ですが、あれは特別の意味で使ったのですか。

三木 ええ、まあ多少哲学的な意味で生きてはいるんですけれども、そんな事は書けないね。

豊島 何か思想的展開に於けるゼネレーションと

言ったような意味で。

三木 つまり一種の自然なんだけれどもね。

豊島 僕ちよつと読んだ時にね、時代の誤植ではないかと思っただけけれども、また読んでると世代だと分った。

谷川 世代というのは重要ですね。美術史なんかでも、文化史なんかでも。

豊島 そうだ。ああいう風に色々な言葉を拵へるといいね、はつきりした観念を与へる――。

中島 谷川さんが引用せられていたアリストテレスの「詩学」の中の言葉ね。「歴史家は実際にあった事を描き、詩人はあり得ることを描く」とかいうあの句ですね。あれなんかそのままで或る意味の結びにはならないでしょうか。

谷川 ええ、なと思いますね。

小野 ではこれで。どうもいろいろありがとうございました。

底本：『作品』『純粋小説』を語る 1935（昭和10）年6月号（日本近代文学館復刻版）

最近世情批判座談会

芦田 均

関口 泰

高柳賢三:1887～1967、埼玉県出身、東京帝国大
学卒、同大教授、法学者（英米法）。

戸田貞二:1887～1955、兵庫県出身、東京帝国大卒、

同大教授、社会学者。

三木 清

蠟山政道

斎藤龍太郎:1896～1970、早大卒、文藝春秋編集

同人、評論家。

警視庁は世界の二流

記者

暴力団検挙などと云うことは外国でもやるんですか。警視総監が声明を発してやったような

1 1935、警視庁暴力団4500名余検挙。

ことがあつたんですか、何処かで。

高柳 余りないようですね。

芦田 ブラック・メール【blackmail恐喝・ゆすり】

と云うのが跳梁したのは亜米利加だろうね。

高柳

此間^{アメリカ}亜米利加人が私の所にやって来てね、ある亜米利加の舞踊団の「たごた」についてひどい質問をうけた。

芦田 あゝマークス・ショー。

高柳

えゝマークス・ショー。あれが日本の興行界の内幕をすっかり知つてゝね、大分方々から評判になつたと見え、僕にある米人からキツ問に及んだのだ。日本の警察と云うものは非常に有能な警察だと聴いて来た所が、あれの内幕を聴くと、どうも東京の警察がなぜ動かなかつたのか、自分には分らないと云うことを言つて僕を虐めたんですがね。僕もどうも其のことに付いて色々の方面から聴いて居つたので一寸返答に

困った。其時にはお茶を濁して、それはあなたの国だつてキャポーネと云うような事件があるぢやないか。何処の国でも暴力団の力が警察で

どうにもならん。——警察の力が不充分と云うような現象がある。それに日本ではあの種の団体の背後には昔の「壮士」と云う特種の階級が西洋には見られない伝統を持つて居ること、そして今でもなかなかその親方などは巾を利かせて居ると云うような歴史的且つ社会学的な説明をしてお茶を濁したんですがね。あの事件の細かい点迄調べ上げて大分突込んで質問されたので閉口しましたよ。

記者 パンテージ・ショー²ですか。

高柳 マーカス・ショー³でしたかね……債権者のことと色々なことがありますでしょう、劇場の

2 1936.1 東宝が招き日劇で公演しラジオ放送された
3 1934.3 吉本興業が招く

関係の者で。

記者 あれはパンテージ・ショーぢやないですか。

高柳 パンテージ・ショーだったかね。

蜷山 滞在期間の延期の問題で何かありましたね。

記者 その方はマーカス・ショーでした。

高柳 それで壮士の一団がすっかり占領しちゃったでしょう。両方の壮士団が其処は詰め掛けて対立して居ったんですね。

芦田 それは暴力団が直ぐ金を取ろうと云うのではなくして、興業者の商売意識と云うか、一つの妨害手段だから暴力団は指揮者の武器に使われただけなんだ。

高柳 それはそうでしょう。そうして其解決と云うのが新橋の芸者が中に入って巧く纏めたんだそうだ。(笑声) そこに調停制度についての日本のローカル・カラーがあるものとして一寸面白くはないですかね。

蠟山 僕の滞在中、シカゴで、デリガム事件と云う

奴だったか、犯人の行動が数州に出没するので州の警察とフェデラルの警察との間に行違いがあつては……両方協力しなければ犯人はうまく掴まらない、そう云う問題は興味があるように思うな。政治と関係ある方の問題は、カボネ事件のような大事件はなかったようですね。犯罪捜査ではフェデラルの刑事の方がこういう犯罪には效を奏するらしいね。

高柳 フェデラルの警察と云うものはなかなか金が

取れないんです。聯邦議会で仲々金を呉れないのです。それはなぜと云うと議員の中には、聯邦警察が発達すると自分等の身が危くなると云う連中が相当あるので、なか／＼警察の予算が取れないので、首都の華盛頓^{ワシントン}の警察の制度はうまく発達しないのです。市俄古^{シカゴ}などは非常に警

1 Federal Bureau of Investigation 連邦捜査局

察が発達して居る。州の警察制度がね。それで此間来たあのウイダモア先生の話に、日本の警察で使われて居る科学的方法がどの位の程度迄日本で使われて居るか調べた。其意見によると日本の警察の科学的方法は華盛頓の警察よりは宜いけれども市俄古よりは劣るそうですよ。

芦田

警察の組織から言えば日本の警察は英吉利^{イギリス}には劣るかも知れないが、仏蘭西^{フランス}や伊太利^{イタリア}よりは宜いと思うね。現に斯う云うことを言ったことがある。日本の丁度シーメンス事件²、東京市会流職事件³のあつた頃、或る仏蘭西人が、日本では海軍の当事者が船会社からコムミッシンを貰つたと云うので問題になる。市会議員が砂利を食つたからと云つて引摺まる⁴。実に日本と云

- 2 1914 ドイツ・ジーメンス社に絡む海軍・三井物産による贈賄事件。ドイツの裁判から発覚。
3 1928 年東京市会絡みの四大汚職が摘発される。
4 同時に相模川の砂利採取権に絡んだもの

う国は偉い国だ、自分の所ではそんなことは当然のことと思つて居るから警察で掴えるなんと云うことは逆も出来るものでないとい大いに感心されたことがあるが、欧羅巴の国々の中には警察と云うものの威力も及ばない所があるんだね。

けれどもそれを皆が好いと思つて居る訳ぢやないので、例えば最近仏蘭西の警視總監で一番名声を拍した人はシャッペ、此先生は巴里の市民挙げて彼を支持して居る、甚だ変なことで最近辞職したけれども、辞職した後でも非常な人氣だね、警視總監を立派に勤め上げたと云うので。

米国の正当防衛の範圍

蠟山 米国では、正当防衛と云うか、何かそう云うようなものが非常に広く解釈されて居るようだね。巡查などは相当頻繁にピストルを放つね。

簡単にやつちやう。

高柳 法理は別に違う訳ぢやないと思うけれども……

蠟山 我々としては余り簡単だと思われるようにピストルを使うね。

高柳 それは武器取締に関する規則がルーズなため日本よりも個人が多くピストルを持つて居るから、それに対抗する為に打つんだらうよ。

蠟山 ぢや常識でやつて居るんだね。

高柳 そう云う意味だらうと思うね。

蠟山 兎に角ストライキの時などで日本では見られないように警官やナショナル・ガードがピストルや機関銃をどん／＼放つからね。斯んな話がある、嘘か本当か知らないが、夜十二時過になつて自分の家を塀を越えて帰つて来た人が居たんだよ、その家の主人がね。そうするとそれが巡查に打たれちゃつた。門を閉められたから仕方

がないから塀を越えて入った、それを見られて打たれちゃった。そう云うことは日本の警察ではないね。

芦田 日本の警察位ピストルを使わない警察はないでしょうね、自動車が反則やったつて巴里あたりぢやんと打つですよ。

蠟山 それは空弾でしょうね。日本でも、銀行なんかを襲うギャングね、あれは対する設備なんか近頃は非常に発達して居るだろうが、亜米利加なんかではそれが広く行われて居るのかどうか知らないが、とても巧妙な仕掛があるらしいね。ウォール・ストリートの或る銀行では、いざと云うと直ぐ催涙弾らしいけれども、ギャングが来たときとそう云うようなものが発散されることになっていて、そうすると何も仕事が出来ないと云う。そう云う設備をして居る所があるそうだ。

記者 銀行なんかですか。

蠟山 銀行なんかでね、何処か踏むとそう云うものが出ちゃうんですつて。瓦斯でしょうが。それでギャングも仕事が出来なくなる。そんな設備をして居る所が幾らもあるそうだ。

戸田 日本では釦を押すと直ぐ警察に繋がる所がある。

蠟山 警察へ？

戸田 けれどもなか／＼押さない。

三木 後が却つてうるさいんでしょうね。

蠟山 人情でしょうか。

三木 人情的と云うよりも、しつこくつけまわされて敵討されると云うので。

芦田 それから一つは子供の時から教育の仕方が違うと思う。向うの教育では一物でも権利を侵されたらば命に掛けても之を防ぐ、自分の権利を主張すると云う教育があるでしょう。日本

人は先ず物の軽重大小を比較して、百円の物を防ぐ為に怪我をしちゃ損だ、だから僅の物ならまあ取られても安全第一で居る方が宜いと云う、斯う云う考え方ぢやないかね。それに対して權利を主張するとか防衛するとか云う風には考えないのぢやないか。

関口 それから刑期の問題があるんぢやないですかね、日本ではやられても直き出て来ちゃうから。

高柳 ^{ロンドン}倫敦で裁判して居るのを見たんですが、判事が非常におこつて前に居る被告人を叱り付けてるんですよ。あゝ云うことは日本の裁判所ぢや一寸見られない光景ですね。人の弱点につけこんで金をゆするとは卑怯な奴だと云つて叱つたのですね。そうして法律でも矢張り十五年以下の懲役に入れるとか云うことになって居りますね。実際上も相当酷く罰するらしいですね。

芦田 日本ぢや例えば東朝【東京朝日新聞】へ斬込

んで瀕死の重傷を負わせた暴漢でも、二年の懲役で済むんだからね。だから恐喝した奴を十五年も入れると云うんぢや権衡が取れないんだろ

高柳 日本の暴力団と云うものは外の国には見られない色彩があるんだろうね。

関口 政治と結付いてる点。こっちは政党との関係があると思うんだ。

記者 亜米利加の方で選挙の時なんかどうでしょう。

芦田 外国にはそう云うことはないでしょう。

蜷山 タマニー¹なんかどうでしょう。

芦田 タマニーの一人があゝ云う暴力団から金を捲き上げて居ると云うことはあるけれども……。

蜷山 投票の目的だろうが、寧ろ貧民救助のような運動を武器に民主党と結び、その下部組織と化して下層大衆を組織的に動かした。

1 タマニー協会（1789年創立）、移民などの選挙権獲得

色々な世話をして居る。何処から出る金か問題だけれどもね、タマニ一の組織と云うのは大かりな方面委員のようなものがあるんだね。

政党と院外団の關係

斎藤 現在でも政党は院外団に金を出して居るんですか。

芹田 政党が院外団に金を出すと云うよりも個人的に關係のある人が院外団に金を出すと云うようなことはあるかも知れない。

高柳 今でも弁護士などを備うよりは暴力団をやった方が巧く家賃や借金取立をさせることが出来る。それから借家人の方でも暴力団を使って家主や債権者に立向うと云うようなことも大分あるらしい。

関口 法律でやると非常に時間や金が掛ると云うことが結局そういうことになるのではないですか。

高柳 外国よりも掛ると云うこともありませうね。併し亜米利加なんかと較べるとどっちかと思われけれども、ヨーロッパ欧羅巴、英吉利とか大陸の国などに較べると余程訴訟が遅れるでしょうね。従てそう云う法律外の方法で何とか自分の要求を満たそうと云う慾望が起るでしょうね。そうした手近にある暴力団と云うものが一番効果的だと云うので、それを使うと云うことになるんじゃないですかね。

関口 此間内務省の特高課長會議でね、此暴力団の退治を徹底させる……それは結構であるが、併し一方其暴力団を利用し、或は何と云うかね、必要……必要と云うのも可笑しいが必要にさせる事態をどうにかすることを考えたが宜かろうと云う議論が出たとそうですが、そう云う方面がありますね。

高柳 恐らく刑期の問題が大きな問題ぢやないかと

思うんです。

関口 あれを見ると兎に角警視庁管内だけで三千人も溜めて置いてやらないでも宜さそうなのだが、能く溜つたものだと思うですね。能く新聞なんかに出て居る所を見ると明かに犯罪なのがある。そう云うものの検挙は、暴力団狩りをしていなくても出来そうなのだが、どう云うものかね。

記者 今迄は警視総監が政党と密接な関係があつたから、出来なかつたんじゃないですか。

三木 今度も政友系の者が多くて民政系の者が少いと云う噂がありますね。

関口 多少は政友の方がそう云う者を利用するような力を持つ。気分が民政党よりか……（笑声）

1 立憲政友会、1900伊藤博文が与党勢力として組織、原敬総裁時の政党内閣の嚆矢とされる。
2 立憲民政党、1927憲政会と政友会の分離組とで組織される。政友会との二大政党を為す。

芦田 併しそれは小栗君³が民政系と見られて居るからそう云う風に言うのぢやないか。あれは政党政派の考えはない男ですよ。私は高等学校以来の同級でよく知つて居る。

記者 能くその所を弁護して戴きたい。（笑声）

芦田 弁護する意味ぢやないが、そう云う風に政党的意識を挟む人でないことは私は信じて居る、極めて忠実な公僕ですよ。

高柳 極めて真面目な人だね。

芦田 だから偶然そう云う事実があつたかも知れないが、決してそう云うことを意識してやつたのではない。

関口 政友会と民政党ですが、僕等の経験だと政党内閣の時の方があゝ云う連中が僕等の所へやつて来る数が多いですね。

芦田 寧ろ警視総監の人柄に依るんでしょね。そ
3 小栗一雄 1886～1973、この時の警視総監

う云う者に比較的縁故の多い警視總監だと暴力

狩りなぞの徹底した検挙がし悪くなると云う事実があるんじゃないですか。

高柳 社会的に見ればどうしてあゝ云うものが発生するかが重要な問題だね。

蟬山 そう云う存在の理由がある訳だね。

戸田 併しそれを捨て、置く訳に行かない。

芦田 捨て、置く訳には行かない。幾らでも監獄を作つてやつて貰わなくちゃ良民は安心出来ないね。

高柳 食えないと云うこととファッショの氣勢が一時非常に上つたと云うようなことだね。それが類ると共産党事件としての数が非常に増したと云うようなことはあるか知らん。

三木 前の暴力団と云うものが今は愛国主義とか日

本精神とかと云う一種の……。

戸田 カモフラージュですか。

三木 宜い名前を得た、斯かる為に跳梁し易くなつた。前は暴力団だったものが此頃はもつと立派な名称を表面に掲げることが出来ることになりましたから。

高柳 経済的原因はどうでしょう。

芦田 あれは一種の失業救済さ。苦勞してこつこつ働くよりも、一日に二軒か三軒歩いて楽に食えれば、あゝ云う風なことは止められない。

関口 今の暴力団退治と云うのは今迄の市井の無頼退治と云うばかりでなく、司法大臣なんか検事の会議か何かでも言つて居るんだけれども、所謂尊皇愛国の美名に隠れて云々と云う所が今度の暴力団狩りの特色なんじゃないですかね。今迄もそう云うものがあつたけれども、此頃は非常にそう云うのが殖えて、何でもそう云う口実

1 日本共産党は数次にわたる弾圧により 1935.3.4 の袴田里美逮捕で中央組織は壊滅。

の下にやったものだから、皆もう泣く／＼聴従して居たんだね。それを政府の方で……まあ警察の方で取締つて呉れると云うことになつたものだから皆非常に喜んで居るんです。だからまあ社会的にそう云うものを、絶やし得ないと云う分子もあるが、此頃の時勢が、特にそう云うものを作つて居る。それを退治して居るんじゃないですかね。兎に角会社、銀行の暴力団掛りなんかも全く手を束ねて居るようだが、今度はそつちの方の失業問題が起つて来る。(笑声)

記者 何とか生命と云う所は広告取りに面会に行くでしょう、そうすると溜めて置くそうです。三十人位になると丸の内に電話を掛けて直ぐ送つちゃう。その中に僕の知合がいたんだが、非常に好人間なのにやられちゃつた。そういうのは実に怪しからんと思いますね。

関口 今度の三千名と云う中にはそう云うのも随分

入つて居つたんでしようね。不断なら新聞もそう云うことを攻撃する立場にあると思うんだがね。

斎藤 強請つて金を貰つて帰つて来る時には、実はいやな氣持がするんですつてね、あゝいう連中

記者 あとから段々細かになつたんですね。貰いに來るのも関口さんのおっしゃるように皇室關係の記事が一番困るんですね。一つ誤植でもあると、すぐつけ込むのですから。

関口 地方の学校なんかに売りに來るのは困るそうですね。皇室の御名前の入つたのを持つて來て、それを買わないと教育者にあるまじきことだと云うようなことを言うんですね。そういう普通に知られて居ない出版物が随分あるでしょう。

斎藤 教育勅語をやつてゐるのがあるそうだ。
高柳 動機は純な暴力団もあるんじゃないやしません

か。

記者 併し新聞社や雑誌社をやつて居る者がある
と、あの仲間には直ぐ分るんです。誰が何処へ
行つたか直ぐ分るんです。又強請^{ゆす}られた額は幾
らか、直ぐ仲間に分つてしまうんです。

三木 乞食に物をやると仲間が続いて沢山やつて来
る。連絡があるんですよ、御互いに。

記者 政党的にやつてゐるような、あゝいう仲間には
ないのですか、生活に困るというような人は。

芦田 有るかも知れませんが。併しあゝいうのは親
方が付いて養つてゐるんですね。

記者 その親方はどうしてゐるのでしょうか。

芦田 その親方は大きく何処から出るんですよ。
五円や十円の金は必要でない。

記者 軍部が逆にギャングにねぢこまれて困るとい
う話があるんですね。とても金を使い過ぎてゐ
るというんです。

芦田 それは聞きませんが此頃金を出さなくても
う。私の聞いて居るところでは軍部は成るべく
色々の団体に金は出さないという方針にして居
るものだから、一部のそういう仲間から悪口を
言われるのではないのですか。あゝいう大臣や
次官を置いては怪しからんということを使う理
由の中に、一向我々に金を呉れない、為になら
ぬという動機があるというような話を聞きまし
たけれどもね。

記者 仏蘭西なんか内閣がぐるぐる変わるでしょう。
そういうところでは所謂政党と結び付いた暴力
団が発生しそうなものですが、仏蘭西は少いの
ぢやないんですか。

芦田 それはさつきの教育の問題ですよ。外国の政
治家は力で押したら意地になつたつて引きやし
ません。殊に力で圧迫されて引つこんだとなつ
ちや、世の中に立てない。その代り喧嘩になれ

ばポアンカレ¹でもクレマンソー²でも決闘しますよ。だから暴力団を使うたつて算盤に合わないんだね。結局日本ぢや、暴力団を使つても算盤をして見ると引合うんだね。

三木 出す方でもそうでしょう。損得の勘定で出すので、自分の権利が侵されたとか名誉が傷つけられたとか言うことは考えないので、怪我しない方が得だから、うるさいからと云うので、出しておくことが多いでしょう。

斎藤 結局、政治が悪いということになつちやうんですね。

芦田 政治ぢやない、社会通念です。

三木 うるさいから、まあ出しておけということになるんですね。

¹ Raymond Poincaré(1860 ~ 1934)フランスの首相・大統領を歴任
² Georges Clemenceau(1841 ~ 1929)フランスの政治家・首相

関口 『うるさいから』ということが日本人のあれにありますね。

蛭山 それに理屈を言つたつて通らないしね。

斎藤 足を何度運んだから、少し御出しになつたら、宜いでしょうというのがあるんだそうです。

蛭山 政治家なんかで、そういう人間を使うことに愉快を感じる人もあるんだね。

三木 親分気取ですね。

関口 それは矢張り徳川幕府からずつとあと引いて来てるんでしょう。明治に発生したものでなくて。

蛭山 僕は、或る教育者が、僕だつて暴力団の幾人位は使えるよと言つたことがあるんで驚いたことがあるが、そういう気持があるんじゃないかね。

三木 自分の為に働く者、命を投出す者が幾人いる、などと吹聴して自慢するんですね。

「渡りをつける」という話

芦田 そういうことが日本の道徳にあるんじゃないんですか。例えば博奕打は「渡りを付ける」ということを言いますね。ところが立派な紳士階級でも世の中で仕事をしようと思えば、渡りを付けなきゃ出来ないでしょう。理屈でいくらい事を言ったって、渡りが付いて居なかつたらポンと蹴られちゃう。結局日本の社会というのは如何なる方面でも、昔からそういう習慣がある。

蠟山 渡りを付けるというやつね。例えば自分のところに言つて来ないから反対だというんでしよう。渡りを付けないと事柄自体には賛成でも。

芦田 事柄自身のメリットできめるんじゃない。渡りが付いて居れば宜しい、斯ういうことですね。
高柳 或る人は立憲主義は結局渡りを付けることで

あると解釈して、ある立憲主義者から憤慨されて、その人は非常に温厚な人ですがまれに見る激しい論戦をやったことがあります。渡りを付けることが、立憲主義とは怪しからんというんでしてね。成程日本では渡りを付けないと、仕事やりにくいようですね。然しそれを立憲主義と混同するのはどうかと思う。

芦田 それは日本の上層階級ほど、渡りを付けないと仕事が出来ないという話だ。政治でもね。

関口 渡りを付けるということはまだしも、理論通りにゆくこと、論理が通つたことを輕蔑する。理屈はそうだがね、といつて決して理屈通りにはやらぬ。

戸田 暴力団が忠君愛国を表看板に大抵言ってますね。こういうことを人の前にづけつけ言い出して来たことは随分變つて来たことで、これは名前が大抵いゝ名前を付けて居ます。

記者 十年前までは細かな金をせびりに来なかった

んですが、此頃細かな金でもやって来ますね。

関口 それだけ普遍化したんでしょ。

記者 矢張り殖えたのは不景氣の為ぢやないですか。

蛭山 実際前からそういう者の調査したことがあるんですか。今度何千人というように検束したんですが、それは前よりそんなに殖えて来たんでしょか。

斎藤 人数の多くなつて居ることは事実ですね。

三木 それはああいふことをする階級の人間には、失業者が多くなつたためぢやありませんか。

蛭山 田舎から出て来た人もあるんぢやないんですか。商売になるということが分つてから。

芦田 併し、大阪は少いね、東京に比較して。東京は比較にならないほど多いです。

高柳 田舎はどうですか。

芦田 田舎は少い。

三木 田舎では忠君愛國を問題にする余地がないほど、思想が統一して居るから。

高柳 強請の種が出来ない。

芦田 そういう点ぢやないと思う。矢張り田舎ぢや直ぐ警察へ知れるからでしょう。

警察と暴力団の関係

高柳 従来は警察と暴力団とアンタント【entente 協約】があるというような疑いが相当に懸けられて居つたんですがね。それから外国人から軍部と暴力団とがアンタントがあるんぢやないかという質問がよくある。外国人に対しては勿論そんなことはないだろうと言つてますがね。寧ろ軍部というようなことを世間で騒ぐようになったから、それを利用する悪い奴が変なことをやつたんだ、といつて説明して居ますがね。

近頃では警視總監があゝ、という声明をしたし、はつきり警察のものがそういうものに対しては反対というような声明をしたから、我々が説明する時には楽になった。

関口 実際上はそれが一番大きい効果で、それで訴え出して来たんですね。今迄は訴えても警察で取上げないということがあったんでしょう。又一遍位警察でつかまえてもじき出してやるから、又仕返しをされるので泣寝入りになった。今度はこの方針で貫いて行くというんですから、そういう心配がなくて訴え出るようになったんですよ。

斎藤 日本では昔からそういうことがあったんじゃないんですか。

高柳 事実は分りませんがね。

芦田 あったかどうか知らんけれども警察へ行く、と、ああいう人の消息は非常によく知って居り、

顔も知って居る。それは暴力団許りでない。掏摸の親方もよく知って居るといふのは、矢張りその関係があったんでしょうね。

関口 つまり犯罪捜査の必要の為にあったんじゃないんですか。遊廓が警察に非常に必要であるように、あゝ、という団体が科学的犯罪捜査がないところには必要があったんじゃないんですか。あれを犯罪捜査の機関に色々な方法で使い得るでしようからね。

高柳 確かにそういうことがありましたね。だから科学的犯罪捜査の方法を発達させることが一番いいのでしょう。

関口 蛇の道は蛇というのは、それですからね。(笑 声)

高柳 左翼を圧迫する為に或る程度迄利用したんでしょうね。共産党やその他を、ぎゅうぐうやつたように聞いてますがね。矢張り或る程度まで

相当使ったんじゃないんでしょか。

蠟山 それは伊太利辺りでも、ファッショが表面に躍り出る迄には、政府も相当暴力団として使いましたね。

高柳 伊太利のファッショは、公認の暴力団ですね。
蠟山 それで共産党は押えられてしまったが政府もとられてしまった。

高柳 共産党の力の哲学に基いて、こつちも力の哲学を使った訳ですね。

美濃部問題のその後

記者 美濃部問題で、文部省は大学新聞に多少の掣肘をして居るように載っていますが……。

1 かねてよりあつた右翼による攻撃を受けて、1935.2.18菊池武夫が貴族院で美濃部達吉の憲法解釈¹¹天皇機関説を攻撃、首相岡田啓介も天皇機関説反対を唱える。3月衆議院の国体明徴決議、4月在郷軍人会が排撃パンフレット配付、この後檢察による起訴の恫喝の前に9月美濃部は貴族院を辞職した。「学説」の国家権力への屈服事件。

高柳 此の間の文部大臣が大学へ来られたということ

とは、大学を掣肘するということのような意味があるように新聞紙では伝えられては居つたのですけれども、事実はそうではないので、あれは文部大臣になれば、必ず帝大を一遍巡廻するという慣行になつて居るらしいんです。

三木 軍部なんかで要求して居る解決とは、どういうことなんですか。

高柳 具体的には何も言つてないようですね。どういう風にしろということとは……。

三木 それは文部省や内務省あたりでも既にやつてゐるわけでしょう。それ以上もう少し具体的なことを考へて居るんでないでしょうか。それであれば辻褄が合わないように思いますがね。

高柳 何か考へて居るんでしようけれども、それを具体的にどうしようという程明確に言つてませぬね。

関口 大学のお話ですがね。実質的には確かにそう思いますけれども、矢張り文部大臣は外に對しては恰も軍部なり何なりから徹底させるということをやって居るかの如き効果を収める氣持はあつたんでしょうね。だからあゝいう風に書くように言つたか、或は書いたからそれを非常に喜んでその通りだと言つて居るんじゃないですかね。

高柳 それは政治家としての文相の心境は自分には分らない。

関口 つまりそれが解決の一つの方法でもあるのぢやないんですか。

軍部と大学

記者 戸田先生如何です、軍部對大学問題は。

戸田 直接には軍部は、大学に對して執銃教練をやる、それを反對して居るのは、東京帝大と九

州帝大です。東京帝大は頑として反對して居る。その為に前の配属將校などは、僕の使命はそれだと言つて居る。東京帝大に是非教練をやるというので、その為に待命¹になつたかどうか知りませんが、森本君が待命になつちやつた。その前の湯本大佐も、軍部として大学に教練をやるといつて居ります。具体的にはそれですね。軍隊教練で精神的訓練までやろうという意味があるんじゃないんですか。だから大学はそこ迄御世話にならんでも、人格教育はこちらでやる、という訳になつたんじゃないんですか。

記者 満州事變で荒木さんを招んで講演して貰いましたね。緑会か何かで。

芦田 大学で講演を頼むのはそういう深い意味でなく、多少新聞にでも名を出すとどんな顔して居るか見たいというので、一遍あの人を招んで話

をるところを見よう、というのがあるんじゃないんですか。

蠅山 大学は直接招んで居りません。学生の中にあ
らゆる会がありますからね。そのどれが招んで
居るか分らん。皇道研究会というのもあるでし
う。

関口 寛先生の講演が非常に流行つて居る。

蠅山 それは前からあるんですが、最近「国体と
政体」とに就いての講義のようです。

三木 憲法は文官試験の関係から聞く人が多いん
ですね。

蠅山 あれは学生の会が招んで……。

関口 講演会の様にして……。

蠅山 ……だろうと思う。

三木 本で読むのは退屈だから、聴いて手早く覚え

2 寛克彦 1872～1961、東京帝大法学部教授、天皇中心
の国家主義を唱える。

ようというんですね。

蠅山 書物だけでは矢張り覚えられない気がするからで
しょう。

高柳 寛先生の皇国憲法という書物の大きな広告が
此間大学の前に出て居るんです。寛先生に御出
しになったんですかと聞いて見たら、いやそん
なものを出した覚えも何にもないと言つて居ら
れたんですがね。先生の受験に手頃の著作がな
いので秘密出版で先生が大学で講義されたのを、
或る無責任な出版社が秘密に出版して売出した
ものらしいんですがそれが非常に大きく広告さ
れて居つたのですよ。

関口 今迄新聞社の図書館にも備えてなかったん
ですが、今度買ったんです。皇国行政法と古神道
大義、滝川問題の時には多少学生運動があつた
んですが、今度美濃部問題にはちつともないの
はどういう訳ですかね。

芦田 それで思い出したのは、面白いことがあるんですよ。ヒュー・バイヤス¹というイギリスの新

聞記者が支那の雑誌に書いてますがね。日本というのはどうしても不思議な国だ。美濃部博士の講義を聞いて少くも同意見の学生が少し位はある筈だが、今度のような事件が起つても一人も声を出さなかった。どうしても欧羅巴人には理解出来ない現象だと書いて居るね。

記者 あの時分の美濃部学説擁護の為の演説会は全然ないんですか。

関口 あの直後は丁度試験時分でしたがね。

三木 問題が問題だけに非常にやりにくいというところがあるでしょう。デリケートの問題だから。

記者 新聞や雑誌は？

三木 新聞や雑誌でも、一寸どうかすれば法律に

¹ Hugh Byas 1875-1945、スコットランド出身。1914(大正3)年にロンドンの『タイムズ』の特派員として来日

引つかゝるということがあるでしょう。

高柳 矢張り、皇室に関することは、論争に供した

くない、という気持があるんですね。それを政黨屋が、国体問題をつかまえて、政事に利用するというような態度があるということは、日本人が皆んな憤慨するんですね。而も学者も之に参加すれば同じく政治問題になっちゃう、そんなことは日本人としてもいやなことだ。従つて論争問題にするというようなことに対しては矢張り一種の趣味的にいやだということもあるんですね。国体以外の問題ならば堂々と論争して間違つて居る説はどうすると云う態度に出るべき筈であるが、国体問題は是だけはそつとして置きたい。何処迄も政治の問題などにしたくないと云う気分が学者にもあるんですね。それは一見すると学者と云うものが論争しないと云うと、外部で言つて居る理由を総て認めたように

考えるかも知れぬけれども、事実それはそうぢやなくて逆に之を政争に利用したり輕卒に議論して居る奴が不都合だと思つて居るのですね。そう云うことを政争の問題に使うと云うことが不都合なんだと云う感じの方が強くて、それが為に沈黙と云うような態度が起つて居るようにも思われますね。

記者 何ですね、經濟問題と違つて、若い人程あの問題は或る程度迄の興味を感じさせないのぢやないですか。其方が多くないですか。特に研究して居る人は別として、一般に、そう云う氣持があるんじゃないですか。

芦田 司法大臣があの問題を新聞に話して、いや御時勢ですと言つたでしょう。その言葉から推せば司法大臣と雖も時勢の波に動かされると云う事になって、あれは司法省の威信の爲には甚だ残念な言葉であつたと私は思う。矢張りそう云

う氣持が全般に行互つて居るんじゃないですか。
三木 美濃部さんの処分だつてそうでしょうね。世の中の動きを見た上で決めようと云う態度です。だからなかなか決まらないようですね。

関口 唯ちつとも説明されて居ないからパンフレットや何かで読んで、反對説だけを聴いて、美濃部學説と云うものはあゝ、云うもんだと思つて居る誤解は、解いてやる義務が憲法學者にはあるようだね。

蠟山 唯一つあの當時僕の考えたことは、憲法學には限らないけれども、社会科学の使つて居る用語にはなか／＼沿革もあり、特別の意味もあり、法律學なら法律學の用語と云うものには一定の素養がなければその意味が分らないものがある。それが普通に世間の問題になると勝手に解釈されるんだね。されても仕方がないんだが、そこで其二つの意味を巧く説明する、世間は斯う解

積するが実は斯う云う意味であると云うような

ことを諄々と書くだけの余裕は、あゝ云う時機には学者と雖もないと思うな。それに根本には思想があるんです。根本問題の思想はそれは又大事業だ、用語の上で向うが衝いて来るなら用語を解釈して行くだけでいいが、それが同時に政治問題とされるんだから、その場合に、何と云うかな、落付いた気持と云うのは事件の進行最中や直後にはないと思う、それで矢張り今後出て来ると思う。又しなければならぬと思うけれども、あの時機にはそう云う学問と実際の二つの問題を持つて居る訳で、学者としてだけぢや出来ないと思うな。殊に憲法の講義をして居る、その衝に当つて居る人にはね。

戸田 以前には南北朝問題があつたですね。あの時は国史学者の間には非常な議論があつた。北朝正統論が非常に有力だった。僕等一年生の頃だつ

た。

関口 其時は三上さん¹が被告の位置ですね。

蜷山 それは多く史実の解釈に根拠して居る、国体問題は史実のみの問題ぢやない。

関口 今では史実の問題と国民的信念の問題との區別すらも認められない。

戸田 あの時も史実としての問題ぢやない、デジュールディファクトの問題だった。

関口 あの時には普通教育の教科書に文部省が入れたと云うこと、今度の場合は大学の憲法学の講座で斯う云うことをやって居ると云うのだからちよつと違ふと思う。より学術的であり、片方はより教育的と云うか普通教育、国民教育の教材としての問題だし、今度には憲法学の学者が大学に於いて憲法学を講義して居ると云う場合だ

2 1 三上参次 1865 ~ 1939 日本史学者
de jure (公的機関認証), de facto (事実上の)

からして、多少差があると思いますね。

戸田 社会的の影響が少いんじゃないですか美濃部さんの方が。

関口 詰りあゝ云う風な問題にしなければ、議会の問題にしなければ。

三木 世間では誰も機関説というようなものを知らなかったでしょう。

関口 我々は法律をやつて居ると云うので聴かれるんですよ。機関説というのはどうか、美濃部学説はどうだとか。まああれが危険思想とすれば、それを広くしたような逆の效果がありはしないかと思う。

三木 そうですね。

芦田 あゝ云う問題は併し両方の学説を知る為には矢張りもう一遍本を読み直さなければ、昔習った憲法の知識だけや言えない程度の問題だね。我々はもう一遍読直して成程斯う云う風に言っ

て居るのかと思うようにしなければ。ちよつといきなり聴かれ精確に、茲と茲とが違ふのだと云うようなたつて両方のことを列挙的に言えと云つたつて難しいですよ。

関口 僕は学校ぢや上杉さん³に教つた、上杉先生と寛先生なんだ、美濃部先生の講議は今度初めて通読した。そうして見ると前に上杉、美濃部論争の時と大分違つて居る、修正と云うか、余程氣を付けて書いて居る、美濃部さんは。それだからあれを全体として読めば、あんな問題にどうしてなるんだろうと思う位ですね。非常に国体の所なんか能く氣を付けてあるね。

高柳 或る特殊の学問はその学問のハイポセシス【Hypothese 仮定】と云うものがある。仮定を置いてその観点からものを見ることがあるん

3 上杉慎吉 1878～1929、天皇主權説を主張し美濃部と対立

です。で、憲法なら憲法を説明する場合に色々な法律関係な説明する目的からある学理的ハイポセシスを作る。かゝる傾向が総ての学問にある。自然科学にもあるしそれから社会的な学問にもある。其仮説の下に立てられた議論は一部の真理を含んで居る。併しそれだけが唯一の真理であると斯う云う意図ではない。所が一般人は仮説と云うものの下に多くの学問が立つて居ることを知らないですね。

それである学説が絶対の真理であるかの如くに考える。其為に其説は危険であると云う風に直ぐ考えるんですけども、学者が考えて居るやつは其仮説の下に於いては斯う云うことになる。と云う風に考えて居るんですね。詰り学問と云うものは仮説を使わなければ発達しないんですから、そう云う観点から見れば斯う云うことになる。と云うことを言つて居るのを、一般人は

この点を弁えないで、それが絶対の真理であつて、外の反対のことを言う説は皆間違ひだと、斯う云う風に考え易いんですね。まあ国体論の場合でも矢張り即ち法律学的仮説と云うこと皆忘れて、直ちに我々の感情又は信念として皇室に對して尊敬の念を感じることに矛盾すると云うので攻撃をするので、問題が混乱に陥るようですね。

東西市會議員

記者

芦田さん東京市會議員の素質が非常に悪いと云うことは定説になつて居るようですが、市會議員の素質が悪くなつたかと云うことを政治家として、一つ話して戴きたいのですが……。

芦田

東京人は算盤に暗いと云うことが一番大きな原因でしょうね。もう少し徹底すれば良い議員が出ると思う。詰り良い議員を出さなければ

俺達が損をするんだと云う觀念がまだ足りない。

大阪の市會議員が良いと云うことは東京人よりも打算的にもっと徹底して居るんだと思う。之をもう少し外の方面から言えば、東京人が自治体と云うものの觀念が一向分つて居ない。自治体を愛すると云う心が足りないのだと斯う云う見解もあるでしょう……色々の見方があるが、それも当つて居る。全体、東京と云う所は植民地で※「#1字不明」あね。何等今迄都市としての有機的な伝統を持たない土地でしょう。だからそう云う所では御互いが相知る——隣保共助と云う觀念は薄いと見なければならぬと思う。そう云う方面から見れば結局自治体としての有機的な關係が市民相互の間に薄いと云う原因もあるだろうし、それはもう色んな原因が加わつて斯う云うことになつて居るんじゃないんですかね。だから唯、之を簡単な理窟で説明するこ

とは困難ぢやないんですか。

記者 政治の中心だし、代議士のボスも多いし、ま

た勿論利権も多いだろうから、そう云う点から

……。

芦田 そう云う原因も、勿論、あるかも知れぬと思

います。併し、それが非常に、大きな原因を為して居るとは、思いませぬがね。

関口 是は蠟山君の方ですが、選挙する人がされる人を知つて居るというのが基本的前提の筈ですね。それが東京市の選挙に最もないでしょう。候補者と云う者を全く其時迄は誰も知らないんだな。それは、どの町村よりは勿論、大阪市なんかの場合よりも激しいでしょうね。それから又新聞なんかの關係もあつて、大阪ぢや市会のことを書くし市の人のことも書くけれども、東京市では帝都である為に国政のことは書くけれども市政のことは余り取扱わない。尚更市民が

冷淡になるし知識も持たなくなる、関心も少くなる。そこで選挙をやるから選挙と云うもののが非常に無意味なものになるんじゃないですかね。

詰り選挙制度の一番悪い所を東京市が示すことになる。是が今度東京市の区域が非常に拡がつてそれがひどくなり同時に今度は市会と云うものの議員の数が非常に多いからして、自治体でまあ膝付けして話をする、と云うようなものではない。多数で出たとこ勝負の決議をする、二つの原因で、此俣ぢや東京市政と云うものはひどくなるばかりだと思ふ。

蠅山 首都、而も大都会の……首都だつて大都会でない所もあります。帝都であつて且つ大都会に對して、普通一般の市町村制を布いて居る所は全く世界中にないと思ふな。だから特別の取扱いをしなければいけないのぢやないですか、何をすべきかは別だが。

斎藤 兎に角我々は住んで居る区民を知りませんか、全く隣同志でも分らない位だから。

高柳 大都会では一般に考えらるゝ自治と云うようなことは空想であつて、そうして自治と云うものが全体どう云う意味だと云う本質的の意味から言えば、寧ろそう云う場合には今のような制度は全廃しちゃう方が正しいのぢやないか、それは君（蠅山氏に）の方の領分で俺にはよく分らないが。

蠅山 僕は選挙が日本人には向かないと云つて選挙制度を止めたら宜いだらうと云う人があるけれども、選挙制度全体を廃めると云うことには賛成しないのだが、或る所には選挙制度と云うことが指導者を選び出す一番宜い方法とは思われないのだ。そう云う意味で東京なんと云う所も普通の市町村制によつて議員に市政をやらせると云うことは第一無理だらうと思ふ。一体自治体

の起源は、ゲマインデとかバリツシュとかカントンとか小さい村落のようなものが共同事務の処理から発達したんじゃないでしょうか。しかもその発達沿革なしに、植民地的の変化の多い大都会なんかに施行すると云うのは抑々無理な話ぢやないかな。

高柳 西洋の自治制と云うものを本質的に理解しないで上っ面を理解して日本に利用したと云う所に弊害があるんじゃないかね。

蠟山 議会制度だって人民が自分の代表者を選ぶと云うことと、中央政府が適當の人を任命すると云うような形式で来ると云う二つの起源があるのだから、日本は公選制度を少し形式的に享け入れた傾があるんじゃないかな。英吉利なら英吉利の或る時期の選挙制度と云う風に、広く世界諸国の選挙制度、自治制度と云うものを十分

1 Geneinde 協同体・地方自治体、Kanton 州

に研究しなかつたんじゃないかな。

高柳 詰り西洋の形式だけを真似て、そうして能く西洋の制度と云うものを理解して、そうして精神に依て日本の社会に合致したように作り出して行く、そう云う種類の外国研究と云うものは為さなかつたんですね。

蠟山 東京市のように首都であつて、そこに中央政府があつてそれと自治体が競争の地位に立つて居るような処では、片方には中央政府の経営する機関があり、他方には市會議員の自治機関を中心にしてやつて居るのがある、能率はまるで違ふんですものね。同時に中央政府は自治体に非常に冷淡ですね、東京市に自分で居りながらね。そう云うような意味で僕は両方とも悪いのぢやないかと思う。だから茲でいきなり官選制度を布いてしまふと云うのも極端な論だけれども、現状のような状態だと全く宜くない。其間

には非常に色々な方法や制度があるだろうと思う。それが研究されて居ないと思う。

記者 向うでそう云う例がありますか。

蠟山 ^{ワシントン}華盛頓なんかも中央政府の直轄ですね。多くは特別制度をやつて中央政府が非常に關係して居るか、又は大いに権限を与えている。^{ロンドン}倫敦はカウンティー・カウンシル【County Council】、一つの県ですね、いわば特別市制です。そうして中央政府の向うを張つてイフィシェンシー【efficiency】が高い。そうして倫敦の警視庁は日本と同じように中央政府の直轄です。^{パリ}パリ市だって、何か首府として特別な扱いをして居るんじゃないですか。

関口 是だけの大きな予算をもち、事業をしている市の行政機関と云うものの組織が原始的と云うか小規模か、そののを研究しなければいけない。

蠟山 それと東京市に住んで居る人は中央政府に直

接間接に關係して居る人が多いものだから、市と云うものに対して余り大して重きを置かないんでしょう。市政に厄介になり乍ら興味を有たないんだからね。東京市当局だつてそう云う人間を相手にしてやるんだから、すっかりした人が出なければ駄目なんだ、所が出ないんです。

関口 市吏員も官吏と比べて粗末なようですね。

三木 議員は？

関口 議員もそうですが、吏員がね。官吏とは段違いでしょ。

三木 市に關することはあらゆるものが市會議員の手を経なければ駄目だと云います。小使に至る迄そうだそうですね。

蠟山 日本の市町村制は議員の権限が少いのじゃない、その意味の自治権は相当多い。拡張されて居るんです。だから濫用すれば理事機関を掣肘

出来るんです。だから自治権の狭いことが能率を害して居るんじゃないんですね。市会は相当大きい権限を持つて居るんです。だからそれを濫用すれば濫用出来る。

記者 それを濫用して居る状態なんですね。

蠟山 まあそうですね。詰り議決機関が気に入らなければ理事機関をどう云う風にでも引き回すことが出来るのですよ。だから理事者は仕事をする為には議決機関の御機嫌を伺わなければいけないんです。そう云う風になつて居る。

芦田 牛塚さんが市会議員の立候補をした時に非常に感銘した。あの人は別に市会議員をやつてそれで名声が加わる訳でもなからう。結局まあ東京市政の為に働こうと云うのでそれで市長になった。市長になつた所であの人は東京府知事

家 1 牛塚虎太郎 1879～1966、富山県出身、官僚から政治

もやつたんだから位が上になるとは思えないんです。市長の俸給を当にしなければならぬ身分ぢやなしね、退職金を貰う必要のある人でもないし、そうしてあゝやつて頑張つて居るんだから、私は何とかしてあゝ云う市長を、兎角の批評はあるかも知れないけれども、寧ろ市民としては歓迎すべき人だと思ふんです。けれどもそうかと云つて先生のやつて居ることが全部宜いと云うのではないんですよ。大体の見透しとしてはあゝ云う人が市長をやつて呉れるのは望ましいような気がするんです。

関口 それにしてもあの人が出る時に、市長になる時に市会議員の納得が悪かったですね。だから或る勢力に押されて公明を欠いた傀儡として出て来たと言ふような気がしたんですね。そうして今でもその傀儡を使う勢力が、まだ市長にした時の約束を履行しないからなかなか止めさ

して呉れないんだと云う。成程そう云うこともありはせぬかと云うような気がするんだね。

芦田 我々はそう云うことを平素注意もしないから分らないのだが……。一つの点を掴まえての大きな話なんです。

北支政権と日本

斎藤 芦田さん日支親善の問題ですが、外交的には親善の氣運を醸成しつつあるのに、それを軍部が幾分反対的立場をとっているというようなことはありませんか。

芦田 それは何を親善と云うかと云う事から色々議論が出ることだと思ふから難しいことだと思ふけれども、少くも満州事変当時から較べて支那が日本との接近を希望し又接近の方向に向つて来て居たことは事実でしょうね、けれども元々日本と支那との関係と云うものは台湾事件

以後なかなか曲折のある関係ですからね、日本と独逸や瑞西との関係のように簡単に行かない。色々な歴史もあり、お互いの感情も交つて今日の結果になつて居るんだから、之を一朝一夕で直ぐ良くするとか、親善友好の關係にするとかいうことを求める所に無理があると思うんですね。結局は民衆と民衆との氣持というのがピツタリ来ない以上は、本当の親善ということは出来んことで、然らば支那と日本の民衆が悉く均等の立場に立つて胸襟を開く立場に来て居るかという、勿論来て居らんとします。けれどもそれは不斷に努力を要することなんで、殊に政治上、經濟上の關係が其間に色々影響する国柄なんだから、ジャーナリズムが「日支親善」だと云つたら、直ぐ其通り行くと、いう訳にはいかないと思うんですね。

記者

蒋介石政権ですね、蒋介石が少くとも日本と

の關係を緊密にしようという經濟的根拠は何処にあるんですか。

芦田 經濟的根拠は直接それほど多く出て居らんと
思う。何故ならば支那が經濟的に急迫して居る、
銀の問題で困つて居る、然らば日本と接近して、
直ぐにそれが解決出来るかという、そう簡単
にはいかん。例えば日本が支那からものを買う
といった所で、無論日本は支那の原料品を買い
得る地位に居ますよ。綿でも沢山取ればね。
併し、日本が手を出して呉れなければ、支那の
經濟はどうしても救えないという差迫つた問題
はないと思うが、結局は經濟問題と云えば、蔣
介石の政府自身が浙江財閥を背景にして、財政
問題に少からず援助されて居るから、浙江財閥
が日本との關係を悪くして呉れちゃあ困ると云
えば、蔣介石政府はそれを聞かざるを得ないよ
うな事情にある。

だからそういう問題を、間接に經濟的原因と
云えば云えますね。それ以外に通商貿易の關係
とか、銀或は金融の關係で、どうしても日本と
緊密にしなければならんという事情はないと思
う。寧ろ政治的考慮ぢやないかと思ひますね。
記者 併し新聞では、日支間關係は好転して居るよ
うに言われてますね。

芦田 転向の契機となつたものは、今年一月の広
田さんの議會演説だつたでしょう。併し日支關
係を何とか調整しなければならんという氣持を、
支那側が持つて居つたことは、其以前からの事
です。唯日本のジャーナリズムが取上げたのは、
軍縮會議の問題が下火になつて、之に代るべき
トピックを探した。そこで日支親善の問題に飛
びついたということは多分にあると思うですね。
記者 満州の親日的態度に依つて、内部に動搖を起
して居るようなことはありませんか。

芦田 満州の治績が良くなれば、それが支那の大衆の間に影響を与えるということはあり得るでしょうね。併し今度の政策転換が……。

記者 満州の産業から云つて支那はどうなるんですか！

芦田 満州の産業と支那の産業の関係がですか。

記者 それと日本と……。

芦田 それは満州内部で支那人の投資を利用しようという運動もあり、又支那人にして支那のような不安な状態は困るという所から、満州で仕事をしたいという支那人も勿論あるでしょう。現にそういう人も来て居ると思うが、併しそれが日支関係にどれ程影響して居りますかね。蜷山さん、どうです。

関口 銀の問題はどうなんです。銀があゝなつて非常に困る。

芦田 併し日本はどう助けようもないでしょう。

関口 支那が非常に困る。一方アメリカが困らせる元を造つてゐる。アメリカが頼りにならんから、やはり日本と、というようなことはないですかね。

芦田 やはりそれは多少原因は為して居ると思うけれども、大体支那の銀は幾らあるか、精確に調べた人はいないけれども、二十五億元あるというんです。所が最近数年間非常な輸入超過の状況が続いて、昨年の如きは十億の輸入に対して五億元位しか輸出がなかった。だから多い時には貿易のバランスから云うと五億近くも輸入超過になつて居るのがあるんですね。けれども物資が多く這入ったから困るというよりも、銀の輸入が減少した事に影響されてます。華僑が送つて来た年々の銀の送金が、多い時は五億位あつたつていうんです。それが最近には華僑が到るところ商売が立つて行かないというんで、昨年

などは五千万元位しか送つて来ない。それが銀の輸出入のバランスを狂わす原因になって居るということです。併しだ、あれだけの銀が出たから、支那内地で全部行詰つて仕舞うかと云えば、そうでもないと言うんだね、何て云つたつてあれだけの大きな国に銀が相当あるんだから……併しアメリカの銀買上げ政策が当分続くと見なくちゃならんが、あの政策が熄まなければ、支那政府が銀の輸出を止めて見てもやはり銀は流出するでしょう。

それは支那ばかりの問題ぢやないですよ。満州がそうです。去年から今年へ掛けて満州が、約四五千万元は少くも出たと云いますがね。併し或る人はそんなこつちやあきかない。もつと遙かに巨額の銀が出て居るという。満州だつて今のような銀の流出が続けば困るですよ。そうかと云つて、金本位という説もあるが、之も相

当の年月がかゝるでしょう。此間北支から来て居つた殷同¹などは、どうしたつて金本位に直さなければ仕様がな²いと云いますがね。だけれど、金本位に立直すと云つて見たつてね、其準備は相当金³が要るんだから、何処から準備金を調達するかつていう問題になる。支那は不幸にして金も出なければ銀も銅も出ない。こんな問題になると吾々素人には分らんが、十年十五年は、最小限掛かるでしょうね。

関口 張公権²が日本に來ましたね。あれは共產党掃

蕩費が年に四千万元位かゝる。それで四千万元だけ張公権が、中国銀行ですか、あすこに調達に云つた。所が張公権が金を造るらしい。けれども、日支親善までやつて金を造つたつて何にもならない、というようなことがある……それ

1 1889(明治20)～1942、中華民国の政治家・軍人
2 1889～1979、上海中国銀行副經理から中央銀行副總裁を歴任するなど、金融人

から私も浙江財閥が日本との関係を調整してくれない限り、君達の国民政府を最後まで支持することが出来ないぞ、というようなことは云ったと思うんです。日貨排斥その他の為に随分支那の商売は痛手を受けて居ますからね。

記者 軍部の話は面倒になりますけれども、北支政策に対する軍部と外務省の関係が非常に円滑を欠いてると思うんですがね。

芦田 勿論軍部の中には、政府の外交方針と違う考えを持って居るものもあるけれども首脳部にはそう違うものがないと思う。

記者 出先官憲がやり過ぎるんじゃないですか？

芦田 あゝ、いう事件の真相は一寸雑誌に書く訳には行かんね。

1 1936年初め外務大臣広田弘毅は対中国親善論を唱えるが、5月孫永勤率いる抗日部隊に手を焼いた支那駐屯軍が国民党軍に河北省から撤退を要求、外務省を通した執り成しに対し、参謀本部は一蹴し、以後華北から国民党勢力を一掃することが国策となる。

記者 広田外相が非常に気の毒のような気がしますね。少くともジャーナリズムの言草では、軌道に乗って居るようになったのを、直ぐ軍部がブチ壊わす……。

芦田 それが日本の特徴じゃないんですか。此間英吉利の新聞記者が来た時にはそう云って居った。「私の国では外務大臣はあんなことがあれば疾うに辞職して居る。不思議な国だ」という。それが日本の特殊性で、それだからと云って、外務大臣が辞めたり、内閣が迭ったりすることが、今日の日本に於いて良いか悪いかということとは又考える余地がある。唯其方面のみを見て、イギリスなら外務大臣が辞めるんだと、日本も辞めるべきだ、という風には思わない。外の色々な関係があるからね。

国策審議会²

斎藤 国策審議会に入った人々について、どう御考
えですか。あの顔触れを満足とお思ひになりま
すか。

関口 始めの国策審議会が内閣審議会に名前が変つ
たように、国策が目的であつたのが、今は内閣
が目的で、成功なんでしょうね。

記者 小野塚さん、辞退されたんですか。

関口 さあ、それはどうか分りませんね。

戸田 大河内さんは這入つて居ますか？

芦田 大河内さんは参与です。

記者 学者を入れないのは、学者は何にもならん
という考えですか、国政審議だつたんだから学者
は必要ぢやないかと思うんですが。

蛭山 学者はあゝいう所へ出なくなつたつて幾らでも
使い途はありますよ。学者を正しく利用すると

2 1935.5.11官制公布、内閣審議会と調査局とを設置

いう意味ぢやあないのぢやありませんか。

関口 初めはブレイン・トラストとか何とか云つて
居りましたね。それが頭脳になり、内閣なんか
手足になつて働く訳です。だけれども、今まで
は内閣の方から諮問案を出して、手足の方から
頭脳の方へ働くんですから、やはり今としては
国策をあそここうするというよりも、挙国一
致の看板を拵えるということが、やはりそれが
一番主な効果ぢやないんですか。

三木 あそこへどうして軍部が這入らないのです
か、当然這入るべきだと思ひますが、這入つ
て責任を分つべきものではないでしょうか。

関口 併し這入つて来ればそれでまた困る、という
議論が出るでしょうね。（笑声）

蛭山 真の国策審議会なら軍部だつて這入つて宜い
でしょう。行つてやはり統一しなければ……。

関口 初めそういうことを思つて居た人と、拵え上

げた人と違うからですね。

蠅山 日本の調査会というものは今まで皆官庁の原案でね。それに皆がオーケーつて云えればそれで宜しかった。

三木 官庁の議会なんかに対する言逃れの口実を作るためだけでしょう。

関口 各省の持寄りでないというのが、内閣調査会、あれさえ長く続ければ意味があるんでしょう。

芦田 一体日本という国では不思議な事に調査会制度がまだ有意義にハッキリ働いたことがない。だから調査会が出来ない。どういう訳か、あゝいう所に這入つて仕舞うと、相当の人でも能率が上らなくなる。意見を聴こうつていうんだから、調査会は勝手に意見を言わせたなら宜かろうと思います、そうぢやない。少数意見は好まない。御意見と認めます、という態度で勝手に答申をする。意見を聴いて、良い処を政府が採

ろうという意味ぢやないね。国民の中にある意見を参考にしようというのでなくて、自分の意見を裏付けて貰うというだけなんだなあ。だから実に馬鹿らしい。前委員会制度が旨く行かなかった所を見ると、今度の国策審議会に期待することが間違つて居る。

蠅山 確にそうだ。政府に受け容れられない意見もあるよ。勝手な意見もあるから、それをその少数意見として報告書の書くなりすべきものだと思う。そういう意見を政府が採用するしないは自由だが、従来それを好まない。政府で出す案を皆が是認することを求める、そういうことだけに、気を付けてるようだね。本当の意見を聴こうとしてはいいようだよ。

高柳 やはり渡りをうける思想だね。(笑声)

蠅山 そうだ。やはり渡りを付ける訳なんだ。文句も一言も言われなくなるんだらう。そこへ出て

行つた以上、異論を差挿むことが出来ない。それには日本の官僚が能くやるよ。調査してね。官僚の持たない意見まで政府が参考にしうと思ふならば、あゝいう形式を取らなくたつてやると思ふなあ。

芦田 やはり見方もあるし、吾々の立場から見ると、官僚の調査は如何にも機械的で、実際に触れてない。

蠟山 足りない所を補うように使えば宜い。官僚の以外の意見を政府で聴く雅量があればいいけれども、自分の造つた意見を裏附けて貰うだけなんだからね。それでは真の調査会の意味を有たない。

戸田 委員会とは文句言わせない為なんですな。

蠟山 そうでなければ代議士やなんかを入れる必要なんかないよ。彼等は、貴族院でも衆議院でも自分の意見を發表する機会はあるぢやないか。

美術院と文芸院

斎藤 関口さん、美術院の問題はどうでしょう。

関口 結局何ですね、松田文相が非常に得意になつて巧くやつたという、情弊を壊して得意になつて居る、そうすると情弊と言われた側、巧くやられた方の側が憤慨して反対するのは当たり前だね。是はまあ結局あゝ云う風になるのが当たり前ぢやないかと思う。在野の展覧会も随分金が掛るんだそうだね、それで金を出す方の大將株が大分弱つて居たんでしょう。それで、そう云うものを皆集め得た訳だが、上を引上げれば下がそれにくつ付いて来るだろうと思つたのが無理ぢやないですかね。旧帝展無鑑査級の反対も尤もで、美術の上の議論から立派な理由もあるし、それは正義派で正論派ですが、差当りの問題として絵の価額なんて審査員級いくら、無鑑査級

いくらと決つちまうんでしよう。その特権を奪われて、鑑査されて落選したりしては相当困るんじゃないですかね。

斎藤 それに關聯して文芸院の問題が起きて来ないのは可怪しいですね。

芦田 それが一体間違いだと思う。政府が文芸院を起さなければ、文芸院の権威のあるものが出来ないのが、寧ろ非常に残念なことであつて、政府は展覽會場位を設備して、美術家に寛大な条件で之を使わせると云うことをやつて居れば宜いので、余り立入つて色んなことに口を出して、そうして文展で賞を貰つた方が画家が有名になつて絵が能く売れると云うんぢや果して芸術に寄与するんだかどうか可怪しいです。文芸院だつてそうだと思う。文芸院を作りたければ勝手に作れば宜い。巴里あたりには政府の關係のあるアカデミーの外にもアカデミー・ゴンクー

ルなんと云うのがあるし立派にやつて行けるんです。あなたの方の菊地さんなんか、文芸院設立論者だけれども……そうでしょう。

斎藤 さあ。

三木 それに文芸院は美術院のように行かないでしよう。文芸家の地盤はジャーナリズムで、そのジャーナリズムの地盤は知識階級ですから。美術家の生活地盤は主に金持であつて、自分に鑑賞眼がある訳でなく、帝展の審査員といううなことで値打ちが決る訳ですが、文芸家の場合知識人は金がないだけ目が肥えて居ると云う有様です。そして知識階級はだいたい自由主義的だから、文芸院となると政府の考えて居るようには行かないと思います。ジャーナリズムが第一そんなものに無關係に新人を取つて来るでしょうから、結局有名無実なものになつてしまふでしょう。

関口 今度のは失敗だか、成功かどうか知れぬが、兎に角手を焼いて居ることだけは事実ですね、あれが非常に宜い教訓だと思う。（笑声）それが巧く行ったら又文芸院なり挙国一致の何だとか、宗教界の統制だとか、それはもう怪しからん所迄行くだらうと思う。今矢張り統制病挙国一致病ですからね。殊に松田文相なんと云うのは今迄にない御粗末な文部大臣だと云う話なんだから、それが宜い気になってやり出したら困ると思う。まあ非常に宜い按配だと思つて居るんです。

芦田 私もどつちかと云うとそう云う見解に賛成で、二三目前に私はそう云うことを私の新聞に書きました、政府は余計なおせっかいをやらなくとも宜い、文芸院とか美術院と云うものに關係すると云うことは根本から間違いだ。

三木 展覽会場でも作ることが政府の先ずやるべき

仕事です。美術家や義術団体が一番困つて居るのは展覽場で、それに金が掛るので美術団体の経営も困難にされるのでないでしょうか。ですから何時でも随時に極めて簡易な条件で団体なり個人なりが展覽会を開くことのできるような会場を政府で作ることがこの際必要でしょう。会場ももう少し中心地へ持つて来れば宜いだらうと思う。それだけの仕事さえすれば寧ろ沢山だらうと思います。

関口 文部省が帝展を重んずるのは帝展収入が余程あるんでしょうね。

斎藤 八万円位あるとかいう話です。

芦田 収入があれば大蔵省からそれに依て勝手の予算が取れるのです。今の大蔵省の予算の組方によれば、収入を出し得る省は予算を取ることが楽なんだ。之に反して収入を提供し得ない所は予算が多く貰えない、例えば外務省だとか……。

戸田 陸軍省はうんと取るが。(笑声)

蠟山 外務省だつて経済外交がある。(笑声)

帝展改組私案二三

関口 新帝展をこのまゝでやつてゆくとすれば、善後策としては壁面を貸すと云うか審査員を選択すると云うようにしたら宜いと思う。会員を全部審査員にして、俺は大観に審査して貰いたいと云うのは大観の所に出品する。大観に対しては一部屋与えるなり二部屋与えると云う風に壁面を割当てる。そうでなければ、流儀の全然違つた審査員に見て貰うと云うのは無意味ですからね。

斎藤 そうすると、今迄の積弊の延長になりはしないですか。

関口 まあそうですね、弊害の合理化かも知れませんが。

三木 今日の朝日新聞で見たのですが、松田文相の

話として、日本画家が西洋風の絵を描くのは怪しからん、日本精神の絵を描かなければいかぬとか言つて居る。(笑声) 矢張りあゝ云う風な考えが今度の美術院問題の根柢にあるんでしようね。つまり美術統制と云う……。

芦田 ぢや南画だつて、余り支那風の絵を描いちゃいけない訳だ。(笑声)

関口 だが日本精神と云うのも何時頃の日本に遡つて宜いか問題ですね、明治日本ではいけないのですかね。

斎藤 美術院と云うものは展覧会を廃して、民間のあゝ云う団体を招請すると云うような意味の働きなら、一番宜いと思うんですけれどもね……。

高柳 それが宜いでしょうね。

斎藤 展覧会を持てばどうしても弊害が生ずると思う。

三木 官の展覧会を全然廃めたら宜いでしょう。文

部省では賞を出せば宜いでしょう。

斎藤 そうして民間より買上げるんですよ。

三木 え、そうして買上げる。

斎藤 買上げて展覧するのは宜いですね。

関口 帝国美術院会員を帝室技芸員のようにして会

員だけの美術展覧会をやるのも一案です。

斎藤 しかし審査員の質が良くなつたと云うのは確

かですね。例えば梅原とか安井とか大観とか云う人々が入つただけでもね。

関口 美術家だけが審査員の間は、自分の弟子であるとか自分の流派であるとか云う人を抜く外方法ないでしょうね、それだから所謂情弊と云うのは当然起きて来る。

三木 美術批評家と云う者にはどうも文芸その他の方面では新しく出て来る流派や作品の擁護者となるような批評家が必ず出て来るものですが、

美術批評家は大体古い趣味を代表する人が多いんじゃないですか。もう少し新しい主義や作品を擁護する批評家をその美術団体で養成しなければならいんじゃないかと思うのです。それがどうも欠けて居るんじゃないのですか。帝展なり其他の展覧会の批評を書く人は大体皆どちらかと言えば今の審査員級の趣味な代表して居る人が多いと思われませんが。

関口 美術よりも更に工芸ですと、工芸の審査員と云うものはもつと需要者側の、或いは建築家とか何とかそう云う方の側の人が見るのが本当で、金工が金工のやつを見ると云うやり方をするので、何時迄経つても発達しない。稀に改善進歩しても是は俺には出来ないことを巧くやつたとか変なことを感心するらしいですね。だから商工省なんかの展覧会でもじきに型が決つちまうんです。政府が新しいものを奨励する意味にな

らんですね。

ジャーナリズムの昨今の特長

斎藤 三木さんどうです、最近のジャーナリズムの

傾向に就ては？

三木 ジャーナリズムと云つて雑誌ですか。

記者 雑誌並に新聞ですね……行動精神と云うようなものは……。

芦田 一体行動主義と云うのはどう云うことですか。私は不幸にして分らないが、恐らく天下の人々も大抵は分らないんじゃないか。

三木 仏蘭西あたりの新しいリベリズム、つまりヒューマニズムからコムミュニズムに比較的情を持って居る連中の立場がそれにあたるのでしよう。

芦田 パリには、アクション・フランセーズと云うものがあるが、是は寧ろカトリックに凝り固つ

た右翼ですね、それを翻訳したものとも思えないね。

三木 『行動主義』と云うものは向うにはないので。矢張りヒューマニズムなんでしょう。

記者 全然政治反応と云うのはないのですか。

三木 今の人は自由主義と云うものに対して嫌らない、何かそれを行動に移そうと云うのが行動主義なんでしょう。文芸の側から言えば、何とかして昔風の私小説や心境小説と云うようなものを打開しなければならぬという要求が感ぜられている。殊に左翼文芸の没落以後、そう云う心境小説的の風潮が再び著しく出て来た訳ですが、それを打開しようとする要求が随分ある。それが所謂行動主義文学の主なる動機じゃないのですか。

関口 行動主義と云うのはそうすると外国にあるのではなくて日本で生れたんですか。

三木 外国には名前はないようですね。日本であゝ

云う名前を付けたようですが、併し元はジードとか何とかあゝ云う連中、つまりヒューマニストで左翼に同情を持つて居る人の立場ですね。

関口 今迄の人道主義者とか自由主義者と云うのは言つて居るだけで何もやらないから、その行動？

三木 それ迄積極的であるか、まだ疑問でしょう。それが積極的だと面白いんですけれどもね。

関口 それ程積極的の行動でなくとも唯考えて居るだけの自由主義人道主義ぢやいかぬと云う気持はあるでしょうね。

三木 そう云う気持はあるでしょうね。

高柳 行動と云う名前を付けたのは？

三木 知識の立場以上に行動の立場と云うものに立たなければ、生きた人間が全体的に捉えられない、と云うような思想がある訳です。

関口 行の哲学とか何とか云うのとは？

三木 えゝ、行の哲学と似て居る点もあるでしょう。

ファシズムの将来

関口 今度のボールドウィン内閣¹には結局入らないようだが、ロイド・ジョージ²とか、チャーチルとか、フランスのカイヨー³とか、此間やり損なつたがベネゼロス⁴とか云う古い名前が出て来るようです、何か斯う世界の風向が變つて居るんですか、そう云う意味もないんですか。

記者 それも一種の英雄崇拜主義的の要素からですか。

- 1 Stanley Baldwin (1867 ~ 1947)、1935から挙国一致内閣を組閣
- 2 David Lloyd George 1863 ~ 1945、第一次大戦下にイギリス首相になり、勝利に導いたとされる
- 3 Joseph Caillaux (1863 ~ 1944)、1911から半年ほど首相だった。のち反逆罪に問われたこともある
- 4 キリシヤ自由党のエレフテリオス・ヴェニゼロス (1864 ~ 1936)、首相を務めたが王党派に破れ、パリで客死

芦田 英雄崇拜主義的のものはないと思うな。昨今

ロイド・ジョージの名が出る理由は、結局マクドナルドの内閣が、成績は相当挙げて居ると思うけれども、もう疲れ切つて了つて花々しくないでしょう。国民大衆を率いるような新鮮な何物かを求めて居ると云うような英吉利の空氣に對して、ロイド・ジョージが今年の初からニュー・デイルを發表して到る所で盛んに民衆な魅了して居る訳だ、何と言つて口口弁クチコハベに掛けては英吉利でも一流だからね、それだからあんなに騒がれるんですよ。

斎藤 世界的に言えばファシズムはどうなんです、益々盛んになりつゝあるんですか、それとも一頓挫して居るのですか。

芦田 ファシズムも畑がなくちゃ駄目でしょう、英吉利なんか到底駄目ですね。畑があるから伊太利でも独逸でもああ云う者が出て来るのです。

三木 それは内部に對しては非常に強硬ですが、外

国との關係になるとファシズムとか国民主義とか云つても案外弱いんじゃないですかね。外部に對する強硬はそう云う風に国民に向つて宣伝するだけで……内心強いのですか知らん、指導者は。

芦田 或る意味に於いては外に向つてフレキシブルな政策が執れるのは強いとも言える。政府が弱ければ国内に起つた強い議論を抑えて行くことは出来ない、つまりフレキシブルな政策はとれないんです。日本で云えば国内に強硬な論が起つた場合、今の内閣は之を抑えて行くことが出来ないのは或意味に於いて弱体だからです。だから極端まで行かない所で転換し得る力が、ナチスにあるとも見なければならぬ。

関口 畑が無ければ出来ないと云うことが気が付いて來たので、亜米利加なんかでもルーズヴェル

トのニューディールに対してヒューズの名なんかも出て来る。何人も以前の人の名前が新聞に現れて来たような気がするんだな。

芦田 日本でもそうじゃないですか、清浦さんとか田中光顕とか高橋是清¹と云う時代だから是は世界的でしょうね。

蠟山 在野党には居るけれども勉強はするし、休養はするし、だから用うべき材なんぢやないかな。片方は政治をやつて居る、六年ですからね疲れてしまいますよ。矢張りパブリック・ライフと云うものがちゃんとある為めぢやないか知ら。ロイド・ジョージなんか在野の人として働いて居るから魅力をしよつ中持つて居る。日本では、政権を離れてしまうと居るのか居ないのか分ら

1 「清浦奎吉」1860～1942、重臣、大正期に首相。「田中光顕」1843～1939、土佐勤王党から内相。「高橋是清」1854～1936、大正期の首相、のちに大蔵大臣などを歴任

ないようですね。幣原さんなんかものを言わないし若槻³さんなんか滅多にものを言わないし、それが皆捨身の俣に出て来ると皆も聴くでしょうが、指導がないからね。

関口 今迄の勢いだと世界はどん／＼進んで、ロイド・ジョージなんか、又出る幕はなさそうに思つて居たんですね。何も知らずに遠くから見て居てベネゼロスは死んだのかと思つたら又此間ちよつと出て来てね、カイヨーにしてもね。

芦田 カイヨーは戦争の末期に上院の高等法院に喚び出されて国外放逐を命ぜられた、独探の嫌疑があると迄言われて。そうして随分悲境に立つた人ですね。それがまあ今日のようになると云うことは、矢張り何と云うか時勢でしょうね。

2 幣原喜重郎 1872～1951、外交官から外務大臣、敗戦直後に首相
3 若槻礼次郎、1866～1949、大蔵官僚から政治家、昭和初期の首相

蠟山 カイヨーなんか千九百二十六年の時にも出て来た。成績挙げて居ますよ。

芦田 それは財政的には仏蘭西で第一人者だ。

蠟山 詰り在野党に居ても世間から常に注目されているから、いざという時に役に立つのぢやないかな。

芦田 それは役に立つ。

高柳 仏蘭西も矢張り何か知らだ、ファッショに行く地盤があるか知らん、どうでしょう。

芦田 さあ、あの国は今迄独裁政治に辛い経験をもっているから、一人を守り立て、行くと云うことは無理でしょうね。

高柳 議会政治は失敗して居るんだろね。

蠟山 失敗より少しディケー【decay 衰退・腐敗】した訳だ。併し仏蘭西はファッショになつて何を得るんだらう。

高柳 詰り能率が上がるかどうかと云う問題だね。

蠟山 能率と云うことは政治的に云えば、結局誰か利益を享けるとか云うことが無ければ……。

高柳 議会がオブストラクション【obstruction 妨害】をして良い案も結局ものにならぬと云うことがある。

芦田 結局仏蘭西人は愈々と諦めたら思切つてやらせる。例えば一九二六年のフランスの暴落の時でも、次々に内閣が倒れて結局ポアンカレーが二年間政界を安定して一段落付いた。今度はまだ国民が独裁権を与えるだけの決心が付かないんだね。どんどん金が出て、仏蘭西の貨幣制度が愈々又やり切れなくなつたら独裁権を又与えるだらうと思う。

関口 フランスにファッショが出て来ないのは、王党がある事が却つて原因になりはせぬかな。

芦田 ファッショに属する王党は極く少数ですよ。

関口 フランス国民にそう云うものとの聯想がある

んぢやないか知らむ。

(六月六日・於浜町はまのや)

芦田 それはナポレオン時代の聯想があるからなかなかやりません、例えばクレマンソーが戦争終

底本：『文芸春秋』1935.7

末頃には非常な人望を担ってポアンカレは大統領でありながらクレマンソーの前には殆ど光を失う程だった、大統領選挙に飛び込むと今度は皆が警戒し初めて、愈々選挙して見たらデシヤネルに負けちゃった。最後の階段迄行くと引繰り返されちゃう。そう云う点で仏蘭西人には独裁制に対する一種の恐怖心は十分にあるな。

高柳 独逸、伊太利の様には却々行かないね。

芦田 独裁政治と云うものは文化の程度が低くなければ成立しないか知れませんか。皆がカルチュアされてしまつては独裁政治と云うものは困難でしょうね。

斎藤 どうも有難う御座いました。

青年を語る

尾崎士郎

島木健作

檀一雄 : 1912 ~ 1976、東京帝国大学経済学部卒、作

家

豊島与志雄

中島健蔵

三木清

青年とポーズ

——冷笑は現代青年の武器となっている——

中島 大体この座談会の題目が馬鹿に難しいんで、

青年と云う範疇がね。

尾崎 我々も亦青年ではないか

中島 ひとつ、作品に現れた青年として、武田麟太

郎の「若い環境」から論じて行こう。豊島さん、どうぞ。

豊島 そうですね。あれは唯事件を現代にしたばかりで、あの生活感情は三高時代の武田君なんで、それを彼の芸術的技巧で如何につなぎ合せたかが問題ですね。

島木 あんな高校生は居りませんよ。今の青年が持っている二ヒ的な面が誇張されて、武田好みに、武田君はそう云う人では無いんだが、学生を書いて「若い環境」でもつきつめれば同じ人間を書いている。学生であると云うだけで「下界の眺め」とさして変りがない。

三木 あれは島木君が言う通り現代の青年と云つても、何処にも現れて来る同じような青年ですね。

中島 武田の好みは老年の世界だ。

島木 リアルであつてそうでない。本当らしく見えてそうでない。

豊島 然し、人物の動かし方は現代の人間が動きそ

うな動きを見せている。あれが果して現代の青年かどうかと云うと、サイコロジの問題になるね。えゝ話が少し違いますが、可笑しな例ですが、煙草を喫んでも、ネクタイを結ぶのでも、そのポーズは時代によつて違つて来ますね。ポーズを適確に捉えれば小説はよく書ける筈だと思ひますがね。若い女を書く場合、その性格などを掴めるものではないが、唯ポーズに依るより外にありませんよ。煙草のみぶりやネクタイの結び方等をみな綜合すると、其処に変なものが出来上つてくる。

檀 現在の「青年」なるものは何時の時代から生れたのですかね

島木 左翼運動が下火になつてからだと思ひますが。

三木 その頃でしょう、ところで古い人と青年とは

青年を語る

何処が違いますかね。

豊島 僕等の青年時代は真剣さということゝ、ダンスとは距離がありましたよ。然しこの頃はその両者がほんの紙一重の違いで区別が出来なくなつてきてる。

檀 ご尤もです。

中島 僕が何か熱情を持った時があるとするとなつと若い人がそれを冷笑するからね。逆になつたよ。もとは青年の熱情を老年型が冷笑したものだが。

尾崎 それはいつもある。俺なんか、昔からずうつとだ。

豊島 冷笑は現代青年の大きな武器ですね。

尾崎 おれは始めから古いといわれてるよ。

島木 その冷笑態度がこの頃特に多くなつてゐる根拠はありますね。その態度も時代によつて違つて来ましたよ。近頃では冷笑することにおいて

胡座をかいて自信を持っている。

豊島 我々の若い時は、これがなくてはならぬという心棒——理想があつたがそういう心棒が今では。

島木 それが今の特徴です。心棒が無いというところが、或る青年にとつてはとても真剣な問題で、またそれが或る青年には成つていないんですからね。見たもの触れたもの以外は絶対に信じられんという人は多い。けれど、そういう人々は知ろうとする努力、客観的なものにぶつかつて破れた後では無いんです。唯単にかく動いたら結果はかくなるだろうと思惟の中で結論付けて、しかもそれには直接ぶつつからずに心棒をなくしている。

豊島 始めから自分自身の努力というものに対する信用がありませんな。

島木 マルクス主義が駄目になったというが、それ

は外側から見ているだけで自分自身で努力していない。

檀 そうです、僕等はまだ自分の感覚丈で生きや生きていない、而も自分で詰まらんということを知っている。

三木 昔の様な軌道外れがなくなっているのです。僕等の頃は何でもいいから我武者羅に飛びついて行つた、それが今では、飛びつく目的もなし、情熱もない。

島木 非常に実利的だな。

豊島 要するに人生に対する「統計」に頼るからいけないんですよ、或る先輩はこんな経路をとつたがためこんな状態に蹉跌した、又他の先輩は斯して蹉いたという、之までの統計丈を見ているからどつちへ行つても駄目だという冷笑が直ぐと出てくる。

尾崎 それだけ進歩しているといえるかな。いや、

進歩しそこなっているんだ。(笑声)

中島 今の青年はてんで失策^{しくじ}らない。

尾崎 かくすれば、かくなるものと知りながら。だね。

豊島 平均点とか統計とかを忘れねばいけませんよ。

島木 どうして、そのような努力をしませんかね。

三木 現代の青年は自分の意欲を伸ばしていない。自分の意欲を知ろうとしていないんぢやありませんか。

島木 そこへ行くと、問題は青年ばかりではありませんよ。ブルジョア自由主義を経ていない日本で今のような眼にぶつかれば、こうなるのも仕方がないんです。極言すればですね、真理に対して闘ったことが日本にはないんです。

中島 僕達は統計と云う奴は信用出来ないね。

青年と科学

——生活へ腹の底からぶつかれるものが少ない——

島木 さつき尾崎さんのお話の中に、青年は個人ではなくなってきた、と言われましたが、今の青年はなぜ一つのイズムを持てないんでしょうか。

三木 科学精神が欠乏しているからぢやないですか、科学精神は重要ですね、それをもっと鼓吹する必要がある、科学的な問題からもっと探求すべきなんですよ。

尾崎 青年はもつと出たらめをやるのが青年だな。

三木 實際生活につまづくことが少ない。

島木 なぜ科学精神を失うのか失わなくてもいぢやないですか。

三木 科学的思想として行きづまったところですね、統計から見て行動に行きづまっているんですね。

島木 僕等の場合はいつも二つのものが戦っている

と思うんです。科学的真理を掴もうとする努力、一方に絶望的な気持と戦う。大抵の人はそうではないんですか。

尾崎 今の青年は何か一つ火をかければ直ぐ燃えると思う。

中島 いゝや、火をつければ直ぐ消えるよ。いま絶望したとか暗いとか云うのは。

尾崎 青年はもつと絶望してよい。

檀 本当に絶望して居りません。とことんまで絶望しきれないでいるんです。

三木 絶望するまでに行つてないんですよ。

島木 然し、本当に絶望するのは意欲的な真面目な人で、そういう人は尊いのですが、今のはそう云う風に絶望していない。絶望にも陥り切れない、実に俗物根性がはびこっている。

三木 用心深くなつたと云うか今の青年諸君は語らんね。

島木 言うことが無くなつたのですかね。

尾崎 遠慮しすぎている。

豊島 つまり、勉強もしないからではないのか。

檀 いゝえ、勉強はしてますよ。

中島 今晩は檀が青年代表だからなか／＼大変だ
(笑声)

三木 勉強しようと云う気はあるが、實際はして居りませんね、やる落着きがないんですね。

豊島 学問的な勉強をする人はあまり居ませんよ。

中島 ずいぶん意志薄弱なんですね。

尾崎 生活と云うことを、何かと云うと口にするが、そいつは口にするだけで腹の底から思つてゐる奴なぞ居らん。

三木 第一義の生活を考える者がいないんだな。

豊島 糊口の道はよく考えてるよ。一般の青年は飯を食ふことばかり考えている。

三木 思想が古くなつていますよ、僕等は学校を出

て食うことは考えなかった。尤も時勢が違つてきてはいるが……。

豊島 家族制度の崩壊から飯を食うことを考えねばならなくなつた、ともいえますね。

尾崎 俺はこの会に出席する資格ないよ。今だに食うことなんか考えないのだから。

三木 それだけ、あんたが青年なんだ。
檀 そうですね。

豊島 今の青年は一方からいうと童心が失われているね。

三木 観念の虜になつてゐる。

豊島 個人的な話になつてしまふが、尾崎君は、あれですね、文学を考えているときは良い作品は出来ませんね。文学を蹴飛ばした時に良いのが出来ると思うけどなあ。

尾崎 そうですかしら。

三木 誰でもそうだ。

豊島 いゝえ、そうぢやない。室生犀星君なんか、その反対ですよ。あの人は文学を考えてその中に沈み込まないと佳い作品は出来ません。

中島 酔つたからいうんぢやないが、こゝにいる檀の小説にしろ、太宰治の小説にしろ、それは現代青年の代表といえるものだろうが、実に下らない（笑声）なぜ、あゝいう下らないものを書くかという所が問題なんだね

尾崎 ツルゲーネフの「処女地」ではあのソロミンが現在の日本の青年だ。ネジダーノフぢやないよ。（三木氏に）あの、あなたが書かれた「青年論」ネ。

三木 えゝ、日本評論に出したやつですね。【第十三巻「青年に就いて」あれは、期日に迫られたもので、間に合わせのものなんです。

尾崎 いや、あれは良いものですよ。近來の傑作です。

中島 もつと、三木さんの書かれるようなものに

突つかゝつて行くようになると面白いんだがね。

尤もこの人は（三木氏を指し）利巧だから、立ち向つて行けばきつと自分の世界へ引つ張り込んで仕舞うし、自分以外の世間には、ちゃんと心得ていて出て来ないんだから。（笑声）

尾崎 こら、待て。俺が今度、三木さんの向うを張つ

て「青年論」を書こうと思つてゐるんだ

中島 お前が書くのか。書けるのか。（笑声）

尾崎 （にや／＼笑つてゐる）

豊崎 三木さんの「青年論」で青年と云うのは？

三木 青年将校、青年官吏の青年なんです。青年は

要するに根本的に云えば、二十代から三十代を言うんだが、青年将校官吏の青年は四十前後を言うんですね。ですから、私の「青年論」は青年将校等の青年ですが、やはり、今の青年と共通があるんです。今の青年将校官吏を問題にす

れば、今の青年はやはり其処へ引きづられてゆ

くのではありませんか。それから、あれですね、

今の青年は六十代以上の人と話した方が解り易

いんですね。明治の自由思潮をくぐつて来てい

ますからね。今日本を占めてゐる人達とは一番

話しくいらしいんだ。この現象は凡昔とは反

対だね。

尾崎 三木清は現在の青年症状を書いてゐるだけで

方向を与えてないよ。示されてない。

中島 現状の打診に忙しくて。まあ、それもいゝよ。

三木 今の青年もいろいろあるがそれを纏めるもの

は、結局、どうしても、ヒューマニズムだと思

うな。

島木 ヒューマニスティックな熱情を持った青年は

いると思いますよ。理想が青年を掴むと云う形

ネ。

尾崎 理想はないよ。

青年とイズム

——失われた言葉失われた情熱失われた意欲——

島木 ヒューマニスティックな熱情をもった青年は沢山いると思う。例えば改革の熱情の如きものを追いつめていく。こういう点で行動主義文学はプロレタリア作家ではなく、今日進歩的作家といわれるものが当然行くべき途だと思う。政治的なプログラムを持つていない不満はあるが、それも仕方がない。そういうことがやつぱり社会的根拠にあるわけだ。

尾崎 僕は行動主義文学には魅力を感じんよ。

島木 それは行動主義がなにか文壇に対する打算的な動きと考えられる点があるからではないか。その感情を離れて伸ばして行かねばならない運動だと思う。

三木 島木さんが行動主義に賛成するということは

一寸変に思えるが。

島木 いや、行動主義作家がやろうとしていることがプロレタリア作家のやろうとしていることだ。

中島 行動主義をどういう点で買うか。

島木 今日の進歩的インテリゲンチヤ作家の行くべき道だと思えますね。

三木 日本では相当に新しい。

尾崎 島木君が行動主義に賛成するのは少し変ぢやないか。

島木 僕はプロレタリア作家ということになっているが、それあ、立派なプロレタリア作家になろうと努めているが、僕の書いたものは、まだ、全然、駄目なんです。客観的に見ると、行動主義作家がやろうとしていることは、自分がプロレタリア作家であると云う矛盾なしにやっている。

尾崎 僕は人間には微妙な認識能力があつて、もつ

と、大義名分を論ずべきだと思うがね。

中島 行動主義と云う名前を変えてあんな運動を今度やり直せばよい。

島木 漠然たるヒューマニズムの青年運動を組織しなければ嘘だ。

尾崎 そういう情熱はあるよ。島木と中島と二人が一緒になって、やったら、青年は蹤いてゆくよ（笑声）

檀 魅力のあるものが出たら、僕等は蹤いて行きますよ。

三木 広い意味のヒューマニズムを組織したら、青年は蹤いてゆくね。

豊島 近頃の文学青年は人生とはなんぞやと考える前に、まず文学とは何ぞやを考えている。

島木 今の青年がもっている悩みは結局今迄云ったことゝ、更に方向をもった熱情をもっていないが、而もそれが生活手段と喰いちがつっていると云

う手近なものから来る暗い気持が強く働いてくる、今迄は兎に角、それも処理し得たかも知れないがこれからは段々処理出来なくなつて来る。

三木 我々はまだ無茶が出来た

島木 何かやったら、いゝぢやないか。と云いたいね。

檀 僕等はやつてますよ。

中島 文学青年は少くとも生活を考へてはいない。檀君はどうです。

檀 えゝ、まあ……

尾崎 それは、考へていないよ、考へているもんか、僕なんか考へていない。

豊島 今の青年にはそんな冒険的な気持がない。大海に船を浮べて兎に角その海を乗りきろうと云う冒険心があつてもいゝ。

尾崎 そりやあるさ。

三木 然し到着点を目差さないで唯船を漂わせてい

ると云うことは冒険と云うことにはならない。

島木 ダンスをするにも謡をやるにも今の学生は実に功利的だ。それを社交の一手——就職の一手と考える俗物根性が眼につく

中島 それは日本の教育制度と結んで問題となる。

初等、中等教育が如何に実利的であるか慄然とする。科学以前のもの、文学以前のものを惜みなく踏みにじつてしまふんだ。全く恐ろしいよ。僕達の受けた初等、中等教育より、もつとひどい。

三木 現在の教育はひどいね。それは大切だよ。青年の問題と切つても切れぬことだ。これは現在では社会問題から一番見はなされている。

中島 その実利的なことが、上の学校へはいるための、その功利性は実にひどい。

豊島 作文なんかが問題ですね。

中島 さて、そろ／＼、結論を引き出さなければならぬんだが。

豊島 結論は誰も青年を語れない。

中島 見渡したところ、此処にいる人は皆、青年型なんだから本当を云うと、もつと老年組もいて欲しかったし、我々はまた我々で若い人から色々聞きたいんだ。

尾崎 (中島氏に) 君が現代の青年だよ。豊島さんも現代の青年だ

三木 今の青年はもつと一致しなければいけませんね。ニヒリズムなどと、よく言うが、西洋的なニヒリズムは日本には有り得ない。本当の意味のニヒが居たら日本はもつと立直るよ。

豊島 そうです。ニヒリズムと云う言葉はツルゲーネフによって作られたが、日本でもそう云う言葉を発見すれば宜いんですよ。(笑声) その言葉がないのは、やはり、はつきりしたものがないからなんです。

三木 言葉がないのは方向が無いから。方向を掴む

のが一世の指導者だよ。

——四月二十八日

底本…帝国大学新聞（不二出版復刻版）1936年5
月4日第7面

新しき世代の家庭教育を語る

日時——一九三六年（昭和十一）五月四日

場所——南沢 自由学園

清沢 冽（評論家）

清沢綾子：不詳

高良武久：1899～1996、鹿児島県出身、九州帝国大学医学部卒、医学博士森田療法の継承者

高良富子：1896～1993、富山県出身、日本女子大卒、

アメリカ留学後に武久と結婚、婦人運動家、戦後参議院議員。旧姓和田、「高良とみ」として知られる

今和次郎：1888～1973、青森県生れ、日本美術学校卒、「考現学 modernology」の提唱者、（早大教授）

今 敏子：不詳

杉山平助（評論家）

東畑精一：1899～1983、三重県出身、東京帝大農

学部卒、東大教授、昭和研究会、戦後農政審議会会長など。（東京帝国大学教授）

林 麟：1897～1969、山梨県出身、慶応義塾大学卒、

ソビエト留学でパヴロフに学ぶ。ペンネーム「木々

高太郎」（医学博士）

林ます子：不詳

三木 清（評論家）

矢島祐利：1903～1995、栃木県出身、東京帝国大学卒、科学史家、東京帝国大講師

*

羽仁吉一

羽仁もと子

羽仁五郎：1901～1983、群馬県出身、ドイツ留学後東京帝国大学卒、歴史学者、戦後は参議院議員として国立国会図書館の設立に尽す、旧姓森

羽仁説子：1903～1987、東京生れ、自由学園卒、教

育評論家

羽仁（もと子） 家庭教育に就いていろいろ考えて

おいでになることや試みていらつしやること、成功や失敗のご経験など、お話頂きたいと思ひます。今日は奥様方もお出で下さつて、どうも有難うございました。それぞれの家庭できつと特色のある話題があらひのことでしょう。才能の教育と人格教育というような問題も、私の伺いたいことの一つです。どうぞ誰方^{どなた}からでもお話下さいませ。

批評家が実行家か

清沢 実行家か批評家かということが、そういう場

合問題になりますよ。批評家の立場なら僕は作品を作らなくてもシェックスピアがうまいかま^ずいかをいうことが出来、家庭教育に就いても

論ずることが出来るが、実行家の立場となると、では君の家庭はどうか、いつて見ますよとくる、するといくら自惚れても誇り得るようなことはない。それで甚だ困るんですよ。

羽仁（もと子） それは誰でも同じです。いろいろ

希望や理論はあつてもなかなか実行出来ないでいるのです。批評家としてのお考えも、実行家としての悩みも、双方聞かせて頂くことにしましょう。杉山さん如何ですか？

杉山 いや僕んとはまだ一年と三ヵ月で一番後輩

だから、今日は先輩方のお話を伺いに來たんです。清沢君始めてくれ給え。

蚤のサーカスの教育

清沢 この間ある博覧会で蚤のサーカスというもの

を見た。ところが蚤を訓練するのに何が一番難しいかといえ、それは跳ばないようにするこ

と、じつとさせて置くことだという。それにはどうするかというと、針みたいなものを一つ宛^づ首のところに懸けて、跳ぼうとする度にチクリチクリと刺すような仕掛けにして置くんだ。そうするといくら蚤でも痛いから、一と月位すると跳ばなくなるということです。

僕はこれを聞いて現在の日本の教育は、正にこれだなと思ったよ。跳ぼうとすればチクリだ。五つ六つの子供を見れば豊かな想像力を持っているし、また本能的な鋭さであらゆる理屈に合わないことを排斥する。ところが家庭でも小学校でも、そういう勢いで跳ぼうとする度にぶん殴つて、画一的な型に嵌め込もう嵌め込もうとするもんだから、遂には蚤のサーカスと同じで、ちつとも自己を持つて物事を考えることの出来ない、跳び上ることの出来ないような人間ばかり出来てしまう。これは僕の理屈だがね。

新しき世代の家庭教育を語る

統制か自由か

杉山 今の話に関連して我々の自由は知識的自由と欲望の自由とに区別されなければならぬ。そしてその各々をどの程度に解放したらよいかというところが、僕が此頃家のチビに就いて一番迷っている点だ。何でも欲しがるんだ。しかし無限にやつていいかどうかだ。近頃の育児法は乳でも規律的にやれといつてゐるね。ところがルソーなんか「エミール」の中で、欲しがるときにいつでもやれといつてゐる。僕は両方ともまだ悪いと思う。一定の規律を厳粛に守つて育て、果して社会に出て耐えられるかどうか。僕は規則も時には必要だと思ふし、欲望のある時に満してやるのも必要だと思ふし……。

清沢 僕は知能的自由は出来るだけ解放すべし、しかし欲望に対しては出来るだけ規則的である方

がよいという意見だ。それは外でもない、健康のためにだ。子供に必要なものは定^きまつているから、よく考えてお八つやご飯をやればよい。僕の家では他に何も誇ることはないが、食べ物などをきちんとくれて、それが原因かと思うが、子供等は実に健康です。

羽仁（もと子）　そうですか、羨しいこと。

清沢（夫人）　子供達は九つと七つになりましたが、今まで一度も健康に就いて心配したことはございません。一日位風邪氣のことがあつてもすぐ治りますし、お腹は一度も悪くしたことがありません。

杉山　健康に就いていえば慥^{たし}かにそうだね。僕も幼少^{ちい}さい時は胃腸が悪かったが、慶応の幼稚舎の寄宿へ入ったらあそこはとても規則的だろう、それですっかり治ってしまった。しかしそうなるとその規則を破ろうとする本能が起る、それ

がどうも自然だと思ふんだがね。

清沢　それは寄宿舎だから、多少とも商売的だったんだろうが、家庭の場合は時間はよく守つて、その代り食べる時には相当満足し得るものをやるようにすれば、その心配はいらんと思ふんだ。

清沢（夫人）　規律正しくする代りに、その日の状態をよく見て、満足出来るようにしてやります。

羽仁（もと子）　そこでしようね。規律を生かすためには、その時々に必要な工夫とそれだけの注意^{いりよう}が入用でしょう。死んだ規律に従う所から反逆心が起るようです。

好き嫌い

清沢　僕のところでは食べる時になれば、どれだけ何を食べても一切構わない、食べられるだけ食べさせる。しかし偏食という奴はいけなから、出たものは残らず食べるようにといっている、

だからお父さんがいる時はみんな食べちゃうよ。時々お父さんが早く書斎へ行ってくれないかなんて待っていることがあるけれど。

羽仁（もと子） 奥さんは、お父さんは少しひどすぎると思っていらいしやるかも知れませんね。

清沢さんのお子さんは慥たしかかにこのお父さんとお母さんの力でご健康なのですね。残しちゃいけない残しちゃいけないというよりも一番よいやり方は、子供の好き嫌いをよく見て、この子は油物が嫌いなのは運動不足な故せいか、野菜を食べないのは体質だろうかというふうに考えて、適当な処置をとることだと思うのですが、これも理論は分つて、実行の出来にくい部類ですね。

清沢 いや大抵のものは好き嫌いなく食べますがね。僕の友人の伊藤正徳君は幼少ちいさい時から魚を食べなくて、この不幸をどうか子供達に伝えないようにと努めていると話していた。理由の

無い好き嫌いは将来のためにならないから、それを防ぐために原則として例外なしに食ってしまえというのです。肉が好きとか魚が好きとか傾向はあつても、食って食えないものがそう沢山ある訳はないんですから。

羽仁（もと子） 偏食しないのは大賛成ですが、それだからどんな場合でも何でも彼かでも食べてしまえというのは、面倒はないけれど、どうしても少しファッショのような気がします。

清沢 だが原則がなくては困るからね。いつだったか、羽仁さんが牛乳を飲めないといわれたら、吉岡彌生さんが牛乳ほど滋養分の多いものはないと、嫌いな羽仁さんにすすめていたではありませんか。子供の将来のためになる訓練なら、幾分規則を用いてよいと思うな。

羽仁（もと子） いくら為になるといつても、欲しい事をいやいやするのはどうも……。

今　なかなか骨が折れるものですね。

東畑　今考えれば僕の親父さんはファッショでしたね。人参や葱が嫌いだというと、わざとそればかりつけさせました。

羽仁（もと子）　積極的ファッショですか。

東畑　今に食べるようになるよといっていましたね、そのようになっちゃいました。

羽仁（もと子）　家庭では、よく父親がファッショですね。

東畑　私の親父も、また私も相当なファッショでした。

体力、意力、理解力

清沢　僕は日本人はどうも情に負けることが多いと思うね。アメリカの両親などは厳格過ぎると思う迄に規則に対して忠実だ。泣いても時間であれば、いつまでも泣かせて置く。日本人か

ら見ると種族の相異かと思う位にひどく感ぜられる。しかし日本人、殊にお婆さんは子供を大事にし過ぎて、子供のためにもよくないですね。

高良（夫人）　スウィツアランドのルソーインスティテュート¹では、少数の子供を天才に育てようとしています。ドイツでは天才を伸ばすことよりも、よき市民を作ることに全力を挙げています。ロシアへ行ってみると保育事業などが盛んで、親子の愛情など持たないような国策になっているといえます。国柄によって教育の趣意が自然にこうも違って来るものなのですから、一体私共は子供達をどういうふうに育てたいと思っているか、それが大きな問題になるだろうと存じます。

赤ん坊が泣けばお乳をやるようにしています
1 Rousseau Institute「ルソー研究所、スイスの教育学者エドゥアール・クラバレードによって設立された。私立学校も設立し、教育の中心を、教師から子供へを目指す。

と、いわゆる条件反射でネガティブなことによる結果が与えられる訳で、そんなところから大人になっても泣き落としというような手段をとる習慣も出て来ると思うのです。欲望の統制のために、悪いことに対して適当な罰を加えるのに遠慮はいらないかと思えます。意志も強く、健康も強くさせるためには、親の側が基礎までぐらぐらさせてはいけません。

羽仁（もと子）　いくら泣いても、悪い時には与えない、その親の押通す気持から、子供に意志の教育が出来るかと思えます。

この間孫を連れて動物園に行きましたら、とても喜んで随分熱心に見ていました。ところが大蛇の所まで来ると、小学校三年生位の女の子が「怖い怖い」と泣いていました。新学期が始まって、小学生のことに就いてもいろいろ思っていた時だったので、私は思わず「あなたは小学生じゃ

ないか、ここへ動物を見に来たのでしょうか？注意深く見ていたらとても面白いのに」と叱ってしまいました。側にいたお母さんが、「本当にそうでございますよ」といったので、急に気が付いて、とんだおせっかいをしたことを恥かしく思いました。ファッショとおせっかいは、我々の陥りやすい非教育的な行為だと思います。

先生に叱られても、どういう訳で叱られるかと考えずにただ泣いたり、学校へ来ても大勢の人がいると、それだけで何だか怖くなつて泣いてしまつたりするのは、困ることです。怖いと思つてもそれを理解しようとし、子供心にも学校へ勉強しに来たのだから、泣いてはいられないぞとぐんと耐える。そういう意力、理解力を養わせたいと思います。

権威の所在

羽仁（もと子） 私も自分が子供達を育てた時は随

分ファッショ的な教育をしたように思われます。

今では頭ではとてもきらいで、一つもファッショ

なしでやりたいと痛感しているのですが……。

羽仁（吉一） それと共に子供にはよい意味で権威

に従う訓練を与えたいと思います。ものの道理

を権威としてこれにしたがうことを。それには親の

都合のよいことを直ちに権威として強制するよ

うなことは慎まなくてはならないでしょう。

杉山 親もそれにしたがうのでなくちゃ駄目だ。

林（夫人） 親も一緒に努力しないと、ママだつて

しないじゃないのなどと……。

羽仁（もと子） とても機敏に見付けますからねえ。

羽仁（説子） 私はまだ育てられた記憶の方が強い

位なのですが、子供の教育の前に、私共は先ず

夫婦の家庭に於ける権威を確かにして置かなく

てはならないと思います。何によつて一生懸命

になっているか、夫婦の間にその真理への意志

が確立していなくては、教育も出来ないように

思います。母は私達を余程弾圧したように申し

ましたが、私も母はひどい、頑張るひとだと思つ

たことはありましたけれど、弾圧などと思つた

ことはありませんでした。母も何かに一生懸命

になっている人だ、母も私も最後の一点では、

真理を求めてやまぬ熱心なねがいに於ては、互

いに自由な平等な者である、母は私をいかに叱つ

ても、決してその自由を無視することはないと

いうことが、自然に心に分つていたからだろう

と思います。家庭教育は教育が先ではなく、結

局夫婦があるものに向つて一生懸命精進してい

ることが、一番先ではないかと思ひます。

羽仁（もと子） 親も一緒にできることばかりが権

威になるのでは、範囲が狭くなつてしまひます

ね。こんな例がごひまひます。私が自由学園を創

めた時、早起きが出来ないのではほんとに心配して、皆にそのことを話し、援^{たす}けてもらいたいと申しました。努めてはいますが今でも私の家は

時間を守れない方なのに、学校は実に規律正しい所になりました。自分にやれる事やれる事というのみでは、自分以上の子供は出来なくなることも考えなくてはなりません。自分に早起きは出来なくても、起きたい起きたいということだけははつきり心^{こころ}に持つて、遅れてきまりの悪い時も、よい事を哄^{わら}うような卑怯な心は決して起さないように心掛けたいと思います。そして子供達にも本気で自分の長所を出そう、人の長所を学ぼうという心持が熟して来れば、家庭も社会もどんなに生々^{いきいき}として来るでしょう。

清沢 僕も子供がもう少し大きくなったら、煙草と酒は出来るだけ飲むなといいたい。酒はお父さんも飲まない、煙草はお父さんが喫んで、止まら

ないで困ったと白状してよい、そして習慣さえつかなければよいのだからと。

生活のきまりと

子供の人格的な扱い方

高良（夫人） 生活には一定の規則というものは

つも入用だと思えます。寝る時間になったら面白いことがあっても寝た方がよいと思えます。ただその時、起きていたいというなら花火があると何か理由があるのですから、時間だ時間だとばかりいわないで注意の転換をしてやりますと、喜んで規則に従えるようになります。子供が泣いたりしても、母親が興奮しないようにしなくてはならないと思えます。親か子か、興奮した方が勝ちだというような場合がよくあるもので規則は枉^まげないが、子供の心情に立至^{たて}つて考えてやるという用意があつて欲し

いものだと存じます。

羽仁（もと子） 早く寝ることがよいということな

どは、普段そう教えてあれば子供は少しも疑い
ませんから、それを守ることを、子供自身の責
任であると思い込むように導いてやりたいと思
います。八時に寝るときめてあれば、子供は一
人でそれを破ることは殆どなく、大抵寝なくて
もよいか寝なくてもよいかと親にきくものです。
そういう時に「私は寝なくちゃいけないと思う」
とだけしっかりと答えておけばよいのに、ねだ
られるとつい、じゃもう少しなどというのは親
が子供の責任を引取ってしまう人格的でないこ
とだと思えます。

高良（夫人） 約束だったじゃないのと、はつきり

させなくてはなりませんね。

清沢 規則は必要だがそれを適用するに当つては、
常に説明だけは充分にすべきだと思う、合理的

なら子供心にも理解するものですからね。

林（夫人） ほんとに子供は良心の強いものでござ

いますね。これはいけないからと話したならば、
じきに分つて止める場合が多うございます。

羽仁（もと子） 改めるべき悪いことや、なすべき

善い事をどうしてもなし得ない場合、お母さん
も助けてやろうと心から励ましてやることが出
来れば、子供達はどれ程力強く感じるか分りま
せん。母子の愛情も、こういう時に人格対人格
としての深さを加えて行くのでしょうか。

清沢（夫人） 何かやりかけていると、勉強時間が

来ても、もう三十分、もう三十分と申します。

そんな時、あなたがそれがいいと思うならそう
なさい、大きくなつて勉強が出来なくてもお母
さんはちつとも困らない、困るのは、あなたな
のだからと申しますと、その時はつんつんして
います、二、三十分もすると考え直すらしく、

きまりわるそうに机に向っています。お客様があつて寝たくない時も、明日の朝学校へ行くのにあなたが困らないと思つたら起きていらつしやいというと、やはりしばらくして考え直します。不適當な物を欲しがる時なども、七つ、十にもなればこうして自分達に考えさせた方が、ずつと効果があるようでございます。

親も学びつつ

羽仁（もと子） 迷い過ぎるのはいけません、親が迷うということも、時には必要だと思ひますね。弾圧した方がいいかしない方がいいかと考え迷う、それが案外子供の教育に重要な役割をつとめている場合もあるでしょう。何でも彼でも親に見透しがついていて、こうだ、こうじゃないとばかりいつていたら、人間的接触の機会を失つてしまうかも知れません。

新しき世代の家庭教育を語る

杉山 そりやそうだ。親だつて子よりほんの少し余計に分つてゐる程度のことだ。

羽仁（もと子） 親も子も必要な勉強と一緒にやつて行くのですね。

高良（夫人） 子供のことからいろんな性質を学ぶことにもなり、反省させられることもあり、親は随分教えられます。

林（夫人） 全くそうでございます。

正當に評価せよ

清沢 古い日本の婦人などは、自分に關する事は謙遜しなければならぬという道徳を持つてゐる。僕の母親は賢い婦人だったと思うが、人が来ると僕の事を乱暴で困りますと吹聴した。それを僕が聞いてると心中甚だ不満だ。これでも学校では操行甲だぞ、しかも相手の人の子供より遙かに出来て優等生だぞと思ひ、不当に非難され

ているように聞えてならない。こんな事が、僕の母親に対する親しみの情を薄らがしたこともある。近頃は褒め過ぎるのかもしれないが、謙遜し過ぎるのもいけないと思います。

新しき早教育とは

清沢 早教育に就いて、僕は多くの疑問を持っています。やるべきか、やらざるべきか、やるべきであるならば、英語も歌もピアノも教え込んでもやりたいが、限られた時間内でどうしようか。しかし早教育は果して将来の大きい発達のためにこういう効果を齎^{もた}らすか、この辺について伺いたいものです。

羽仁 (吉二) 普通早教育といえは二年で教えることを一年で、三年のことを二年でというやり方のようにしたが、それでは教育ということは出来ない、ほんとうの早教育はその年齢に合った

教育でなくてはならないと思います。

羽仁 (もと子) 今日には急に思いたって、園田静子夫人と、高弘さんに来て頂きました。皆さんご存知のように園田さんのやり方は、子供が人の顔を覚えるのと同じように、自然に音を覚える時期がある、その時を利用して基本的な十三の音を覚えさせてしまうというのです。新しい早教育の一例です。

清沢 しかし孰^{いす}れにしても幼い子供の頭に重荷を与えるのは事実でしょうか？

羽仁 (もと子) 内容を知って下さればお分りになります、重荷とはいえないと思います。ご飯を食べなければならぬ、遊ぶこともしなければならぬということ、重荷とはいえないと同じように。人の中に与えられている能力の要求を満たすのですから。

羽仁 (説子) 私共の子供も園田さんに教えて頂き

ました。代々まるで音楽には遠い生活をして来て、子供も音がはずれるという位だったので、ピアノをするようになってから別人のように音楽好きになりました。子供がピアノ学校といっているピアノのお稽古の日が好きなのも、大人が好きとか熱中するとかいうのと随分違って、とても平らかな気持ちでございます。復習おさらいも催促しなくてもしますが、特別熱心というふうにも見えず、遊ぶ時のような極く自然な、それだけに長続きのする愛着を持つているように見えます。

東畑 うまく自然の潮流に乗って教える訳ですな。

羽仁（吉一） 数え方とか、文学とか、科学の方面などでも、きつと、各々その方面の知能ゆめの覚めて来る時があるのでしょうか。その時に、適当な指導を与えれば、非常な好結果を納められるものなのかも知れません。そういう意味の早教育

が発達したら、社会の発達にも、非常に貢献することになるでしょう。

羽仁（もと子） 宗教のことも、大人に話すように話したり、ただ物語のように話したりすれば、後に反感を持つようになりましょう。しかし私は、大人になつて持ち得るものの芽は、小さくても子供の時分から人の中にあるものだと考えています。既に種があり芽が見えてくれば、その成長に最も必要なよい養いを絶えず与えてやることは、忘れてならないことだと思つています。今日はお子さんもまだ割合お幼少さい皆様に來ていただいたのも、小学校前の大切な生活にもつと社会の関心を深めたいという希いがあつたからです。

杉山 しかし音楽的要求の少い人、美術的要求の少い人など、自然に差異があるだろうな。誰でもが同じように同じことをやるものだろうか？

羽仁(もと子) 勿論人々の長所が違い、伸び方も違います、誰でも持っている能力を、出来るだけ発達させ、人格の土台を築くのは大切なことでしょう。

条件反射の実験に照して

林

生理学的に見て、子供の能力がどこまで延び得るか、どの時期にどの程度まで教えるのがよいかということは一寸分らないが、自分としてはもつと沢山のことを習わしてもらっておいたらよかつたと思います。語学なども若い時した英語、ドイツ語はそう困難でなかつたが、三十過ぎてから習ったロシア語は随分苦勞しながら、どうもそれだけ効果が挙らない。フランス語は十七、八の頃少し囁っておいたので、今からやり直してもものになると思っています。いろんなものを囁るのが、二十一、三になつて自分

の目的が定まつてから、磨き上げる素材を豊富にするために、必要だと思ひます。

実は私の専門は条件反射の研究なのですが、犬を使つて実験しています。世の中にベルを聞くと唾液の出る犬はいませんが、ベルを聞かせれば食物を与えるようにしていますと、遂には食物を見なくても、ベルの音を聞くだけで唾液が出て来ます。こういう大脳の働きを、条件反射といいます。そこでベルの音を聞くと唾液の出るように訓練した犬に対して訓練を止めると、その反射はどの位続くかというところ、訓練を長く続けたの程長く続き、また若い時の訓練はよく残っています。更に日が経つてその条件反射がすっかり消えてから再び同じ訓練を始めると、条件反射の非常に早く出来るのは若い時詳しく訓練したものに限ります。そうでないとなかなか早く深くつかない。その若い時とはいつかと

いえば脳下垂体の働き始める時、人間でいえば十一、二歳から十七、八歳、即ち春期発動期に相当する時期であるのです。

羽仁（吉一）　そこから推論してその時期によい生活の習慣とか、よい頭脳の働きをつくる訓練を与えることは、人間の一生にとって大切なことだということが出来ましようね。

林　そうです。だからこの事実^{じじつ}は教育に深い関係があります。考え方というようになことに適用してみてもよいと思います。

杉山　七つ八つという頃は、まだその時期に入らないんですか。

林　いや、春期発動期を中心としてその前後の間を併せて、七つ八つから二十一、二までの間といつてもよいでしょう。

重荷ではない

新しき世代の家庭教育を語る

羽仁（もと子）　踊りとか、ピアノとかいろんなお稽古をしている子供達は、大抵それを重荷にしているようですが、あれはどうしても子供に適當でないものをつめ込むからだと思います。早教育に園田さんのようによい実例を出して下さったのを見て、なおその思いを深めました。

高弘さんの演奏をきくために、一同ピアノを囲みました。九つの高弘ちゃん、稚いながらに少しも悪びれずにピアノに向いました。しかしフィールドのノクターンの美しいメロディーが室^{へや}に流れる頃には、高弘ちゃんは別人のように力強い存在でした。上気した頼に、熱の塊りのようなその手に体に、音楽に対する理解と愛と歓びとが漲っているのを、誰が見逃すことが出来るでしょう。二つ目のシューマンのアンプロンプテュは、一層の感激を以て演奏されました。

高良 驚くなあ。

東畑 全く。

羽仁（説子） 園田さんはよく、自分はこうしてピアノを教えることは出来るけれど、子供の人格をどう育てているか、それが不安だと洩らしておられました。けれど去年の秋園田さんがお亡くなりになった時、この高弘ちゃんはおんとうに立派でした。お父さんがあんなによくピアノを教えてくれたんだから僕はやっぱりピアノストになるのがいいと思うと、はつきり率直に決心をいったので、意気阻喪していたまわりの者が、どんなに励まされたかしれないということをききました。そのことから、ただ技術をつぎ込まれたのではなく、子供の生命を、音楽の方面から立派に育てる教育であつたことを、一層はつきりと信じる事が出来ました。

仮名を覚える時期その他

矢島

音楽に対する興味というか能力というかそういうものの現れて来る時期のあるというお話がありました。子供が片仮名のアイウエオを覚える場合について私の子供三人ばかりについて観察したところでは、大体四つぐらいから文字に対する興味が出て来るようです。私は四つの誕生日ごろにアイウエオの書いてある積木を与えます。その時字を教えるわけではないのですが、積木を持つて遊んでいううちに何か変なものが書いてあるのに不思議を感じて来ると見えて、これは何だと聞くようになります。その時教えるとな何の苦もなく覚えてしまします。私は余りいろんなことを教え込まない方針で、ただし、質問して来た時には少し面倒なことであっても分つても分らないでも構わないから返事してやるようにしています。しかし子供がこれは

なんだと聞いた時、これはアだとかキだとかと
いったのではとても理解できません。これは「ア
シのア」だ、「キリンのキ」だといって初めて理
解できます。独立して「ア」という字、「キ」と
いう字が分つて来るのはだいぶ後のようです。
個人個人で相違はありましようが、六つの終り
頃にはアイウエオを完全に覚えるらしいのです。
片仮名の方を覚えてしまうと平仮名は同じ積木
の裏を見て、だんだん覚ええます。七つで平仮名
の方も大体覚えたようです。これは文字につい
て一例を挙げたに過ぎないのですが、いろいろ
の方面について興味の出て来る時期があるので、
その時期を捉えれば何でも習うのは極めて容易
なことだと思われます。そういう時期を発見す
ることはむずかしいが、よく観察していればそ
れが出来ると思います。

羽仁（もと子） 一年の最初の絵の時間に山本鼎さ

んが、子供達に記憶にある林檎を描かせてごら
んになりました。大勢のを詳しく較べて見てい
ると構図といい、色といい、立体感といい、一
人一人随分な差のあることが分ります。

田舎者は勝つ

三木 僕はどうも現在では力を蓄えさせることを問
題にすべきじゃないかと思うな。人間は若い中
に余りいろいろのことに興味をもつて力を分散
させてしまうと、利巧ではあるが何事をも大成
し得ないで、途中でへたばつてしまう結果にな
る。だから結局田舎者が勝つというのが現在の
普通の状態ではないでしょうか。都会では寧ろ
子供がさまざまのことに興味を持ち過ぎるのを
親は慎ませなければならぬ、そして、余力を
残させることがいいのではないのでしょうか。

杉山 僕もそれを疑問にしてるんだ。

羽仁(もと子) 何でも出来るという子供はどうも

一体に人柄に味がなく、つまらないことがありますね。あれも習わせこれも詰込むというようにして、人間の活力を殺ぐのは困ります。私達の希っているほんとうの早教育、幼児教育は、これとは全然意味の違ったものでなくてはならないと思います。

清沢 筋肉などは使えば使う程丈夫になるという原則をもっておるが、頭脳もそれと同じなら子供の時から出来るだけ使った方がいいことになりはしないか。そういつたことは科学的に実験で証明されていませんか。

高良 そこまではやっていませんね。

東畑 どうも日本人の子供は賢過ぎる、外国人の子供の方がのんびり育っているように思われませんがそうじゃないでしょうか。

清沢 アメリカで、あちらの日本人二世とアメリ

カ人の子供とを比較して、僕もそう思う。そして日本人は優秀な頭脳をもっていて、親の愛国的競争心の刺戟にもよるが、小学校時代には米国の子供よりも勝る成績を示すのが通例のようだが、上へ行くと余り伸びないのも通例のようだ。

東畑 適当な時期に、子供の中にある本質を見付けて巧く導き出してやるのはよいことに相違ありませんが、小学校時代に余り詰め込むのは可哀そうですね。

高良 都会は刺戟が多過ぎるのですな。

林 田舎の人が大きな仕事をするのには体力の優っていること、健康の優位からも来るのでしょうね。

三木 それから環境の変化が教育上重要なのではないかと僕は思います。幼少さい時から大人になるまでずっと一つの学校に学んだ人に、ある欠

点を見るようにね。田舎から都会へ勉強なり修業なりに出て来ると、その環境の変化がよい刺戟となつて鍛錬されるのではないかと思う。第一力の蓄積が大切であり同時に刺戟を必要とします。都会は刺戟が多いが、そこに住む子供はいつも同じ刺戟を受けているので却つて刺戟と感ぜないのです。

子をぶん殴れない親、

厳しさを何処に求むべきか

東畑 家では子供がよく風邪をひくので苦労しますが、我々の子供の時代はどうであつたかという、手にひびをきらせて平気で遊んでいたし、親も別に気に止めなかつたようです。風邪も大してひかなかつた。親が余り子供に気を付け過ぎるのは、結局いけないのではないか、多少スパルタ式が加味された方が却つてよいのではない

いかと思います。

杉山 僕等の年代の者は一たいに子に甘い傾向があるよ。……。

東畑 僕等の親父は野性があつて恐かつたな。

三木 我々は少しも恐くない親父だ。

東畑 たまには子をぶん殴ることも必要じゃありませんかね。近頃のインテリの奥さんは子供を甘やかし過ぎる、わが子をば余りにわが子とする。もう少し他人の子の如く見る必要もある。

高良 児童心理などを囁つて、小さなことに神経を立てて子供をいじり廻すのは全く愚なことだ。

清沢 何だ、奥さん攻撃か？

杉山 この傾向をどうして打破するか、致命的な心配だ。僕はどうしても子供をぶん殴れないよ。僕は寧ろ子供に苦痛を与えたい氣持を持つてゐるのだが。

三木 何をさせるにも苦痛なく出来るようにのみ仕

向けることは欠点を伴う。

杉山 苦痛にならないことを喜ぶ現代社会の傾向が、ここにも強く反映している。

三木 苦痛がない、ということだけでは、意味がない。

杉山 欲望を到達するには多少の苦痛のあることを学ぶのは肝要だ。子供が一口何かいうと、お手伝いや女房が走って来て用を足してやるという現状だ。僕には殴ることも出来ない。

羽仁（もと子） ぶん殴り主義は駄目ですよ。ぶん殴ることが出来なくなつたのは確かに社会の進歩です。だが何処に、ぶん殴るに代る厳しさを求めたらよいか。私はそれは子供の責任は、必ず子供に負わせる場所にあると思います。寝なくてもいいでしょうといつて来ても決して賛成しないでお寝なさい、と強く子供を突き放すのが、ぶつことの代りになると思います。どう

しても寝ない時に、無理に寝かしつけるのではなく、責任を持たせて突き放すのです。そうすれば子供は気がひけながら起きていたり、反感的な気持で起きていたり、いろいろな経験をするでしょう。それが子供の生きた勉強になります。

勿論その場合、親は子供をよく観察してなくてはなりません、子供自身に責任を感じさせるように、適当な時に子供を突き放すことが必要だと思います。そうしたら子供はみつともない体裁を惹起ひきおこすこともあるでしょう、そこは親も耐えなくてはなりません。強くなつて突き放すこと、それは殴ることよりも一層厳しい教育ではないかと思ひます。

三木 今になつても親が子供を殴るような家の子は決してよく育つてないとは思ふ。

林 そうそう。

高良 殴られたことが、極めて適切な教育効果を挙

げるとい場合も、稀には存在しますね。

私はとてもいたずらっ子で、八歳の時でしたか、家の前に積んであった藁に火をつけたらとてもよく燃え出して、大騒動になってしまったことがあります。びっくりして家に入ろうとしたら、入口の所で親父にいきなり殴られました、ひどく応えたものでした。殴られた経験は滅多にありませんでしたが、あの時ばかりは参ったと心から思いました。言葉で説明される以上の感銘を受けました。

羽仁（もと子） 自身でいけないと思いながらしている時に、止めなさいと、ピリツと言ひどくいわればハツとなつて止めます。そんな時には、叱責も教育の一方法として入用だと思ひます。

林 自分で悪いと感じる時、自分でも刑罰を要求している、そんな場合には、殴られることが必要

です。

つまり殴る人と殴られる人との呼吸が一致した場合にのみ、殴ることはよい結果を齎すものでしょうね。もたら

個人の経験と教育学上の原則

山雀の例

羽仁（五郎） 個々のいわゆる実際には偶然的のものが多く、これらと教育方法上の原則とを混同することは誤りでありましょう。家庭教育に於ける個々の経験は、教育学上に充分価値ある資料だが、偶然の個人の経験をもつて、直ちに教育学上の原則のように主張したり、教育学上の原則を圧迫するようにはしたりするのは有害である。教育学上の原則として叱責の際に親が子を、教師が子弟を打つということが認められるとしたら、それは教育の非常な恥辱ではないか

と思います。

東洋では偶然の当りを貴び過ぎる欠点があるのではないか、高良さんのなぐられた場合はつまりそれであつて、例えば他の人が同じ目にあつたら或は父親に対して反感を持たないとも限らない、だから偶然を狙うのは最上の方法ではなく、僕等は科学的の責任ある実験を綜合して必中の方法を求めなければならぬ。園田さんはその点偉いと思います。自分の子の実際の実験と音楽上の実験とを併せ行つておられた、その実験の結果から、子供の音楽教育に、一般教育的に、叱責は無価値であること、空腹の際或は夜間に教えるのは全く不適當であること、これらの点をはつきりと確定され、特に音楽教授法の上では、音の観念、働き、発表の三つを必ず連絡させながら教えて行く、それからは単に音楽のみならず、一般教育の原則をも忌憚なく表

す所のものを多く含んでいると思われのです。
 山雀やまからに芸を仕込む話が先頃新聞に載っていました
 が、山雀おどに嚇おどしは全然効き目がない。叱責、威嚇、
 刑罰何れも役に立たない。自発的にやるのを得るより他ないということです。非常に面白い例だ
 と思う。

羽仁（もと子） 蚤のサーカスと正反対ですね。

羽仁（五郎） この点園田さんの方法は実に僕の敬服するところだ。幼い孫が園田さんに教えられていたのに付添つていたおばあさんが、いつかピアノ練習に興味をひき起されて、園田さんに伴奏のむずかしいところの弾き方をたずねた時は、流石の園田さんも一寸驚いたそうだが、こんなことは容易にあるものではなく、園田さんの自主的教育方法の確かさのあらわれでしょう。

三木 しかし自然的過程にばかり重きを置き過ぎるのは危険だ。僕は教育と権威の問題を忘れては

ならないと思う。現代の親には權威がない。

杉山 教育的社会的の根底原則が容易に求められない、そこにも權威のない原因がある。

眞剣を与えた親

東畑 私が子供の時には、年の近い男の兄弟三人だったので揃つてひどい悪戯いたづらをしたものだった。玩具の刀なんかが好きで家中の壁や柱に傷をつけて遊んでいると、或る日親父がほんとうの刀を三本買つて来て、黙つてそれをくれました。僕等は急に怖くなつて、それから一切刀で悪戯をすることをやめてしまいました。それはずい分思い切つた効目のあるやり方でしたよ。

羽仁（もと子） ほんとうに、教育は眞剣でなくてはなりませんよ。

嚇おどしたりすかしたりくどくど叱言こじとをいったりするのは追つつきません。

新しき世代の家庭教育を語る

眞剣を渡して、責任を持たせること、そこだと思ひます。

杉山 なかなか、心理学者だな、東畑君のお父さんは。

羽仁（吉一） 自分のお父さんは眞剣を渡す人だと思へば、子供は權威を感じますね。親はよい意味で恐れられることがなくてはならない。

子供等の続けた裸体操

羽仁（吉一） 学園男子部の子供たちは寒中も素裸で朝七時半から火の氣のない所で体操をやります。秋から始めて十二月一杯続けえらば豪いと教師もいつていましたが、とうとう冬を越しました。その故か今年大流行した風邪に男子部では殆ど罹せつた者がいませんでした。罹つても二、三日ですぐ治つてしまうのです。親が見ていてはこの寒いのにしもやけの手をかじかませて素裸で体

らなくてはならないと思います。

子供は弱者だ、その反抗性、

順応性

羽仁（もと子） さっきのお話のような反抗性が、

現在の大人の社会にもいろいろな形で表れていきますね。

杉山 鋭敏な頭脳程、働きが著しく認められはしま

せんか。

羽仁（五郎） 貝原益軒は「大疑録」に「大いに疑

えば大いに進む」といつている。

羽仁（もと子） しかし子供の性質を考えてみると

反抗性は勿論あると思いますが、全体からいって順応性は、善い方面にも悪い方面にも、更に著しくあるのではないのでしょうか。

高良 そのいずれが多いということは、量的にはつ

きりはいえませんが、順応性が多分にあること

操をやる所など見ていられないと思います。子供は或る時期には親の手から他人の手へ掛けるのがやはり思い切ったことが出来て、よいのでしょう。しかしこれは規則で強制してやらせたのではない、教師と子供達との合議の上なので。だから、本気にもなれたのでしょうか。

羽仁（もと子） 他人でも親でもそれはどちらでも、

子供を重んじることが出来ればよいのだと思います。子供の人格を重んじれば強制は出来ません。寒くなつて裸体操のことはどうでしょうか？と皆にきいてみましたら、中で比較的体の丈夫でない子供の中の二、三人が、続けてやった方がよいといいました。それはよい、ではやってみることにしようということになったのです。やろうという者がいないのにやらせることは出来ません。しかしよく子供を見て、その中にある最もよい望みや意志を、いつも強く励ましてや

は慥かですね。そして人間生活の成立ちを考えれば順応性の方が多いといえるかも知れません。反抗も順応するための一つの過程とも考えられる。

羽仁（もと子） 私は順応性の方が、比較にならない程多いことは、疑いがないと思います。そしてそれだから親や周囲の者の責任は非常に重いと思うのです。子供は弱者です。順応性を充分に持った弱者です。だから周囲の者は余程の責任を感じなくてはなりません。

反抗性をどう導くか、それも注意を要しますね。私は人生に於いて大きい所で押し流されて、小さい所で反抗する場合は最も惨めなことだと思えます。いやいや世の中のふうに倣^{なま}っていて、些細なことに反抗して鬱憤を晴らしている人が今の時代には余りに多いのではありませんか。

羽仁（吉一） 子供の中^{うち}にある反抗性の芽生えをそ

のままにしておくと、批評的で実行力の少ない人間になって行くと思います。より確かな肯定に達するための否定的な働きを親が上手に扱ってやらなければならないと思います。

高良 否定ばかりしていて、一向仕事が手につかない人間が現在多すぎます。

羽仁（吉一） 決断力の欠乏はインテリの通弊です。新しい世代の子はどうかしてその弊を突破してくれたらと思います。

羽仁（五郎） 正しく決断することを知らず迷ってばかりいるのは実事というか責任のある実果のある仕事にたずさわらせられないからでしょう。知識階級が無気力だというのも、現在知識階級が充分現実に参加せしめられないからでしょう。子供を、結果のある仕事に参加させることが大いに必要だと思えますね。つまり実生活を与えることですが、家庭の中の実生活では局限され

ているから効果が小さい。なお、家庭の親は既に過去に於て教育されたものであるから子供の教育は親だけでは不十分で、今進歩しつつある社会に直接子供を触れさせることは是非とも必要です。

羽仁（吉一） 在来の幼稚園とはまた少し違ったもので、幾つかの家庭が協同して幼児生活団とも名付くべき、幼児を中心とした小社会を仕組んで、そこに彼等自身の生活を持たせれば、その中で相応の責任をもって生活することが出来るのではないかと思います。

羽仁（もと子） 子供にとって、生活環境を出来るだけ広くしてやることは大切です。親から受けついだ、親と同じ好みでばかり子供が物を観るようになるのはよくないことだと思います。世の中にはいろいろのこと、いろいろな観方^{みかた}があるということを大きい所で学ばせなければなり

ません。けれど、先程のお話の一つの学校に続けて学ぶのはよくないということは私はそのまま賛成は出来ないのですが、真中の軸、中心の方針は変えずに、いろいろのことに触れさせて刺激を与えるのが最もよい教育だと思います。

玩具は如何

羽仁（五郎） 玩具のことはどうです。僕は大部分前から考えているのですが、今までのいわゆる玩具にはどうもいい玩具は少ない。フレーベル式の玩具¹以上の新しいいいものがなければならな
いと思います。

矢島 実際そうですね。僕は百貨店をあらまし廻つて検^{しら}べてみるというようなことも時々やります。

1 Friedrich Froebel (1782 - 1852) は、小学校就学前の子供たちのための教育すなわち幼稚園を始める。その考案した玩具「恩物」Froebel Giftsといわれる。積み木から紙・粘土細工、砂遊びなど多様な二十種を挙げている。

買う物は結局平凡なものになり勝ちですが、それでも比較研究の結果多少とも色彩のいいものを選ぶといった位の効果はあります。

羽仁（五郎） 先頃から穴をあけた鉄板をネジで止めて、いろんな形のを組み立てる玩具がありますが、あれなども相当よいが、まだ玩具というものの本質に関する問題はあと思う。

矢島 「クリエーター」という名で売っているものでしょう。私は長男が八つ、次男が六つのとき、二人に共同で与えてみました所、喜ぶには喜んで時々出しているようですが、果してよい玩具かどうか私にはよく分っていません。ただネジなどを廻すことは確かに巧くなります。

林 僕はソビエトで人形を見ませんでした。子供の世界からお伽噺のような空想的なものを除いて、自動車とか汽車とかいうような科学的なものを与えよとの風潮が盛んだつたためでしょう。

林（夫人） 私の所の子供は乗物などよりも軍人の持つものの方を好んで仕方がございませぬ。鉄砲に榴の実をこめて打つなど大好きです。

矢島 だいぶ前に親戚からサーベルを貰った時、そんなものが面白いの、といつてひやかしてやつたら、余り持たなくなつたようです。そのうちに少し破損した機会に捨ててしまいました。この頃では親類にも徹底したと見えて無暗^{むやみ}な玩具は持つて来ません。

東畑 よく、デパートで矢鱈な玩具を買つて土産に持つて来る人があつて、志は有難いが迷惑することがありますね。

羽仁（五郎） 一般には林さんのいわれるような傾向が強いようですね。親が、識者が、責任をもつて考えなくてはならない。

三木 社会的情勢から来る影響ではありませんか。子供をどう導くかという前に、どういう社会を

つくりたいかというしつかりした理論が親になければなりませんね。

林

「玩具」というと大人は模型を作るを考えますが、私は寧ろ大人が実際に使っているものを子供に渡したらどうかと思っています。

矢島

そうです。私も、やはり男の子が七つ八つのとき木工用の鋸を買ってやりましたところ、非常に喜びました。大工が入った時、木のきれはしを取っておいて与えると一生懸命何だか作ります。それに六つぐらいになれば健全な子供なら鋸や金槌を使っても手を痛くするというような危険は殆どありません。鋸の前に鋏を与えることも私はよいことのように考えます。私共の子供は四つの終り頃は鋏をマスターしてかなり自由に紙を切ったようです。よその人を見ると鋏を持っていて危いというような時分から持たしても何ともありませんでした。子供には無暗

に切りたがる時期があるようです。私の観察では四つぐらいの時でした。そういう時期には適当なものを与えて存分に切らせるのがよいと思います。

今

自由学園のコルクの大きい積木は子供が喜んで実によく遊びます。はじめの中は気のきいた並べ方をしませんでしたが、この頃はうまい形を積み上げて感心させられる時があります。街に出てビルディングなどを見た時「積木、うまいなあ」なんて見とれたりして笑わせます。

羽仁（説子）

あれは私共が考えて、フレーベル式の玩具のようにただ単に見たりいじつたりの程度で遊ぶためのものでなく、丁度子供が活発に力を出して持ち運び建築的に動くのに相当な手応えのあるように、大きく作つたものなのです。

矢島

ただ見るだけの玩具は実は玩具としての価値がないのですね。例えば電車の玩具が精巧に出

来ていればいるほどそれはよけいに電車らしく見える代りに電車以外のものには見えなくなる。ところが空箱や空缶などは汽車の煙突になったり車になったり客車になったり、つまり子供は想像力が自由だからいろいろの物に見立てることが出来て、それで遊ぶことが、実に愉快であるらしいのです。

東畑 我々の子供の時分には自分で工夫していろいろな玩具を作ったもんだが、それで充分遊べたな。

羽仁（五郎） それは何も玩具がなかったから自分で作ったのであつて、たまたまそれがよいことであつたにしても、偶然の当りに属している。僕等は意識的にこの玩具とか遊びとかいうものを問題にしないではない。そしてそれは生産的なものと結びつく方向をとらなくてはならないのだろうと思う。中世には、親が職人であれば、子供は遊戯の中に生産に関係しながら育つ

たわけです。僕等の子供の時代には、まだ多少その形が残っていましたが、現在では生産は社会化され家庭内には主たる生産がないから、生産に関係した遊びもなく、玩具は生活を離れた抽象的なものになつてしまつた。新しい方向がどういふ方にあるか、それを見て考える必要がある。

子供の読物に就て

羽仁（五郎） 子供の読物についても良心的な知識階級が注意せねばならぬ問題があります。くいつまでも卑俗な漫画の全盛では実に困る。くだらない絵雑誌が、単に廉価だということのために子供に買つて与えられている現状ですが、生活に余裕のないことも問題だと思います。

羽仁（吉一） 玩具のことと、読物絵本のこと、子供に関する社会施設のことは、それだけを主題

とした座談会を改めてしてもいい位の問題です。

矢島 安心して与えられるのはお世辞じゃないがやはり「子供之友」などです。絵本と違っていい

かどうか知らないが、私共の子供は地図を実によく見ます。気象や天体の本なども時々貸すことにしています。そういう写真の載っている大人の本などは非常に喜ぶようです。

林（夫人） 子供は読むのがほんとうに好きでございすね。そして漫画を好みますこと。

高良 漫画に限るみたいです。

三木 親の社会に流行のあるように、子供同士の間にも流行りがあるのでしよう。そしてそれは親の社会の傾向を反映しているのですから、結局親がよくならなければよい教育は出来ないという結論になるのではありませんか。

羽仁（もと子） この社会の弱者である子供を導くものの責任は実に重いものでございすね。

東畑 実際そうです。

三木 結局親が変わらなくてはだめだということになりますね。

羽仁（もと子） 大分時も遅くなりました。皆様どうも有難うございました。お子様方も皆さんお元気でいて下さいますように。

底本：『真理によつて歩む道（上）』

底本の親本：『婦人之友』1936.6

時代と文芸思想の行くべき道

石浜知行：

長谷川如是閑

林房雄：1903～1975（本名・後藤寿夫）大分県出身、東京帝国大学法科中退、小説家・文芸評論家、プロレタリア文学から転向後「文学界」同人、国家主義へ傾斜

尾崎士郎

勝本清一郎：1899～1967、東京出身、慶應義塾大学文学部卒、評論家、近代文学研究家

片岡鉄兵：1894～1944、岡山県出身、慶應義塾大学中退、プロレタリア文学から1930年逮捕された後転向し大衆小説、翻訳活動

武田麟太郎

中河与一〔與一〕：1897～1994、香川県出身、早稲田大学中退、小説家、作品『天の夕顔』

青野季吉

北聆吉：1885～1961、新潟県出身、早稲田大学卒、評論家・政治家、北一輝の弟

三木清

広津和郎〔廣津〕：1891～1968、東京出身、早稲田大学卒、小説家・評論家・翻訳家、晩年には松川裁判に取り組む

芹沢光治良：1896～1993、静岡県沼津生れ、東京帝国大学経済学部卒、小説家、作品は『人間の運命』フランス語訳も出た『巴里に死す』など

本社文芸部側

学芸部長 清水弥太郎

平林襄二：不詳

河辺確治：不詳

三宅正太郎：不詳

梶原景浩：不詳

〈1〉日本ファッショの特質

ドイツ的傾向の影響

清水 御多忙のところをどうも……本日の座談会は問題を三つにして全体を、時代と文芸思想の行くべき道とし、最初政治情勢の問題、次に文芸、思想のイズムの研究、第三に文学賞とか或は生活の問題この三項目を基礎にして行きたいと思います。

現在の世界の情勢から類推して日本の政治、文芸、思想が置かれている地位というものはどういう所にあるか、どこを押し切つて、どういう風によつて行けばよいかということですが、政治情勢に従つてかなり掣肘されるものもあるだろうし、また反対にこの情勢下から新に発生するものもあるだろうと思います。

林 質問したいんですが、今度の防共協定¹にしろ、

1 1936.11.25日独防共協定

緩遠問題²にしろ、事前には少しも発表されない、出来上つてからポカッと発表される。それにはよほど政府に自信がなければ出来ないが、そういう自信を持ち得る根拠が今の政府にはあるんですか、政府には——有ゆる国際的、国内的問題を独断専行して、事の終つた後に発表して、僕等人民には唯従えというんだね。

尾崎 それはあるように思う。

林 どういう自信かね。

尾崎 今の政治家自身能力の上にある自信だ。

林 僕は政治のことにはあまり怒るまいと諦めてるが防共協約の抜打ち的のものにはね——。

平林 やはり議会とか何かに持出してからやるべきだと云うのかね

林 それは何でもよいが、三ヶ月も前からやつてる

2 1936.11「緩遠(すいえん)事件」関東軍参謀の画策による蒙古軍の北支侵入事件、中国軍に大敗する。中国側の反日機運が昂揚する。

なら、僕等に知らしてくればよい、これが一つの例でね。

三木 それが日本の官僚ファッショと云われるものの特質だろう。外国のファッショは或は擬装か知れんけれども、兎に角民主的の形を取らせる、併し日本ではそれが十分なされていないんじゃないか、そのわけは、長谷川さんのお考えはどうか知らんけれども、日本の官僚というものの性質にあるのではないかと思うんだがね。つまり国体から来ている官吏というものの性質が非常に違うから、外国とは違って、そこに非民主的の権力を持ち得るという根拠を自分たちが意識して居ると見られるのです。

林 政府の実力でしようか、権威でしようか。
尾崎 権威である。

三木 権威の問題は大衆性に関係している。戦争というものは国民の納得がなければ出来ないこと

でその最も極端な場合だが、今日は準戦時状態であるというのなら、もつと国民に納得させるようにしなければならぬ。それには擬装的にせよ民主的の運動を起してこれと結びつくことが必要だろう。

林 僕も感ずるな、すると本年はそういう傾向が進んで行くんでしようね。

三木 つまり今のファッショ的のものが民間において運動を起すかということになるのだが、併し橋本金五郎氏【欣五郎】の運動などにしてもあまり発展しないというでないか。するとなかなか難かしい問題にぶつ付かっているんだと思う。

林 日本のファッショというものは、外国と違って、すでに政府そのものが現状に於いてドイツ、イタリアと手を繋ぎ得るのだ。民間ファッショを必要とせず、政府の現状に於いてファッショが成立しているように見える。

清水 勝本さんドイツなどと比べてどういふんです。

勝本 経済政策の手を見て居ると大体ドイツの辿つて居る後を尾いているようぢやありませんか、ドイツに種本があるんですよ、経済政策の種本がね。そこを一つ一つすつば抜いて居る人はありませんけれども：それにその種本がどういふ訳だが、イタリアになくて、ドイツにあるのは官吏の語学的の關係があるのぢやないかと思うんですよ、イタリアのファッショ政策を真似ていないで、ドイツから影響を受けて居る…。

三木 それはある、語学ばかりでなく、大学の學問の傾向が一般にそれだね。

勝本 それでいて、僕はヒットラーの擡頭期を見て来た訳ですが、ドイツとまるで傾向の違ふ点もある。ドイツのナチスの政治家というものは、僕たち随分色々と批評もして来たんだが、彼等

が民衆の中へ出て、特にヒットラーが首相になつたり大統領になつたりしたあとでもどしどし演説したりして民衆の間に圧倒的の勢力を得て居ることだけは認めてもいいんです。ヒットラーがまだ政権をとらない前、ベルリンのスポーツ・バラストで演説などをやつた時にベルリン市民が殺氣立つ位の勢いだつたし、それから政権を握つて直後、ウンター・デン・リンデンのプロシャ内務省のバルコニーにゲーリングが立つて、手を挙げて居るところを眼のあたり見たんですが、その前をウンター・デン・リンデンの道幅一杯にドイツ人が「ハイル・ヒットラー」「ドイツ再興万歳」を叫び、手を挙げて雪崩れるように進んで行くんだな、兎に角欺瞞のせいにして、も何のせいにしても、まアそういつたような民衆的なものに基礎を持つて居るんだ、ところがね、日本ぢや単に小ブルジョワ層の間にさえそ

れない。僕は社会評論家たちに長いこと聞きたいと思つていた事があるんだけど、ファシズムというものが小ブルジョワジーを基礎にして擡頭して行くと云う一つの定説乃至公式―誰でもその公式を説くだけでそれ以上のことを説いてくれないんだけど、ところが現実の日本はファシズムに対して、米屋さんでもまた美容師でも、その他色々な小ブルジョアジーがファシヨ的統制経済というものにすでに至るところではつきり反対している、その小ブルジョアジーの※「#原本6字欠損」ているようではあるけれども、併し経済上の問題になると、目ぼしい問題では小ブルジョアジーが真ッ先に立つて反対して居る、これは一体どういう事なんだか、つまり全般的な政治思想よりさきに具体的な統制経済の本質が日本では露出してしまったせいがあると思うんですが。

〈2〉官僚とその勢力

続日本ファシシヨの特質

河辺 石浜さん如何です。

石浜 それは二つの事情から来ていると思う。一つはドイツやイタリーのように戦敗、インフレーション、経済的極度の窮乏、賠償問題といったもので中産階級が苛められず反対に日本では好況にめぐまれて中産階級がそのおこぼれを頂戴していたことだ。例えばドイツでは、戦敗とインフレーションとで中産階級は全く経済的に没落していた。そこへヒトラーが看板だけでも中産階級救済の旗をかかげて現れた。藁でもつかむように中産階級はこれにとびついて行つた。イタリーもドイツとは若干事情が異なるが経済的・社会的混乱が中産階級の生存を極度に脅か

していたことは同じだった。こうした事情から、ドイツやイタリーではファッショは中産階級を自己の陣営に引入れ得たのだ。その二は、日本資本主義の特異性及びそれから来た日本政治の特異性だ。国家権力が強いこと、官僚が伝統的に一つの政治勢力をもっていることだ。だから日本のファシズムは民間からよりも官僚やそれと結ぶ勢力によつて強化されるのだ。従つて日本ファシズムは大衆に基礎を置いていないということも一つの見方と考える。

勝本 それに日本でファッショ、ファッショといっているけれども、ドイツやイタリーのに相應しいものがある訳ぢやない。ドイツでは国民社会主義と看板が掛かっているだけに欺瞞にせよ口さきだけにせよ、とにかく社会主義的な民衆的なエレメントも青年たちの思考にのぼり得る訳で、その点で青年たち、特に大学生たちなどに

も魅力のある事がうなづけるんですが、ところが日本には第一、青年たちに何にも魅力がない。

石浜 官僚がやるファッショの政策といつても社会政策、ああいう方面には些つともやつていないでしょう。国民生活の安定安定と言葉だけでいうだけで、一つとして本質的な国民生活安定策はやらずに反つて増税で国民生活を一層苦しめようとしている。又中小商工業者が没落するのは仕方がない、などという統制経済論者もいる。事実日本の統制経済は独占体ばかり保護して、中小商工業者に対する政策なんかは全くボーズだけだ。これでは中小商工業者を掴まえ得ないのは当然だ。

片岡 こういう事情はありませんか、日本では労働者の努力がそれほどまでに迫っていない間に起こされた運動だが、向うは迫つて、その間際に

なつて、労働者の勢力に対する反感を持つて居る小市民を大衆的に結合せしめる。そういう形でファッショの運動だった。少なくともそういう必然性が日本よりは余計あつたということ。

石浜 それもあつたでしょう。が、大戦後の各種条件によつて困窮していた中産階級を巧みに政治的に利用したことがドイツなどの成功した原因でしょう。だからナチス政治が続いて中産階級救済の看板が看板倒れだと判ると内部には大分反対が強くなつて来る。刑法を改正して罪刑法定主義を放棄したり、批判を禁止したり最近そうしたことをするのは、その証拠でしょう。うまく行つてればそんなことをする必要がないのだから。

勝本 だから或る意味に於いてはファシズムよりもっと悪い方面もあるんだと思うんですが、ただ今後の問題としては、日本で小市民までファッ

ショというものに追隨して来るんでしょうか。

青野 日本の場合のは、いま勝本君がいったような意味の、向うでヒットラーを持ちあげるといふ、ような意味に支持されるというそういうことは当分ないのぢやないかね。

勝本 そういうのもファシズムと呼んで、ドイツやイタリーのと一緒に考えてよいのか、どうか、もう少し古いものぢやありませんか。

林 ファシズムというものは、いつかも問題にしたんだが、民間に於ける運動、そういうものをファシズムといふなれば實際上日本では一応抑えられている。一番尖端的に現れたもの、五・一五事件とか、二・二六事件とかその他の意識的のファシスト的の運動は一時的に敗北して居るんでしよう、だから現在ではそういうものからのファシズム政策は現れずに、政府から現れてるんですが、どつちをファッショといつてゐるん

ですか、これは非常に真面目な疑問なんだが。

三木 やはり政府の傾向が、ファッショとか云われるのでしよう。尤も二つのものは無関係だとは云えない。

勝本 併しドイツのたといええば日本はヒットラーが政権を取つて居るんでなくパーペン Franz von Papen が政権を取つて居るんだ、ヒンデンブルグも満足させ、ヒットラーも満足する政策を日本のパーペンが取つて居る、その点で日本はパーペンがうまいことを――

林 それにしても日本のパーペンはまずいな。ヒットラーは宣伝省を持つていて公然たる民衆煽動の政策を取つて居る、日本の政府ファッショは全然秘密主義ですね、これが三年も続いたら如

1 1879～1969、ドイツの軍人、カソリック系政党から政治家に。ヒンデンブルグ大統領の信任を得て首相になるも安定した政権基盤を持たず、ナチスと手を組み、ヒットラー政権を成立させた。

何に辛抱強い人民でも怒るよ。

勝本 併しドイツやイタリーのファッショというものは私兵を形成して勃興して来たんだが、日本のファシズムは私兵というものを組織するといふ点では全く微弱なんだ、これは政治的支配体系というものは警察権でも、また軍隊の方でもこれが動揺して居ることがない。非常に鞏固で、どういう事でも強行し得るだけの力を持つて居る。従つて日本の支配階級には私兵をもつたファッショと云うドイツやイタリーに於けるようなものへの要求がない。その必要がない。それがドイツやイタリーに擡頭して来たものと日本にあるものと違つて居る点、従つてまた人民の意思を聴かないでも統制経済その他を執行して行ける点、私兵が要求されていないと云う点をよく見る必要があると思うんです。ドイツなんかは支配機構が崩壊しそうな危機を経験した

んですからね、日本にはそんな危機は無いんです。

林 では、日本に於けるファッショとは政府なんだな。

三木 それはつまり日本の国体から云つて権力の所在は明瞭で、それ以外に権力を許さないわけで、勝本君がいわれた問題もこの点から理解されるんじゃないか。

〈3〉迫りつつある統制

認識されない日本の特殊事情

石浜 それから私兵の問題。日本のようなせこましい土地で国家権力つよく官僚が発達し官憲が強いところでは、ヒットラー、ムッソリーニがやったように平時に予め私兵を養成するという余地はない。

勝本 それは日本の支配機構が動揺するような時期に達していないから……。

片岡 戦争で一時的にでも繁栄した国と、しない国とではまた大分違う。

青野 それで日本の上の方からのファッショですね、それが、文学というものをもう少し積極的に自分の政策の対象にするような時期が来ますかね。

三木 少なくとも民主的に見えるようにするには文学が必要でしょう。これまではどういうことを考えなかったから、利用しなかったけれども、今後は、民間の文芸を利用しなければならいでしょう。これまでにファッショ文学はなぜ起らなかったんでしょうかね。

平林 文壇人はもともと自由主義者だから、そういう統制されたファッショには最初から反対でしょう。その意味に於いての文芸は生活の為に

は始められるけれども、本質的には反対でしょう。それ故政策の対象にはなり得ない……。

林 併し政府および聰明なる官僚の間には青野さんの

のいったような試みがずっとあることは事実だ。

例えば、日本文化連盟、文芸懇話会、美術院問

題……。

清水 ますます本年は統制が緊密になつて来るとい

う――。

林 そう見なければなりません。

勝本 経済の建前は準戦時状態といつて居るでしょ

う、それからいえば思想の統一、劃一というも

のも当然来なければなりません。準戦時状態と

云う客観的事情がそれが必要とするんです。そ

こで僕たちが考えて見たいのは、日本でその思

想的の統一に行くのに、どういう手段・方法で

そこへ持つて行くかの点。法律改正案を議会に

提出して、それでやつて行く方法――それでな

ければ合法的には来ないんだが、併し現在新聞に対してはニュースなどの統制がいつの間にか出来てしまつていて、何も別に法律はないけども、現在の政治方針に不利益な記事というものは国民の目の前には現れない、どうしてそうなたか、何にも特別な法律はないんだね、例えば何処々々で日本技師が運河を掘つてるといふことが外国の新聞には数年前からたびたび出て居るが、日本の新聞には曾て出たことがない、そうかと云つて別に発表禁止命令が出ている訳ぢやないらしいんです。またそれが外国新聞の誤報なら誤報だと知らせて欲しいんだが、そんな記事も出ない。そういう取り締まりの方法が結局芸術の方にも適用される方法で、どういう方法で取り締まられるのか、よく知つて置く必要があります。

石浜 同盟通信が出来たり、また情報委員会²が組織

されたりして、通信や官僚の発表を統制しようという風になって来た、それがそういう統制の現れぢやないかと思う、通信を統制したり、官庁の発表を直接にやらないで、情報委員会を通してやるという方法になって来たことは、そういう風に段々進みつつある一つの徴標ぢやないかと思うんです。

清水 こういう情勢の場合、思想と文芸に携わる者はどういような方向を取って行つたらいいんでしょうか。

長谷川 僕は日本の政治形態はどうしてもヨーロッパに発生したような形態では進まない、またそういう形態にならぬという風な考えがある、その

1 1936、当時の2大通信社であった日本電報通信社の通信部門と新聞連合社を合併、日本の有力新聞社、日本放送協会を会員として設立。

2 1936内閣情報委員会、この後官僚と軍の調整機関から、内閣情報部・情報局と発展する。

れだからそれがどういう行き方かという事は中々難しい問題だが、色々な方面から説明が出来るが、経済的にも資本主義の非常に発達した、そしてそれが行き詰まったというううな情勢の中にあるものと日本のようにそれから遅れて発達した機構を以て非常に進んだ資本主義に対立する地位のものがあゝると思う、それだからまた資本主義社会の世界に於ける段階の相違による対立というものがあゝると思うんだ、これを経済学者も政治学者もあゝんまり注意してゐないようだが、注意してゐないのはヨーロッパの理論によつてゐるからだと思ふんだね、つまり日本の資本主義なり産業機構というものが特殊な形態を持つて居るという認識を日本人は一番うまゝ之を立てる、観察する地位にあると思ふんだが、併し日本の経済学者なり政治学者なりが、それを我々に教えてくれることが、我々ばかりでは

ない、国民に認識を与えることが不十分なるために、外国のファシズムとか人民戦線とか国民戦線とかいうものを形式的に取入れようとする傾きがあるのぢやないかと思う。(この話つづく)

〈4〉日本の官僚の地位

長谷川如是閑氏の統制論

長谷川 例えば官僚という問題でもヨーロッパの官僚と日本の官僚とは丸で性質も違い、発生状態も違うというような事があるから、だから日本の、諸君がいうファシズムというものは日本の官僚の特別な性質で、特別な形態を取るといふなれば官僚の性質というものはどういふものであるかという事を見ないと官僚的だから民衆的でないからファシズムが特殊の形態を取るといふことだけでは不十分です。官僚というもの

の性質が違う、というのは官僚と人民との関係、官僚と国家の政治機構との関係というような地位に於いて、官僚というものは——日本の官僚というものは特殊なもの、それが一番よくわかる点は何といふかなア、つまり国家の近代化に對して一番功勞のあつた者、具体的に働いた者が官僚であるという事になるんだ、日本ではそれは明治初年にフランス思想だの、イギリス思想だのを以て猛烈に刺戟したものがあつたけれどもそれに拘らず維新当時から、日本を近代化するといふことで、科学的といへぬまでも相当に働いたものは官僚だつた。だから議會政治でも何でも官僚が作つた。そういう官僚の地位が国民にも認識されているといふことがあつた。西洋では官僚といへば政党政治の末期的の現象だとか、封建政治の後期の現象だとかといふが、日本ではそうではない。立憲政治の初期の現象

なのだ。だから日本の官僚の特別な性質から官僚が先刻のお話のように人民に知らせずにいわゆる官僚的に何事でもやれるという事もあるのではないかと思う、それは日本では或る程度まで成立する、ヨーロッパでは無理なことでも——それは何故かという、今もいったように官僚が一番重要な地位を持つて居た、明治以来の発展というものが自然発生的な、つまり何というか、俗にいう運動的の働きによつて動いて来なかつた、そして官僚の組織的な、科学的な、科学的といったところで高の知れたものか知らんけれども、とにかく調査研究によつて動いて来た、自然発生的の運動というものは刺戟するけれども、ヨーロッパの運動みたように具體的の形にならない、つまり日本はそつちのほうへ動いて行かなかつた。だから官僚の専制ということとは結果であつて原因ではない。だから、この

官僚というものの自体が、明治の官僚を見ても、専制者として頑張つて居るかと思うと、いきなり政党政治家等に飛躍してしまつた。議会の前に伊藤公の銅像が立つたのもそれだが、伊藤公ばかりではない。今の官僚がどうなるか、チョット私どもには分らぬが、併し日本の官僚の性質というものは今申したように憲政を圧迫したかと思うと憲政の第一功勞者として銅像が建てられるということが今後も起こりやしないかということを考えられるんです、だからヨーロッパの歴史とそこところが余程違ふんで、文芸芸術というものも、そういう点で日本の芸術家、芸術に対する統制というものがなくとも、それ自身で統制もし、発達もして行く、今日の新聞がそれで、誰が統制して居るか分らんが、よく統制されて居るということがそれと一緒に、文芸にもそれがあらんぢやないかと思う。

林 長谷川さんがそういう意見を吐くとは思わな

かった。僕はこの頃伊藤博文を書いて居るんですが、やつと自由党時代まで来たんですけども、若い作家の建前としては自由党に同情したいんですけれども、書いてる間にそうも出来ない気がして来た。どうしても伊藤という人を一個の強力な存在、部分的には自由党よりも進歩的な存在として認めざるを得なくなつて来た。あなたの言つて下さつた意味と同じような気がします。

【参考】コラム「壁評論」

上院と如是閑・馬場

貴族院がどう改革されるか、これは国民大衆が眼を皿のようにして眺めている問題だが、いっそうラチが開かぬ。有爵議員の始末にしろ、多額納税議員の廃止にしろ、健康な時代感覚で判定したら、大して小面倒な問題でもなさそうに

思われるが、やはり腫物を手軽に切開するような具合には参らぬと見える。それはそれとして清沢洌が最近何処かで、長谷川如是閑と馬場恒吾を勅選にして、上院の議席に座らせたら……と書いているのを読んで、思わず快哉を叫んだ。これは決して一片の夢想では無く真面目な話である。今まで「憲政」に功勞のあつた政治家や、文教に貢献した学者や教育家で勅選になつたものは数限りもないが、それらに比して如是閑や馬場の日本政治、社会に対する貢献が劣つたものだとはいへない。ただ彼等の貢献が認められぬのは、その民間性の故にである。しかし貴族院の改革を実質的ならしめ、その活動を時代に副つたものにするためには、そういう民間性を持った国家社会の功勞者を勇敢に迎えることなど、最も効果的な方法の一つであろう。広田内閣にはとうていそんな離れ業のやれよう筈もないが、思想界や評論界の人々はジャーナリズムの世界だけでブツクサ云つておらずに、一

つの示威としてでも、二先輩に上院の議席を！
を標語として真面目に努力してみたら、少しは
世の中が明るくなるろう。（大井真爪）

くくく

〈5〉直言主義で行け

単純でない現状

清水 その問題はそれとして現下の情勢の中から何か生れて来るものはありませんか。

林 いまの長谷川さんの意見では、では何をしたらよいかという事は分らなかつたんですけれども――

長谷川 それは分らないんだ。

林 そうですか――僕は文芸家、思想家に直言主義で行くことをすすめたいと思っています。その理由は向うが我々を盲目にし聾にしているんだからこちらが盲目になり聾になつたつもりで、

どこまで物が言えるか探つてみたいんです。どれだけの事をいったら悪いんだか、まるでわからんので、皆必要以上に小さくなっている感じだ。実は現在ほど小さくなつて居る必要はないのかも知れない。僕は文学者として相当長く歩いて来たし、その間に日本の事も分つて来たし、生まれも日本人だし、精神も決して非国民ではない。その日本人が日本の政府の下でこんなに縮みあがらなければならぬというのは間違いがどこかにあるので、だから一度手足を伸ばして言うべき事を言つて見て、その上でいけないといわれたら、改めて縮み直しても遅くはなからう。それで本年は直言を試みて、統制統制というが、どこまで統制されているのか自分の手で試して見る。

武田 僕もその意見です、統制という事が実際に徐々に進行して来たと云うことや、我々が統制

されつつあるということも事実なんだけども、そう自分から言うことによつて、ますます自分の身を縮め、後ろへ退がる傾向があると思ひます。極言すれば、何か空想的の怪物の幻影を描いてその自分の作つたものに怯えてるということとはインテリゲンチヤだけか知らんけれども、僕の周囲には実に沢山見出される、今、統制がないと云つたり、反動時代でないと云えば嘘になります、暫く、そういうことを考えずにやつて見る必要があるでしょうか。自分からすすんで退却して行くような傾向を排したいのです、退却するから却つて退却の条件がつくり出されるのぢやないかとも思うのです、だから、暫く反動とか悪時代とかの言葉を慎んで平気な顔をしていよう、ものを云うにも、ここまでは云えないと云うよりは、ここまでは云える、と云う心がまえになること。それを提唱したい

のです。自由があると云えば莫迦だが、ないと考えすぎるのも勇気がなさすぎませんか。

青野 今の話は面白いが、併し長谷川さんの仰つたように日本の文壇にも、別に統制されなくとも、自分で調子を合せて行つて實際的に一種統制されたような工合になつてき、自然とそういうものに引き摺られて居る、文壇的情勢というか、そういうものはないのかね。

林 長谷川さんがそういうもののある事を挙げて、認めているんだ。

長谷川 日本の特性を認めるんだね。

青野 広津君、どう思うね。

広津 君のいうような意味ではないと見るのが本当ぢやないか。

青野 いや、そんな事でなく、非常に対立する問題があつても皆忘れて、好い加減にあつちの角を矯め、こつちの角を切つて、そうして一種の自

発的の云わば屈從の調子を持つて行くという事
実がないかね、文壇には。

三木 それは日本国民全体にあるんじゃないかね。

勝本 僕はそういうことがあるとやはり思うんです
が、それを一概に悪いと見るか、どうかはデリ
ケートな問題で、物ごとを百パーセント理想通
りでなければダメだときめてかかるような単細
胞的な空気が文壇全体を支配した時代もあった
が、しかしこの頃では文壇人がそう単純ではい
られなくなってきた事情がある。それだけ文壇
人全体が非常に修業してきてるんだと思うんだ、
これは買うべき面ぢやないか、例えば早い話
が、文芸懇話会というものがあるね、あれは或
る時代だったら忽ち滅茶苦茶にやつ付けられて
しまった存在だと思う、併しこれに対して今ま
では文壇人がもつと進んだ複雑な態度を立派に
執つて居る。叩き壊して行く批評というものは

むしろ楽なものだと思う、単に鋭く構えて、一
切切切切つてまкруうと思えばそういう鋭い批
評というものは楽なんだ。そんな批評家は輕蔑
されてもいいんだ。大向こう受けだけなんだよ、
それよりもつと現実的、建設的な氣持で物ごと
に對して、その物ごととの何かよい方面を掴みそ
れを兎も角何かよい方向へ役立てようとして動
いて居る人がすでに文壇に相当多いと思う、そ
ういう傾向が生まれて來たことが最近の文壇の
特徴。

〈6〉話せば解る性格

三木 そこは評価の問題で、みな卑怯になつて居る
というような所もあるだろう。

勝本 それあ、ミーラ取りがミーラになつてしまふ

危険もある。しかしまだ誰もミールになつちやいないし、そう云うちよつとした危険さえ犯したくないと云うんならもう誰も何もしないでいるより外ない時代ですよ。

三木

そうだけれども、それを何とか改めなければ日本には大きな文学が生れないかも知れない。

林

今まで打破つて来た者が負けて来て居る、卑怯とかそういうものではなくて、その例は転向という問題。これなど、極めて日本的性格を持った問題だ。世界中の司法官で、お前は十年入りの奴だけれども、思想さえ捨てれば出してやるというものはない。そういうことを司法官にいわせ実行させる特殊な性格が日本のどこかに潜み存在して居る事實は重大だ。

長谷川

それは日本の民族的對立が少ない事情から来てるといのが私の考えだ。ヨーロッパのような寄合世帯でなく所謂話せば分るという国

民的状态、古来そういう傾向がある、我々の国民には、だからつまり人民に対して必ずしも輿論を問わないのぢやなかったが問う必要がないということもあつた。つまり解つていると考えるのだ。ただここにあるのは昔からある事だろだけれども、昔は社会的には働いたが政治的には余り働かなかつたけれども、中間に国家とか社会とか人民とかいうものの意志でなく、中間的の何というか、寧ろ大局には関係のない勢力が相当有力に、個人なり組織なりを牽制するという力がいつもある。つまり徳川時代には旗本が暴ばれるとか、それに対して市中侠客が憤起するとかいうことがあつたんだが、今でも国家を認めない、社会も認めない、階級も認めない、しかもそれでいて、西洋の私兵みたようなものはないけれども、一種の力を持ったものがある、そういうものが日本にある為に、お互いに遠慮

が出るということはないかね。

林 ありますね。

長谷川 そういうものがうるさいとか、或は触らぬ神に祟りなしというので、この勢力というものは国民なり、国家なりが研究して何とか処理をしなければいけないものだと思ってるんだが。

林 例えば夏目漱石とか、森鷗外という人は乃木大

将を非常に尊敬して居りますね。これは今の文士には理解できない現象かもしれないが、事実なんです。大衆は今でも乃木大將を尊敬していますが、これらの明治の大家が、同じ尊敬を持っていたという事実は甚だ暗示的です。長谷川さんのいわれたことだと思いますのは、例えば山路愛山の国家社会主義―政権が貴族から武士まで移ったのはまアよいとして、商人にまで移ってはいかんといい、そういう精神がずつと日本にはある。僕や武田は「文士さむらい説」を唱えて、

時代と文芸思想の行くべき道

だから僕は今夜もこうして僕は袴を穿いて来て居る訳だが、この間の事件に僕や三木君が或る意味の共感を表したのもその精神の現れですよ。

青野 今の日本的の、話せば分るという習性について問題があると思うんですが――。

三木 そこは非常に研究して貰いたいところですね。

林 血の問題ですね。

長谷川 血ぢやない、国民的結合組織の特性だ。

林 それが血ですよ。

三木 そこはイギリスと日本は違うんじゃないか。日本では思想でもファナチック fanatic な思想でなければ受けないというようなことがあるが、アングロサクソンにはそれがあまりない。

長谷川 僕等ファナチックな思想は日本では極めて少数、少数であるけども、それが有力に作用す

1 大事件といえは二二六事件になる。

る現象があると思うんです、つまり徳川時代にも旗本の威張られる奴はホンの少数、けれども、それが強力的に有力だったということがあった。非常に少数なものが有力になる、これをどうにかせねばならない。

林 それが組織か——それなら分る

青野 そういう話せば分る式の日本人の性格、それが文芸統制の場合に、甘く利用されやしないかと思うんだ、つまりそう君たちは議論しなくとも話せば分るんだという風にだ。そうなると問題が新たな局面に接する。

林 その点、話せば分る主義の根本に横たわるものが重要問題だと感じて居ります。力で頑張りさえすれば勝つという考え方は褒められない。

青野 併しそういうものは自然的に崩壊するから。
尾崎 話せば分るということは個人的の認識である。

広津 こつちでは話せば分ると思つて居る方がよいね。

勝本 文壇人がフレキシビリティに富んだ気持ちになつて来た事はさつきも云つたが、それを指して青野さんからいえば、上から悪く利用されて居ることと見られるか知れんけれども、しかし大きな目でこの四五年間の文壇の動きを見て見れば、左様に文壇人がフレキシビリティに富んだ気持ちになつてきたことが、日本の文化を防御する非常な働きを為して来た面を大きく評価しなきや不可ないと思う。

林 文壇的に大人になつたということを勝本君は帰朝以来しきりに主張するけれども、僕は実は、態度が積極的になつて来て、従来の偏見や小意見にこだわらず、政府の政策でも反対すべきものは反対し、良いものはいいと言えただけの識見と決意が生れたんだと思つてゐる。

勝本 文壇人の氣持が細かく四方八方に働いて来て

るんでしよう。

〈7〉永遠性を持つ文学

清水 政治の問題はその位にして文芸の方へ——中

河さんは一層日本主義的方面へ向つてゐるようだが——例えば「万葉ギリシャ」という風に——

長谷川 中河君は昔からぢやないか。

中河 僕のは前からで格別変つた訳ではありません。偶然論などの中にもかなりありますし、あれは昔からの事で、今日の文芸思想の中で何が最も欠乏して居るかというと永遠という觀念が最も欠乏して居るんじゃないかと思つて書いたんです。そういう考え方が今一番必要ぢやないかと思つて居ります。それで万葉集を新しく見

ようとしています。

尾崎 中河君の言う事は教養の上では日本的である

けれども生活の点では非常に西洋的ぢやないかね。

中河 大いに西洋的で大いに日本的でありたい。

林 中河君のいうことは正しいのだ。これは日本浪

漫派の理論だが、日本の自然主義が日本の伝統の中から拾ひあげて復興したものは徳川時代の文化であつた。西鶴であり芭蕉であり下つては文化文政の戯作文学だったので。それをもう一度我々は万葉時代、天平白鳳時代、王朝時代を復興しなければならぬ。明治大正の文学者は、これらの盛んなる時代を根本精神に於いて見落とし、見失つていた。見失つたのは明治という時代が、西欧の一九世紀文化輸入時代で、これは徳川期の文化と根本に於いて共通するものがあつた。一九世紀文化はギリシャの復興、即ち

ルネサンス精神がブルジョア化して、悪く爛熟した文化です。例えば絵で言えば、自由民の公会堂ではなく、銀行家のサロンを飾るための絵が生まれた時代です。すでにヨーロッパに於けるギリシヤが無くなつて、一切がブルジョア化していた。これを日本が輸入した。その輸入に伴つたものは当然徳川期の町人文化の復興であつた。文学にしても絵にしても音楽にしてもギリシヤ文化としてのヨーロッパを輸入できたなら、日本の幸福だつたのだが、それは歴史の制約でギリシヤなきヨーロッパしか輸入出来なかつたのだ。従つて、日本に於けるギリシヤたる天平白鳳時代も見落された。一方ヨーロッパ自身、最近ではシュペングラ、昔はニーチエ、ショーペンハウアー、近い例はランボーなどの所論を見てもわかるように、一九世紀を通過することによつて、ヨーロッパ文化に失望し、そ

の彼方に「東洋」を発見した。ランボーの如きは、この「東洋」のために己を滅ぼしたのかもしれない。これが一九世紀ヨーロッパの結論であつた。――

我々は明治大正文化の忠実なる継承者であればあるほど、これと同じ結論に到達せざるを得ない。彼等が発見した「東洋」というものは我々にとつては「日本」だ。我々は、今、日本のギリシヤを探究しなければならぬ。徳川時代を超えて、天平、白鳳の世界を探らなければならぬ。これは理屈ではなく、僕等の内心要求になつて来たというのが日本浪漫派の理論なのです。

中河 非常に賛成だな。

尾崎 君はどうだ。

林 勿論俺は全然同感だ。

芹沢 中河さんは万葉の精神についてしきりに書いていましたが、小説の世界に、どんな風生かそうとしているのですか。

中河 簡単に言えば万葉精神をとり返さなければならぬという事でそれは、さつき林君が云われたように、徳川文化的な文学意識から去つて、高

揚した精神に帰らねばならぬという意味です。

高揚した精神ということは、さつきの永遠の觀念を持った文学というような事になるつもりです。

長谷川 永遠とは……。

中河 ハッキリは云えませんが、文学というものは常に永遠という事を考えているように思うんです、ところがこの性格が今の文学には非常に欠けている。永遠というものが有るか無いかわからないがそういう觀念がなければ本当の仕事は出来ない。

林 僕は日本の浪漫派ですから大いに万葉を読んで居ますが、例えば柿本人麿を始めとする歌人たちが、あの頃の天皇陛下を心から、ほめたたえ

て居ることは、実に羨しいな。たしかに日本に於けるギリシヤがあつたんだな。

（8）文学者は如何に時代に処すべきか

青野 話題を換えて、いま文する人には一方では、

こういう時代に我々のはのん気に文学をやつて居られないという心理があると思うんです、古い人にも詩人にもです。つまりこういう時代に文学の中に悠々と入つて居れないという気持です。しかし一方では事実文学を日々やつて居ります、それがどういふ心理でこの矛盾したことを調和して居るか、僕はここに集まつてゐる文学者諸君から伺いたいと思うんです。尾崎君どうだね。

尾崎 ある。僕は文学を以てこういう時代に生きる

文学者は沢山の仕事を持つて居ると思う。

青野 どういう訳で――。

尾崎 それがハッキリ言えないところに今日の時代に処する態度がある。大義名分は別だけれども。

青野 片岡君、どうだね。

片岡 それは非常に難かしい問題で、本月の文芸春秋に伊藤整氏の時評ですが、彼は唯物思想といつてゐるが、誰でも唯物思想を正義として持つて居ると彼は云うんですところが日常生活は普通人一緒だ、ただ議論をする時だけ、それならいつてポケットから唯物思想を出して見せる。日本人には思想生活の伝統がない、そういうことをいつてゐるんですが、僕は……

武田 そうかな、その説には反対だな。

片岡 そういうことを考えて見ると手も足も出ない、僕は競馬もやるし、種々遊んでゐる、私生活は減茶だけでもね、併しやはり反省の仕方が違

うと思うんだ、そうして苦しんでゐることは、人がそう高を括るような苦しみ方ではない。苦しむだけで何になると云えばそれまでだが、芸術表現と生活、芸術表現に自分の持つて居る思想を生かし切れないという、そういう煩悶を持つのと持たないのとは違うと思うんだね、そういう煩悶があるところに思想生活の伝統も築かれて行くのぢやないか。だから遠慮会釈なしに書いたらよいと思うんだね。やや観念的になつたが、僕はそう思つてゐる。

三木

今の中河氏の話は、一方には後世まで残るといふ標準を持つて書きたいという気持ちがある。併し他方にはそんなことをしていられない、生活的にもそうだし、社会情勢からしてもそういうことはして居られないという矛盾があるといふことにならないか。

尾崎

それは結局一致するより仕方がない　そうし

ないと文学というものはつまらないものになってしまいうだろう。

青野 作品を見ても一致さして居るというその肝腎の結節が分らない。

尾崎 それは誰にも分らない。

片岡 歴史の有らゆるポイントが永遠的のものぢやないかと思う。

林 それはそうだ。

片岡 歴史のあらゆるポイントにというのは現在に打ち込むことが現在と共に滅びるとは限らない。永遠的のものもあると思うんだ。

河辺 永遠的とそうでない抽象的のポイントは。

片岡 現実に触れるか触れないかにも在るだろう。

林 僕はその問題に関して一万円ほしいと思つてゐる。死んだら全集で払うから誰か貸してくれるといい。つまり書きたいことを書いて、先刻の直言主義を実行して見て、それが統制に触れる

なら触れて、またどこかに入られても仕方がないから、書きたいものだけを書きたい、ここに居る人で一万円ある人は少いからね、書きたいことが書けない。小説家は、本当に書きたいものは三年間あれば、まあ書けるからね、一万円あれば三年は暮らせる。青野さんの質問にはこれを以て答えたい。

中河 その一万円説は大変ありがたい説だが、いま三木さんがいわれる現実の問題として、永遠を思つてばかりやれるか、どうか、という事です。これは生活というものとは程度の問題で、一万円なくても仕事の出来る人もある。鹿持雅澄が百五十二巻の「万葉古義」を拵えた話などは、矢張り永遠というものを思つていなければ出来なかつた事で、米か何かについて、一生涯をみじめな生活をして、報いられるところなく、それ

1 1791～1868 土佐の下級武士、国学者・歌人

でもやった。それは永遠というものを思ったから出来たので、そういう精神が今は非常に欠乏していいやしないかと思う。現在のポイントに永遠を見ろという事を云うけれども、併し永遠というものは現在のポイントをはずしても考えられる。

〈9〉時代と文学者の苦悶

芹沢 僕はこう思うんですけれど：経済上の問題ではなくて、自分が小説を書いて居る時、どこに共感を求めるかよく考える、その時間的共感と空間的共感とを求めようとする。これは相当矛盾があるけれど、何とかして自分自身の生活では調和を齎そうとして居る。ですから時間的共感をのみ求めるならば、好きなことを、そ

れこそ永遠ばかりを考えて書いておればよいのだが、私ども自分の周囲、社会に目を閉じていられない。自分の書くもので、周囲の人々、社会に働きかけないではいられない。それで空間的な共感、同じ時代の共感を得たいということになる。それと同時にもう一つ時間的共感を得たい、言い換えれば永遠な生命を考えるから、矛盾があるといえは矛盾だろうが、私は創作生活をしている間は、その矛盾を感じません。もし矛盾があれば、そのどっちかを取ると思う。経済的なことだけで処理しようとするれば大衆小説を書いて一万円拵えてから腰を据えてということがあり得る。

林 そんなことは出来やしない。

芹沢 併し現に大衆小説で金を儲けている人があると思う。それをしないで今のような小説を書いているのは、一つの仕事の中で時間的、空間的の

共感を得ようという念があるからだ。同時代に働きかけるなら文学でなく、政治に携わって何かやればよいぢやないかということは、作家になる時、考えることだけれども、作家は作家として時代に働きかけるより手がない。それでこんな風に、べんかんと小説を書いていられないと感じられるような時代こそ、小説に依って役割を果たそうと腹を据えてかかっているんぢやないかと思う。林氏にしたところが、武田氏にしたところが。だから、あなたが一万円ほしいというのは、ただ単なる比喩で――。

林 比喩さ、誰もくれやしない。

尾崎 君は作家の中で一番勝手なことをいつている作家だ。

林 そうだよ、併し非常に深い哲学的根拠があつていつているんだ。(笑声)

三木 昔の観念論では永遠とか靈魂の不滅とかいう

観念が生き生きして居つて、当時はそういうものが文学的な活動にも思想的な活動にも影響して居る。

林 それは今でも影響を受けて居る。

三木 そこは難しい問題だな。それは言葉からいえばその通り信用するけれども、併しそういうことが我々の生活態度としてどうだろうか問題だ。

林 そういうものがなかったら、我々は生きられないよ。

武田 永遠というものを抽象的に取り出して、その観念にあまえて生きるというような情けないこととでなしに、もつとよりよく歴史的に生きるという意味に於いて永遠的に生きたがつているよ、我々は。

三木 歴史的に生きることは永遠に生きることだけれども、そういうことに動揺がないかネ。

中河 それは永遠觀念を再興しなければ、單に歴史的に生きるといつても動搖を免れないと思ひます。

林 青野さんという意味の矛盾はないと思う。

青野 僕は矛盾がある筈だ。あつてよいと思う。

広津 ある筈だ、といつて君は此処に集つた作家達に質問して居るけれども、みんな答えは解つていると思つてゐるだろう。

青野 そうでもないよ。

広津 君自身質問者で、又答案者だもの、君が一番最初に質問した氣持は。

勝本 誰も桎梏を感じて書いてるか、どうかということでしょう。みんな答えが少し青野氏の質問のポイントを外していると思うんですが。

武田 僕は文学か他の事をやるかという氣持はおかしいと思う、どうしても文学をしか繼續して行けないという氣持だと思う、それは外界の衝動

を正直に受けることは矛盾してゐない、文学を一切の政治的、社会的なものの中でもつと文學的に続けて行くということ。

中河 文学や詩をやつては居れんという考えはおかしい。大それた考えである。文学や詩は無限の努力を要するもので他の事も考えるが、それに迷うようなものではない。

芹沢 それはちつとも矛盾がないからの質問はおかしい。

林 僕はその点二年前に苦しんだ、だが今は動揺してゐない。一万円説はおかしつくて、とるに足らんけれどもね。

広津 青野君が訊いてゐるのはその意味ではない。食うための問題とか、こういう国で文学をやつていて誰でもぶつかる問題とか、君が云つてゐるのはそれだが、それと別問題として、文学をやりながらも、いま文学などをやつては居られ

ないというような気持をいろいろな情勢から、時々刻々感じたりしているに違いないが、それを如何に克服して毎日毎日を生きて作家達がやつて行くかというのが青野君の質問の意味なんだ。——併しこいつは青野君だつて分つてる問題だろうと思うんだ。その克服がいつになつても出来ないままに、解決ができないままに、それだからこうしてまだやつてゐるわけなんだ。

林 今の日本では、文学以外に、僕にとつて、心をうちこめる仕事がどこにもないから、文学に専心している。他にあつたら飛び出しますよ。

〈10〉ヨーロッパ的感情と日本的感情

——（北氏出席）——

青野 妙な話になるけれども、日本に不安の文学というものはこれまで発達しなかった。併し僕は

日本的の不安というものが生まれてもいいのではないかと思う。現在は皆が正直に不安を突き抜けて行かなければならぬ所に来ている。——僕は最近の新しい人の文芸評論などを見ると、変に安心して納まつて居るものがあるかと思うと、また一方には安心しないで事々に引つかつて身を縮めているものがある。つまり正直に不安を突き抜けようとしないのだ。

林 それは、あなたのヨーロッパ的教養の結果ですよ。

広津 そう決められないけれども併し君の言うことも一理あるよ。僕もヨーロッパ教養の結論が我々に与えたものを、はつきり考え直してみなければならんと思つて居るよ。

三木 こういう事がありやしない、日本では青年は皆一度はヨーロッパ的のものを持つて来るんだね、ところが成長が止る——それが円熟かも知

らんけれども——ようになると、やはり日本の
なものが有難くなる。これでは大きなものは出
来ないのではないか。

林 そうではない。日本的なるものが有難くなった
ときに、有難いとはつきり言いきる勇気がなく、
なおヨーロッパに遠慮して足踏みをしていたか
ら、新しい研究が生ぜず、大きな文学が生れな
かったのだ。

三木 そこはなかなか問題だね。

尾崎 その前に今日万葉が読まれているということ
は、むしろヨーロッパ的な感情ぢやないか、だ
からそういうことは大したことではない。

武田 青野さんの質問の意味が分りました、それに
答えるなら、僕は不貞腐れるより仕方がないと
思う、また、実際に不貞腐れている。

青野 僕の聞きたいのはそれなんだ、多かれ少なか
れ、そうした気持を皆が持つて居る、不貞腐れ

るか図々しいか。

尾崎 俺は図々しい方だ。

林 そうだ、君は浪花節だから——。

広津 併し不貞腐れているとか図々しいんだとか、
言い切つてしまふわけには行かないから面倒な
んだらう。

青野 本当に不貞腐れてればいいんだ、本当に図々
しければいいんだけれども、そう成り切れぬ所
に問題があるんだ。また成り切れるものでもな
いと思う。

広津 だけでも、君のいう矛盾とか、刻々にぶつ付
かつてる問題というものとかは、非常に正直な
文学者には、本当に生きて行く……文学者という
正直さで生きて行く者には永遠に解決がつかん
ぢやないか。

青野 それはつかんけども、自分の欲して居るこ
とを文学の上で解決して行こうと努力する所に

常に新たな文学があるのではないか、一人の作家が困難な問題を一つつき抜けて先へ出て行く、今度はそこに現れた問題にぶつかりまたそこを衝き抜けて向うへ出て行くその脱皮というか、そういうものが日本の芸術にはちつともないと思ふんだがね。

広津 そうかな。僕はこの間から徳田さんのものを読み返しているけれども、徳田さんは徳田さん並に：あの人は脱皮を続けて居るね。

林 僕は徳田さんは面白くないね。

広津 徳田さんというものは或る場合に必要でなくなってしまう場合が度々あるんだ、それは読者として個人の上でも、或は文壇的に時代の上でも。それは読者や文壇、自分の求めるものに急になるときは徳田さんが必要に見えなくなつて来る。併し徳田さんが徳田さんのぶつかったものを、どんな風にあの形で踏み破つて

きたかを静かに見て居ると、やはりそうでない、大したものだ。——それだから自分は興味がないと云う人には、興味がなくても差し支えない人だ、あの人は。

〈11〉局外者の文壇観

長谷川、北岡氏の処論

青野 問題を転換して長谷川さんや、今来られた北さんに今の文壇について、ちつと話して貰おう
ぢやないか。長谷川さん何か。

長谷川 僕はもう失敬するんだけど、僕は先刻からの話を伺っていたんですが、文学、文士というものは矛盾を解決する人ではないと思う。矛盾のままで出すのが文士——。

尾崎 同感だ同感だ。

長谷川 それは少し根本論になるけども、文芸の世

界は私は客観世界と同じだと思う、だから客観世界は自分で概念を作らなかつたり観念を作らなかつたりすると同じで、文士の製作というものはそういうものは作らない、自分が先んじて作つたらそれは失敗、それが根本なんだ。

林 その意見はいかん。

広津 長谷川さんのは第三者の観方であつて、作者自身はそうは行かない。矛盾にぶつつかれば解決しようという気になる。解決はつかなくともその方向に心は動く。作品の形の上では客観世界に近づこうとしても、それを書くまでには解決しようとしてやつて行くから書いて行くのだ。だから矛盾は矛盾のままでもいいとは、第三者が作品の形を見ていうので、文学をやるものにはそういう事はいわれない。

長谷川 ところが解決したいと思うのは錯覚なんだ。

広津 それが錯覚であるという事は第三者の云う事だ。

長谷川 特定の文士の解釈だけでも、それが単なる解釈だつたら、その作品なら失敗……

広津 書く、書きながら、生きて行く作家の気持ちから云えば、それは違う。第三者としてのあなたの批評はそれでいいんだけど、併し作家の心持ちは違う。作品の形は客観世界を模しても、題材の選択という事が、すでに一つの解釈の方向を取っている。——第三者の意見としては一心聞いて置くが、作家の書く気持はそんなものではない。

長谷川 それが出来たら、文士でなくなるのです。

広津 作品が観念的になつたり、概念的になつたりするのは失敗であつても、現代の作家は観念や概念を恐れていない。概念が一つの創作上の情熱を刺戟する事は度々ある。併しそこから出発

しても観念の論文に※「#1字欠損」さないで、十分創作になり得る場合もある。今後は益々その点は複雑になって来る。だからそういう問題は如何に批評して下さっても傾聴はすると共に、作家というものはまた別な方向に生きて行く。

尾崎 長谷川さんはすでに作家であるし、同時に作品に没頭することが出来ない作家だということ、そういう述懐をいつて居られるものと解釈したいと思う。

中河 長谷川さんのいわれるのは文学というものは、どんなにウソを言おうとしても、いわれないものだという意味だと思ふ。

長谷川 概念や観念をウソと見ればね。

中河 観念や概念をウソとみるのではないけれども、観念や概念でどうにもならぬものが小説にはある。長谷川さんのいわれる客観世界と同じというのは、そういう意味で、その解釈は、大

変立派な説と思います。

長谷川 僕はこれで失敬。

北 長谷川さん、まあいいでしょう、僕が来たからつてね。

(長谷川氏退場)

林 北さん、日本文士に望むという演説を一つして下さい、そうすると、僕等何かいうから。

北 長谷川さんは現代の矛盾を表現するのが文学だとおっしゃるが僕は文学は現代の矛盾を主張するものでないかと思う。今は人心の安定することを図る時代でなくて過渡期でもあるし、怪力乱神を語り、人心を惑わす時代であるともいえる。類似宗教など著しい例である。

林 うん、こいつは何だな、やはりローマン派ちゃ。
尾崎 それではあれだよ、出口王仁三郎¹になつてし

1 1871～1948上田喜三郎、出口なおと共に大本教を設立、この頃は2度目の弾圧で獄中にいた。

まう。しかし、そういう考え方はあると思う。

林 しかし尾崎の書くものは、みな誇張ばかりぢやないか。

北 尾崎君、何だね、僕はどうも真相を拡大していう方が、人に自覚を与えらると思うね。

林 だから誇張に賛成する。

北 事実があつたら大いに誇張するんだね。表現力の強い人ならばさ。

林 全くだよ、文学というものは誇張だ。

北 事実ばかり書いて居つたら新聞の三面記事と一緒、拡大してやるところに価値がある。

林 誇張して初めて、事実は事実として伝わる。

武田 何をどういう目的で誇張するかが問題だよ。誇張しているのははじめから決まつてゐるぢやないか。

林 事実であつたら誇張する、今年から誇張文学をやることにしよう。

北 僕はどうもこういう仲間では素人だからね。

林 素人、なかなか宜しい。

【参考】コラム「てんぼうだい」

座談会に対して一読者より

座談会に対して、三木清氏宛牛込R・O氏より次の投書があつた。

「…事情は全然別ですが、私達一般民衆にとつて「現在のポイント」が全部です。それを※「#1字欠損」いて永遠を考えると云うことは少なくとも今の我々にとつては困難です。文学は如何なる使命を持たなければならぬものであるか全く無学な私には到底判りません。万葉古義を拵えることも勿論立派な仕事と思いますが、而し民衆はそういう（文化的な）ものよりもつと生活に食い込んだものを求めているのではないのでしょうか。私達はこの「時代」にもつとそう云うことに力を打ち込んでくれる文学者を期待

して居ります……」(中河与一氏の御説に關聯して)

へ12) ヒューマニズムの進展性

新しい文学への道として

青野 今までの話と接ぎ穂がないようですが、まあ本年度……といえど何か本年に限ったようだけれども必ずしも本年と限らずこういう情勢の下で、これから新しい文学運動というか、イズムとか、そういうものの起る可能性はありますか。

尾崎 余地がないね。

林 ある、全然ある。

尾崎 僕はないね。

河辺 今の誇張する文学は。

尾崎 そんなものは認めないよ。

芹沢 本年はやはりヒューマニズムの問題が同じよ

うに、もっと強い意味で、問題になるべきだと思つて居ります。私どものしやうとするところはそれなんです。

清水 ヒューマニズムの問題は、理論としては盛んですけれども、形態としては現れて居りますか。

広津 文学全体がそうなんだけども。

林 浅野晃という人の面白い議論を読んだのですが、それを紹介すると、ヒューマニズムというものが起つたことは封建主義、日本主義そういうものに対する反対として起つて来た、それはちょうど日本に於けるコンミニズムと同じ性格をもつてゐる。日本に於ける土着の価値がない。ヒューマニズムは、人間の再生であり擁護である、吾々に於ける人間とは何ぞや、日本人ではないかということです、日本人として再生するので、その点を見落とし、今までの日本に根を有たないコンミニズムの線に沿つて進むなら、

誤謬を再び繰返すことになるということです。

三木 それがマルキシズムと違うんじゃないか。
ヒューマニズムは民族を考えに入れなければならない
らん

北 そこは違うところがある。先だつても西田博士
と話したんだが、個人の人間性を發揮すること
と、民族性を發揮することとは両立しない。ド
イツやイタリーは民族性を發揮するために個人
性を克服する。家を維持するために、子供に贅
沢させないというのと一緒に、イギリスやアメリ
カでは民族的自由を得ておるから個人的自由を
大いに容認出来る。

中河 僕はヒューマニズム論は面白いと思つていつ
も読んでいます。併し現代はヒューマニズムよ
りももっと切迫している。人間開放よりも人間
は崇高なものへの犠牲を覚悟しなければならな
い。そういう時代ではないかと思ひます。つま

り雅澄は永遠を思つて現実の生活を或る点まで
犠牲にした。これは感傷でも甘えでもない、今
日永遠という理想を思う事によつて、その為
に寧ろ犠牲さえ避けない。そういう覚悟の必要
な時代と思います。私は寧ろ自ら犠牲になる
という觀念が現代に現れて来なければならない
と思つています。誰も誰もが自己を中心にと
、本當に立派なもの出来ない。偉大な政治家や
文学者はみな自己を犠牲にする。

北 ヒューマニズムというのは個人主義、民族主
義よりもっと大きなものです、個人の自由解放、
民族の自由解放と共に、或る意味に於いて、人
間性の絶対的発現という大きなものがあるぞ。

尾崎 それはヒューマニズムぢやないよ、ヒューマ
ニズムというものは、もっと小さいのですよ。
北 人間性というものは三つかたまつたところがあ
る、だから相対性のうちに於いて絶対性の意見

を求めるところにあるんですからね、そこまで触れないものがあるかどうか。

三木

ルネサンスはギリシャ復興といわれているけども、一方にはキリスト教から大きな影響を受けている。人格とか自由とかいう観念はキリスト教から与えられたもので、ルネサンスのヒューマニズムの発展はキリストと結び付いていると云える。今日のヒューマニズムも何かに結びついて発展するので、そこにマルキシズムとの関係が問題になると思う。

北

ヒューマニズムというものは人間性の発現だ、人間性を余りに人間的に取る方が間違ってる、もつと大きい問題がある。

尾崎

それはわかるが。

北

イタリアのルネサンスはギリシャの文芸の歴史研究を復興したというけれども、コペルニクスの学説までも取入れている。大きな宇宙観、宗

教観がある、所謂人間性の限界をも超越せんとする要求があります。

〈13〉ヒューマニズムの大衆化

その方法と効果は

勝本

僕はね、今まで御議論を聞いて居つても、また一般文壇に於けるヒューマニズムについての議論を読んでも、一番不満なのは、日本のヒューマニストたちが、ヒューマニズムを民衆の中へ持ち込む実際的方法についてあんまり考慮していない点なんです。今までのような文学形式にヒューマニズムの理論を盛り込んで、それで現実の日本の大衆がそれを読んで喜んでついでくるかどうか、第一、読むかどうか、どんな形態の小説や芝居が必要か、西洋風のものでいいかどうか——日本作家は

ヒューマニズム／＼といつて居るけれども、作家にとつての具体的問題としてそれを考えていない、抽象的にばかり論じて居るんだ。インテリゲンチヤだけしか通じない議論で、万事終りなんだ。

三木 ヒューマニズムというものは心構えに過ぎぬと云われるが、しかしそういう心構えが出て来たところに既に意味があるので、そこから新しい文学も哲学も発展してくる。結論を急いだり、結論だけを問題にするのは良くない。

勝本 しかし誰もがインテリゲンチヤの世界観或は心構えの範囲内でしかヒューマニズムのことを考えていない所がありますよ。

三木 いや、そうぢやない、大衆性がそこから出て来る。

林 今までのところ大衆に通じないというのは当りまえだよ。吾々は年が改まったからといって、

この問題をうち切らず、五年十年続けて行けば、必ず大衆に通じる。

勝本 しかし僕の云いたいのは今のような文学形態ではヒューマニズムの空氣が日本の大衆の間に注入して行かない。行きようがないと言う点。

武田 もつと日本のヒューマニズムは情熱に対する面で現れて来たい、それをインテリゲンチヤは担っているから、その文学行動を大衆的にやること。

勝本 如何に大衆に這入つて行くかがもつと全体的の問題になつてほしいんだけれども。

武田 ヒューマニズムが文化を防護すると云うきっかけで現れたことは文学の面では立派な作品を書けということですから、そう急いで結論が現れて来ないでもよい文学では芸術至上主義で行つてよい、そういうように脱線して考えている。

清水 結局当面の問題はヒューマニズムが發展すると云うことですね。

芹沢 そうだ、それには評論家から聞きたいことだ
が――。

中河 僕は發展しようがないと思っています。

武田 文学を向上することは大衆にアッピールすることだと思ふ。

勝本 ジャーナリズムが文学を毒すると云った考えは明治大正期の作家達から盛んに云われたものだが、しかし、これは純文学の範囲内での問題だったのです。純文学を毒すると云う問題だったのです。所が今ではその問題の本質が違ってきています。芸術的作家が大衆の中へ出て来ようとするとその芸術上の要求からしてもいわゆる純文学の形態を棄て、新聞小説とかその他の大衆的な形態で出て行かざるを得ない問題、二千とか三千とかの読者でなく、百万の読者に

見える為の新たな文学形態の問題がある。しかもその場合も文学者がジャーナリズムと格闘して行かなければならぬ問題がある。この戦いかけたが単なる純文学作家たる立場からの戦いと違うんです。またヒューマニスト的な作家やインテリゲンチヤから見れば、一般大衆との間には文化的伝統が離れて居るようなところがある。そこで大衆的文学形式で行った場合の作家の気持ち、構え方、大衆的伝統に引きずられることの克服の仕方、それを作家側から特にヒューマニズムの精神的要求との関聯に於いて…。

武田 ヒューマニズムが直接の芸術製作理論のように考えるからそうなるので、それは下がらないということである。

林 そうだ、下がる訳にはいかん。

勝本 だから實際製作に際しての心境を聞きたいんだがね。

林 それは下つてはいけません、精神というものは

高いものですから。

勝本 上がろうとすれば新聞や新聞小説読者は受け

付けないんでしょう。

〈14〉新イズム擡頭せず

私小説是非論

清水 広津さん何か起るものはありませんか。

広津 どうもね、読売新聞が新しいイズムを起こしたがつてゐるんじゃないか。

中河 私は文化批判が起ると思つています。今までは経済理論とか法律理論というようなものが指導的な立場にあつて、非常にハバをきかしていたと思うんですが、そんなものはつまらない。それによつてどうにもならぬ。むしろ美を中心にした文化批判というようなものが現れて、そ

れが日本を指導する。高山樗牛みたようなもの、そういう文化批判が起つてきやしないかと思うんです。法律理論にも経済理論にももう飽きた。

清水 片岡さん、如何です。

片岡 本年はイズムよりは持ちこたえて行かねば得ぬものを如何にするかで皆一生懸命になるだろう。それからイズムというほどの事ではないけれども、他にもつと書かざるを得ないものを書く文学を出して行くようなね、今はどうでもよい、別に自分は書きたくないけれども、締切りだから書くというのがあるんだね、そういうのでなく書かざるを得ないものを書かせるような気配が本年になつて生まれて来ないと困るんじゃないか、それと一緒に書かざるを得ないものは、また非常に或るものと衝突すると思うんですが、それを維持してゆく、書かざるを得ないものを書いて行けるようにするための運動が起つて来

るんぢやないかと思うだけで、新しい文学的イ
ズムというものは考えられないんですがね。

平林 今年とか来年とかいうことはおかしいけれど
も、今後に於いて近く動いて来るようなものは
ないんですか。

広津 自分自身の問題にすれば去年も、廿年間も、
あんまり変らないがね、だから僕は割合に色々
なイズムというものが出来た時、割合に興味
がなくて読んでいないんだ、それでそのうちに
また注意して居ると、そのイズムという言葉が
無くなって行ったりして、割合注意していない
んだ。

平林 あなた方より若い作家が鬱勃として出て来て
居るし、一方社会情勢がこんなに圧迫されて居
るし、日本の文学に何か動きはありやしないか。

広津 それは答えにくいんだが、一種この今の時に
於いて、何らかの形で皆が色々な抵抗の仕方を

工夫するだろう、そういう点から非常に面白い
色々な現象が出て来ると思うんだ。

武田 片岡さんのいうのがそれだろう、その意味で
僕は芸術至上主義をいう。

広津 種々な現れが期待出来るんだね。

三木 それは単なる消極的な構えになる危険がない
かネ。

片岡 だから積極的にものを表現しようという苦悶
が現れて来ると思うんだが。

尾崎 僕は、林君はずつと前から私小説の反対論者
であつたが、林は私小説というものの本質を知
らないで、私小説というものは生やさしいもの
ではない。本当の私小説というものは日本には
現れにくい、自分の血を絞り骨を削り、自分を
殺す事によつて客観を生かしてゆくものだ。

林 自分の骨を削つても何にもならん。

尾崎 それで私小説に対する大認識が起つて来る、

それで日本の文学が本当の文学に変わって来る。

片岡 殴られて怖くない修養に私小説の意義があるのだ。

〈15〉我等如何に生きべきか

——現実を直写せよ——

武田 僕は私小説というものを尾崎さんがどういう意味でいわれたか知らんけども、僕はいま在来の意味での私小説というものは排撃しなければならんと考えている。それはどうして製作されるという芸術家の心境も分るし、その世界は一つの人生記録として尊重は出来るが、小説と云うものの製作と、そこに一線を引いて考えなければならぬ、それは一つの文化の擁護の道行きとも通ずると考える。

尾崎 そういう意味でなら、私小説はちつとも発展

していないけども、それにも拘らず私小説は純文学の伝統を守ってきた。

林 まア君はそういうえ、尾崎士郎、久米正雄、この

二者が私小説の最後の教祖だ。

武田 大認識といわれた位個人にとつて大きなものと思うが、併しいま小説界に於いては、殊に今日、そういう言葉を用いることさえ遠慮したい。

青野 尾崎君の言うことを僕はこう解する。我々は狭い意味の自分でなく、広く我々と云う意味の私小説にはもつと深い注意を払わなければならぬ。そこに今後の私小説の問題がある。つまり我等如何に生きべきかということだね、その苦悶なりそういうものにぶつかつてそれを率直に表現して行く、それは我々と云う広い意味の私小説と云える。それはまた問題のヒューマニズム文学ともつながっている。我等如何に生きべきか、これが探究の中心におかれるのだ。

勝本 我等如何に生きべきかという態度、非常によい

と思うんだ。その態度を小説製作の上で作家にも取上げて貰いたいです。作品の中に作家みたくない人物が出て来て、ただ苦悶しているだけではいけないと思うんだ。先刻からこの席の作家たちは非常な矛盾の中で苦しい仕事をして居るように云われているでしょう。不貞腐れているという言葉が出る位にね。併し実はそういう矛盾や不安は社会全体の上にもある訳です。商売をして居る人でも現在が景気のいい面もありながら、少し先に行ったらどんなパニックが来るだろうという不安を持つて居るんだ。併しやはり商売はして居るんだ、金儲けもして居るんだ、不安だからといって商売をやめやしない。その点で作家と一般社会の人と同じ立場にあるんだからインフレ景気などの世相を描いて、その中に大きな不安が段々口を開けて行くとこ

を掴まえて、社会の人に匕首をつきつけてほしいんだね、そう云う実際の題材を取扱う所に作家の現在に於けるヒューマニストとしての一番必要な創作態度があると思うんだ。作家みたくない人物ばかり出て来る私小説にヒューマニズムのお説教を書き込んだって無力ですよ。

青野

しかし我等如何に生きべきかという、その場合の作品の主人公が所謂私小説のように定まつて作家であり、作家としてという風だったらいかなと思う。この時代的問題や苦悶では作家も普通人も変わりないんだから、もつと普遍的な姿に於いて提出され、表現されなければならないのだ。つまりそこへ拡がつて行く気魄の問題だ。

三木

そういう気迫が無くなっている、それは評論家でも作家でも同じだと思うんだが。

青野

ヒューマニズムの文学が一般の人にアツピー

ルするためには、——作品の中にこの時代を最もよく生きる人間の像を捉え、または創造しなければならぬ。そういう人間のイメージの魅力なしには大衆を引っ張れない。

中河 大変いい意見だと思う。

広津 青野君のいうのは非常によく分る、と同時にやろうとして難しいので苦しんでいるんだ。

青野 それはよく分る。やろうとして居るんだけど、しかし作品の中にそういう努力の現れが殆ど出ていない。

広津 しかし作家側に対して認めてくれなければならんが、根本的に皆が出て行かなければダメだがこいつは付随的問題であると云えるが、この文化的の発達の分業化というようなものが、種々な人間を見るのに随分邪魔になり、なかなか他の世界に這い入って行けなくさせる。だからその注文はよく分るけれども、その点なかなか

か急にといわれてもやりにくい。

青野 これは決して批評家がそういう注文をしているのではない。大衆がそういうものを要求していると思うんだが。

尾崎 私小説論というものが今日論議すべきものではないということは、如何に不敏なりといえども知ってるよ、僕はチェーホフの「退屈な話」から文学がはじまるといっているんだ。これを振り切られるものではないということを、もう一遍認識しなければならぬということをいつてるからね。

林 僕はそうはいわん、あまり私小説を見せられ、見過ぎてるから。小説が出来るまでの苦勞を小説だと読ませられてたまるか。人間修業は黙ってやればいい。そんなものを筆にするのは修行をやつていない証拠だ。

尾崎 もう一遍そこから出て来なければならぬと思

う。

へ16 文芸賞の問題

国家と民間とのもの

清水 次に局面を転回して生活問題をやりたいと思います、経済苦難の現状に於いていろいろ研究して行きたいことはありますが、ここでは文学賞の問題を取上げたいと思います。第一に国家が文学賞を出すというナンセンスの報道も新聞が泡食って書くほどの自然性があると思うんですか……

北 それは私は名は国家とか政府というけれども内容は官僚だから総て反対だ、国家とか政府とかいうのは名前で、実質は官僚で、官僚というのは六法全書知識を持って高等文官の試験を受けたもの、そういう者が訳も分らず認定し

たるものは総て反対だ。

林

僕は文学賞なら政府が出そうが、民間の三井が出そうが、三菱が出そうが、事文学賞である限り賛成だ。僕は賛成する。

石浜

僕はそういう場合にこれは批評家でも文士の方でもその各々の方面の人々が独断的に結束して統一する団体をつくる。それが評論なら評論、芸術作品なら作品を認めて表彰するというなればよいけれども、そういうものがなくて官僚が勝手にやるということはかなり弊害を来すということを思うんですが。

広津

そういうものを政府が出すということについては僕は何も考えていない。

平林

文芸院を作つてその仕事としてはどうです。

広津

それは文芸懇話会の場合、私設文芸院を作るというような話が最初あったので、僕等は反対したんだけど。説明するまでもなく、今のこ

の俸では若し文芸院が出来ても、直ぐ賛成の形は取れないと思うんです。唯私設文学賞そのものはいろいろあるが、悪くないと思う。今度新潮社も出すそうだが、文学者の為に非常に尽してきた本屋で、文学の為に大きくなった本屋が文学賞というものを出すというのは、そう悪いことではない。又そんな文学賞などという小さい問題ではなく、新潮社なんかはもつと文壇にいろいろ尽して欲しいと思う。今のように文壇が窮迫して居る際には、ああいう本屋が文壇人の為に尽して欲しいと思う。

三木 本屋で出す場合、原稿料を減らしてその金を文学賞として出すというような事を聞きますネ。

広津 今の新潮社の場合などはそういう噂の立った例の一つでしょう。それは新潮社の名譽のためにも気の毒です。僕は佐藤義亮という人はよく物の分る人だから、その理屈の解らない筈はな

いと思う。それは、結局気がつかないのだと思う。文学者側からもつと注文をしないのが間違いで、注文したら、もともと文学好きの、そして文学のために大きくなった佐藤氏は、そうか、文壇がそんな窮迫しているのかと、乗り出してくれるのだと思う。こういう注文はこういう機会にやっておいた方がよい。新潮社四十年の経営のうちに文学のために尽したものだけれども、後十年間はどうかやら文学から遠ざかったと云われても仕方がない。僕等は今のような情勢では、先ず出版社や雑誌社が大きくなることが望ましい。それは我々の生活問題だからである。雑誌社、出版社が経済的に不安では、我々は生活脅威を感じてやり切れない。それだから先ず本屋や雑誌社が成功し、大きくなるのが望ましい。併し文学のために大きくなり成功した本屋が、大きくなり成功すると、文学から遠ざ

かつてしまわれたんでは、これは又何とも云われずやり切れない。僕は新潮社が再び大正期の雑誌「新潮」に全力をそそいだように、純文学に戻って来て、今のあの大ききで力を尽して欲しいと思う。

勝本 僕は文学賞の問題にこんな点も考え併せているんです。現在の出版資本の意欲は雑誌で五万出て居るものなら十万にしたいという、新聞で百万出して居るものなら百五十万出したいというところにある。今の出版資本の要求から云えば少しでも余計に出る作品がほしいんです。ここに文学賞の存在理由と云うか歡迎理由が、出版資本の側にある、それを見て置くことも必要でしょう。

平林 資本家の一つの手段だという。

勝本 そういう要求が出版機構全体の中軸にあると思うんだね。百万部の本をたちどころに印刷し

得る印刷設備やそれだけの出版資本と、小数読者相手の純文学の存在との鋭く矛盾しているんですね。

〈完〉文学賞と時代

その効果と方法論

片岡 政府の文学賞というものは政府の思想の宣伝になるような文学賞になると思うんだ、その点で俄に賛成出来ないような気がする。

三木 それは時勢によると思うんだ、明治時代をやったのと今やるのでは。

芹沢 僕などにも思います、今日のような時勢に文芸院が出来ることには心配を持ちます、もつと以前文化の向上と云うか、たとえば明治時代に文芸院のようなものがあつて、日本の文学を擁護したらば読者を啓発するに非常によかつたん

ぢやないかしら、純文学を大衆のものにすると言う点で。ですからそんな時代に心配しないで済むような構成を持った文芸院が設けられていて、文学賞を与えるというならば文芸上大変に良いことでしょう。官のすることは何でもよいと決めてしまふ日本国民に取つては純文学を大衆に滲みさせるに、非常に効果がありましようから、そうした点では賛成して居るのです。例えば帝展の審査員なら、どんなべらぼうな絵を描いても立派な生活が出来ているそうですから、作家の生活を向上させることには、確かに文芸院もいいでしょうね。その点、又弊害も生ずると思うんだけど、大衆に純文学を啓蒙させる点は、非常によいのぢやないか。従つて文芸院を作る時の時勢やその機構等に依つて、文芸院の可否は決定されるので、いきなり抽象的に提議されても、却々可否はいえないと思う。

青野 民間のものは。

芹沢 あいつは多く、出版屋さんの商売上の政策もあろうし、弊害さえなければ――

広津 政府の文学賞というのも一つの目的を以て居るんでなく、せめて外国に対する名譽心の現れ程度の意味であれば無難だが……

三木 相場の決まつた人に年金でもやつたらどうか。

広津 年金がつかなかったら、意味はないね。

片岡 年金にしようぢやないか。年金でなければ貰わないということですよ。

青野 今の話は政府でしょう、そうではなく芥川賞とかああいう民間のものについてはどうです。

芹沢 賛成も不賛成もない、僕はほほえましく思つて居ります。

広津 芥川賞というやうなものでその小説が売れて、いままで読みつけなかつた読者が小説とい

うものに触れるという機会を作ることではないんですね。

勝本 それに今までの所ではそれがとにかく、割合によい人に与えられて居るんでしょう、それは認めた方がいいでしょう。

石浜 文芸懇話会とか何とか権力と関係あるものとか、営利を目的とするものの手によらずに文芸家なら文芸家自身の代表的団体を作る、批評家も一緒になってもよいし、そういう文筆者の自主的な代表的団体が、この国では低い文筆者の社会的地位を向上させたり、文筆界のいろいろの問題を独自のに解決したり、自らのイニシアティブで作品や評論を評価し表彰することが現在何よりも必要で、何事も国家に頼るという風は良くないと思うんですけども。

尾崎 実際の意見として石浜氏の考えなどは今の時代に於いて特に実行されてよいと思うんです、

時代と文芸思想の行くべき道

そういうものが実行されることによつて一つの定標が生まれる。認識の標準が出来あがる、それは五円でも十円でもよい、それを貰ったやつがよいという事になると思うんだが。

広津 それは五円、十円は寧ろない方がよい。名誉賞だけでよいんだな。

平林 実際問題としてね。

広津 そうではなくて、賞ということになると社会的にも存在を発揮する意味があるから、若し出すとなれば、金額も相当大きい方がいい。だから相当な資金を要するから、そいつは問題だね。

清水 ではこの辺りで、どうもありがとうございました。

底本：『読売新聞』1937.1.1～24

現下の重要教育問題 座談会

東京帝大教授 阿部重孝：1890～1939、文部省普通

学務局、東京帝国大学教授、教育学者

東京朝日論説部 関口 泰

二木 清

錦華小学校長 野口 彰：1894～1955、錦華小学校

長、全日本中学校長会会長

東京文理大教授文学博士 田中寛一：1882～1962、

岡山県出身、京都帝国大学卒、東京文理大教授

文学博士、玉川大学学長、心理学者

本社側 寺田弥吉：1900～1971（1899生れ説も

あり）思想史家、日本学研究所主事

上田庄三郎：1894～1958、高知県生まれ、高知師

範学校卒、生活綴方教育運動家

延長案の見通し

寺田

今晚はお忙しいところをわざわざお出で下さいます、大へん有難うございました。丁度この頃「義務教育年限延長」という教育界としては非常に大きな問題が、議会に提出されますので、『セルパン』の臨時号として問題をピックアップして、それに就いて皆様に充分御意見を拝聴したいと考えます。先ず最初に、関口先生のところの朝日新聞で「年限延長」の問題を拝見しまして、他の新聞に載って居ないだけに、大へん関心がもたれ又興味深く感じた次第です。教育者はこの問題に就いては、一般的に興味を覚えて居るように思います。ただ、果してこの議会を乗越せるものでしょうか、どうでしょうか、それに就いて何か御感想を承つたら結構と思います……。政友会なんかではかなり反対が多いようです。

関口

それはちよつと分りませんね、政治のかけひ

きがありますから。

阿部 文部省の肚一つで、不幸にして流産になって
も、小学校教育内容の改革は可能と思いますね。

田中 もう一つは、一般の人が「義務教育延長」の
意味をよく理解することにある。それを何の意
味も分らずに、ただ延ばすぐらいに思つて居る。

寺田 阿部先生、文部省の案に対して何か特別な御
意見はありませんか。

阿部 その「案」というのは何です？内容改善案で
すか。

寺田 そうです。

阿部 ないことはありませんね。私は委員として
やつて居るので、案の内容はよく知つて居りま
すが、それは極秘なのです。どうもそれをここ
ですつぱ抜くことは……。

上田 朝日新聞の記事は、あれと文部省のとは、大
体同じようにみんな認めて居りますが、関口先

生、あれの出て来た種明かしというようなもの
をお話し願えませんか。

関口 種明かしも出来ませんが、吾々は大体あんな
ことだろうと思つて居ますがね。

寺田 とにかく、僕等は大へんなショックを受けま
したよ。

関口 あれは、一体今年からすぐ出来るようにはい
かないのでしょうか、技術的に……。

阿部 技術的によほど困難ではないかと思ひます
ね。併し、勅令によつてやるようにでもすれば
出来ないことはない。例えば、今の改善委員会
というものを数回やるらしいが、それでやるこ
うことになるれば、出来ないこともないと思ひ
ます。法律を制定することになれば、ちよつと
急場には間にあひませんね。併し、朝日新聞に
出て居つたような方針で内容を変えてゆくとい
うなら、政府の肚一つで四月からでも可能では

ないかと思う。

関口 あれだけでもやるということになれば出来ますね。

阿部 あれならば部分的な修正で済みますからね。

関口 「義務教育延長」にも反対というような意見があるのは、先刻田中先生のお話にもあったように「どうするのか分らない、今のままでは仕様がない」というような意見だろうと思います。ですから、その延長よりも学校の内容を変える方が先ということになるのです。従ってあれを具体化して、世間が認めてくれば、意見が変ってくるのではないか。財政の方の問題は多少具体化したので、それで反対が少なくなった。

文部省案と財政上の難点

寺田 田中先生は文部省案に対して何か特別に御意見がおありになると考えますが。

田中 僕は文部省案というものを知らない。大体は推定して居るのですが、はつきりと知らないものですから……。

寺田 朝日新聞に載せられたのを標準にしますと、第一に「国体明徴」を従来以上に徹底させるという風に考えられますが、それをどういう方法でやるかということが、問題ではないかと思えます。このことは従来も相当やられて来て居るので、それをもっと徹底させるということが、果して如何なる意味であるか……。これが第一です。第二は、児童のの性能に適応したように……これまでは児童をいぢめ過ぎて居るから、もつと自然の発育に適応したように教科目を改めるということになるのです。僕等が考えます

1 「明徴」とは「証明すること」または「その証拠」を意味するが、当時は「国体明徴」で独自の意味を持つ。天皇機関説攻撃に対する言説から転じて、天皇神格化を徹底することを意味する。

と、何だかその二つの間に矛盾があると思うのです。すなわち一方は統制的ですが、他方は自由主義的ですからね。多分後が主でしょうがね。児童の能力に適応ということは、むしろよい問題でしょう。

三木 後の点は勿論よろしいね。けれども、それには二部教授の廃止とか学校設備の政善とか、随分目に見えない財政的な困難があるのではないのでしょうか？

阿部 それは慥かにありますね。例えば、学級をいまのようにして置いて、非常に効果を挙げようということとは困難です。若し、これをすくなくするということになれば、相当財政的な負担とということを考えなければならぬ。

田中 ただ、こういうことが言えます。六年でやらなくてはならぬから、馬鹿に材料を盛らなければならぬ。それを八年まで一貫してやり得る

ということになれば非常に余裕ゆとりが出来ますから、設備の問題よりも延長することによって、その余裕ゆとりが充分とれます。

寺田 私が最初考えて見ましたのは、高等小学校二年というものを除けて、今の六年を八年に延長するという風なことでした。いわゆる文部省案によると、高等一年、高等二年では非常に実施問題が沢山ふやされるように解釈されるのです。

三木 今の文部省案では、高等小学、青年学校を代用するということがありますが、それにしても内容の改革がなければ、意味はないのではないのでしょうか？

阿部 そうです。

田中 ただ、こういうことが言えます。六年でやら

寺田 殊に「国体明徴」を児童に徹底させるということになりますと、教育そのものが自由に解釈

されるように思いますが、「国体明徴」を徹底させるということは……。

関口 「国体明徴」と他の項目とは、感じに於いて

矛盾して居りますね。

三木 全校合同で体操をするというようなことは

いいと思いますね。「国体明徴」とは関係なしに

……。社会的な訓練ということは今までして居

なかつたようですからね。

関口 学校教育に於いては、もつと団体生活の訓練

というようなことが考えられなければいけない。

三木 これまで国民の団体訓練の場所は兵営だつた

が、それを学校でやるようになれば、よくなる

だろうと思います。殊に田舎の人が団体訓練を

されるのは兵営だけです。その為に却つていけ

なかつた。それが学校で団体訓練をやるように

なれば、非常にいいと思いますね。

合科がやれるかどうか

寺田 もし尋常一年を合科にしますと、そういう

訓練制から或意味に於いて離れないかしら……。

家庭と学校との障壁をやわらげるということに

なると、却つて訓練を自由にかかわらせないでし

うか。

関口 それはどういう関係ですか？

寺田 合科は、学校に入つてその日から読方や算術

を教えるということになれば、家庭で暮して来

た生活そのものが非常に違い過ぎる、で、そう

いう風なことを最初はやらないで、次第にその

方に導いて行く為には、算術なら算術、読方な

ら読方とはつきり分けてしまわないで……。

三木 合科教育の方針をどこまでも尊重して行く

という訳ではありませんか？

寺田 そうらしいのです。さしづめ一年だけやつて、

それからだんだんに及ぼして行くらしいので

す。

三木 自由学園ではやって居るようですね。

寺田 けれども、山の中の学校の先生に、合科がやれるかどうか疑問です。

教員養成が根本だ

阿部 その点は教員養成の問題が根本だと思います。今の先生に、安心して合科を委せられる程の先生が、果してどれだけ居るかと思えます。私は、少い範囲ですけれども、かなり有名な合科式をやつて居る所は大抵観て居りますが、どうも余り感心した例しがないのです。それは、よほどいい教師を養成しないと出来ない。だから、これは実際問題としては相当の問題だと思えます。

関口 つまり、教員養成の問題を変えようということに目的があるようですね。

現下の重要教育問題

阿部 そう考えてもいいですね。

田中 だから例えば、物理を専攻する者が化学の講義を余計に聞き、教育的に考えるということはいかん、もう少し根本的な改善があつていいと思う。

寺田 例えば、師範を改善することになると、どういう風になりますか？ 私はずっと廻つて来て師範の先生にお目にかかり、いろいろ学校内のことを拝見して来ましたが、どうもあれでは中学校の教育と大した距離がないのではないかと思います。みんな専門的に分れて居る。だから、高等師範を出た人は二年か三年必ず小学校で実際に児童に當つて見て、それから師範学校で教えたかどうかと思えますが……。

三木 高等師範では、師範学校を出て実際に小学校で教育に當つて居る者の中からいいのを選抜して更に教育することにしたかどうかと思う。そ

れでないと実際の意味は少ない。

寺田 わたくしが今度地方をまわって、大変感心

しました一例は、山形県の女子師範の教師をして居た、岩下富蔵君です。これは阿部先生の指導された人ですが、帝大の教育科を出ましてどこかの師範の主事をして居たが、「小学校の實際教育を知らなければ駄目だ」というので、山中で三年間実地に教えて居ました。それから帝大へ帰って大学院を出て主事をやって居ります。これが一番人物もしつかりして居ますし、講座の計画をしましても實際問題でぶつかって来ます。何かそういうところから考えて見ると、児童を教える先生を教える為には、その先生が児童にぶつつかつて見る必要はないかというような感じがしました。

阿部 岩下君で感ずることは、結局問題をもち得る人を作ればいい。僕が十数年教師をして見て

感じるものは、成績がよいということでないし、問題を感じずる——問題をもち得るということですよ。岩下君はその一つの非常にいい例です。これは教育ばかりではありません。人を作る上に注意すべき点があるように思います。平凡な学生というものを見て居ると、大学を出て行っても普通の師範学校の卒業生と同じレベルに於いて物を見、物を考えるようになる。実に不思議だ。そんなのが私の所へ来て苦情を言う。「小学校をやって居るのは大へんだ」と申しますが、僕は、そういう時は少し極端な言い方ですが、「何だ、そんなことならまるで師範学校を出た者と同じではないか、大学教育を受けた者はもう少し考え方があろうではないか」というようなことを言うのです。そこは、岩下君なんかまるで違います、これは非常に岩下君の例が興味ある例ですが……。

寺田 あの人は全く惜しい人です。寒河江中学の校

長に行きましたが……。

田中 そういうよい教師は、そこで非常に違った学校を作りますよ。

国民生活安定と八年制の問題

寺田 義務教育八年制において、軍部が注意しているのは戦争というものがだんだん智的な技術的なものになりますと、肉体の向上ということにある。而も徴兵検査の時に、尋常科六年を出た者は非常に体がよくないが、高等科まで行つたのは成績がいい……。

三木 それは、第一に尋常科だけで止める者は家が貧しいということがあるし、いろいろ生活条件が悪い。それから、学校を出てからすぐ過激な労働をする。それが、学校の年限が延長されれば、学校に居る間だけでも体育にいいということに

なる。

寺田 その点は意義があるですね。

三木 併し、それには国民生活の安定ということが伴わなければ、八年制にしてもいけないということになります。

関口 要点はそこにある筈ですね。小学校令第三十三条第三項ですか……貧乏の者は行かないでもいいというような、年限延長してなお割合が多くなるのでは、なんにもならない。

三木 貧乏の者には補助するといふのでなければ駄目です。

関口 八年間は義務教育を受けさせるということ、は、その間に労働に従事させない。その代り、家庭の事情もあるのだから、生活を保障するといふのでなければいけない。

阿部 そこに、非常な重点があるわけですね。
三木 本当に八年制でやる為には、もつと予算を

取つてそういうところを完備しなければならぬ。

八年制を支持する為には、そういう意味に於ける予算をもつと取ることを大いに主張しなければならぬ。それでなければ意味はないことになる。ただ、平生文相の顔を立てるというだけ……。

阿部 ところが、これを支持する側がちつともそれを問題にして居らないから不思議だと思ふ。ただ八年になればいいということだけであつて……。どうもそういう点が教育者は不親切だと思ふ。

三木 ただ自分の職業の拡張のようにならなくて居ないでしようかね。

阿部 だから、実際の国民の生活よりは、「先ずこの方を……」ということになる……（笑声）……それが教育者の態度としてはいかん。

三木 教員の質の改善ということが大問題だと思ひ

ますね。

もつと教師を優遇せよ

寺田 ただもう少し教育者を優遇すべきではないかと思ひます。今でも不払いの所がありますからね。

阿部 それは今度の府県費支弁が実現出来れば、その点はよほど匡正されるだろうと思ひます。六大都市がこれに反対するというのはどうしてですか？ それに教育家が大いに同情して居るようなことが、新聞に見えるようですが……。

寺田 地方から都会へ月給をやるのを、より以上地方へ……。

阿部 その代り、地方で教育した人間を都会で使備して居るから、それを勘定したらどちらがどうか分らない。ただ、都市はもつと負担してはどうか。農村が金を出して、高等小学とか青年学

校で教育した者が非常に都市に出て居る。都市は、それを金をかけずに出来上つたものを使つて居る。その点から資力のある都市が負担すべきではないかと思う。

三木 そこへもつて来て、小学校の教員というものが、地方では……校長あたりになると、村會議員というような政治屋に牛耳られるという弊害が、随分あるのではないでしょうか？

関口 今度はそれがなくなりますから、牛耳る方からいうとやることなくする訳です……（笑声）……地方の反対する根本というものは教育費増額ですからね。

寺田 八年制にしても今のままでは、大した教育上の実績は挙がらないと思う。というのは、女教員というものを何とかしなければならぬと思います。とに角、二十か二十一になると、何十人の児童を引受けて教育するということは問題で

はないかと思ひます。男子は何ですが……、だから、先ず女子師範の改造ということを……。

三木 女子を使うということは経済的の問題ではないのですか？

寺田 そうです。給料が安いから……。

関口 併し、義務教育延長によつて他に相当の効果を挙げ得ると思う。例えば、学課内容改正の為に予算を取るということは出来ませんでした、今度は延長の予算で取ることが出来る、ということはある。

寺田 そうですね。

小学校教育だけが国民教育か

阿部 この際もつと色々のことを考えなければならぬ、一遍決つてしまつたらなかなか変えられないから……。三木さんのお話のように、金のない者も就学が出来るように義務教育に関する限

りに於いてはしなければならぬ。それでないと、教育者の考えとしては余りに不親切過ぎる。

関口 今の八年制の反対の中にそれがあると思います。それから、将来十六歳までの義務教育とか、十八歳までとかいうことに、斯る基礎があるのではないかと思う。今のままで八年制でいいのだということになると、それから先きに延びるということがなくなり、青年学校の代用ということはインチキですが、政友会なんかで頻りに青年学校説を唱えて居るが、もつと長い義務教育ということを考えてのことだろうと思います。

阿部 もう一つこういうことがあります。僕は二日間委員会の様子を見て感じたのですが、どうも今日の小学校教育が国民教育だというような考え方があつた。その善し悪しはよく考えていただきたいと思いますが、そういう考え方があつた。例へば、今度の高等小学校というようなも

のでも自由な考え方をとることがなかなか困難だ。ところが一方、中等学校教育以上になると、課程を考える上に、自由な考え方があつた。殊に、実業中等教育になると非常に自由です。併し、国民教育だから必ず一定の教育をやらねばならぬというのでは、家庭というものが動きがとれなくなるから、高等小学校だけで終る者が高等小学校卒業生の八割五分以上である。だから、それ等の少年の生活上の必要がもつと考えられて然るべきことだと思います。然るに「国民教育だからこういうことだけはやらなければならぬ」といつたような考え方が支配的のようです。なにも高等小学校だけが国民を作る機関ではないと思う。大学でも中学でも国民を作る目的であるのに……。

三木 基礎教育とか何とか言い換えたらいいのではないですか。

阿部 そうです。ドイツの昔のように、フオルク

【Volk 民族】の教育には一定の制限あるべきもの
というような考え方は、この際検討を要するこ
とかと思えます。

関口 同時に、青年学校というものが青年訓練所の
殻をいつまでも脱がないのですからね。二百時
間というのを少し延ばして二百八十時間にでも
するかも知れませんが、それが一つの邪魔では
ないかと思う。

自由か劃一か統制か

上田 阿部先生の先刻のお考えは、やはり統制の方
ですか？やはり、中等や実業学校のように、自
由な道がなければいかんという……。

阿部 それだけの教育の機会を奪おうという訳で
はありません。事情が許せばどこへでも行ける
ようにするのが、教育制度の本則でなければな

らない。寧ろ袋道を作るようなことはいけな
いと思う。問題は、国民教育というと修身何時間、
国語何時間、地理、歴史、理科、手工、図画と
いうようなものを二時間とか何時間とかいう風
にやらんと、国民教育でないように考えて居る
点にあるのです。

三木 劃一教育ということになる訳ですね。統制教
育が劃一教育を加味すると、ますます悪くなる。

阿部 それで三十時間近く取るということになる
と、あとの時間で世の中に出て働くことをやれ
と言ったって出来ない。そうかと言って小学校
を出れば就職しなければならぬ。これでは不親
切だ。どうせ卒業後就職するなら、出来るだけ
その必要を学校が認めてやるのが学校の建前で
なければならぬ。それなのに、今日の国民教育
というような何か定ったことをやらなければな
らないか？普通教育の如き定ったものがあつて、

それを修めなければ駄目か？

三木 昔の読み、書き、算盤という思想の延長ですね。

阿部 その点から……僕は少し極端ですが、高等学校になれば生活を中心とした職業教育ということにした方が……自由にその子供が将来どういう生活に入って行くかということを検討した上で、それを中心にして普通学科、職業学科というものが自由に選ばれるような組織にしなければならぬ。こういう考えなのです。

三木 大学のように選択科目を作るのですね。親が選択してやって「これこれをやれ」という訳にも出来るのですね。

阿部 そういうことも可能です。そうすると、例えば農村に生れた青年が全部農村で生活したらその農村はどうにもならぬので、その一部はどうしても都会に出なければならぬ。そうなれば、

出来るだけそれに必要な教育をやらなければならない。農村だから農事をしなければならぬということはない。

関口 師範学校というものが国民教育を預つて居るということが大きな根幹である。もう一つは、文部省の普通学務局と専門学務局とが対立して居るということも大きな原因ですね。あれがなくなるとそんなに難しいことはなくなる。

阿部 普通学務局と実業学務局というように、分けてやるということはいかんです。

上田 教員の素質の問題さえ除けたら、大体文部省の方から余り細かく言わない方がいいですね。

三木 併し、今の時勢ではそれはちよいと出来ません。

阿部 それは、教員がよくならないと、今でも将来でも国家として難しい。

上田 あまり細かく定めると例えば、小学校の方が

幼稚園より時間が少くなるというようなことがありますね。

関口 それは多少託児所の意味があるでしょうね。

今度の学課内容の政正によれば、一年は大体幼稚園に近いものになるでしょう。

三木 幼稚園を入れて就学年齢を少し下げないようにすることは出来ないでしょうか？もう一年早くするとかいう風に……。

関口 それですね。

八年制よりは九年制がよい

田中 「義務教育年限延長」ということは、私は八年制より九年制がよいと思う。その意味は、児童の心身の発達から言つて、全体の人が青春期を経過するのは丁度今の高等小学校を卒業してから、もう一年くらいいた頃である。そこで青年期に入るまでは、総ての人を学校の保護の下

に生活させて行く方が合理的ではないか。その意味で、今の案にある八年制よりも九年制にした方がよいと思う。九年制にする段階としての八年制ならそれもよいが……。

阿部 僕の説が九年制です。だから大いに支持してもらいたい。

関口 今の満六歳を五歳にすれば、十ヶ年制でも……。

阿部 「義務教育延長案」として第一次、第二次という計画を樹てて居る。

田中 君は九年制説か？

阿部 そうですよ。八年制に無条件で賛成はしない。
三木 二年延長する根拠は何でしょう？

関口 あの時の八年制がついて廻つて居るのでしよう。

阿部 田中君が僕の味方だから心強い。
田中 何か児童を見て居ますと、満五歳から六歳ま

で幼稚園にやって、そうして満七歳頃から小学校にやった方が心身の発育に適応してるようですがね。どうも中途半端のようですが、六歳の前の方が……。

阿部 そういうことを教育的に大体研究してないのですが……。ただ、昔偶然やったことをやって居るだけです……。もつとアメリカあたりのように考究する必要がある。保守的なイギリスでも、インファント・ステージ infant（幼児・小児）stage というものは五歳から八歳までです。その点は、実に日本は幼稚です。

上田 三木先生、先刻の国防の話ですが……、義務教育というものをだんだん延長して行くと、国力はだんだん増して行く訳ですか？

三木 増さないけれども、だんだん智能的な要素が戦争に必要になって来れば、どうしても教育の高い壮丁を必要とする訳ですがね。

上田 智能は非常に増しますけれども、戦争というものは智能だけで勝てないでしょう？ 却って充分教育するほど、戦争に不適當になつて弱くなるというようなことになりませんか？

三木 だから、そこは「国体明徴」というようなほかの教育をするのですね。（笑声）（この時野口氏出席）

寺田 野口先生、僕等はこの間朝日新聞に発表されたのを標準にして居るのですが、教育の実際化ということを考えられますが、その実際化の点で何か特別のお考えを……。

野口 御承知の通り、今まで六年間で一とおりの国民教育として最低レベルまでたたき込まなければならぬ関係上、吾々が教えて見ますと、ちよつと程度が高いと思うことでもつぎ込まなくてはならんですね。それが延長されれば、そう性的にやらなくてもいいということになります。

もう少し伸び伸びとしたことがやれる。そうなれば、よほど児童の個性とか地方の実情に適するようにやれます。そしていろいろ研究して見ようという気持にもなります。今までですと、なかなか理窟は言いまして手の下しうがなかったのです。その点から言つて、義務教育が延長されれば児童にとつて非常に仕合せだと思います。

試験地獄を救済する名案

三木 上の学校との連絡問題があるでしょうが、今のままではその点の弊害がなかなか大きいでしょう。今の入学試験準備というようなことがあつては……。

野口 一つの癌ですね。

寺田 試験地獄を救済する為めの一等いい案は何ですか？

野口 東京府では「試験を全廃しよう」という方向に進みつつあるのですが、なかなかこれには障碍があり、また反対論もありますので、果して予定どおり進むかどうか、よほど難コースだと思いますが……。

寺田 あれば、とに角「学校の先生が児童をいい学校に入れたら自分の手柄になる」というように考へて居るからだ」ということをよく耳にするのですが……。

三木 それは父兄の責任もあるのです。父兄の方で、そういう入学率のよい学校に入れたがるからいけない。

寺田 ところが、それが逆の場合があるのです。学校の先生によつては、「お宅の子供はここへ入れなければならぬ」というので……。

野口 そういうことを聞きますが、実際そういうことがあるでしょうか？

関口 いい学校がある以上、やはりそのいい学校へ入りたいですね。

野口 父兄の方ではそこまで希望して居ないというのに、「貴方のお子さんならここの学校に……」というように強要するということ聞きますけれども、実際そういうことがあるでしょうか？

上田 私の友達の所の子供なんか実際そうですね。

野口 そうですね。（笑声）

上田 学校の方が非常に熱心で、「どうしてもあの学校に入れないかならぬ。私の方からあの学校に何人入れる」というようなことがあるようによく聞きますが……。

野口 そうですね。本当ですかね。

阿部 それは野口さん、校長さんによりけりですよ。貴方の所でないから……貴方は想像も及ばないかも知れんが、自分の方針だけで人を量つてはいかん。うまく合格させる先生を尊重する校長

もありますからね。

野口 つまり、根本の考えをお互いに変えて行かなければならぬ訳ですね。いい生徒のみ採ろうとする考え方——頭の優秀な生徒をピック・アップしようとする考えを捨てなければいけないのですね。中等教育に耐え得る者はこれを探ろうという方針に変えなければ……。それがない限り駄目ですね。

寺田 去年兵庫県にこういふのがあります。とに角入りたい者は学校に収容の場所があるのだから、一学期の間入れて見る、試験しないで入れて見て、その一学期の間に「これなら中等教育を卒業させてもいい」という者だけを採用てやろう。こういうのがね。今年から仮に実施するところがあるそうですね。

関口 物理学校もそれをやって居ます。あれは千人近いでしょう。

阿部 ドイツなんかでは昔からやつて居ます。そ

れから、もう一つ考えなければならぬことは、日本の学校は入口だけで選抜する、入つてしまえば、余程のことでなければちゃんとついて行かせる……。その一番極端なのは小学校ですが……。これは、心太と同じことです。入口だけえらい嚴重にして居るということは、教育の方針として矛盾がある。もし、選抜する必要があるばその選抜は学校生活の全期間を通じて行わるべきだと思ふ。

三木 それは日本全体の問題です。官吏になるのにも、入口の高等文官試験だけはやかましいが後は年数で昇級する。大学の先生でも一旦なれば後は勉強しないでやれますから……。これは弊害ですね。

阿部 まだ官吏の方はいいと思います。一番いけないのは教育界です。だから、教育界にはもう少

し適用する必要があるのではないかと思います。官吏は不正当な、或は公正ならざる方法によつて選抜されるかも知れませんが、とにかく教育界よりもよほど選抜が行われていると思う。大学の先生にも選抜があつて然るべきです。

合科の標準プログラム

寺田 野口先生の学校なんか、今年から合科をやつて居られますか？

野口 例えば、修身何時間とか国語何時間というように定められて居りますが、ああした制限をいくぶん融通してやるように考えて居ります。合科というような合科らしい合科はして居りません。

寺田 合科といつてもまちまちですからね。如何にしてそうするかということが問題ではないのでしょうか？ 僕は、合科を全国的にやるとした

ら、よほど文部省がはつきりしたことを示さないと……。

三木 合科ということは、教師の個人的の人格というようなことに関係があるのです。昔の私塾は一種の合科教育です。今では、これだけ沢山の教師にそれがなかなか期待は出来ない。難しいと思いますね。

上田 やはり指導してくれる機関がいるのですね。

関口 督学官なり視学官なりの制度が問題になるのではないですか。

阿部 そうです。いままででも相当自由にやり得たものを、それをやり得なかつたというのは、地方に於ける教育行政を担当して居る者に、識見というものがないから、それが一つの大きな理由です。それから、初等教育は知りませんが、中等学校の施行規則が改正になって、御承知のとおり一種、二種というものが出来て……、あ

れの委員会に私は関係して居つたのですが、あの案が出来るまえに中学校長会議にも内示して、いろいろ意見を訊いたりしましたが、そのとき「何か標準プログラムを文部省でつくってもらわなければ……」という意見があつたように記憶しています。基本科目は文部省でおさえて居りますが、それ以外は地方の事情によらなければ……。それでは劃一を打破するといつても、打破の仕様がいないではないか。これは教育者の負うべき責任ではないかと思ひます。だから、だんだん教員養成の問題になつて来ますが……。

田中 一種の方を基礎にしてセレクトタイプの方を二種にしたら……。一種でやるようなものを基礎にして、その上に附加し得べきものを二種にやるべきではないかと思う。

阿部 それも一つの案です。

田中 その方がいいと思ひますね。

阿部 併し、それも結局教育者の問題ではないで

しょうか？それは僕等の責任もあるが、あれを非常に頑張った理由は、計数的に見れば中学校の多量生産ということは蔽うべからざる事実だ。だから、一種二種というものを作つて、学校を出てすぐ社会の実務に就かなければならぬというような境遇にあるものは、それに適するような工合にやるというのだ。兎に角従来の中等教育の考え方からすると過激であつたが。

関口 その結果として、元の二種ということになつたのですか？

阿部 それが殆どです。ただ効果を挙げて居るのは北海道だけです。誰も彼も中等学校という考え方は修正しなければならぬ。

上田 入学試験は？

関口 入学試験はどうしても改めなければならぬようです。

寺田 僕はいつそのこと抽選にしたらいいと思う。

教育に対する東京府の怠慢

阿部 東京府の如く教育に熱心でない府に対しては、国家はもつと高圧的に出なければならぬと思う。非常に怠慢です。

田中 東京府民だけが負担すべきかどうかは問題ではないか？丁度、警視庁が中央政府の経費で営まれて居るように、東京府の中等教育は少くともこれを政府が援助する……。それを、東京府の負担だけではやりきれない。

阿部 それは、君が東京府の予算を知らないからだよ。

関口 今は随分余つて居るようですね。

阿部 そうですとも、随分余つて居るように聞いていますが……。

田中 或府県に較べると、余り教育に対して経費を

ついで居ないのは事実だ。

阿部 資力のあるものはもつとやらなければ怠慢だ

よ。資力の点からみて、実際、教育費として東京府の如き少い府県は全国にない。殊に、今の教育というものは府県とか市町村というようなものも昔の情況とは違つて居りますからね。地方の県が無い金を出して教育した者が東京へ出て来て仕事をして居る。

田中 仕事をしない人も……職を失えば東京へ集り、集つたものが皆東京府の仕事をしている訳ではないからね。

阿部 それは大したものではない。

三木 そうでしょうね。東京は教育費にもつと金を出す力はあると思います。そうすれば入学試験を解決する道はあるでしょうか？

田中 去年から組織された東京府の教育会でも、かなり大きな計画で中等学校を増設する案が可決

されて居る。

野口 それは継続事業ですか？

田中 継続です。

野口 ただ数校府立の学校をふやしたというだけでは、實際的に効果は挙がりません。それは学校がふえればふえるだけ、志願者がふえて来ますから、よほど、学校の選択競争というものがなくなるような根本方策を講ずるようになければならないと思います。要するに学校を選択するから集中するようになるのです。

三木 朝鮮辺りの大学では席が空いて居るのに皆が東京へ集つて来るから浪人が出来る。

野口 そういった方法で、選択に苦労しないようにしてやらなければ……。

八年制と教科書

寺田 野口先生、今、新教科書が出来つつあります

が、あれを八年制で根本的にやり直すのですか、
どうですか？

野口 これは当局の御意思を訊いて見なければ分り
ません。体系が変わって来なければならぬでし
うからね。けれども実際問題としては当分今の
ままでいいのではないかと思います……。

寺田 僕等が考えますと、そう変えられてはかない
ませんよ。

阿部 当然変えなければなりませんよ。

寺田 編纂官の方では余り賛成しないそうですね。
折角決めて居るのにまた変えられると……。

関口 編纂官はそうでしょうがね。

進学指導と父兄の教育

野口 今の入学試験の緩和策としては、学校側の
教育的な解決策としては所謂職業指導です。そ
の中の進学指導ということをもっともつとやる。

それは相当効果がある。父兄はみすみす自分の
子供の力に合わないとい知りつつその学校にやろ
うとするが、よくその子供の力とか何とかを或
る程度まで客観的な標準で話してやりますと、
父兄もよく納得します。そうすると自分から進
んで「それではどこがいい」と言つて、自分か
ら進んで行きます。丁度、私の所に「大日本職
業指導協会」の青少年相談所というものを毎週
土曜日の午後一時からやつて居ますが、父兄が
同伴で沢山見えます。それによく話してやりま
すと喜んで帰ります。

関口 それがなかったから、父兄の方では、とに角
いい学校に入れて置けば、先きでどうにかなる
だろうということぐらいで……。

野口 力に合わないのを無理にやつて入った、その
為に非常に困つて居る。所謂不良の徒に陥つて
居る。さもないければ神経衰弱に陥つて居る……

という、そういうことを話してやりますと、父兄は慄然として居ます。

阿部 そういう点では、インテリ・マダムというものの教育が大へん必要ですね。

三木 あれが、小学校の先生を非常に毒して居るのではないか？

阿部 小学校の先生は、もう少し見識をもってもらいたい。インテリ有閑マダムというものは、子供が五年、六年になると学校に押しかけて行つて居る。入学難とかいうことはそういう階級から起る声です。ここに於いて、婦人雑誌をもつて居る所は「教育」というものを本当に理解するように、そういう人達を導いてやつてもらいたい。

寺田 ジャーナリズムの方では余り「教育」というものを扱って居らない。三木さんはいつか書かれましたね。

阿部 野口さんのように親切にやつてくれる学校がどんどんふえるといいですがね。そうなれば、その点でもよほど緩和されます。

優勝の経験が必要だ

田中 比較的競争の少い学校に入つて、組の中で絶えず上の方に席を占めて居る児童は非常によく伸びて居る。つまり、優越感を体験さすということが、その児童を伸ばす重大な原因になる。

三木 高等の学校へ来る田舎の中学の卒業生と東京の卒業生とが違ふのはそういう点でないでしょうか？平均的に言えば、東京がいいに相違ないが、圧迫されて居るから伸びない。

田中 優勝した経験をちつとももたないからです。
三木 小学校あたりから師範の附属にやるというインテリ・マダムは大へんでしょう。

寺田 私の子供なんか、田舎から連れて来ましたが

学校に行くのを嫌います。うるさがって……。

野口 私は中等学校の子供に就て体験して居りますが、評判のいい学校の中以下の子供と、そうでない学校の中以上の子供とはとても違います。中以上に居る子供はのんびりして居ます。それだけはきはきして居て頼もしい。中以下に居る者は「また下りはしないだろうか」と思うので、実際はじめなものです。

上田 中学時代は、ぼんやり育てる方が将来の効果を挙げるのではないでしょうか？

三木 それで阿部先生のお話のように、知識階級のマダムというものの教育は非常に重要です。

寺田 大抵どの主人でも「どこだつていいではないか」と言うけれども、奥さんがカンカンになつてしまうのです。

三木 大てい細君の方がやかましい。

寺田 ではこれくらいで。どうもいろいろ有難うござ

ざいました。

座談会後記

座談会を閉じたあとにも、教育問題をめぐる余談がいつまでも続いた。却つてこの方が熱のこもつた面白い座談会になつたが、もう速記者もいない。記者の耳に残つた要項を摘記しよう。

*

まず問題になつたのは教育雑誌の傾向。「どうしてあんな雑誌ばかり出るのだろう」という調子で、教育雑誌はピンからキリまで、四面楚歌。教育雑誌で部数を出しているのは、やはり教材雑誌であるが、あれがなければ教育が出来ないような教師では心細いというのが一座の輿論。ある教育の学術的研究で立つた雑誌が、読者から解説を載せてくれという要求があるので困つてゐるという話。これを聞いた阿部先生が、「それでは思い切つてやめたらいいだろう」と話したという。とに角、教材雑誌も何等かの新生面

を開かねばならないというような問題から、教育部の寺田が、第一書房腹案の教育ブロック案を出して、批判を仰いだ。

今度の講座も、講座そのものより、中央地方の研究者を動員して実践を通して強力なブロック結成を企画するものであると。

*

これに対しては、諸先生方は大体賛成でしばらく教師の団結の話がはずむ。「そういうことは、よくジャーナリズムの声として、聞くことであるが、それが真に声明通りあくまで、教育者の味方となつて活動すればよい。中にはそういう真面目な要求をもつて初めからは活動するが、少し力が出ると却つて教師に向つて挑戦的になり、つまらぬ教師の醜聞などをあげて騒いだりするので困る。どこまでも教師の味方であるというのが大切で、これさえ出来れば大賛成だ」というのが野口先生。

「大体教師が、ある父兄のおかかえのようになってい

るようでは駄目ですよ。家を較べても教師の家が父兄の家よりにつつと小さいというような有様ではね」と三木先生。

「今では帝国教育会が大体そういう教育者の団結という形になっているが、あれが教師全体のものでない、極く小さい会となっているのは、どういう訳か。この点を参考としてよく考えて見る必要があると思うね」というのは阿部先生であつたか。

*

ついで阿部先生の「教育行政」の改革の帝が出る。「教育行政を改革して、校長が強くならねばならぬ。弱い校長の下では、決して教師は強く行動することは出来ないからね」と、教育ブロックの結成についての議論は、なかなか盛であつた。つまりブロック結成の客観情勢はまきに熟している。

*

教育費の市町村から府県への移管の問題がまた蒸し返されて、学区制の話が出たり、六大都市の校長が

反対する理由の検討があり、野口氏がそれは「必然の力である」と答えてみんなを笑わせる。

*

三木先生の「花ばかりで実がない」という大学教授論主張は、結局「花と実を併せとるべし」と結ばれ、教育出版界の話、教育ジャーナリズムの話、まことに一九三七年初頭らしい談論のインフレ景気。

底本：『セルパン』1937年2月臨時増刊号復刻版（第一書房）

日本政治の特殊性を検討する座談会

石浜知行

大森義太郎：1898～1940、東京帝大卒、同大助教授、経済学者、1928.3.15事件の関連で辞職、1937.12.15人民戦線事件を検挙¹。

向坂逸郎：1897～1985、福岡県出身、東京帝大卒、

経済学者、九州帝大教授、1928.3.15事件の余波で辞職、戦後社会主義協会を創立。

佐々弘雄

丸山幹治：1880～1955、長野県出身、東京専門学

校卒、大阪朝日、大阪毎日、1936から東京日日新聞。

三木 清

御手洗辰雄：1895～1975、大分県出身、慶応大中退、

報知新聞、京城日報、東京新聞、戦後は評論家。

横田喜三郎：1896～1993、愛知県出身、東京帝大卒、

同大教授、法学者、戦後最高裁長官。

政治上の日本的なもの

記者 最近『文学』とかその他の方面で盛に日本的

なものが論ぜられ、大森さんなどは可なり詳しく分析されたようですけれどもそれを一つ政治的の方面で取上げて戴き、その観点から政治上的色々の現象を批判して戴きたいと思うのです。

一体政治の日本の特殊性というようなものはあるのでしょうか、それがどの方面に於いて一番顕著なんでしょう。三木さん如何ですか。

三木 封建的という思想が随分ありますが、その封建的

というようなものが即ち日本的ぢやないでしょうか。そういう所が非常に多いぢやないかと思うのです。尤も林首相のように祭政一致と

¹ 林銑十郎（1876～1943）この座談会前後の四ヶ月の首相、外務・文部大臣も兼ねた。

か何とか言えば幾らもあるかも知れないけれども……。

佐々 ところが或る国学者の説に依ると、林さんの祭政一致というのは日本的ぢやないというのです。何故かと言うと、祭政一致という事は天皇陛下が政治をしろしめし給う際の心の持ち様を言ったことで、随つて天皇の考えられる事であつて、総理大臣がそういう事まで言うのは僭越だ。そういう意味で日本的でないというような批評があるそうですが。

丸山 勅語のようなものに祭政一致という言葉が出て居るのです。

大森 何時頃です。

丸山 明治二年です。丁度太政官の上に神祇というものがあった時に、あれに関するのとかどうか知りませんが、兎に角勅語の主文の中にあるのです。勅語と云うのか詔書と云うのか能く覚えま

せんけれども、その中に「祭政一致」という言葉と「祭政維一」という言葉と二つあるのです。丁度それが明治二年で、明治維新の反動時代です。今まで神祇事務所²とか云つて居ったのが、太政官の上に乗つかつて神祇官という一番偉いものになった。だから今佐々さんの言われるように、天子様が政治をしろしめし給う時の言葉かも知れんですね。

人物か？ 政治的意見か？

記者 政党の腐敗だとか、或は官僚とか軍部というもの政治の上に乗出して来る一つの原因として、日本の大衆や、知識階級が政治に非常に無関心だからだという事が考えられるです。それ

2 正しくは神祇事務局。1868年に設置された。その後同年に、古代律令制に倣つた体制として太政官制が布かれ、神祇官はその下の位置づけであつた。1869（明治2）年、太政官から独立の機関とされた。しかし1871（明治4）年には神祇省として太政官の下に戻された。

に事実として、日本の政治というものが大衆の利害関係と割合遠い所で取引されて居る感じが非常に濃厚なんですけれども、それは何故そうであるかと云ったような事を説明して戴きたいと思うのです。

三木 それは斯うじゃないですか。思想というよりも人間というようなものゝ結びきというものが日本では非常に貴ばれて居るので、随て人間的に共鳴すれば政治的意見などというものは、大して問題にならないとか、或は人間さえ信頼出来ればその人の政治的の意見などというものは問題とせずして政治的にも信頼されるというようなことがある為に、政党にしてもイデオロギーを発揮させる必要がないという所が割合に多いのぢやないですか。

記者 どうしてそういう事になって居るのですか。

三木 そこは日本のかも知れないが……。 (笑声)

向坂 日本的という言葉はいゝ言葉だ。

大森 分らなければいつも日本的だ。(哄笑)

向坂 併しそういう所はあるナ、市会議員の選挙だつて、菊池寛さんとか丸山鶴吉、あゝ、いう人が非常に好い点で出るからナ、必ずしもそれは政治的の意見の問題でなくて。

三木 安部(磯雄)さんなんか非常に人気があつて東京市長にさせるとか云つて居るのは、政治的手腕というものではなく、所謂人格者として、つまり電話を売つて出るとか何とかいう所が日本人の非常に気に入るのぢやないですか。

大森 殊に貧乏ということなんかでしょう。だから前に岡田¹などが総理大臣になつた時には政綱は信じられた訳でないけれども、清貧に甘んずる所が気に入つて人氣を博したのでしょう。

向坂 そのくせ貧乏を馬鹿にすることも知つて居る

1 岡田啓介 1868～1952、第31代首相。

のだから（笑声）あの清貧というのはどういうのかね。

大森 ただ貧乏ぢやいけないのだ。

三木 下級の武士精神ぢやないか。

石浜 それはそうだね。

丸山 金の取れるような地位に居つて尚且貧乏だという意味も幾らかあるですナ。権力の無い者が貧乏だというのと違つて、少し悪い事でもすれば出来る地位に在る者が貧乏だという意味も幾らかあるらしいですね。

三木 それは逆に言えば役得というやつを認めて居るわけですね。

軍人と官僚の勢力

丸山 役得というものは凡ゆる方面に、役人でも何でも可なり認められて居るですね、或る意味に於いて政党の事ばかり言うけれども、役得とい

うものは官吏なんかにも随分ありますね。役人の古手が皆縄張を持つて重役になったり色々なものになったりするものが、あれは皆合法的の役得ですからネ。

石浜 又そういう者を送り込む機関が日本ぢや特に多いぢやないですか、特殊銀行とか特殊会社とかいったものが。だからそれらの機関はいつまでたつても改善されないし一方それらをして甚しく官僚的ならしめている。

丸山 昔は民間から願つて入つて貰つただけけども此頃ぢやそうでない。寧ろ縄張を拵えて其処へ押付けるという風に見えるですね。

石浜 産業組合なども皆そうですね。

丸山 一番役得のあるのは大蔵省で、特殊銀行の重役になるし、逓信省なら放送協会とか或は船会社とか、そういうように皆あるですね。

石浜 今の軍需工業の方面なんかには軍部出身の古

手が沢山いるね。

丸山 予後備の軍人が顧問なんかになんか皆なつて居るのです。

横田 そういう所に日本の政治の一つの特色がある。官僚の優勢とかいうような点に。明治時代から兎に角官僚が指導的の立場に立つたということから、今もそういう方面に官僚の勢力が非常に強い。単にガヴァメント【government】だけでなしに民間会社にまでその勢力が及んで居るということが日本の政治の一つの特色ぢやないでしょうか。

丸山 非常な特色です。

大森 軍人の古手なんというものは全体だったら随分居るものではないか。

丸山 非常なものです。

1 予備役…旧軍隊の常備兵役の一で現役を終えた人が一定期間服した兵役 後備役…予備役を終了した者が服した兵役。

大森 下の方は中学の体操の先生になるし……（笑声）あれだつて役得だよ、他の者ぢや出来ないのだから。

向坂 新聞社には居ませんね。

大森 近頃は新聞にも居ますよ。（笑声）

横田 政党なんかでも政綱に依つて集まるのではなくて、親分乾分の関係で集まる。人格者に委せて置けという遣方ですね。それから内閣を作る時に特にひどいようだけれども政綱も何も決めないでやる。閣員を選ぶのもそういうような遣方です。封建主義という事を三木さんが言われたが、やはりそれと関係があるのぢやないですか。親分乾分の関係、主従関係で食付いてゆくということが日本の特殊性とすれば、長い間の封建制度で善悪に拘らず主君の為に忠を尽すというような思想が現代にそういう形で現れて居るのぢやないでしょうか。

三木 そうでしょう、やはり封建的だと思うのです。

横田 殊に文部大臣なんか人格さえあれば素人で宜いなんていう遣方は、一寸西洋ぢや考えられない遣方だと思う。

丸山 政党でも皆そうです。明治維新以来板垣でも大隈でも皆仲間割れをして在野党になったような者です。それから続いて伊藤公が出て来るとか桂公が出て来るとか、日本の政党というのは天降り以外のものは殆ど無いでしょう。純然たる野人として政党政治家で偉くなった人というものは割合に少いのです。最近は幹部とかいうものにも多少出て来たけれども、前にはそうでなかった。原敬^{ハラキヨ}なんという人も相当な役人であつた。日本の政党政治が官僚の勢力争い若くは官僚の失位になった者が政党をやったとい

2 1866～1921、外務省在仏公使館書記官、帰国後農商務省・外務省勤務、一時民間に出るも伊藤博文の立憲政友会創立準備に参画し、政治家へ。

う風になつて居るのです。これは官僚というものの対する国民の封建思想があるからでも無論あるでしょう。そういう者でなく下から行つた者では何か肩書がないと総裁とか首領にしない。そういう傾向が最近まであつたのぢやないかと思ひます。本当の銀行家として総裁になつたのは町田^{チヨウデン}などという人が初めてでしょう。高橋是清^{タカハシシヨウ}などという人も官僚であつたし……。

石浜 鈴木喜三郎もそうだね。

丸山 犬養がその間に一寸挟つて居るけれども、鈴木派が一寸入れた位のものであるし、民政党だつて尚更で、加藤高明、若槻礼次郎、浜口雄幸、それから又若槻になつて今度町田、政党が衰えてどうにもなくなつてから町田が初めてなつたのです。

3 町田忠治 1863～1946、帝国大法科卒、新聞記者、日銀監査役、山口銀行、次いで政治家へ。1935立憲民政党総裁。

佐々 人的関係といつても、矢張り社会の色々な思想を反映する理論が結局は指導して居るでしようね。その第二の原因で非常な重要性があるけれども、理論の現れ方が複雑になるということぢやないですか。

向坂 それはそうだろう。人的関係で動くということとは決して決定的ぢやない。形がそう見えるだけで。

石浜 人的関係がそういう風になったということには他にそこに社会的な原因があるのだ。

佐々 現在、文部大臣なんかの候補者が自薦他薦で六、七十人居るといふことだ。

三木 試験でもしたらどうです。(笑声)

石浜 日本の近來の政治史で総理大臣に軍部出身の人が多かったという事にも目につく現象だ。

横田 それは源頼朝以来ですよ。(笑声)

丸山 他的大臣は一遍辞めるとなかく大臣になれ

ない。所が軍部大臣は政党内閣の時でも二度も三度も継続するのです。二、三回出て居る間には貫録が付いてしまうのです。軍部大臣予後備制はこの間撤廃したからかれこれ言つても仕方がないけれども、実際にあれを行つたことは無いのですから今日宇垣大將が、迎も予後備から陸軍大臣なんかを、任命出来るものぢやなかつたのです。あれはただ山本内閣でそういう制度にしたゞけの話で、文官制にする積りだつたのを妥協したのです。最初は政友会が文官制度にしたかつたのです。けれどもそれは出来ない。それで山本内閣で予後備に拡張したのですけれども、実際に於いてはそれは実行出来なかつたので、宇垣大將もやる積りはなかつたと言つて居

1 宇垣一成(1868-1956)、予備役になつたのち、広田弘毅内閣の総辞職後1937年首相に推挙されるも、陸軍が大臣を出さなかつた。自らが現役復帰するといふ手も湯浅倉平内大臣に拒絶され、なりたかつた首相の座に逃げられた。

2 1913第1次山本権兵衛内閣の時

るのです。それは出来ないわけです。「宇垣一成」という本を読んでも見ると、山本内閣の軍部大臣を文官制にする時に自分が所謂怪文書を作つて反対した。自分は軍事課長の時に怪文書の要項を作つたと言つて居る。だから要するに宇垣大將でも軍部大臣文官制はいけない、それから予後備軍人でも余り賛成しないのだから今度でもやる積りはなかつたのです。

横田 あれは去年の二・二六事件後現役役に逆戻りしたのだけれども、そうでなかつたら予後備軍人でやつたでしょうかね。宇垣氏が彼処まで追詰められた以上。

丸山 どうもそれはやる積りはなかつたらしい。政党内閣の時にすらそれをどうにも出来なかつたのですから。それに本当の政党内閣というものは日本では出来なかつた。全閣僚が政党员だという純然たる政党内閣は一度も無いわけです。

日本政治の特殊性を検討する

国務と軍務の問題

佐々 その問題は憲法が初めから国務と軍務というものをはっきり分けて居りますからその立前で国務に対する輔弼の責任と軍部関係の統帥権と別れている。そういう法制上の関係もあるでしょう。

丸山 勿論法制上の関係があります。併しその法制上の関係も一つは今言う軍部大臣を文官制にするなんという時代にはあることはあつたのです。三浦観樹・原敬³なんという人がその議論だつたのです。それで山本内閣の時に少くともあれまでやつたわけです。

横田 法制上支障があるわけぢやないでしょう。結

3 政治家・陸軍中將・子爵。名は梧棲、観樹は号。長州藩の尊攘運動に参加し、王事に尽力。のちに枢密顧問官となつた。

局背後の力の問題でしょう。例えば帷幄上奏とか統帥権とかいうものは今の軍部の解釈から行けば国務の外なんでしょう。だから国務大臣は文官制でも差支ないわけですね。国務大臣の管轄内に統帥権があるとすれば統帥権は軍政だからどうしても軍人でなければいけないという理論も立つけれども、統帥確が国務の外だということになれば普通の国務は文官でも宜いということになるわけですね。だから、憲法の規定から言つて、こうでなければならぬというのでなしにやはり背後の力の関係ですね。結局そこまで文官の方の力が確立していないという事ぢやないでしょうか。

1 1868年12月に最初の帷幄上奏による人事が発令されるまでは、将校人事はすべて太政官三職¹内閣の決済を要した。しかし、それ以降は、陸軍将校に職務を課す場合には、参謀本部長と陸軍卿連署の帷幄上奏によって天皇の決済を受け、太政大臣と内閣の人事権は形式的な辞令交付に限られることになった。

丸山

そうでしょうネ。政党が幾らか力が出て来てから帷幄上奏という事が始つたようです。明治四十一年かに軍令というものが初めて出来たのです。あれは政党が非常に勢力を得て来て、西園寺公なんか、政友会の総裁なんかでやつて居るし非常に勢力を得て来たから、それであの軍令なんというものを拵えて帷幄上奏なんということになったのぢやないですか。あの帷幄上奏というのは、つまり軍部大臣でなくても参謀総長や何かゞやれる。軍部大臣が仮に文官でもどうしても帷幄上奏を抑えることは出来ないのです。だから帷幄上奏という事が出来た以上はどうも陸海軍を内閣で全然統制することが出来なくなつたのです。林彌三吉という人が軍令の事を書いて居る²ですが、あれが出来た時に山縣公が、お前等便利なものが出来たからと云つて之

2

林 1876-1878、『文武権の限界と其の運用』のこゝか？

を濫用してはいけなぞと言ったとか言つて居るが、成程これは便利なものです。内閣の手を経ないで勅令と同じ性質のものを決めるわけですから。

後進国としての特殊性

記者 軍部に相当する政治的な勢力というものは外国には何処にもないですか。

大森 それはあるでしょう、元の独逸なんか非常に大きなものがあつたでしょう。

記者 やはり今の日本に於けるように、政党とか、そういうものに対立するものとしてあつたのですか。

大森 日本と同じものかどうか知らないが、事実上政治を動かした大きな力であつた。

横田 ^{スペイン}西班牙なんか寧ろ軍部だけなんだから……。

(笑声)

日本政治の特殊性を検討する

大森 そういう意味に於いて日本の政治一般に就て、寧ろ日本の政治が遅れていて、外国の政治

がズツと発達して行つた。その未だ未熟の段階の所にいる。そればかりとは言えませぬけれどもそれも特殊性と一云えば特殊性でしょう。併し本当の意味の特殊性というものはそんなに多くはないでしょう。

横田 吾々は外国と言うと直ぐ英吉利とか、仏蘭西とか、亜米利加とかを考えるけれどもそういう真に文化的意味でも一流国は確にそうだけれども、そうでない国を見れば、例えばバルカンの諸国などを考えれば寧ろ軍部が常に権力を有つということが当り前なんだね。

記者 未だ未熟時代なんですね。

大森 未熟ですよ日本は。少くともそういう面が可なり大きくあるということは僕等は思います。

丸山 それで私共は単に新聞人としての今迄の経験

から行くと、日本は一方に於いて思想的の方面では日本の現実と離れて非常に進み過ぎて居る。例えば政治の批判だの、既成政党なんという言葉は、無産党若くは評論家から出た言葉でしよう。そういうような事から資本主義の政治だとか、或は既成政党が所謂財閥の傀儡だとか、そういうた非常に高い西洋の批判というようなものが日本の民衆に消化されないで居る。それだけだ政党政治家というものは怪しからぬ者だという結論だけで、今のファッショというようなものが非常に激成して来て居るのぢやないかという気がするのですが、如何ですか。今の若い人なんかに可なり相当な人でファッシオ的の考えを有つて居る人が非常にあります。行詰つて居るせいもあるようですが、自分等の前途に対する一種の捨鉢気味で、何としても現状を打破したいという気分の者がある。あの二・二六事件

の直後なんか随分新聞記者なんかにもそういう空氣があつた。あれは本当に恐れたのでなくて、若い人の間には××したような空氣が濃厚だ。今でも新聞記者が意氣地がなくて、軍部に媚びて居るという風に見えるですけれども、必ずしもそうでない。書いて居る人達にそういう事を考へて居る者が可なりあるようです。やはり革新だと言つて居る。軍部と一緒に資本家をやつつけ、既成政党をやつつけることが一種の革新だと思つて居る者が可なりあるようです。それは何だか思想と現実とが非常に掛離れて居つて、そういう所に妙な關係になるのぢやないかという氣が吾々はするのです。

大森 多少そういう点があると思うのです。併しその点は思想と現実と離れて居ると言うよりも、他の原因ぢやないでしょうか、例えば政党に対する攻撃を無産党側がやつたとします。併し同

時に無産党は或る程度までとしても、評論家なんかは軍部の攻撃も相当にやって来たと思うのです。所がその方は少くとも今あなたの言われるような、事実の限りでは人々の間に入らないですね。そうすると何か他に原因があるのぢやないでしょうか。

丸山 それは兎に角、政党政治、今の資本家の政治という物を打破するのには普通の道ぢや行けないというような気持があるかも知れない。この俚議会議政治なら議会議政治をやつて居つては何時までも伸びないから、無産党の力でやつて居つては百年河清を待つというか、それ程でないにしても中々現実の政治は無産党の力ぢや動かないから、軍部でも何でも、兎に角現在の既成勢力を打破して呉れる者があれば、それを歓迎するというような空氣が一般の民衆にどの位あるか、私はそれは断言出来ぬが、インテリの一部

日本政治の特殊性を検討する

に相当にあるように思うのです。

大森 それはあります。私などもそう思います。併しその原因というものは随分複雑ぢやないですか。例えば革新というような事でなくて、モツと簡単に何か事が起ればいゝというような、そういうヒステリカルの気持、そういうものになりあると思うのです。(笑声)

丸山 弥次馬気分ですか。

大森 彌次馬的の気分というよりも絶望的の気分になつて居る。必ずしも革新的の気分というより、機関銃の音でもすれば面白いという気分が相当あるぢやないですか。

軍部と無産党との關係

佐々 石浜君、歴史家として斯ういう事が云えないかな。明治維新時代には下士階級が前衛分子になつて動いて居つたということそれが、後進国

に於ける革新の特殊性を現しているのではないか？

石浜 ブルジョアジーでなくて、下級武士が働いたというの的一面から見れば徳川時代にブルジョアジーが独自の十分なる発展を遂げてなかった。明治維新前後欧州で見られたようにブルジョアジーが政権を取って反動的勢力と決戦したというそういう様な政治的事実が無いので、つまりブルジョアジーの成熟が非常に強くなかったという所に日本の政治そのほかの方面に多分に反動性を齎して居るのだ。

佐々 それと今の丸山さんの言われた問題の関係だね。

横田 今の丸山さんの言われたのは斯ういう意味ぢやないですか。例えば、西洋の先進国では、資本家が軍部に対して優勢になつて、軍部を自分の勢力範囲の下に抱擁してしまつた。だから、

無産政党から言えば、その資本家を攻撃すれば即ち彼等の支配権が確立された。所が、日本では、キャピタリストがまだそこまで成熟していないからキャピタリストが軍部を自分の陣営下に抱擁するに至つていなかった。そこで、資本家を西洋流の論法で攻撃してみたが、軍部は之をどうすることも出来なかつた。そういう意味で言われたのぢやないですか。そして、その意味は確にあると思う。

丸山 私はその意味です。日本では今迄の政党内閣でも本当の政党内閣ではなかつた。全閣僚が政党出身だという内閣は一つも無かつた程です。それ程まだ未熟の時代に一方に於いて無産党が出て来、それから一方に於いて世界大戦後非常に急激な思想が擡頭して既成政党的勢力を下から崩すような風になつて来た。それが少し早過ぎたような気がするのです。政党的勢力という

ものを多少悪い事をして、之を崩してしまわないで、もう少し政治的に成熟させた方が宜かったぢやないかという気がするですけれども、併しこれはそう思ったがそうだったので、すから何とも仕様がないうですけれども……。(笑聲)

横田 宜いか悪いかは別問題だけれども、事実としては、資本家が既に軍部の勢力を抱擁して居れば、その資本家を倒せば同時に軍部もコントロール出来たわけだが、資本家がそれまでに至っていないかつたから、無産党が自己の政策を行おうとすれば、自己の力で軍部をコントロールしなければならぬということになるんですね。

丸山 だから無産党も少し大きくなれば既成政党と同じ様に抑え付けられてしまつて、実際に於いて何も出来ないということになるのぢやないでしょうか。

大森 それぢやア無産党は当時どうすれば宜かつた

ですか。

丸山 既成政党を単に崩すことばかりでなしに一つの反対の勢力として政党政治というものを擁護するという方に力を注いだら宜かつたぢやないかと思うのです。政党政治というものが一応出来たものだから、それでモウ之を崩せば自分等に勢力が来るといふように認識したのが間違ぢやなかつたかと、私は感ずるのです。

佐々 所が原敬が普選に反対しましたでしょう。その後に護憲三派で普選は通つた。併しながら若槻第一次内閣で最初の単一無産政党の農民労働党を解散する。社会政策は何もやらぬ。だから無産党が一つの概念的な範疇から既成政党を護るということは到底出来ないことでしょう。

私は今の段階で既成政党を護ることに依つて議會を護るといふ一つの方法は全然不可能だと思ひます。例えば今度の解散でも広田内閣末期

頃はどうかだった？

新党運動の理論的根拠

丸山 軍部イデオロギーの結局「既成政党は駄目だ」という漠然たる概念が国民の間に染込んで居るので、それが背景を為して居るのぢやないかと思うのです。

佐々 僕はそう思いません。その「既成政党は駄目だ」というのはほんの仮象的な現れです。あれは早晚流れ込みますよ。

三木 何処に流れ込むのですか。

佐々 抱合政権の方に流れ込む。大部分は、その外に行く道はないですよ。他方、従来のリベラリストテックな立場を守って行く少数の人々は、自由主義経済でやって行ける。例えば紡績事業とというような部門に即してゆく。そして、抱合政権の政策を批判する立場に立つ。だが、大勢は

に解散を要求した空気が其俶残つて居つてその線の通りに動いたと考える。既成政党は議会の終りの間際になるまでおとなしく色々の事をやって来た。最後にモウ解散がないという見込みで少しボロを出した。そのきつ掛けを掴えられたのであつて、その意味で林内閣の遣方は、国民の前に国策上の問題で政民両党と意見が対立したということをおつとも示さずに抜打解散をやつたという形である。しかし一寸でも弱味を見せれば、つまり従来の政党の弊害の十分の一位のものでも見せたらばやられるという基礎事情は議会中ズツと流れて居つた。だから、それさえ気が付かない位に既成政党は言わば呆けてしまつて居るのです。(笑声) 既成政党を護ることに依つて議会政治を護るという方法はモウ決定的に駄目だ。

横田 今はそうだけでも、モツと政党華かなりし

既に彼処に流れ込むより外にないでしょう。早く
くそう片付いて呉れた方がいい。」

大森 流してしまうか。(笑声)

佐々 僕は林内閣でそれが出来るとは考えません。
今度の解散で林内閣も恐らく潰れるように感ず
る。¹丁度広田内閣がその末期に政党側の反撃と
それから軍部内の急進派の圧力に依つて板挟み
になって潰されたと同じ事情が林内閣にも出る
のではないかと思うのです。だから林内閣で新
党を作るとか何とかいうことは総選挙の前だろ
うが後だろうが出来るものではない。併しなが
ら新党成立の可能性は決して亡びない。

丸山 既成政党は昭和の五大疑獄²とかいうような
で国民の信用を失つたことに乗じて軍部の勢力
は擡頭したのだと思うのです。それは昔ながら

1 531 総辞職、次は近衛内閣
2 東京市会疑獄・五私鉄事件・勲章疑獄事件・釜山取引
所設置事件・合同毛織事件

の政党に抑えられない軍部の勢力があつて、少
し遠慮して居つたのが出て来たのであつて、決
して近代の政治のような過程を経て日本の資本
主義が亡びかゝつて、政党政治というものがそ
れに随つて亡びたという、そういう説明と違つ
て、日本のは其処に特殊性があるのではないかと
私は思うのです。

大森 其処が複雑ではないでしょうか。今丸山さ
んの仰つたような点があるということは僕も考
えるのです。詰り日本の軍部官僚を中心にした
ファッショ勢力には古いものの復活という意味
が可なりあると思う。併しそればかりでなく
て世界各国と言つてもいいのでしよう。一般に
ファッショ勢力が起つて来てそれから又それに
伴つた軍部勢力というものが各国で強まつて居
ると思うのです。そういう世界各国共通な原因、
そういうものも含んで居るのではないですか、

寧ろそれが強いのではないですか。あなたの前からのものの復活という所だけを御覧になつて居るのですが、私等はファッショ成立には、日本に特殊なものと最近の世界の一般的なものです、そういうものが重なり合つて居る所に日本の政治の複雑性と言いますか、特殊性があるのぢやないかと思うのです。

無産党の闘争力

丸山 ファッショと言っても、例えば英国にしても米國にしても多少国民内閣のようなものをファッショと言えばファッショかも知れないけれども、併し政党内閣というものはびくともしませんからネ。米國あたりにしてもその通り、ルーズヴェルトが個人的の勢力で如何に大統領の権力を振つた所で政党政治には相違ない。これは崩潰することはないと思うのです。ただ其

処へ行政権が少し拡張されるというようなことはあるでしょう。それは随分前からのことで、政党というものが一種の選挙民みたようなもので、内閣が議會から選挙されて出来て居るといふ状態なのが英國なんで、これは今に始つたことではないし、ただそれは内閣の権力というもののが非常に強くなつたといふことはあるでしょうけれども、政党というものが衰えるとか議會政治が衰えるとかいふような徴候は少しもないと思うのです。米國だつてその通りだと思ふのです。

大森 ですからそういう形の上から言えば、日本でも現に政党政治が立派に行われて居るのです。伊太利の場合などとは非常に違ふでしょう。そういう形の上で議會政治なり政党政治が行われて居るといふことゝ、その形の下で多少なりとも、英吉利や、亜米利加の場合、それは非常に

多いとは思いませんけれども、多少なりとも違った性質のものが現れて来て居るということは別のことだろうと思うのです。

横田 既成政党では議会主義が駄目だというのは、結局無産政党が出なければ、議会政治は駄目だろうということにほかならないでしょうね。軍部に対抗し得るものは、既成政党が駄目だとすれば、その外にはないでしょう。

大森 根本的にはネ。

横田 遠い将来は暫く別として、無産党が相当努力を得て、例えば議会でマジORITYを占めることが近いうちに出来るとすれば、軍部は無産党による議会主義も駄目だと主張して、今度は既成政党に対して行つたと同じ論法を無産党に対して向けはしないかということが考えられる。その頃には物価の非常な騰貴とか、財政の行詰りとかいうことが恐らく表面に出て来るだろう

と思うけれども、かりにそうでない現在の様な状態だとすれば、矢張り今と同じような無力を議会は曝露するのぢやないかと思う。

大森 それは今と同じですよ。若し無産党が駄目ならば既成政党が駄目なことは勿論認められるわけでしょう。例えばあなたの仮定の如く無産政党が伸びず又質的にも大きな力を有たないとすれば、それは結局駄目だということになるのぢやないですか。

横田 軍部のロジックは今の既成政党に対するのと同じでしょうね。政党が軍事予算に理解を有たないから駄目だという議論はその時にも行われて、矢張り今と同じ状態になる……。

大森 無産政党に対してネ。

横田 そして矢張り或る程度まで現在と同じように一般民衆にはその議論が尤もらしく聞えはしないか。

大森 尤もらしく聞えて且つ国民が仮に軍部の方に

ドン／＼随いて行くといふのであつたら無産党は伸びないし……。

横田 それが随いて行くかどうかが問題ですネ。

大森 僕は早速には随いて行くかどうか疑問を有つけれども、勿論無産党は伸びて行くでしょう。現に最近でも少し違つて来て居るのではないか。

横田 勿論結局において伸びて行くことは伸びて行くが、その時に右のような論理で軍部が来た場合に、国民が既成政党は駄目だが、無産政党なら大丈夫だというように考えるだろうか。今のうちに言論の自由が抑圧されて居たら、国民が自らそういう風に判断するかどうか、僕は其処に可なりの疑問を抱いて居る。今のうちに言論の自由が抑圧されて居ると、国民の大多数は議会なんか駄目で、ファッショが宜いという風に考えるのぢやないかという虞を有つて居るんで

すがネ。

佐々 今の所はそう行つて居ませんネ。

時局認識とは

三木 例えば社会大衆党と軍部と近頃密接な結び

付きを持つているというようなことを云つて居る噂さがありますネ。そうするとそういうようなことは今後どういふ風になるのですか。詰り対立するものとして、社会大衆党というものが本當に戦うようになるかどうかという問題です。既成政党といういゝ目標が今あるから割に軍部というものと正面に戦わなくてもやつて行けるのだ。所が既成政党が潰れてしまふと、戦うことが社会大衆党なんかゝ出来るかどうか。

丸山 既成政党が勢力を失つたと云いますけれども、矢張り数の上に於いてそれより外投票が無いらとも言えるですけれども、無産党が今の

既成政党のような投票、例えば千四百万の中
千万に近い投票を集めるということは容易な事
ぢやないのです。千万人の投票が既成政党にあ
りながらこの通り蹂躪ふみにじられて居る。仮に今の
五十万、六十万の無産政党が百万、二百万の投票
を集めた所がこれは何でもないことです。鎧袖
一触だろうと思うのです。

大森 けれどもその点はさつき丸山さんの認めら
れて居る通り結局同じ事ぢやないか。仮に現在
既成政党というものがあつたとしても、軍部と
殆ど何等の闘争をやつて行かないとすれば今と
ちつとも違わないのぢやないですか。

丸山 私はそう言うのぢやない。前途に於いても無
産党が多くても余り希望がないというのです。

大森 詰りファッショになるといふことですネ。

丸山 結局時局認識がないといふことです。現在は
無産党でも公然軍部と時局認識が同じだといふ

わけではない。大いに違つて居るのでしょけ
れども、ただ矛先が既成政党に行つて居るから、
無産政党を幾らか大目に見て居るような氣味が
あるのだけれども、無産政党がモウ少し勢力が
あれば矢張り時局認識が違ふといふので叩き付
けしまふのぢやないですか。

佐々 僕はそうは思わない。既成政党が新党運動や
何かの形で流れ込んで行く。それに決つて居る
という意見です。だから本当に今の抱合政権と
既成政党の対立ということが本質的のものでな
いと思うのです。それからさつき三木さんの言
われた噂さはあつたとしても、それが全部ぢや
ないのです。矢張り政党ですから国政の立場か
ら議論を立てゝ居ると思ひます。

三木 詰りファッショと同じような役割を演ずる危
険といふものが日本やような民衆の政治意識が
発達して居ない所には起り易いといふことが

ありはしないかという意味です。

政友会民政党の分解

丸山 私は、今佐々さんの言う既成政党が全然親軍党になつてしまふとは思わないのです。例えば原敬が寺内内閣を倒して憲政会を倒した場合に、それは必ず親軍党が出来るでしょう。そうしてそれが政権を取るといふ一種の妥協内閣が出来るでしょう。けれどもその、時に矢張り憲政会といふものは常にその方に随いて行かなかつたのです。日本ではどうしてもこれが一つの政党になるといふ様なことは信ぜられないです。無産党が一躍して百名以上の議員を出すようになれば必ず既成政党と一緒になつてしまふかも知れないけれども、現在の情勢では政友会民政党と一緒になつてしまふといふことは仮に連合しても出来ないです。それであるから既成政党が

親軍党になつてしまふといふことは現実の情勢に於いては全然私は信じないのです。それは今迄の繰返して桂公が政党を作つて、今迄の改進黨の勢力その他非政友会的の勢力がそれに結び付いて政権を取つた。それから又それに対して政友会が一時逆潮で大隈内閣の時に叩き付けられたのが、今度は寺内内閣を助けて総選挙をやらせて憲政会を叩き付けて、結局寺内内閣が米騒動で没落した時は自分が政権を取つたといふ風に、或る政党は親軍党になるし、或る政党は勢力を盛り返すかも知れぬ。そういう風になるかも知れぬ。政友・民政と一緒になつて何時迄も現在のような抗争状態をやつて居るといふことはないでしょうがこれは必ず直ぐに戻つて来るでしょうけれども、既成政党が全部一緒になつてしまふといふことは、1922年（大正11年）第3次桂太郎内閣時、立憲同志会と名づけたまでで尾崎行雄らによる護憲運動の高まりの中辞職した。3度以内閣とも新党を作つて政権を取つた事は無いと見られるが。

なつて所謂非常時認識を軍部と一緒になつてやつて行くということは僕は信じないのです。

大森 その場合一つにならなくてもいいですし、

さつき佐々さんの言われて居つたように政友・民政が全部挙げて軍部支持にならなくてもいいのです。少数派というものはみ出るかも知れないし、或は党内に居ても党内反対派として相当活動が続けて行くでしょう。それから今あな

たのお考えのように民政・政友が組織の上で一つの党になるということは私は別に考えても居ないし、出来るものではないのです。併し両方でも民政なり政友なりが各々——例えば党内に反対派を含んで……大体全体としては軍部を支持して行く、その場合には小さな事で軍部に反対するということはこれもあり得るでしょうし、私はそれを否認しないのです。併し根本の方向に於いては軍部に追従して行くというような形

日本政治の特殊性を検討する

が出来るのぢやないかと思うのです。

佐々 そうです、例えば前の広田内閣当時の中島・

前田氏等の新党運動、あれはもう少し広田内閣が続いて行けば出来たと思うのです。だから政民両党が全部というのではなくて大部分の勢力がそつちに流れ込むのぢやないかと云う意味です。

政党の闘争目標

三木 今の無産党というものはもつとデモクラシー

の思想を大いに強調する。そういう方に民衆を教育する。自分達もそういうことをモウ少し自身でも教育するという必要が日本には非常にありはしないですか。

大森 それはあるでしょう。最近大衆党でもその点は相当気が付いて来て居ると思うのです。浅沼

君は選挙法改正委員会ですか、あの時に、無産党独自の立場に立脚して議会主義を守らなければいかぬということを演説で非常に強く言ってます。そういうことはあなたの言うデモクラシーを維持してこの際強調して行くことが必要ではないかということの意味して居るのぢやないですか。

石浜 労協²でも議会政治の擁護ということを特に一項として主張している。

大森 それから一番初めの無産党が既成政党を攻撃した時の丸山さんの仰ったそれはありますけれども、同時に無産党は普選を徹底的に行うとか、日本の議会主義というものは議会主義として非常に不完全であつて、その点を完全にしろとい

1 浅沼稻次郎のことか、当時社会大衆党
2 「大日本労働組合協議会」のことか、関東新聞労働組合・日本通信同盟・大阪一般労働組合・中部労働聯盟等国家社会主義派の組合、大日本労働組合協議会を結成。

うようなことは常に主張して来た。だからそういうことがないと思つて居るならば無産党に対する誤解だろうと思います。

向坂 そういうことを言えば既成政党が却つてそういうことを妨害したことになるわけです。だから結局戦う事になつたのでしょうネ。

無産党の功罪

丸山 それは圧迫されたわけです。けれども既成政党が一緒になつて無産党を圧迫したということは今迄なかつたわけですがネ。

向坂 そんなことはないですよ。(笑声)

大森 一緒になつて……と言つても別に共同委員会を持つたわけではないですけども、併し事実是一緒にやつたですよ。

丸山 それは現在でもやつて居ることは認めますけれども、併しながら無産党の戦術がファッショ

的の勢力に利用されたことは私は事実だと思うのです。少くともその理論なんかは全部借用して居るのだから……。

大森 これは向う様のそれを止めるなんということ
は出来ぬですから……。 (笑声)

向坂 それは借用ですからどうせ違つて居ります。

丸山 民衆の意識が低い所にそういう議論がやられるから、そういう風に逆用されて、逆手を取られたということになったと私は言うのであつて、別に無産党の遣り口が悪いという意味ではないのです。ただ現在の情勢に於いてそうなつたということを結果から言うのです。

向坂 だから逆手に取られる事を恐れて居つたら、無産党は黙つて居なければならなかつたらう。

(笑声)

大衆の政治意識

日本政治の特殊性を検討する

丸山 私はただそういう風に思想が進み過ぎて居つて、それで一方に於いて日本の現実と一致しないからこういうことになつて来たのだという結果論です。

横田 総て結果論ですね。その時分には、今のうちに軍部が非常に優越性を占めるというようなことは一寸予想されなかつた。だから、その時の問題と現在の問題とを区別しなければいけない。それがどうもさつきから混がらかつて居るようだ。で斯ういうように軍部が非常に勢力を得た場合に、無産党はデモクラシーを大いに発達させ、軍部をコントロールした後に天下を取るのがいいのか、そうでなしにまず既成政党を倒した上で、自分で独立で軍部に対立するのが宜いかという問題と、過去に於いて軍部の力が認識されなかつた時に、どうやったらいいかというようなことゝ混がらかつて居るように思います

ね。

丸山 私は当分今の無産党の勢力は伸びないのぢやないかと思うのです。これで既成政党が没落しても無産党の勢力はこの俤に少し宛は殖えても中々五年や十年の間にはそれ程殖えないで、軍部は今に親軍党というものだけを利用して議會をやつて行く時があるでしょう。それが可なり続くのぢやないかと思うのです。それに対して一方の無産党ではない勢力が対立して居る。そういうような状態が可なり続くのではないかと思うのです。

佐々 既成政党の没落というのは政權という意味から見れば既にとつくに没落して居るので、量的には地盤の關係があるからそう急に没落するものではない。其処に可なり利用価値が残つて居る。

丸山 その利用価値というものも今理論的には、

色々な理論を付けられるけれども、前に政党が政權を握つたというのは、原内閣が大正七年に政權を握つてから、それが最近の若槻内閣までに僅か十年か其処らです。その前の情勢と今日の情勢はただ世界的の危機とかいうようなことなんだけれども、そういうところから必然性があるのぢやない。日本の特殊の政治情勢でそういう勢力が未だ衰えないのが單に出て来ただけの話であつて、それは世界戦争の危機とかいうようなものが一つのきつかけになつたことは事實だけれども、既成政党が今政權を失つたということは前に完全に取つたということの意味するようだけれども、そうぢやないと思うのです。

佐々 それは両面ですネ、古きものが新しき必要に依つて生れたということでしょうね。

三木 詰り既成政党が駄目だということは殆ど凡ゆる評論家が言い又一般の常識になつて居るのだ

けれども、それにも拘らず選挙して見ると既成政党が矢張り大多数出て来るということは、其処に何か日本の民衆の政治的意識とか日本の政治の特殊性と言う、そういうものがあるはしないか。

個人と政党

御手洗 私一寸失礼ですが、其処は特殊性というお話だけでも、それは組織が与えられて居ないと思うのです。既成政党に投票する以外に大多数の国民は投票する相手が与えられて居ない。地方的に一人や二人の者はあつても全国的にそういう一つの組織体がない。無産党、社会大衆党というようなものが出て来てもその大衆党の候補者を有たぬ選挙区が大多数です。だからそれ以外の恒久性のある大きな組織が全国にあればそれに行くでしょうが、それが未だ与えられ

て居らない状態です。だから選挙民が投票しようとしても、既成政党より外にないのだから已むを得ない。

三木 その組織が出来ないということは矢張り本当に下から無産党が盛り上つて来ないで、組織とか何とかいうものを作って民衆に持つて行くということになるのだ。

御手洗 其処まで到達して居らないのです。

三木 特殊性ということは何も日本的ということではない。特殊性という意味は別に日本にしかないという意味ぢやないよ。詰り現在の特殊事情だと思ふ。

丸山 併し以前には中立というものが多かったが、最近に於いては少くなつて来て居るのです。中立というのは大抵どつちかと言えはどうでもなるような人が中立になる、所謂親軍的人に多いのです。所がそれがこの間の市会議員の選挙

でも落選して居るし、今度の選挙をやつて見てもそうぢやないかと思うのです。

御手洗 それは恒久性がないということぢやないかと思うのです。そういう個人は一遍や二遍は出るだらうけれども、その人が三期、四期、五期続いて出るものぢやない。その人のバックにある勢力が市政なら市政、国政なら国政に恒久性的な組織を有つということになり得ない。だから投票する方は一度は興奮でやるけれども、二度、三度は続かない。そこで已むを得ず組織のある恒久性のある既成政党に投票が集るということになる。

丸山 併し市会議員なんかはそうでないと思う。市会議員の新しい人というのは無産党員だから無産党員として投票するというよりか、多少個人的に名前を知られて居るといふので投票するといふのが可なりあつた。それから今のファッショ

的の人には誰も投票しなかつた。随分金を使つて居るけれどもやらなかつた。之には矢張り相当民衆の判断もあるのぢやないかと思うのです。

御手洗 信額が無いのでしような。

政局の見通し

横田 併し、それにしても、段々無産党が勢力を得て来るということは一般的なことで何処の国にも見受けられる。これはちつとも特殊性ではない。強いて特殊性と言えば他の国より時期が少し遅れて居るといふのが特殊性である。一体日本の政治の強い特殊性と言うと、さつきから何度も出たけれども、軍部という、資本家にコントロールされない一つの強い勢力が存在するといふ事実ですね。それが有ゆる政治問題の複雑性を惹起して居る。其処に日本政治の特殊性の根本原因があるのぢやないかと思う。

三木 そうすると、軍部の社会的の基礎という問題

になりはせぬか。

横田 それがどういう基礎に依つてそうした勢力が

あるかということは別の問題になるが、かりに既成政党というものと無産党というものと合わせてシヴィル・パワース【civil powers】とすれば、そのシヴィル・パワースとミリタリー・パワース【military powers】との決戦が一度行われなければ、英吉利や仏蘭西などの先進国のように資本家対無産党というシンプルな形式に於ける闘争になつて来ないのぢやないかと思うのです。

大森 そういう時代ぢやないよ。シヴィル・パワースとミリタリー・パワースと決戦するということには僕は同感なんですけれどもシヴィル・パワースの中の可なり大部分というものは既にミリタリー・パワースと一緒に居ると思うのだ。だからあなたの言われるような綺麗な形

日本政治の特殊性を検討する

の決戦というものは事実上出来ないでしょう。

現に民政党なり政友会なりがシヴィル・パワースとしてミリタリー・パワースと事実上於いて対立して居る形があるとすれば、其処へ無産政党がくつ付いてあなたの言う決戦を行い得ると思う。併し今日誰が見ても既成政党というものが……。

横田 僕は今日の事を言つて居るのではない。軍部に随いて居るシヴィル・パワースはもはやシヴィル・パワースでなくて、ミリタリー・パワースの一部に外ならない。それと対立するシヴィル・パワースが出てそこに一戦がなければそれは……。

大森 僕等も言つて居るのです。佐々さんの言われた既成政党の中の小數分子と言いますか反対派と言いますか、そういうものが軍部と決戦をする。無産党が共同戦線を張つて行くというよう

なことは無産政党が最近特に強調して居る点ではないか。無産政党が自分だけでやるというので、仮に其処にミリタリー・パワースに反対する勢力があつても、それが既成政党の分子であれば絶対にやらぬということは考えて居ないと思うのです。

佐々 今の問題は遠い将来の問題を論じて居る暇がない位に、現実に議会政治が亡びるか亡びないかということにある。既成政党が亡びるか亡びないかということとは小さな問題であつて、議会政治が亡びるか亡びないかということが根本の問題であると思うのです。それがいま断崖のギリギリのはしを歩いて居る。だからこれは僕個人の意見としては、民意暢達のために議会の改革をやる、それから議会に於ける勢力分野を早くハッキリさせる、これが何よりも必要だ。今度の解散が非立憲かどうかというような古い

政治論よりもこれが先決問題だと思う。だから片付くものは早く片付いて抱合政権に随いて行くものは随いて行くが宜いのだ。

横田 僕もやはり現在のことを問題にしているのだが、ただ無産党がモウ少し発展した時の情勢を考えて、その程度の低い状態が現在に於いても作用して居るという風に考える。だから、既成政党では駄目だけれども、無産政党なら国民が直ぐそれに随いて来るといふようなことは、軍部という一つの勢力がある限り、そう簡単には行かない。軍部というものが西洋の先進国と違つた存在を有つて居るといふ所に非常な特殊性があつて、将来に於いても無産党との間に大きな問題となるが、現在に於いてもいくらかそうだといふ風に考える。

佐々 僕是在野党は無産党と少数派の既成政党だと思ひます。近き将来に於いて。在野党でもない

者が在野党のようなポジションに置かれて居る

ということ、これが却つて非常に宜くないと思う。それで現在でも取締の一番根本は大資本

家と既成政党との金銭取引にむけられる。それを嚴重に取締るというのが一番手痛い。何時もの選挙なら今頃はドン／＼選挙区に帰つて行くが、今度はなかなか帰れない、立候補者の出足が非常に遅い。これはどういうことを意味するかと言うと、抱合政権から既成政党が永久的に見放されたようにも見るが懲戒のためだと思ひます。

向坂 林首相と同意見だネ。(哄笑)

佐々 言葉だけはネ。詰り反省を求めるという意味の言葉が云われて居るのは僕はそういう意味だと思ふ。

向坂 反省を求めるならばいゝけれども。

解散の真意

横田 無産政党が強くなつても、やはり軍部から反省を求められるでしょう。

佐々 林内閣が議会で反省を求めると云つた意味は、既成政党を見放すという意味でないと云うことを今問題にしている。

向坂 此方に来いということだろう。

佐々 そういうことだ。だから僕はさつき言つた結論になるのだ。

総選挙後の形勢

大森 丸山さん、総選挙後の実際の形はあなたはどのような風になるとお考えになりますか。総選挙の結果をも入れその後の形勢です。細かい事は無論分らなくても、大体の形勢としては……。

丸山 総選挙して現在の勢力がそう大して動かぬこ

とは政府も見透して居ります。だから再解散敢て辞せずとか何とかいうことを言つて居るのは、要するに幾らか宛でも伏兵を余計に既成政党の中に置いておいて今の佐々さんの言われるように既成政党の中から親軍的の勢力を殖やしてそっくり乗っ取ろうというのです。それがうまく行かなければ新党でもやるか、必ずしも新党をやらなくても既成政党のどちらかを動かし得るように思つて居るのでしょうか、現在に於いてはそれだろうと思ふのです。

向坂 ただその場合どういふ建前を取るですかね。同じような形になつたら反省して居ないわけだから、どういう形を、詰りどういう引込みを付けて妥協するのですか。

丸山 その時には私は軍部が林内閣に未練がないと思ふのです。幾らでもお代りがあるのですから、前の広田内閣みたいのもので必ずしも軍部が再

解散を主張するかどうか私は疑問だと思ふのです。若し二大政党が結束して仮に政府に反対するとする、それが不信任という形になって来る場合にどうするかということになって来て、更に再解散をするかどうかということは疑問と思ふのです。それは今はそう言つて居りますけれども……。

向坂 不信任案はやるでしょうか。

丸山 それは戦術としてはやらぬかも知れぬ。併しこれ位の厭がらせの態度はきつと取りますよ。今度だつて極く僅かの厭がらせに過ぎないのだから、あれ位の厭がらせはやると思ひます。

大森 やらないのぢやないですか。今度はまさか解散が来るとは思われないからあれだけやつたけれども、この次は下手をすれば新内閣による再解散になるかも知れないと思ひますから、再解散が何時でも来るといふように思ふから、モツと

おとなしくなるのではないですか。厭がらせもやらないのぢやないですか。

丸山 必ずしもそうばかりは言えないでしょう。

佐々 御手洗さん、どうでしょう。其処の観測は……。

御手洗 遺憾ながら丸山さんと一寸違うのですがネ。選挙の結果、矢張り政民両党は三百七、八十或はモツと上の数が出て来るでしょう。今の俣結束した形で出て来ると思うのです。民政党はご承知のように反政府ということをはっきりして居るけれども、政友会は現在選挙に臨むのに方って反政府という旗印をはっきりすることが出来ない程に紊れて居る。大会に代る評議員会を開くことさえ出来ないのです。それを開くと旧リーダー達の指導精神に対して或は再検討を加えら

1 1937.4.30 第20回総選挙（民政179、政友175、社会大衆37、昭和会19、国民同盟11、東方会11、日本無産1中立その他33）

れる虞がある。それを開くことが出来ぬ位に思想的対立もあり、分裂も行われて居る。それが出て来た時に何か一つのショックがあればこれは土崩瓦解することは直ぐだと思ふのです。再解散という脅嚇があれば尚更のこと、反政府で中々出来ぬと思う。殊に一つの問題は、政府は新政党を作ると言うことを言つて居るようですけれども、恐らく先に来るのは政友会と民政党のリーダーを清算することに手を付けると思ふのです。リーダーさえ取換えて所謂さつきからのお話の親軍的のリーダーにすれば政府と抱き合つて行けるのですからそういうことをやるだろうと思ふのです。その方法として色々あるでしょうけれども、先ず一番先に考えられることは選挙違反です。選挙違反で非常に峻烈な検査をやるでしょう。これはやられても仕方がないと思ふのです。その次にはこれは少し先走つ

た話ですけれども、私は近い将来に疑獄の摘発が起ると思うのです。これは少し話が外れるようですけれども、この議会の末期に於ける議案の停滞ということは政府もそう言い、世間もそう云つて居る通りに選挙法改正案に対する作戦だということになつて居るようですけれども、実際はその裏に相当の取引があつたということ——あつたと言うと既成政党から怒られるかも知れぬが、あつたという風説は頗る強いのです。それに対して検察当局が相当な行動を起して居ることも言い得ると思うのです。それに就いては私共も多少聞いたことはありますが、やつて見なければ分らぬことでありますが、ありそうな話であるし、どうもあつただろうと想像する節が沢山あるです。それはマアどうなるか分らぬが、その点で金銭の伴い易い法案が沢山あつたでしょう、それが悉く終いに停滞してしまつ

た。若しそういうような手を政府が用いるようなことになる、今の既成政党のリーダーというものは根こそぎ崩されてしまうような場面が起つて来るのです。そうすると政友会にも民政党にもある所謂親軍的の分子、或は新政党を作りたい、或いはリーダーを清算したいというような連中が政府と合流しても出来ない状態にあるのですが、そういう事件が起るとなるとそれをきつかけに蜂起して政府と合流するような機会と口実が掴めると思うのです。私はそういう手が政府に用意されて居ることは想像します。想像ですけれども、あり得る手だと思ふのです。非常に古い幾度も繰返された手ではあるが、一番効果的であることは慥かであり、議会が開けて後に今日と同じような場合が幾度もあつた。日清戦争及びその直後にもあつたし、大正になつてもあつたですネ。そういう場合に軍人とか官

僚の用いた手というものは大概似た手です。それが今度もどうも用いられるのではないかと予想して居るのです。その用意が始められて居るようにも想像しますがネ¹。

丸山 けれど総選挙は僅か二十日ばかりの間に行われる。それで議会が六月の終りに出来る。その間にそれだけの工作が出来るでしょうか、それは選挙違反はあるでしょうが。

御手洗 あるかどうかそれは一寸分らぬですけども、それは一つの手段です。その他にも今迄の官僚などがやった斯ういふ場合に処するそれに似た同じような手がまだ沢山あります。所謂非立憲的である非常手段が沢山ある。そういう手がこの際用いられる可能性危険性が十分あるのです。それで既成政党の指導者が清算されてある

1 この予想は当らなかつた。三ヶ月後の7月の蘆溝橋事件をきっかけに日中全面戦争へ発展しそれどころではなくなった。

の俣そつくり親軍政党になるか、それでなければその中の一部の者が抜けて親軍党になるか。

丸山 親軍党が総選挙前に出来ないということは準備もないからでもあるですけども兎に角国民に可なり——××と言つてはおかしいですけども、××に嫌らないという気持ちで非常に侵み込んで居る。田舎などに行つても驚くべき程侵み込んで居る。これは私は××とは思わぬです。けれども少くとも日本の議会の政治に対して一種の不安を抱いて居るということは否認出来ないと思う。それが知識階級ばかりではなく広くあるのです。そういう選挙民や選挙区の情勢が親軍党の出現を阻んで居るのぢやないかと思うのです。それがある以上は私は総選挙後に於いてもそう急激に既成政党からそういうように親軍党に鞍替というようなことが果して出来るかどうかということを疑問とするのです。

御手洗

私の観る親軍党の出現の一番困難な原因は党首の無いということです。中心がないのです。中心があれば恐らく今迄に出来て居ると思うのです。将来も一寸見付からぬ。林さんがやられば別ですけどもそれがないと中々纏り悪いです。どうもその点で実際問題として中々出来悪いと思うのです。

佐々

丸山さんのさっきの御意見についてですが、私共根本的には、国民との関係を考へて居る。所がこの四、五年來は既成政党の地盤は昔の俣です。尤も幾らか金廻りが悪くなつたからブローカーなどのファンクションは悪くなつたろうが……。現在は政權を繞つて中央で総てが決定して行くのですから、手足は未だばたぐ動いて居つて首根つこがホツと抑えられて居るという状態です。そういう状態を前提として見ると、地盤にそう変化がないと云うことと党の動きと

は別だと考えられる。ただ出て來た時の選挙演説は演説として、いざ党全体の行動をどうするかというような問題になつた時には矢張り解散が怖い微温的になるでしょう。

丸山

沢山の政黨員ぢやないですけども、既成政党の或る一部の者は軍部は行詰るというように思つて居りますネ。物価問題か何かで行詰る、財政で行詰る。現在すらも非常に不安を抱いて居る民衆が物価問題なり財政なりに行詰つて來ると、必ず軍部それ自身が転向しなければならぬ時期が來るだろうという様に見て居る。それは認識不足かも知れませんがそういう風に可なり有力な方面で見て居る事は事実です。

佐々

広田内閣の没落がその現れですネ。

丸山

それと更に物価問題からモウ少し行詰る。そうするとこれは矢張り政党と今の軍部の方がモウ少し折れ合つて、そんなに政党の全面的の降

伏でなくて、其処に妥協時代が来るのではない
かという風に考えて居るらしいのです。

林内閣背後の力

佐々 新党にも二つ性質があるでしょう。ただ何でもいゝから随いて行こうというのと、モウ一つは政党の立場から妥協するのと。例えば明治三十三年に自由党と伊藤公とが結び付いて政友会をつくった。それから桂公と国民党が結んで同志会を作った。あの行き方があるでしょう。

丸山 それはやるでしょうけれども、現在のような空気の下に於いては一寸出来ない。

佐々 それは出来ませんネ、林内閣の下に於いては出来ないですネ。それから御手洗さんから一寸知識を得たいのです。漸ういう説があるのですけれども、例えば林さんの軍部内に於ける立場が非常に悪くなつて来た。広田内閣末期に解

散を推進した勢力というものは議會懲罰という意味と強力内閣樹立という二つの目的を有つて居つたと思うのですが、その線に沿うて林内閣の改造ということを考えるのではないかと云うのです。そこで外相陸相をめぐる問題が起るかも知れぬと云う説です。モウ一つは、今度の解散が相当上層方面との連絡もあつて賛成を得たとか指令があつたという説があつたのですが、それは恐らく平沼さんだと思うのですが、昨日（四月六日）ですか平沼さんの所に林さんが行つてますが、あれは何か新党計画と連絡があるのぢやないですか。

御手洗 どうもえらく雲の上の話ですから……（笑
声）

佐藤¹さんに対する更迭運動は既に猛烈な勢いで起つて居るのです。これはどうなるか判らぬ

1 佐藤尚武 1882～1971 当時の外務大臣のことか。

が、佐藤更迭運動というのが陸軍海軍にも両方にあるのです。杉山¹さんののは初耳ですが……。そういうあなたの説明を聴いて居ると如何にもそうなりそうな気がします、それは全く初耳の話で何とも言えません。佐藤さんに関する限りに於いては既に起つて居ります。相当有力な急所の人達に依つて更迭運動が起つて居ります。それから今の解散と、上層部の人との連絡云々という事はお話のようですが、平沼さんと此内閣というものは全く一心同体です。私は寧ろ平沼内閣だと思つて居る位で平沼さんの指揮に依つて大概の事は決せられて居るように思います。その点で再解散とか或は内閣改造とかいふような問題よりもモツと深刻なことが話されて居はしないかと思うのです。例えば選挙法の根本的改正、それは到底法律案として議会の

へ持ち出したのでは通る可能性がないという程の峻烈な改正です。そういう事まで話されて居るのではないかと思われる節がある。それは真偽は保証の限りでないが漏れる話に依れば先ず別表の大改正をやつて大選挙区にして議員の定員も半分位に減してしまふ。

向坂 家長選挙ですか。

御手洗 選挙権に就ては聞きませんが、選挙区の大改正をやつて大選挙区にして定員を減すのです。それから罰則に就ても非常な思い切つた峻烈な罰則を作る。無論それは議会へ出せば通りつことはない。そういうものを緊急勅令に依つてやるというようなマア一種の非常手段です。

大森 併しその選挙論なんというものは平沼の持論なんでしよう。

御手洗 持論です。そうなると既成政党なるものが一番頼みにする地盤が崩潰作用を起します。で

すからそこで新しい組織が出て来て新興政党か何か其処へ出て来る機会是非常に強められるだろうと思うのです。そんな事は出来るか出来ぬかは別問題としてこの内閣の一部にそういう、非常時合法ファッショですか、そういう気運のあることは見て置いていゝと思うのです。

横田 それは必ずしも軍部出身の閣僚ではないのです。
御手洗 全然違います。軍部大臣にはそういう智慧

は出て来ないでしょう、そう言つては失礼ですがけれども……。 (笑声)

上層部の希望するもの

向坂 それで起るだろうと思われる、無産党の進出とかいふようなことに就ては、どう考えて居りますか。

御手洗 私は無産党は躍進するだろうと思うので

日本政治の特殊性を検討する

す。絶対量に於いてはそう大したことはないだろうけれども、例えば今の四百六十六人を三百人なり二百五十人にします。一府県一選挙区の大選挙区制を取るといふことになる、一府県で無産党は相当の数を出し得ます。但しこれは戦線協定等が要るでしょうけれども、そうすると既成政党に対して五分五分には戦えなくても七分三分には戦えるだろうと思うのです。数が少いというのは小選挙区に縛られて居るからで、これが大選挙区になれば既成政党に相当の喰込みが出来るだろうと思うのです。

向坂 そういうことに就ては発案者はどういう風に考えて居るですか。

御手洗 非常に歓迎して居ると思うのです。既成政党の地盤を崩潰させる手段としてはこれが一番手取早いと思うのです。

向坂 この次は無産政党というわけですか。

御手洗 そういうことまでは一々聴いて歩けませんから。

石浜 それよりも既成政党の地盤を崩すということが目的でしょう。

御手洗 無産党も殖えるでしょうが、純日本主義的の者も沢山出て来るだろう。それを大いに助長しようということを希望もし企てゝも居るぢやないですか。

大森 だから、そういう場合無産党に対する圧迫、今度なんかでもあるぢやないかと思うですけれども、軍民離間ということを相当広義に解釈して、演説に中止その他を食わせるとかいう程度の選挙干渉はやるだろうという気が僕等にはします。

石浜 この間の市会議員の選挙で大分無産党の選挙違反があるが、あれはどういう性質の違反なのか。選挙干渉とか軍民離間とかいう理由から来

た違反だろうと思うが、そうでなくて買収とか何とかいう悪質の違反もあつたのか、そういうことを少しも聞いて居りませんか。

大森 一寸も聞いてない。三木君聞いて居るか。

三木 いや聞いてないネ。

向坂 悪質になり得ない所もあるのだ。

大森 昨日の夕刊に出て居つたが、軍民離間はあの位に広義に解釈して、ピシ／＼やられると吾々は言論が唯一の物であるから相当悪いと思う。そういう程度の選挙干渉をやるし、今後大選挙区になり右翼イデオロギーが有力に出て来るとでもなれば猛烈にやるのではないか。

横田 無産党の進出に対して既成政党を潰す意味に於いて好意を示しても、軍民離間の問題になると同じだネ。

大森 或る程度は好意を示すかも知れないと思うのです。敵本主義のようなネ。

丸山 それは今度だけだろうと思います。

横田 要するに、無産党が無視し得る勢力である間
はね。

御手洗 無視し得ると思う間は多少するね。

大森 数の上から言つて百にでも近くなれば大慌て
に慌てるですよ。

石浜 甘く見て詰り利用だネ。

大森 御手洗さん、一体軍部はどうしようというの
ですか。(大笑)

日本ファシズムの特質

記者 次に日本のファシズムの特殊性というよう
ものを中心にしてお話を願いたいと思います。

三木 例えば僕等が今迄普通言つて来た伊太利や
独逸の場合は、下からのファシズムなんですけ
れども、日本の場合は特に官僚軍部というよう
な一つの既成勢力が中心になつた上からのファ

シズムだという点にあるということを言つて居
るのです。けれどもこれも厳密の意味で日本の
特殊性という風には考えられない。寧ろ日本の
ようなものは他にも沢山あるので、ファシズム
の型を三つか四つに分ければ、その一つに日本
のが該当して居るということになるのぢやない
ですか。其他には民衆が政治的訓練がないとか、
そういう事から起つて来る。小さなものは沢山
ありますけれども……。

記者 そうすると日本のはどの型に属するのです
か。

大森 消極的な規定をすれば、伊太利だの独逸のよ
うな下からのファッショでないという所が根本
ではないでしょうか。僕等は伊太利、独逸型の
あゝいうファシズムは日本には少くとも当面成
立するという風には考えていません。だから先
程の御手洗さんのお話に続ければ、軍部の中に

そういう少壮分子の下からのファシズムの考えがあるとしてそういうものが伸びて行くという風には僕等は観測していません。五・一五事件後そういうものが表面上、下火になって来ましたが、必然性を有つて居るのぢやないかと考えて居るのです。

記者 必然性はあるでしょうが、発生の事情に就て何か異つた所があるのぢやないですか。

大森 それはさつき丸山さんの言われたように、日本の場合には旧勢力の復活、封建的勢力の復活というような事が強く現れて居るのぢやないですか。

記者 戦争の危機というものがファシズムを推進する主要なモーメントを成して居るのぢやないですか。

大森 そういう事は日本ばかりでなく、世界各国で、

ファッショの少くとも切つ掛の大きなものとしては、やはり恐慌以後の戦争の危機というものが働いて居るのぢやないでしょうか。ファッショというものは一般にこれは僕の理論になるのですけれども、ミリタリズムというものを何処でも有つて居ると思つて居るのです。だから、そういう一面から考えられるように、日本の戦争の危機が濃くなつて来れば、上からのファッショが拍車を掛けられるということはあるでしょう。

記者 ファシズムというのは一体どの点に於いて歓迎すべからざるもの、排撃しなければならぬものでしょうか、その点を話して戴きたいのですけれども……。

大森 君等（記者）はどう考えますか、どういう点が一番厭なんですか——尤もファッショかも知れぬが……。（笑声）

ファッショをどう見る

大森 簡単で且つ根本的な僕の理由は資本主義の延長だからです。その点飽までファッショに反対です。色々細かい理由を挙げればまだあるですが、それが一番根本的な又一番大きな理由です。

御手洗 成程ネ。一体日本に純粹な形でファシズムというものが發展し得ると思いますか。

大森 思いません。

御手洗 私もそんなことはありません。

大森 特別に何か測り得ざる形勢が出て来れば起るかも知れませんが、今の俣で行くものと仮定すれば起り得ないと考えて居ります。

丸山 この俣なんでしょう。個性とかいうものが発達しないで現状の俣で、仮に一方に急激な都市なら都市に無産党のようなものが非常に進出して、それで田舎の方の農村あたりには個性が発

達しない大衆がある場合には非常に反動になりはしませんか。

大森 だからそういう一般的な普通の意味の反動政治ということでは言えると思うのです。今純粹という風に言いましたのは、例えば伊太利とか独逸を取つてもいいのですが、そういう形態の上から内容の上からも内容の上からも非常に明白なファシズム政治が日本に当面行われるという可能性を僕等は見ないという意味です。

三木 独裁政治のことですか。

大森 いや、ファシズムだ。

三木 ファシズムだと言つても政治形態としてはどういうものですか、詰り議会というものを否定した独裁政治のことですか。

大森 ブルジョア独裁政治だ。

御手洗 それは起り得ませんナ。その一番その危険のあると見られる軍部自身がそういうことを

考えても居ないでしょう。それから又そういう
ことになり得る力を持たんですよ。

丸山 軍部は軍事費を捻出しさえすればいゝのぢや
ないですか。

御手洗 簡単に片付けれてしまったネ。(笑声)

記者 有難う御座いました。

(四月七日於紅葉館)

底本：『文芸春秋』1937.5

読書と教養のために

萩原朔太郎 1886～1942、群馬県出身、慶應義塾大

学予科中退、作家・詩人

阿部知二

中島健蔵

三木 清

戸坂 潤

記者 この頃ブック・レビューが非常に盛んになっ

て来ているようですが、現代の学生及び一般知識人はどんな書物を読んでいるか、またどんな書物が読まれるべきかと云うようなことから、広く今日の日本人が歴史的に負わされている教養の欠陥はどのようなものか、その対策はどうしたらいいかということまで、お手許に渡して

ある大体のプログラムに従ってお話し下さった結構です。

読書の問合せ

中島 近頃どういう訳か、非常に多いんですね、青

年に何を読ますべきかという問合せが。

萩原 僕の所にも沢山来るが、返事に困るんですよ。

女学校や中学校からだから、返事に教育に関するものでなければ向かないし、そういう時は答えられないんです。皆さんどうしますか。

中島 初めは真面目に考えて出したんですよ。濫読になつても構わないから本を読んだらいいということを言つたんですが、段々聞いてみると何を読んだらいいかということを知りたいために聞くんぢやないですよ。自分で探すのが面倒臭いとか、図書館の購入の本を拵えるとか、そうなれば話は別だから返事しなくなつたんです。

戸坂 本が読書力に較べて多過ぎるということから

来ているんじゃないか。

萩原 選択に困るからね。それは一寸分るな。

戸坂 兎に角読まなければならぬと思う本が沢山あるでしょう。そのうち何を一番初めに読んだら経済的であるか。努力から言っても、金から言っても——。そういうのが原因の一つじゃないんですか。それは我々が都会に居るから感じないですよ。店頭へ行けば直ぐ現物を見られるんですよ。併し地方にいますと、広告か何かで知る以外に見られないんです。そうすると誂らせるのは一つの冒険ですね。それで何かブック・レビューでも見て、是なら好きそうかどうかで注文するんじゃないですか。

中島 そういう時の参考のために方々へ意思を徴するんですかね。

戸坂 雑誌などでも、そういうものを提供すれば

ヴァリュウが出るでしょう。

中島 これは最近の現象でしょうね。

戸坂 私の個人的関係かも知れないが、最近目立つて来ましたね。

中島 ここに居る人でも多少年齢の差があるわけだが、(阿部氏に)君などは何を讀んだい、若い時に。
阿部 その当時一番人氣のあつたようなものを讀んでるな。僕等の時代は人道主義だったから、人道主義文學を讀んだね。青年というのはそんなものだろうと思うんだ。譬えば四十位のゼネレーションの人はこういう傾向があるとか、三十位の人はこういう傾向があるとかいうことは、そういう青年期の読書から来ていると思うんだ。青年というものは或る程度自主的に振ぶが、同時にその当時を一番風靡しているものに最初の洗礼を受けると思うんだ。今図書選択の帰趨に迷っているということは出版が多いとい

うことも勿論あるけれど、黙っていてもこいつについてくるというような——一つの主流的な思潮傾向がないということからもきているのだろう。

戸坂 標準の流れがない。

萩原 自分一個の好みはかなり支配すると思うけれども、現在そういう流れはまるでないんですね。

戸坂 僕等の学生の頃は、ひとの読んでいるものは俺も読んでやろうという傾向があつて、皆が同じものを読むんですね。

萩原 聞く所は女学校とか、中学校という所ですよ。

戸坂 図書館の關係でしょうね。本の購買の便宜ぢやないんですか。

阿部 その後は返事をしないが、高等学校教授の名前で来ていたけれども、どうかと思うね。

中島 大体そういうことを質問するということが意

味がないし、見識のないことだと思うんだ。

萩原 見識がないね。一つのはっきりした目的を出して来るならいいが、単に漠然と中学生女学生はどういう本を読むべきかということを出されても困る。

(三木氏出席)

濫読はいけな

阿部 要するに青年だったら、自生的に自分の気持からの好みでも読むだろうけれど、今はそういうものが混乱しているから何を読んだらいいか見当がつかないということがあるだろう。

中島 僕は初めは濫読したんだよ。そのうちに自分の好みが出て、広告を見てもカンで、是は読むと面白そうだということが直ぐ分ったんだがね。

阿部 それはそういうものだよ。例えば河合栄治郎編の「学生と教養」というものを見ても、あの

中に書いているような人は自分で何か途を見つ
けるだけの力があるんだ。

中島 戸坂さんが読書人の仲間入りをした頃に、周
囲が本を読まないということを感じたことはあ
りませんか。

戸坂 いや、負けずに読んでやろうというのでいら
いらしたことすらあるんですがね。僕等の頃は
一般に読んだように思うんです。兎に角高等学
校というものは何か自分が偉くなったような気
がして、何でも彼でも読むという風習があつて、
相当出鱈目に色々な新しいものや、偉そうなも
のを自分の力を構わずに読んだね。

三木 濫読時代を経ない読書人というものがあるか
ねえ。

萩原 ちつとも差支えない。どんなものでも摂るべ
きものは摂っており、駄作の悪いものは摂って
いないんだから、濫読してそのために毒される

ということはないんですよ。人間がしっかりし
ていれば――。

戸坂 永久の濫読の必要があるんじゃないかね。

三木 僅かしか読まないから害毒があるので沢山読
めば害毒などないね。

萩原 濫読していれば間違いのない批判力も出来て
来るが、始めて唯物史観などを読むと、馬鹿の
一つ覚えになつてしまうんだから。

戸坂 濫読というのは精読に対するもんだが、精読
というものが又非常に滑稽な観念で、一つの本
を何遍も読むなんて、そんないい本はそう沢山
ありませんよ。大体たかをくゝつて読めるよう
になることが必要だと思うんですが、それには
濫読をすれば眼が肥えますからね。

三木 この頃の青年が何を読むべきかを訊くのは濫
読を避けるためだろうが、それは功利主義から
出ているので、成るべく時間をかけないでやろ

うという非常にいけない傾向だと思うんだ。そのうえ自主的にやつて行こうという気が全然ないんだな。

中島 扱ふ能力は我々の時代だつて果してあつたかどうかは分らないと思うんです。読んでいる中に出て来ると思うんですね。

阿部 学生の経済状態もありやあしないかね。

中島 そりや滑稽な話だがね、新宿や神田の夜店へ行けば相当の価値のあるものが二十銭、三十銭で転がつているんだから、夜店だけ歩いても相当の読書人になれると思うんですよ。

戸坂 あすこで本を探せばいいが、ああいう所の本はすたれた本だという感じで買わないんだろうね。

本を読まない大人？

萩原 僕等の頃は、自分で真に読みたいものばかり

読んだが、今の若い人は、早く世に出よう／＼というんで、何でも先ツ走りして、ペダンチック【pedantic 学識をひけらかすさま・衡学的】な意識で以て本を読んでいるんですよ。何か新知識を誇ろうとか、物知りになろうとか、物知りぶろうとかいう功利観念が先に立っている。

戸坂 それも徹底して来れば、相当えらくなるけれども、徹底していないと思うんですね。

阿部 本を読んで、ここにこういうことが書いてあるが是はこうだという批判力が動かないで、あゝ、この著書ならあすこでやられていたから大したものぢやないだろうという批判力しかない場合がある。

萩原 又は誰が一番流行作家になつてるとか、そういう詰らぬことばかり考えている。

中島 そういうのが全部だとすれば絶望するほかはないですね。

阿部 悪いことから言えばだね。三木さんも学生には同情しちやいけないという論だったから。

萩原 本荘【本荘可宗】という人がいるでしょう。今日「いのち」の座談会があつて、青年を糞味噌にやつつけましたね。青年に同情しちやいかんつて。

戸坂 青年に離反されているから。

三木 青年だけをやつつけることはいけないと思うんだ。青年をこういうようにしたのを見なければいけないわけだ。併しそのために青年を弁護するのもいけないと思うんだ。

中島 併し實際のことを言うと、もつと年上の一般社会人が本を読まない方が問題だね。

三木 学校を出てから本を読まないというのは大問題だね。

中島 同じ時代に学校を出た会社員とか、そういう社会人の所へ行くと本の無いのに気がつく。大

抵の家へ行くと本箱は一つで、それも二、三段の小さな木箱に雑多な訳の分らない本があるという現状を見ると、これは青年読書論ぢやなく一般読書論の方が先だと思うね。

戸坂 そうなると学校教育の問題ですね。学校で読書というものを教わらないでノートで教育するということが……。

三木 出る頃には勉強するのが大抵嫌にさせられてしまう。本当の興味を無くして。

阿部 本を読むということを功利的（——いい意味の功利的）に考えない所もあるんだろ。本を読んだら、会社員でも官吏でも軍人でも偉くなるのかいうようなことを——。活動の役者でも本を読んだ役者の方がいい役者になつていてでしょう。

戸坂 顔つきだけでも違うね。

阿部 そういうことが得だということを知っていない

いんでしょう。勿論それだけぢあこまるが、それだけから読んでいいでしょう。

中島 読書の楽しみを教わらないんだな。

戸坂 役に立つということを教わっていないし、読書を最も楽にやる遣り方、そんなものも教わっていない。

萩原 それは僕等の時代だって、そんなものは教わらない。学校で公認以外のものを禁じたから、こっそり内緒で読むのが面白くて、禁断の本ばかり読んだのが、却って為になつてゐる位なのだ。

戸坂 高等学校に行けば大学の入学試験があるし、大学に行けば就職の問題があつて、それをはねのけてやろうという文化的反抗心が非常に乏しいんだろうと思ふんです。

三木 学校を出た連中が本を読むようにならなければ文化は進歩しないね。本が売れないということ

とも、生活力のあるようになった人間が本を買うようにならなければ駄目なんだからね。

戸坂 大体今の偉くなつた政治家は本を読まないんですが、全然無智かというと一種の教養はもつてゐるんです。日本的の——ね。所が今の出版物というものは、そんなことに関係のないものが大部分でしょう。

三木 併し今の政治家でも偉い奴は読んでゐるね。

阿部 久板氏の「北東の風」の武藤山治でも、本をよく読んでいたのだそうだね。一般には西洋的な功利主義を知らないんだね。日本のそういう連中は。

戸坂 今出る本を読まないんです。そういうことが大人の世界の風習になつてゐるでしょう。

記者 一本喜徳郎¹はデューマを愛読してゐるそうです

1 1867～1944 内務官僚・法学者、天皇機関説論者、文相・内相・枢密院議長

ね。

中島 上原元帥¹はモーパッサンをよく読んでいてうっかりフランス文学の話をする、ひどい目に遭うという話を聞いた。

阿部 何処の社会でも頭角を出しているのは本を読んでいるんだ。

戸坂 西園寺²さんもそうだし……。

中島 この間或る機会につくぐ感じたことだが、四十代から上の立派な社会人の中に、今出ている本は読んでもよく分らないという人があるんだから、是は両方共反省すべきだと思うね。両方の歩み寄りが必要だと思うんだ。

日本人はよく読む方？

1 上原勇作、1856～1933、フランス留学、軍人、陸軍大臣、参謀総長
2 西園寺公望 1849～1940、フランス留学、公家、政治家、首相。

戸坂 西洋流の筋を辿った物の言い方というものが頭に入っていない。パアツと見て、常識がならんでおればわかったと思うけれども、少しでも引かなかった所があればもう分らない。読書というものは非常に無抵抗に読めるものと、こう仮定しているんじゃないですか。

戸坂 常識を反覆して呉れるものに過ぎないというんじゃないんですか。少しでも自分の常識を訂正しなければならんということになると、うるさくなり、分らないということになる。

中島 そうなると青年が本を読まない以上に絶望的になりますね。

阿部 広い意味の読書力は日本人も多い。講談社の雑誌から言えば実に本を読む国民だと思うんだ。やはり何かを読む国民だよ。

戸坂 他に享楽施設が発達してないし、又安く買えるからでしょうね。

阿部 それはそうだけれども、免に角本を読む国民だよ。

戸坂 娯楽の意味で相当買っているね。

三木 日本人は知的好奇心はある方だろうね。

阿部 支那あたりへ旅行して、汽車に乗り船に乗つても、支那人は何も読んでいないが、日本人はキング、日の出、講談倶楽部、富士、オール読物、サンデイ毎日、週刊朝日、この中の一つを持っていない奴はないといつていい。

戸坂 どういう理由で読むんだろうかね。

阿部 時間潰しに活字を見るといふこともあるんだろうが……

三木 物を考えることが嫌いなんだ。

阿部 船に乗つても、西洋人は娯楽室でメモか日記を書いたりタイプライターを打っているが、日本人は本を読み、支那人は悠々雲を眺めている。
三木 確かにそうだろう。現代日本文化の善い所も

悪い所も現している。

阿部 日本人は一体にクリエイティブな所がないといふことになるのかしら……。

戸坂 それは大体思想的に低いから、断片的な物をどん／＼読むことは出来ても、これを一つ読んで、それから是を読もうという遣り方がおつ、うで……。

記者 論理の追究力と云うようなものが稀薄な為でしようか。

戸坂 興味のもち方にしても、一つの興味をもつ、すれば、それから派生して他の興味が湧いて来るものだが、それを辿つて読んで行くといふ読み方をやらない。

三木 それには矢張り日本人の特殊性といふか、物を持続的にやれない所があるんだね。それで自然新聞雑誌以外の物は余り読まないといふことになる。

戸坂 不純な興味からあつて、これをやれば社交上いいとか、これだけは心得ておかなければならんとか、そんな気持が相当ある。

阿部 読書論の前の問題だけでも、いつか郊外を旅行して乗合自動車に一時間位揺られている間に中学生か専門学校でも余りよくない位の学生が三人いたが、話していることは映画から音楽の話に移り、どの飛行機が一時間にどの位飛ぶかということから、夏になればお巡りさんは夏服をどうするとか、又は化学の話、地理の話、芝居の話と実に一時間位の間に転々と移つて、エンサイクロペディアみたようなもんなんだ。(笑声)それを聴いていてトタンに僕の反省癖から、是は俺みたいなものだと思つたが、そういう知識は一般に發達しているでしょう。そういうものは本当のインテリジェンスでないことは明かだが、そういうものゝために本当のものを得る

暇がないというか、そういうもので麻痺していると思うんだ。昔のダヴィンチや、ニュートンは偉かつただろうが、そういうことを何もかも知つていやアしないと思うんだ。それは教育論にもなると思うが。

戸坂 雑誌がそういう要求に答えているんでしょうね。単行本は何だが、雑誌は読んでいるだろうから。

三木 雑誌だつてなか／＼読んでいないんじゃないかな。雑誌でも読めば偉くなっているんだが。

戸坂 聯関のないものをならべられて、頭から尻まで読めと言つたら辛いだろうね。

ヒューマニズムと読書

中島 普通に本を読むと言われているものは学生です。是も読む者と読まない者であるが、そのほかに大体本を読む人といえはどういう人たち

でしょう。

戸坂 サラリーマンの一部。

萩原 それにも二通りの種類があると思うんですよ。一つは色々な新しいことを知って最新の知識を銜うというのと、もう一つは、僕の親類にも軍人だの、会社員がいるが、皆講談社のキングとか講談倶楽部とか、あればかり読んでいます。そしてその知識を銜う方はセルパンみたような雑誌を読むし、この二通りがあると思うんですよ。

戸坂 大体ニュースを非常に喜んで読みますね。功利的な人間だと、そういうものを知って置かないと引け目を感じるとか、困るとかいうことから読むだろう。

記者 中島さんの教えている学生はどうですか。

中島 僕は帝大の仏文科ですが、今の学生の読書の顕著な傾向として想像されることは、非常に読

書の範囲が局限されていて、その局限された中で丁寧に読もうという傾向が出ていますね。それが僕たちの頃は一応大掴みに無暗に読んで、その中からこれは俺の歯に合いそうだということを特に読んだけれども、今は何か掴むというその掴み方が……。

戸坂 教えられた掴み方だ。

三木 それは今のアカデミズムがそうだ。大学でも若い助手とか、助教授連中になると非常に小さい専門をやっているんだ。大きな周囲はやらないうし、又やれば思想問題などにぶつかるから、ひとのやらないようなことをやって行く。それを今の学生が受け継いでいるんだ。

中島 それがいかなと思うんですよ。大体自分一人の興味本位というか、ジードでも何でも相当の専門家がいて一寸我々も適わぬ位の人もいるが、全体筋を通して知っているかという一寸又絶

望する。

阿部 それはアカデミズムのこの間までの傾向だよ。

中島 それを一応打破しなければ……。

戸坂 アカデミズムというのは思想が貧弱で、或る意味から言えば単に技術的になつていているから、文学者になつたり思想家になつたりすることは宿命的にダメなタイプで……。

中島 そういわれても仕方がない。

戸坂 大学のプロフェサーになるにはそれでいいけれども。

中島 もつと広く濫読して居れば、そういう間違いは起らないんだろがね。

戸坂 濫読などということも教養に関係しているんですよ。

中島 濫読出来るということは教養があるからでもあるんですね。

戸坂 本当の濫読なら疲労してうが、濫読と世間が言うやつは当人には筋があつて、それが教養になるんです。常識が発達して来るとか、眼が肥えて来るとか——。

中島 高等学校、中学校で余程出鱈目な教育をされていることは明かだね。

三木 読書は高等学校時代が決定的で、高等学校時代に読書の習慣を作らなかつたら一生駄目だね。

夜店の本

三木 我々の青年時代は哲学時代だったかも知らないけれど、一度は誰でも人生の煩悶というやつがあつた。

中島 近頃の学生の一部にある顕著な合言葉は、考へても仕樣がないぢやないかということだね。

戸坂 考へる能力が無くなつているからそう言うんで、仕樣がない、仕樣がある、ということに関

係なしに、考え始めると止らないと思うけれどねえ。

中島 一寸困るんですよ。そんなバカなことはないと言うんだけれど……。

萩原 さつきも「い、の、ち」の座談会で、若い人が逆も反駁したんですよ。我々でもそういうものをもっているかと青年は言うんです。けれども指導法が悪く、先生が悪いから……。

戸坂 先生も確かに悪い。

萩原 先生が信念をもつておれば兎に角、先生自身がうつちやらかしてどうにもならんと言うから、生徒がそうなると言うんですよ。

中島 学生も教師の利用法を知らなさすぎるんじゃないかね。

阿部 先生がヒューマニティの観念の上に立つた教え方をしていないんだろう。

三木 教育に信念がない。その点で日本人はマテリ

アリストだと思うんだ。ただ生きさえすればいいというのは生きるということについては非常に強いかも知れないが、それ以上のものに身を捧げるというような意思是日本人には案外弱いんじゃないかね。

萩原 国家非常の時には身を挺して国難に当るんじゃないか。

戸坂 それはモツと簡単なことですよ。

三木 ただ死ぬるということは簡単だが、思想の為に死ぬるということは難しいんだよ。その観念がないから、常識的になり、功利主義になつてうんですよ。

戸坂 それから本の選択でも物のよし悪しが分らないで、優れた本が自分では発見出来ないんです。唯ひとつがいいと言えばそれを読むだけで――。

三木 そこでブック・レビューが重要になつて来るんですね。

三木 それが必要だと思うな。それには優れた人が兎に角自分で読んでいい本というのをブック・レビューにしなければいけないと思うんだ。与えられた本について書かされるというのは困るよ。

戸坂 自分が読んで発見しなければ興味もないからね。モンテスキューの「ペルシャ人の手紙」などが夜店で三、四十銭で売っていても誰も買わないんですからね。

中島 僕は五十銭で買ってみた。

戸坂 それは訳の如何に拘らず、非常に簡単に読めるんですから、買いたくなくものが当り前だと思うけれども、それが転がっている。

三木 というのはいい本が売れないということだね。だからいい本を出している出版屋は経済的に行詰り、夜店に出るんです。本屋の店頭に積んでるのは寧ろ下らない本が多い。

戸坂 二ヶ月も経てば誰も読まないような……。何しろ廉いんだから、本を読むのは一向経済的に苦痛ぢやないんです。

いかに読むべきか

記者 今の学生の読書について何か顕著な傾向というものはありませんか。

戸坂 今、社会科学の連中はドイツ語とか、ロシア語——ロシア語は少いけれども、ドイツ語の本は買われているんですよ。

中島 文学の方でも左翼的な理論の本が買われているんじゃないですか。一種の安心だね。譬えば蔵原氏の「芸術論」はかなり前に出たものだが、売れるというので絶えず本屋に積んであるけれど、併し蔵原氏の「芸術論」を読んで皆がすぐ

1 蔵原 惟人(1902～1991)の「芸術論」(1932昭和7年中央公論)のいとか

にどうこういうようなことは今の実情に照して考え得ないが、何かあゝいうものを持つていれば安心だという心理があるんじゃないですかね。

三木 本を買うというのは信頼だよ。我々だつて同じじゃないかね。持つていれば安心だというのは。

戸坂 そうして本は読むばかりではなくて、有つことが又大きな要素だと思う。

中島 三木さんは最近買いますか。

三木 買って借金ばかりだね。

中島 萩原さんは買いますか。

萩原 買わないんですよ。貰つた本を読むだけでも忙しいんです。

記者 萩原さんは郷里の方で六年間哲学の本ばかり読んで居られたそうですね。

萩原 そうです。蒲原有明²という詩人があるでしょ

2 1875～1952 本名隼雄、東京生まれ、詩人。

う。詩をやめて静岡に隠遁しているが、その蒲原さんが、昔はフランスの詩集や外国文学の新しいハイカラなものを読んだけれども、今日何の役にも立たないというんです。あんなものは青年時代のエキゾチックな興奮で、エーテルみたようなもので、後には何も残らない。たゞ若い時によんだ、思想的なものだけが、今でも糧になつてると言うんです。それで僕も感じたんですが、若い時にハイカラなダンディで、西洋の新しい走りものを読んでも、そんなものは日本の現実生活に根づかないから、後に趣味が變つて来ればちつとも頭に残つていない。たゞ若い時に読んだ哲学的なものや思想的のものは、永久に残つて矢張り身についていますね。だから僕はどんなものを読むべきかと言えば、思想的なものを読むことを勧めるな。

中島 戸坂さんは文学に就いて書かれるけれども、

そういう時にはどんなようなものを……。

戸坂 余り読まないでしょうね。有名な古典的なものは暇を見て読んでいますが、月々の小説などは余り読みませんね。気が向くと読むけれども、その月のものは義務的には読んでいないです。

中島 どうも僕などは非常に申し訳ない話だが、文学の本を読むばかりでは頼りなくって文学に関係があつて何か文学に大きな指導力を与えるとか、何か基準になるものを求めて、結局社会科学の本とか哲学の本に非常に興味をもつんだが、こういう傾向はいいか悪いか――。

阿部 それは作品というものは矢張り子供の時にお伽話を読むとか、文学青年が作品を読んでふら／＼するような気持がなければ読めるものぢやないよ。僕などはそういう気持があるんで小説を一番読むね。読むと全部忘れて了うが、その時は矢張り少年の時に色々小説を読んで主人公

に同情したりたまらなくいいなと思つたり、悲しいなと思つたりする非常に単純なものだよ。君の言い方をすればこれがいいか悪いか分らないけれども、そういうものだと思うな。創作とか詩などはそういう一片の情緒みたようなものだろうと思う。

戸坂 僕は本を読んで、それに何が書いてあるかを殆ど覚えていないね。非常に我俣で自分にサゼスチョンを与えて呉れる点だけを読んでいるわけですね。自分の空想力を刺戟して展望を利かして呉れるようなものを読むという、勝手な読み方だから。

萩原 それはあなたの言う通りで、覚えていても忘れることは有益ですね。……營養になるものだけ残つて、その他の事柄は忘れて了つた方がいいですよ。

戸坂 記憶力がないし、覚えようというのは他の点

にあるので、筋などは忘れて了う。

中島 やはり作品を読む時に批評をする気で読むというのは本当の読み方じゃないんだろうな。尤もそこまで引きずる力がなければ作品じゃないということも言えるけれど……。

戸坂 ブック・レビューなどは苦痛ですね。こつちの興味のないことを覚えていなければならなんだから。

萩原 芝居や劇などでもそうでしょう。それを批評してこの役者は巧いとか、拙いとか批評に行つて見たんでは芝居の味が分らないでしょうね。

中島 やはり文学で言えば傑作などというものは批評の対象になると同時に一応は批評を忘れさせて呉れなければ困るね。批評家が作品を読まないということが言われるけれども、実際は好きだし、読んで一緒に感動に浸ろうという気は無くならないんだが、書いたからさあ読めという

のは少し太いと思うね。

戸坂 僕は悪い小説を読むと非常に損をしたような気がするんですよ。ほかの纏った論文などだと、細かいものでもこういう間違いはしたくないものだとか、いろいろ考えさせられる。

阿部 科学者と文学者の差ですよ。涙腺がいつまで経っても分泌する奴は六十になっても七十になっても下らない小説に喜んでいるんだから。

クラシックの孤立

記者 萩原さん、先程思想的のものを読めと言われましたが、現代の青年にはどういう書物を勧めますか。

萩原 矢張りクラシックのものを読めばいいと思うね。今の若い人はクラシックなどは読まないで、誰が新しいとか、誰が尖端だということばかり考えていて、それを自慢しようとするが、その

前にプラトンあたりから一通り読んだらいいと思うな。

三木 併しクラシックを読まないということは日本にはアカデミズムの伝統がないからだ。

萩原 それはそうですね。

記者 ケーベルさんが学生の問いに答えているような意味で、学生の連中に是非読ませたいというもののは、三木さん、どうでしょう。

三木 そうなつて来ればクラシック以外にはないでしょう。プラトンならばプラトンというものは今でも面白いし、為になるから是非読んで貰いたいと思うけれども、読みませんよ。読まないというのは何と言つても本格的のアカデミズムが日本にないからだと思うんだ。アカデミズムがあるためには学問の伝統がなければならぬけれども、そういうものがないんだから。

萩原 ベルグソンでも何でもいいけれども、そうい

うものは読まないで、僕等の名前も知らないような、この頃の馳出しの哲学者なんかの名前ばかり持出して、ペダンチックの物識り顔ばかりしたがるのだから。若い人は。

記者 しかし、大学の講義はクラシックばかり読ませるんじゃないですか。

中島 クラシックも多いですね。

三木 クラシックが孤立しているんだ。伝統があるからクラシックに意味があるけれど、日本では伝統がないんだからクラシックはないんだ。新しいものと同じだ。デカルトだって、今流行っている何とか云う変な哲学者だって皆同格だ。というのは学問に伝統がないから。

戸坂 新しい哲学者の本は物を詳しく書いてあるから便利なんだ。

人間学的興味

戸坂 古典の理解の仕方が、古典から何を教えられ

るか、というための準備がない。

阿部 一般に人間学的興味が比較的薄いということ
が、文学でも哲学でも一番下の地盤みたような
ものが欠けていることで、そういう人間学的興
味というものが読書界にないというのが……。

三木 ヒューマニズムが無くなったことが読書とい
うものを偏頗にしているその理由だと思うね。

阿部 又旅行の話だが、或る支那へ行っている新聞
記者が書いているけれどもお祭りがあるという
んだ。支那の踊りとか山車みたようなものが出
ると西洋人の観客は鵜の目鷹の目でノートに写
したり、写真を撮ったりするが、日本人は何人
もいるけれども、ついぞそんなに目を光らせて
いる者はないというんだ。それで人間学的な興
味が無いということを書いていたが、それは根
本的にはクラシックに関係すると思うね。クラ

シックを新しい頭で読めばハッキリするんだし、
又そうでなければいけないんだけれども、今の
学校ぢや古いものを古い頭で読んでいるから、
学生にはハッキリしないんだよ。

三木 こういうことがあると思うんだ。クラシック
と言つても、国学でも漢文学でもそういうもの
は明治以後に於いては、クラシックになり得な
かったんだよ。聯絡されなかった。それがた
めにクラシックということの本当の意味が理解さ
れなかったということもあるんだ。

中島 どうすればいいか——。

阿部 古い物を現在の関心の上に立つて読めば、学
生だつて青年だつてハッキリする。心理的なト
ランスレーションをするのはアカデミックから
言えば間違いは多いだろうけれど……。

中島 君は（阿部氏に……）アカデミックに言つ
て間違いだろうとか、何とか言うけれど、三木

さんが言つた日本にアカデミズムがなかつたといふことが重要なんだ。それは江戸時代にはあゝいう官学はある、あるけれども明治以後のアカデミズムというものはアカデミズムぢやなくて、アカデミズムというのは……。

阿部 それは分つた。それが今の教育だがね。

中島 現在我々が考えなければならぬのは……。

阿部 君はそうぢやないよ。君みたような奴ばかりはいないんだよ。

七〇年の文化

中島 アカデミズムがないという現実に即して物を考えなければならぬんだ。まあ譬えばフランスの場合を考えれば、どう政治状態が變つてもアカデミーは或る基準を失わないんだ。詰りその時々支配階級の位置に上る奴が皆一つの基準として採らざるを得ないものがあるけれども、

そういうものが日本のアカデミーらしいものには全然ないんだ。そういう文化の状態だが、そういう時にそういう穴を埋めるものは何だというとな非常に困つて了う。アカデミーとか、大学の顛落とか言うのが初めから顛落するような大学などがあつたかどうか――。

阿部 君の言うような意味ぢやないけれども、現に沢山の青年を教育しているところがあるという事実を抹殺して、「大学がない」というような言い方をする、問題を妙に押しながしてしまふ。

戸坂 日本の大学はあゝいうものだよ。

萩原 政府が方針を間違えているから。

中島 それを今からどうするかという現実の問題だ。

戸坂 大学の、アカデミーの根本的欠陥は思想的に無能だということです。だからアカデミー主義でも非常に瑣末なものになり、滑稽なものになつ

ている。

中島 伝統主義はアカデミーにはつきものだけれども、それがないんですね。

戸坂 あるにはあるけれども、非常に短いケチなものです。それがいけない。

中島 明治以後ですか。

戸坂 そうです。

中島 伝統とか日本精神とかやかましく言うけれども、そういうものがないとは思わないんですよ。何かの形であるにはあるんですが、併しそれが途中で妙にぼつりと切れているという実情が……。

戸坂 支那にだってあるだろうし、いろ／＼ほかにもあるだろう。

阿部 しかしそこまで言えば日本を擁護するけれども、明治になって七十年位でそう西洋文化を取入れたってチャチなことは当り前だよ。普通な

ら三百年や五百年はかゝるよ。新しいものが融合するというのは――。

中島 七十年というところ／＼一世紀に近いよ。

戸坂 だから今頃こういう問題が起つて来ているんですね。是は日本文化が具体的になつて来たということだからいいと思うんですよ。

三木 そりやア二、三百年はかゝるね。

中島 今の実情ではそう考えるよりも仕様がいないね。

三木 しかし又今のような遣り方ぢや二百年でも出れないかも知れん。

外国に対する敵愾心

萩原 小泉八雲の文明批判は面白いですよ。知っているかも知れないが、日本が西洋文明を摂り入れたということは、昔日本が支那文明を摂り入れたのとは、非常に意味が違うと言っているん

です。支那文明を学んだのは、自発的に支那を崇拜して、支那文化を学んだのであるが、日本が西洋文明を学んだのは、大砲や軍艦に脅かされ、非常時の死活問題として己むを得ず自衛的に摂り入れたのであつて、つまり軍備を充実して、西洋と対抗する必要に迫られて、西洋文化を取り入れたのであるから、支那文化を摂入れたのとは態度が違ふので、もし将来軍備や産業が興つて西洋と競争が出来るようになれば、直ちに西洋を蹴飛ばして了うと言ふんです。それは明治政府のやつて来た方針を見れば分る。日本の政治家や軍部の遣り方は、西洋の物質文明を摂入れて、軍備を拡張する為には、資本主義も摂り入れなければならないし、学校も起さなければならぬし、工業も起さなければならぬので、そういうものには熱心に政府は奨励するけれども、文学、美術等の文化方面に対しては出

来るだけ摂り入れないようにして反対しているんだ。過去の日本に、支那の唐宋文化を心から崇拜して文学芸術を熱心に摂り入れていたが、今の政府は自衛上利用しようということばかり考へている。だから文学者などのインテリが本當に西洋の文化を摂り入れようと思つても、そこに政治家との間に矛盾したギャップがあるわけですね。

三木 それはありますよ。

萩原 だから小泉八雲の説によると日本の一般民衆や為政家やは、決して西洋に心服していない。実力さえ出来れば、すぐに国粹主義に還つて、西洋に挑戦しようとしているというんですね。

三木 それは仲々面白いですね。

萩原 確かに国粹主義も興つてゐるし、今になつて考へてみると、小泉八雲の批判は本當ぢやないかという気がするね。

中島 それは今の国粹主義とか、日本主義とか言っている連中が一番西洋を怖れているんですよ。

萩原 怖れるというよりも敵愾心でしょう。

中島 譬えばこういうことがあるんですよ。神風が成功したでしょう。すると日本人でも出来るぞッという気になる。こんな愚劣な考えはないんで、若しも対等なものだったら当り前で、俺達のレコードの方がいい位で十分に喜べる。僕が考えるのに国粹的の傾向とか、日本主義的の傾向は、恐らく外国思想にかぶれていると言われている人間よりも外国を高く見過ぎているんじゃないかと思うんだ。

戸坂 メーソン¹が来て神道を賞めると、それに乗ってうう、そういう調子なんだ。

中島 浮世絵だって僕等は芸術的にそれ程高いもの

だとは思わないけれども、ゴンクール²などが大変なものだと言えば慌て、浮世絵の価値を認めるとか、そういう愚劣な風習がある。文化を平均してみれば敵わないことは確かだ。向うを標準にすれば夏など毛脛を出して平気にいる奴がいるし、西洋を中心にして考えれば追いつかない所があるが、兎に角我々は一番外国のことを知っていますよ。けれどもそういう場合に外国を怖れちゃあいない。だから今から国粹と言うのはおかしいということになる。何もそう外国々々と怖がらないでも日本がどうなるものでもないし、もつとどん／＼入れたらいいぢやないか。そういうことはどうですかね。——外国崇拜者とか、自由主義的傾向とか言われている奴が一番日本的かも知れませんよ。

1 アメリカ新聞人の Joseph Warren Teets Mason(1879～1941)か

2 Edmond Huot de Goncourt (1822～1896) フランスの小説家

三木 少くとも外国を崇拜しちやあいまいだろう

ね。

萩原 我々インテリゲンチヤは崇拜しちやあいませ
んね。

戸坂 日本のなものとか、国民的なもの、民族的な
ものというのはスケールが小さいということは
自覚しているんですよ。だから何も鯢鯨張るこ
とはあるまいと思う。

中島 外国にもいいものも悪いものもあるというこ
とは百も承知だからね。

戸坂 フランス的とか、イギリス的とか言わないで
唯外国的と言うんですからね。

虎は死して皮を残す

三木 卑近な言葉で言えば、日本人は非常に見栄坊
だと思う。読書でもそういう見栄坊の、読書が
随分あるんじゃないかね。

中島 もう少し――。

三木 譬えば支那に対する関係などを見てもイギリ
スなどは名を捨てゝ実を取っているが、日本は
やはり見栄坊で名前だけは取つても結局失敗し
ている。失敗しているけれども、失敗したとは
言わないんだね。

戸坂 あれは武士道から来るのさ。

中島 虎は死して皮を残すというようなことには一
番反対ですね。虎が人間に射たれてやつつけら
れる場合に天性もつていた皮が残るだけで……。

萩原 それは反対だね。それは名誉心ということで
すよ。人間の名誉心を否定したら、何も世の中
の進歩はない。

中島 否定しないが、そういうようなことがあるで
しょう。虎の場合は別だが……。

戸坂 人間の場合ですね。

中島 我々の理想から言えば名を残すということ

は二の次で名が残るような仕事がしたいのだが、それが下手をまごつくと実質はどうでも名を残したい。どんな悪いことをやつても自分の名が出ればいいというような節があるんじゃないですか。

三木 そりゃいけないが、しかし僕は名を残すというのはいいと思うね。

戸坂 名前ということに付ての認識が不足だと思うね。作家が名前を売るというのは非常に卑しいと考えられているが、そういう名声の社会的意義・役割の認識が不足なのかも知れない。

阿部 見栄坊というのは何処にもあることで、日本人だけじゃないね。

三木 本当の名誉心と見栄坊と区別出来ない所がないんだ。

阿部 日本というより東洋と言つて欲しい。英語の honour を名誉と訳するけれども、honourable man

と言つたら、誠実高潔な人でしょう。名誉と、名誉の実質の両方を得たものを honour は含んでいるけれども、日本ぢや名誉というのは得た名前だけですな。言葉でもそういうことがあるんですな。

戸坂 名前とか、名声とか、名誉、そういうものゝ認識が不足しているように思うな。

萩原 名を残すということは、正しいことをしたらば、後世に正しいことをしたということが残るということでしょう。

戸坂 日本人は正当な宣伝が下手でしょう。それも欠陥ですね。

三木 本当に名を残すということを考えて仕事をしていますかねえ。何れは家を建てゝ隠居でもしよう、そういう気持が学者でも芸術家でも大部分がそうぢやないですか。

戸坂 文化のために殉ずるとか、自由のために闘う

とか死ぬとかいうことは非常に少いですね。

萩原 昔の武士は武士道の本道を盡して死んで行く。楠正成でも、乃木大将でも――。

中島 その場合は基準がハッキリある。

戸坂 あり過ぎるんだ。

中島 現在名を残すというのは実質的に残しているんですかね。

三木 当然だね。それだけのことがなけりやあ。

戸坂 歴史家は案外親切だね。

三木 哲学者のスピノザだって、硝子磨きをしていてもちゃんと名前は残っているからね。

三木 名ということとは日本人の考えでは、高等官何等ということが名なんだ。

萩原 それは現世的のもの、死後にはすぐ滅びるが

……。まあ十年位のもんだろう。

三木 十年もたつない。死ぬトタンだ。(笑声)

萩原 現世に現すだけだね。

中島 名を現すということを考えなければ……。

三木 それが東洋の道徳だよ。身を立て名を現すという、大体そういう功利的な意味しかないんだよ。

萩原 李白や杜甫はそうじゃないな。

中島 もつと名前を大事にし、ハッキリしろということ――。

三木 そうだよ。だから僕は匿名評論などは書きたくないね。(笑声)

民間に移るアカデミー

中島 話は飛ぶがね、天長節に文化勲章が発表になるだろう。表彰される人は皆明治時代の人らしい。ところで将来勲章を貰う人は……。

三木 貰えないね。

戸坂 三木君は貰えないね。

三木 いや、思想家ばかりでないよ。

萩原 六十か、七十位になったら……………？

中島 三木さんや戸坂さんはアカデミーをぶうく言うけれど、本当は一番アカデミックだよ。だけれども……。

三木 僕などは本尊だと思っているんですよ。

中島 そういう所で考えなければならぬんだ。

戸坂 アカデミーを攻撃すれば……。

三木 アカデミーは攻撃しないんだ。アカデミーは擁護したいんだ。というのは日本にアカデミーがないからだ。だから今の歪な、末梢的になっているアカデミーを攻撃することに依って、もつと本当のアカデミズムを作らなければならないんだ。

萩原 それは百年位かゝるね。それでなければ出来ないう。無理にアカデミックなものを拵えるのは有害無益で、ない方がいい。

中島 実際上の世間の取扱いや何かから言つて、ア

カデミズムの一部は民間に移っているんじゃないんですか。自然科学などはそれから逃れていくらしいけれど、下手をやると民間に移るですね。

戸坂 自然科学のアカデミズムというものは非常に悪いですね。

中島 どういうことです。

戸坂 研究室中心主義で、専門家意識や超社会的氣持が強く一つの貴族層をなしているんですね。寧ろアカデミズムの欠陥の一番ハッキリ出ているのは自然科学関係だと思ふんですね。

三木 ほかの方面へ仲々出られないからね。

萩原 みんな学校の先生ばかりで、僕みたような平民がいたんぢやあ……。

中島 併し萩原さんだつて、萩原さんの言っていることの中にはいい意味でアカデミー臭いものがありますよ。

に言つて呉れないかな。

三木 アカデミズムが移つたとは言わないね。

阿部 中島君は言つたね。

中島 移つたとは云わないが、どこにでも一応は通用する基準というものが有り得るんだよ。無論形体を無視して単純に一貫したものがあるというのは間違いだが、兎に角そういう基準は成立ち得るんだよ。そういうものの検討の仕事がアカデミックになるわけだろう。

阿部 それなら殆ど真理というようなものぢやないか。外国ではアカデミーが真理になつてゐるのか、アカデミーが真理に及ぼしている所の……。

中島 真理といわれるものには二つの種類があると
思うんだ。しかし建前として……。

三木 こういうことがあると思う。アカデミズムが出来るためには、譬えば日本の大学に学派というものが出来なければ駄目だと思ふんだ。大学

が一つの学派を代表するというようなものにならなければならないんだ。それが今の日本の大学は学派ではなく学閥だ。外国の新しい本を紹介する、学問の世界におけるジャーナリズムだよ。

萩原 帝大もそうですか。

三木 帝大だつてその傾向がありますね。だからアカデミズムぢやないんですよ。

戸坂 アカデミーというものは文化技術に関係したもので、思想ならどんな素人でも野性的の人間でも皆もつてゐるけれども、技術的に展開する何かを与えるというものがアカデミーの本来の一番いいものだが、日本のアカデミーというのは思想的の低能でダメだ。従つて技術的にも限度があると思う。

三木 技術が養われるためには伝統がなければならぬ。伝統のきびしさというものがなければ技

術は養成されないんだ。所が日本の学問には伝統がないから、技術だつて教えられるんだよ。

阿部 そういうように言えば分るんです。外国にもアカデミズムがあるかどうか。

中島 あると思う。

三木 或る程度までであると思う。

阿部 今日ぢや大した程度ではないと思うね。

巻頭論文の筆者

中島 アルベール・テイボーデ¹というのは大学の教授で一つのメソッド *méthode* をもっているし、一つの学派を建て得る男なんだが、そういうものが不幸にして我々の方にはあまりいないといふんだ。俺もアカデミーにいるんだが、實際腹が立つけれど、ないと言われてばかりはおれな

いから何とかしたいというんだ。

三木 だから大学が大いにアカデミズム確立運動をやればいいと思うよ。アカデミズムを攻撃されてびく／＼しているような大学ぢや仕様がなかなかないか。

中島 していないさ。

三木 しているよ。ジャーナリズムの悪口も言うけれども、雑誌などに書きたい連中ばかりだからね。

中島 アカデミーから出た意見というものは広くは承認されないんだ。

戸坂 ジャーナリズムで。

中島 ジャーナリズムという言葉で代表してもいいんじゃないかね。

戸坂 結局なぜそうなるかというと、思想的に何等の信頼がないんだ。読者にも学生にも。

阿部 妙な現象がありますね。総合雑誌でも大学教

1 Albert Thibaudet, 1874～1936, フランスのエッセイスト、評論家。

授の論文を一番先に載つけて売り物にするというのは、これは面白からぬ現象であることは勿論だが。

三木 日本のインテリというのは学生だからなんだ。学生に人気があるということが総合雑誌の人氣になるからだよ。

戸坂 それでもプロフェッサーとしては氣の利いたプロフェッサーですよ。書けない連中も沢山あるんだから。

阿部 そうなればアカデミーも仲々やつているぢやないですか。

三木 アカデミーの人もジャーナリズムをやっているんだ。だが今日のアカデミズムそのままでは、今のジャーナリズムは書かしてくれないだろう……。

阿部 あれが今日のインテリゲンチヤを指導していただきますね。形だけは、そういうものもアカデミッ

クではないんですね。

三木 真のアカデミズムにまで至っていない。

戸坂 ジャーナリズムに活躍しているものはアカデミーにも業績はもっているけれど……。

阿部 だから、随分あるんじゃないですか。

戸坂 改造、中央公論の巻頭論文を書く人は非常に限られていますからね。

阿部 それ以外には人がいないということになるんですかね。

三木 いないということとは……。

戸坂 プロフェッサーは沢山いるが、実に物の役に立たないのが多いんだ。

阿部 それ以外にはいないんだろうかねえ。

肩書への信用

三木 外国では高等学校などに偉い先生がいるね。

日本だって昔は大谷澆石¹などは高等学校の先生だし、そういうのが沢山いたんだ。今ちや高等学校にはそれだけの人がいなくなつたね。大学にもいなくなつた。

阿部 民間にもいないんじゃないですか。

中島 民間にもいるけれども、日本という国は妙な国で、肩書がつかなければ人が信用しないんだ。そのくせ信用されるのは肩書だけで……。

阿部 そういうことを言うけれども、単に大学を攻撃するだけでなく、日本全体を……。

三木 勿論大学が悪くなるのは日本が悪くなつているためだから。

戸坂 それから民間にも学者はいるんだが、それは色々生活条件が悪いんですよ。外国の本でも自由には買えないんですからね。非常なハンデキャップを受けている。

1 四高教授で俳人の大谷澆石の誤記だろう

戸坂 例はおかしいけれども徳富蘇峯²だつてプロフェッサーにしても一流のプロフェッサーだよ。

三木 長谷川如是閑³だつて、あれ位の社会学者は日本には他にありやしないよ。

戸坂 いや、如是閑と大学の先生とを較べると、矢張り大学の先生が偉いと思つているかも知れないよ。

中島 明治の初年はそうだつたね。あの頃は偉い奴がアカデミーに入つた。政府の方針と容れない人でも、優秀なら入つたものだが……。

戸坂 大体欧州大戦後變つて來たね。思想的にはね出された負け目を感じる民間連中が……。

負け目を感じる民間

三木 と言つて、民間に偉い奴が出て來るかという疑問だぞ。今のようない時代ぢや。

中島 どうすればいい。

三木 どうすればいいかは、我々の任務だがね。

中島 だから、もう少し積極的に考えてもらいたい。

三木 簡単なことから言えば、民間の人間が学問が出来るようにしなければならんね。譬えば図書館でも大学以上の図書館が、外国では大学の外にあって誰でも行けるんだ。だからマルクスのような人間は追ッぽり出されても、図書館へ行つて勉強して世界的の学者になれたんだからね。それが日本ぢや出来ないだろう。第一に図書館を發達させなければダメだね。もう一つは民間の学者及び芸術家に自信がないんだ。官尊民卑とか悪口を言いながら、何となく負け目を感じている者が多いんだぞ。

阿部 それで先に僕がいったようなことになるんでしょうか。

三木 やはり負け目を感じているんだ。

中島 現在でもそうかね。

三木 そうだよ。

中島 アカデミーに籍を置いてみると、それに負け目を感じることもあるんじゃないか。

阿部 それは君の心境の問題だよ。

三木 もう少し民間の人間が自信をもたなければいかんね。

阿部 同時にアカデミーも自信をもたらないね。

三木 お互いにもつたら、いいんだよ。

戸坂 民間には実力はあるけれど、それに応じたゞけの自信はないからね。

三木 自信さえあれば、もつと民間の学問でも伸びると思うね。自分で自分を輕蔑しているために伸びないことが随分ある。

戸坂 その点でも思想に帰るね。思想に対する信頼がないから、閑暇がなくて本も読めないのに、学者の方は本を余計読んでいるとかいうことで恐れをなす。

三木 いや、民間の我々にだって閑暇はあるんだ

が、設備がないんだ。譬えば外国の新刊書をどん／＼読めるような設備が何処にでも出来れば、日本の学問は飛躍的に進歩すると思うな。

中島 文学からバカに離れて了ったが。

三木 同じだよ。

中島 文学ならもつとハッキリ分る。文学というのは一番生きているものを出す所だと思うが、アカデミーからは文学に対する指導的なものかどうか、少しでも本気で喰ってかゝられるだけのものが出ないということが注意すべきことだと思うんだ。

戸坂 文学がアカデミーと独立に育つて来たという強味だが、最近になって段々アカデミーに対して色目を使い始めたことは顕著だと思う。色々異論はあるかも知れないが、部分的な一例を挙げれば文化勲章に対しても、懇話会の問題でも、

皆そういう一面が必ずあると思う。詰り国家で

やることが矢張り最終的に作家を育てるものだというような気持ちになって行くんじゃないかね。

萩原 中島さんが論文に書いているように、日本では指導者が進んでいないからね。

中島 嘗てはね。

萩原 欧州大戦以前までは指導者が非常に進んでいた。それが大戦後デモクラシーが叫ばれ、政党が取つて変つたでしょう。それから後はろくなことはないよ。失敗だらけだね。

二代目三代目

三木 それは萩原さん、二代目の弱さですよ。官僚でも一代目は偉かったが、今の官僚はそれによりかかっているだけじゃないですか。

萩原 今の官僚というのは？

三木 今の局課長級。

萩原 政党以外にあるんですか。今は西園寺位ぢやないですか。官僚というのはどんなものでしょうね。

三木 役人です、政府の。

萩原 それは政党から来たものでしょう。明治精神を有っているような人は今の官僚の中にはないでしょう。

三木 明治の官僚は自分で作っただから、偉いけれども、今のは二代目、或は三代目かも知れないけれど……。

中島 第二世ということは非常に重要なことだね。第一世は読書でも指導者が不在から自分で読むより仕様がな。何を読めと言われてそうかと思わせられるような奴が前にいない。それが第二世になるといけないんだ。今の文化は明治以後の第二世だね。その切れ目は日露戦争以後ぢやないかな。

戸坂 文学でもそういうことが現れて来たな、第二世というのが。

萩原 將軍でも二代目は平凡、三代目になって偉い奴が出ないと滅びる。金持でもそうだが。

三木 今の青年はそこへ来ているんだ。

戸坂 この頃文学の社会性とか、思想性とかいうことが問題になって、文学と科学の方は今まですべて官僚の与えたものとして発達して来たが、最近になってアカデミーから追い出されてジャーナリストックに進出した者も多い。文学は在野的な勢力として伸びて来た。それが官僚に拾われ、社会的な尤らしきを与えられ、もつと大人の待遇を与えられるという現象に依つて、大体両者が平衡的になって来た。それで流通が始ったと思うんだ。

中島 結局第二世に望みをかけるより途がないかね。

戸坂 所が今のゼネレーションというのは第三世だよ。

中島 親爺が悪い所を切拓いて拵えたんだから、第二世は開けているからその途を辿るより仕様がないけれども、第三世は又そろ／＼クリエーティブになってやらなければならない。

戸坂 一つは思想が低下して来たということだね。

今だって色々批判されることだけれども、進歩的な連中は勉強もして居り、本も読んでいるが、そういう分子は確かにあるんですよ。そういう人間のもっている何等かの進歩的な思想を社会的に常識化してもう少し社会的なりアリティを与えることに依つて、もつと伸びると思うね。

三木 もつと卑近な対策から言えば、日本の教育制度の革新だな。

戸坂 卑近であつて、実に遠いんだ。今の教育制度の改革ほどむづかしいことはないと思うんだよ。

中島 或る思想が育つためには、戸坂さんあたりが攻撃しそうなことだが、センチメントの問題が重要だよ。日本の状態ではセンチメントからはいつてもつと先の方へ行き得る雰囲気にあると思うんだ。頭から行くんぢやなく、肉体から行く。

三木 それがヒューマニズムぢやないか。

戸坂 それが思想なんだ。

中島 そこらがおかしくなっているんぢやないか。

戸坂 それ以外に思想なんて……。

中島 考えられない。

戸坂 そうでないものを思想だと言つたら、言つた方がおかしいのであつて、教科書に書いてあることを憶えることは思想ぢやないんですよ。そういうものを感じ、そういうような生活感もち、そういうような意欲を実際に感ずるということが思想でしょう。

記者 一家族の二代三代と国民の世代とのアナロ

チーには随分無理がある。若いゼネレーションに責任を転嫁して、今の青年が悪いと言うだけでは……。

三木 我々に責任があることは非常にあるんだ。

戸坂 三代目説は不賛成だね。もつと根本的な問題で……。

三木 分り易く言うために、そう言っただがね。

萩原氏の芸術至上主義

萩原 僕はどうしても芸術至上主義にならざるを得ないんです。それは今の政府が益々………化し、一方に………事件や人権蹂躪事件が起つて来ているのは、今の世の中が西洋の資本主義を表面翻訳しているだけで、その中の精神は対建時代の古いものをもっているんですよ。それに対して幾ら制度や形式を変えても国民の情操を変えなければ何もならない。その情操を変える

ということが、文学の正しい役目ですよ。だから文学は何物にも支配されないでやって行くべきで、芸術至上主義こそ、今大いに叫ばれないといけないと思う。

戸坂 やはり教育制度などでも支配を……。

萩原 だからマルキストには反対だ。文学を政治の下に立たせるから。文学の方が上に立たなければいけない。

中島 情操を変えんということは重要ですね。

戸坂 それは一般の民衆は文学から養われているんぢやなく、普通教育で養われているんですよ。だから矢張り制度が問題になるんですよ。制度を文学がマスターして、文学の自由になるような、文学者の意見が実際の教育の形に反映するような……。

萩原 西洋の芸術至上主義も、キリスト教の圧迫に反抗して起ったヒューマニズムの叫びですから

ね。その本質的の争闘精神を、今になって無くしちゃ困る。

中島 その場合、我々が一番辛く思うのは、余り筋の通った反抗に適しない形の抵抗が多過ぎるばかりでね。理論でもなければ感情でもない、たゞのオミクジみたようなものが多いよ。現在一番欲しいのは萩原さんの言う西洋のキリスト教に当るものだ。

官僚イデオロギー

萩原 それが儒教だ。封建思想だ。それが丁度日本のキリスト教になるんですよ。

三木 そればかりでなしに、我々民間と言うけれどアカデミズムが確立していないために、民間だつてやれないんだよ。

中島 仏教はどうです。

萩原 仏教は大したことはない。

三木 儒教が官僚イデオロギーなんだ。

記者 学問的な権威としての儒教の実力の力というものがあるんですか。

萩原 役人が革新精神とか、国粹精神とか言っているのは、皆儒教精神ですよ。

三木 官吏になりたがるのは儒教から来ているね。

戸坂 儒教よりも明治維新以来の伝統じゃないんですかね。日本では政府が率先して民衆を率いて行かなければ発達しなかつたという条件がある。それから明治以来官僚主義が根を張ったわけで、徳川時代も官僚主義はあつたけれども、その場合の意味は少し違うだろうと思う。徳川時代は儒教のイデオロギーもあつたろうが……。

萩原 儒教のもっている物にもいい所はあるし、それで以て日本を指導して来たんだが、今は儒教精神の過剰に苦しんでいる時代で儒教精神と闘わなければならない時代だ。それには法律や制

度を幾ら変えたって駄目だね。

戸坂 儒教精神と言ったって、儒教精神の残存物なんだね。

三木 孔子の論語なんて仲々面白いね。

中島 今闘うとすれば相手は儒教ということは分るけれども、その儒教が、残存物の形でやつと息をしていて、それに代るものはまだ出来ずにいる。つまり何もない時代ということが言えるんじゃないか――。

三木 しかし儒教にだっていい所がある。

戸坂 闘争対象がないね。

中島 ないんだ。

三木 日本に学問が発達しないのはそれだよ。
中島 結局アカデミーを仮定するより仕様がないんだ。

戸坂 皆仮定されたものと闘いをやっているんだ。
中島 非常に無駄だね。

萩原 それぢや闘う必要はないでしょう。

三木 それに行くためには、前にセンチメントという話が出たけれども、我々に残っている宗教的センチメントとかその他のセンチメントをもつと清算する必要があるんだな。それが仲々僕は強いと思うんだ。譬えば流行唄などは頭では否定していても、聞けば悪くはないというような所があるんじゃないかな。

阿部 そりやそうだよ。

萩原 そんなことは構うことはないよ。たとえセンチメントでも観念的に悪いと思つたら闘うべきだと思ふな。この頃、何が一番不愉快かという人と人権蹂躪をしたり、……が圧政をしたりすることが一番不愉快だね。その根本は儒教的な封建精神から来ているんですよ。

戸坂 儒教でなくてもやっているんですよ。外国でも……などは。

自由への渴望

中島 兎に角自由だよ。自由というものをもう一遍言わなくちゃいけないんだ。自由主義は資本主義を生んだものだが、自由そのものは……。

三木 個人主義というものが足りなかったんだ。

中島 それが発達しなかったんだよ。結局是から条件づきでもいいから自由の保証だよ。今皆が言いたがつてゐることは全部それですよ。ところがどうして自由を妨圧するかということより言うてくれないんだ。明治時代に自由の有難さが身にしみ込んでゐるから……。

戸坂 所が身にしみ込んでいないんだ。自由に対するアスピレーション【aspiration 熱望・野望・向上心】みたようなものが民衆にないんだよ。

萩原 政府が上から考えた自由で、民衆が自生的に獲得したものぢやないんだから。

戸坂 だから日本の民衆も本当の民衆になっていない。

萩原 要するに民衆に自由觀念がない時代に、無理に上から自由觀念を与えたりして教えたりすると、却つて悪く無茶苦茶になる。之を悪用したのが明治自由民権党ですよ。あれは非常に反動的な思想ですね。

戸坂 そうでもないけれども、地につかなかつたら、もう一遍現在において地につけるようにすることが必要だが、現在の情勢では悉く反対の方向に向いてゐる。

中島 政治家というものが人間通でなさず器と思ふんだ。

三木 日本の政治家程サイコロジの分らないものはないね。外国の政治家はサイコロジを知つてゐるんですよ。

萩原 徳川時代の政治家は一番サイコロジがあつ

たでしょう。

中島 六十位までの人は自由民権時代に育って、自由というものを信じています。所がそれ以後の連中で、五十代になるともう駄目らしいね。それ以来は自由ということに付ての教育は行われていなかったと思つていいですね。そうすると僕は三十五だけでも。

三木 というのはマルクス主義の盛んな時代に養われた民衆運動の自由なんだよ。

戸坂 だから別なんだよ。その別な二つが手を取り合つてゐるわけですね。

国民文学と世界文学

記者 国民文学の要望というのは。

中島 それは作品がいいか、悪いかで決つてしまふんだよ。

戸坂 ということか能く分らないんですが。

記者 こゝで言つてゐるのは、詰り国民の誰でもが読むような、ヨーロッパのバイブルのようなものですね。

戸坂 それは世界文学ぢやないですか。今までの実例では。

記者 バイブルと云うと例は悪いが……。

戸坂 それはもつとほかから來てゐるんぢやないかな。

三木 併し譬えば万葉集というようなものは国民文学だよ。

萩原 万葉とか芭蕉とかは誰にも読ますべきものだな。

戸坂 すると今の文学は誰にも読ますべきものでは……。

萩原 分らないですよ。十年も経つてみなければ。

中島 何十年か経つてみればわからない。昭和の文学だつてそう輕蔑することは出来ないと思ふね。

悪口は幾らでも言えるけれども。

戸坂 そうなると「金色夜叉」などは国民文学だ。

中島 なるかな。

戸坂 文学史家は大事がつて読むだろうが、一般の民衆はどうだろうか。

中島 もう少し時が経つたら、面白いものがピックアップされて来るでしょうが、石坂洋次郎の「若い人」なども完全な時代文学だからね。あの中に出て来るものは時代に関係ないものはないです。マルキシズムに対する考え、官僚主義に対する考え——。民衆文学と言えば石坂の文学が一つの例だね。あれは改造から出ているんだろう。どうも宣伝みたいでないかな。

戸坂 そうすると国民文学は民衆文学ですか。

三木 国民文学というものは国民的統一が出来た時代の文学というものなんだ。それは日本ぢや明治文学のような、そういう時代のものだ。

萩原 ゲーテなどは。

三木 世界文学だ。

萩原 本当にいいものは両方を兼ねるでしょう。

戸坂 国民が誇る文学は世界文学でしょうね。
中島 現在の外国文学でいえば……。

戸坂 近い所に古典があるんでしょう。それが矢張り驚かすんじゃないかな。

三木 平均から行けば日本はちつとも劣っていないと思うな。青年なら青年の知識とか能力の平均から言っても劣っていない。唯劣っているのはト、テツもない、訳の分らないような偉い奴が日本には出ないことだ。それは決して個人的な能力の問題ぢやないと思う。何か根本的な欠陥があるんだ。

萩原 文学は過渡期にあるんだから。

戸坂 過渡期にあつても、偉い奴が出る時は出る。譬えばセルバンテスのような奴はそうだが、今

日の日本では文化が生活に接触していない点があるんじゃないかね。

中島 いい作品の出るべき時代に恵まれているんだが。

戸坂 後から発見されるかも知れない。

三木 段々文化の発達でデモクラチックになると共に、後から発見されるというようなことは少くなってくるかも知れないね。

日記は書くか

中島 三木さんの日記などが、三木さんが草葉の陰へ行った後で出れば面白いと思うね。

戸坂 三木という人は日記を書いた人だということになるかも知れないね。ほかのことは忘れられて。

三木 日記は書いていないね。

萩原 哲学者は日記は書かないのですよ。

中島 萩原さんは日記を書いておいでですか。

萩原 僕は哲学者ぢやないが、毎日々々同じ変化のないことを書いたつて詰らないね。

三木 萩原さん、こういうことがあるでしょう。満州事変が起ったとか、市電がストライキを起したとか、——それに就いて感想を書いてゆけば日記になるでしょう。

萩原 感想は書くことが山ほどあるけれど。

三木 それが日記ぢやないかしら。

戸坂 子規の日記は通読すると面白いけれど、ぼつん／＼読んでは退屈で……

萩原 芭蕉の日記などは面白いね。

戸坂 書いた人が偉いということを感じているから……。

中島 僕は修行のために書くんですよ。

戸坂 手紙はどうですか。

中島 絶対に閉口だ。

萩原 手紙書く位いやなことはないね。

中島 あなた（萩原氏に）の谷崎潤一郎氏だかに宛たものが古本屋に出ていましたよ。

萩原 日記は人に見られることが嫌だね。

戸坂 メモとか、ノートならするが……。

中島 いや、もつとつつこんで書くんですよ。

萩原 私生活も。

中島 私生活も、社会評論も、譬えば萩原さんと酒を飲むと、その後で書く。

萩原 それはいいけれど、女の所へ遊びに行つて、ふざけたことなどを人に見られるのは恥ずかしくてな。又その日記を家族などに見られたら、迎も恥ずかしいですよ。

三木 後世になれば却つて名譽になるかも知れない。

中島 矢張り習慣でしょうね。

戸坂 僕はメモはつけますね。記号みたようにして

書くんだが。

中島 僕は通用するように書く。今は日記でも書かなければ困ることが随分あるんじゃないですか。

僕は二・二六事件以来興味をもっている。

戸坂 書くのはうんざりするね。

三木 原稿に追われて。

阿部 手がだるい。

萩原 原稿以外の字を書くということが、実に辛いんだよ。

反抗精神

阿部 国民文学の話が飛んだ所へ行つたね。

戸坂 まあ万葉などは国民文学かね。

中島 万葉には反抗精神はないんですか。

阿部 単なる反抗ぢやないんだ。やはり国民文学だな。ダンテなども同時にそうだが。時代の関係で、万葉の思想というものは全然とれないと思うん

ですがね。近松などになると当時受け容れられたもので今日でも矢張り相当受け容れられていると思うが、ダンテなどは統一前のイタリアが各地方々々でいろ／＼な言葉を使っていたのをダンテの作品によつて統一的な言葉になつたという点で……。

三木 そう言えば、明治文学だつてそうだ。言文一致というのを作り出した。

阿部 明治文学全体でそういうことをやつたということ、ダンテのような偉大な作家が一人の力でやつたということは、厳密に言つて一緒には話は出来ませんよ。

戸坂 反抗はどうだろう。

阿部 それは中島君が言い出したのだが、そんなことはない。

中島 ある。ちゃんとある。ドンキホーテにしても、スタンダールにしても……。

戸坂 現在の国民文学はどういう条件を具えるか。
中島 それは現在に対して愛情の余りの憎悪がハッキリ出ると思うんですよ。勿論それだけじゃないが。

戸坂 そういうこともあるが……。

三木 国民に愛される文学じゃないかね。

戸坂 ダンテなどはそうでもなかったと思う。万葉も必ずしもそうじゃなかったと思うけれど……。

三木 反抗と言つてもたゞの反抗じゃないと思うんだ。その中に本当に人類への愛とか、国民への愛とかいうものがなければダメだよ。

中島 併し反抗というものは色々な場合があるだろうけれども、又そういう愛情がなければ出ないと思う。譬えば森鷗外先生を出してもいいが皆さんの文学は国民文学だ。あれは唯人に愛されるものだけじゃないんだ。読んでこれだというものがあるんだ。

戸坂 併しあれが広く国民に読まれたからどうかと

いうことも問題だと思う。

阿部 国民文学と言えばイタリア人はダンテを言うし、ドイツ人はゲーテを言うし、是は一寸そういう所もあるよ。

戸坂 民衆の文学ならば、今日の民衆が抑圧されているんだから、反抗というものが必ず伴っていると思うんだ。

中島 セルバンテスがそれに当るんじゃないかね。

戸坂 封建的な遺制に対する……。

阿部 それだけが国民文学ぢやない。

戸坂 過渡期のものだから、前のものを叩いて新しいものを仕上げる。

阿部 それだけが国民文学の要素ぢやない。反抗した作家なら沢山あるだろうけれど。

中島 それはスウィフトとシェークスピアのどっちが好きかと言えばシェークスピアが好きだから

ね。

阿部 そういうものが出るなら、国民統一時代——日本では明治時代に出るべきぢやなかったかなあ。

三木 永続性がないということだ。

戸坂 そうく、国民の寶として、いつまでも読まれて残るものぢやないけれども、当時無条件に読まれたという点も、国民文学の一つの性質になっているだろう。

三木 そうすれば菊地寛なども国民文学だ。

戸坂 国民文学というのは、そういうものに近いんじゃないか。

中島 鵬外と漱石ぢやないかな。

戸坂 漱石はむづかしい。ついて行けないという感じがする。

三木 それに矢張り偏しているよ。簡単な言集だけでも普遍性がないね。蘆花などは或る意味ぢや

……。

阿部 富士などを書くとしたが、そういう意識はあつたんじゃないですか。あつたけれども、それが遂げられなかつた形だろうと思うけれどもね。

三木 だから蘆花のようなヒューマニストにして始めて出来ることなんだよ。漱石のような人間には国民文学は作れないね。

戸坂 教養文学とでも言うべきだと思うな。

萩原 芥川はどうです。

戸坂 国民文学とは言えないかも知れないな。

萩原 鵬外の系統を継いでる国民文学への期待でしよう。

国民文学への期待

阿部 日本で国民文学があると言えば万葉だよ。

萩原 万葉はそうだね。

中島 中学校でもつと万葉などを教えるべきだね。

戸坂 そういう意味じゃ近松だって国民文学だよ。

萩原 近松と万葉の場合は意味が違うな。

阿部 いい意味で、国民文学には愛国者みたような所がなければいけないし……。

萩原 結局時代の違いになるんだ。万葉のような時代でなければ国民文学は出ないということだ。個人の問題ぢやなく、時代の問題になって来る

んじゃないかね。

中島 今国民文学を作ろうと考えたつて仕様がな

い。

阿部 新万葉などはそうぢやないか。

中島 やはり条件というものがある。後で考えれば出来るのが必然だし……。

三木 僕は併しそのことも多少疑問にするがね。日本の著述家は余り条件を気にし過ぎるんじゃないかね。

中島 併しそういう風に言ってみれば、何か出来なければ嘘みたような気もするが。

三木 是から出来るだろう。

阿部 そう言えば俳句一つだつて、作ろうと思つて作れるものぢやないから、そういうように議論しちゃいけないよ。国民文学は考えてもいいね。

中島 見当がつきますかね。

戸坂 一寸僕にはつかない。

記者 時間がたちましたから、これ位でどうも……。

底本：『文芸』1937.6 改造社刊

国民性の陶冶

羽仁もと子

「#底本は総ルビであるが、カタカナのルビのみ写す。」

小西重直：1875～1948、山形県出身、東京帝国大学

卒、教育学者、滝川事件時の京大総長、(文学博士)

柳田国男：1875～1962、兵庫県出身、東京帝国大学

卒、国家官僚から朝日新聞論説委員、民族学者、

佐々弘雄(東京朝日新聞論説委員)

野上豊一郎：1883～1950、大分県出身、東京帝国大

学卒、法政大学教授、のち総長、英文学・能楽研

究

蜷山政道(東京帝国大学教授)

三木清

今井登志喜：1886～1950、長野県出身、東京帝国大

学卒、同大文学部長、歴史学者(英国史・都市発達史)

杉森孝次郎(早稲田大学教授)

(到着順)

羽仁吉一

国民性の陶冶は可能か

羽仁(もと子)

国民性は長い歴史の上に立つもの

ですからこれを陶冶することはなか／＼むつかしいと思いますけれど、国民性だから仕方がない、といってうるのは、ほんとうの解決ではないと思います。先ず、国民性は陶冶出来るか出来ないか、出来るかすれば今の日本としてはどういう方面を如何に陶冶すべきかというようなことから伺いたいと思います。

三木

私は陶冶は可能だと思います。国民性は歴史的に変化して来ているから、事実として出来て

いるわけです。それは社会の変化によっても出来ることだし、教育によっても出来るでしょう。出来るか考えないと、一切の文化的活動は意味

がないことになります。

羽仁（もと子） 本当にそうです。そうでなかったら大変なことだと思ふのに、そうでないかの如くいう人が沢山あるように思われるので、国民性の陶冶は可能か不可能かという妙な問題を、皆様にまず第一に論じて頂きたいと思いました。

小西 私も自分の専門の方面から陶冶の可能を認めます。認めるばかりではない、大いにしなければならぬと考えます。国民性を作り上げていゝる要義がいろいろある、土地風土のような自然的要素や、国の政治機構、社会生活の有様、国民の職業、一寸思ひついただけでもいろいろあります。それ等の要素の中には、外国から来たものも無論あるし、昔からずっと続いて変化しないものも、また変化するものもあります。この変化する方の要素を動かし、且つよくすることが、即ち陶冶にも関係がある。又変化しない

で而も非常に大きな力をもつて国民性を作りつゝあるものもあるが、その立派なもの益々立派にせねばならない。そして一般的には今までに持つていた国民性の長所についてはもう一層よくし、豊富にし、時代に順応した働きをなすようにして行くべきであると思います。とにかく国民性はこのまゝではおけない、どうしても陶冶しなければならぬ。

柳田 私は大分立場が違ふので、何か喋れば異説を申上げることになるだろうと思ひますが……。

陶冶とは、よくするという意味だろうと思はれるが、それにはどうも永久的な標準がないので、陶冶だと思つたことが反対に退歩であつたりすることもあり得る。そこで、根本に遡つて考えてみると、国民性は人間の意志によつて変化するものかどうか。個人が個人に影響するのはいゝが、国民全体のこととは国民全体の意思に

よつて變るのでなければならぬ。所が最近私は、国民性がある者の意志によつて變るものだということを感じている。総体の意志によつて総体の性質が變るのでなく、ある者の意志によつて陶冶されるということは、迷惑なことであると思う。

近來、農民の性質がだん／＼烈しいものになつて行く傾向がある。これは内から、若しくは外から働きかけている誰かの意志によるのであつて、農民にとつては不幸なことだ。元來は平凡を愛し、いつも十人並であることを理想とするような性質であるのに、現在は片意地、負け惜しみ、執着心などが彼等の特長として挙げられている。

羽仁（もと子）　そういう性質は古くからあつたかと思つていましたが、短かい期間に出来たものでしょうか。

柳田　明治以後七十年位の間に著しく現れてきたことです。この一例でも解るように、とに角現在いわれている日本的なもののり中には、昔からあつたものでないものが沢山あります。後からだん／＼具体的に申上げようと思いますが。

政治意識に現れた日本の国民性

佐々　余り問題が大き／＼、全般的に論ずることはむづかしいと思いますから、私は政治意識に現れた日本の国民性について少し申上げてみましょう。私はある意味で日本の政治意識は非常に現実主義的であるとみています。昔からいろ／＼の社会思想、イデオロギー等を、理論としてはかなり敏感に摂取して来ましたが、それを元のまゝの形で大掛りに実践に移すことを、日本の政治意識はやらない。一種の日本の現実主義というのか、いつも要領よく日本的に翻案し、取

り得る形に於いて取つて来たように思います。大化の改新前に支那の思想の伝つて来た時もそうだったし、明治維新前後に西洋思想の入つて来た時も、また近くはデモクラシーや社会主義思想が紹介された時もやはりそうでした。この原因はどこから来ているかという点、一つには資源や富の乏しい島国の特殊条件からだと思ひます。新しい政治思想、社会理論を取り入れれば、国内に大きな動揺が起ります。ロシアのような大陸国家は、国内で大動乱をやつた後でも、対外的に生存を続けることが出来ますが、日本のような小さい島国では事実上不可能なのです。イギリスも同じで「レヴォルーション」^{レヴォルーション}して行くが、革命は滅多に行われぬ。

それで日本人のセンチメントは非常に優しい——マイルドなものではないかと考えられま

1 revolue とは revolt (反抗する) か

す。勿論ある場合に過激になることはありますが、多くの場合新しい思想が理論的には相当ラジカルに現れても、実行に移る時にはマイルドな行き方をとる。マイルドというのは変り方がマイルドというのではない。例えば明治以来日本が非常に急激に変化したことは事実ですが、変化の方法がマイルドであつたと思ひます。

時局問題を例にとつて、満州事変以来の日本の政治的動揺は何に起因しているかを考えて見ますと、これは私一個の考えでありますが、満州国は一種の大陸国家であつて、どうしても独裁的な政治様式を取り易い、これに対して日本は従来の民本主義的な行き方を守ろうとする、その間の相剋が問題の根本をなしていると考えられます。

日本の民本主義は理論的には輸入したものでしょうが、本質的には元からそれを持つていて、

万世一系の皇室を中心とし、貴族的要素と同時にデモクラティックな要素を併せもった混淆的な政治形態をとつて来たように思います。日本

では最もデスポティック【despotic 専制的】であつた武門政治の下にも、民本的な制度が曲りなりにも存在してゐたのではないでしようか。五ヶ条の御誓文の「広く會議を起し、万機公論に決す可し」²は、既に明治元年に公にされたことです。

又遡つては聖徳太子の憲法にも「大事は独り断ずべからず、必ず衆と俱に論ずべし」³とあります。

衆と俱にといつても、勿論現在の民衆と同じものを意味するとは考えられませんが、併しなが

ら衆智によつて物事を解決しようという態度が、
2 1888年三月明治政府の基本政策五箇条の御誓文の第一
3 「日本書紀」に記述されているもので「十七日。夫事不可独断。必與衆相論。少事是輕。不可必衆。唯速論大事。若疑有失。故與衆相辨。辞則得輕。」独断は不可、些細なことはよいが大きなことは「衆」と論じた方が「理」を得る、という意か。

政治運用の根本精神として流れていたとみるとが出来ると思います。

現在の所、日本が新しく踏み込んだ大陸政策の行き方——それから生れる独裁的傾向と伝統との牴触が大きな問題であります。この点について日本国民の政治意識を陶冶して行くのはよいが、日本が従来持っていたところの民本要素を失つたら大変だと思ひます。今日のように事が世界的になつて来ますと、多少国策に変化のあることは免れないと思ひますが、根本的政治様式を変えるということは、余程重大な問題で、この点が最も識者によつて考えられなければならぬ点であると思ひます。一時の時流に負けて、従来の日本が辿つて来た方向を下手に変えることは、陶冶の志からであるとしても避けなければならぬ。それは自由主義とファツシヨとの闘争というような意味の、表面的な問

題ではない。長い間の制度、習慣、国民のセンチメントに関係していることだと考えますから。

羽仁（もと子） では、この頃何故日本の国民性に反するようなファッショが入って来て、強い傾向になつているとお考えになりますか。この状態がいつまでも続くものとは私は思いませんが。

佐々 政治的に見ますと、国際的紛糾の甚だしい時には、国家本位に政策を強化しなければならぬ方面が多分にあります。これは現在日本が取っている、挙国一致的政策で凌ぎがいつて行くと思ひます。もう一つの方面は、世界恐慌以来、農民層や中間の社会層がひどく悲況に陥つて、それがファッショの運動者によつてリードされ、一つの社会的運動に転換して行く、この種類のものはなか／＼内閣を変えた位では納まりません。所が日本には幸なことに後の意味のファッショはまだ入っていない。尠くとも十分認めら

れるだけに組織化されていない。五・一五の前後には、農民の間にいくらか現れかけましたが、その後は殆ど国民的支持を失つてゐる。去年の総選挙、その後に行われた市町村の選挙にもこれを裏書するような事実がはつきりと現れてゐます。

現在の国際政局上、一種の政治の強力化の必要、これはまだまだ伸びて行くと考えられます。しかしながら、これは今申した社会的意味のファッショと切り離して考えられる。勿論相互関係の密なることは明かですが、事実問題としては切り離すことが出来ます。政治を批判しリードする立場からは、急激な変化を与えずに、従来形態でマネージして行く心組が必要なのではないかと考えます。

変化と陶冶との相違

野上 三木君、小西さんのお話もありましたが、私は少数の為政者、教育家の意志で国民性を陶冶することは可能と思いません。

小西 私が申したのはそういう意味ではないのです。

三木 少数者が国民を圧迫したりして国民性を変えようとするだけでは、勿論陶冶は出来ません。

野上 圧迫したりしなくとも、もつと善意で国民性を改変しようとするにしても、その意志通りに改変されるには、国民性は余りに複雑であるということです。この問題は先ず国民性とはどういうものかを規定してかゝらなければならぬと思います。仮にそれは了解されたものとして、それが歴史的に変化することは勿論認められます。結果から推して、その変化がある種の運動のために起つたのであれば、国民性は陶冶されたといえないこともないでしょう。しかし、例

えば、こゝに日本主義といったような看板を掲げて、そういった行動に適するように国民性を陶冶して行こうという意志があつても、謂わゆる国民性なるものがその通りに導かれて変化するものと思えましようか。

三木 変化と陶冶とは違うと思います。少数の意志であろうが誰の意志であろうが、意志によつてなされる変化を陶冶と考えたらいいのではないのでしょうか。そしてある場合には少数の意志が全体を代表していることもあるだろうし。

柳田 放たらかして置かうという意志によつて放たらかして置くのも陶冶に入る。

三木 所謂自由教育はそれかも知れませんか。

野上 国民性という以上は、或る国民全体に行き亘つた性情でなければなりません。同時に、それは他の国民性とも著しく違つた特長を持つていなければならないと思います。

羽仁（もと子） その定義はよいようですね、著しく現れている一般的なものというのは。

柳田 それはいゝ。極く世俗的だがそれでいゝ。

野上 国民性はまた時代によつて変化するから勿論永久的のものではありませんが、その変化すること、教育家なり、為政者なりの意志がどれだけ加わり得るかということから問題が分れて来ます。

羽仁（もと子） 陶冶力にはいろいろな種類があつて、少数の意志も確かにその一つだと思ひます。進歩した少数が、その優れた意志をもつて、多数によい影響を与えることは大切なことです。私はマルキシズムは唯物論という意味で絶対反対ですけど、マルクスが、長い間忘れられていた大衆を発見したことは、大きな強味であり、最も魅力ある業績だと思つています。大衆をその動いて行くまゝに任せるのではなく、また上

から覆い被せるようでもなく、深く自覚に訴えるように、そこに陶冶の基礎を置きたいと思ひます。

国民性は人間性の母胎か

蛭山 国民性という言葉は、どうもはつきりしない、それだけにまた含蓄の多い言葉だと思ひますが、その内容をもう少しはつきりさせるために、対照的なものを出してみました。国民性という場合には国民的性情を現すと思ひますがこれに對してある特定の国民だけがもっているのではない、共通な性情というようなものが考えられるのではないか。これは仮に人情、ヒューマニティーという風に規定出来るのではないか。この普遍的人情と、日本の国民性とはどういう關係に立つか。

羽仁（もと子） そうです。そこに今日の座談会の

急所の一つがあるように思います。

蛭山 両者の関係を理論的に説明することはむづかしいから、実際の家庭教育の場合を例に引いてみると、私共は子供に向つて、屢々日本人としてやるべきことでないとか、日本人としてはこうやらなければならない、などといいます。これは人情とは別の国民意識が我々の中に入っているからではないのか。人情は孟子のいう惻隱の情というようなもので、人間の誰にもある。日本の国民性が凡てのものゝ根源的な母胎で、その中にこの人情的なものも含まれているのか、そしてこれを陶冶するのが国民性の陶冶か。或は外国の国民性と対照的な、日本に固有なもののみを選び出して陶冶するのが国民性の陶冶か。我々がふだん人情的なものに重点を置いていることは確かだが、反省してみると国民性に囚われて、価値判断を誤ることはないか。

柳田 そうく。

羽仁(吉一) 国民性と人間性をどう調和すべきかゝまた一つの問題でしょう。

蛭山 国民性と人間性とは、時と場合で現れ方が違う。我々が年とつてから外国を旅行する時、少年のような心でいられない、背後に祖国の衣を脱ぎ捨て得ない成熟した心持、反撥心をきつく感じます。他と対比されることによつて、人間性よりも国民性の方を強く意識するのですね。この気持が政治問題には強く現れるのではないでしょうか。

羽仁(もと子) ファッションは外国の流行のようなのに、どうして固有なことの好きな人々が、却つてそれと同じことをしようとするのでしょうか。

蛭山 科学、経済力というような手段は共通でも構わない。とにかく競争に勝つて、固有の立場を守ろうという所から来ているのだと思います。

人間性が国民性という母胎に含まれていないとすれば、国民性は陶冶されても、偏狭な実りのないようなものになってしまふのぢやないかな。だから陶冶ということに価値があるかないか、可能か不可能かということは暫く置いて、先決問題は国民性と人間性の問題です。

日本精神と陶冶

羽仁（吉一） 現在、ある種の人たちの主張には、昔から日本にある国民性を無批判に称揚する傾向があります、そうでない意味に於いて国民性を尊重することはいゝのではないでしようか。勿論陶冶するためには、今までにあるものだけを以て、これからどうしようということばかりでなく、他から優れたものを取り入れることも同時に考えなければなりません。

今井 陶冶しようとするにはなか／＼いろいろの

条件が必要だと思います。自然的条件歴史的条件、その他いろいろなもの関係して国民性を作り上げていくのですから、たゞの説教では容易に陶冶出来ないでしよう。

羽仁（もと子） 勿論だと思ひます。

今井 生活条件や制度を変えることが陶冶を可能ならせる必要条件かと思ひます。ある人に教養を与える、その人間の性質がいろいろに変わつて来ます。教養を与えるのは一種の陶冶の筈ですから、私は国民性そのものは陶冶出来ないとは考えません。たゞ説教だけではだめだと思ひます。

羽仁（吉一） 多くいわれている日本精神とは、悪い所を問題にしないで、よい所ばかりを出して見せて、陶冶の必要はないというのですが、それに反対するものは、自然陶冶の可能を熱心に主張することになりましょう。

羽仁（もと子） 陶冶のむつかしいことはよく解っています。けれどむつかしい／＼といつてばかりいると、ついに出来ないということと同じになりそうなのを、私は非常に困ることだと思うものですから……。

今井 教学刷新の委員の一人に聞いたことですが、日本精神とは何ぞやという議論が出て、到底二年や三年では決まらんだろうということになったそうです。自身にも解らないものを基にして活動することは無理だ、というような話でした。ほんとうか嘘か知りませんが。日本的なものはいかということに対して適確な答をすることは、一寸出来ることではございませんでしょうな。

学校教育に求めて来たもの

柳田 実は、我々が学校というものに対して、人間らしさを養うことばかり要求し、国民性を養っ

てくれるようにとは少しも要求しなかった。これが中流社会の多くの考え方ではなかったかと思う。所が近來の傾向は、国民性の尊重である。これが人間性ばかり求めて来た教育者自身をも動搖させているのではないか。私は教育の上に国民性と人間性はある程度まで組合せた方がいゝと思う。

蟬山 たしかに父兄は自分の子弟に対して、立身出世を志すように教育して来た。そのために、一人前の経済活動が出来るように、つまり物質方面の成長、その具体的手段として読み書き算盤というような極く初歩エッセンシャルな教育が施されていた。余りに唯物的であつた教育の反動として、最近のような傾向が現れたとも見られるでしょう。

柳田 現代の教育を知育万能などと悪口をいって、徳育とは国民性を作ることだと思つている人が

いるのだから困る。

国民性と人間性と理想の問題

小西 人間性、国民性の区別についてであります。私は常識として国民精神とか日本精神とか申すと、理想的な立派な長所の方面を、国民性という。短所も長所も併せて意味するように思うが、如何なものでしょう。この頃、国民性は理想的なもののようにいつていますがそれは間違いで、日本の国民性には長所も勿論ありますが、短所も同時に挙げ得ると思う。そしていゝ方の特長は、人間性の本質と一致するものである、普遍性をその根底にもつてゐる。短所は丁度それと反対で、人間性の真実性と離れてゐる。それで国民性の陶冶とは、つまりいゝ方面、人間性の本質と合致するものを伸ばし、反するものを矯める、こういうこともその中に含んでゐるので

はないかと考えます。

いゝ方といつてもその中味は時代によつて違います。例えば日本人は礼儀正しいという特長をもつてゐるが、美術館などで帽子をとらない。美術館で作品を観る時は、帽子をとることを習慣としてゐる所の西洋人から見れば、それを無作法と取るかも知れないが、日本人は座敷で美術品を觀賞する習慣を養われていた。その場合の礼儀正しさが、博物館、美術館へ移つてゐない、陶冶が足らんです。だから礼儀正しいという良い特性でも、このまゝでよいということはいえない。陶冶の拡張が必要である。と、こんな風に私は考えておるのですが、御批判願ひたいと思ひます。

今井

私はやはり国民性という言葉がまだ明瞭でないように思ひます。蜷山さんは国民性と人間的なものをお分けになつたが、實際の場合として

は小西さんのいわれるように理論的には人間的と考えられるものでも、実際はそういうもの

まで、国民性が入っているのではないか。例えば礼儀は人間的なものであるが、その発現は国民によってそれぞれ違う。また潔癖ということそれ自体は人間的なものであるが、その現れ方は異っている。残酷なことは日本人に出来ないとか、外国人に出来るとかいいますが、それでもものは見様で、例えば動物虐待は日本人の方がやるといわれていますし、どつちをどうと簡単にいい切れない点があるでしょう。

三木 人間性と国民性とは同じような観念ではなく、人間性の方は理想を現す場合に用いられるように思います。人間らしく、というような時には、人間のいゝ方面を指しているのです。国民性の方は現実の状態を現します。所が、今日は国民性を何か理想的なもののようにいうので、

我々は果してそうかという疑問を抱かずにいられない。

佐々 三木さんのいわれた人間性とは？

三木 理想としての人間性を指しています。それは人間が部落や種族の中でだけ生活していた時にはなかったもので、世界的交通が開け、文化の交流が始まって初めて出て来たものです。原始人にも共通の自然科学の意味の人間性はありませんが、今は、教育的、文化的意味の人間性の理想をいうのです。昔は国民性の理想もあったわけですが、近代は国民性を現実的なものとし、今いったような意味の人間性を理想としていました。所がこの頃はまた人間性を抽象的なものとして排し、昔のように国民性を寧ろ人間の理想であるかのように考える傾向が生じたのです。いずれを重んじるのがいゝか、批判されなければならぬ問題だと思います。

羽仁（もと子） 理想は将来にあるものでしょうか。

過去にもあるものでしょうか。

三木 国民性の理想というのと、何か復古的で、過去にあるようにひびきますが。

柳田 明らかに理想は将来のものです。過去の文化の中にあるかの如く考えている国民精神文化研究所などは、一体どういう気なのかと思う。

羽仁（もと子） 私は理想は過去と将来とにあると思います。つまり人が長い間生活して来る中にも、変らず持っていたこと、それが人間の一つの理想を現すと思います。例えば互に愛し合いたいというようなことは、非常に難しいことですが、昔からこの人もこれを考え、教育の方面でも努めて来たことです。これから人と人、国と国とは融和して行きたいものです。そしてそうすべきであるということは、過去から解っていたことです。から、そういう意味で理

想が過去にもあるということです。

蠅山 それは、教育なり陶冶なりの根拠が伝統にある、といい変えることは出来ないでしょうか。

三木 文化の伝統の継承ということがなくては、教育は考えられません。併しそこには自ら継ぐべきものと、捨てるべきものとの選択はあるわけですが。

柳田 私は歴史の知識は大事に見ます。しかし理想は未来にあるのだと思っています。歴史経験は多くは失敗していますから。

蠅山 ヤスペルス【Karl Theodor Jaspers】という人が教育の淵源は伝統にありということをいっています。伝統の哲学的解釈は非常にむづかしいのですがまあ、こういう風に考えていゝのではない。教育は実際問題として何かに安定と自信をもたなければ出来ない。確信の根拠は経験以外にはないのです。経験から得た規範を展開

させて、教育の基礎をその上におく、という意味にとって、私は一先ずヤスペルスの説に賛成したのですが。

三木 伝統は変化しませんか。

蠟山 するが。

三木 ではどこに基礎を置く？

羽仁（もと子） 私は伝統の中に変化しないものがあると思います。互に融和したいという気持は何時なかったことがあるでしょう？

柳田 過去にはなかった時代があります。中途から出来たのです。

羽仁（もと子） それは極めて外形的な見方ではありませんか……。

羽仁（吉一） これから未来へかけて全く新しく生まさなければならぬ理想があると同時に、既に過去にもその萌芽があつて、しかも人類の歴史が充分に実現し得なかつたものがあると見

られる。理想が過去にあるという表現は、一寸変なようですが、理想は先験的超越的なものだという宗教的な考えから、ミセス羽仁はいうているのだと思います。

三木 我々が行動する時、経験は役に立ちますが、それ以上の引張るものがなければ決断は出来ません。宗教も哲学も教育も、それを基礎としなければ考えられないし、陶冶も成立ちません。

佐々 三木さん、人間性は普遍的な方面があるとしても、それ／＼の時代に個別的なものがあるでしょう。ヒューマニズムといつても、例えばインドのような汎神的なもの、ギリシャの多神的なもの、キリスト教の一神的なものというように、いろいろな所から出ていて、そこに国民性というか、地方性或は時代性というような差別があるように思います。現在に於いて、国民性と対照された概念としてヒューメンなものを置

こうという時、何をそこに置くか、一通り考えなければならぬと思います。

蠟山 佐々君のいうのは僕の解釈だと、つまり生産様式や、他の多くの自然的なものを基礎にした文化圏というものに、広い意味の国民性が根ざすのではないか。ヨーロッパの歴史を見ると文化圏では広過ぎるので、それがまた政治的意味をもった幾つかの国民的文化を形成している。だから人間性と対比するものとしては、国民性も佐々君のいう地方性も、本質的に同じものと見ていゝのではないか。

佐々 ヨーロッパの一つの人間性の理解の仕方に関連を置くのか。日本の国民性との関係に於いて陶冶を論ずる時、東洋的なものを掘り下げて行く必要があるのではないか。

柳田 僕もそれに対しては甚だ懐疑的【skeptical】^{スケプティカル}なので。時代々々によって人間性の標準が違

うと思うから。

蠟山 僕のは非常に妥協的意見なんです、人間性の特定の発現形態が国民性だという風に思うから、世界中人間性になりなく、国民性はみな違うのです。

世界中で考えたら行詰る筈はない

佐々 国体明徴といい、教学刷新といい、具体的問題に即して甚だ客観的標準が漠然としていて僕は思うのです。ある程度まで突き止められて来ないと、どういう風に国民性を陶冶していゝのか解らないことになります。

侵略主義は今も誰もいゝと思つていません。軍人さんもこの頃はそういいますね。で、日本はこれからイギリスあたりの植民地支配の標準、即ち巧みな賢明な遣方に落着くか、もつと新しい^{ユニーク}な絶対不侵略的世界観をもつべきか。政治的側面

の国民性の陶冶を何かユニークな標準でやれないものか……。

羽仁（もと子） 佐々さん、日本はよい国になったから大国になり得るか、なり得ないか、大国というど勿論国の広いことも一つの条件になるのです。

佐々 さあ、それはどうか。領土の大小にはよらないでもいゝのでしょうか。

羽仁（もと子） 私はよいものは必ず大きくなることを堅く信じているのです。大人物大国には、悪辣な所がないとなれないというような考えは違ふと思います。優れているということ、良いということは、同時に大きいことを意味する筈で国と国との間のことでも、その方向に解決の道を熱心に探し求めなければならないと思います。

佐々 非常に優れた文化を建設すれば、国際的に繁

栄することが出来るでしょう。何かそういう方法が発見されないか。それがよりよく国民性を陶冶する所以なのですから、やってみたいものだと思います。

三木 世界中一緒によくするにはどうしたらいい、かということ、まだほんとうに考えたことがないから、出来ないように思えるのだけれど、全人類、各国民がもつと熱心にそれを考えたなら、相当いい方法が発見される筈だと思うな。

日本人の笑

蜷山 今朝家の食卓で、亜欧飛行の飯沼・塚越二勇士がベルリンへ着いた時の写真を見ると、非常にシリヤスな顔をしている。日本人は何故あゝいう時に笑わないのだろうか。西洋人ならぎつと

1 純日本製の飛行機神風号で、東京から94時間余りを掛けてロンドンまで行った。南回りで補給整備を繰返してだが、当時の記録を半分に塗り変えた。

笑うが、ということを家族の一人がい出したのです。日本人は一生懸命な時には笑わない所が日本人らしくていゝのだ、西洋人が笑うからといって下手に真似なんかしない方がいゝ、という意見も出たのですが、このことは国民性というとし大袈裟ですが、国民的性情といったようなものを現しているのではないのでしょうか？

柳田 日本人の笑に対する感覚は、外国より一段古風であるといわれている。日本では笑は失礼なものだとされていて、謹んで笑うというようなことは、我々の思想からは不可能なのです。

蠅山 極めて卑近な例ではありますが、西洋の場合の、非常ににこやかに笑うのが標準になるのか、我々は依然としてもとのように笑わないでいてよいのか、国際的接触が多くなると、こんなことから誤解を招くことがあるのではない

でしょうか。国民性の陶冶は大きいことから小さいことにまでいろいろあるように思います。

野上 ラフカディオ・ハーンは日本の物をとかく良く見過ぎる癖があつたようだが、ある時、ハーンの友人が、女中が亭主の葬に行くことをニコニコ笑いながら願ひ出て、又骨をもつて帰つて来た時に白い歯を出して笑つたことから、日本人は唾棄すべき人間だといったのを、ハーンはこう解釈しています。女中が夫の死の場合に笑つたのは、礼儀であつて、あなたさまにこんな不愉快なことをお聞かせしてはすみませんがとか、こんな不愉快なものをお見せしてはすみませんが、という意味である、と。ハーンは日本に惚れていたから、何でも良く見えたようだ。

蠅山 それから西洋人は講演会などで、どん／＼質問しますね。話を聴くということは共同の仕事だという觀念があるのだ。これは礼儀正しい

のかどうか。日本では話の後で質問を促しても、遠慮勝に少しするという風だ。僕はどっちだっていゝとは思っているが。

今井 私自身は余程質問をした方でしたが、高等学校時代に気がついてみると他の人は一寸もしていない、どうも田舎者見たいで気まりが悪くなり、だんぐ止めちゃった。私の場合は質問しないのは後天的なのです。

三木 質問がないのは考えがないからではないでしょう。日本人は割に自分の考えというものはつきりもっていない。

今井 私は大学生は相当意見をもっているように思えます。寧ろ教師のいうことを冷笑して黙っているのではないかという気さえします。

陸海軍の生徒は非常に質問するそうです。

柳田 そうか。

今井 歴史の教官をしている友人が言っていました

が、教場は恰も討論会だ。時として質問がもう少し進んで詰問になるのだそうです。いつ頃からの傾向か知りませんが、講義の鵜呑みをしないそうです。

三木 近頃確信があるからぢやないのか。

今井 質問の要旨はなか／＼理論的なのだ。歴史の話の中に、ある艦隊が敵を攻めて行つて全滅してしまった、という様な条があると、そんな筈はない、戦術として考えられないというのです。史上にとにかくそうなっているのだからいつでもなか／＼承知しない。こつちを犠牲にして向うに打撃を加える戦略だったと説明すれば、そこで初めて納得するのです。

蠅山 僕の経験には全然質問が出ない。自分の方予備知識があり、確信がある方面でないからでしょうね。

羽仁（もと子） 日本人は人と自分との共通観念が

まだ少いのではないでしょうか。自分はこんな
に悲しい、あの人も悲しく思ってくれるだろう
と思えば、本気に訴える気持になれる訳ですが
……。

羽仁 (吉一) 生活経験が狭く、社会的に訓練され
ることが少ないですね。

礼儀作法の考え方

野上 日本の礼儀作法は特殊なものだと思うが、こ
れはどういう歴史を持っていますかね。

柳田 日本の作法は一種特別で、誰も教えずに出来
ているのです。

三木 日本で修身を、国語、歴史、体操と並べて別
に教えるのは可笑しいですね。

柳田 日本語ではよく程合、鹽梅、加減などいい
ますが、それらは少しも教えられていない、に
も拘らずどこでどう覚えるのか自習自学されて

いる。

今井 武家の社会の崩壊と共に礼儀も壊れてしまっ
たのではないのでしょうか。ケーベルさんが、日
本の大学の中で自分が気に入ったのは、寧ろ会
話の出来ないような和漢学の老人たちだったと
書いていました。

柳田 古いものがひどく壊れて新しいものがまだ出
来ていないのだ。

蜷山 封建時代に武士道が仮に社交にまで行き亘つ
ていた一つの生活信条とすれば、それに代る所
の、国民道ともいうべきものが出来なければな
らない筈ですね。

柳田 私は悲観はしない、今は混乱状態であるが、
どこかにそれが出来つゝあると思っている。

敬語の使い方がこの頃はずい分ひどい。小学校の教
員まで、母さんがいらつしゃいましてなどとい
う。

今井 外国にいた時、日本人同士で敬語の多い言い

方がよいか、平等がよいかということで二派に分れて論争したことがあります。或るドイツ人が日本語の一人称二人称の呼び方が一体何種類あるか、と不思議がったに対して、登張竹風さんが「あなた」という言葉でも、親と友人と愛人とはいう気持が違う。気持が違えばそれだけ種類もある筈だ、と気焰をあげていました。

羽仁（もと子） 私は言葉のことは、目上目下で規定し、複雑に使い分けることには賛成しません。

一つのお能の面でさまざまの意味の表情をすることが出来るように、言葉はなるべく簡単で、使う心持が複雑に働けばよいと思います。

柳田 それは違いますね。感覚が鋭敏であればそれだけ言葉も分れて来るのだから。時間をかけてわざわざ練習するのではない。私の郷里の農村

1 本名信一郎（1873～1955）、ドイツ文学者。

では、伴が母に飯を食えという時、関東のように乱暴にいわないで、「はじゃひと飯食わしやれ」といいます。これは親か夫にしかいわない古いいい現しです。それがわざとではなく自然に出て来るのです。

三木 日本人は表情が足りないから言葉で補いをつけるために、種類を沢山もっているのでしょうか。

柳田 必要原因説ですね。

気候と気質

羽仁（もと子） 杉森さんがお見えになりましたから、どうぞ。

杉森 国民性の原則論は既にお済みだということ、非常に損をしておるわけです。国民性といえますと少し政治的要素が入りますから、より根本的にして自然なるものを求めると民族性、

というものに行き当ります。国民性は革命で根本的に変えることがあります。民族性は仮令政治形態が変つても変らんですな。かなり不変的なものと思います。これを、付着物をだんぐ

洗い落して行くと、氣質になる。思想といったようなものは氣質を除き去れば知識みたいなものになつて、どこの思想でもなくなります。本を読んで改宗したり、友人から話を聞いて今まで持っていた意見を捨てることがある。これと同じことを民族に当て嵌めて考えてみると、思想が變つたとはいえるが、民族性が變つたとはいえない。民族性とは分析して見れば殆ど氣質である。こういうものを各民族が確かにもっています。そしてこれは氣候、風土が原因していることが多いと考えられます。日本民族の特長はいろいろありますが、その一、二を挙げて見ますと、極端に行かない。これは寒いといつても

暑いといつても三ヶ月は続かないし、四季の間にも微妙な段階を経て移る特殊なる氣候から影響されている部分が多いと思います。

思想、知識、認識位のものなら変えられますが、氣質となりますと、本人の好むと好まざるとに拘らず、容易に変えることが出来ない。個人の一生の中では一寸むづかしい。氣質の改造は結構なことであるが、容易でないとすれば、善用の方法が考えられていいのではないか。若しも日本人が短氣という短所をもっているとしたら、これを感激性の方に善用するという風にですな。

今井 変化の多い氣候は具体的にはどういふ氣質を作っていると思われませんか。

杉森 徹底を欠くと思います。いい換えれば調和多角的氣質ですな。ある程度まで行つて反省し、方向転換する。

柳田 杉森さんのいわれるのは、奥州の人を指すの

か九州の人を指すのか、又中央の人を指すのか。日本人といってもそれぞれに気質は大変違うと思うが。

今井 どういう気候がどういう気質を作るかを決定することはむづかしいことではないでしょうか。十八世紀式のモンテスキューやバツクルの環境論には、いくらでも反証が上るのです。例えば暑い土地の人は不正直であり、ギリシャ人よりもフェニキヤ人が不正直であり、ゲルマン人よりローマ人が不正直だったなどという見方があるが、それは文化の性質を無視した説です。飛騨と信州とは隣り合った山国でありながら、信州人を理窟ぽいとはきくが、飛騨の人間を理窟ぽいとは誰もいいませんね。

柳田 自然的環境は、文化的、社会的の沢山の原因と共に、一つの要素として算えるのではないと、

1 Henry Thomas Buckle 1821 ~ 1862

矛盾したことになると思います。

今井 そうです。気候に影響される方面は確かにあります。日本人程季節に合った食物を食べたがる国民はないでしょう。これなどは変化に富む季節から来ていると思います。変化の乏しい英国では一年中オートミールやハム・エッグスを食っている。妙なもので私共も向うにいる間は、それ程野菜のはしりなどを食いたいと思いませんでしたね。

日本人の多感性、潔癖

杉森 ラッセルは非常な支那の礼讃者だが、その著書の中に、支那人の欠点として貪慾、臆病、鈍感を挙げています。

一例として、北京で散歩していると犬の子が轢かれて死に切れないでいる、往來の老若男女がそれを見てニタ／＼笑っている、すゝんで助

けようともせず、可哀そうだから一層一思いに殺してやろうとする人もなく、見るに耐えぬという表情さえしていない。西洋と違っているところセルはいつています。同じようなことを支那に長くいた人から経験談として度々聞くことがあります。これなども氣質でしうな。

柳田 日本人の多感性は近世のもので、ずっと昔は大体に呑気な所があつたようだ。

杉森 福沢先生はイギリスの個人主義を深く信じておつた人であるけれども、瘦我慢の説などを見ると、やはり日本人の氣質を超越してはいないという気がしますな。

柳田 私は根本的に見解を異にする。氣質とはあなたのいわれたように一定不変のものではない。潔癖などは固有宗教に源を発していて相当古いが、これとてやはり後からくつ付けたものです。日本人の潔癖とは、透明な水を注ぎかけてそれ

で気のすむというようなものです。

今井 むしろ精神的なものですな。

杉森 それは日本の山水が清く美しいということが生んだ一つの氣質に相違ありますまい。

柳田 支那の水は濁つていて、支那人は泥水でも沸かせば平気で飲む。実験に基く【empirical】ような思想が発達しているのは面白いことです。

また私は日本人の多感性は木綿と一緒に入つて来たと思う。せいぐ二百年位前から現れたものでしょうね。

今井 綿はもう少し古く入つて来たのではありませんか。

柳田 貴族はその前から使つていましたが、民衆のものになつたのは享保の頃でしょう。

蠟山 その前は麻ですか。

柳田 麻です。麻から木綿になつて日本人の感覚ががらりと變つた。麻の衣服では出せなかつた複

雑な線が出るようになったので第一、女が美しくなった。同時にそれは顔の表情をも変え、物のあわれを感じるような風に感覚をも変えた。

小西 昔は朝鮮人のような着物を着て、朝鮮人のような態度でいたわけですか。

今井 万葉時代の例の白妙の或は今の朝鮮人の着物に似ていましたよね。

柳田 絹は昔からあつたが上流にしか使われなかった。麻は鮮やかに色が染まらないので、低い階級の人は渋い色の着物を着ていた。木綿は麻に比べて染色が自由なので、先ず女の間木綿を着ることが流行つたのです。桔梗色などは好んで着られたものらしい。そうして日本人の性質まで変つて来た。考えてみれば千五百年の歴史を二百年で覆ってしまったのだから、これからもどんな風に日本人の氣質が変るか知れない。だから持つているものを雪達磨式に大きくする

のは国民性の陶冶にはならない。

杉森 しかし、日本の民族性には昔から変らない

一面が、他の民族に比較して多いと思います。

これは、日本の地理的位置のために、民族的純潔が保たれて来たことが原因していると思います。昔の交通機関では他の国へ行くことも、他の国から来ることも、容易ではなかった。そうして住心地はといえば、日本の天地は曲折に富みなかく美しい。穀物、野菜は結構育ちます。唯物的に大なる物を欠くのみで、後はいろいろなもの揃っている。そこでこゝに来た者は住み込んでしまうという結果から、民族的単一が保たれたのだと思います。

家族主義の将来

羽仁（もと子） 日本の国民性としてどういうものを一番保存したいか、どういう方面を悪いとし

て陶冶したいかを皆さんから伺いとうござい
ます。

柳田 そうです。少し各論に入つた方がいゝ。

羽仁（もと子） 私は家族主義の中に、これからの
社会生活の理想とすべきものが含まれていると
思いますので、これを新しい形で生かして行き
たいと思います。

柳田 それは駄目ですよ。飛驒の白河の大家族がど
んぐ崩壊して行くのを見れば、家族制度の良
い悪いはすぐ解りますね。

羽仁（もと子） 私は多勢一緒に住む形がいゝとい
うのではないのです。社会生活は、個人から直
接に社会に繋がるだけでは不完全で、そこに血
の繋りを基にした家族を重く見たいと思うので
す。小さい例でいえば、一人の人の性質は、頭
がいゝということも、不器用だということも、
その人一代を見ただけでは、浅くしか解らない

と思います。凡ゆる長所も短所も、家族の繋がりや、その抛つて来た所の遺伝に於いて見る時初めてよく解り、そこに自づと人間的な温味のある方法の陶冶も見出せるのだと思います。

三木 そういう気持は解ります。日本は家族制度が発達していたために、それによつて道德的感情が鍛えられて来たことは確かです。しかしこれからはその制度まで引き摺つて行く必要はないと思います。

杉森 尠くともミセス羽仁の表現は科学的でないといえましよう。文学的な比喻ですな。

柳田 家族制度というような誤解を招く言葉を使うのはいけない。家族とは家長が威張つて他の者は手足のように酷き使われるたまらないものです。これからはどうしたつて別のものを作らなければならぬ。

過てる責任感

羽仁（もと子） 私はこの頃ヘレン・ケラーと中村ひさ子¹さんのことから、日本人の短所について思わせられております。中村さんというのは、両手両足がないのに、何でも実に驚く程よく出来る人で、今度も口で人形の着物を縫ってヘレン・ケラーに上げたということです。

中村さんのお母さんはその不具な子供を二階の物置のような所へ上げて、御飯は持つて行っても世話は決してしなかったということです。中村さんは初めはお母さんを恨んでいたけれど、自分がいろいろなことが出来るようにさえなつたのは、自分で何でもしなければならなかつた境遇のお蔭だと思ひ直すようになったと聞きました。

私は中村さんを偉いと思いますけれど、ヘレ

1 中村久子、1897～1968、岐阜高山生れ。

ン・ケラーの場合と思ひ合せて、日本人として恥しいことだと思ひました。不具な子供をもつた親は、どうしたらよいだろう／＼という心持で社会に訴えれば、サリバン先生のような人が見付かるのだと思います。家の体面にかゝわると思つてかくしておくのは、中村さんのお母さんばかりでなく、自分の問題を社会の問題だという風になか／＼考えられない日本人の大きな欠点ではないでしょうか。

小西 統計上果して當つているかどうかは解らませんが、日本の学校程生徒を退学する学校はないのではないか。

蠟山 人格的な独立がないものだから、法律的に責任も脱れようとするのですね。教育的責任は一寸も果さないで。

羽仁（吉一） 昔の勘当などということもそこから来たのでしょうか。

柳田 詰腹を切らせる、ということもある。日本人の責任感には内容を改善する必要がある。

羽仁 (吉一) 栄辱を共にわかつという氣持を強くし、もつと広い心で連帯責任を持つようにしたいものです。

蠅山 連帯責任は立派な個人主義が基調をなさないと持つことが出来ない。伝染病が発生しても、それは家の不名誉というより、原因が社会にあることがわかれば科学的に物を考えられるのです。

広い心を養いたい

今井 私はこうも考えます。日本人は人を長所で見ないですぐあらを氣にする癖があるのではないかと。

柳田 あるでしょうね。

今井 教師は生徒の悪い所ばかり探し、自分はあら

を見せまいとして教育する。

小西 そう。生徒は袴をつけた教師しか知らぬ。先生も顔を洗うのかな、というわけです。

今井 師範教育は非常にそういう所がありますね。

蠅山 日本人全体のもつ短所だ。

杉森 世間が狭いのですな。御殿女中式の所が。

今井 お寺に深刻な喧嘩の起るのと同じものでしょう。

野上 特権者に対しての悪口を書いたものは、中世期からありますね。

柳田 村の男女が寄れば話題は人のゴシップです。これが今までは一つの配偶者選択法でもあったのだが、その道徳教育の機関がないということには誠に困る。

羽仁 (吉一) 英国などはどうでしょう。

今井 容易に悪口はいいませんですね。確かに仲が悪く思うような人のことを訊ねても、深く交

際つていないから知らないと答えていますね。

柳田 それが中以下の人間の教養だから羨ましい。

野上 そういう点少くとも社会的には英国には訓練というものが出来ているようだ。

杉森 日没せざる国の国民は大きい野心をもっているから、人の悪口をいつている閑がないのでしょう。

三木 日本に大人物が出ないのは、少し偉くなるとあら探しをして引き下してしまうからでしょう。偉人には多少神秘性を残しておいた方がよさそうですね。

今井 新聞の社会面はつまり人の噂を書く所で、特種は人の奇抜な噂なんだ。

柳田 こゝ数年来、大新聞は家庭のスクヤンダルを小さく書くようにはなつて来たでしょう。

今井 田舎新聞は租変らずやっています。

蜷山 英国人程、人の伝記を読む国民はないといひ

ますから、人物に興味がないわけではないのでしよう。そして英国の政治学が日本のと一寸違う所は、大臣の議会の演説までがそのまゝ内容になつてゐることです。

また地理を学ぶのに紀行文を読む、という風です。人や土地のほんとうの噂に関心をもっているわけですね。

小西 英国の有名な心理学者ホリネスを訪問した時のことです。紹介がなくては人に会わない英国ですが、彼は、古い英国の詰込み教育の弊を認めて、言うこともなか／＼新しいので、別に紹介状を貰わず、自分はこういう者で、会いたいからということを書面で申込みました。するとすぐ返事が来て、後日の三時に来てくれ、一時間半ばかり一緒に散歩してその後お茶に来てくれと書いてある。行ってみると大変若く、話でもなか／＼活気に充ちていたのであります。

散歩の間にいろ／＼な話をして、四十位と思っ

ていると、ケンブリッジを出て、文部省の視学官を三十年やっていたが、先年止めて気楽に勉強をしているというので、一寸驚いた。それでは五十以上かと思うと実は七十前後でした。それから大変丈夫そうに見えるが、何か健康法もやっているかと聞くと、別にない、たゞ毎日五哩^{マイル}歩くという、それに一時限半かゝる。あなたをその日課に招んだのだということです。如何にもイギリス人らしいので面白く思いました。生活の規律の中に他人まで巻き込んでしまうのです。巻き込まれて愉快でしたがね。その妻君がハーンの従姉だということでした。

柳田 イギリス国民の悠長な所ですね。今まで余り日本の暗い方面ばかり言い過ぎたようだ。樂觀的結論が欲しい。

蠟山 我々自身がこき下ろしをやってしまったな。

万葉の清明心はどうです？

柳田 古代日本の道徳で、やりたいことを卒直にやる、そういう赤き心は日本人のいい性質として永続していると思われる。

蠟山 日本人の原形^{プロトタイプ}【prototype】として……。

三木 日本研究者は、いいような解釈に偏してはいないか？

柳田 清明心を陶冶の理想とするにはやはり条件がいる。万葉の清明心は、やりたいことをやるという点はいゝが、欲する物も取つ掴まえて来るというような利己主義なところもあつたのだから。

今は国民性の練られる時

三木 日本的向上心という……。

柳田 強力主義は憂慮すべきことだ。

蠟山 今後、朝鮮、台湾、広く満州をも入れて帝国の組織を考える時、その中心は、百年二百年後

にはどうなるか。私は一つ心配ももっているのです。日本内地の生産力の発達速度よりも、外地の朝鮮、満州、台湾のそれの方が大きいと考えられる。そうして外地が経済的に繁栄すれば、それに伴って民族問題が非常に大きくなるのではないか。その時も猶、日本は指導的位置に立つことが出来るか。

柳田 単純には樂觀出来ないと思います。

三木 僕もそう思う。日本が優位に立つて解決し得る条件があるかしら。大陸性をもっているのは支那だ。

蠅山 日本人の度胸では使いこなせないものがあるのではないか。朝鮮、台湾人は学校では平等に扱われても、一度社会へ出るともうそうではない。内地人と同じ教養、学歴があつても、指導者階級に入れない彼等は、産業組合など民間のリーダーになる。これが二十年、三十年先へ行つ

てどういう結果になるか。

柳田 会社のことは知らないが、最近役所の方は悪くなったようです。昔、薩長の勢力のあつた頃は、東京の役人に、関東の人など永久に立つまいと思われたが、恐ろしい程の変りようです。恐らく古代の人間は京都がいつまでも都だと思つていたでしょう。世の中のこととはジリ／＼變つて行くのだから、少し氣を長く物を見て行かなければならない。憎い相手でも大國民の襟度をもつて當つて行きたい。

羽仁 (吉一) 日本人の潔癖が妙にコセコセした形で現れるので、満州などで困ることもあるといいますが。

柳田 併し潔癖は根こそぎ抜くべきでない。

蠅山 僕も賛成だ。潔は保存し癖だけ止めればいいですね。

羽仁 (吉一) 大連の女学校で内地へ修学旅行に來

ると、向うで生れた者はやはり大連の方がいゝ早く帰りたいというそうです。日本人に全く大陸生活が向かないというわけでもない。やはり年月を経る必要があります。

杉森 理性的ということは従来日本人の気質として欠けていた方面であると思いますが、今後大いにこれを伸ばし、相手の進歩的分子に理性をもつて訴えて行くことが、最も発展性のあることだと考えます。

羽仁（もと子） 今夜は豊富なお話を有難うございました。

底本：『婦人之友』1937.6

学生・学生を語る

司会者

三木清

清水幾太郎：(1907～1988、東京帝国大学文学部

社会学科卒、唯物論研究会、昭和研究会、学習院

大学教授、社会学者)

中央大学

法政大学

慶応大学

工業大学――【東京工業大学】

明治大学

日本大学

立教大学

商科大学――【東京商科大学、現・一橋大学】

帝国大学――【現・東京大学】

大正大学

早稲田大学

・【以上は男子で以下女子と、底本は区切っている】

文化学院

日本女大

東京女大

津田英学塾――【元・女子英学塾で、津田塾大学の前身】

学生狩・喫茶店・女

記者 今日はお忙しい所を洵まことに有難うございました。

特に今日お出で下さいました三木・清水両氏にお礼を申し上げます。今日の会の趣旨はくどく／＼申上げる必要も無いと思いますから省略いたしますが、最近十四五年の時勢の変遷を見ますと、大学が非常に苦しい立場に立って来たように思います。然し今日程大学なり大学生なりが苦しい立場に立ったことは無かったと思います。学生問題も今日では一つの社会問題として

発展して来ましたが、この際皆様の忌憚のない御意見をお聴きしたいと思います。出来るだけ自由に話していただき余り堅くならない様に、出来るだけ砕けて、ゆつくりと話し合つて頂きたいと思います。…三木さん、何か訊いて頂けませんか。

三木 今日は私に質問されては困るんです。私の方では質問を受けないことにして進行係をすることになりますが、どうぞ御遠慮なく自分の思う事を正直に言つて頂きたいと思います。それに随分今の時代には学生に関係した問題があると思いますが、具体的な問題としては最近行われた学生狩……是は中々旨い名前を付けたもので非常に感心しているのですが、其の学生狩の事から話を始めて、その外まあ色々伺いしたいと思うのです。学生狩に就ては随分色々世間でも問題になつて居る訳でありますが、まだ学生諸

君の纏つた意見が充分聴けなかつた。唯だ早稲田の方がそれに就て意見を發表されたようです。が、其の学生狩に就ての学生の言分というようなものを先ず早稲田の方からお伺いして段々話を進めて行きたいと思います。

早大 A 学生の言分と云いますと、この前聯合委員会の連中が警視庁に行つた時のあれですか。

三木 別にそうという訳でなく、貴君個人の考えの方がいゝ訳です。(笑声)

早大 A どうですかねあゝいうのは……。結局あれは事件そのものに対して確かりした指導方針の下にやつてゐる訳ではないと思う。

三木 それで学生狩に引つ掛つた連中は比較的真面目な連中が多いんじゃないですか。

早大 A 一番不良は掛らないんです。何故なれば、学生狩の行われた朝九時から九時半頃は一番不良は皆寝ている。(一同爆笑)絶対に掛らない。

朝学校の近所に来ているだけでも善良ぢやないですか。(笑声)

三木 商大の方は遠方の方ですから余り関係は無いようですが、何か御感想はありませんか。

商大 A 地理的に非常に離れていますから、それに余りそういった分子がいないんです。(笑声) 慾目でなくて、別にそういう話は一つも聞かないんです。中央線沿線であつたそうですが、商大生では僕の範囲では一人もありません。僕等の問題としては早稲田の方等に問題となつたあれだけを見ているのですが……。

三木 それに就て何か批判はありませんか。

商大 A 警視庁はですね、風俗警察というまあ名の下に、あゝ云つた一率に不良学生と呼んで学生狩をやることは、非常に早稲田のような場合に於いてはかなり行過ぎぢやないかと思うのですが、とにかく警視庁としては、『営業する自

由』というのが憲法にあります、そういった自由の範囲内に於いて少なくとも喫茶店を沢山無制限に許して了つたという事が一つはいけなイと思う。少なくともそういった温床になり勝ちなものを無制限に許したという事があゝ、いった結果になるんじゃないですか。それは別問題としても確かに学生の中にも悪い分子がいるのですから、悪い分子はどしどしやつてもいいが、然しあゝいった方法を採つたにしても、外面上の問題としては大き過ぎますが本質的に学生がどうなつたかということにはならないと思うのです。勿論学生としてもこの際少なくとも学問に真面目でなければならぬと思うが、そうでない分子が沢山いますが、そういった者こそどしどしやる必要があると思う。あつちこつちで検挙されたあゝいう場合に、学校当局としても、もつと肚を持ち具体案を持つて警視庁にぶ

つかって行かなければならないと思うのですが……誰か云つて下さい。

三木 その如何にあるべきかの問題は後に廻して、それに就ての感想を女学生の方から伺いましょう。東京女子大の方向か……

東京女大 A 学生狩に就ては今商大の方が言われたように、初めに喫茶店を多く作らせたという事が一つの原因ではないかと思われませんが、然し学生が慰安を求めて行くんじゃないかと思うんですが、私達には分りません。けれども、日本の学校では学校の中の社交なんというものがありませんし、お互いにゆつくりと寛いで……喫茶店に行つてゆつたりとした気分になるかどうかそれも知れませんが、そう云う風な所が無いんじゃないか。其為にあゝ云う所に行くんじゃないかと思ひます。でも今度の学生狩のようなあゝ云う風な方法を採用してもしよ

うがないと思ひます。頭から抑え付けても結局それは反抗心だけを強くするに過ぎないと思ひます。

三木 大体御意見を伺いますと、当局がどう云う意図であるにしても其の遣り方が拙いという意見が多いようですが、まあ問題としては学生の娯楽と云いますか、現代の学生というものはどう云う所に娯楽を求めているか、或は今仰つた慰安というものを求めているかという事。学生の娯楽の設備、或は機関という様な、そういう問題に移つて行こうと思ひますが……。

文化学院 A 一寸待つて下さい。学生狩というのはいけないと思ひます。是からの人間に学生狩だなんて、そういう言葉を使うということとてもいけないと思ひます。それはジャーナリストもいけないし、警視庁もいけないと思ひます。

記者 其事を一寸云つて置きますが、今日午前中内

務省に行きましたが、内務省の方では『学生狩
という言葉は何処で作ったか非常に困る。学生
の諸君からも抗議を持ち込まれた。あれを付け
たのは或る新聞社が悪いので内務省、警視庁で
は学生狩という言葉を使つてない。其点は弁解
して欲しい』と云う事でしたね。

文化学院B それは大いに改めて貰いたいと思いま
す。

立大A 警視庁ではどういふ言葉を使っています
か。

記者 何かそういう言葉を発明して欲しい……（笑
声）という事でした。

三木 風紀取締なんでしょうナ。

記者 何かいゝ言葉を発明して下さいませんか。結
局警視総監は斯う云う効果を学生狩に依つて得
たというのです。つまり、学生なり大学なりが
自主的に物を考えるようになったということ

ですね。当局がそういう事を考えているとすれば、
貴君方にも言分があるだろうと思いますが。

文化学院C どんな事をしたらそう云う取締に引つ
掛るのでしうか。私の兄さんも引つ掛つたと
いうのですが、（笑声）道を歩いていたら呼び止
められてやられたと言っていました

文化学院A そう云う事に対して警視庁は確乎たる
指導精神があつてやっているのでしうか。

文化学院C 引つ張られて行つたら、引つ張られた
事が悪いという事が分つたかというから、分り
ませんと云つたら、非常時という事は何だとい
うのだそうです。悪いも何もない分りましたと
云えば帰して貰える。皆な狐につまゝれたよう
な顔をして帰るらしいのですけれど……。

立大A 僕の友達で一人捕まったのがいるんです
が、四時頃築地署へ挙げられた。友達の話では、
昼間は喫茶店に入つちやいけないのだそうです。

昼間は絶対に勉強すべきである。夜はいゝだろう（笑声）という訳です。

中大 A その前の問題で、我々学生にはクラスの中で自治的な制裁が行われて居ると思う例えば彼奴は質の悪いアパートに居るとか、呑助だとか、質が悪いとか云えば、自然相手にされないんです。それも三十人に一人か二人位で、てんで問題にされない。学生という者はお互いに干渉しないように見えますが、案外お互に噂して完全にやられます。そう云うホンの一部の学生の為に我々迄そういう誤解をされては困るのです。どうして困るかという、我々の兄や父が、大學生という者は偉い者だと思つて苦しい中から金を送つて寄越すのに、東京に居つて斯う云う目に遭わされたと言ふ事になると……実に気の毒になるのです。（と眼を見開いて真摯な態度）

三木 実際今仰つたように学生社会にも自から制裁

があるという事は当然の事で、殊に風紀上の事に就ては自から昔からのジツテと云うか、道徳がある訳だろうと思うのです。だからしてそういう事は、当局の考えて居るよりも、学生の間から道徳的な制裁と云うか、道徳があるだろうという事は私も成程と思います。然しとにかく昼間にしろ夜にしろ何か娯楽を求めなければならぬということになれば、そういう設備というものを学校で何かやっているかどうか、或はどう云うものが一番求められているか、今社交というような事もありましたし、喫茶店が多過ぎるという話もありましたが、そういう問題に就て明治の方どうです。

明大 A 娯楽機関の事です。

三木 学校が何もして呉れないとか、或は娯楽とは云いながら色々な目的に使つてしまふ様な事があるが……

明大A 僕等新聞をやっているの、学校に娯楽

機関を置くべきかという事に就て学生に聴き又学校に訊いた事がありますが、学校では、学校は娯楽機関でないから娯楽機関は置かないといふのです。で今食堂が無いので善良な生徒が外に出るのは困るから、百人程度の食堂を造ろうという議があり、又娯楽機関より運動用具、例えばピンポンのようなものを設けてなるべく学校に引止めて、後は自発的に待つというのです。実際明大の学生は、外へ出ると恐ろしいので、後ろの公園にシーツゲームがあるので、公園で遊んでいます。(笑声) そんなところです。娯楽機関は全然やらないと云つて居ります。

三木 津田辺りはどうですか。

津田英学塾A 汚らしい学生ホールがあるだけです。娯楽機関なんか大して……

明大B 学生が喫茶店に行くとか、ニュースを見る

学生・学生を語る

とか、麻雀に行くとか、そう云う事は設備が無いから行くのでしょうか。もつとく深刻なものがあるんじゃないですか。学校に喫茶店を設ける事は考えられないが、娯楽機関を設けると云つても大した事は出来ない。その位の事で果して外に出ないで学校に止まるかどうか。

三木 それは重要な問題でしょうね。

日大A 生活的空虚と学校制度の欠陥が吾々学生を斯る場所に出入せしめた原因だと思っています。私も事変前参つたこともありましたが其の目的は決して不純なものでなくレコード名曲の観賞でした。然し斯る慰安は事変下の今日皇軍将士の労苦を思う時は当然制限せられるべきものと思います。又一般に学生間には自発的に此の結果が挙げられて居ると思います。消極的な弾圧よりも積極的に学生を指導する方策はないものでしょうか、僕は如何なる社会に於いても、其処

に異分子の存在することを絶対にならしめることは、その単位が大きければ大きい程困難不可能なことと思います。そこで学生と云う用語が示す範囲より考えその主流の行手が確実なればそれでよいのではないかと思います。

三木 今の下宿屋の生活というものは殺風景なもので、そう云う事も随分関係して居ると思います。が、其外に例えば男女の交際と云うようなものに対するなんと云うか、そう云うものが現在日本では許されてないと云うか、公けに出来ない訳ですが、そう云うような事が行われぬ為に喫茶店なんかに行くということはかなりあります。か、どうですか、今のお話ではそういうような事が考えられるのですが。

明大 A それはあるらしいです。警察でもそれを認めている様です。捕まった人に訊くと学生服を着ているからいけない、浴衣に着替えて行けと

警察でも云つて呉れる位ですから（笑声）

大正大 A 男女学生の交際という意味から出来るだけそういう交渉を持ちたいと云う気持ちで喫茶店へ行くのは余り無いんじゃないですか。喫茶店に対してはもつと違つた解釈をしているんじゃないですか。世間ではこの結果を以て男女の交際が無いからと云うが、それは学生が喫茶店に行く理由にはならないと思う。喫茶店は元々変態的な存在だから、其処に行くということは大體が合理的意味を持つて多勢の学生が行くということは肯定出来ないと思う。普通、世間ではそう云う事を云うけれども男女学生の交際という事とは違うと思う。

日大 A 一つ／＼の問題に就て学校々々で各々特色があり、違つた意見があると思いますが、各学校の人に就て意見を述べて頂いたらどうですか。僕等の立場としても総ての問題に就て意見があ

るんです。

三木 それでは時間も掛ることですから、意見のある人には云つて頂きましょう。

日大 A 外の学校には無い特色と思いますが我々の学校には学年制度というものが無く科目制度になつていまして、専門部と学部と一緒に聴くのもあるし、他の商科と工科の学生と一緒に聴くのもあるので、教場が空いたことは全然無い。学校も狭いし、必然的に外へ出なければならぬ。明治の人のように裏に公園でもあればいいのですが、(笑声) 私達の学校では靖国神社迄行かなければ無い。で自然喫茶店へでも行かなければしょうがない。学校でもそれに就て色々苦心しているようで僕等も再三呼ばれて其の意見を訊かれるのですが、学校に麻雀とか碁とかピンポンとか、そう云うものを用意してやろうかという意見もあるのです。然しそういう事をや

ると、公然学校で作つて呉れたものだからという訳で其方に熱中し、講義に來ないでそれをやるおそれがあるというのですが、それに今迄の皆さんの意見を聴いてみましても、学校は学校としての立場があるので、現在の取締を一手にやるというのも学校中心として考えた場合に片手落のような氣もするのです。

三木 實際、運動場も無い学生集会所も無い学校が随分ある訳ですから、そう云う点に於いては学校の設備が足りないから当然何処かに休講の時間には行かなければならない。まあ喫茶店に行くとという事が起る訳ですが、然し喫茶店というものに行くということは、日本の喫茶店というものとは特殊なものですから、例えばそういう学校の設備なんかも重要ですが、それ以外に生活の解放と云いますか、是迄より何か新しい生活の自由というものを求めるような氣持が、あゝ

いう所へ行かせるというような事もあるんじゃないかと思うんですが、詰り今云う様な男女学生との交際ということも生活の一つの自由ですが、そういうような所から非常に変態的な満足を求めて居るといふような所がありはしないでしょうかね。

立大 A 喫茶店は一つの休憩所のような所があるんじゃないでしょうかね。それで男女の交際というようなものは、喫茶店の給仕に出る女の子なんかと話をするという事が一つの男女関係になるでしょうけれども、そういうのは非常に、もっと純な関係にあるんですね。一つの恋愛とかそういうものでなくって、だからあゝいう所へ行くとこの事は男女の交際が少ないからとは一寸考えられないと思うのですけれども……。

明大 A やはり三木先生の仰ったような点も大いにあると思いますが、先程大正大学の方も仰った

けれども、高尚に考えたらそういう事は考えられない。

大正大 A 喫茶店に行くといふとか悪いと云うのではなく、AならAのグループ、そういう雰囲気に近い連中が行く。男女の交際を求めたいという者は寧ろ日米学生会議に参加するとか、読書会に参加するとか、一の団体に加入しようとする様な連中が多いので、そういう連中が割合本當の意味で男女の関係を求めようという気が本當に熾烈であつて、喫茶店に行くのは下等というに変ですが、一段下です。変態的(?)と云うのが都合がいゝが、そう云う気持ちで行くと思う。喫茶店に行くグループの者には軟派と迄は行かないまでもそういう色彩があるんじゃないですか。

立大 A そう云う事は云えないと思う。

日大 A そんな極端に俗な事はないと思う。

大正大A 僕は余り行かんから一寸そう云うような

氣持で見るんですけれども……。

明大A 喫茶店のガールを止めて男にしてやって行けるでしょうか。

日大A 喫茶店に行くにも一人々々行くのは少ない。五六人で友達と一緒に行って、附けたりに女をからかつて、お茶を飲んで帰る位が関の山でしょう。

明大A 女と交際しようとか、女と話をしようという事が、無意識的に働いて居るのぢやありませんか。

日大A それは附屬的な意味ぢやないですか矢張り時間が其処にあつて、其の時間というものを何かに利用するということは人間生活の本能ですからね。道に馬鹿みたいに立っている訳にも行かないから、女の人に関心のある訳ではなくとも終始出入りするものであつてそこは詮議のしよう

うが足りないと思う。

文化学院D 女の人は……。

大正大B 喫茶店へ行く人は割合決つて居るのぢやありませんか。

三木 文化学院の方どうです？

文化学院D あのネ、男の方は喫茶店に行く方が多いのぢやありませんか。女と交際している方も喫茶店に行つて居る方が多いですね。

大正大B 要するに違つた関係ですね。喫茶店の女を鑑賞植物と云つて居る。あれは普通の野菜ぢやないから煮て食うのとは違ふと……（笑声）

文化学院A そんなこと失礼と思いますツ。

学生さんの心の中にそう云う氣持のあることは失礼だと思ひます（と大いに氣色ばむ）

大正大B そう云つた氣持で鑑賞植物という積りで居れば間違ひが起らないと思う。詰り喫茶店の人を見下げた氣持で居るのです。

文化学院B 喫茶店に行くのは単に女の子を求めて

行くとは思いません。冷たい索漠とした生活の中に温かい雰囲気求めて行くのです。

大正大B 實際的に云つてね、そんなセンチメンタルな気持から行くのぢやない。

文化学院A そんなことはないと思います。

帝大A (文化学院に向つて) 貴女はそう言いますかね、索漠たる中から潤いのあるひと時を求めに行こうと云うのですが、そういった場合に喫茶店の何処に潤いがあるか。フアクターが何処にあると考へますか。女ですか。

文化学院B それは雰囲気ですね。

帝大A 一体その雰囲気は誰が出すのです。男子ですか、女子ですか。

文化学院B 結局女だと思ひます。

帝大A ぢや結局鑑賞植物に賛成した意見になりませんか。

文化学院B 案外男の方つて不真面目なんですな。

帝大A 不真面目ぢやありません、僕の感じです。**文化学院B** では私はそれに対する感じです。

帝大A どうも有難うございました。

立大A 喫茶店に女の子の代りに男の子を置いたら矢張り行かないでしょうね。

中大B それは行きますね。

日大B 行きますよ。レコードや外のものに作用されると思います。レコードのいゝ所へ行くし、音楽を聴いて居る時は女の子をからかいませんし、又持てる顔ぢやありませんし。

大正大B 大体喫茶店に行くのはたまに行くというのは少ないね。今度の検査では偶に行つて捕まつたのがありますが、實際は入りびたりが多い。女の代りに男を置いたら矢張り行くかという事になると、それは相当あると思いますが、喫茶店に女が無いと現在の雰囲気というものが無く

なるし、現在の喫茶店に対する批判は出来ないと思う。

三木 喫茶店の問題は権威者でないから能く分りませんが、とにかく現在喫茶店に行く学生がいると、それはまあ色々な心理から行っているのでしょうが、そういう何か喫茶店に行かずに居られないような気持というか、もつと何か広い意味に於けるデカダンの気持といつてもいいかも知れませんが、とにかく今云う習慣的に行っている者があるとすれば、そういう学生を捉えて居る一種の頹廢的な気持というものに就て、果してどれ位の程度にそれがあるものか、或はその原因とかいうようなものに就て御意見を伺いしたいと思います。帝大の方ですか。

帝大 A 余り行つた事が無いので分らないんです。

三木 貴方が行かないでも、現在喫茶店に相当の学生が行っているとすれば、どういう気持で行つ

ているかという事をもう少し広い立場から考えて、例えば現在社会に光明を見出ださないとか、或はそういうような一般的な社会的な政治的な雰囲気というものの、そういうものは影響しているかどうか……。

帝大 A 然し皆な行く人には、結局同じものになるか知れないけれども、個人々々に違つた理由があるんじゃないですか、例えば僕の知っている人の中で、疲れた時に行つてゐる者があるし、女をからかいに行つてゐる者もあるしレコードを持って行つて聴くものもあるし、結局全般的に問題を持って行つたら、僕みたいにそういう方面に知識の無い者は言えないと思う。

学生・時局・學問

記者 今度の検挙は社会的に二つの理由があると思う。一つは最近の学生が昔と違つて怠けてい

で勉強をしないから此の機会に親心を以て警告を与えてやろうという、もう一つは学問の貧困、大学の貧困、教育の革新というところにある。我々が今日知りたいことは、そう云う学生がどう云う風に時局を認識しているか、又学問に対し、思想に対しどんな考えを持つていられるかということを広く全般的にお伺いしたいと思ひます。

三木 それが一番重要な問題です。

帝大 A 結局社会情勢の変化の直後高等学校が文化的に凋落し、それから入つて来た帝大生の中に、一つの光明を守つてゐる者は図書館に入りきりだし、それ以外の者は全般的に何等の文化的な慾求を持つていないということも云えると思う。そうして青春の血の流れるところ自ずと喫茶店に行くんじゃないですか。その位にしか云えないんです。

三木 今の意見に対してどうですか。

明大 A 確かにそういうものが働いてゐるんじゃないですか。僕は簡単に云えば理論の貧困教育者の貧困と云いたいですね。

立大 A やつぱり学生だけを問題にするんじゃないくて、社会的な一つの流れというものが非常に頽廢的なものであるし、学生だけを其の中から取除けるということは出来ないと思う。やつぱり若いサラリーマンがカフェーに行つて酒を飲むとか、バーへ行つて飲むとかそう云うものが学生の中にも非常に強く響いて居るんじゃないのですか。そういう、何と云うか一つの社会的な色というものが学生を包んでゐるんじゃないですかね。

三木 工科の方面は比較的景気がいゝ訳ですが、工科の学生の方はそういう問題に就てどうですか。

工大 A やつぱり先程帝大の方が仰つたように、今

工科の方は特に忙しいようですが、いやに詰込みをやるように見えて、実際学生の求めている事を詰込んで居るのでなく実際工場の求めている事を詰込んでいるので工科の学生と云つても学校の事に余り熱心になる訳ではなく、文科の学生の方と変りなく学校それ自身に空漠を感じていますから、やはり僕等の友達の中にも喫茶店に行くのも沢山あります。やはり外の学校と同じように相当にだれているんじゃないかと思います。

三木 中央大学の方はどうです。

中大A 僕達は御存じのように法律一点張の学校ですし、色々社会上のそういう事も考えますが、僕達としては決まったドグマを持つて学問をし頭を腐らして、自然に学生の求む歓楽境に落ちて行くのだろーと思ひます。然し一部の学生は法学生は本を読みさえすれば学校を卒業出来る

というので学校へ出ないで唯籍だけ置いて勉強して居るような人もあります。其の人達が所謂喫茶店とかいう方面へ行つて居るので、普通の人は僕達の学校では行かないと断定してもよいと思ひます。

中大B 教育者の貧困ということを誰か先程仰いましたが、あれは確かにあると思ひます。文部省当局も少し責任があると思ひます。警察が或程度迄親心を以て云々と云ひますが、是がどうして起つたか。現代は思想的にも転換期でありまして、定まつた学生の……例えば昔なら、自由主義なら自由主義ということに依つて徹底的に教育されたが、今は何等そういうようなイデオロギーがない。全体主義を奉じて居ると云つてもそれが徹底してないし、学生を導くという点に於いて一定の方針のようなものをもつて居る人が教育者の方に無いと云つてもいい。文部省

の勤勞奉仕の問題に就ても、あれはとても僕は

いゝと思う。親が一生懸命稼いでいるのに伴が喫茶店に行つて遊んで居るといふような場合に於いて、それは非常時局を認識しないと云つて学生を非難するならば、学生は特殊な階級であつて、本を読んでいれば済む、金を貰つてやつていれぱいゝ生活（という）と語弊があるようだが）其の意味に於いて実社会の人と学生を比較することは良くないと思う。時局を認識していても認識するポイントが多少他の人とは違う。一方は具体的であり、他方は抽象的である。勤勞奉仕は地理的場所的には考うべきですが、非常にいゝと思う。がそれに対する文部省の方が積極的に出て居ない。何等それをいいならいゝ、悪いなら悪いという風にはつきりしない。斯う云う時局になつたら積極的に乗出して呉れないければ困る。学生も自から進むべき途が分らないの

だから。

帝大A 今中央大学の方がいわれましたけれども、一寸考えてみると、最近の世相というものは尋常一様の世相ではないと思う。結局日本としては未曾有の悲劇的な時代であると思う。それに就て文部省が乗出せの、警察が見当違いの取締をやっているのと我々が騒いでもしようがないと思う。

中大B 今学生が世相に迷っているのですからそれに解決の何かを与えるのが至当ではないかと思う。

帝大A 要するに不良狩に就て、左翼思想で挙げられるよりも珈琲飲んで挙げられた方がいゝと、相当の知識階級の家庭の人が云つた。其に現れる良風美俗というか、ともかく日本の家族制度の貧困さを考えたら我々は誰にも頼らないで、失敗してもいゝ、とにかく突き当つて自分

の力で打破して行く。其の氣構えこそ我々が持つ真剣な態度ではないか。我々はひねくれ者でもない。変に甘つちよろいようなものとはとにかく個人的な力で押し除けて行く。それでなければ我々人類の将来は無いと思う。そういう意気を持ちかけて居るということは帝大の学生等に案外多いのではないかと予想しますが。それからなんと云いますか、とにかく悩むだけ悩めと私は云いたい。

中大B それだけの自由を与えて呉れ、ばいいと思いますが。

帝大A 満州や北支で、あれだけの人が尊い犠牲となつてゐるのに、蒼白い、放つて置いても畑も耕せない様な大学生をあんなことでかつぎ出す日本ジャーナリズムの貧困さを考えたい。今は只、涙を要求されるような時代ではないと思うのです。

明大A 僕は不良学生は面炮ニキゼと同じで、放つて置いても身体を壊す事は無いから、放つて置いてい、面炮と同じ存在だ、そう云いたい。

三木 法政大学の方はどうです。

法大A あゝ、いう所に行くのは異常な社会的思想の混乱と、大学生それ自身が今迄もつていた特権的な学校を出れば偉くなれるというような気分が案外なくなつて、失望を感じているからぢやないかと考えます。

帝大A 大体不良狩とか学生狩というのは、欧州戦争直後の社会政策等を見てもそういう傾向が窺えるのですが……

記者 先程から沈黙を守つていられる清水先生、この辺で如何に生くべきかということに就て考えられ又書かれてゐることですし一つ警鐘となるようなことを……

清水 まあこゝ何年間、学生悪玉観という観方が

あるんじゃないか。学生が個々の悪い事をした、

しないより、学生一般が良くない存在だと考えられていた様なことがありますか。

例えば夜遅くなつて学生と何処かの商店員が不審訪問か何かされた場合に、商店員は軽く済むが、学生なら何かあるというように特に悪い者に扱われる。学生が悪玉の代表者として見られて居ることがあると思う。そういうことを気付かれたことはありませんか。学生の信用というものが無いね。其処の点を……

三木 信用が無いということは要するに思想問題ぢやないかね。

文化学院A それは学生を理解してないという所から来るんじゃないですか。全然違つた世界に住んでいることからくるのではないでしょうか。

清水 前から違つた世界に住んでいたが、昔は違つた所に住んでいることは尊敬されていたんじゃないか。

ありませんか。

文化学院B 今でも矢張り尊敬の意味があると思います。

清水 それもあるが、そうばかり云えない。昔から比べれば信用が無い。

明大A 其の点ですね。僕は今日の学生が明治、大正時代の学生と違つて来た。所謂悪くなつたというように認識する方が問題ぢやないかと思うんです。それはまあ社会的に云つても亦個人的に云つても考えられることで今そうしたことを問題にしている人は四十、五十の人であり、その人達のもつ人生観、世界観で僕達を見た時、それは親父から叱言を云われるのと同じで、其処に将に伸びて行くとする僕達という人間と、三十年、四十年先にそういうものを持った人と衝突するのは当然で、今四十、五十で相当な地位に附いて居る人、其の人達の進むべき道はア

スファルトに敷かれたレールの上であつた。其上に乗れば独りでに走つて行ける。そして四十年も五十年も走つて来た人の前途にすらレールが無くなつて了つた。僕達の親父は僕の若い時はあゝだつた斯うだつたと回顧的になつて行く。時代的にも僕達が云う迄もなく回顧的になつてゐる。人間その者も回顧的になつてゐる。それで自分達はレールの上を走つていたらいゝが、自分達が走つて来たその先にどういふ物を備えてやらなければならぬという考えはない。若い者が進むレールが無くてもそれは君達が自分でレールを敷いて走つて行けという。その意味に於いて今の学生を批判する人にも僕は半分の責任を持たしていゝんぢやないかと思うんです。

日大A 私達は今の意見に反対です。自分からぶつつかつて行つて開いて行かなければならないと思う。教育というものは平面的な時計が深さの

ある時間を現すようにして行く、つまり各自が実行する事だという※「#不明文字「こと」か？」になると思う。自からぶつかつて行つて本当に体得しなければ掴めないと思う。それに我々が一番現在束縛されるのは家庭です。家に心配を掛けてはいかんというものの以外には何も無い。ぶつ突かつて行こうという事がそれに阻まれる。それぢや開拓出来んぢやないかという所に矛盾があると思う。我々は家をどうしても考慮に入れる。我々が本当に自分達で考える事は、確かに指導も必要ですが、先ず開拓して行くという事が必要と思うのです。

明大A それは結構です。行動的に理論的に自由を与えられることが一番理想的だと思ひます。

大正大B 教育の貧困という事を仰つたが一応正しい現在の時局に対するはつきりした態度で我々学生は行動しなければならぬと思う。日本は

今世界史的にどういふ位置に在るかということ
を矢張り日本の学生は一応考えて見る必要がある。
例えば都会の学生、山形の学生に区劃があ
り、或る点は又は同じ空氣を吸っている点があ
るんじゃないか。そういう点に於いて我々は一
応やはり正しい吟味が必要ぢゃないかと思う。
正しい点がどういふ点に於いて残されて居るか、
その吟味をする最も素直な方法が何処にあるか、
それを我々が見失っているか、もう一步突つ込
む必要があると思う。

三木 慶応の方はどうですか。

慶大 A 実際我々學問をやっている者は、日本の
現実と我々が學び取った西欧的な思想というも
の、対立が、事実我々の頭の中で混乱して来て
いるんじゃないかと思う。日本的現実に即して
どうしてやつて行くかという時にやはり科学的
な理論を追つて居る所の学生はどうすればよい

か。しかし事実どんな偉い人でも今は恐らく迷つ
ていると思う。確乎たる思想を持つて居る人は
飛躍的な理論を有つて居る人達である。それな
らば僕達は何う進んだらいゝのか。それに指導
者がなければ動かないという事が生れて来る。
上から命令して呉れないと自分では能動的に動
けないということになる。小心翼翼として消極
的な人間が生れて来る事になる。そこで理論的
にどう行くか、學問的には現状分析が出来てい
ると思う。それならば僕達は神憑でない新しい
理論を生み出さなければならぬ。我々の悩み
は生みの悩みである。それは若い我々学生の手
で作り出さなければならぬと考えているので
す。

帝大 A 現在日本の問題となつて居る事は、支那事
変というものと全然關係のないものは無いと思
う。学生社会も特殊社会とは云え社会である以

上関係がある。そして現代の学生は、自分の学校から先生が出征すれば旗を持って送るし、親類から行けば送って行くが、然し自分は学生なるが故に一応戦争と遮断されているという慰安があるんじゃないか。それこそ、時局認識を阻害する大なるものと思う。我々はそういう根性を叩き直すことが時局認識を新にする道だと思う。我々日本を背負って立つという意気込みで行かなければならない。そういう真剣な態度。何も旗を持って行く、軍歌を知っているということではなくもつと掘下げた、真剣な態度こそ必要ではないか。それは自己を苦しめて自己を磨き上げるといふ日々の活動以外に無いと思う。我々は誰を怨む必要もない、自己を怨めばよいと思う。

三木 女の学生の方の意見を伺いたいと思いますが……、どんな事でもいゝですから時局認識の問

題で……。

文化学院B 今の一般の学生はいまいわれたようなことに関心を持つて熱があるんじゃないかと思えます。けれども今仰ったことでかなり苦んでいるということは分りますが、私達は中河與一先生が国語の時間に日本主義の事をお話になりますので、日本主義に対して先生に色々質問しますが、よく議論になることがあります。で今迄のイズムから抜け切れないで何か矛盾を感じて、新しいものを見つけようとする所に討論が抗論になることがあります、それぢやないかと思えます。やつぱり日本主義とか国家とか、そういうものを一歩高めたいという気があるのぢやありませんか。

三木 どうですその他の方は……。

津田英学塾A 今の学生が時局を認識しないというけれども、どういうのが正しい認識かという

事は問題です。とにかくそれ程深い関係を持たないから深い認識を持てないのが普通でしょう。其認識が無いと云うより自分自身に問題を有たないために追求して行かないのが学生の欠点だと思います。

勿論社会の問題に対して認識しようという努力はしなければならぬのですが、その努力はつまり学生としては一生懸命科学的に追求して物事な考えて行かなければならない。自分自身の問題として飽く迄も追求的に出て行かなければならない。追求しようとするれば自分だけが動くのではなく、頽廃的な風潮に向つて居る学生に対して積極的な態度に出なければならぬ。そうして一緒になつて勉強する様になれば少しでも向上が出来ると思います。

三木 その一緒に勉強しようという組織は許されて居りますか。

津田英学塾 A 許されては居ませんけれども態度と

してはそうなければならぬと思います。又或る程度迄許されると思います。私の方では、研究会を四月から作つてやっています。

文化学院 C 何の研究会ですか。

津田英学塾 A それは哲学部、史学部、文学部と自然科学部と数学と音楽です。入る方は少ないし、又指導者を呼ぶことは費用の関係もありますし、全く自主的な態度で生徒だけでやっています。

帝大 A 僕等の方では座談会を下宿等で本を全然使わないでやっているのが相当ある。一人々々で人間的に叩き上げようというように伺える節もありますね。それもいゝ行き方だと思う。とにかく友情関係は期う云う時代に出来ると思う。

日米支の学生達

三木 色々伺いましたが、最後にもう一つ……比処に来て居られる女学生の方は日米学生会議のメ

ムバーの方が多くそうですから、何れアメリカの学生等にお会いになると思いますが、事変に就て何か説明を求められた時にどういような事を答えられるか、それに就ての感想なり意見を述べて頂きたいと思います。

津田英学塾 A とにかく国策の線から離れない限り

本当の事を言いたいと思いますが、余りジャーナリスチックになり過ぎてはアメリカの人達は満足しないし……。

三木 そつちの方どうです。(と女子大、文化学院側に眼を向ける)

文化学院 B 女の人は一体……女の人を見る男の人の為に生きて居るのではないでしょうか。そうして男の人は余りにそういう様に女の人に要求し過ぎて居ると思います。自分の情熱の為に生活して行こうという考が足りないと思います。一寸前はそうでしたが、今はとてもそうなりつゝ

あると思います一般に……

三木 今のは一寸問題が外れて居ると思います。

……アメリカの学生が来た時に、アメリカの学生に事変の説明を求められた時、どういう態度で対するかという事です。是は女の方ばかりでなく男の方も意見があつたら一つ伺います。つまりインテリゲンチャと国際的な問題です。もう少し云えば何か支那のインテリゲンチャとアメリカのインテリゲンチャに斯う云う事を云いたいということがあつたら云つて頂きたい。

早大 A それに就て女の人が……女子大とか津田英学塾とかそういう方面の女の方が一寸も喋らないということが日米学生会議の時には影響を齎されて、結局何も喋らずに済んで了ふことがあるのぢやありませんか。

立大 A 日米学生会議は今年は出ませんが、一昨年に参加しましたが、部門は宗教という非常に

リミットされた問題ですが、外の部門のプログラムを見ますと、我々の少なくとも要求している問題に少しも触れてないと思う。今年のプログラムも準備委員会のを拝見しましたが、それはどういう問題であるかというと、日米関係の移民問題、それを人道的見地から見たらどうか。国家の政策的見地から見たらどうかということの色々と議論する。或る程度迄裨着している。少なくとも日本の学生と米国の学生とが、或る一つの若さで触れ合つて、赤心を吐露して、何か本当のものを握るというのでなく、又向うからハーバードから誰が来た、エールから誰が来たという風に個人に重きを置くというのでなく、ハーバードが出て居った、エールが出て居ったと学校を問題にする。帝国大学なら帝国大学の何の某が出たというのが問題でなく、帝国大学が出て居った、東洋大学が出て居ったとまるで

学校から一人の化物が出て会の構成分子を成している形である。具体的な人の名が必要なのに学校の名前を似てやつて居る。そういう寄合世帯で議論する事が何かと云えば少なくとも我々の實際生活と関係の無い様な移民問題をどういう風に解決したらいい、かという様な事である。意見としてはどうとも云えましようが、あれだけ莫大な金を掛けてやるのに、会議としての効果が無い。ピクニックに行つた様な時に個人的な意見の共鳴を得る位の效果に止まる。今度参加される方には是非望んで置きたい事は、今年は時局が時局ですからどういう事になるか分かりませんが、一昨年の経験から云いますと、相手の意見に不服の点があつても追求して議論するのではなく、お互に自分の書いて来た原稿を或る程度迄読むという形式の会を作っているのです、日米会議という名前は立派ですが、中味を割つて

考えると或る程度迄殻を着て核心に突っ込んで行かない点が遺憾な点です。もう一つ問題として取上げるものが我々の生活から離れた問題を取上げることである。社交の方面を通して今迄のようなお座成りでなく、積極的に我々若い者が意気と誠意を似て触れ合う。あゝいう種類の会議としてはその位の効果しか望めないし、それで会議の使命は達したのではないかと思いません。

帝大 A 僕は支那のインテリに伝えて貰いたい事がある。日本のインテリは何物をも捨てて戦いに勝とうと願って居るだけでなく、もつとく大きなものゝ為に盡すという熱意というものゝ火を消してないということをお願いしたい。それでアメリカの学生に対してはとにかく根柢として、善悪共に含まれているだろうけれども、窮極に於いて年限は掛るが、世界の求める正義という

ものゝ実現の為に日本のインテリゲンチヤは誠意を失っていないということです。僕はその会議に国策とかそういうものに触れる必要は無いと思う。

文化学院 A 話は別ですが、私達日支が戦って居るといふことから、支那のインテリゲンチヤが何千年の文化を其の人達の背後に持つて居るといふことによつて、彼等にどういふものを齎して居るかといふことを私は知りたいと思ひます。日本人とくに日本のインテリが長い歴史の間持つて来て居る何かしらと対照して、支那のインテリのもつて居る支那文化の伝統的な教義、そういうものがどういふものか、とつても知りたいと思ひます。私の学校には残念ながら支那の人はいないんですが、戦争といふことにどんなに血を流して戦つても、最後に来るものは文化の交流だと思ふのです。

東京女大A 一言云わして頂きます。文化の交流と

いうことで思い出したのですが、先程立教の方の日米会議に対する忠告は有難いと思いますが、失礼ですけども日米学生会議というもののに対する認識を間違つていらつしやると思うのです。又第三回と今とは余程違ふと思います。今度は第五回でそこに大きな進歩の開きがあると思うのです。そこに第一の間違ひがありませんでしょう。我々は日米学生会議のその結果を目の前に置かないでもいゝ。五年先、十年先に置いていゝと思うのです。そこに行違ひはないでしょう。か。言語の事を仰つたけれども、それはハンデキャップがあるので残念だと思ひます。是は止むを得ないと思ひますが、今度は言いたい意見も言えずにしまうという事の絶対にないように通訳を入れて、時間を要しても私達は全部言いたい事を言いたいと考えて居ります。今度は

成るだけ少なく人員を制限し、リポートは五分位にしてデイスカッションを多くしようということにしていますから今度は違ふと思います。又デイスカスする問題が余りに多く我々の生活に関係が無いと言われましたが、移民問題にしろ直接関係はないか知れないけれども、我々も日本の国民の一人である以上結局関係している問題ぢやないんですか。長い年月をへて本當に分つて頂けば、日本を知らずにいる人達と違つたものが生れて来ると思ひます。そういった意味で一寸見ると我々に関係しない問題が多いように思われるか知りませんが、矢張り重要な問題ではありますまいか。今度は人数を制限して沢山の部門に分けてやろうと思つてゐるのです。

津田英学塾A 帝大の方の仰つた事に關聯して……

支那のインテリ、アメリカのインテリ、日本のインテリに言いたい事ですが、文化の価値を認

める以上はやはり活力を持つて向わなければならない。大きな文化というものを認めて、其の発展の為に活力を持つて盡すという点に於いて

はどの国に於いても共通だと思えますから、そういう所が抛りどころとなつて日米會議にしろ開かれるのであつて、その効果というものが勿論考えように依つてはとも望めないことも随分多いのですが、各国のインテリというもののだけの性質としては、やはり指導的な立場に立っている。国家というものを超越して文化というものゝ、発展の為に盡すという意味で各国の間に會議を開くのですから、そこに重きを置きますとやはり會議の価値というものが認められる。自然私達としても元氣が出て来る訳です。

文化学院 B 先生ッ、日米学生会議があつてイタリーとの交換学生があるのですが、支那とは一体何故無いんですか。

三木 現在はともかく戦争して居るから無いんです。まあそういう所に日本のいけない所があると思ひます。

帝大 A 従来も支那とはあつたんですよ。結局それが不完全だということは、支那から沢山来ても日本から余り行つてない。日本人は直ぐ外に行くと壁を立てるといふ性格的な欠陥がある。つまり支那は過去に於いては文化が高かつたが現在には低いということを見て……然し支那のインテリは日本のインテリと問題にならないような面を持つてゐる。それを夢の国の坊ちゃんがやっているように考へてゐるのですが、それは大いに考へなければならぬ。

文化学院 B 日本のインテリが米国のインテリを相手としてゐる態度と支那の学生を相手としてゐる態度は精神的に非常に差違があつていけないと思ひます。

日本女大 A 学生狩ばかりでなくそういう事をやって頂きたいと思います。

文化学院 A 向ふから石炭や石油を得る許り能ぢやない。より聡明な学生とかインテリを助けて文化の交流に貢献してやるのが本当だと思います。

帝大 A 十年前の支那の学生は魯迅を守り得なかった。然し現在は蒋介石そのものを引摺って行く、蒋介石、李宗仁が日本に叛逆すれば生かして置けないという実力を獲得したことは歴史上無い事だと思う。

文化学院 B 蒋介石をも動かし得るような支那の学生に日本の学生がぶつかって行けばいい、と思います。聡明な北支の学生でもいい、と思います。
帝大 A 然し僕は日本の学生に対して悲観的です。僕は体験を云うんですが、苦難の裡に育つ

1 (1890～1969) 中国の軍人・政治家(国民党幹部)。広西軍閥の領袖。

た学生の悲劇的な力と金持の温床の中に育った学生の力は根柢的に問題にならないと思う。

文化学院 B それは戦争へ行つて身を以て戦つて本当に体験した人が帰つて来てから後でもいい、と思います。

帝大 A 戦場には農民とインテリとの対立がない。都会では寧ろある。其の融和がどうなるかは刮目していてもいい、と思います。また僕は思想の貧困と行動力というものは一体的なものだと思う。日本の学生は支那の学生に比べて思想は高いでしょう。然し地に付かない。行動力を持ち得ないし、それに教えられて得る経験。支那の現代の遅れた文化に於ける唯一の光明である学生、それから全体的に考えて純粹に本から得た知識は少ないであろうけれども、真の文化的知識の青年層学生層は日本より数等上だと思う。

商大 A 思想は行動力と一体でなければならぬと

云うのですね。

帝大 A そうです。日本は過去に於いて遠ざける事に甘んじて居た。

商大 A そういう点に於いて我々学生層は不生産的だとか云つて、外面と内面と、二つの間にギャップがあると思う。我々の行動力の間に理論を實踐しなければならぬ時に、実践の方は極めて強固な限界を置かれていると思いますね。そういう点を我々は何時も心構えとして持つている訳ですけれども、そういう場合に何か云えない問題にぶつかる氣もしますが、思想と行動力とは一致しなければならぬ、一体にならなければならぬという言葉には時代的の制約が非常に強いと思う。

帝大 A 僕は能く分らないが、時代的な制約が確かに詰めて行けばある。日本の学生は理論的に云えば正しいんですが……。

商大 A 理論ということではなく。

帝大 A 実際あるのです。然し、それに敗けているんじゃないですか。

商大 A それよりも敗北主義とかなんとか、氣持の上で敗けておどけて居るということはありませんか。

大正大 A 我々学生は五年間乃至六年間学生生活をするが、其の年限が経つてしまふ社会人として巣立つて行くので、学生だけの歴史に終るのでなく、学校が終つた時に学校の歴史的な生活が全然解消するのでなく、多少影響して行くのですから、学生の時は学生として社会に影響するし、又学生としては来るべき社会という大きなモメントを学生の生活に於いて、意識無意識を問わず包含しているものがあると思う。吾々が時代的な時期々々の物を取扱うということは、或る事件のみを考えるのでなくして、学生らしい考

え、学生としての批判が其の事件を通して、其の得たる教養乃至學問に就て為される。学生生活としてのみの生活でなくして其中に社会的なものを取って行かなければならぬと思うのです。

立大 A そういう所に於きまして、誰方が仰つた物を貰いて行くのに、今の立場として少くとも身体的に或る点迄束縛が殖えて来るという気がする訳です。

帝大 A アルバイトディンストの話で結末を付けたらどうですか。

商大 A 一寸三木先生にお聞きしたいのですが、三木先生の仰つて居る日支事變が社会史的の意義を持つという事、其の意味のヒューマニズムが我々学生間に問題にされて居るそれに照し合せて考える場合、どういう具体的な趣向を採るかということを一寸お訊きしたいのですが。

三木 皆さんの言われた事がいゝと思います、此

の事變は誰かの言われたように、勝つ為に戦っているのではなく、それ以上のものの發展の為に戦つて居るというか、それが此の事變を生じて居るのだらうと思う。

商大 A 生じて居るのですか……其の生じて居るのも、其の生じて居るさなかに在つて、僕等は どうして行かなければならないか。

三木 どういう様にして行くかと云えば、要するに此の事變の動いて行く方向に就て正しい認識を獲得することに努めて、それに即応する様な行動を一步一步自分の身辺に就て凡ゆる方面から築いて行くということではありませんか。

商大 A それは各個人に依つて解釈が違ふ訳ですね。

三木 少しは解釈が違ふか知りませんが、事実が進行して行くに従つて解釈も纏まつて来るのです。

帝大 A 先生の言われたように正しい認識を得るこ

とに努めて一步步々やって行く、それが結局正しいと思う。然し其の過程に於いては急ぐ必要は無い。変な功利主義から行く必要は無い。比較して、此ものは価値が少ないとしてもとにかく一つでも社会の為になることなら、それに魂を捧げて行く、然し希望を捨てないという、そういう態度こそ今必要ぢやないかと思う。マルキシズムの悪いということも是認出来る。唯だ社会に功用があるという事だけを守って行けばいいのではないか、より深く考える外に、自分の才能に依じて考えればよいのではないか。正しいということとは個人々々として考えてよいと思う。

三木 それは別に異論はありません。つまり結局は自分の日常の事から始めるより外仕様がないので、そういう所から云えば幾らもやる事がある。それが結局大きな流れになり、時を経ればそう

いう所から吹上る力になる。其源を絶やさない様に、そういう溜池を造って行くことが必要であるから、そういう力を養うということが本当の意味に於いて日本を良くする為になると思う。

記者 大変色々と承りまして有難うございました。もう少しお聴きしたいのですが、残念ながら時間がありませんから此辺で……どうも有難うございました。

底本：『日本評論』1938年8月号（P234～252）

まさに日本は

「時代の皮膚に触れて」

青年のもの——死力を尽して時局に協力せよ！

文化長期戦を説く 三木清氏

希望ある革新を訊く 菊岡久利（高木陸奥男）1909

～1970、青森県生まれ、作家・詩人

編集者兼発行人 川合 仁：1900～1963、「日本学芸

新聞」発行、『私の知っている人達』

川合 お忙しいところをお邪魔いたしました。が、時局と知識階級の動向などについて、お話をしたい。ぎたいと思います。それも先日お約束の際に申添えましたように、われわれがジャーナリストとしてお話を伺うとか老体と話をするよりも、誰か若い人々をと思いましたが、今日は

菊岡君に来て貰いましたからよろしくお願いします。その方が自由な対談が出来そうですから。
三木 どうぞ。そちらからひとつ問題を出して下さい。

国民文化の問題

菊岡 文化と云つても、過去の遺産としての国宝的文化、保存文化はともかくとして、現にわれわれ国民が消費出来る文化が問題だと思うのですが、国民に文化を消化させるためには、民間の文化諸団体を伸長させると同時に、政府者それらの文化人々による、国家的な文化政策施行機関、つまり公的な「会議」が必要だと思うのですが。

三木 そう。しかし人選が困難なのです。たとえば、あいつはまだ若いとか、あれは元、左翼であったとかいう。

菊岡 でも、どうしても必要でしょう。従来のよう

な頑迷な、形式的な役所仕事を一步出て。……

三木 それは、よほどの決断力ある政治家がいさえすれば出来る

菊岡 三木さんは「新日本文化の会」とは関係ありますか。

三木 ないですよ。ありません。

菊岡 僕はこの前、林房雄氏に会った時にそう云ったんですが、あの会の中には信用出来ない、国民の生活から遊離した、お祭りの連中も居ると云うと、林氏は何か仕事をやり出せば必ずそういう部分もある、そんなものは大目に見なければと云っていましたか……

三木 「新日本」の人たちとは、僕は個人的にはよく知っているが、誰が何をいうかわかっているんだし、林君などは困るな

菊岡 それは。向うでも云っている。三木清は困る

時代の皮膚に触れて

なつて。

三木 そうでしょう。（苦笑）

菊岡 僕は中河与一氏の万葉¹が困ると思う。
三木 あれはへんだ。

ロシアの政權

菊岡 リュシコフ²のことがあったり、最近頻々と新聞が報道していますが、現在のロシアの状態で、すね。あれについて、旧くマルクス主義者であった連中も、ソビエト政權の崩壊と見るでしょうか。

三木 そうは見ませんね。……たゞ革命の功労者や、多くの民衆が無暗に殺されることなんかは不快に思っているでしょう。

菊岡 だが、どしどし虐殺することも政權の強化の
1 『万葉の精神』昭和12年千倉書房か
2 この年ソ連GPU極東長官であったが満州国經由日本に亡命した

ために必要だとすると、そのことを不快に思うようでは、マルクス主義とヒューマニズムの矛盾ではないですか。

最適者は誰か

菊岡 ダーウィンなんかは専門生物学者だから弱肉強食とか、適者生存ということを法則としたけれども、現代では、機械の覇者が強者なのだし、海陸空軍の機械の覇者が適者として生存するのだから、在来のように、彼と我とがいずれが適者かなぞということはなくなるのですね。何でもかんでも適者たらねばならん。戦争には勝たねばならん、勝つということだけが必要なのですね。

三木 ダーウィンのそれらの法則も人間にはあてはまらないわけです。勝たなければならないので、自然的な強者や適者だけでは駄目なのです。し

かし勝つということは、単に武力戦で勝つことばかりは意味しない。その後の建設が問題なのだ。経済とか、文化とか、非常に長期な覚悟が必要です。

菊岡 そういう意味で、生存競争説はいかんと思

います。日本は天皇の下に万民相依り相扶けて生きる理想であるから、政治家や資本家もよく考えて民官協力の思想でやって行かなくっちゃならんと思う。僕はロシアの例なぞに徴しても、いまや世界的に独裁政治の凋落期に這入りつつあるように思いますが、支那、ロシアの現状は、何よりも独裁政治、独裁思想の崩壊でしょう？

三木 そういう見方も出来るかも知れない。日本には、ナチスやファッショのような独裁政治は向かないと思う。

革新の性格

菊岡 三木さん、文部省をどうお考えですか。どう

も僕には、役所の中でも一番不思議な建築物のような、暗あい感じがするのですが。一番われわれに近く大切な筈の役所でありながら、何んにもしていないような印象を受ける……単に学校の押えのような感じで。遺憾のことです。

三木 文部省については僕も同意見だ。あれは学校の押えすら出来ていない。学生について云つても学生狩などという妙な名でしか為政者というものがある響いて来ない。

菊岡 文部省にも限りませんが、最近では官僚革新熱が盛んで——というよりは、むしろ今頃では『革新』を口にしなければ出世が遅れるとまで民説が盛んですが、官僚には官僚の限界があるものではないのでしょうか。例えば或る図書課長などが、国内革新は必至だと、対談した文学者

に云つたということ、それを伝え聞くインテリの中には官僚は実に進歩的だなぞと評する者もあるようですが、われわれには革新の必至なぞということは問題ではなく、どんな革新かということが最大関心のことです。革新の声でびつくりするようでは、インテリの政治的無知がひどすぎると思います。革新は飽くまでも日本国体から発して国策の線に沿つたものでなければならぬと思います。国体と時の政府は必ずしも同一体ではないところに、政府政策への民的批判がある筈です。

三木 そうです。官僚でも、真実に革新を言うとしたら、官を辞して革新運動に飛び込むと思う。既成のまゝの官省が、革新の官省だとは考えられない。

菊岡 いまいちばん熱心に革新を考えているのは青年と、それから革新で一儲けしようとか出世を

しようと考えている連中なんです、あなたの革新観は？

三木 私は若い人に期待しますね。二十代から三代にかけての青年に。革新にはどうして破壊が伴いますから、それをするには青年の力でなければ出来ません。そして下からの力を拡充しなければ駄目です。インテリゲンチヤにしても、いまゝではいかにも政府者から無いがしろに扱われていたので、言動にも責任というものを感じなかった。しかし彼等の意見をも重用し尊重するということになれば、彼等にしても責任を感じ、張合いも感じて出鱈目な言動はなくなると思う。インテリゲンチヤを組織しなければならぬ。

菊岡 三木さんのインテリゲンチヤはどういうインテリゲンチヤです。

三木 規定するようなインテリゲンチヤは、日本に

はいないと思いますか……

菊岡 ハハ、そいつはおもしろいですね。

三木 革新も官僚的な掛声だけでは駄目だ。どうしても国民全体の、下層国民からの慾求として興るのでなければ。

菊岡 いまは右翼の戦線整備が急で、昔の反動暴力団的でない真の愛国愛民運動が起りつゝありますね。たとえば天行会¹……

三木 あゝ、天行会、知っています。

菊岡 僕は時々頭山秀三氏に会いますが、あの人たちの小串鋤山問題²に対する態度などもなかなか立派でした。この時局に際会して、同胞が幾多生命を犠牲にして支那全土に転戦しつゝある時、ひとり機会に乗じて資本家だけが私服を肥やすと企むが如きことあつては、同じく陛下の赤子

1 1931 頭山秀三が主宰、五・一五事件で検挙される
2 1937、二硫黄採掘の同鋤山で地滑りが起こり245名が亡くなった

である労働者の生活のために憤激を禁ず得ないという所論で闘ったのですが、労働運動が、日本特有の国内倫理運動としてその当然の権利を主張する点は大きな意義を持つと思います。

三木 そういう運動は大賛成です。私は妙な転向者たちの動きよりも、そうした運動の成長の方を高く評価します。それに比して転向者は、人間的信頼がおけないと思います。また情勢が変化することでもあると、またその方に変るかも知れないという不安があるのです。

菊岡 こんどの勤儉貯蓄運動や、諸種献納運動見ると、いかに日本の中等階級以上の生活者たちが無駄の多い生活をしているかということ、貧民はいかにぎりぎり最低限のところ生きて来たかということの実相が証明されたですね。

三木 そうです。貧乏人は本当に貧乏であつたのだ。

小説について

菊岡 小説はお読みになりますか

三木 最近はまだ読みません。

菊岡 『文学界』の大江賢次氏の小説はどうですか。いゝ作家と思います。

三木 あゝ。あれはおもしろかったです。

菊岡 さっきのお話の下からの組織という意味では、大衆文学の重要性を痛感しますね。

国語の将来

菊岡 山本有三氏なども国語の問題を云っています。が、エスペラントはどうですか。最近では、報国エスペランティスト同盟が対外的に活動し出しましたし、従来やゝもすれば赤色エスペランティスト同盟の暗躍が目立ちましたが、そんなものは克服しなければならんと思い、その点を、小林五郎氏たちの『国民評論』あたりでも宣伝戦

の武器として強調している※「#1字欠く」状況です。

三木 矢張り最初はローマ字にでもなるんじゃないですか。

菊岡 いや、単に国内的な意味じゃないです。僕は日本語が、国定教科書語に単一化されることにも反対なんです。僕は大へん方言田舎言葉を使います。ですから、日本人は皆、お国言葉を使えばいい。そしてお国言葉の通じない分をエスペラントで話合うのがいいと思います。そうすれば外国語は史的部分以外は特別に習わなくてもいい時代が来ると思う。

三木 そうですね。支那人なんかにもいまからエスペラントを教えるようにすればいい。日本人もむずかしい支那語など習わずに、エスペラントを習うようにすれば便利だ。

川合・菊岡 どうも有難う御座いました。

時 七月二十二日
所 三木清宅

この日も三十度強の炎熱、折りから齒の治療のために外出から帰宅したこの家の主人、床にも鴨居にも西田幾多郎先生の書、渋い感じの簾、閑寂である。けれども庭には赤いグラジオラスが咲いていた

底本：日本学藝新聞 1938年8月1日（第57号）

第1面（復刻版・不二出版）

座談会　いかに革新すべきか

植村甲午郎：1894～1978、東京生まれ、東京帝国

大学政治学科卒、農商務省から企画院の国家官僚、

経団連第三代会長

小金義照：1898～1984、神奈川県生まれ、東京帝国

大学法学部卒、商工省関係の国家官僚、政治家（戦

後衆議院8期、郵政大臣）

長谷川如是閑

三木清

山崎靖純

赤松克麿：1894～1965、山口県生まれ、東京帝国大

学法科大学政治科卒、第一次共産党参加、のち国

家主義

室伏高信

本紙記者

政府はいかに革新するか

室伏

今日は日本をどう革新して行くかというよう
うな意味でお話をお願いしたいと思つて居ります。

革新という言葉は好きな人も嫌いな人もおあり
のようであります、今政府が何かしら革新的
の事をやっているとされます、そうしてこれ
は益々その方向に進んでいるぢやないかと私達
には見えますが、一体革新というのはどういう
方針でどういう方向へ進んでいるのか、政府の
方の大体の方針を一つ植村さんから話して戴い
てそれから段々話を進めて行きたいと思ひます。
植村さんどうでしょうか一……。

植村

政府の方針と云つても一寸私共には分りませ
んが、現に革新の方向へ進みつゝあるという
お話だけでも、現在の情況というものは革新
をするというような目的で色々な事が行われて
いるというのでなくて、寧ろ戦時体制に入つて

いる、戦争目的遂行の為に必要な事をやって居る、斯ういうことになるのぢやないかと思うのです。それで唯だ経済問題等について普通の場合と違った方法が採られて居る、それがこの時局が——時局と言うよりは、支那大陸に於ける戦闘行為が一応終熄した後でどういふ風になつて行くかというような場合に初めて今迄と多少違った方向にものが導かれる必要があるとか或はそうしなければならぬという様な問題が起きて来るんぢやないか、そんな風に思ふのです。

室伏 近衛¹のいつかの演説でしたか声明みたいなものでしたか新聞の談話でしたか、兎に角事變の為に革新は第二義になつて来る、先ず事變の対策を第一にしなければならぬ、革新の方は寧ろ遅れるという風な意味のことを私は聞いたよ

1 近衛文麿1891～1945、第34、38、39代内閣総理大臣。日中戦争開戦・泥沼化の責任者、翼賛体制の推進者、対アメリカ戦争準備期の責任者、敗戦後戦犯呼びだし前に自殺。

うに思ふですが、政府としても革新という方針を樹てゝ居ることは事実で、どの辺まで革新するかということは別問題ですが、若干そういう方向を宣明して居るということは言えるだろうと思ふのです。だから事變が続く間はこの政府はそうであらうし、やはり他の政府に迭^{かわ}つても、軍というものが政治の中枢に力を持つて居る限り動かぬだろうと思ふし、それから所謂官僚、あなた方官僚の考がそういう方向に進んで居る、実際の仕事をする人はそういう考を持つて居る。結局そう行くんぢやないかと私達は思ふのです。政府の方針ということではなくて結構です、所謂世間で云う官僚、新官僚と云いますか、実際に仕事をされて居る方々、そういう中枢の人達の考、そういう考を一つ聴かして下さいませんか。

植村 その点になると今の官僚という言葉が当るかどうか、又其の代表的の意見が如何なるものか

よく判りませんが私自身の感じを率直に申しますと、現在政治にしろ經濟にしろ改革を要すべき幾つか大きな問題があるんじゃないか、その問題を持ちつゝこの戦争の状態に入つたと思うのです。そこで事変後どうなつて行くかということになると、今迄は満州国の建設と日本というような考で進んでいたのが、更に視野が廣くなつて支那大陸が対称^マに出て來た。そうなつて來ると日本の國民として之を東亜永遠の平和の確立と云いますか、或は東亜民族の本当の興隆と云うか、此処に新しい文化を建設するといふ大事業に當面して來た。我が大和民族は如何なる力を持つて居るか、又日本の現在の国力が如何なるものであるか、何れにせよ、挙国一致全力を傾倒して行くのでなければ、此の大事業を成し遂げることは出来ないと思う、それをやる為に現在の政治、現在の經濟の運行情況で宜い

かどうかという現実の客觀的情勢から要求されるものがあるんじゃないか、必要なる政革を行つて行くのでなければ大事業は果されない、斯ういうことになるぢやないかと思うのです。それは如何なる事をやる必要があるかという問題になると、これは各人それ／＼違つた考を持っているぢやないか、大体に斯様に考えて居ります。

室伏

併し其処に結局イデオロギー的問題が入つて來ることになりはしませんか。例えば今迄の自由主義者から見ればこの自由主義制度が一番能率を上げる方法だと考えていたに違ひないし、又或る時代にはそういう時もあつたでしょうが、それぢや迎も全体的の能率が挙らない、全体の力が發揮されないという考を持つことが既にイデオロギー的の改革が行われて居る証拠だろふと思うのです。だからやはり当然そういう問題

を皆が考えなければならぬぢやないですか。

植村 その点になると今度は自由主義はいかぬとかいう観方よりは客觀的情勢に対してどうやるのが一番宜しいかという現実の方策なり何なりが従来の自由主義經濟時代の遣方とは違つたものになつて来る、そうよらざるを得ない、そういうことに私は考えるです。

室伏 そうすると、つまりイデオロギー的の事は何も考えないということですか。

植村 差当りイデオロギー的な目標を以て率ゆるといふような意味では考えない。

室伏 併しそれが、改革か革新か知らないが、唯だ部分的に変へて行くならそれでも宜いが、全体的に変へて行くかとすればもつとそこに体系的なプランも必要だし、又それを裏付けるイデオロギーというものも必要だということになるぢやないですか。

植村 そこは私もそう思うのです。と言うのは、や

る事が大事業である、その為に国民としての全力が発揮されるようになって行かなければならぬ、それにはどうしても国民全体の協力が必要である、そうすると国民を率ゆるといふような意味からそこに整理された目標なり何なりが出て来なければ全国民の氣持が一致して或る目的に向つて行くということは中々難かしいぢやないか、そういう意味でそういう点に就て一つの考が纏められる必要があるんだろう、斯う思います。

室伏 併しそれはモウ纏つてゐるぢやないですか、所謂官僚中堅の人の間で……。

植村 さアどうですかね、そこになると人によつて違ふだろうと考えるが……。

室伏 世間で官僚とか新官僚とか革新的の官僚とか謂うが、何か聯絡があるんじゃないですか、皆

が集つて話をするとか……。

植村 それは私共はありません、そういう意味では。

室伏 おのづからそういう年代に来て居るのですか。

植村 そうぢやないかと思ひます。

室伏 民間の人は一度リベラリズムをはつきり通つて居るので、リベラリズムの先か後か知らないが、革新というものに中々行かないですね。役人は其処を通らないせいか割合と簡単に行けるのかも知れませんね。赤松君などはイデオロギー的に全面的にやつて行かなければいかぬという考だろ。

赤松 まアそうだ。

室伏 そうして党だからちゃんと綱領を持つて居るのだらう。

赤松 そうだ。

室伏 それは今の官僚や軍部の意見と大体同じか。

赤松 今の話に依ると官僚の方のイデオロギーは

はつきりしないというのだから比較は出来ない。

室伏 はつきりしないのぢやない、大体ははつきりして居るだらう。

官僚は何を目標とするか

赤松 政府は一体如何なる事をしようとするのか、はつきりしないのだ、するだけのゼスチュアだけしてしないぢやないか、唯だ自由主義が悪いと言つたつて、自由主義に代るべき官僚主義でも困るのだし、何等かの一つの根柢あるイデオロギーに立脚して居るのか判らぬのだ。

室伏 要するにナチスとかファッショとかいうのが今の官僚のやつて居る仕事のお手本ぢやないか、今の官僚主義の仕事はそういう風に見えるぢやないか。

赤松 例えば労働奉仕団などにしても、あれは猿真

似だ。形式的だけならばあんな事はしない方がいい、本当にやる気魄はないと思う。

室伏 併しそこがまた日本の面白い所ぢやないか。

赤松 面白い所かも知れぬが、国民の不安と混迷が其処にあると思う。

室伏 あるが、非常にプラクティカル practical にやつて行く。英雄を作らずにやつて行く、實際官僚は仕事をやつて来た。

赤松 官僚に實際国民を率いて行くだけのプラクティカルがあるかどうか、プラクティカルならもつとプラティカルの手際を拝見したいと思うのだ。

室伏 徐々ではあるがやはり相当にやつて居るといふ事実はある。これは無論戦争という一つの大きな事件があるから無力な人間にも出来る、それ程はつきりした頭を持っていなくてもやつて行けるということもある。それは事実そういう

点もあるのだろうが、併し何かしらはたで見えて居つて一つ共通の方向があつて其処へ全官僚が進んで行く、そうして軍部の考も略々それに近い点があり、何処かで一致する、そういう事は見られるね。

赤松 併し目標が一体何処へ引張つて行くのか、反動的な方向へ行くのか、進歩的な方向へ行くのか、或は現状維持で行くのか、その辺に就てのはつきりした方向なんというものは分つていない。又やつて居る当事者も分つていないだろうと思う。

室伏 併し段々そういう過程の中ではつきりしつゝあるぢやないか。例えば荒木なら荒木の日本主義、あゝいうものは段々人が崇拜しなくなつて、進歩的のものを崇拜するという空氣が出て来て居るぢやないか。そうして日本主義は昔の高天原ぢやないというような風に段々變つて来て居

るように僕等は考える。誰が言うとなしに、誰がするとなしにおのづからそういう風になって来て居るぢやないか。そうして昔のリベラリストとそういう点で或る一致点が出て来て居る。つまりリベラリズム以前に戻らないで、リベラリズムから幾らか進もうという方向に進んで居るのぢやないか。尤もそれはリベラリストから言えば進歩ぢやなくて逆転だという風に考えるかも知れないが、三木君などはそんな風に考えて居るぢやないですか。

赤松 そういう風に樂觀して宜いかどうかね。例えば今の一番大きな問題は支那をどうするか、これはイデオロギーに直ぐ関聯する。色々な議論もあるが、大体方向は好いという風に樂觀して宜いかどうかは僕は疑問だと思う。一步誤れば飛んだ事になるという所に於いて僕はまだ混沌状態だと思ふ。

いかに革新すべきか

室伏 君の意見を一つ話して呉れないか。

赤松 そう単刀直入的には困るよ（笑声）

室伏 僕等はよく変説改論して居ると言われるけれども、赤松君などもその方だね。社会民主主義一点張の時代もあつたのだから……（哄笑）併し、結局あゝいう時代を一つ通過するということが時代としても歴史としても必要だが、人間としても相当に必要な点があるね。

赤松 必要だ。今の全体主義とか日本主義とか云つてもそれを卒業せぬとはつきりして来ぬ。

長谷川 併し赤松君のは民主主義時代と気分は同じだね、（哄笑）

赤松 皮肉を言うですね。

室伏 社会民主主義時代から気分はファッショ的な所があつたね。

赤松 僕は社会主義を通過したことは兎に角良い勉強をしたと思つて居る。

長谷川

併し兎に角君等でもそうだけれども、日本人は急進的になつても反動的になつても、何処かに日本人的のものを持つて居る。だから非常なしくじりはしなかつたと思つて安心して居る

(哄笑)

室伏

小金さんどうです。あなたの官僚論に対する

意見は？

小金

世間で官僚がどうの、又官僚どういう考を持つて居るかと言われるが、官僚が斯う云つたような纏つた方向を、例えば政党とかいうような団体が持つ意味で官僚が特別のイデオロギーを持つて居ると思われません。官僚なんというものはバラバラのものなんです。バラバラだからこそ非常な進歩的な考で仕事に當つて居る人と、又唯だ出世主義だけでやつて行く人とかある譯です。だから之を巧く使う人が出て来たら非常に能く秩序立つて、仕事が革新の方

へでも、反動の方へでも、それからまた地道一方の方でも進んで行くぢやないかと思うのです。唯だ私が今やつて居る仕事から見ると、日本の国内問題、或は外交問題の一部が今度の戦争にすつかり持込まれて居る。これは寧ろ従來の懸案を片付けるのに一つの機会を早めたのが今度の戦争ぢやないかと思うのです。それで今やつて居る事から考えると、今植村さんが大体言われたように、この戦争を勝つ為にはどうするかということ一杯で、日夜の別もなく又日曜もなく追われてしまつて居るのです。これは私の個人の考ですが、唯だ私の一番心配して居るのは、今度の非常に大きな戦争と謂う消耗を單なる消耗だけに終らせてしまつてはいかぬ、必ず建設の為の消耗にしなければならぬということを一寸の暇があると考えたくなる。それが何かしら新鮮なイデオロギーを探し求める吾々の心

境だと言え、そう言えるのかも知れぬが、そういう気がするのです。場合によつては非常な空虚を感じる。例えば戦争の為に鉄は斯ういうような方法で生産して、斯ういう配給をやる、斯ういう消費をさせる、斯ういう事を決めて違犯のないように着々切符制度まで設けてやつても、これが唯だ単に戦争に勝つ為め、唯だ消費せんが為のみの手段だと考えることは非常に淋しい。これが将来の日本の今迄経験しなかつた発展への礎石になるんだという考な非常に求めたくなる。今重要物資に就てやつてゐる色々な生産から配給、消費への統制なんかもこれは立派な統制経済でもあるし、見様によつては非常に深く入つた計画経済です。之を将来どういふ風に平和克服と共に導いて行くかという事は、これは一大経世家が出て指導しなければ、官僚がどうしようとか、一部の者がどうしようとか言つて

も、これは到底出来ないことぢやないかと思うのです。そこで、実務に当らされて、第一線で鉄砲を撃ち合つて居る人間と余り変らぬような働きをやらせられて居る官僚の一部には十分そういうイデオロギー的な反省を持ち、そういう考を練るといふ余裕がないのです。唯だ多少でも暇があるとそういうような事をまア赤ン坊が乳を求めるような氣持で求めたくなる。これは私の個人の氣持ですが……。

室伏

併し其処が日露戦争の時にはそうぢやなかつたので、大勢がリベリズムに向つて居る時代であつたから、若しそういうものがあれば却てリベリズムに向つた。所が今はリベリズムから別の方向へ進んで行く、戦争がそういうものを促進する、やはり時代がそうであつて、それで官僚の多くの人達がどう考えるにしても、客觀的に見て行くとそういう人が指導して行く方向

に進んで行くとは見られるのです。併し官僚は僕等の聞いた範囲では、大臣なんというのは盲判を捺すので、皆局長とか課長とかいうような所で全部決めて行く、大臣は唯だ盲判を捺すに過ぎないという風に聞いて居るのです。だから實力は大臣よりもそういう所にあるぢやないですか。

小金

いやそんなことはありません。私の知って居る範囲では重要な問題は皆大臣の決裁を仰ぐ、唯だ色々な大臣の判断をして誤りなからめるように資料は出来るだけ提出するわけです。それが大臣の判断の資料になる意味に於いて或る程度まで大臣を動かす、斯ういう事は言えるでしょう。

室伏

併し資料を提供するにしても、結局自分等の都合の好いような考え方で作る、それに大臣を引張って行くということになりはしませんか、

又現在そういう風に行つて居るように聞いて居るのです。

小金

併し大臣は独自の見解を加えられます。大臣は非常に大きな指導的立場を持たれるものです。

室伏

それは大臣に依つて違ふでしようけれども……。

小金

大臣に依つて違います。通常の事務は責任感と熱意のある下僚に委せられるのが、一番いいことだと思ひます。

赤松

軍部はアクティブ、官僚はパッシブ

軍部と官僚と較べると、軍部の方がアクティブだ。官僚というものはどういう時代でもアクティブに働くことはないぢやないか、今日に於いても僕は官僚が非常にアクティブでリーダーシップを取つて居ると思ひない。併し同じ官僚でも理解力のある人が局に當つて居るの

と當つて居らぬのでは時代の進行が非常に違ふ。だから時局に対して認識のある人々が官僚になつて居ると非常に都合が好いと思うけれども、只だ官僚というものは政党の自由主義時代に於いてはそれに順応するし、又今日のように軍部がアクティブになればそれに順応するといふパッシブ【passive 受身なやま、受動的】の性質が多いぢやないかと思う。

室伏 つまり露骨に言つと、革新官僚というのは軍部に迎合して居るというやうなわけか。

赤松 迎合というわけではないけれども、今日新しく盛り上つた新しい情勢に対してそれに適応しようという理解力もあるし、又技術もある、しかし官僚がリーダーシップをとつて新情勢を作り出したのではないと僕は思うのだ。

小金 今の官吏制度が官吏をしてパッシブたらしめて来て居るのです。然し能動的本能と能力を多

分に持つてゐる人もありますよ。

長谷川 だから僕は官僚はエキスパートだと言つたら、三宅晴輝君にそうでないと言われたが、僕は官僚は個人としてエキスパートでなくとも、組織そのものがエキスパートの手段を一番持つて居ると思う。だから一人々々がエキスパートでなくても、官僚組織そのものはエキスパートの組織だといえる。大学でも、学会でも、政党でも、官僚のエキスパート組織に匹敵するものはないだらう。或る部分的のものならば、公私の組織でそれに匹敵するものもあるうが、全体として官僚が一番有利な組織を持つて居るので、だから出来るだけその組織を活かすようにしたら宜いと思う。實際日本の今迄の経過に依ると、やはり官僚が相当の仕事をして居ると見なければならぬ。官僚は政治家などのように批評家ではないので、始終仕事をしなければ

ばならぬのだから……。併しエキスパートというものは要するに手段なんだ。手なんて頭ではない。その頭をどうするか。その官僚の頭となる所の政治家は、僕は明治時代の方が偉かったと思う、大正、昭和の時代になって政治家の格が下って来て、官僚の立派な手を使うだけの頭でなくなってしまった。政治家の方も個人であるよりは組織である方が、僕等の考では良いと思うのだが明治のは個人的であつたが、個人がよくなったら組織がこれに代ることを必要とする。人であるか、組織であるか、両方備つていればそれに越したことはないが、人がなくなつた組織がなくてはいけない。だから上の方の政治家の個人の頭に代る組織——官僚の方は組織が出来て居るから、政治家の方の頭を作る組織を日本では考えるべきぢやないかという風に僕は考えて居るのです。

室伏 官僚は明治時代の方が発達していなかったで

すね。

長谷川 あの時代には官僚政治家の方が偉らかつ

た、今は属吏の方が偉くなってあべこべになつてしまつた。

赤松 明治時代は官僚即政治家だ、今日は官僚がエ

キスパートになつたんだ。それだけ今日に於いては機構が発達したのだ、分業化したのだね。

室伏 機構が大きくなり過ぎたのだ。

軍は政治の中核たり得るか

山崎 私も長谷川さんと同じ様な事を言つて居つ

たのです。官僚とか軍人とかというものはファシズム的な存在だ、だからそれ自体如何に偉い人が居つても政治に全体性を与えたり或は風格を与えたり香りを与えたりする力はない。だから早い話が官僚が官僚としての立場から仕

事をする限りでは、屢々誤ることがあるのです。例えば思想取締という問題ですが、その思想を取締るということの為に他方に於いて国民の思想を萎縮させたりその弾力を失わせたりするような犠牲に於いて——つまり物言えば唇寒しというようなような気持を国民に与えつゝ、他に何等歴史を推進せしめる思想を齎らさない状態の中で、思想を取締る。成程そうすることに依つて少しばかりの危険思想は取締り得るかも知れぬが、今日はモウ危険思想なんというものに影響される程国民が果して無智であるかどうか、それも疑問なんです。そういう事が多少あつたにしたら、ところで、他方に国民が思想的に弾力が無くなつてしまふとか、この重大な時代に新たな一世を指導する政治運動が起らないとかいふ事から来る国家社会の損害は金額に表わせば何百億か何千億かの損害になるか分らないそういう状態の

中に於いて官僚が機能的の職分を達成しようとするならば、これは非常に困つた結果になると私は思うのです。又戦争をするのもそうだと思う、戦争に勝つということだけが戦争の目的ではないので、更に勝つということを通して或る目的を達成しなければならぬ。そうだとすれば戦争にも一つのタブーがなければならぬし、風格がなければならぬし、香りがなければならぬ。若しそういうものが戦争から失われてしまふ虞がある場合には、仮令戦争に勝つたところで日本はその目的を達成し得ないという結果にならぬとも限らない。そこでどうしてもそういう機能的なものの上に更に全体性を与えて風格を与えるものが存在していなければその機能的なものの意味を、遺憾なく全体との關係に於いて發揮することは出来ないと思うのです。そこでどうしても官僚や軍人だけは如何に個人的に

優れた人が居つても日本は善くならないと私は

思います。それから又革新と云つたところで、その技術的内容は相当時間を掛けて果し得るものなんですから、それに一貫性を与えて段々良い方に発展させて行くという、その政策を見守つて行く背後の政治母体がなければ革新というのは発展し得ないだろうと思うのです。そういう見地からでも一年か二年で局長、課長の椅子が更迭する官僚というものが政治をやつて居る場合にはそれを発展させることが出来ない、前の人と違つた考で後の人がやつたところでどうにも仕様がな、前の人が或る手を打つたその理由が何処にあつたかということの後の人能够く諒解してやつて呉れ、ば申分ないけれども、必しもそうは行かぬですから、そういう時間的關係から言つてもやはり日本の革新政治を発展させる政治母体があれば出来ないだろうと思

うのです。

室伏 政治母体はやはり軍部ぢやないですか。

山崎 軍部と雖もやはり機能的の存在で全体的存在

ではないから、軍人が軍人としての立場で仕事を為す限り、矢張り国家の政治に一大理想を与え、風格を与え、全体性を与え、且つそれ等を発展助長して行く存在たり得ないでしょう。

赤松 軍部が政治の中心になつてやつたのでは、ノーマルな姿ではないと思う。やはり国民の間に本当の革新イデオロギーに依る結集された政治勢力が現れて——曾ての既成政党が或る時代の日本をズツと指導したような、そして今日の客観情勢を指導するような力を持ったものが現れなければ駄目だと思う。今日の官僚というものには優秀の人が集つて居る、又非常に熱心に働いて居るし、官僚としては申分ないと思うのだがそうした政治勢力がないものだから其処に

色々なちぐはぐのことが起きて官僚に総ての非難が向けられるようになって来ると思うのだ。

室伏

政治中枢だね。つまり公然の政治中枢が無いということとは非常にいかぬね、陰気で政治の取引が蔭でばかり行われて……。これは一番革新さるべき事だね。それは結局他に力が無いからだ。無いのだけれども若し他に出来たものが結局軍部の意向を窺つてその下働きをするというようなものならば同じだ、軍部に指導されるものでなくて軍部を指導するようなものでなければいかぬと思うのだ。

山崎

つまり軍部でも官僚でもそうだと思うですが、斯ういう機能的の存在の考えることはどうも目的主義になつて、その目的の為に如何なる謀略でも厭わないということになるですが、それは戦争なんかの場合にはそれで結構かも知れないが、国家とか社会というものは永遠の生命

であり、随て又非常に気高い理想と香りがなければ駄目だと思うのです。政治の場合には目的主義、謀略主義は禁物です。やはり非常に気高いものが日本の政治の上になれば吾々日本人は非常に荒蕪たる感じを持つのです。

室伏

併し目的は目的で気高い目的を持つて居れば宜いのだが、その目的がはつきりしないからいけないのぢやないですか。

赤松

いや、軍部と官僚は本質的に政治家でないのだ。だから軍部は国防のエキスパートだ、官僚は行政のエキスパートだ、それはエキスパートとしてのファンクションを持つて居る。それにどうしても政治家の復興だ。

室伏

それは賛成だけれども、併し今事実上はそうは行かぬだろう。

赤松

そうしない以上は何時まで経つてもこの難局は打開出来ない、革新は実行出来ないし国民は

不安に駆られると思うのだ。

室伏 それは公然の中樞的な革新政治勢力をもつということが必要だが、それが僕は出来ぬのぢやないかと思う。

赤松 出来ぬと断定してしまえば日本の国民は政治的能力が無いということになる。

室伏 無いことはないが、国民というものは或る時期には非常に発展するし、或る時期には非常に萎縮する。今は萎縮時代だ。

三木 萎縮されても居るだろう。

室伏 されても居るのだ。けれども国民の力が発展する時には萎縮させることは出来ない。

赤松 併し、僕はモウ一度明治の初年の藩閥政治に對して起つた自由党のような、イデオロギーは違ふが澁刺たる運動が国民の中から起らなければ駄目だと思うのだ。

室伏 あの自由党の運動というものは世界的に自由

主義の黄金時代なんだから、そういうものを見て居るのだから、それは打勝ち難い力として興つて来るわけだ。今はそういうものがあるとすれば何かと言うと、ファッショ的のものだ。

赤松 そうだ、日本的なファッショ的なものだ。

三木 そこは僕等は問題だと思うのだ。ファッショ的だということを言い切ることが出来れば非常に簡単だけれども、言い切ることが出来ないぢやないか。

赤松 ファッショ的と言えば語弊があるけれども、自由主義や共產主義の運動に對すればファッショ的運動の範疇に入ると思う。

三木 ファッショ的と言ひ切れ、ば非常に簡単だけれども……。

長谷川 どうも日本人というものはイデオロギー的ぢやないのだ。簡単な目標を立てることは出来るが、けれどもそれをイデオロギー的に發展さ

せるといふようなことは不得意で、唯だ行動的に進んで行くという風がある。

室伏 けれどもイデオロギーというのは結局簡単な目標でなければいかぬのぢやないですか。余り難かしい論ぢや大衆が随いて来ぬので、はっきりしなければ駄目だ。

三木 併し、これ迄は日本にもイデオロギーは無くてもやって行けただろうと思うのだ、イデオロギーが無くてもやって行たというのは、明治時代には先進国があつてちゃんと決つたイデオロギーがあつてそれにくつ付いて行けば宜かつたのだ、けれどもこれから後はイデオロギー無しに例えば大陸政策をやつて行けるかどうか。そこが今度やはり一寸違つて来たぢやないかと思うのです。そこに国民もイデオロギーを必要として、他に何等世界的に一致したイデオロギーが無いから、そういうイデオロギーを問題にせ

ずにやって行けなくなつて来て居るような所もあるだろうと思うのです。

室伏 それは僕はあると思う。理論闘争は確にしなかつた、今迄のリベリズム若くはマルキシズムの人達の間に理論闘争はしなかつたかも知れないが、そういう所謂人民戦線のものが退場して、そうしてファシズムでなくてもファシズム的のものが登場して来て居る、斯う観て宜いと思うのだ。それに個人的に非常なタレントを持つて居る人とか格識を持つて居るとかいう人は個人的にリベリズムの立場にある人でも十分今でも存在して居るけれども、全国的潮流の上から言えばファシシヨ的のものが支配して居ると言つて宜いぢやないかと思う。

長谷川 三木君の言われるのはそういう追従的のものでは今は日本はやつて行けないだろう、独自のものを持たなければいけないと言ふのだろう。

三木 そうです、やはりそれぢや国民が随いて行かないだろう、実際に於いて随いて行っていないだろうと思う。

室伏 随いて行っていないのは、そこをはつきりさせないからだろうと思うのだ。今の植村さんの話を聴いても、戦時体制の下に已むを得ない事だけをやって居る、結局屋根が壊れたから屋根の修繕をするとか壁が落ちたから左官を組むというようなことをやって居る、そういう風に見えるのだ、だから強くないのだ。だからファツショならファツショでも宜いから、そういうものをはつきりと闡明して引張つて行けば国民は随いて行くと思う。

植村 今のその点は、先つき私が申上げたのは屋根が壊れたから屋根を直し、壁が落ちたから壁を直すという意味ぢやないのです。寧ろ。やがて屋根が壊れると見ればその補強工作をし、又

壁が落ちる虞があることが見通せるからその対策を講じて行くという次第です。要するに現在としてはこの戦争目的達成ということで色々の事が行われて居る、今や長期建設に入るのであると云われて居るが戦闘行為が略終つたら愈々新しい建設となるわけで、そこに問題が起きて来るぢやないか、その時になると私共の気持としても政治が欲しいという感じは非常にあります。それは局面が非常に大きなものになつて新しい誕生をするようなものぢやないか、そうなつて来ると国民を本当に率いて全国民一致して進んで行かなければいかぬ、それにはやはり何か中心になる一つの思想というか方針というか、そういうものがちゃんと結成されて国民を引張つて行くというのでないと大きな仕事は出来ない、斯ういう感じを持つて居るのです。

国内改革は必至だ

三木 それは私なんかやはり戦争目的を達成する為に必要なと思うのです。国内改革をやらなければ結局戦争目的も達せられない。これは唯だ間に合せてやつて行けるような、そういう小さい事件ぢやないと思うのです。だからそこがこれから益々はつきりして行くぢやないかと思うのです。

室伏 今やつている事が結局全体的な戦争——戦争というものは全体戦争だというだけでなしに全体的でなければいかぬという原理の線に沿って革新というものは行われて居るだろうと思うのです。

植村 その点、革新という事が行われて居るかどうかということになると、私は革新というものは大して行われていないように思いますが、全体というか全力發揮、その線に沿うて色々な施設

が行われて居ることは確かですね。

室伏 併し、全力を挙げることだけの意味でなくて、単なるエキセンシイの問題だけでなくて、全力を挙げて勝つという思想がそこに入つて来て居るですね。

植村 それはそうだろうと思う、自らそうならざるを得ないと思うのです。

室伏 そうとすればイデオロギーというものはつきりさせないでも自らそこにファシズム的なイデオロギーが働いて居ると見なければならぬぢやないですか。

植村 それを以てイデオロギーとすればそういうことになりましょう、全体主義という言葉が適当かどうか知らぬですけども。

ファツシヨで進むべきか

室伏 唯だ革新的な事をやつて居る人が多く官僚若

くは官僚出の人だから、俺はファッショぢやないと言うのだ、ファッショだと言われるのが厭やなんだね。

三木 併し、そのファッショだということを言われることが厭やの所にやはり日本的のものというか何か求めようとして居る気持もあるだろうと思う。第一純粹の非合理主義というのは日本人には合わないぢやないか。長谷川さんは言つて居られるのだけれども、どうしてももつとインテレクチュアルの要素がないと……。

室伏 それが、君等がファシズムというものは赤松君の前で文化人でないというようなことを余り長い間宣伝したから薬が効き過ぎたのだ。(哄笑)

三木 いや、それなら非常に結構なんだけれども、そうぢやなしに、国民性というようなものだろ うと思うのだ、吾々の力というものはそう大 きくないのだから。

長谷川 日本は少数派とか多数派というものが絶対に分裂してしまつて、そうしてその一方の理想なり目的なり行動なりで押して行くということが出来ない国です。これは民族的に尠雑な国からは、対立ということになると一方が絶対に他方を撥ねのけて行けるのです、独逸などは意見の違つた者は国外に追出して行けるでしょう。独逸ばかりぢやない、何処でもそうだが、日本ではそれが出来ない。日本ではそれが出来ないというのは誰がやらぬというのぢやなくて国家的の結合が違ふからだ。いはゆる形態の差です。だからファッショとかデモクラシーとか外国のものを直ちに持つて来てもうまゝは行かぬのは、それだろうと思う。唯だイデオロギーだけならば、時代がある方向を採つた時に、外国で完成したイデオロギーを持つて来ても宜いのだけれども、客觀的の根柢が西洋とは違ふから、

いざ具体的にになると、外国の通りには行かない。リベラリズムでもファッショでも向うで現れた通りに、日本では現れない。それをいけないという風に見ることは、これは余りに向うの立場に囚われ過ぎて居るので、それはいけないのぢやなくて、形態の相違から来る日本の客観的の立場が別にあるからだ。だから西洋で、ある時にデモクラシーなり、リベラリズムなりファッショなりを持たなければならぬのなら、即ち彼等が自分のものを持たなければならぬなら、日本でも、自国の動きに基いた自分のイデオロギーを持たねばならぬので、それによつて自分を動かさなければいかぬのだ、それを今持たなければならぬ時だという風に考えられる。

室伏 併し、伊太利のファッショが独逸に入ればナチズムになり、日本に入れば日本主義になるのだろうが、そういう違いはあるが、併しそう

いうものをモウ少し一般的に見て行くとファッショ若くはファシズム的のものだ、斯う言えるぢやないですか。

長谷川 世界がファシズムの体制反ファシズムの体制と分かれて争う時に日本がその何方かのカテゴリーに入らねばならぬと考えるのは間違いだというのです。独自の立場を持つべきだと思う。外の国の尻について行かねばならぬと始めから定めているというようなことは不賛成だ。

室伏 賛成不賛成の問題でそういう風に言つて居るぢやないですか。

長谷川 僕が不賛成ぢやないので、日本が不賛成だということなんだ。(哄笑)

山崎 共産主義が日本に於いて失敗したということ
は明白ですけども、僕はファシズムナチズム
というものがそう素朴な形態で日本の内部に成
功しそうにも思わぬし、支那との関係、又東亜

全体との關係に於いてもそのまゝの原理が適當であるとも思いません。それを素朴に日本が真似た場合には非常に失敗に陥るだろうと思うのです。

赤松 広い思想の流れを簡単に分けて、自由主義、共產主義、ファシズムと分ければ、日本は何処に一番近いかと言うと、ファシズムに一番近い。勿論日本は日本独特のものを持つて居る。併し日本の思想は、ファシズムとは全く品質の違つたものであるとは思わない。

長谷川 それは日本だけの形勢ぢやない、英吉利でも亜米利加でもそう行つて居る。世界的に自由主義的の傾向が去つて強力的の統制主義の政治の時代になつたということは事実なんだ。亜米利加のルーズヴェルトの政策が變つて來たのもそれでしよう。

赤松 併し、独裁制と云つても英米の独裁と伊太利

独逸の独裁とは違うと思う。日本の政治思想の中で何処と類似性を持つて居るかと言うと、やはり独逸と伊太利であると思う。

長谷川 それはデモクラシーは独逸、伊太利では發達しなかつた。日本でもその点は似ていて、統制主義に歸る時に独伊に近い形になるが、同じ統制主義でもその政治の力や組織は、彼等のと同じではない。

三木 併し国内であるならばそれで宜いけれども、支那滿州へ行つては今のファッショぢやどうしてもやれないと思う。独逸や伊太利の場合にはファッショがやれたかも知れないけれども、日本の大陸政策はファッショぢややれないと思う。

赤松 国内の体制に於いては比較的類似の点が多いと思う。

三木 それは多いです。殊に今のような戦争目的というものに集中して居れば自然外形的にも

ファッショに類似して行くのだけれども、併し日本が大陸政策を行うとか東洋の新秩序を作ろうという場合になって来ればファッショぢや迎もやつて行けないと思う。

山崎 それは独逸の場合と比較すれば、独逸は大

ゲルマン民族という事を振翳して行けば一応塊太利にでもチェッコにでも呼掛ける相手が居るのです。所が日本は、日本人がそんなに支那に住んで居るわけぢやなし南洋に住んで居るわけぢやないからそのスローガンぢや応用が出来ない。それぢや伊太利の場合のように、支那人をエチオピア人と同じ様に扱えるかと言うと、これは人種の性質がまるで違つて居る。支那人は二千五百年前に孔子や老子を出した文化人です。だからエチオピア人と支那人と同じ原理で扱う

1 十九世紀末エチオピアはイタリア軍を撃破し侵略を阻止する。1935年イタリア軍の毒ガス攻撃によって占領される。

ことは出来ない。だからそういう風な実践的の観点から考えても、日本が伊太利の原理や独逸の原理を応用しようとしても出来るものぢやない、又その考え方ぢや成功出来ない。これは非常に実践的な考え方かも知れませんが……。

赤松 併し今当面の一番重要問題は、最も素朴なナ

シヨナリズムを大陸に行わうとする考え方とそうでない考え方とある所に日本の大きな問題があるぢやないですか。

室伏 そこがはつきりしていないから僕ははつきり

させる必要があると思うのだ。例えば支那事変にしてもナシヨナリズム的の理論で説明出来るかと言うと、出来ないと思うのだ。だからやつて居る事はナシヨナリズム的の所もあるし、又ファッショ的の所もあるし、又リベリズム的の所もある。何が何だか分らぬだろう。

赤松 分らぬナ。

三木 その矛盾というか、つまり国内的にはかなりファッショ的の傾向を段々は執つて来たのだ、それと同時にそこに戦争という一つの事件が起ればその体制に非常に都合の好いというか外形的にも類似して居るのはファシズムは非常に都合が好いのだ。そういう意味に於いて国内的にはファシズムの体制が非常に強化されて来るのだけれども、今度外へ出て行つて其処で経営を行う場合に非常に矛盾して来る。そこで日本のイデオロギーというものはつきりして来ないと思うのだ。国内だけの問題ならば若しファシズムの擡頭が可能であるとするならば少くとも国内的にはやつて行けるかも知れないけれども、今度の大陸経営という課題を日本が遂行しようとするれば、そこに統一出来ない一つの矛盾があるので、それをどう統一するかということは非

常に大きな問題なんだ。

赤松 それは僕は統一することは十分可能だと思う。出来ないことはないと思う。国内的の体制を斯う行く、併し大陸政策に於いては斯ういう風に行く、東亜の新体制を斯ういう風に作つて行く、それを統一した理論は僕は可能だと思う。可能であるが、それを今日国民としての把握がないと思うのだ。

室伏 それは可能だけれども、それをどういう体制にするかという事が問題なんで、今迄の行き方で行けば日本では大陸政策の中心は別だ、総てが陸軍本位に考えられて居るといふ所に、僕は良い所か悪い所かは別として、特質があると思う。国民的の全体的な立場から考えて行くのぢやない、陸軍という立場が余りはつきりし過ぎて居るから、宜いか悪いかは別なんだが、そこに特性があるんじゃないかと思う。若しこれが陸

軍も海軍も実業家も有ゆる方面の人が入つて来て日本の発展という事を考えればまた相貌を異にしたかも知れない。

革新の諸條件

山崎 僕は曾て斯ういう事を或る雑誌で書いたことがあるのです。革新というものは、次の五つの諸條件を完全に全部備えた状態でなければならぬ。先ず第一に生産が私人の利潤欲ではなく、社会的要求に従つてどん／＼完全に出来るような状態に修正されること、次に経済其他色々な諸關係に於ける社会の不正義が根本的に克服されること、第三に社会の教訓と實際とが合致する状態になるということ、第四にその事が亜細亜の諸民族を十分に満足させ、又それと調和し得るような状態で行われること、それから第五にはそういう事が永久に逆転しない機構を土台

としなければならぬ、つまり或る政治家が一時氣紛れにそれを唱えるというのでなしに、再び逆転することない状態に置かれなければならぬ。これ等の諸條件が満足されなければ革新とは言われないと思うのだ。だから先つき言われた対内的にはファシズムで進んでも対外的にやる時にはファシズムでは駄目だというのは私が今挙げた第四番目の條件に反するのです

室伏

それより前に所謂大陸政策というものはモウ一度考え直して宜いぢやないかと思う。東洋平和と云う、言葉はどうでも宜いが東洋という全体の立場から考えれば、若し之を対西洋という立場から考えると、結局日本を別としての東洋が西洋の半植民地的のものになつて来たということが、大体に於いて言えると思う。だから東洋のこれからの任務というものは解放だと思ふのだ。印度にしても支那にしても解放してやる

という事が東洋に於けるこれからの仕事であり政治であると思う。その方向に日本の大陸政策というものは進んで居るのか、僕はそこに問題があるぢやないかと思うのだ。戦争をして東洋平和と言うのは宜いけれども、やはりすぐ感激が起らん。それを感激が起るようなものにしなければいかぬと思う、皆が本気になるのでなければいかぬと思う。

三木 それには先ず指導者というか、政治家がもつと責任を持つて真剣にならなければいけないと思うのだ。

赤松 真剣にならなければいけないと同時にそのこのイデオロギーが無い、政治家にはつきりそこを見究めるイデオロギーが無い。

室伏 イデオロギーも無いし、政治家というものがありません。(哄笑)

山崎 併しその事になりますと、私が先つき挙げ

た五つの條件が完全に達成された時でなければ革新は成つたと言えないかと言うと、私は必しもそうは思わない。例えば明治年間を顧みると、明治元年は相変らず皆チヨン鬻を結つて刀を差して居る、併し私はあの時は既に立派な革新が行われたのだと思うのです。何となれば明治四年になれば立派に廃藩置縣が出来たし、それから明治十五年には日本銀行も出来た、郵船会社も出来た、それから明治二十二年には憲法が發布され、議會制度の開設となつた。ここに新たな明治体制というものが大成したのである。所で徳川慶喜公があゝの俣政權を掌握して居つたらあんな發展はしなかつたろうと思う。それが出来たのは従来とは全く違つた反対の人間が政治權力を握つたからです。尤もそれだけであの体制が出来たわけぢやないけれども、併しその事が成つた時に既に将来を予約して居たのだと考

えるべきだ。だから革新とは何処でけぢめを付けるかと言え、例えば池田成彬¹さんが非常な統制経済をやる、これが革新だとは僕は思わない。やはり余程違った体制の社会を樹立し得るような、そういう性格を備えた政治権力が完成された時でなければ革新が成ったとは言えない、同時にそういう政治権力が成立した時には、未だそういう社会体制が出来ていなくても、革新というものは既に成ったと実践的には言つて宜いと思う。

赤松 実践的には言つて宜いと思うが、その新しい次の時代を担当する新政治組織がなければならぬですね。

三木 この次の時代には明治時代とは違った国民の圧力が加らなければ革新にならないか、もつ

¹ 1867～1950、三井財閥から日銀総裁、昭和13年近衛内閣の蔵相兼商工相

と非常に聡明な政治家が出て来るか、先に立つて国民の要求のない前に出来るかということ、これからの日本の現実の政治として非常に大きな問題だと思う。国民の圧力が加らなければ革新は出来ないということになれば非常に大きな問題が起きて来ると思うのです。

赤松 三木君の言うのは、国民の圧力というよりも国民の賛成理解だね。

三木 理解ばかりでなしに……。

赤松 賛成するもので宜いと思うのだ。これなら宜いという国民の信頼するものがないのですね。

三木 併しそれが出て来る迄に国民が全般的に不満を感じて来るということ、そういうものが相当表面に出て来なければ革新が出来ないのか、それでなくても革新が出来るのかという事が今の大きな問題になつて居るぢやないですか。

長谷川 抽象的に革新々々なんかと云つて居つて、

メソッドが発見出来ないのは困る。内容のない

革新意識というようなものを、若しイデオロギーということが出来るとすると、今はイデオロギーだけあつてその内容がないのだ、一番大切な事は方法の発見、内容の構成ということです。覚悟には、何を覚悟したかということが無ければならない。人民の気持も大切だが、或る場合には人民の気持なんというものは革新に寧ろ反対することもあると思うのです、明治にもそんなことが無いとは云えなかつた。内容のない気持というものが今大切ぢやなくて、多少気持と違つても、確かに実現すべきまたされ得る内容と方法というものが発見されることが一番大切な事ではないか。

三木 それはそうでしょうね。例えば人物経済の上から言つても官吏制度の改革とか、つまり国民の中にある力を利用し得るか、それは随分大き

な問題でしょうね。

赤松 その方法の発見も、良い案があつたところがそれは或る程度のショックが無いと実行出来ない。政党政治の末期にあつて、これではいけない／＼と言つても改革出来なかつた、そこで例えば五・二五事件といったようなショックがあつて初めて政党は後退したので、これは国民の客観的の不平というものがなければ、幾ら良い方法があつたところがな／＼実行出来ないと思う。

室伏 併し、あれは国民の不平かね？（哄笑）

赤松 五・二五事件なんかで政党の首領がやられるということは悲惨な事だけれども、あれは国民の不平が変態的な形をとつて爆発したものだと思ふ。

室伏 爆発したと言えるけれども、国民はああいう事はやらない方が宜いと思うだろう。

赤松 宜い悪いは別として、あれは不平の爆発だと

思う。

室伏 第一あゝいう事には反感を持つて居る。

長谷川 あゝいう風な仕組で行くことは日本人には不向きだと思う。

室伏 第一反感を持つて居る。

赤松 反感を持つ持たぬは別として、兎に角政党政治の崩壊はあゝいう風なシヨックによつたという事は事実だ。

長谷川 兎に角あゝいうものが宜いということは余り言わぬ方がよい。(笑声)

室伏 いや、あんな事はなしでも政党は満州事件と同時に崩壊していたよ。

赤松 満州事件が起きたということは外部的シヨックだ、満州事件が起きず五・一五事件も起きず何も無かつたらなか／＼時勢は変らなかつたと僕は思う。

1 恐らく1928.6.4の張作霖爆殺事件を指すのだろう。

室伏 まア若干のピンチみたいのものは或る変化のある場合には何処にもあるね。

長谷川 だからそういうものに因つて動くという歴史の動き方を成べく歴史から排斥するのが国民の賢明な途なんだ。あゝいうことがなければ歴史が動かぬというような歴史を持つことは国民としては賢明でもなし幸福でもない。

赤松 いや、僕の言つて居るのは事実を言つて居るのです。

長谷川 その事実を克服しなければいかぬ。

赤松 併し、あなたみたいに聡明の人間ばかりぢやないですよ (哄笑)

室伏 それは赤松君がやろうというわけぢやないのだね。

赤松 僕はやらない。奨励して居るわけぢやないですよ。(哄笑)

室伏 具体的にそういう政治情勢をどうして作る可

能性があるかということだね。

曰支親善の出来る道は

山崎 僕は一昨年亡くなった魯迅にその死ぬる半月程前に会ったのだが、その時に僕が日支親善というものは根本的に出来るものか出来ないものかと言ったら、魯迅曰く、それはわからないのだ、日本人が自由にものを言えるようになるれば何時でも出来るのだと言ったことがあります、日本の革新も、或は今比処で話題になったような暴力行為を防ぐ方法も日本人が自由にものが言えるようになるれば出来るのではないかと考える。

室伏 それも一見解だが、それもものによりけりだ。

小金 今の世界の情勢ぢや後進国は自由ということとは出来ないぢやないですか、持てる国と持たざる国という風に、斯んな不公平な資源の分け方をして居たら……。

室伏 併し、一体日本は持てる国かね、持たざる国かね、何方に入るか。

赤松 最近日本は持てる国に入るのだそうぢやないか。(笑声)

三木 支那の方が持つて居るだろう。

赤松 鮎川義介氏は日本は持てる国だと言った。

日本はまだ持たざる国だ

小金 大体希望通りに内外の資源を獲得出来ない状態にあるうちは持たざる国です。ヒマラヤの天辺に幾ら金があつても何も役に立たない。資源がいくら在ると言つても開発出来ない中は、それと同じことです。現在の状況に於いて殆ど全世界に亘る資源を壟断して居る国が、それを日本とか伊太利とか独逸とかいうような持たざる

1 1880～1967 戦前日産コンツェルンを築き、満州にも進出。

国に自由に門戸を解放してやるということは、それは出来ないと思う。然し物資に対する支配関係は確に不公平に過ぎる。それは物資の色々の問題を扱って見ると痛切に考えられる。

室伏 それもそうだが、同時に日本が物資が欠乏して来たのは日本に産業が発展して来たこと、市場が大きくなって来たこと、人口が殖えて来たこと、そういう関係ですね、昔の日本ならそうぢやない。

小金 これは日本が発展したから資源が乏しくなったのです。一国の国力と資源関係とは相関関係に在るものと思つています。

室伏 或る資源を取つて又発展すれば資源は乏しくなる。

小金 併し発展しなかつたら東洋は永久に植民地化してしまうのではなからうか。

室伏 当面の問題は日本が発展して植民地にならぬ

かという問題ぢやないかと思う。欧米の市場化してしまふ虞は多分にあるが、支那から言えば日本の市場化しても同じだということになる。

小金 それが日本の市場化した場合欧米の市場化した場合とは違うぢやないかと思う。

室伏 日本人としては違ふけれども、支那人としては同じことだということになりはせんか。

小金 同じであらしめてはいかぬという所に日本の政策がなければならぬ。

赤松 そうだけれども、持てる国と持たざる国の理論は大陸政策の理論としてどうかと思う。英吉利や亜米利加に対しては言えるけれども、亜細亜に対しては言えぬと思う。日本として持たない国だから支那へ行つて物を取るのだと言つたら、支那人から言えば、それは自分勝手だ、君の方が飯が食えぬからと云つて俺は侵略される理由はないぢやないかということになる。だから

ら持てる国と持たざる国というのは亜細亜政策としては妥当でない 思うに、理論根拠としては低いと思う。

室伏 そこが君の議論はいかぬと思う、亜細亜政策は何処を見ても与えるような理論でなければ日本に都合の好い大陸政策にはならぬ。(哄笑)

赤松 僕はインチキで言つて居るのではない、日本の大陸政策はたゞ持たざる国の理論でなくもつと広いもつと高い亜細亜復興の見地に立つべきだというのがだ。

長谷川 さつきの議論は、赤松君としてはよい議論だ(笑声)

赤松 「赤松君としては……」はいかぬですネ(哄笑)
室伏 英米に対しては確に持たざる国なんだから、持たざる国が持てる国に対して闘争するというのは英米に対してやればよいのだ。それから共產主義がいかに露西亞に対して闘争をす

ればよいのだ。

赤松 僕は東亜に於ける日滿蒙漢の諸民族の間に運命を共にする共同体を作つて、共存共榮の方針の下に資本と技術と資源とは相互扶助で融通し合う、その間に均略関係も搾取関係もないという新しい体制を計画し、そのプランで押し進んで行かないと、俺は持たない国だから大陸進出をやるのだというのがぢやいかぬです。

山崎 国際会議では日本は人口が多くて資源が少いということとはモウ知つて居る。持てる国とか持たざる国とかいうことでなくて、どうしても先進国が共同する気持を持つて呉れなければいけない。又、東洋に日本がはびこつても英吉利がはびこつても支那としては同じだということであつてはならぬ。日本が東洋の盟主になったら欧州の植民地になるのとは違うという気持をもたせなければいかぬ。これが今夜の座談会の革

新という實際であろうと思う。

赤松 それはそうなんだ。或る人達は日本は神の国で皇道の国家だから支那に対しては皇化に浴せしめるといふ、その言葉や頗る崇高なるものがあるが、ところが具体的政策は何もなく甚だ抽象的なんだ。

室伏 此方は神の国、向うは中華だ。(哄笑)

支那は何を欲するか

山崎 それから又支那は強い力を余り好まないのではないかと思われる。これまで変な者に事毎に抑えられても来たからであらう……。だからそこが日本人と支那人との国民性が違うという事を余程考えなければいけない。吾々が日本人に附合うような氣持で支那人に附合つてはいかぬと思う。

室伏 民族性というものは歴史の發展段階で色々に

変化して行くものだ。支那でも国民政府になつてから非常に変つて来て、今支那が一番良い時代になつて来て居るのだ。

赤松 新しい支那だ。

山崎 それで日本の一部の当局者の意見に、支那には三民主義をやらせるからいかぬのだ、つまり民生を遺憾なく達成させてやればそんなものは無くとも支那人は喜んで居るのだと、斯う主張する人がある。恐らく三民主義と云つても一番大事な点は民生であることは言うまでもないけれども、併しその民生が今日は民権と民族主義を振翳して行かなければ達成し得ない、斯う考へて来て居る。そこで民族、民権の二つの思潮を除いて民生だけを達成する途なんというのにはありはしない、やはり民生が目的だけでも、それには民族と民権を主張しなければならぬ、斯ういふ氣持になつて来て居る、そこで三民主

義というものは不可分になつて来て居る。この支那人の立場を吾々は十分尊重してやらなければならぬ、之を尊重することが日本の立場を無くすることぢやないと私は思う。

赤松 日本の大陸政策は支那人が日本と提携することによつて幸福になれるというような氣持を懷かせない以上は絶対失敗ですよ。

小金 余程長い間掛かるでしょうね。其の覺悟が今の日本人には一番大切なものではなからうか。

赤松 それを動もすると今の山崎さんのお話のように、支那人は安居樂業で飯さえ食わしてやれば誰が支配しても宜いというような古い支那通が居るのだ、これは非常に危険だと思ふ。

室伏 そういうのを唯物論と云うのだろう。

長谷川 併し支那の今の民族主義というのには一寸違つたところがある。要するに余り政治的の意識なのです。政治層の意識です。で支那にま

るでそういう意識の圈外にある層がある、それが寧ろ広い支那の国民層です。国民の実数から言つても、比例から言つても非常に多いのはそういう意識以下の層だ。これは代々異民族の朝廷の支配をうけ、色々の政治を受けて、結局奴等の立場から言つと、自分達の生活を良くして呉れるのが一番善い政治だと考えるようになって層だ。古い民族意識では、秦でも元でも金でも、皆野蛮人で、今でも滿人と漢人との対立があるばかりでなく、蒙古族とか、苗族とか回各族とか色々あるから、これ等の民族が一つの民族に纏まるということは、不可能だつた。それが民国以来、極く少数の政治階級によつて、政治的に民族意識が与えられた。そういう方法によるより外はあり得べからざることです。だから日本が何か支那に対してやる時にはその国民層の方を相手にしなければならぬと思ふ。それ

が支那の歴朝のやった古い方法だが、民国政府でも、具体的に人民の生活をよくするという方へ曲りなりにも進んだので、漸くモノになったのです。

山崎 長谷川さんの仰しやる通りですが、この間私は上海で二、三の支那のインテリと話をしたのです。それ等の青年が私に言うのには、吾々支那民族は始めから決して日本を偏見視して居なかった、今度の事変に依つて占領された後でもまだ日本は良い事をやって呉れるかしらん、暫く何をやるか見て居ようと思つて居つた、しかし占領されてから民族主義、三民主義、民族、民権、民生の三つの主義というものは不可分である、これなくしては吾々は生きる途がないということ占領されて見て初めて思うようになった、斯う言うのです。

長谷川 だからモウ斯うなつた以上は日本に占領さ

れたことが支那国民の最大幸福だという觀念を、具体的に彼等を幸福にすることによつて彼等に与えなければいかぬ。

室伏 併しそれはどうでしょうか、民族の問題が其処に入つて来て居ない時代なんで、若干漢族とか滿族とかいうものがあつたにしても今のような民族の問題ぢやなくして支那の国内の問題です、併し今は国内的な問題ぢやない、昔の支那は国内的な問題だけであつて、國際的な問題は其処に入つて来なかつた、他の方面に依つて征服されるということとはなかつた。

長谷川 所が支那的の國民層に取つては清朝が民國になつたのとないて違つたことではない。

室伏 併し社会が同じことでないと思う、例えば日本では徳川でも豊臣でも善政を布けば宜いということは考えられる、併し外国人が来て治めるということとは別だ。

室伏

支那は今迄は大国であつて外国から治められたことはないから余り経験して居なかつた、支那では特に日本の二十一箇條以来そういうものを実際経験して今迄と全く違つた民族意識というものが起きて来て居る、だから今迄の支那の古い立場から政治層とか被政治層とかいう風に簡単に区別出来ないと思う。

赤松

私もそう思う。

長谷川

政治思想というのが、国民政府の方法で下の方に浸潤して居ることは確に浸潤して居りますが、併し斯うなつた以上、何うして吾々の道を開くかと言えば、やはり支那の国民層のため、よりよい生活を与えてやるより外仕様がないのだ。

赤松

併し支那は南に行くに随て民衆の間に抗日意識、民族意識が浸潤する度び段々強いのです。だから今迄は日本であろが何であろが誰が

来て支配しても構わないという意識があつたのが、今度は抗日思想、民族意識が農民や商人の間まで這入つて来たことはこれは今迄の支那の歴史にないことぢやないか、これは新しい現象ぢやないかと思うのです。

長谷川

詰り国民政府成立以来の現象だ、それは確にあるだろう。

長谷川

それもあるけれども、今山崎さんの言われたように、兎に角或る時期までは見て居よう、ということもあつたと思うのだ。それは知識階級だろうが。

室伏

併し支那と日本と文化的に融和は出来てもそういう支那から言えば愛国者はいかぬと言うわけには行かぬナ。

長谷川

日本で教育された支那の人が一番排日的になるということがあるならば、それは日本の教育の効果があつたわけだ（哄笑）

赤松 併し支那の留学生で日本へ来て日本の中産階

級の家に居つて良い所を見たのは日本に対して好印象を持つて居るのです、例えば蒋介石のブレーン・トラストの高宗武、あれなどは良い所を見て居るそうだ、支那の留学生でも神田辺で安下宿屋でくすぶつて馬鹿にされた連中はいいのだ。

長谷川 それは日本人でもそういう生活をした者は駄目ですよ。

いかに指導するか

赤松 併し将来僕は非常に樂觀して居るのだ、僕等の一代で実現するかどうか分らぬが、それは日本人と支那人とは非常に縁が近いと思う、それは西洋人と較べて文字も同じだし歴史や文化の1100の不詳、汪兆銘派で、この後蒋介石とは袂を分かち日中和平交渉の要となるが、和平条件に不信感をもち中国を去る。

関係も探いし、支那は日本から文化的影響を受けるのが都合が好いということは事実なんだ。

室伏 併し支那は日本から文化を受けるのぢやない、西洋の文化を受けるのだ。

赤松 そんなことはない、近代の支那は日本の文化的影响を一番受けて居る。支那の軍部にしたつて留日学生が作り上げたようなものだ。文字の關係から日本の言葉がそのまゝ、沢山支那に使われて居る。僕は文化的に非常に近い關係があると思う。コミンテルンで働いて支那の漢口に長く居つて日本共産黨員で転向した青年がある、その話を聞いて見ると、コミンテルンの中で支那人と日本人とは直ぐ固まる、そして西洋人を毛唐人だという、それは何かと言うと感覚がそうさせるというのだ、これは人種觀念が非常に強いのだ、だから日本と支那というものは提携協力して行かなければいかぬという基礎條件は

備つて居るのだ。併し当面は悲観材料が多いが……。

三木 併しその場合に日本が指導するか支那が指導するかということが大きな問題になるね。

赤松 それは日本が本場に高い文化を持たねばならぬ。偉くない者が偉い者を指導するということはありませんのだから……。

長谷川 日本も昔は支那に指導されたのだから……。

室伏 支那は長い間にはそういう時代が来るかも知れないね、支那人と日本人とはお互に飛び込める所があると思う。

山崎 私も暫く交際つて見てその感覚は随分あると思うです。

室伏 山崎君なんか支那に行くと支那人に見られるのぢやないか（笑声）

赤松 一寸顔が似て居るね（哄笑）

山崎 いや此処に居る人の顔は支那人には全部あり

ますよ、併し支那人には非常に文化的な寛大な良い点があると思うのです、これ位日本に叩きのめされて一面日本に対して憤慨して居ながらもやはり日本の良い所は良い所として認めるだけの寛容さを持つて居る。これは悪く言えばそれだけ国家的でないと云えるかも知れないけれども、私はそれだけ心の余裕を持つて居るのぢやないかと良く解釈したいのです。斯ういう良い人間とは非常に交際い好いとは思つても、決して交際い悪いとは思わない。

赤松 日本人というものは交際い悪い、僕は日本人は国際人として田舎者だと思う、僕等は国際的の教養が多くないと思う。所が支那人なんかの家にいくと実に交際い好い、サーヴィスすることが実に巧い。

三木 所が政府の政策は国際的教養というものを排

斥して居るのだから……。

赤松 併しそれは誤りだと思ふ。

三木 それは口先だけでね。

長谷川 僕は日本人は口は寧ろそうで、実際にやる所はそうぢやないと思ふ。

室伏 政府の方は企画院はモウこの邊で一段落ですか、何かこれから新しい計画があるですか。

植村 まだく／＼色々なものがあるだろうと思ふのです。併し何時如何なることをやるかという問題ですが……。

赤松 この間から政府でやつて居る議會制度の改革、あれに対して少しも熱がないと新聞に書いてあるが、あれはどうなんですか。

植村 さあ其処の所になると分りませんが……。

赤松 近衛内閣は議會制度の改革に対してすら熱心ないようでは駄目ですね。

植村 併し貴族院改革の問題なんか非常に勉強して

居るようです、少くとも事務的には……。

長谷川 熱は兎に角企画院には案はあるのか

赤松 案はあるのです、案は中々立派なものを作つて居るのです。

統制經濟の前途

山崎 話は違いますが、今年一ぱい掛ると公債発行額が百七十億か百八十億になるわけです。この

利息が四分利としても十億近いのですが、それに恩給年金の支払額が今に十億を突破するということになるのとこの二つで彼是二十億円近くになりましょう。一方軍事予算が陸海軍を合せて来年度は非常に多いだろうと思ふのですが、これが平年並になつても二、三十億円位にはなるでしょう。そうするとモウその公債の利払と恩給年金と軍事予算とで先ず四十億から五十億

になる。更にそれに一般政費を加えますとどうしても将来ノーマルに還った場合、そんな場合が一体あり得るかどうか問題だけれども、仮にあり得るとして考えても日本の予算は先ず五、六十億になる、況や来年度は逆もそんなことでは収まらぬ、どんなに少く見ても来年度は七、八十億円或はそれ以上ぢやないかと思われる。所が斯んな事は言つて宜いかどうか分らぬが、誰でも想像し得る事は今年の日本の経済というもの、これは金の輸出と国民の貯蔵を食つて居るのです、所が金の輸出を為し得る限界もなくなつて来たり国民の貯蔵は減る一方、そうして尚お来年度以降そういう大きな予算をこの俾の姿勢で果して続けて行けるかどうか、それをやろうと思えばもつと統制経済も思い切つた所まで突進んで行かなければやれないのぢやないか。そうすると単にそういう物資の需給というだけ

の問題に止まらないで、国民の生活安定の問題や或は企業の経営形態の問題や金融に対する問題とか非常に突進んだ所にまで行かなければならないのぢやないかと思うのですが、どうでしょうか。

小金 そうでしょうね、それは余程変らざるを得ぬでしょう、私共現にやつて居る仕事から言つても非常に実質的には變つて来て居ります。それは利益追求主義と言いますか、企業心を唆るといふ根本だけはこれは變えて居らぬ、今後も變らぬでしょうが、その他に於いては非常に大きく變るということになつて居るのぢやないかと思つて居ります。今の状態を急激に変化して元へ幾らか戻すというようなことは一寸考えられませんね。

赤松 だから統制経済は益々強化せざるを得ないでしょう。

小金 そう思いますね、強化の仕方にテクニクが

色々あると私は思うのです。そのテクニクが大切である、それがうまく行けば大しい混乱はないのではなからうか。

植村 どういう事をやるかということが問題です、

そうしてどういう事が必要であるかということが……。

山崎 それで僕が最近非常に感じて居ることは世界が所謂全体主義国家の体制を整えて来て居ることだ。例えば茲に独逸なら独逸という国が非常に全体主義的体制を整えた、それに対抗する為に他の国が又全体主義的な体制を整えなければならぬ、それは社会の正義だとか国民の不平等とかいう点から要求が来るのぢやなくて、先ず戦争という面を取上げて一つの優れた原理を取上げた国に対抗する為に此方も優れた原理を取らなければならぬ、それが廻り廻つて日本に

も来て居る、特に今度の戦争にそれが来て居る、差当つて貿易とか為替管理というようなことに来て居る、それが段々進んで行くと国民が安心して行けなくなる、企業も安心してやれなくなるということになると、今度は単に生産とか貿易とかいう面だけでなしに、或は国民生活安定というような問題の上から改革しなければならぬことになるのぢやないかという要求が起つて来る、そうしてそういうことが又先程言つたように一つの世界觀を以て吾々の生活或は国家を見透し得るような状態が出来なければ居られないというような点まで發展して行くのぢやないか、だから歴史の發展なんというものはイデオロギーの下に行くものぢやなくて、事實は非常に卑近な手近な所から要求が起つて来て發展するのだけれども、聽てそれが非常にぢぐざぐな経過を辿りながらいつか非常に全体的な革新過

程に入つて行くのぢやないか、斯う思つて居るのです。それで今差當つて感じて居る面は戦争という面、それから来る生産の問題でそれを非常に痛切に感じて居る、けれどもそれだけではやれない、やはり政治を指導する人はもつと総合的な考を持ちもつとイデオロギーを持たなければいかぬのぢやないかと思うのです。

長谷川 併し僕等はそれが一国的ぢや駄目だろうと思うのです、世界的でなければ……。

山崎 だからどうしても世界的でなければいかぬと思うのです。

長谷川 各国がいわゆる全体主義的な体制を採ると、物資と生産の世界的な融通というものが減退するに決つて居る。所が今の世界というものは物資と生産の世界的交通の為に一国が進んで来たのです、所が各国が世界的の融通をうけるという体制から退縮して、一国だけの全体主義

にたて籠ると、各国自身の生産が減退して發達が止まるのぢやないか、そうすると各国が自分を強めようとして却て自分を弱める結果となる。例えば日本なら日本がいかに孤立しようとしても、どうして自国の生産のためにもある物資は外国から取らなければならぬ。そうすれば日本の物を賣らなければならぬ。これは戦争して居る場合ばかりでなく、平和の常住の状態がそうなので、しかも何処の国も皆同じわけなのでしよう。斯うなつて来ると、たゞ一国に立籠るだけではだめで、世界的に一つの体制を整えなければならぬという所に各国が氣が付く時期が来るのぢやないか、氣が付くよりも、そういう時期が来なければ何うにもならぬのだ。

三木 それは世界戦争でもやらなければ其処まで氣が付く時期が来ないかどうかが今世界的には大きな問題でしょう。

長谷川 戦争を経てそうなるか、或は戦争を経ずに

そうなるか、所謂自然発生的に委せて置けば戦争は起るでしょう、それを避けてそうならずには打開の通を拓くということが全世界の努力すべき所だと思う。

小金 私は現在の優越な地位を持つて居る国がそれを考えなければいかぬと思うのです。

長谷川 優越な国がそれを考えないために、結局そういう所に落ちるということは余りに全世界に智慧が無さ過ぎる話です。

小金 一番能く分るのは物の生産と配給の割当なやる場合に現われる現象です。持った国が譲歩すればこれは満足に解決するのです、それが一番早いのです。それは生産、配給及消費の割当に於いて毎日体験して居る。所がそれをさせるのには公平な立場に立ち得る官僚と言いますか、そういう者がやらせるのです。世界にはそれが

ないからです。

長谷川 世界にそれが無いから戦争になるというなら、世界も何かそういうものをもつべきでしょう。

小金 唯だ放つて置いて見て居つて纏れたら何とかしようという場合などに於いて、非常に有力なる方の者が適当に譲歩して同業者中の弱者を同情的に取扱うとそれが当事者両方だけで解決する。

長谷川 強者をそういう風に覚悟させるということとは中々難かしいが、然し日本の政治家は強者に対してそういう覚悟をさせるということを、日本の世界政策として世界に働きかけるといふことを今迄具体的にやつて居ないぢやないですか。

小金 それを非常に熱望する氣運が起らなければならぬということです。一大經世家、一大外交家の出現が極めて望ましいと考えています。

植村

欧州戦争から後の推移を見て居りますと各国ともそういう努力をして居ります。欧州戦争の後で民族自決で沢山の小さい国が出来たが各々が関税障壁を設けて対立した。従つて国際貿易が工合が悪い、それで国際経済會議を数国で開いて貿易障碍の撤廃とか何とか決議をやつて来て居る、それでやつて来てどうしても巧く行かない、遂には自由通商の本来みたいな英吉利までもオッタワ會議以来あゝいう政策を採つて來たのだ。各国は益々アウタルキー的方向に進んで来て居る、そして聯盟の影も薄いということになつて来て居る。それを一体如何にして解決を付けるかということになると中々難しい、今御話の持てる国と称せられる国も然りとせば持たざる国は自然に委して安心は出来ないのです。いざと云う時に自分として兎に角主張し得る力を持たなければならぬという形で日本なん

かはズツと進んで居るわけです。これから先どうなつて行くか。

長谷川

日本の政治家がその世界的の考に入り込んでその目的をもつて世界に向つて日本の強い力を用いると言うことをやつていたとは思われない。そういう世界的の考に入り込んで居ないかの如くです。

植村

持てる所は少し反省しなければいかぬ、これは国際聯盟の會議でも問題になつたのですね、英吉利がどういう實際的な腹を持つて居るか知らぬが、成る程度まで誠意を示すかの如きゼスチュアーを取つて国際會議の開催を提議した。日本からも専門家を會議に送つたのです。吾々の気持から言いますと持てる国へ行つて資源を取つて来ようというようなことを勿論言うのぢやないが、開発されないで居る資源を技術と人間とを持つて居る吾々が行つて開発すると

いうことが世界文化の向上に貢献する所以ぢやないか、之を拒否する理由はない筈である。これは世界に対して主張出来るぢやないかという様な意味で主張して居るわけです。そうして会議をやつて居る中にこの事変になつてしまつた。

又欧州の情勢もスツカリ險悪になつて来た。

赤松 そういうことは日本の外交官も向うで盛に言つて居りますよ。

赤松 所謂世界の識者という連中の中には共鳴者もあるのだ。

室伏 それは沢山あるか。

赤松 ハウス大佐¹なんかは賛成して居るのだ。

長谷川 日本の政治家とか官僚とか外交官とかが個人的に考はもつていても、それが国家の力を背景として世界に立ち向つていない。てんでイニ

¹ エドワード・マンデル・ハウス、アメリカカ28代大統領ウィルソンの片腕として外交手腕を発揮

シヤティエーヴをとるということがない。この座談会で吾々が理窟を言つて居るように言つて居るだけでは（笑声）それぢや駄目なんだ。

赤松 私は斯ういふ風な手が一つあると思う、勿論話合では承知しない、そうなると戦争しなければいかぬことになる。しかし英国なんかは斯ういふのです。上海の英国人なんかは日本が漸次に進出して来れば英国の權益というものは将来に於いて退却しなければならぬだろうと観念して居る、けれどもそれには限度がある、急激にやられては困るというのだ。其処は英国という国は勘定高い国だから迂つかり戦争はしないと思う、戦争はしない程度に於いてじわ／＼漸進的に進出して行く。日本は強大な軍備を似て此方は何時でも戦争の出来る態勢を執る、英国としては金持喧嘩せぬで成るべく喧嘩したくない、其処に付け込んでじわ／＼行くという手が

あると思う。

三木 併し英吉利の持つて居る權益を日本が代つて取つた所で支那人は満足しないだろう。

赤松 それは別問題だ、英国の世界的特權を如何にして放棄させるかという方法論について云つて居るのだ。

長谷川 赤松君の言うようなことも一つの現実政治の方法で、それもなくはならぬことだが、そのような一時の政略的なものぢやなしに、もつと本當に國家の根本的の政治の理想なり目的なりが立つて、それを達成する方法があるということにならねばならぬと思うのだが。

赤松 一方に大義名分を主張し大きな大鼓を叩きながら、一方に於いて戦争しない限度に於いて少し宛じわくやつて行く。

長谷川 ナチス独逸は英吉利に対して今それをやつて居る。

室伏 併し君それは内緒のことぢやないか、言うべきことぢやなからう。

赤松 言うべきことぢやなからうが、實際論としてはそういう手があるというだけの話だ。

長谷川 いわゆる政略は云えないことが多い。國家の政治の大目的ならば、堂々と云える。

三木 そういうようなアイディアを持つた政治家が居ないのだから……。世界政策なんという言葉はあるのだけれども、世界政策を持つて居る政治家は一人も居ないのだから……。

日本の資源

室伏 日本は資源はどうですか、鉄、石炭とかいうものは全く駄目ですか。

小金 満州を加えると大分違います。鉄は余程足らないです、石炭は百五十億吨から、樺太を入れると二百億吨近いものになるでしょう、併し

支那の大同の炭田なんかたった一つで百二十億
吨位纏つてあるのです、較べものになりません、
鉄の資源は日本は極めて貧弱です、鐘と太鼓で
探しても砂鉄なんかもそう大したものぢやない
のです、そこで将来の国防及文化生活から言つ
ても鉄だけはどうかしなければなりません、そ
うするにはやはり鉄というものは非常に遠方か
ら持つて来たのでは鉱業にはならないのです。
どうしても東洋或は南洋にその資源を求めなけ
ればならぬのです。これは平和的に求めるのが
一番宜いのですが、それはどうしてもやら
なくちやいかぬのです。

室伏 併しそれは支那にでも戦争しなくても求めら
れるぢやないですか。

小金 支那に対しても濠州に対しても求められま
す、それで化学工業とか繊維工業などに鉄が如
何に大切であるかは一般には、殆ど今迄全部氣

が付かなかつたのですが、それ等が如何に強く
鉄に依存して居るか云う相貌を今度はつきり
出したのです、誰も化学工業にそう鉄が大切な
ものであるということは今迄余り考えて居らな
かった。所が今日化学工業に如何に鉄材が大事
かということが判然と分つて来て居る。鉄は基
礎資材中の基礎資材だということが分つて来た
のです、鉄と石炭だけはどうしても持たなけれ
ば国を成さないので、そういう意味で僕は歐
羅巴に小さい国が沢山出来て居るということは
国際聯盟が強力であつて国家としての生活を保
障しない限りは全然あれは失敗だと思ふのです。
赤松 日本は何年したら満州支那を包含して日本の
資源は自給自足が出来るのですか。

小金 満州だけ早く開発が出来れば、情勢の変化に
も依りますが、五年乃至十年でしょうね。
赤松 それ位待てば大体鉄は補えるのですか。

小金 大体補えると思います。

記者 植村さん当面の問題として日本の国内の状況はどうなんですか、例えば物資動員とか生産拡充とか貿易とかの問題で或人あんななどは今年のクリスマス頃にも財政の破綻があるように言ったりするそうですが、実際に現在の統制経済の運用のみによつて当分間に合わせてゆける確信はあるのでしょうか。

植村 来年も亦物動計画を樹てゝやつて行きますが、斯ういうような情勢というものは続いて行くのだらうと思うのです。寧ろ商工省としてもまだ色々の必要な措置が緒にいただけでした。相当ドラステックの所もあるだらうと思うのです。そういう所は相当是正され合理化されて行く、組織の点等まだぐゝやつて行かなければならぬ所が残つて居る、それを着々やつて行くと思うのです。それからモウ一つは何としても

国内の生産を増して行かなければならぬ、それに対しての手段方法を整えてどんぐゝやつて行く、それが差当りの問題です。

記者 しかしそれが経済機構の改革という面に突当る所まで行つていないですか。

植村 経済機構の改革というけれども内容如何又考へようです。やらなければならぬことは着々やつて行くという形で行われて居るわけです。

小金 経済機構は相当変えて居ると思うのです。この一年間に鉄を中心にした工業組合が千幾らか出来て居る様です、これ等が聯合会を作つて共同して公共的に色々のことをやつて居る。それは従来はなかった。今迄は胡麻化しても一文でも儲けて私腹を肥やそう、これが大体の状態だったのですが、それが段々變つて来て居る様です。機構の行き方から行けば組合制度が非常な勢を持つて来た。そうして大会社が無茶苦茶の配当

をやらなくなつた、無茶の儲けが出来なくなつた。初めは陳情が二色あつた。非常に困るから斯ういう材料原料を配給して呉れなければ飢えてしまうというのと、斯んなに儲かるのに手を空うして居るのは困るからモウ少し配給は出来ぬものかというのがあつた。今は殆ど後者の方はない様です。考えて居るかも知れないけれども、そんなことを言つて来る者は激減している。初めはそれが相当露骨であつた。だから氣風は余程變つて来て居ります。

赤松 變つて来ましたね。

小金 唯だこの所謂革新だとか変革だとか称する事柄は、これは吾々の任務ではないものだから、自分から余り論ずること好まない。出来るだけ国民の批評的意見を聴きたいと思つて居るわけです。そうして少しでもいゝ方へ推進したいと思つています。

植村 或る意味から言つてまだ色々な事が始められてからそう経つていないですから……、結局本格的に始つてから半年ですから……。

小金 本當を言つと六月からですからネ。

植村 六月からですから今途中なんです、それで組織なんか未だ出来ていないし、そういうものがちゃんと出来て来れば確つかりして来るだろうと思ふのです。

赤松 モウ一年経つと余程變りますね。

植村 それから今行われて居る事の中に一律と云いますか大まかにやつて居る所がありますが、それぢややはりいけない部分が幾らもあるわけです。そういう所が合理化され是正されて行き、そうして組織の方が出来て行けば同じ分量でも国民に与える苦痛は少くしてやつて行けるといふことになるのです。

赤松 統制されても組合の自治が発達して来れば一

番宜いですね。

植村 それが一番宜いですが、今迄の状態から行く
と巧く行かなかった。

民衆を安心せしめよ

赤松 最近政府で評判の悪いのは国民精神総動員と
内閣情報部ですね。

植村 期待される所と機構の実際とが喰違つて居る
からそういう批評が出るわけだろうと思うので
す。期待されて居る所を行うには今の機構ぢや
いけない、もつと拡充して変えなければならぬ
ということになるぢやないかと思うのです。現
在の機構としてはよく働いて居るわけです。

赤松 併し、情報部なんかでももつと民間のエキ
スパートを入れて宣伝省なら宣伝省でも作つて
もつと対外的や対内的にアッピールする方法が
あると思うのだ、あれだけの金を使つてあれだ

けの人が集つて居るのだから……。

植村 色々の点で変えなくちゃならなくて未だ変ら
ずに居る部分があるでしょう、そういうのは段々
客観的情勢に依つて變つて来る、斯ういうこと
になるぢやないですか。

三木 これで戦争が何時どういう風に済むのか知ら
ぬけれども、永引くとすれば何か全体の見透し
を付けて国民に希望を与えることが必要だと思
うのです、段々永く来つて来てどうなるか分ら
ないということになると非常に不安で危険だと
思うのです。

赤松 それはそうです、五相会議でも何だか分らな
い、五相会議で絶対に秘密だという、それが漏
れてデマが飛ぶ、あんなことぢやいかぬと思う。
漢口攻略¹後は国民思想がどういふ風になるか。

¹ この頃三十万人の兵力と巨費を投じて漢口（現武漢市）
目指す 1938.10.27 占領

国民は漢口を取れば蒋介石政権が壊滅するよう
に思つて居る。所が漢口を取つても蒋介石政権
は簡単に壊滅しない。その時に政府が明確な方
針を与えて、戦争は斯うなる、建設工作は斯う
なるという風に国民に向う所を示すべきだと思
う。事態を曖昧にして置いてはいかぬと思う。

植木² そうだろうと思うですね。

長谷川 兎に角日本人がもう少し支那を知らなけれ
ばいかぬ、余り支那に対して知らな過ぎる。

赤松 支那問題というものは大問題だ、えらい問題
という認識は国民にまだ足りない。

長谷川 足りない、政治家に足りない。それが方針
の樹たぬ一番の理由でしょう。

赤松 私はこの間政府の人達にも言うただけれど
も、或る一定のイデオロギーの下に思想戦をし
なければいかぬ。その思想戦を日本だけで勝手

2 「植村」か「三木」か、誤記の確定できない。

に作つてもいかぬから、僕は上海に一つ相当な
支那の知識階級と共同して東亜建設のイデオロ
ギーを作つたら宜いだろう。そういうイデオロ
ギーを作つて、大陸に思想運動を起さなければ
いかぬと思うです。

室伏 それは好い、やらなければいかぬ。

三木 それは全体的にやり直さなければ、部分的に
やつたのでは向うは承知しない。

室伏 首を押えて置いてから相談しようというのが
無理なんだ、それが出来るかね。

記者 では此の辺で、どうも色々ありがとう御座い
ました。

底本：『日本評論』1938.10

『新愛知』1938.12.6 第一面

「国体の本義に基き」

天業翼賛の臣道実践

国民再組織の大綱決定¹

という大見出しがあつて、政府が第三回八相会議に於いて決定したとある。「国民各階層をこの組織の内に包括し政府の政策が直ちに全組織を通じて全国民に徹底、その職場においてこれが実践に移される」ことを狙いとし、総裁に近衛首相、副総裁に末次内相、もう一人の副は未定、云々とある——以下の座談会は、この第一面記事に並んで第一回が掲載されている。

注：以下はマイクロフィルムの印刷をおこしたもので、それにはかすれたり黒くつぶれたりした文字が多数ある。文脈と凡の形から推測出来るものは注記なしに通し、字形も怪しい文字には【】を、更に不確かな場合にのみ注記する。

国民再組織の動向

評論家 尾崎秀実：1901～1944、東京出身、東京

帝国大学卒、東京朝日新聞社から上海に駐在、満

鉄調査部嘱託、1941.10.14ゾルゲ事件で逮捕・

死刑。

同 山崎靖純

大東文化学院教授 藤沢親雄：1893～1962、内閣情

報部嘱託・大東文化学院教授、九大法文学部国際

政治の教授、日本文化連盟を中心に海軍省嘱託、

国民精神文化研究所の嘱託

代議士 三輪寿壮

日大教授、三木清

早大 中野登美雄【当日参加せず】：1891～1948、

北海道出身、早稲田大学政経科卒、法学者、同大

教授、後総長

本社側

理事 桜木俊一…不詳

1 講師には行ったが教授にはなっていない。

論説委員長 篤田健二(不詳)

新事態に当るには当然新組織が必要

桜木 一寸御挨拶申上げます、本夕は多忙中お繰合せ下さいまして御光来を願ひ、有難く御礼を申上げます、御案内の通り国民再編成の問題が朝野の喧しい議論となっておりまして、政府におきまして、八大臣を中心に、着々と具体的なプログラムが進められておるのであります。さて国民再編成とは何か、或はその指標はどこに持つて行くべきかということになりますと、国民の認識は極めて混沌たるやに考えるのであります。東亜新秩序の建設のためには是非とも国民再編成が必要であるというのならば、その出発の頭初に当りまして、その向うべき道をはつきりと決めて置くということは最も大切ではないかと考えまして、各方面の權威であられる皆

様に枉げて御光来を願ひまして、本夕この会合を持った訳であります。どうか腹藏なき御意見をお聴かせ願ひたいと思います。

篤田 先ず国民再編成が何が故に今日支那事変を遂行しておる傍ら、大きな政治問題として取り上げられなければならないかという点から皆様の御意見を拝聴したいと思いますが、尾崎さんから一つこの問題の経過をも含めてお話し願えれば非常に結構だと思ひます。

尾崎 この問題が具体的に朝野の真剣な問題として取り上げられたのは結局において支那事変というものがあつたからだ。しかもこの支那事変の進行に連れて重大な問題になつて来たのです。大体今度の戦争に取り掛つた最初の態度というものには必ずしも全部が全部その本質をよく認識していたということはいえないだろうと思う。この戦争に當つての態度というものはかなりま

ちまちであつたと思う。その前途の見透しについてでも区々であつたということがいえます。中には簡単に支那の出方、動き方が怪しからぬから、あいつへ徹底的な一撃を加えてやろうという意図もあつたと思う。それから色々な経済的な要求、その他率直にいつて、資源や何かに対する要求といったようなものも本来あるのですが、そういうものに対する要求をはつきりと主張するためにやつたと考えたものもあつたと思う。しかしながら一歩取り掛つて見ると、この問題の困難さというものは【漸】次明確な形を執つて吾々の前に展開されて来た。尤もそうはいつても、現在の段階においても本当にあるが俚の姿でこれを【掴】えておるかどうかということとはなお疑問の余地がありましよう。それが国民再編成の進行の工合にも非常に大きな影響をもつて来ておるのであります。この大きな事

変を解決するためには、日本が今までの自分の体勢というものを維持したまま一方的な能力を発揮することに依つて解決し得る問題ではない。つまり自分を投げ掛けてといいますか自分自身を変質させるということによつて新しい力を持ち上げて来なければ、断じてそういう解決能力を得られぬという所に至りつつあるということ、しかもこの将来を見透してかりに——これは或る人々は賛成しないかも知れませんが、かりに日本がいま欲しておるような形を以て支那事変が一応政治的、軍事的に片づくということがあつたにしても、日本が乗り掛つているその根本的な大きな問題というものを解決するだけの力はないという事実、これによつて、国民再組織の問題が切実な問題になつて来た。そういう風に私は考えております。

ただこの場合に當つて、この問題を本氣に取

上げて、今その中心の問題に乗り入れようとする時に、一番大事なことは、色々な夾雜觀念、間違つた考え方を整理して純一な真剣な態度でこの問題に入らなければならない。斯ういう風に考えております。

新經濟体制の樹立が先決問題

政府と国民 聯繫一元化へ

篤田 尾崎さんは今支那事變處理という観点から、

国民再編成の必要性を述べられました、これが完成された後の姿から逆に考えますと、満州事變前から既に始まつておつた日本の政治組織の崩壊をここで再建するという大きな意味を持つものだと思います。その観点から三輪さんに一つ……。

三輪 国民再編成の問題が国内の緊切な政治問題と

して取り上げられなければならない。最も重大な原因は、私は申すまでもなく、国内に政治の推進力というものがなくなつておるということにあると思います。五・一五事件以来、その当時までは所謂二大政党、既成政党というものが兎も角も政治の中枢部にありまして、その組織を通じ、それが代わる代わる政権を取るといふようなことによりまして、国民と政府との間の繋がりをしており、それが国民の總意を政治に表し或は政府の政策遂行を国民に伝達するといふような働きをしておつたと思います。ところがそれが満州事變以来、ああいう風にその權威を失墜するといふことになつて以来、それを【担当】するものがなくなつた、時には官僚を中心とする政治の中心勢力を作らなければならぬといふ努力もせられたと思います。或は軍部が

1 立憲政友会、立憲民政党の二つ

満州事変以来の大陸政策を遂行するということのために、否でも応でも自分が先に立つてやらなければならぬということになった。そういう役割を致したこともあると思います。併しそういうものは矢張り結局一時的なものにしか過ぎなかった。或は本来の職分というものからは離れて居ったと思います。

政治の中核的な組織がないのですから政府と国民との間の有力な繋がりが無い。五・一五事件以来の斎藤内閣なり、岡田内閣なり、広田内閣なり、歴代の内閣を見ても、それが或る一定の見透しを以て国民を指導する場合に、色々な方面――

或は政界上層部であるとか、或は経済界であるとか、軍部であるとか、各方面から故障が出て挫折してしまふ、革新政策というものが最近の歴代内閣によつて唱えられて居たにも拘らず、

いざそれを実行に移そうとする場合に、其の板挟みになつて政府は何もやる事が出来ないという状態になつておる。その結果、これではいかぬから内閣制度を変えなければならぬというような案も出ました。また現在の近衛内閣を取つて見ましても非常時局に対処して国策を強力に遂行するためには、閣僚を更えて内閣を強化しなければならぬ。人的な強化を図つて、国策を遂行して行こうというような道もとつて参りましたけれども結局これも十分に出来ない。または官吏制度を変えたならば、或はそこから改革の端緒がつくのではないかということも考えられました。しかも、官吏制度の改革案を俎上に上げて見ましても、結局それも出来ない。或は国策の企画に当る企画院を強化したならば、それで道が拓けて来るだろうと考えましても、そ

れも却々そういう訳にはいかな。興亜院の問題にしても、これは漸く官制が出来上がったばかりですけれども、同じような径路を取るのではないかと思ひます。

結局そういう点をつぎ詰めて見ますと、政府当路者が国策を遂行しようとする際に、誰が何といつても、これで押し出せるというような国民的なバック、国民の支援というものを持ち得ない立場に政府が置かれることになつておる。政府としまして、これではならぬから、国民の組織というものを作らなければならぬ。政府と国民との間の繋がりを作らなければならぬ。そうしてその一元的な政府国民の組織を土台と

1 1938.12.16官制公布、「支那事変中内閣総理大臣を總裁とし、外務、大蔵、陸軍及海軍の四大臣を副總裁とする対支中央機関」という格別な機関で、外交以外の对中国政策の立案・執行をした。阿片売買を取り仕切りその巨利を取り合つた機関というのが裏の顔、むしろこの裏顔のためにこそ設置されたのかもしれない。

して、今眼前に展開されておる内外の問題を解決して行く外には道がない。色々なことをやつて見たあげく、どうしてもそれ以外には道を見出すことが出来ないという所に達着したのが国民再編成の問題ではないかと思ひます。国内の政治問題からは【そう】いうような点が大体看取されるのではないかと思ひます。

篤田 山崎さんに經濟上の見地から国民再編成が当面の問題となつて來た根拠をお話し願ひたいと思ひます。

山崎 經濟上の見地からやはり對外的必要と對内的必要の二つの問題が考えられると思ひます。對外問題としては、尾崎さんの言われたように、我國は今重大な時局にぶつかつておるが、この事變の本質は十八九世紀的な戦争ではなくして、一九三〇年時代に入つた明白な廿世紀的な意義を持つておる戦争だと思ふ。これは要するに世

界文化圏の再編成、斯ういう根本的な意義を含んでおると思います。随つてそれは一つの文化戦争であり、主義の戦争である。そういう非常に高度な明白な意識を以てこの事変を処理するのでなければ、決してそれは正しい根本的な解決点に到着しないということを私は深く信ずるものであります。然るに、現在の支那の占拠地域に対する経済政策はこの大きな文化戦争の線に副つて行われて居るとはどうしても認識出来ませぬ。現在の経済政策は矢張り現にあるが俚の社会原理の反映として現れて居るのであつて、そこには支那民族をしてこの事変の正しい真の意義を理解させていないものが存在しておると私は考えます。

ですから、占拠地帯に於ける経済政策をして真に日本の意図の線に沿うように改めるには、どうしても本国の経済体系がそれを可能ならし

めるような形に改められなければ、實際何も出来はしないと思うのです。吾々は今東亜協同体の編成ということをこの事変の最大目的にしなければならぬ。茲に向つて日本全国の凡ゆる能力を動員しなければならぬと信ずるものであります。そうだとすれば、矢張り日本国内も協同体的な体系に改められなければ、本当に正しい東亜協同体的な経済政策が支那に現れて来ることは出来ない。つまり無機質と無機質とを結びつけて有機質にすることは出来ない。だから、有機体系を形成するには、此方が先ず有機体系でなければならぬ。そうして先方を有機体系に改めて、日支の關係を有機的に結びつけるのでなければ、本当に堅い結びつきはあり得ないと思います。

既に文化戦争であるならば、決して戦闘行為のみが戦争の手段であつてはならないのです。

根本的には戦闘行為よりも、もつと重大なものが存在しておる。それは矢張り思想戦、文化戦というものがそれであつて、そういうものが段々前面に押し出されてこそ、戦闘というものを段々後方に引込めて行くことが出来ると思うのです。過去一年半ばかりの戦争期間は殆ど大部分戦闘ということのみが前面に押し出されて、この文化戦、思想戦というものは後の方に引込められて居ると思います。そういうものを押し出して行かなければ事変は解決しはしない。現に支那人の立場になつて見れば、ソビエトの文化と日本の文化と何方がいいか或は欧米の文化と日本のそれと何方がいいかという事を実際に比較し得る立場に立つて居ます。結局日本の持つて居る文化或は日本が持たんとする文化の方が真に優れておる。吾々はそれによつて新たな体系を樹立するより外に支那民族の生きる道はないと

いうことを自覺させなければ、この事変は解決しないと思います。文化と言ひましても、思想と言ひましても、それは経済と切離されて存在するものではありませんから、結局そういうものは生活的【環】境の中に於いて樹立されて行かなければなりません。従つて先立つものは経済体制樹立ということになつて来るのではないかと思います。そういう考えからも、日本の新たな経済体制が要求されると思います。

世界に通ずる進歩的思想たれ

東亜新秩序へ押出す体制を執れ

山崎（続） この支那事変に対応する体系を以てそ

の俚新たな東亜新秩序を樹立する体系として行

「壊」に見えるが誤植だろう

かなければならぬので、そこに文化戦争としての本質があるのです。今は戦時だから戦時の体形を取るが、やがて戦争が終れば、元に返るのだというような意識でこの事変に臨むならば、これ位誤った考えはない。来るべき東亜新秩序に通ずる所の秩序を日本の国内に充実し、それをその俾押し出して行つて戦争を終結に導くと共に、その俾なりが新日本の、そして又新東亜の秩序でなければならぬ。血となるものでなければならぬと思います。

そういう対外的な意味が同時に対内的な意味にもなつて来ると考えます。又言う迄もなく、この事変においては、戦闘行為の継続或は大陸における新秩序樹立のために生産の増大ということが必要になつて来て居る。そのために一方には非常に膨大な利益を挙げる産業もあり、他方には原料を獲得することが出来ず、或は製造

品が売れないということから、その日の生活さえも脅かされるような人々が沢山存在して居る。今日の状態を押し進めて行けば、段々跛行性が激成されて行くことは極めて明瞭であります。そうして来るべき大きな要求に対して供給がこれに伴い得るかどうかについても、多分に首をかしげなければならぬ点があると思います。そこで一面そういう大きな要求に副いつつ国民生活の上に到来せんとして居るこの大きな不安を解決して行かなければならない。そのためにはどうしても経済の計画化ということが必要になつて来るのです。それは国民に向かつて、統制経済が激成されるから或は又戦時経済がまだまだ続くのだから、お前達はこの新たな事態に應ずるために適当に職業を取り代えよというだけではこれは甚だ無責任な態度であると言わなければならぬ。現在商工省は色々そういう宣伝

に努力して居るようでありますが、宣伝だけでは決して新たな事態に対応することは出来ないと思います。

これはどうしても経済の計画化ということをもっと積極的に行つて要求と供給の發展的統合というものをちゃんと見定めて行かなければならぬ。そうしてその線に沿つて国民の職業転換、労働動員、金融統制、分配の公平化、生活不安の除去或は生活に対する国家保証というような諸問題を総合的に解決して行かなければならぬ。そういうことは従来の自由主義経済の中では絶対に認められないことではないかと思ひます。殊に新たな一つの統制体系を樹立しなければならぬというような観点からも国内経済機構の再編成ということが必然的に要求されて来る。そうしてその再編成は何れにしても正義に立脚して行われなければ、国民大衆をして真に納得せ

しめ、従つて又長期に亘る大きな苦難に対して国民をして耐えしめることも不可能なばかりでなく、そういう正義の体制が国内に樹立されなければ、日支の關係も正義によつて結びつけることは不可能であると思ひます。そういうことで進んで行かなければ、国内の経済は益々疲弊を重ねるばかりであるし、しかもそれは何等事変を解決する方向に導くものではなく、益々事変を紛糾させ或は日ソ戦争というような新しい大きな事件に發展せんとも限らない。それで国内の経済体制が確固として樹立されると共に、支那民衆を、仮令全部とは言わずとも、三分の一でも四分の一でも、心から日本と協力しようという心持ちを持たしめて、そこに確固たる体制が出来上がるならば、ソ聯もそう日本を脅かすことは出来るものではないと思ひます。

篤田 三木さん、どうですか。今度の国民再編成の

方向と謂いますか、それは抽象的には全体主義的な機構を確立するということになると思いますが、同じ全体主義的な機構を確立するにしても、世界大戦で負けた上に殆ど共産党が国家を支配して居ったようなドイツ或はイタリーに捲き起つた全体主義的な組織と今度日本に醸成される新しい組織とは自ら違つて居る点があると思います。来るべき国民再組織の方向と謂いますか、性格と謂いますか、そんな所を一つお話し願いたいと思います。

三木 思想、文化の方面から見れば、今度の国民再組織の問題は必然的に起らなければならなかつたので、従来の国民精神総動員が全然失敗であつたことは明白な事実である。それはつまり事變の性質を全然認識しないで出発して居るから、ただ戦争に勝てばいいというような非常に単純な——勿論勝つことは必要であるが、そうい

うような考え方だけで、ただ政府の命令に従つて国民精神総動員が行われて居て、戦争は何のためにあるかというようなことについて本当にはつきりした認識を国民に与えて居なかつた。ところが段々戦争が長びいて大きくなるに従い戦争の真の目的は何かということを国民が認識しなければどうにもやつて行けない状態に立ち到り、それによつて国民が統一して行く必要が生じてきた訳です。それと同時に外に向つては支那民衆なり特にインテリゲンチヤなりが十分賛成することの出来るような思想を作る必要が出て来た訳です。従つて従来国民精神総動員で言われて居たような低調な思想ではどうしても駄目になつて、もつと原理をはつきり認識したような思想が必要になつて来たのだらうと思います。全体主義という言葉は色々に使われて居るので、ただ自由主義に反するものという意味

ならばこれは確かに今後も全体主義でなければならぬのですが、兎に角日本は凡ゆる思想的な偏見をなくして行くことが必要であると思います。支那には共產主義の思想もあれば又現在ブルジョア的な革命の途上にある訳ですから、そういう意味からは自由主義的なものもあるが、これまで色々な思想と自由に接触して得る状態にあった。そういう時に偏狭なドイツ流の全体主義を持つて行つても、これはとても納得出来るものではない。要は兎も角発展的にやろうというならば、もつと自由な立場から凡ゆる思想を検討して行く。ただ自由主義が悪い、共產主義が悪いというような従来国民精神総動員なり文部省辺りのやつてきた思想成策では全然問題にならないと思う。もつと自由な立場からやつて行くことが真に東亜協同体を成立せしめる所以である。東亜協同体が成立するということは

同時に世界的な意味を以て、世界がそういう組織に編成されて行くという組織でなければ、東亜協同体というものは出来るものではない。経済的に言つても、どんなブロック経済でも純粹な自足経済はあり得ないので、何処までも資本、交通その他色々な外国との関係があるのだから、そういう意味に於いて世界的な意味を持たなければならぬ、思想的にももつと進歩した思想を作るといふ大きな考えを持たなければならぬと思う。

根本的理論と方式を内外に提示徹底せよ

三木（続） 吾々は独自の思想を作つて行くので、全体主義といったところで、何もドイツやイタリーの真似をする必要はないのだといふ大きな考え方が必要であらうと思います。ただ今迄お

題目に言われておつたものをもつと根本的に検討する必要がある。例えば階級の問題、それに触れることさえ既にいかぬというように言うが、それを認識した後でなければ、国民再編成は不可能である。その問題を考えないで、所謂協調主義ということだけでは、これだけ差迫つた現実の問題は解決出来ない。国民再編成の問題はこれまで考え方がなまぬるかつた。根本に遡つて考えなかつたから斯ういうことになつたということに気がついて、この際徹底的に根本から考え直すという所に立ち帰らなければ、お題目で再編成は出来ない。やつた所でそれは結局一時的な間に合わせであつて、次にはもつと恐るべきものが来るであらうと思います。

篤田 事変が始まって以来、政府の国民総動員のやり方がその場凌ぎのものであつたということはい三木さんの仰る通りだと思います。併しそ

う状態ではいけないという認識はもう来て居る。政府は勿論各方面に来て居ればこそ、国民再編成という問題がこれ程大きな力を以て現実の問題として今日登場して来て居る訳です。しからば具体的にどういふものを再編成の性格として持つて来るか。その内容がどういふものであるべきかというところまで進んだ議論が当然出て来てもいいと思いますが、どうでしょう。

三木 勿論そうでしょうね、それは具体的なものも必要ですけれども、又根本的な原理の問題からやつて来なければならぬ。困つたといつても、本当に従来のやり方を批判しておるかどうか例えば階級なら階級という問題について本当に何とか解決しなければならぬというような考えまで行つておるかどうか。或はナチスの全体主義ならナチスの全体主義について本当に徹底的な見解を以てやろうとして居るかどうか。ただ便宜的に

向うがやつておるから、此方もやろうかというところ
に止まつてはいないかそこは非常に真剣かも知れませぬけれども、真剣ということの基礎的な探究がたりない。私はそう思うのです。

山崎 今三木さんがおっしゃったその積極的な方

面、言い換えれば、だから斯うでなければならぬという方面についてはまだ伺いませぬから、何とも意見はありませぬけれども、私はこの間上海に行つて、支那の抗日的なインテリ青年と膝を交えて東亜新秩序の問題について討議したが、その節斯ういうことを痛切に感じました。それは国内で吾々が漫然と肯定したり或は否定したりして居つて何の疑いもないように思つていたことが、ああいう国際場裡にさらけ出して見ると、案外気がつかない重大な欠陥があつたということですよ。

それは殆ど考える余地もない位のものである

というようなことが多々あるのですが、日本に都合の好いような議論を組立ててそれを支那に押し進めて行こうとしても、そんなものは一度国際※にさらけ出せば全く通用しない。恰も暗闇から白昼へ引き出せば凡ゆる欠陥が見えて来るように、それ程はつきり見えて来る。決して相手が理論的に日本人の理論家より優れて居るとは思ひませぬ。支那人の理論というものとは客観的には非常に幼稚でありますけれども、彼等是一个の立場を持つて居る。イギリスを選ぶとか、ソ聯を選ぶとか、日本を選ぶとか、何を選ぶも自由な立場を持つて居る。そういう人間の前に吾々の理論を押し出して行くと、丁度鏡にものを写すようにはつきりとアラが見えて来る。それは向うの理論の卓越さから来るのでは

「傷」の様に「場」が歪んだようにも見える、2字目はかすれて判読不能だが、「場裡」だろう

なく、実に素朴な気持で批判して来るのだが、それがその俚此方に取つては非常に痛烈な批判になつて居る点が多々ある。それで吾々は今大陸に進出して非常に大きな事業をやらなければならぬ立場にあるのですが、吾々の持つて居るものが真に世界性を持たなければ何の役にも立たないと思います。それでドイツの場合は一応他国における少数民族としてのゲルマン人に対してナチズムを普及して行くことによつて問題が解決出来たと思いますが、日本の場合は幸か不幸かいきなり他民族そのものにぶつかつて居る。しかもそのぶつかつて居る他民族はエチオピア人でも南洋の黒ン坊でもない。二千五百年前に孔子や孟子を出しておる文化的には非常に優れた、しかもその数四億を超えるような大きな民族である。この民族と吾々は運命関係にあるので、幸福も不幸もこの民族と共にして行くより

外に吾々の進むべき道はないということが今や戦争の現在の段階においてはつきりして来た。そうなければ矢張り世界的に卓越した理論を持たなければいけない。結論から申せば、私は共産主義には決して賛成するものではありません。共産主義に賛成し得ないばかりでなく、支那がソ聯と提携するということは到底賛成が出来ないと思いますけれども、そうだから益々吾々の主張するものは何であるか、その思想、それから来る政治、経済、文化は何であるかということについてはつきりとした意識と、それを表した日本国内の組織がなければこの大きな事業を成し遂げることは出来ないと斯う思うのです。

三木 極く簡単な言葉でいえば一番必要なのは日本人の良心であると思います。日本人が本当に良心的であれば、支那人を理解させることが出来る。良心に於いて何処か欠けて居るが如き疑い

を抱かせてはならぬと思います。

山崎

つまり政治がもつと眞実を持つて来ないといけないと思います。例えば東亜の新秩序を建設するのだと声明する以上は、東亜の新秩序は何かという理論と方式とそれを実現する構えがなければいけない。若しもそういう理論を持ち合わせないならば、少なくともそれを徹底的に研究するだけの努力がなければいけない。ところがそういうことを声明し放しで、東亜の新秩序とは何かということについて非常に熱心な研究を進めているように見られない。或は私が知らないのかも知れませぬ。併し国民がそういうことを知らぬようではいけない。国民が知らぬようでは、他国民に知らしめることは尚更出来ないので。東亜の新秩序建設といった以上は東亜の新秩序は何かということを自らも知り、又国民をして知らしめることが先決問題であると

思います。だから、そういう努力が足りないということとは政治に眞実が欠けて居ると言わなければならぬと思います。

東亜建設の指導原理「日本精神」飛躍の機会

篤田

次の藤沢さんをお願いします。

藤沢

東亜新秩序建設の前提として国民再編成の問題は極めて緊要のものと考えます。しかし、その場合にどうしても指導精神というものをハッキリしなければならぬと思います。けれどもそれは何も今から新たに作る必要はないので、既に我国三千年の歴史伝統の中に存在している。一言にして言えば日本精神であり、その点態々^{わだかま}全体主義原理を作らなければならなかったドイツ、イタリーとは非常に趣きを異にすると、思います。現に十一月三日における首相の声明にも、東亜の新秩序を建設すべき精神は肇国の精神で

あるということが述べられているのであります。

此処で日本精神の講釈をする気は毫もないのでありましてただそれが明治維新の際極めて明瞭にしかも自覺的に現れておったということを申し上げたいのであります。今日は丁度明治大帝の御遺業を完成しなければならぬ時期に到達していると思うのであります。御承知の通り明治維新の際五箇条の御誓文が渙発されました

「我国未曾有の變革を為さんとし、朕躬を以て衆に先んじ天地神明に誓い大に斯国是を定め万民保全の道を立んとす……」

と仰せられております。更に同日に賜りました御宸翰におきましても

「今般朝政一新の秋に膺り天下億兆一人も其処を得ざる時は皆朕が罪なれば……」

と仰せられております。明治大帝の大御心の下に全国民が感奮興起して明治維新というものが

断行されたと思うのであります。

今日少数のインテリゲンチヤは別として国民大衆はあの当時現れた大御心によつて統率せられて始めて理屈なしに東亜新秩序の建設という我國歴史あつて始めて直面する大事業が断行せられるものと考えます。結局此度の戦争というのは従來のそれとはその本質を異にしまして、所謂【義】戦或は聖戦と言われております。それは不純なる西欧諸勢力から東亜の諸民族を解放しこれ等を再編成し彼等をして皆その所を得しむるということがその目的になつていたのであります。これがためには理屈はさておき具体的にどうしても日本が枢軸となつて東亜諸民族を解放し、彼等を再編成して行くよりほかないのであります。そういうような原理は世界にないのであります。ただ不思議にも日本民族の内部に涵養せられて来ておつたものであります。

今日吾々が直面して居る情勢に於いては、この世界の後に日本が追付くというのではなく、寧ろ日本の思想を世界化して行くところに問題がある。というのは現在西洋におきまして、或る意味に於いては今日まで全世界を引摺つて来た近世主義というものが将に没落せんとしているのであります。何故没落するかといえば近世主義には総ての人間総ての民族が内面的に総括的に帰一還元し得るような、絶対的な權威の中心となるべきものがなかつたことに原因があると思う。従つて表面的にはいかにも華やかであつた近世主義の思想が内面的に欠点を暴露し分裂してしまつたのである。現在世界の人類は——東洋人を含めての話であります——如何にしてこの無政府的状态から收拾するかに懊悩しているのであります。私は最近久しぶりに英国からドイツ、イタリアなどを歴遊し殊に独伊に於いては要人にも

面談する機会を持ったのでありますが、彼等は皆同様の意見を持つております。従来ヨーロッパを支配した近世主義は必然的に没落しこれに代わるべき新しい時代の指導原理は従来の個人を絶対化したものでなく、東洋の言葉でいえば「天人合一」に相当するような一つの深い宇宙觀を持たねばならぬ——そういう觀點に立つた意味を独伊の政治家、思想家は述べておりましたが、結局新しい時代の指導原理は絶対的權威の中心を持ち、この中心に総てのものが無理なく帰一統合される姿でなければならぬ。斯くして始めてそこに人類の生活が更新せられ行詰つた人類生活が打開せられて再び茲に新しい人類の方向が定められるのである。そういう立場から東洋人が無意識的に直感的に随順して来た「道」が重大な問題になつて来る訳であります。

一体現代西洋の近世主義というものは生命の

淵源から漸次外面的に未梢化して行く文化でありまして、その結果人類の創造的な生命力は非常に稀薄になってしまった。そこで再び生成発展の創造主義を展開せしむるためには生命の淵源に立ち帰つて来る。即ち近世主義は余りに遠心的であつた。だから新しい求心文化が要求されて来る。しかし中世の文化のようにただ求心性のみを追究して他の一つの人間の性向である遠心性——即ち自己を膨張的に発展せしめて行くという方面を否定するのではない。つまり人間の根本的な二つの傾向即ち自己を拡大して行く遠心性の傾向と自己をより高きもの結局人間の小生命の淵源である一つの大生命に敬虔の心持ちを以て還元して行こうとする求心的の傾向——この二つを満足せしめ得る原理が来るべき時代の指導原理ではあるまいか。遠心性を無視した文化は結局権力文化に墮落するし、求

心性を無視し徒に遠心性を主張する文化は近世の自由主義の如く結局人間生活を調節し得ないものである。

ところがそういう人間の求心性と遠心性を立派に調和せしめ得る文化が現に東洋にあつて無意識的に直感的に随順されて来た。それが即ち「道」である。道というものは最も深い人間の性格にあつた極めて自然な生活原理である。道の文化の特徴は絶対的基準を持つことであつて、西洋の文化を研究して見ると、何れの時代においても絶対的客観的の基準がないために、人間の傾向として分裂的過程を辿つたと言えると思います。道に随順している時は幸福がありそれから離れている時に人間は不幸である。これは日本の伝統的精神とし既に存在して居つたのであるが、今日のインテリゲンチヤには把握出来なかつた。この「道」の文化を復興することが

即ち最も根本的の問題である。この点については支那の有識層も日本の有識層も殆ど忘れておったのであるが、しかし現在北支に興った新政権の表裏一体をなしている新民会¹はこの伝統的な道の原理というものを現代的に表現してこれを新民主主義²といっておりますが結局今後の日支提携、新しき東亜の建設というものは伝統的の日本精神によつて皇国の真の姿を顕現したる日本と、古くして然も日に新たなる新民主主義の支那とが提携し指導者と被指導者との立体的關係を確立して行くより外にないのであります。なる程、支那に参りますと、確かに現代の支那青年は自国の伝統精神を忘れており概して自由主義或は共產主義に³※つておりますがしかし半

1 1937.12 北京にたつられた傀儡政権の実働隊。

2 「新民会」の発足時に宣言文で自称した主義、藤沢自身が「新民主主義の哲理的基礎」を書いている。

3 つぶれているが「随」の様にも見える

面に於いては最近一種に自覚運動が起りまして相当優秀な青年が自国の文化を見直しております。私共の關係しております新民会に属する新支那のインテリゲンチヤは東洋的な新しい全体主義的な立場から支那の伝統精神即ち東洋政治哲学というものを研究し直しているのであります。ところで日本精神の本質は結局日支の共通的世界觀、即ち道の世界觀という点から申しますと、丁度日本は道そのものの顕現者として支那に働きかけて行くという立場にある。此処に重大な問題があるのでありますが、三民主義の支那或は共產主義の支那は「道」ということは全然理解出来ない。そういうものは古い時代のイデオロギーのように錯覚しているのであります。結論として国民再編成の場合、さし当り日本精神というものが東亜新秩序建設の指導原理であるという点を明らかにして、今後はその日本精神の本質を究明し

これに従つて支那に向かつて指導的立場を執る。即ち日本を指導者とし支那を被指導者として相共に提携して東亜の新秩序を建設する——これ以外に道はないと思うのであります。大変長くなりまして失礼しました。

皇道全体主義絶対精神に帰一

「生命の神秘」に悟徹するが必要

三木 一寸質問致します。只今日本精神という言葉があり、誠に結構なことです。日本人には日本精神しかないのですから、これから發揚して行くのは勿論のことです。しかも最近国民精神総動員という形で旺んに唱えられて来たのに現在それが停頓している原因は何処にあるか、それは日本精神を根本的に考えなおさなければならぬというところにあるの

ぢやないかと思うのです。この原因が何処にあるかという点について藤沢さんの御意見を承りたいのですが……

藤沢 私もこの点確かに三木さんのおっしゃる通り今までの日本精神運動が低調であつたと思います。私は日本精神というものは生命の神秘性に悟入したものでなくては把握出来ないと思う。所謂合理的な知性だけによつては把握出来ない。率直に言えば「日本は神国なり」という一つの深い信念——もう一步突込んで言えば總ての存在が依つて出来て来た宇宙の大生命、これが直接に天皇に顕現して居るといふ一つの神秘的な民族精神に徹したものにしてはじめて日本精神がはつきりすると思うのであります。これは日本だけがそうなのではない。ドイツ、イタリーにおきましてどうしても神話的なものがなければ国民を引っ張つて行けない。ローマに行つ

て見るとローマの神話ということを盛んに申します。ムッソリーニ、ヒットラーは神秘的な性格をもつように考えられている。或は意識的にそういうふう国民を教育しているのかもしれないが、一つの神秘的な神話的なものをヒットラー或はムッソリーニが体现しているところに国民が非常に敬虔的な心を持つことが出来るのであって結局人間の本質を深めて行くとこの神秘性にまで悟入しなければならぬ。

今日わが国が曾て経験したことのない重大な東亜に建設を行わんとする場合、或は神憑りの人間でなければ出来ないかもしれません。神憑りといつても勿論近代性を否定するのではなく第二義的には近代文化の生産した科学技術も必要でありましょうが、最も深く生命の神秘性に悟入した人間にしてはじめてこの大事業を行い得ると思う。そうしてこの一番深い人間の精神的

な欲求を【満】してくれるものは、わが日本精神であろうと思うのであります。

記者 次に当日の座談会に御出席を得なかつた中野

登美雄氏のお説を御紹介いたします。

中野 ここに国民再編成の目的というのは再編成の客体たるべき対象、したがってその性質や範囲と再編成意義目的の相方を含めるものである。いま便宜上前者はこれを簡単に対象というならばすなわちこれを目的ということが出来よう。対象は国民再編成の客観的側面であり、これに反し目的はその主観的側面であつて両者は相合して動態的には「運動」となり更にその停止の状態においては機構となり組織となつて現れる。故に目標の考察は国民再編成の分析でもありまた一面においてはその全体の総合的観察でもある。勿論目的と対象とは事の性質上不可分の関係を有するが、なおそれ自身において区別され

得べく又區別して觀察する方が便宜である。さて問題の目標を以上のような、意味にとり、まず国民再編成の対象乃至客体につきいえば、單に言葉の意味からすれば再編成の形式的対象は勿論「国民」であり、従つて再編成はその構成を目的とするもので、一見してそれ自身甚だ明瞭にあるように思われるがしかもなお仔細に見れば「国民」従つて又その構成要素は常に必ずしも同一意味のみに解せらるることなく種々異なつた、意義を有し得るのであつて、再編成は国民をその何れかの意味にとるかによつて基本的に異ならざるを得ないのである。

国民再組織又は国民再編成がその意味において甚だ空漠であると考えられ、又は一部の方面に種々なる疑惑や反感を惹き起こしておる模様があるのは勿論種々なる理由によるものであるが少なくともその部分的には再編成の形式的対象

がその意味において多用的なことにもよるものと謂える。故に無用に誤解を避け国民再編成の意義を明確にするがためには対象である国民、従つて又構成要素がなにを意味するかを確定することも必要であるが、これを理論的に論ずれば抽象的な概念が入つて来るのでこれを避け、極く省略的に簡單且つ具体的形式でいえば国民再編成の対象である国民はこれを消極的にいい現せば第一次的本然の意味における国民を【意味】するものではなく、従つて再編成はわが民族結合を可能ならしめ又これを構成しておる団体を対象とするものでないことは勿論、又憲法によつて定まり又は保障されておる組織や關係を目的とするものでもないことは言を俟たない。

故に国民再組織がわが国体固有の全体並びに權威主義と相容れず又わが憲法の認むる臣民翼賛政治、法治および責任政治の各原則とも両立し能

わざる西洋流の独裁を可能ならしめこれを確立

するがための「運動」の機構を目的とするものではなく、また目的とする能わざること明らかなである。云いかえれば国民再編成は革命でもなければまたクーデターでもなく、暴力政治を対象とするものでもあり得ない。国民再編成は総てこうした我国と相容れずわが憲法組織と相容れない一切の政治否定の強い意識の下に、積極的には専らわが国体を基礎とし我が憲法を前提とし、その下において未曾有の国難を打開、突破するため一切の小我を捨て、至誠至公、臣民翼賛の眞の国民的の一大結成を可能ならしめんとするものである。故に国民再編成は既存の法的、社会的機構を破壊しましたはこれと矛盾するものではなく反対にその足らざるところを補い、国民が陛下の赤子たる本分と国体神聖の自覚の下にその本来の姿に立ち返り、和衷協力、皇道全体主義の絶対精神に帰

一せんとするに外ならない。

故にまた国民再編成は破壊でなく建設であり、分裂、相剋、排他、責任転嫁または否定の形式でなく、帰一協和と国民的連帶的責任自覚の良心、友誼、没我と正義の総国家主義的国民翼賛の組織形式である。一見すれば国民再編成の運動はそれ自体において強大な問責運動なるが如くに思われるであろう。だがこれは誤りであつて再編成はその本質において断じて問責運動ではなくそうあることを許されたい。蓋し再編成は滅私滅我、皇道の大我大精神に帰一しわが国体の大精神において生きんとする運動であつて国難を前にしての国民各自の反省と自責に出発し国民各自をして陛下の赤子として皇道国体精神の[※]に生かしめんとする眞の愛国愛民の運動でこそあれ、傲慢や誇示の問責運動ではあり得

一「憂」の様に見えなくもない

ないからである。法律や行政上の問責には別に政府の機関がある。国民再編成の運動の関するところではない。

官僚的「核心」を排す 国民の総意を反映せよ

最大高度の政治

中野（承前） かくの如くに国民再編成は弾劾や問責の運動ではなく謂わば一個の強力なる救済運動たるの性質を有し、国民各員における陛下の赤子性の潜在または實在性を肯定し運動自らその実践に乗つて範を示しもつて国民の日本的向上と帰一躍進とを可能ならしめんとするものであるから運動は可能なる味方を有するが眞の敵を持たない（少なくとも現在の階梯においては）故に運動強化と普及の可能性は運動に内在し運動によって保障され運動はその拡大強化や展開

の手段として何等の威力的ゼスチャアを有しない。更に運動の存在はそれ自身において無言の威力であり天意であつて戦わずして勝ち得べき性能を有する。これを要するに国民再編成はこれを直接に言えば十九世紀の世界史的発達が世界大戦を通じて現在に齎した国民生活の危機、従つてまた人類の文化的危機を打開せんとする陶冶訓練及び改造の最も深刻且つ広汎なる現階段的適応並びに創造の形式であり、過去の具体的形式やその過程及び内容は勿論国によつて異なるが、恐らく何れの国家も遅かれ早かれ受けなければならぬ忍苦の洗礼であり各民族に課せられた世界史的試練でもあるといえよう。

国体に於いて恵まれていない他の国家においては再編成は一方においてはサンヂカリズムやマルキシズムなどの社会戦争的技術と、他の一方においては世界大戦の経験並びに信念とに基づ

く革命の手段により多大の不幸なる人的、物的並びに文化的犠牲を代価として辛うじて行われ、準軍隊的な強力なる運動の監視下に急速に進捗し勇氣と良心と高度の技能とは渾然融和して國家に何物をも恐るるを要しない装甲の強味を与えており、かくして更生した独、伊の兩國民は今や黎明を迎え欧州の新体制成る日も恐らく遠くはあるまい。

國民再編成が世界史的發達の自然の結果たることにおいては我國における運動もまた同一であるが、國家的個性及び内外情勢の相違は自ら運動の個性に反映し我國における國民再編成として發生的にも又それ自体の形式及び内容においても欧州におけるものとは異なるところあらしめているのは当然である。我國においても再編成の必要は敢て今日に始まったものではなくその端緒は世界大戰の影響により加速度化され

た。外面的には兎に角内面的にも極めて深刻な変化をなし伝統の思想、學問、信念を無力化し第二の國民をして變質化せしめた如き觀ある事態に存する。昭和年代に入つて特に激化され國民をして不安の念に陥らしめた各種の相剋と摩擦の現象は一面においては根深い過去の遠心的、分解的傾向の持続でありその現れであるが、他の一面においてはまた過去の惡夢に覺めた國家的生命への還元運動の惹き起こした波動でもあり、生産と更生、國民的建て直しの國民的運動の現れであるともいえる。ただ我が民族の生命的体制である我が皇道國体は暴力革命の手段による改造を許さず又斷じてこれを必要としない。故に國民再編成は現事變に入つて総力戰體勢確立の形式を以て現れるに至つたが、戰爭はそれ自体において速く打開すべきであつて打開されず久しく累積されて來た國民的危機の爆發に他

ならない。

斯の如くに我国に於ける国民再編成はその發生の形式において異なり、その直接の契機においても欧州諸国におけるものと異なるとはいえその本質、その客観的性質において国家内外の實在が必然的ならしめた国民自ら建て直し再備の運動であり絶対的の国家運動であり最も深刻な唯一無二の総力総心的な政治運動であり、政府は国民再組更に適切にいえば国民再備を以て一個の単なる内務省の精神運動たらしめ単なる行政官庁の省外的補助機関たらしめんとするものの如くであるが、これ一つは政党への気兼ねによるものではなからうか、又他の一面においては国民再編成の本質を把握する能わず従来の部分的、割拠的な日常鬭争的政治概念にとらわれ即ち政治運動と信ずる謬想に基づくものといわざるを得ない。国民再編成はその本質におい

て国家の非形式的前衛隊であり遊撃隊でもなければならぬ。従つて国民の非形式的な縮図たることを要し常に自ら全部たることを要する。従つてその本質において常に部分であり特殊であつて絶対に全部たり得ない政党と異なる。それ自身部分にはならざるが故に国家運動としての国民再編成はなんら既存政党と衝突矛盾するものではなく既存の政党は従つてなんら国民再編成の運動を恐るるに足らず又反感を有し得べきものでもない。否恐れ又反感を持つどころか寧ろ好意を持ちこれに進んで協力すべきである。なんとすれば政党は政争の神聖な停止を行い自ら総動員運動に従つておるのであつて両者はその精神において共通性を有し、政党はこれに協力することによって自らを超越し国家的生命への自らの還元を行ない得べきであるからである。この故に国民再編成は政党にあらず又争鬭的政

治運動でもないが、なおそれ自身において最も強力で、最大高度の真の政治であり真の国家運動である。故にその目的において総国家的であり、精神において皇道全体主義であつてその運動もメカニズムにおいては比較的少数の人員をスタッフしてもその精神と活動においては全国的である。政府は運動の本質につき更に一段の認識を深め一時の気休めや自己欺瞞に陥り問題の運動をして真の精神性もなければ真の現実性もない空虚の念仏や職業的講【演】運動に墮せしめぬことを必要とする。

桜木　そこで話を具体的な問題にかえましてこの国民再編成の狙いは一体政治運動であるか或はそれよりも更に広汎なる問題であるか、即ち政界が長い間採上げておつた新党問題が何時のまにか国民再編成という言葉によつて履き代えられたようにも見る向きもあるのですがこの意味あ

いのところを一つ三輪さんに……

三輪　結論的に申しますと政治運動には相違ないと思います。しかし今まで行われておつたような意味の政治運動というものでは勿論ない。新たな国民の組織はお話により今までの政党合同の如き既成政党を寄せ集めたその既成政党が国民を組織するというようなそんな狭いものではない。かと申しまして政治文化、経済こういうものを総て統合するような組織でなければならぬことは勿論であるが、それは先程お話の出した国民精神総動員というような意味の各種の団体を寄せ集め、之に組織を与えさえすればそれで国民組織が出来るといふそんなものではない。組織の対象は全国民でなければならぬ。国民の全般に亘り之を組織化するというのでなければならぬと思います。そういう点で一体どういうところが重点になるであろうか。この具体的

問題を考える時に只今藤沢さんのいわれたような点が勿論重大であるとは思いますが当面の政治問題から採り上げて国民組織を考えますと第一に矢張り資本主義というものを改革せなければならぬ。その改革に關聯して国内の革新の断行、こういう点がその重大なる性格でなければならぬと思います。それから更に何故国民再編成が要求されるかということで問題になつておりましたように、東亜の再建、東亜新秩序の建設、そういう点をはつきり認識し個々の人間を殺してしまふような組織であつてはならぬことは申すまでもないのであります、国民の総意を反映せしむるいわゆる上意下達、下意上達というような組織でなければならぬ。従つて結局政治的なものでなければならぬということは間違いないと私は思うのであります、その政治的だ

というの是在来の政党というような狭い観点か

から見られてゐるようなものであつてはならぬのであります。

桜木 この「あつてはならぬ」というところをもつてどうぞ……

三木 三輪さんの仰る通り国民再編成は全国民的なものでなければならぬことは明瞭であります、しかしそのためには既存のいろんな政党諸団体を寄せ集めて来るのではなく本當に造り変えなければならぬと思うのですがね。造り変えるとしても全面的にやるには矢張り何か運動の「核」がなければ改めることは出来ない。この「核」とは何かということが問題ですが、これまで成功しないのはその「核」が官僚なんだからこれではどうしても駄目です「核」をどこに置くか新しく「核」を造り変えるのが最も大きな問題であつてその編成が成功するかどうかはここに

あると私は思うのですが。

更に再々編成が必要

「近衛公に期待するもの」

三輪

偉大なる政治家があつてそれが天下の情勢と国民の総意を酌んで再編成をやるのでなければならぬ。その具体的方法として考えられることは、今三木さんの言われたようにいろんな団体や、その代表者などをよせ集めて出来るものではない。やはりその核になるものとしては日本を新たな方向に指導し得るような偉大なる政治家がそれを抜出してそれを中核にして組織しなければ出来ないものと思います。

藤沢

同感ですな、全くそうです。

篤田

そのところをもっと具体的に……尾崎さん

一つどうぞ。

尾崎

私としては非常に批評しにくい立場なんで

すが、率直な批判者になるとすれば、こういう大きな問題が必要になったということは、客観的にはそうなんだが具体的には大衆全部が知っているというものではないと思いますね。だからそれをリードし先んじて行こうとする政治家——今藤沢さんは一人の人といわれたけれども必ずしも一人でなくてもよい。中心の政治的集団であつても宜しいと思いますが、絶対的にそれが必要になつて来るという意味において、国民は近衛内閣に——近衛内閣は戦争の前に成立したものであるけれども、近衛さんという現代日本の持つ最も優れた政治家、その人を中心とする内閣に、しかもこれは戦時内閣という性格を必然的に帯びてきた内閣に——之を期待したいと思うのですね。

随つてこの人達が国民再編成の必要を感じてこれを取上げようとした点においては正に国民の

期待に副つたものであるが果してこの再編成の問題を本当に取上げて、こなし得るかどうかが問題はここにあるのです。これによつて国民の期待がほんとうに【副】われたか【副】われなのかということが明らかになると思う。この問題は実に近衛内閣に対して民衆が期待していた一番大きな問題に耐える能力ありや否やということに今ではなつて来て居るのであります。私はそういう意味において特別の重大なる意義を持つて来ているのではないかと思う。

篤田 世間では官製の国民再編成は一切いかぬという批評もあります。この官製がよいかどうかという点についてはどうですか。

三輪 私から申し上げますと、官製ではいかぬという結論を持っております。それはその主体になるのはやはりこれを国民に置かなければならぬ。何故私は最近問題になつてゐるような——八相

會議において問題になつてゐるということを聞いて居りますが、国民精神総動員中央聯盟を改組するというようなものにいつの間にか変形し、しかも内務大臣が副総裁になるとか或は府県知事が支部長になるとか何故そんなに官僚的な組織に、型にしなければならぬかという気になるのです。内務大臣或は府県知事は何れも最も強く再編成の必要を主張し支援して行かなければならぬ立場にあると思うけれども、そういう人は組織の中樞に座つて采配を揮わなければならぬ。或は府県知事を持つて来なければ国民再編成が出来ないというような、そういう官僚式なやり方では今日要求されておる国民の重大なる組織は成長しない。私はそういう意味において官僚的な国民組織には反対する。併しそれだからと云つて、これを国民だけでやるべきで官は別だと考えるのも間違ひだし、自分は外にいる

から別である、内務省の管轄だから文部省は知らないということも斯ういう問題を処理せんとする場合以ての外の間違いだと思ひます。

篤田 近衛公という国政処理の任にある人がこの問題を処理すること自体に關しては如何ですか。

三輪 私は、今言われたように近衛さん自身がどう考へているか知らぬが尾崎さんの言われたように客觀的に見て、日本の指導者として国民みんな期待を掛けてゐる人なんです。それを眞実に期待に背かずやり得る人ならそれに文句はない。だから總理大臣であるとかないとかいうことでなく、やはり一個の近衛さんという人がそういう立場から——殊にそれが陛下の付託を受けて政治を統轄してゐる人なんですからなおのことその責任もあると思ふのです。

尾崎 この問題を貰いて行く力を遮蔽するやうなものがあるならば、これを打破つて進むことが必

要であると思ふ。僕はこれが国民再編成問題の先決問題だと思ふですね。

篤田 私等は現実に国民再編成問題を見てゐると、簡単にいへばこういふやうな感じがします。要するに支那事變の窮局目的を達成する——最も正しい形で事變の收拾を図るには何を措いても日本の国家的體勢が一つのものとして握られなければならぬ。どうしても、今出し切つてゐる国力を更に大きな規模と深さにおいて作り出す、國民の力を——、ありたけの、あらゆる力を搾り出す、そういう吸上ポンプの必要が今度の國民再編成だと思ひます。

政治のおもてに現れたところを見ても一番先に尾崎さんがいわれましたが支那事變が起つた時の認識と対処方針の掴まえ所が間違つて居つた。それは何かというと今日の政治家の聰明と

か不聰明の問題ではない若し正しい解決の方式を持つて居たとしても自由にこれを※使用する組織が出来ない。ミュンヘン会議におけるヒットラー総統の成功もその背後にこれを可能ならしむる国民組織を持つて居つたからであり、その背後の組織がないから我国には如何に偉い政治家が居つても何も出来ない。例えば秋に起つた張鼓峰事件の解決などを吾々は結局政治の勝利、そういう風に吾々の仲間は結論として見たので

すが更にそうした成功を事変の收拾に於いて示すためには、事変の当初にあつたような日本の政治的体勢と全く違つた一元的統一的な政治組織を持つていなければならぬ。これを吾々は身近く現実の問題として感じているのであります。

三輪さんの仰つたものと僕等の感じているもの

「確定し難いが「駆」と見えなくもない
2 1938.7.18に起つた、ソ連側のいうハサン湖事件、ソ連満州国境で本格的な戦闘にはいつた。

と全く同じなんです。が現在これ程切迫した場合になつて今更官製も民製もないと思う。一概に官製ではいかん全くの民間の運動として行かなければならぬというような国民と政府を対立的に見る考え方をやり直すのも再編成の目標の一つだと思う。だから吾々は近衛さんという特定の人を重視するよりもこの事変処理に必要な政治組織を作る義務がある。若しそれが出来なければ事変の收拾が不可能とさえ云える。

もう一つ、吾々も八相会議に現れた案には猛烈な反対がある。三輪さんの仰つたように、卑近な例が府県知事が支部長になる——ところが何故ああいう案が出て来るかというと、あれは官製とか、民製とかいう問題ではなく、官僚という一つのギルド化した行政上の一部門が国民再編成の圧力を本能的に警戒している結果だと思ふ。だから国民としてはそういうものを必要

によつては更に再々編成し、二度も三度もやり直して本当のものに仕上げる覚悟が必要だと思ひます。

桜木 では、この辺りで……どうも有難う存じました(終)

カナ表示の変換:「ソヴィエト」→「ソビエト」

底本:『新愛知』新聞 1938(昭和13)年12月6日
〜12日

【参考】

『文芸春秋』1938.12時局増刊号無署名記事から

長期建設のために

国民再組織の重点

待望の漢口は落ちたが未だ戦争は終わらない。漢口さえ落ちればと思つて居た国民は、如何に今事変の重大且つ

深遠なのに驚いたことであらう。

それもその筈、今事変の目的は支那を滅亡させるのではなく、新支那を建設するにあるのである。即ち、大陸政策の終局目標は東亜の新秩序建設であり、東亜を植民地の地位より解放する事なのである。

其為には現在各方面より叫ばれて居る、国内諸般の革新を断行する事に依つて、国家総力を拡充し、今日我々に与えられた歴史的大任務を遂行するのである。

然らば国内の何を革新すべきか、それは先ず国民自身を革新しなければならぬ。次に現在国家の原動力たる経済であり、続いて東亜新秩序建設遂行の爲の我国固有の政治組織への革新である。

即ち、国民自身の革新とは今事変の目的を理解し、一年有余の間に為し遂げた輝しき戦果を得た事と其の爲に所有艱難辛苦を克服しつゝある将兵の努力に對し感謝感激するなら、自から自己は反省され、徒らに精神的、肉体的、財政的に浪費する事なく自己の義務を遂行し自己の職場を守る為に努力しなければならぬ事を痛感するであらう。

然る後始めて皇軍の爲し得た戦果は尚一層拡充され立

派な実が結ばれるのである。

自己の自覚と云う事は多くの人々には忘れられて居る。自惚でなく自分を信んずることの出来る人間は幾人ある事であろう。其の為には学校教育及文化事業の革新もされなければならぬ。

此際我が国民は不撓不屈の立派な思想を作らねばならない。

経済の場合、且ての外来の自由主義時代の遺物である資本主義を捨て、新しき日本精神の下に結成された全体主義経済及金融機構に依つて其の目的を達成せしめなければならぬ。

次に、現在国民再組織の重点と云われる、政治組織の改変であるが、之は、国民各個人の自覚と覚醒に依つて、自然に革新されると思う。

元来日本は、忠孝節義を以て、其の根本とする国家なのである。即ち、武士道精神は、独り武人の道であるばかりでなく、国家全体の大道であつて、国民の全てが決して忽せにする事の出来ない立派な精神なのである。

であるから、国民再組織の任にある者は、君臣親子一体の国柄、忠君愛国の思想等の中にある日本固有の政治

原理の有る事を忘れてはならぬ。他国の兵力、経済の力に依つて得た支配権などよりは遙かに高く、且、日本にのみ実在する立派な美しき歴史的事実に内在する政治原理なのである。

一国一党にしろ、既成政党にしろ、外国の不正手段と段階に依つた政治組織の模倣であるなら、如何にそれが改革されるとも、それは、日本に於いては、絶対に許すべからざる亡国的存在になるのである。

大洋の如き大度と慈父の如き寛容とを持ち包容力の偉大な誘導力に秀で且つ大局を見、其の見透しの利く大政治家よ出でよ。

「人間の尊厳は汝等の手に委ねられたりそれを護れ！汝等沈めばそれ沈み、汝等昇ればそれは昇るべし」と云へる人がある。

すべては、人間個人の問題であるのだ。

平賀肅学¹を学生はどう観るか

島木・関口・三木三氏を囲む学生座談会

関口 泰

三木 清

島木健作

東大経済学部 大木修一

同 野武憲吉

同 内海秀夫

東大法学部 東 潤太郎

同 北村 隆

東大文学部 瀬戸菊雄

東大農学部 石田正三郎

学生は静観する？

記者 今晩は学生諸君の意見をお伺いするのを主に

1 事の概要として参考に関大新聞の記事を後記する

したいと思えますから、どしどし遠慮なしに言つて頂きたいと思えます。三木さんに司会をお願い致します。

三木 では、まず今起っている東大の経済学部の問題について学生が一番関心を持つて居る点を……、大木君、如何ですか。

大木（経） まあ、経済学部の再建の主体、並に其の方法と云うものが、学生の最大関心ではないかと思えます。

内海（経） 僕はこの問題については幾つにも分析して考えなければならぬと思えますね。例えば土方さんのこと、河合²さんのこと、やめられた当時の事情と将来に残った問題……。

三木 今度の肅学方針についても何か意見がありますか。

東（法） 僕は学生のこの問題に対する関心の持ち
2 土方成美 1890～1975。河合栄治郎 1891～1944

方こそ、一番の問題ではないかと思ひます。経済学部再興と云うより以上に、現在の学生の態度が問題だと思ひうのです。

三木 学生の態度に就いてあなた方の印象はどうですか。

東（法） 非常に貧弱に感じますね。若しも今日この問題が法学部に波及したら、法学部の学生は経済学部以上に貧弱な醜体を暴露するだろうと思ひます。

関口 僕等も脇で見て居て、昔のことを考えて居るせいか、もう少し学生の動きが外に見えそうに思つたが、非常におとなしい。

三木 今関口さんが言われたように、昔の学生の場合とは違つて学生が非常に消極的で、自分の希望なり意志なりを積極的に表現しないと云う点に一つの特徴があると思ひう。学生の間の漠然とした意見を見ても、個々の教授に対する感情

問題が非常に露骨であつて、一般的な意義とか、本質的な深さと云うものに関する分析や、理解が足りないかと思ひますが……

内海（経） それは僕は賛成出来ません。

東（法） 僕も賛成しませんね。

内海（経） その由つて来る原因が考えられて宜いかと思ひうのですが。経済学部の内部では色々学生の動きがあり、学生自身の意見もあるので、それが一つの纏つた形になつていないので、外部に出て居ない。

関口 総長支持の態度のようですね。我々の感じだと経済学部の内部が紛糾を極めて居るので、是だけの大事件にも拘らず学生は寧ろこれを黙認して肅学を支持すると云う態度に出たという風に考えられますが、そう見て宜しいのですか。

大木（経） 僕はそう御覧になつてもよろしいと思ひます。先ほどから学生の動きが少いとの御話

ですが、それは詰り今度の事件で学生が動き出せば、却って総長とか舞出学部長の立場に妙な影響を与えはしまいかと危ぶむ気持があるので。却って表面へ出る動きが少ないというところ、学生の健全性が現れて居ると思います。

内海（経） 僕は必ずしも総長支持ではありません。河合教授問題で総長の声明した休職理由と文部大臣の声明した理由が明かに違つて居るにも拘らず、その後総長が沈黙していることは、大学自体の問題が、外部の力に如何に左右されるかの一例証であると思います。総長の今度の方針と云うものは結局無方針であつたとも言えるのではないかと思います。

三木 瀬戸君どうですか。

瀬戸（文） 僕は総長と舞出さんが経済学部に対してやったことを是認したいと云う気持です。それは経済学部の建直しと云うことがどうしても

必要だと云う感じを持ったからです……。経済学部がゴタゴタを続けて居れば、それは常に大学全体に影響する。従つて今度の事件が解決すれば大学自体が非常に外部に対してよくなるのではないかと思います。今度の評議員会が一致して総長を支持している理由もそこにあると思います。

関口 そう云う感じは理科系統に更に著しいと云うことを聞くのですが、農学部の方そちらを代表して一つ……。

石田（農） 理科系統の学生も勿論一方ならず関心を持つて居るようです。肅学が摩擦がなくなつて行われることは望ましいことですが、そう云うことは実際問題として不可能のことと思います。ですから、それが将来の大学をよくする為めである今日の場合、兎に角総長其の外の方々が努力せられて居ると云うことに対しては、学生と

して非常に感謝し賛成すると云うような気持ちで居ります。

三木 是はちよつと学生諸君に聞くのは無理かも知れないが、あなた方の印象として今度の総長の肅学方針と云うものが、非常にはつきりした或る見透しを以てやられたかどうかと云う事はどうお感じですか。或はこんなに迄複雑になるとは思わなかったのぢやないか。この事は今度の再建の主体に就いての問題にも関係して来るのですが。

東（法） 客観的に見たら今度の肅学の方針は公平だと思います。革新主義と云うイデオロギーに於いて一貫されていると思います。但しその場合に問題になるのは今度の総長の肅学に依つて大学の平和は得られるかも知れませんが、眞の大学の改革になるかどうかを、学生は見るべきであると思います。

瀬戸（文） 僕は反対です。僕は革新主義に近づいて行くことには反対の見解です。僕は大学から革新主義が一扫されると云うことで総長を支持して居るのです。

東（法） 総長にたよることに依つて大学が平和になると思えますか？是は我々が大学と云うものだけを見て居るからそうなので、大学の外の政治情勢を見るならば、そんなことは考えられないと思います。

瀬戸（文） しかし、総長は政府をも一目置かせるだけの毅然たる方針をとつて大学を固め重味を加えると云う風でなければいけない。その意味で僕は総長を支持するのです。

東（法） 個人の問題から見るべきでなく、時代の流れから見るべきものであると僕は思います。重要なのは全インテリゲンチアの問題として考えねばならぬものをこの問題が含んでいるとい

うことです。ですから、問題の本質を見究めな
いで感情だけで、土方派を押えたら大学の平和
が齎されると云う気持ちから総長を支持してるの
では、いささか浅薄の嫌いがあると思う……。

大木（経） 総長のイデオロギーはそうでないと思
います。僕等は総長をよく知って居ますし……。

東（法） 総長の主義や個性は、この場合問題にな
らない、支配するものは時の流れです。

関口 総長の声明と文相の議会でやった答弁とは大
分喰い違いますね。貴族院の文相の言というも
のは随分烈しいですね。

野武（経） 政治家に大学問題を利用されると云う
ことは、一番いけないことですな。

瀬戸（文） 然し学生が動き出す場合には、政治問
題も一応考慮しなければなりませんね。

関口 新聞で見て居ると世間は、総長の声明を是認
し、支持して居るような態度をとっているらし

いが……。

内海（経） 我々は渦中に居りますので、外部の態
度がどう云うものか分かりませんが……。

三木 世間は常識的に見て居ると思います。閥が
あるのは怪しからぬ。閥があつて喧嘩するのは
怪しからぬから両成敗をやる。世間はこう云う
風に常識的に見て居ると思う。総長の方針はよ
く分かりませんが、常識から見て当然のことです。
どうしてそう云う閥が出来たか？今日の所謂非
常時、転換期と言われている時代に於いて、常
識だけでやって行けるかどうか？そう云う問題
について世間は余り考えていないのではないか
と思います。だから常識的にいえば支持するよ
り外にないと思います。当然のことをやって居
る訳なのですから。

島木 その通りでしょうね。問題はやっぱり僕は派
閥だと思うのですが、派閥のそう云う状態はい

けないから一掃する、一掃した後でも尚大学内

の対立と云うものがあるならば、それは本當の学問的、思想的な学派の対立、そう云うものでなければならぬ。そう云うものが本格的に行われるような状態になる見透し、そう云う状態を齎す為に一応派閥をなくする。今あるのはそう云う意味の対立ではないので、もつとけちな派閥なのです。そう云う見透しがついて居るならば問題は簡単ですが、派閥と云うものがどうしても出来たか、派閥が思想的対立、学問的対立から出来たものではないと云えるかどうか、この肅学で大学に所謂学問の自由の状態が齎されるかどうかと云う風に掘下げて行くと問題は依然として残るのです。現実的に僕等が今後のことを考えれば、大学と云うものは益々大變になるだろうとしか考えられませんか。三木さんのいわれた通り世間が総長を支持するのは常識から

です。

三木 もう少し附加えて言えば、今の派閥は思想的根柢を持つて居る。しかもそう云う思想は今日では政治的な意義を何時も持つて居る。従つて東京のような政治の中心地にある大学では特に政治の影響、外部から影響と関係がつき易い。経済学部には派閥が起つたと云うことは偶然ではないと思います。外の学部にだつて派閥はあるのです。経済学部にあれだけの派閥が起つたと云うことは、もつと深い一つの根柢があると思います。単にお互いの人間が氣に喰わぬと云うことではないと思います。

東（法） 一般の学生は常識的に物を見て居る。併し正しくは背後に政治の大きな流れがあると云うことを見なければならぬと思う。

石田（農） 現代の日本の動きを見た場合に、今の政治の下に於いて行方大学の大学の改革は其の流

れを汲まざるを得ない。

東（法） そして肅学の方針は、総長自身の生立や人格と云うものに影響されない。

三木 総長自身の肅学の方針と云うものが何処にあるか外部の我々にはよく判っていないのですが……。

内海（経） それが不明瞭ですから我々学生も態度がはっきり出来ない。肅学の方針がはっきりしていたら、我々学生の頭にもピンと来るのではないかと思う。

三木 私の印象としては総長及び其のアドバイザーが全体主義的であるとは云えぬと思います。唯、其の力がどれだけ革新肅学の途上に発揮されるかと云うことについては、色々問題があると思いますが、併し総長なり其のアドバイザーなりの上申が、東君が言うように必ずしも革新主義ではないと思います。

平賀肅学を学生はどう観るか

石田（農） 私も絶対に東君に反対です。

大木（経） あの上申には評議員会の空気と云うものが反映して居るでしょうね。

内海（経） 今迄の方式を採用しないで、すぐ文部大臣に具状したと云うような形式、其の形式が非常に革新的に見られているのではないかと思います。

三木 総長及び其のアドバイザーの意図はあなた方の言われた見透しを追求しているのではないけれども、結果に於いてはあなた方の言うようなことになりはしないかと思えます。その点で、総長が教授会を全然無視したことは大学自治の上に大きな問題を残していると思う。

北村（法） 僕の考えでは、大体経済学部の問題について、学生自身はつきりした態度を持つて居ないと思います。僕達今の学生はむしろ現状維持的です。今度の騒動の為に学問の自治と云う

ものが、潰されては大変だと云う不安を持つて居ると思います。大学がやつて行く上に政治の影響を受けることは已むを得ないと思つて居るのですが、大学が政治の影響を受け過ぎては困

ると云う感じは持つのです。今度の経済学部の問題も、この仮で置いたら経済学部の問題だけでなく、大学全部がそう云う方に引摺られて行くのではないかと思います。だから、政治的影響を受ける派閥と云うのをなくすことが出来るのなら、河合さんを見捨てても総長の方針を支持したいと云うのが、学生全体の気持ではないかと思ひます。今度の学生の静観も河合さんを生かすことがどうしても出来ないのなら、土方さんにもやめて貰いたいと云う気持からで、革新的の気持からではない。我々の知つて居る経済学部の連中でも、変な方に我々が動いてはかえつていけないと云うので、引込む人が多い

と思います。又、一つは舞出教授個人の人格に對して信頼して居ると云う気持が大いにあるのではないかと思います。

三木 私などの意見としてもそうです。今日の学生が革新主義を奉じ、総長がそう云う革新主義をやつてくれるからと云う自覺で以て支持して居るのではないと思ひます。そう云う意味では却つて反対のことを希望して居ると思ひますね。

瀬戸（文） 色々の学生に會つて聞いたのですが、経済学部は積極的な総長支持で、其の為に静観主義であると云うことを聞いて居るのですが……。

肅学を招来したもの

三木 話が前後するかも知れませぬが、この事件の原因と云うものからやつて行きましょう。詰り例えば派閥が生じたと云うことについてはどう

云う風に見て居るのですか？

東（文） 政治的な影響からですね。

瀬戸（文） 僕は過去の有力教授の勢力争いと云う様なものが問題ぢやないかと思ひます。

内海（経） 舞出教授には、河合さんを或る時迄支持して急に後になつて休職処分を上申したと云うような大きな飛躍があるのです。そう云うことを考えると、舞出教授の方針には、イデオロギー上の問題よりも、一身の安心を図ると云う意図があるんじゃないかと云う話もあります。

大木（経） 経済学部と云うものは、二三年前迄は三巨頭三分裂と云う状態だった。それは自分の演習生と云う者を師弟関係に依つて結びつけて、そうして自分の演習生から大いに自分の弟子を選び出して自分の勢力拡張をやる。そう云う三巨頭三分裂の状態がずっと続いて来て、やがてそれが非常に大きな問題になつた。河合教授の

罷免問題の時なんかの大内派と土方派との提携、そう云う所は学問の閥と云うもののぢや決してなくて単なる派閥の関係だと思ひます。

東（法） 派閥と云うものは全然学派と云うものと離れた存在だと見えますね。

瀬戸（文） 経済学部の場合は勢力争ひ的な動機が大分働いて居ると思ひますね。

東（法） 経済学部と云うものがイデオロギー的に支配を受け易いから寧ろ学派が派閥の形態を執つて現れたと僕は見たい。人格的の争いとか勢力争いと云う問題ぢやなくて派閥の背後に大きな思想的な対立があると見たい。

大木（経） しかし、土方さんと大内さんが手を握ると云う情勢はあの時の特殊な事情に基くもので、今後は出来ないと思ひます。あの時の情勢は河合教授自身が自分の助手だけを助教授に教授会へ推薦したと云うこと、それに依つて両方

から反対された。尤もそう云うようなモメントばかりに依つて大分今迄動かされて居るのです。

島木 物に純粹な形と云うものはないから、簡単に

に言えば両方でしょう。それならば單純に權勢慾と云うようなもので學問と無關係だと云うことは言えないでしょう。學者なんだから自分の學問に対する一つの信念と云うものがある訳でしょう。だから弟子を沢山作つて自分の所へ演習に來る學生を能く育てると云うような氣持の根本は矢張り自分の學派の勢力を布こうと云うことです。其の場合に非常にけちな學者ならば、俗的なものがそこへ非常にのさばつて來ると云うことであつて、全然勢力争いだけと見るならば、學者を丸で輕蔑したことになる。どつちを重く見るかと云うことは宜いけれども、斯う云う問題だから何も秤にかけて數的に出せるもの

でもなし、何となしの感じであつて、そう云うことは宜いぢやないですか、大体分り切つたことだと思ふですね。

大木 (經) そう云う俗っぽいモメントが非常に經

濟學部には強かつた訳ですね。

島木 僕だつて内のことは知りませんが、外

の感じとして何となくそう感じますね。

「思想表現の適格性」問題

三木 其の次に今度の河合教授が土方教授とはもう

一つ奥の理由、詰り思想の表現の適格性の問題に依つて処分されると云う其の点について學生はどう云う風に考へて居りますか。其の点、問題の核心が忘れられてゐると云つたら極端かも知れないけれども……。

内海 (經) 學生は要するに今迄の汚い争が堪らな

かつた、だから派閥問題に対する関心が強く現

れたとする見方が正しいと思います。

瀬戸（文） 僕は経済学部の子生ではないけれども、河合教授一個の場合だったら今度の処分に對しては反對しますけれども、河合教授は仮令この事件がなくとも恐らく議會では問題にされて居る人だろうと思います。そうすれば矢内原教授と同じようになって行くのぢやないかと思うのです。

三木 河合教授の問題は大体致し方ないと云う意見が支配的なんですか？

瀬戸（文） 僕はそうですが……。

東（法） 僕は今総長の立場としては、表面的の理由はなんにしろ、自由主義を追出すと云う意圖だけだろうと思います。

北村（法） 僕は河合さんは時の犠牲者だろうと思います。

大木（経） 学生の氣持は、矢張り我々学生の生活

を政治的に左右されると云うことに非常に不安をもつて居るのぢやないかと思ひます。そう云う意味から言つても河合教授だけに問題が起つたならばかなり大きな不安をもつと思ひます。土方教授が、一緒に処分されたと云うので、幾分学生の氣分がこいつはどつちに行くのか分らないと云うような……。

三木 非常に好意的に解釈すれば、兎に角河合教授の問題が起つて居る。総長にして見れば是は其の思想の善惡は別として、現在の政治情勢としてどうにもならない問題だ、之を片付けるに於いては一つの御土産として道連れに少しでも良いことをして置きたいと云うので土方教授も一緒にやつた。対立を此の際なくそうと云うような意見もあつたと云う風に解釈する……。

北村（法） そう云う意味で総長が肅學したのだつたら支持してもよいと思ひます。

島木 自由主義とか的とか主義と云うことでなく派

閥を一掃したい気持だと思ふね。総長の主観的な気持は……。総長の方針は、僕ら外部から観る者は矢張り支持するよ。傍観しているものゝ客観的な他の見方と云うものは高邁な批判のようだけれども、僕らはそう云う見方は物足りない。なぜと云うと単なる批判なんだから多くの場合はそう云う客観主義の見方だと、「結局は今の日本の情勢だからこうなつてしまふ」というだけだ。総てそれだけで片付けて行けば問題はない訳です。併し外部の僕らから言へば、こう云う派閥があつた、此の派閥を一掃する為に総長がそう云うことをやつた、それで其の結果は或は又々或る程度のそう云う対立と云うようなことが生れるかも知れないけれども、兎も角今の情勢がそう云う悪い情勢であるならば、之を一掃して仮令非常に制約があつても、もつと

自由な対立、本当のもつと学問的な対立にさせたい。たとえ俗悪なものが幾分か入つて来るにしても兎も角今よりもつと良い状態に置きたい。そう云う意思が総長に働いて居ると云うことが外部から見られゝば、僕は支持するね。客観的に言つて、結局今の状態でそれは有り得ないのだ、と云う様な客観主義者の批判と云うものは僕ら採りたくない。今より一步でも良くなればその方がいゝんだ。だから、僕は総長を支持するね。

野武（経） そう云う見込で私達は支持して居る積りです。

島木 今度の事件では兎に角常識が何となく勝利を占めて居る。それは非常に良いことだと思ひます。社会的直覚は矢張り欺けないものがあると云う感じがする。今統制下の大学と云うものはこう云う運命にあるのだ、そこでどうやつたと

ところで結局斯うだ、と云う見方をするのが一番いかぬと思うね。そう云うことからは何物も生れて来ない。

東（法） 僕は生れて来ると思いますが……。

島木 僕はそうは思わん。

大木（経） 総長が河合さんを追出すことは自由主義を一掃するためだという見解がありますが、平賀さんが評議員時代には河合先生とは終始一貫して歩調を共にして来て居る。学説はどうか知らぬけれども、大学に対する態度と云うものに対しては同一歩調であつた。そう云う所を御覧になれば直ぐ分る。だから河合さんを追出したことは自由主義を追出したのだと云う断定は出来ない。

島木 総長は単純な理想主義ぢやないか、立派な学部を作ろうと云う……。言つちまえばそう云うことだ。それが今の社会で行われるかどうか

という批評は色々出来るかも知れないけれども、そう云う氣持だ。そう云う総長の理想主義と云うものがあれば学生は皆それを支持すべきだよ。今より一步でも良くなれば宜いぢやないか。そうして情勢が變つてそう云うことが全く不可能になつて来たら、又其の時のことだよ、問題は今だから……。

三木 そこは島木君、言い過ぎぢやないか。そう云う理想主義、自分はどうすべきかと云う意思をはつきりさせて置くことも宜いが、客観的な条件と云うものも考えた上でやらないと政策と云うものは立たない。其の政策になつて来ると総長のやり方が非常に良いかどうかと云うことは疑問だ。第一に時期から言つても今迄延ばして来たのに、なにも今卒業試験なり進級試験なりを間近に控えて、議会の開会中にこう云う問題を起きなくても宜いぢやないか。起したのには

我々の知らぬ相当の理由があるか知らんが、兎も角客観的な情勢の分析も一応は矢張り必要でしょう。

瀬戸（文） 時期の問題ですが、私は河合さんの問題が検事局へ廻りまして非常に切迫して来て総長が急遽やつたのぢやないかと云う風に好意的に見て居るのですけれども……。

三木 是は皮肉な見方かも知れないけれども、今度の議会で大学は必ず問題にされる。それを何とか逃れる途は要するに大学の方から先手を打つて、何か一つの動きを与えればそれが熄む。こう考えることも出来ると思う。

内海（経） 僕も賛成します。

関口 学内の陰謀と云うことにも関係がある。

内海（経） この二月に経済学部長の改選がある。そう云う事情も矢張りこのことに就いて関係があると云うことが云えましょう。是は穿ち過ぎ

た見方かも知れないけれども……。

関口 平賀さんが総長になって、今仰るような河合君の問題があゝ云う風になつて居る、延ばす訳には行かぬと云うような状態にあつたのでしようね。あなた方が言う客観的情勢と云う方はもっと深くつて、私の見方は浅い訳だけれども。就職の問題も極まつて居る。試験も其の俟通して呉れるから大して問題ぢやないと云うような空気がありますか？

東（法） 僕は一部にあると思います。就職が極つて一応試験も受けられると云う学生は、どうでもいゝ抛つて置けと云う態度ですね。

大木（経） それは僕らに言わして貰いたい、僕は経済学部の学生なんだから。経済学部の学生としてはそんなことはないと思いますが……。

野武（経） 卒業が極つて居るからこそやり易いのぢやないでしょうか？

学生理想とする大学は？

三木 大分議論があつたようですが、詰り大学の平

賀総長の肅学と云うものがどうあるべきか、再建の方針がどうあるべきかと云う学生の希望の一番重要な所は何でしょうか。経済学部 of 諸君どうですか。こう云う風にして貰いたいと云う希望はある訳でしょう。総長を殊に支持する立場に於いては……。

関口 経済学部の再建と云うことが可能かと云うと言い過ぎかも知れないけれども、それに対して多少経済学部の人に考えはないですか。或る一部では、舞出部長の下に於いては再建が出来ないとか、それから革新派の教授連なんかでも足並が乱れている。そうするとあの人達が大部分大学へ戻つて来ると云う様な色々なことを取沙汰して居るのですがね。それに対して学生なん

平賀肅学を学生はどう観るか

かの意向、希望はどうですか？

野武（経） 僕は再建出来るものでありたいと希つて居ります。

三木 詰り出来る出来ぬはあとの問題にして、大体出来ると思ふればどう云うような方針でやつて貰いたいと云う希望ですね。例えばまあ派閥をなくすると云うことは一番でしょうが、其の外に大学の政治化、学園の政治化と云うようなことに對して……

野武（経） 僕は大学の政治的なことはやめて欲しいと思います、其の為に非常に今迄悩まされて来たのですから。少くとももう少し所謂学者的な人に當つて貰いたいと云うような気が致します。

大木（経） 要するに明確なファシズム論を振翳して居ない人……。

三木 今日の時代の情勢に於いて、又時代の要求に

於いて、現実の問題を離れて学問が可能である

かどうか。詰り国家は自己に必要な学問を要求して居る訳だが、そう云う政治的な要求とは全

然無關係に純粹な学究的な立場に依つてやつて行こうと云うような学者が可能であるかどうか。

又そう云う学者を学生は希望しているかどうか。

それとも、国家の必要とする学問を、例えば今

日から言えば、支那事變ならば支那事變と云う

ものを契機として起つた問題、そう云うような

ものと真正面から取組んで行くような学者を要

求して居るのか、そう云うことについてはどう

ですか？

内海（経） 或る時期の政府の要求と国家自体の一

般的な恒久的な要求と云うものとは一寸違うの

ぢやないでしょうか？

三木 違ふけれども、併し国家と云うものはそれぞ

れの具体的な時代に於ける具体的な世界と全然

無關係には考えられない。

東（法） 大学は常に政治化されて居ると言いたい
と思います。

関口 あなたの言う政治化と云うのと、今實際に問
題になつて居る政治化と云うものとは違ふので、

あなたの方が一段深い意味です。そこに喰違ひ
がある。

東（法） そう云うものも根柢を流れる政治に影響
されて出て来たものと認めるのです。

野武（経） 公式的ぢやないですか。

三木 もつと大学の政治化の問題に就いて諸君の積

極的な意見を述べられてはどうですか？

野武（経） 個人の意見としては私は、例えば端的
に言つて、戦争と云うようなことと真正面に取

組む人よりも、寧ろ大学としてはもう少し大き

く、全体を貫いたような意味に於ける学を進め

て行くような教授を欲しますね。

北村（法） 学問の本質が政治に附随して行かなくちゃならないと云うことになったら学問は自殺ぢやないですか。そこには学問の意義がないと思う。

東（法） 僕はそれこそ学問の進歩であつて自殺ぢやないと思う。純粹な大学とか、純粹な学問と云うこと自身、一つの政治的性格を持つていると思います。

三木 もつと具体的にしよう。あなた方は、現在の大学の教授が時局に対して執つて居る態度をどう考えるか、宜いと思うか、もう少しこうして貰いたいと云う希望があるか、どちらですか。それはインテリゲンチヤ一般の問題に係るけれども、現在の大学教授の問題として見て、時局にもつと協力して欲しいと云うのか、それは余り必要ないと言うのか、その点はどうですか？

野武（法） 教授が積極的態度をとることは現実的には、色々な障害があると云うことを私達知つて居ますから結局単なる理想論に過ぎなくなるのぢやないですか？

三木 しかし、現実にあなた方が直接感ずることがあるでしょう。今の大学の教授がやつて居ることとは宜いとか、或はもう少し積極的であつて欲しいとか……。

野武（經） 私個人としては、許されるならば学内だけでも教授から現在と云う時代、或は戦争に對する見方と云うか批判と云うかそう云うことを聞きたいのですね。

三木 どうです、其の点は経済学部ばかりでなく、法科でも文科でも皆あるでしょう？

瀬戸（文） 街頭に無茶苦茶に出て来られても困る。自分の有つて居る学説に對してもつと忠実であつて欲しいと思います。それだけですな。

島木 要するに学者として優秀であれば宜いのだろう。

現実には学生は大学へ入った時から何も固定した一つの思想を持って居る訳でもなし、固定した学派に結附いて居る訳でもないのです、色々な学派の学問を聴くことこそ幸福であり望ましい。だから色々な方向、革新派で自重派でも本当に優秀なら自然優秀だと云う一つの感じがするぢやないですか。そういう風に感覚にぴんと来る学者は、僕が学生なら自分は少し考えは違ふと思つても喜んで聴く、大学の教授と云うものはそれでいゝんだらうと思います。其の優秀さ云うものが……そう云うことを言ふと悪いかも知れないが、何だかそう云う優秀さを今迄の教授は持つて居なかつたのぢやないか。それと人間的に、人格的に人から嫌われるようなものがあるのと結びついて、そうして教授が学生の信任を何となく失つて来た、そう云うのが実情

ぢやないですか。

三木 そこに又一寸問題があるが……と云うのはあ

なたの言つたように同じ大学の同じ学部に於いて全く対立した思想が同じ勢力を持つて榮えて居ると云う大学は、外国の自由主義時代だつてないので、大抵は殆ど一学派が一大学を支配している。あなたの御説は理想かも知れない。

島木 今の状態はそうなる一歩手前にある。そう

云う優秀な教授が出て来て大いに論戦し合えば宜い訳でしょうけれども、其の一歩手前なんだ。僕は其のような感じがする。学生の話を聞いてもそう云うことを言ふ。

北村（法） 僕は、教授が大学内だけでも自分の考えを明らかに主張出来ると宜いと思います。實際のことを言えば、教授の或る人が一つの学説を持つて居つても、時代の波に押されて此の点に触れて欲しいと思うような点は回避してしま

う。此の先生には之を聴きたいと云うようなことは沈黙して、どうしても宜いと云うようなことを我々に聞かされると云うような感じが多い。現在の状態はそうで、教授の身分と云うものが余り保障されて居ないのでから已むを得ないと思いますけれども、本当に学生を引張って行こうと云う気持で罷める積りで自分の所信をどこ迄も貫く先生があつたらそれは僕らの魅力になると思う。聴きたいと思う講義を回避されて、いたずらに身の安全を図ると云うような学者の態度が僕等にはたまらない。

三木 学説を自由に発表出来ないと言ふ状態が現状なんだね。

内海（経） 今の場合、学生の意向として優秀な学者が欲しいと云うのは大体の希望です。それを前提にしてそうであるような大学は如何なる大学かと云うことになるのぢやないですか。

平賀爾学を学生はどう観るか

三木 革新主義でも何でも宜いけれども自分の学説を堂々と発表して貰いたい。詰り少し時局的な政治的な問題に触れる点はごまかすとか逃げるとかと云うようなことを今の先生方がしすぎやしないかと云う、そう云う点は今述べられたとおりでしょう。堂々と述べるとすれば、今の状態に於いてはまあ非常に危い訳ですね。それを防ぐために、大学の自治とか学問の自由とか何とかこれまで言われて来た訳ですね。其の問題に就いては学生諸君は、どう考えるのですか。それは今度の問題にも関係して来る訳でしょう。

島木 三木さん、それは学生の論議としては度を超えて居るのぢやないか。学生はかくの如き大学を望むと云うことを此処では言つて置けば宜いと思います。

三木 そう云う純粹な学内自治を希望すると言え、反対の意見だつて有り得る。何もそればか

りを今の学生全部が支持して居るとは考えられないでしょう……。

内海（経） 何しろ僕ら学生はたまらない。色々こんな云うことを言われていながら、何も出来ないと全く昂奮状態になりますよ。島木先生が言われる何等か具体策を求めると云うことについて支持します。

瀬戸（文） それが大体の学生の意見ですね。

関口 消極的に避けているのも困るが、積極的に時流に迎合するような学者ぢやな困ると云うような感じがあるのぢやないですか。

野武（経） そう云った意味に於いても土方教授が嫌われて居った訳でしょう。

内海（経） 土方先生が罷められると云うと、学生の大半は喜んで居ったのぢやないかと思えますね。

内海（経） 僕達学生の考え方は、考え方其のもの

に非常に矛盾があるのですよ。

三木 矛盾はあるのですよ。そこが一番辛い所だ。

内海（経） それを知って居るからたまらない。知らなかったら暢気ですよ。

肅学の見透し学生の悩み

三木 ところで、今後の見透しはどうでしょう？

学生諸君は肅学が出来ると見て居りますか。詰り大学が今度非常によくなくなつて来ると思ふかどうか、そう云う見透し……

瀬戸（文） それはよくなるようにしてもらわなければならぬと思います。

野武（経） 幾らかよくなると思いますが……。

東（法） 僕は全然期待は持てませんね。

内海（経） 僕はそれには反対ですね。

石田（農） 僕は余り期待は持つて居ないのですが

……

関口 今あるよりは悪くならないと云う意味ですか。

内海(経) 派閥をなくすると云う良いインテンションがあるから……

三木 しかし結果は悲觀的になるのでしょうか。

内海(経) 河合さんの問題についてはもつと考へて宜いかと思いますが、文部大臣の表現の方法と総長の表現の方法と違つて居ますね。

北村(法) あれは本当ですかね。

内海(経) 議会の速記ですからそれは信じてよいと思います。現在の文部大臣があゝ云う意見を吐いた、次の文部大臣が又違つたような意見を吐く、そうすると又誰か教授がやめなければならぬと云うことになる。それが二度、三度、繰返されると云うことになりますから……。

三木 それが他の学部にも何処まで拡がるでしょうか。まだまだ動搖は続くと言ふ見込ですか。

内海(経) 僕は続くと認めます。

北村(法) 僕は段々大きくなると思います。

瀬戸(文) 私は兎も角治まると思います。

三木 法学部も絶えず社会の問題にされて居るが、そう云うことは問題にならぬと云うのですか。

北村(法) 学外からは問題になると思いますが……。

三木 しかし学外からのみ問題にされたのではないから……。それと同時にもう一つ大きい問題は経済学部の粛学の結果は、残つて欲しいと云う教授が全部やめてしまつて、残つて欲しくない教授が帰つて来ると云う、そう云う結果になりませんか。

東(法) そう云うことはないでしょうね。但し僕の見解では一人も残つて貰いたくない人ばかりです。

内海(経) 教授に残つてもらいたいような人はい

ないのです。

北村（法） 教授はそうでもないが、助教授に残つて貰いたい人はあるでしょう。

島木 大体悲観的な見透しのようだが、そうした見透しの下で諸君はどう云う考えでどう云う大学生活を送つて行くのかね。

三木 今度は学生自身の問題ですね。

島木 そんな大学で大学生として留まって居られるかと云うことを聞きたいね。大学内の学問と云うものに見切りをつけて居る、而も大学生としてやつて行かなければならぬ。是は必ずしもこゝ一二年の間に問題になつて来たのではないけれども、愈々さし迫つて来た訳ですね。そう云うことが一番問題ぢやないかと思ひます。

三木 其の点とうですか。就職と云うことは学生の非常に大きな関心であり、希望であつた訳ですが、それが最近非常によくなつて来たと云うこ

との為に、割に問題を深く本質的に考へて行くと言ふことがなくなつて、現象的に考へる傾向が強くなつたと云う印象を受けるのですが……

東（法） 確にそうですね。

内海（経） 私は常にそのことを思つて居ります。

常に矛盾として苦しんで居りますが……

瀬戸（文） 高等学校の生活が變つて来た、それが高等学校から大学に入つて又變つた。

北村（法） 大学の教授の講義をきいて満足して居る者はないだろうし、皆現在の大学に対して不満を持つて居るのではないかと思ひますが、結局講義は講義、自分達の勉強は勉強としてやつて居る人と、自分達は就職しさえすれば宜い、その為に講義を聞いて置かなくちやならぬと言ふ学生と、大体二つになるのではないかと思ひます。俺達のやることはどうでも宜いからと言ふ氣持の人がある一方、学問をどうしようかと

苦しんで居る人、毎日やり切れない気特になつて居る人が一部にはあると思います。

瀬戸（文） それが大部分ではないかと思ひます。

三木 私の印象は、学生に会つて話して見ると、教授の講義なんかは割によく覚えて居ると思ひます。割合にノートの勉強は昔より進歩して居ると思う。ところが、それ以外の方面は「麥と兵隊」が流行れば「麥と兵隊」を読むと云つた現象的な特徴が非常に多くて、自分で自主的に問題を考へて、こう云う本を読まなければならぬと云うのでやつて居る人が、段々少くなるような傾向を感じるのですが……。

記者 あなた方自身はどう云うやり方でやつて居りますか。

東（法） 僕は学校以外の本しか読みませんが、大学の課目自身については夫々について自分の新しい体系を把握しようとして勉強して居ます。

記者 新しい把握は此の人から教えてもらえると云うような人がありますか。

東（法） それがないから先生の講義に見切をつけて居るんです。

内海（経） 学生は苦しんでいるのです。

三木 そう云うことになりますか。しかし、いろんな問題をどこまでも追究して行くと云う態度、そう云う態度で苦しんで居る人もあるけれども、一般には、その苦しみから何か外へ眼を転じようとする傾向が強いんじゃないかな。

瀬戸（文） 回避するんですね。

北村（法） 一般的に回避して居ると思うな。

大木（経） 現象的であると云うのは回避の一つの方法です。

内海（経） 学生が矛盾に苦しんで居る、其の結果色々のものを漁ると云うことが、傍から見て現象的に見えるのぢやないかと思ひます。

記者 貴君の場合はどうですか。

内海（経） 僕はそうですね。一つのシステムを持つと思うてやって居るのです。

三木 学問的の体系がなくても意欲の方向と云うものは人間にあるだろうと思います。そう云う意欲の方向と云うものがやつぱりはつきりしてないから、それで今方向を見失いつつあると云うことを看取されるのですが……。

東（法） 意欲の方向は決定して居ると思います。

記者 私の見たところでは現実と妥協しようとする学生が多いのではないかと思われるのですが、その点率直にあなた方の御考えを聞きたいのです。

瀬戸（文） 昔の学生がそんなに勉強したのですか。

三木 勉強したかどうか知らないが、少くとも我々の時には本を読むにしても自主的にやったかと思ひます。こう云うことをやって見たいと思つ

て、それから段々糸を手繰つてやったと云えると思います。今の学生は糸を手繰つてやること足らないのではないかと云う感じがするのですが……。

瀬戸（文） 自主的な態度は今の学生にも変りがないと思います。今の学生は勉強しないとか何とか云うことはないと思います。僕は自分で勉強して居ます。経済史を主にやって居ます。

石田（農） 僕などは農科ですから先生の講義をきいて、それを批判すると云うような心持で勉強して居るのです。

島木 知りたいと云う意欲と云うものは、現実には常に一つの学問の傾向と結びついているのではないかと思う。併し僕はそう云う探求心と云うものが必ずしも今の学生に鈍つたとは思われないのですが、僕等が学生の時には、勉強しようと思うと、なんか一つの学問の主流と云うものが

あつて、そこへ掴み掛れば先ず安心と云うものがあつたが、そう云うものが今はなくなつたと云うことではないのですか。だから仮令澆刺たる意欲を持つて居ても、それに結びつくものがないくて中途半端に摸索して居るのではないかと思ひます。自分で一つの方法を以て勉強して行くと云うのは相当の人であつて、やつぱり大学に這入つた位では中々まだそうは行かないのではないかと思ひます。僕は去年の秋頃から、帝大とか文理科大学とか早稲田とか学生との座談会に行つたけれども、其の時受けた感じでは、昔の学生に比べて非常に理論的にどうだとか優れて居るとか優れて居ないとか、そう云う比較は別として少くとも学生のそう云う意欲と云うようなものには安心をしたんです。数年前に見られた様なシニツクな態度と云うものは非常に少いと思つた。僕等の接触する範圍と云うもの

平賀爾学を学生はどう観るか

は狭いし、其の場限りだから、断定は出来ないのですけれども……

記者

島木さんだからよい人ばかり来たのではないですか、数は少くなつてもそういう学生はなくなりはいしませんね。

三木

一般的に言えば、シニツクな氣持になつた時に、直接に悩みを批判しようとする時に、意欲があると思う。しかし、今の学生は其の悩みではなしにやつぱり時代の動きを直感的に何か掴まなければならぬと思ひます。それでなければ我々は困る。實際の時代の動きと云うものは學問ではないよ。直感的に自分がしたいと思ふ、そう云う直感的の把握がどう云うものを把握して居るか、私は不安に思ふ。

大木（經）

僕等は転換期の寸前の学生だと思ひます。高等学校、大学の学生生活では僕等に取つて良い先生が居ます。そう云う先生の演習生に

なり、そう云う先生と大いに勉強しようとして現在やって来つつある訳です。そう云う学究が居なくなつた時は、私は学校に出ません。学校に出ないでこう云う時代だから愈々グルンド【Grund理由】を把握して行こう、グルンド的なものをやつて行こうと思います。それと共に、現代の批判に今迄の理論体系のどう云うものを当嵌めて行くか、と云うことに摸索し努力して居る学生が我々の周囲には非常に多いと思います。その点で非常に苦しんで居る人があると思います。

野武（経） 意欲がないと断定されるのはどうかと思います、確に前時代の意識と云うものが自分の意識の中に、自分では意識していなくても流れて居る。

北村（法） 時代の重圧を感じて居ると云うことは確かで、もつとその本質を究めたいと思いま

すが、そう云うものを研究する力は僕達になかなか少ないのです。社会に対する不安とか重圧と云うものは考えて居りますが、果して何に依てそれを解決して行つたら宜いかと云うようなことが、少しも解答を与えられていない時代に今居るのですからね。高等学校も今はまるで中学校のようです。（関口氏退席）

北村（経） そう云う意味から言つて大学の教育に對する僕達の積極的な氣持は其処に矢張り根柢があるだろうと思つて居ます。そう云う意味から言つて大学教授で僕達の希望を容れて呉れる教授が欲しい。そう云う教授がなければ僕達は困る。僕はそれですから所謂聖戦の意義とかと云うようなことから現在を見て行こうと云う氣持から支那へも行つて來たし、満州へも行つたし、自分の家が田舎ですから戦時下の山村と云うものはどんな經濟状態にあるかと云うことを

少しでも触れて見たいと思ったり、外国から帰った先輩があれば、直ぐ押掛けて行つて、外国では一体どう云う風な見方があるか、なるだけならば、向うの文献なんか手に入らないものを買つて貰つたりするようなことをやつて居るけれども、そう云うことをやつても、順序もなく機関もなく自分一人でやつて居るから決して体系だったものが出来て来ないのです。

東（法） 僕は体系を作るには誰にも頼ることが出来なと思う。今の本に依つても出来ない。全然新らしく作るほかない。自分の力と理性ですね、それ以外に一つもない。

北村（法） しかし僕達が自分で特別なものを拵えて行こうと云う程の能力があると云うことは出来ないと思います。

内海（経） 他に機関がないと言われたけれどもそれは問題になるのぢやないですか。自分達が

社会現象を見て行きたいと思ふのに何処から突込んで行つたら宜いかと云う手掛りがないような気がして一番憂鬱なんです。

東（法） それを今迄の教授に求めると云うことは間違つて居る。

北村（法） 教授に求められなかつたならば、外の手段で、本ならば本に依つて求めて行こうとすれば、我々に満足な解釈を与えて呉れるような本がないぢやないですか。

東（法） 一つの直感力を以て把握出来る。

北村（法） 直感だけで大きなものは把握出来ない。

学生は無氣力過ぎる？

三木 元に戻りますが、私が、今の青年に対して一番感ずることは、今の君達が時代と一つになつて居ると云う直感があるかどうか……

瀬戸（文） 僕はあると思います。

三木 自分の感ずることは時代と一つであると云う

そう云う直感……

島木 問題はそれだと思う。

三木 それがなければ日本は非常に不幸だ。

島木 十年前の我々の時代は、間違つて居つたかも知れないけれども、青年は自分達の感ずることは時代と一つだと考えていたと思う。明治維新の青年だつて同じで、それが今の学生諸君に感ぜられて居るかどうか？

瀬戸（文） それは僕自身としても時代と一つだと云うことは感ずる。しかし、時代の真実は聞かされてない。もつと政府なんかでも偉い人でも積極的に僕達に今の時代をはつきり知らしてほしいと思います。

島木 そう云うことはまあ色々あるでしょうが、僕等の感じとして、僕等の時代の者の感じとして、後から来る者の脅威を感じてない。そう云

うことが一番大事なことだと思っています。今の僕位の年輩の者はいつの時代だつて、今から十年前、二十年前には、常に従後から来る新しいものの脅威と云うものを何となしに感じて居つたと思います。それは矢張り其の時代と最も一つになつて居る青年大衆、学生大衆、そう云う大衆の中から出て来る澎湃としたものに押されたんだ。処が今日はそう云うものがない。時代の動きから澎湃として湧いて来る一つのものが僕等に感ぜられないと云うことは兎も角大変なことだと思ふ、兎に角どう云う時代でも、より積極的なものを示して行くのは青年なんだから。若し青年が積極的なものを示し得ないと云うならば、それはもう既にそう云う澎湃たる気分が湧いていないと云うより仕様がな。だからどう云う分野を見ても、今日三十位の人間が俺は絶対新しいと思つて居るのぢやないか。自分の後

から来る者の脅威を感じてないんだ。俺は一番新しいゼネレーションだと思つて居る、そう云う感じを持つて居る。処が三十位の青年がそう云う感じを持つて居ると云う時代は今迄余りなかったんだ。

三木 我々の青年時代には我々は或る意味に於いて前の時代を脅威して居った。併し今日の我々はこれから来るゼネレーションが自分を今に超越してしまうだろう、これは迎も堪らないと云う様な感じを持たない。だからそう云う意味に於ける今の若いゼネレーションの持つて居る力と云うものがどうも弱いのではないか。前に、意欲の意味を知りたいと言つた人がいたが、要するに其のことなんだ。

記者 非常に現状維持的な気分なんですな。

三木 大学の問題に対しても現状維持の気分が濃厚だと思ひますね。僕等学問の自由とか学生の自

治と云うことに対して非常に熱心な主張者だけれども、現在のような形で決して出来るものぢやない。それには是々の条件が必要だと云うようなことを考へて行きたいし、それから例えば現在の大学教授がとつて居る時局に対する態度に對しては我々は不満なんです。つまり、革新の必然性とか革新的な意欲と云うことに就いては我々は積極的である。しかるに学生諸君と接觸して常に感ずるのは、自分達のゼネレーションの悪口を言うとか批評するところはあるが、積極的なエネルギーで以て我々を脅かして来る、押寄せて来る波の力、そう云うものを我々に感じさせるところがない。

内海（経） 三木先生の言われることに非常に不満に思ふのですけれども。唯僕達のゼネレーションにそう云う脅威を感じないと云う……

三木 これは個人の問題ぢやない。

内海（経） だけれども其のようになった原因ですね、其のものについては何も……。

三木 原因についてはあなた方と同様に考えて居る。それから又新しい体系がないと云うことも言えるかも知れないけれども、兎に角文学上だつて思想上だつて新しい運動は青年の中から起つた場合が多いんです。

島木 兎に角こう云う風に集まつて話しても僕等より若い人が新鮮な時代感覚を示さないぢやないか。僕等より新しいものは何を示しているかね。そう云う問題は理論的な体系とかそう云う有りふれたことをどれだけ知つて居るとかと云うことではない。今迄は常にそう云う時代感覚と云う風な新鮮なものを若い者は持つて居つたんだ。

三木 例えば、今日の君達の話を聞いていても、直感に於いて、負けた、我々迎も敵わないと云う様な何等の発言がなかった。斯んなことを考え

て居るのかと云う驚きは、少しも感じなかったね。客観的に言えば、現在の政治と云うものが、こう云う青年の力を何処かへ集中させるようなものを持つていないと云うことは言えるでしょう。併しそれだけでこのことを説明が出来るかどうか。

記者 学生諸君が皆現実に現状維持派だと云うことは、決して探究心がないのぢやない。熱意がないのぢやない。唯、掴まる拠りどころがないのでしょう。

三木 この状態では、東亜の新秩序と言つても細かい次第ぢやないか。問題は拠りどころを求める意欲なんだ。

内海（経） 要するに僕等若い者が何かを探して居る状態と云うことは言える。

三木 それは認めます。

内海（経） だから脅威を感じないと云うことは事

実としても我々皆が何かを探して居つつあると云うことははっきり認識して貰わなければならぬと思います。

三木 そう云うことは何も否定しない。

野武（経） それだけぢやなくしてあなた方が御考へなつて居るよりも大きなものだと言ふことを御認めになつても宜しいのぢやないですか？

三木 それを示して貰いたいんだ。

東（法） 僕は今は非常に大きな転換期で、本質的に違つたものが来るから、其丈に学生の悩みが大きい、と思うのです。

三木 僕達も實際は同情する、客観的に見ればそうです。客観的な情勢が動くのを待つより仕方がないと云うことも言える。それは僕らも認める。

島木 古い方の者が新しいと言ふことになるんじゃないか。こう云うことも言えると思う。今の僕等のあとから来る人は本当の新しい一つのゼネ

レーションを形造るものではなく、此の一つのゼネレーションが長くて、僕等の時代と今の学生達とは、きつと同じ時代的課題を与えられて、例えばマルキシズムの克服と言ふことは僕らの課題であり、あとからの課題であり【「り」は不鮮明で推測】、何か同じものを課せられて居るのぢやないか。そう云うことも感ずるんですがね。

三木 時代が動いて来れば中学生からも脅威を感じます。僕の言いたいことは、要するに事実問題として今の若い人達が時代の息吹きをびつたりと感じて居るか、そう云う風に自分で直感して居るかどうかと云うことを問いたいし、僕等にはどうもそう云うことから生れる青年の迫力と云うものが自分の身には感じられないと言ふ所が何か物淋しい。是は客観的に言えば、要するに今の情勢の然らしめる所であつて致し方がないと云うことは何処迄も出来る。併し、もう少し

情勢が動いて来れば必ず青年も動いて来ると思う。大学の改革も同じことであつて、どんなに色々な人が良い希望を持つて又色々な手段を経てやつても結局仕方がないので、もう少し時代が動いて来る迄、矢張り我々は其の意味に於いては待つより仕方がない。仮りに今大学の改革が理想的に遂行出来るものなら、他の部面に於ける国内改革も簡単に行われる筈のものなんだ。それが出来ないところに問題が残されているので、我々自身としては、先ず当面は本当のものをもう少し探究して行くことだ。そう云う探究をして行くことが学生の大きな仕事で、時代が動いて来た時にがつちり其の時代を指導して行くような原理を今の間に掴む。そう云う氣持、そう云う意氣、氣魄をもう少し持つて貰いたい。此の俛ぢやない。時代は必ず動いて来るのだ。其の時に自分達はどうかと云う大きな、或

る意味ぢや浪漫主義かも知れないけれども、そう云うようなものを感じながら勉強して貰いたい。唯現実だけにしがみついて悩むと云うことでなしに、もう少し時代が動いて行くと云うことを考へて、希望を持つてもつと明るい氣持で勉強して貰いたいと思う。そこが今は一寸暗過ぎる。現状維持派であるだけ非常に暗い所がある。

北村（法） 先生の仰るように、今の僕等の生活は決して根柢のあるものぢやないと思います。僕は朝目を覺ました時に、憂鬱な日が来たと云う氣持を痛烈に感ずる日と、何となしに希望を感ずる日がある。現在は憂鬱な日が多いけれども、唯それが何故であるかと云うことになつて来ると、まだはつきりした把握がない。僕達は一歩手前にあつて何か把握する為には基礎が足りない様な氣がして仕方がない。基礎になるものを

何とか求めたいと思うと憂鬱になる。併し、将来自分達でやる分野があると考えると又愉快になるのです。

三木 私の希望としては時代は自分のものだと言うそう云う確信を持ってやって貰いたいと思う。時代は自分のものだと言う確信に依る本当の強い希望と云うものを持って貰いたいと思う。

最後に島木君から学生に対する希望か何か一つ述べて頂いて終りにしたいと思います。

島木 今言われたことで沢山です。

石田 (農) 僕等は唯悩んで居る丈ぢやない。兎に角それ以上に確かに今先生が言われた気持が強いと思う。唯それをどうして行くかと云うことでそう云う悩みがあるのぢやないですか。そう云う気持はないと言われると僕等は非常に残念です。

三木 私も絶対にないとは言いませんが、色々な客

観的情勢から言えば能く分ることなだけども、島木君も同感でしょうが、時代と一つになったものとしての自己を、完成する熱意と力を持つて頂くことをもっと希望したいのです。大体此の辺で話を打切つて置きましょう。色々有難うございました。

底本：『中央公論』1939.3月号

【この件に關しての三木清の見解は「東大經濟學部の問題」『読売新聞』1939.2.9 第十五巻収録】

【参考】京都帝国大学新聞 1939.2.5 第292号第5面(復刻版)より

学部抗争の解剖

經濟学部の対立抗争は遠く山崎寛次郎名誉教授の学

部長時代に淵源するものと一般に伝えられているが、その根源はともかくこの派閥的な争いは単に派閥的な争いに終るものではない、問題に対する安易な解答はそれで十分であるかも知れないが、この安易さにわざわざいされている以上は派閥的な争いに隠された背後の潮流を見失うことになる

爾来、東大経済学部のパ閥的な抗争は常に政治そのものと結びつけられて取り扱われて来た、遠くは森戸（辰男）事件（1920）、少し間隔をおいて山田盛太郎事件（1930）、矢内原（忠雄）事件（1937）、大内（兵衛）問題（1938）、河合（栄治郎）問題とこれ等の事件乃至問題と云われるものは常に一国の政治と関聯づけられ処分せられて来たのである、派閥——派閥？からは常に派閥？派閥？の解答しか出て来ない。

特に東大経済学部の地理的位置はこれ等の問題を政治的な問題として取上げるに容易な位置に置かれて
 1 三木清が検挙された時、同じく共産党へ資金提供した
 容疑で

いることを考える時は軽々しくこの問題を取り扱うことは出来ない、森戸事件は森戸氏のアナーキズム、山田事件はマルキシズム、矢内原事件はキリスト教的自由主義、河合問題は理想主義として社会的基盤の推移にそれぞれ芽生え残存したものが、わが国政治の革新的色彩の濃度化に比例して常に峻厳に否定せられて来たものである、このことは特に美濃部問題、時間的距離の少ない矢内原教授の筆禍事件、大内問題、今度の河合問題に明白である。

即ち大内問題勃発時の際、土方派が大内氏の反国体的思想を理由に即時休職を主張せるに對し河合派は起訴を俟つて処分すべしと述べ、有名なる論争を展開し舞出学部長も友情論から自重派を支持し、結局多数派を占める河合派の主張が通つたが、これは敏感に政治社会に反映され、思想問題として早くも世論の対象となり、国家主義思潮の決定的勝利と共に土方派は国粹的大学と日本経済学体系の建設をめざす
 2 正しくは大内・河合・土方の三派鼎立であったので多数派になった。この肅學時は大内は休職中で対象から外れた。

して「革新」を呼号し、次いで雑誌「革新」の発刊となった、之に對し河合教授は時流に迎合せざる永遠の學問こそ國家真目的達成の基礎なりとして學問の獨立を主張したが、茲に所謂革新派純理派の正面衝突となり、間もなく昨年十月五日河合教授の四著「社會政策理論」「ファシズム批判」等が發禁処分に付せられるや之を機として同教授の思想を反國体的なりと斷じ、同教授の進退問題に進展、紛糾に紛糾を重ねていたがその間官選問題が起り、長與總長の辭職をみ、平賀工學博士が登場斷固兩派の巨頭を一挙に処斷するに至つたものであるが、學内問題として問題化される以前、早くから學外思想団体にとりあげられ、河合教授と公開狀の交換があつたことはこの問題が思想問題であり、政治問題であり單なる學内問題に止まらないものであり、而もこの基底には革新派運動を強力ならしめる社會的基礎が存在することが注目される。

而も平賀總長の休職上申の場合には「表現の欠格」

平賀爾學を學生はどう観るか

がその理由として提示されていたが、この問題が議會で取上げられた時の荒木文相の答弁は「河合教授の思想は國體觀念に背反するものである」とあり、河合氏の処分理由に美濃部、矢内原事件と同一組上に乘せられている、かつて大森義太郎氏との論戰を華々しく展開した河合氏のマルキシズム駁撃の思想は今や革新の根本思想から除外されることになつたのである、土方教授はその聲明書に於いて「大學よりマルキシズムその他の反國家思想を排撃せんとしたものであつた」と述べている再建經濟學部は如何にバラック建てであれこの土方氏的な革新思想体系上に建設されるであらう。

大學問題の根源は今日の國內改革にあり、大學改革「平賀爾學」もこの國內改革の一つの表現であり、縮図に過ぎない、それは孤立した現象でもなく、勤勞奉仕の義務制、ひいては飛ぶような學士様の売行きとも固い帶で結ばれているのである。

座談会「読書界の傾向を語る」

司会 三木清

帝大教授 辰野隆：1888～1964、東京生れ、東京帝
 大法科大学卒&仏文科卒、東京帝大仏文科教授、辰
 野隆随想全集

慶大教授 加田哲二：1895～1964、慶応義塾大学卒、
 社会学者、経済学者、評論家。慶大教授、戦後は日
 大教授、「読売新聞」の論説委員。

日比谷図書館長 藤野重次郎【同館初代館長であった
 こと以外不詳】

栗田書店 栗田確也：1894～1977、岐阜県出身、栗
 田書店を創業者、戦前は左翼系の出版物を積極的に
 取り次ぐ

東京堂書店 赤坂長助【発言なし】

紀伊国屋 田辺茂一

記者 皆さんお忙しいところをありがとうございます。

ます。今日は最近の読書会の傾向というような
 ことで伺いたいと思つて居ります。戦争遂行中
 にも拘わらず、昨今は非常に本が読まれている
 ようです。これは大国民の襟度というか余裕の
 ある生活態度というか、とも角喜ぶべきことで
 あります。然し又一面では何故こうした傾向が
 最近とくに著しくなつて来たかということにつ
 いては、相当考うべき点もあり又それによつて、
 今後の日本の知識階級なり一般大衆の文化的発
 展の方向を見きわむる必要もあるのではないかと
 存じます。今日は幸い学究者であると同時に又
 真面目な読者である方々と直接に広汎な読者と
 接していられる方々にお集まりを願いましたの
 で、話も色々伺えることと存じます。司会
 を三木さんにして頂くことにいたして居ります。
 どうか宜しく願ひいたします。

動く読書界

三木

それでは僭越ですが司会をさして載きます、こういう座談会がどうしてやられるかということを考えて見るに、多分最近非常に本が読まれて居る、本ばかりでなく雑誌でもそうでしょうが、そういう現象からだろうと思うのです。それで実際最近どれ程本が売出したかということについて、初に話の基礎になるように数字的に多少話して載きたいと思います。例えば一冊の本が集中的に非常に売れて居る、出る点数が少なくなつた為に沢山売れて居るように思えるのか、或は全体として本の部数が殖えたのか、そういう点はどうでしょう。栗田さん如何ですか。

栗田

こういうことを考えています、去年の八月が商いがなくて、九月、十月、十一月に非常に商いが殖えて居る、これには種々の原因があるで

しょうが、恐らく全体の書物の点数から言えば急激な増加を見なくとも、一冊の本で非常に売れるものが出来て来たという風に考えて居ります。

三木

田辺さん、そんな点について何か御感想はありますかねか。

田辺

大体同じですね。

三木

兎に角商いは去年の秋あたりから何割か殖えて居る訳ですね。図書館などで入館者はやはり殖えて居りますか、藤野さん如何ですか。

藤野

私の所は最近改築して開館したばかりなので一寸その点について比較というようなことは出来ないのですが、この五ヶ月ばかりの間日比谷の本館を改築致して居りました間別館だけを開館致して居りました。別館では大体一番沢山入ります時で、五百人位入るのですが、別館の入館者の状況から見ますと段々殖えて行くようで

あります。閲覧者から早く本館を開館しろというようなことを盛んに要求されて居る状態であります。最近本館を開館して直ちに急に増加して居ります。ですから閲覧者は確に増加して行く傾向ですね。

三木 では図書館に入る人も殖えたとし、本もよく売れるということは、大体世間で言われることが確かであるということが確かめられた訳であります。どういう種類の本がよく売れ、又どういう方面のものが図書館などに於いて読まれて居るかということを一般的にお願いしたいと思います。

栗田 總体的に工業部面の書物が何倍かの飛躍をなして来たということが言われます。その他最近出た日本の古典文学などは量的に言っても相当なもので、円本以来の数字を示したとも思われます。又支那の書物は事変前は余り売れなかつ

たが、この十四年度になってから研究的な真面目なものが最近売れるようです。然し一面では鬱さ晴らしと言うような意味でもあるのですか、大衆文芸も売れます。経済書類は相当熱望されて居るのだが最近はこの方面の出版は少ない。これには又考えさせられるものがあるのではないかと思うのです。それから歴史物が非常に売れる。これは民族昂揚と言う意味から已むを得ず歴史物にでも行けということで、政府から教わらないでも本屋がそういう風に出て来たのではないかと思ひます。

三木 今のお話は非常に面白く、色々な暗示に富んで居ると思いますが、藤野さん如何ですか、今読まれて居る本の傾向は……。

藤野 今栗田さんの仰つたようなことが図書館の閲覧者の傾向にも大体その通り現れて居るようです。今此処に一月から三月までに閲覧された

圖書のパーセンテージを今日大急ぎで纏めさして持つて来たのがありますから読み上げて見ます、三ヶ月を通じて一番多く読まれたのが、文学、語学、今仰ったようなものが多く読まれて居る、その比率が二三・八%となつて居ります、その次が政治・経済・社会というようなものに関するものが読まれて居りますが、これは文学語学に較べてずっと落ちて一五・四%、その次が歴史・伝記・地理に関するもので、これが一二・七%、第四番目には理学・医学に関するもので一〇・八%、それから産業・交通に関するものが一〇・七%、その次が宗教・哲学・教育これは余り読まれないで九・七%、その他というようなことになつて居ります、これが三月までの最近閲覧された圖書の傾向であります、本について申しますと、大体今仰られたようなものが多く読まれて居ります。殊に最近出ます文学書の

読書界の傾向を語る

中で有名なものは引つ張り風で読まれます。それからこの時局に関する文学、隨筆、そういうものも盛んに読まれて居ります。それと歴史物です、ね、歴史物は古典類がよく読まれる、源氏物語、枕草子、平家物語、徒然草、古今集或は芭蕉というようなものが非常に最近よく読まれます。

戦争と読書

三木 今のお話で今どんな本が売れ、読まれて居るかという傾向は察することが出来ると思います。これは色々な原因に依るだろうと思いますが、それはこれから御意見を伺うことにして、兎に角一番著しいことは、今度支那事変という大きな事変の中にある訳ですが外国に於いても例えば欧州大戦当時同じように本が読まれたのかどうか、読まれたとすればどういう本が読まれた

かということについて辰野さんどうぞ……。

辰野 どういう本が読まれたか知りませぬが、大戦当時は読書熱が非常に盛んであったものではありませぬか、それに戦争中は全体的に平時より真面目になり、一人ではどうにもならないというので各方面の本を読んで見るという傾向が多くなるのではありませぬか、実際戦争中には戦争文学は余り起らない、戦争が済んでから良いものが出るようです、日本もこれから良いものが出るかも知れませぬが、日本は戦争と同時に相当良い戦争文学が起って居るではありませんか。

田辺 戦争文学というものは大分色々な人に読まれて人気があるが、内容としては小説の上から面白味のあるものでないだろうと思います、あれは一種の逆の慰問袋みたいなものだろうと思います。家族の中で一人でも戦地に行つて居る人

があれば、そういう人達の近状を知りたいという気持で、その人達と会えない気持を、皆戦争文学を買つて慰安して居る、そういう慰問的役割をして居ると思う、そういう意味で割合人々に読まれて居るだろうと思います。併し実際小説としては余り面白味のあるものは少ないと思います。この頃色々戦争文学や何か批評出来ない立場であるし、作者としても色々掣肘されて居る所もあるから余り中の広い立体感の伴つて居る創作は出来ないだろうと思います。

三木 本が売れて居ることについては色々原因があると思いますが、やはり軍需景気とか何とかそういう景気の影響ということもあるのではないのでしょうか、加田さん如何ですか。

加田 それはありましよう、唯景気が跛行的であるということとはそこに考えて置かなければならぬと思います。例えば軍需工業に勤めて居る人達

は所得があつて工業書を買う、或は今後の見通しの為の経済書を買うということはこれは、實際的にはどうか分りませぬが、大分あると思います。殊にそういう方面では若い連中がかなり所得が殖えて居るといふことが本を買わせることになりはしないかと思ひます。そういう實際的目的ともう一つは装飾としての本が大分売れるのではないかと思ひます。そんな二つの点が考えられはしないかと思ひます、あとの部分ははつきり分りませぬが……。

三木 詰り今仰つたように景氣の跛行といふようなこともあるとすれば、新しい読書階級、これまでも本を読まなかつた連中が本を読出したのかどうか、そういうことも考えて見なければならぬと思うのです。詰りこれまで読んで居つたような人がやはり読んで居るのか、それともこれまで読まなかつた人が読んで居るのか……。

読書界の傾向を語る

藤野 私この一月から三月までの閲覧者の職業別

統計を持つて来ましたから御参考までに申し上げます、百分比で現して見たのでありますが、学生が三五・七%、これは学生が当然一番多い訳です。その次が商工業者で、二〇・四%といふ数になつて居ります。これは今仰つたように購買力が殖えたということもありますが、商工業者が図書館に來たり、或は直接自分で本を買つて読まれるということは自分の必要に応じて読まれるので、従つて新しい読書階級といふようなことになるのではないかと思ひます。

辰野 読書層は私達が考へて居る以外に殖えて居るのではありませぬか。

藤野 その反面とも考へられるのであります、これもある考へなければならぬ面白い現象だと思ふのであります、官公吏、軍人といふような階級の人達の閲覧者は——これは私の所の館に現れた

統計ですが、その人達は五・二％、という数になつて居ります。

栗田 前より減つて居るのですか。

藤野 大体今のような数です、それから教員、記者、宗教家という部類の人達は二％になつて居りまして非常に少い、無職が三六・四％で一番多い数になつて居ります。

新らしい読書層

三木 詰り従来のインテリゲンチヤが殖えて居ないで、外の方面で殖えて居るということが、今のことで考えられるではありませんか。

辰野 それを個人的の経験で言いますと、私の友達の鈴木信太郎と私と二人で、今から十八年前にシラノ・ド・ベルジュラックを訳した。その

1 同名の實在の人物を主人公としたエドモン・ロスタン作の五幕の韻文戯曲

時が千部です、それから第二回に出した時は千五六百部、それから第三回、これは新潮社の円本ですから一寸分らなかつたが、今年第四回を出した、それが三千部です、それだけ殖えて居ます。今私の所には男二人女一人の子供が居ますがそれが今シラノを読んで居ます、鈴木君の所は上のお嬢さんが高等女学校に行つて居るし、其の次のお嬢さんも大きくなつてやはりシラノを読んで居る、そうすると十八年前には二人しか読者がなかつたのが、十八年目の今日読者が七人です。十八年前の読者は個人的だつたのが今は少なくとも家庭的になつて居る、もう社会的になつて居るかもしれませぬ。先程栗田さんのお話を伺つて居りますと、読書というものは昔は何と言つても個人的なものだつたが、読者層ということは社会的になつて居りますね。それから同じく栗田さんの仰つたことですが、

日本の国内、国際の実情を知りたいというような傾向は、余程読者が社会的になつて居る証拠ではありませぬか。

田辺 辰野さんのお話は家族が殖えたということではありませぬか。

辰野 家族が殖えたから読者が殖えた、国民が殖えるということは読者が殖えることですよ。

栗田 最近目立つて新しい読者が出来たのはやはり工業書です、最近技術家養成図書陳列会を催して居る所もありますが、人々が愈工業方面に入つて見ると勉強して居る者がどんどん上になつて行くから、職工の子供さんが余計中学に入られるように、武者振り付いて非常に本を読む、この間有数な工業の重役さんの会合で、この頃職工が非常に本を読むようになった、これは良い傾向だからどうか職工に余計本を読ませるようにしたいという話を承りました。それからこの

数字は赤坂さんもご存知ですが、全日本の書物は関東が第一位、それから大阪を中心とする関西が第二位、第三位が満州、第四位が九州というような順で本が捌けるということです。それで今日一寸考えて見たのですが、満州に非常に売れて来たということは、満州へ人が余計行つたからであつて、日本に居たらそれだけの率が売れたかというところではなくて、満州へ行つた人が向うへ行つた為に所謂日本のことが知りた、或は向うへ行つたが為に勉強しなければ追いつかないので勉強する。それからその方面の人が文化的工作をする為に本を読む、こういうものが加算されて満州に沢山売れて居るのではないかと思ひます。少なくともそういうものの殖え方はかなりはつきりしたものではないかと思うのであります。それから最近子供の高価なものが売れる、又絵本のようなものが非常に

売れる、これは日支事變の為に売れるということともありますけれども、やはり一部景氣の良い人が子供の本を買って帰る、同時にそういう人々も何か所謂小説でも読んで見ようぢやないかというので、少なくともこの好景氣の關係にある人々がいくらか余計本を読むのではないかと思います。

三木

それはあるでしょうね、昔だつて職工は居つたが、今より金廻りが良くなかつた、今金廻りが良くなつた為に非常に読書を促して居る。それから又高価な子供の本が読まれるということですが、これは買つてやるのが親で親がそれだけ経済的に余裕が出来て来た、所謂好景氣の反映です。随つてそういう意味から文化が一つの風俗になつて、金があるから新しい洋服を作る、もう少し何か工合が悪いから一緒に子供の絵本も買つてやろう、或は今朝の新聞に大きな広告

が出た本を買つてやろうということ、文化が風俗化して行く傾向がかなり今見られはしませぬか。

辰野 それが日本人に於いては特に著しいのではないでしょうか、昔はマルキシズムが非常に風俗化されて居つた。

時局文学を論ず

田辺

殊に文学書が売れるということは、そういう今までの唯物主義という大変な言葉になるが、かなり觀念的思想性の本を選んで居た人が文学書に行つたというようなことがあると思います。

辰野

殊に日本人の傾向は哲学を知ろうとする時に哲学書を読み、経済を知ろうとする時に経済書を読んでも余りよく分らない、それで例えば経済的の書を読む、思想的の小説を読むという方

面から日本のインテリゲンチヤは思想とか政治とか或は経済というような方面に入つて行つたのではないかね。

三木 一方に於いて好景氣の為に書物が読まれて来た。これまでいい加減にやつて行けたものが色々事情が複雑になつてきた為に多少研究的にやつて行かなければならぬというようなことから本が自然求められる、そういうこともあるでしようね。それで今度は少し特殊な話を伺いたいのですが、今文学書が非常によく売れるものの一つになつて居る、併しこの文学というものは——今日の文学を評価することは僕等には出来ないかも知れないが、この頃の文学というものは昔の意味に於ける純粹な文学でなくして、文化が風俗化して行くというようなことに非常に同化して行くような文学、従つて新しい型の通俗小説、通俗文学というようなものが非常に多くなつ

て居はしませぬか。

田辺 そう思いますね、文学書がどうして売れるかという事について少し僕の意見を申し上げますと、大体文学書が売れる原因は三つの理由があると思います、第一は非常に漠とした好景氣に由来する所謂学生のポケットマネーが豊富になつて居ること、第二は文学賞というものが確立されたので、素人がどういふ文学が一番面白いかということがはつきり基準が出来て居るので非常に取付き易い、又實際そういう文学賞を貰つた者は面白い、裏切られないというので皆読んで居る、第三には政府が文学者を戦地に派遣したり何かして非常に優遇して来た、同時にその新しい文学的英雄というか、そういうものが出来て来て今までは苦節十年というようなことでなければ文壇に出られなかつたのが、無名の人も急に文壇に出られる。例えば火野葦平の

ようなのが出て来た。それで一つのヒロイックな野心を持つて成功の一つの階梯として文学書を買う所謂文学青年の群が殖えて来た。大体この三つ位の理由があると思います。話が前に戻りますが、私は新読者階級が出て来たとは思わないので、詰り景気の好いことに依つて一人の人が沢山本を買つて居るということが考えられる、殊に文学書の場合がそうです、又店の場合ですと学生相手ですから、景気の好いということとは、学生のダンスホールに行く金や麻雀をやりに行く金をこちらに使うのだろうと思います。又工業図書は技術工を養成する非常に簡単な本が多く売れて来たということは、本の方もかなり恰好のものが沢山出て来たということもあるだろうと思います。

記者 最近活動写真が非常に多く見られるようになったそうですね。この現象は近頃の小説が愛

読されるのと関聯して考えさせられると思うのですが、果して文学が良くなりその価値が高まったが故に多く読まれるのでしょうか。

三木 僕は文学は素人だが、質の低下が非常に著しいのではないかと思いますね。例えば菊池寛は通俗作家で純文学作家からは軽蔑された、所が今の流行作家はそれを毎日何十枚か書いて居る。これは昔なら通俗作家しかやらない仕事です。文学というものは一つしかないと思う、所が今では戦争文学、生活文学等色々な文学が出来たが、これは文学ではない、外の要求をそこで満たして居る、そういうことが非常にあると思います、今まで作家は知らず識らずそういう要求に應じて居る、結局活動写真に於いて剣戟を見、或は恋愛の映画を見ると同じような、そういうような要求に知らず識らずに應じて居る、そういうことが非常に多いと思うが、どうでしょう。

記者 良き文学書が一部では出て来ていることも事実でしょうが、大体に於いては今言われたような娯楽としての文学が、知識階級なり一般大衆をして、戦争の圧迫感から逃避の場所として選ばれているようなことはないでしょうか。軽い意味の多少の胡麻化しとしてですね。

三木 胡麻化すばかりではない、今日の文学者はそういう要求にどうも意識的に応じて居る、或は少なくとも文学者としての真の自覚に立たないで、知らず識らずそういう要求に応じて居るということとは、近頃の文学者を見て僕は一寸不愉快というか、意外に思う。

田辺 私も三木さんのお説と同感です、文学は真理の探究ということが目的だろうと思うが、今の文学は非常に一部の階級に膾炙する文学が多いと思う。一部の階級というのは労働階級というか、労働して苦しんで居る階級の文学が多いと

思う。それは十数年来の唯物思想や何かの為に上層階級が文学を発表しなかった。自分達の絢爛というか贅沢な生活を告白しなかった。それで今までの文学者、文壇を形成して居る作家集団の多くが労働者出であり、或は文学青年であり、或はそういう程度のもので、そういう人達の文学は自分の生活体験を骨子として書くより外ないから、どうしても偏った文学になって、上層階級の文学には頭から反撥して行くというようなことになって居ると思う。現在生産文学だとか何かそういう非常に偏った階級の味方になるようなヒューマニズムというようなもののしか現せない、そういうことだけでは非常に憔悴した文学になり小説の欠点になるというようなことで素材主義に変更して、それが色々戦争文学とか或は大陸移民の文学になって居るが、何かそういう風に實際真理を探究するという気

持がなくて、唯外貌を装うというかそういう意味の文学で相当流行作家でも何か社会性のある文学ということを目指して居て、モラルということを深く考えたような創作をしない傾向は多分にあるだろうと思う、三木さんの御説の通りだと思う。

三木 私はこういう一種皮相な、或る意味では軽薄な傾向ということも従来の日本文学に対して素材とかテーマを拡大したということに対しては非常に功績があると思う。尤も社会的になったけれども、社会について本当に真面目にモラルを探究して行くというような態度が段々真面目になって来たかどうかということについては私はどうも疑うので、結局それがいわば筋で読ませる小説、寝転んで居っても読める詰り新しいキング、新しい通俗小説、そういう種類のものが最近出来て来たのではないかと思います。

藤野 同感ですね、先刻百分比のことを申し上げましたが文学書はどんなものが読まれて居るかという、例えば私共が最初にこれは非常に良い小説だ、これは読まれるだろうと思うのが案外読まれないで、歴史のような色々面白く作つたものが非常に評判良く数多く読まれて居る。だから読まれた回数が多いのを書き出して御覧に入れたのであります。実は私共は本当は文学というようなことは分らないのですが、私共の閲覧者、学生、商工業者、そういう人達に真面目にシンミリと読んで貰いたいと思うものが案外読まれて居ないものが沢山あります。

栗田 芥川賞、直木賞、新潮賞というような事変前売れなかったものが、事変後になつて売れ出したということはどういう関係ですかね。

三木 それは詰り読者の文学に対する自分自身の独自の標準がなくなつて、例えば芥川賞を貰った

というような外面的な流行に支配されて居ることを現して居ると思う。

辰野 同時に文学が段々一般化して来たことになるのではありませぬか、何時の時代、何処の国民でも非常に偉大なる文学者、深遠な文学者は小数の読者しか持つて居ないと思います。ゲーテとかシェークスピア、セルバンテスなんか曾て一般的になったことがない。

栗田 どうも映画化され易いものが余計売れるようですね。

辰野 それから先程田辺さんが仰った慰問袋の逆輸入ということとは、日本全体としては文学の一つの標準になるのではないでしょうか。

三木 一般的に言えば文学が民衆化したということがあるでしょう。

辰野 本当の文学好きから言えばなんとなく頼りない、こんなものが文学なら俺達はどうして苦労

するという気持ちになるが、これで全体としては文学も盛んになって行くのではありませぬか。

統一なき読書界

記者 「生活の探究」が読まれる反面には「結婚の生態」というようなものも読まれて居る、半々でしょうか。

田辺 「結婚の生態」はまやかしいと思います。あれは現にモラルもある、今の文学者は昔のやはり封建的なものに縛られて、或はそれを思索出来なければ素材主義に行つて居る逃避的な作家が多い、石川達三は——あの内容を此処で申し上げる必要はないが、若い男女の恋愛から結婚生活に入る色々の段取り、そういう気持ちを書いて居る、ああいう作品は殆ど外にない、あれはどうしても外に見られない、現代の映画を見ようような小説はどうしても石川達三に行かなけ

ればならぬ。かなり大甘な小説だが、やはり何か我々に投ずる所があると思います。

辰野 真面目な意味ですか。

田辺 作品の結果としては良いものが見られて居ないが色々なモラルが動いて居る、それを追求して居る作家がない、そこへ行くと石川達三は若い男女が満足するような小説を書いて居ると思うのです。

記者 読者のほうでそういう作家の意図を真面目に受け取って読んで居るかどうですか。

三木 僕は石川達三がそういうモラルの探究をして真面目に書いても、読者はそういう真面目な気持ちで読んで居ないと思う。

記者 「若い人」でもそうですね。

三木 読者の方がね。そういう意味では一般にこういうことが言えやしないかと思う。勿論好景気の為に本が売れて、その為に書物が普及し文化

が向上する、これは付属的な結果として当然起ることですが、実際に例えば今話があったように、官吏が本を読むようになったということは広く知識を求めなければどうにもならないという現実の必要から実際に役に立つ本が求められて居るということは一方にある、勿論一方に於いて娯楽というものが求められて居る、詰り一番足りないのは思想とか社会科学というようなことに関係した原理的なものの探究、そういうものを書いたものも余り出ない、或は読者は求めて居るかも知れませぬが、読者の求め方にも何か或る弛緩したものがあるのではないかというような感じがするのですが、加田さんどうでしょう。

加田 そういう原理的なものが比較的少ないということは非常にありますね。殊に我々の方の経済に関する本なんか殆ど理論的なものは全滅と

言つて宜しい、例えば統制経済とか何とか書いても政府の政策を説明して、それで終つてしまふというようなイージーゴーイングな物が非常に多いということは確かです、それは一つの制約ということがそこにあるからだと思うが、大体我々の方に関しては一つは良い傾向かも知れませぬが、総てが国策順応的だろうと思う、色々の意味で政府の声明を説明したようなものが随分出る。そういう意味で小説なんかと同じではないかと思ひますね。戦争文学の大部分はやはり政策的な意味が非常に沢山あるのではないかと思ひます。それをもう一つ深く掘り込んで、そういう政策がどういふ原理的な根拠の上に立つか、或は立たねばならぬかという点に入つて行かない、又行けないのかも知れませぬ。

辰野 外国は神学的、哲学的、歴史的な時代というように非常に段階を経て来た。それが日本には

同時に入つて来て居る、全体主義というところにも最近の傾向らしいが、全体主義は十九世紀の半ばから徐々に出て来た。総親和¹というものも宗教的争ひ社会的争ひには必ずトレランス【tolerance 寛容】というて一つの中和的傾向としてあつたもので、日本はそれ等のものが一時に入つて来たから混乱するのは仕方がないが、何とか整理出来ればいいが、当分は整理出来ない、ゴタゴタして居る、浅薄だというようなことは当分続くのではないかと思ひます。

知識の国際化

三木 最近洋書の輸入というものが非常に制限されて来た訳ですが、そういう為^にに翻訳物が非常に売れ出して来たとか、洋書の制限にも拘らずやはり何か外国のものを知りたいとか、或は国際

1 平沼騏一郎首相の発言から流行語になる

的なものに触れたとか、そういうことはありますか、どうですか。

加田 それはありましようね。洋書は今まで年六百万円位入って居ったと思いますが、それが制限された。けれどもその中で自然科学的な方面は大体入れて居る、それから政治経済の方面は禁止して居ないものは入れて居る、一番影響を蒙ったのは文化的方面だと思います。それで比較的入って来るのは我々の見た所では何れの方面でも少ないように思うが、それを皆奪うようにして買って居るということは、一面に於いて日本が世界の日本になつて来たということではないかと思ひます。例えばこの事変を解釈する上に於いても、単に日本と支那の関係でなくて、世界に於ける日本と支那の関係であるというようなことから解釈しなければいけないし、三木さんも言つて居るように東亜協同体の思想

を作るにしても、それ等の世界性がどうしても基礎にならなければならぬ、そういう点で向うの輿論が何と言つて居るか、外国にどういう理論があるか、或は日本に対してどういう批判があるかということを我々は知らなければならぬ地位に置かれて居ると思う、だから今の傾向を見ると、例えばあの「赤色ルート踏破記」というようなものも割合よく読まれて居る、単に日本とソビエトの問題ばかりでなく、日本の今の事変の世界性が国際的知識を非常に要求して居るのではないかと思ひます、だからそういう所に翻訳なんかの色々な国際的なものが出る一つの理由があるのではないかと思ひます。

辰野 而もそれにも拘らず今の為政者がそういう必要な知識さえも国民に拒むという傾向が少し強過ぎるようですね。

三木 今輸入制限の話があつたが、洋書の金額が和

書に廻って居ることも確かです、我々も色々探し回るけれども中々洋書が買えないから、見つけたら詰らないものでも何でも買つて来るということに自然なり勝ちだし、又それさえ出来なくなれば結局和書を買うことになる、それも日本の全読書界を通すれば本が売れるという意味を持つて居る。本を買うということは一種の習慣で、そういう習慣が付いた以上は何かしら買う。

栗田 去年の半ば頃から洋書が非常に上がった、それで或る学校方面では神保町を漁つて大変な金額の洋書を買ひ占めをした、それだけ洋書を渴望して居るといふことは確かですね。

辰野 満州方面からも買ひに來たといふことです。それから先程加田さんが日本人が國際的になつたと仰いましたが、實際私もそう思います。ね、私共小学校時分には大英帝国と言つて、子

供ながら何かしら頭を抑えられて居るような気がした、日清戦争、日露戦争時代でもまだそうでした、所がこの頃では「なあんだ英國が」という気が一般にある。それは単に空元氣でなくて、それだけに實力に基づいてそういう氣持があると思う。同時にそういう風に思うことは少し日本人が日本人を買かぶつて居るぞという懸念もありますね。

三木 今國際關係の本が非常に要求されて居るといふ話がありました、そういうようなものは實際読者が要求して居るのだけれども色々な事情から出ないといふ本が相当あるのではないかと思います。そういうものは主にどういふ方面ですか、やはり例えば經濟とか思想とか、そういう原理的なものに対する批判的な研究といふか、そういうものだけですか何か外にありますか。

政治批評の技術

加田 先程栗田さんが仰ったように、そういうものを書こうと思つて居る人間もあるが、書かないのではありませぬか。

辰野 併しそれは攻撃的な批評で出ると言えば一言の下に駄目です。だからそこにお燭を温くするとか、相談の形で行くとか、例えば為政者の言つたことが一寸でも昔程激烈でないという場合にはそこを掴まえて、それを敷衍して本当の実情を知らせるとか何とか、そういうタクティック【Taktik; tactics】が必要だと思ふ、要するに苦勞が足りなかつたと思ひます。

加田 今でも建設的批判があればいい、今までのマルクス主義者は破壊的批評ばかりやつて居た所にタクティックとして悪いし、タクティックしなくても真理の探究という方面から言つても不味い所である。もう一つは日本の社会の経済的

分析はやつて不利だ、ということは例えば今戦争を遂行して居る場合に不安があるかないかは別として、仮に不安があるとすればそれを發表することは直ぐ向うへ利用される、これは上海あたりへ行くと直ぐ分ります。

三木 今加田さんは建設的な批評ならいいということと言われたが、これは確かにそうです。併し一人で批評家と新しい創造者を兼ねることは出来ない、だから批評家と創造者は別々だと思ふ。だからそういう批評家が徹底的に批評して、その基礎の上に立つて創造者は新しいアイデアを得るので、批評家に建設的な批評をやらして創造ということを要求しても駄目です。だから批評家に相当の所まで批評を許さなければ創造者に新しいアイデアが出て来ないと思ふ。

辰野 實際的進歩というても結局中途半端で行くより仕様がな、今三木さんの言われる通り批評

家は批評家で勝手にやって創造者が出て来るというにはもう少し社会全体が進歩しないと駄目です、今はやはり双方妥協してお燗を温くして……。(笑声)

加田 総親和で行きますか。

三木 併し中途半端な建設的批判というようなことをして居つては大きな仕事は出来ない、徹底的な批評家と創造者が一堂に会して国策なら国策を立てる、そういうことが必要です。初めから建設的批判というような立場の人ばかり集めて行つても一向根本的の国策は立たないと思う。

加田 私が言うのは意地の悪い批評をしないということですよ。

如何なる本を読むべきか

三木 大分話が進みましたが、本がよく売れよく読まれる、それと同時に良い書物も悪い書物も

区別されずに読まれて居るといふようなことも考えられる訳ですが、若しそういうことがあるとすれば、そういうことを改善して行く何か方法はありますか、詰り折角本が読まれるのだから成るべく良い本が読まれるようにしたいとか、或は成るべく良い本が出版されるようにするとか、何等か方法はありませぬか。

加田 私は少なくとも読者の方面にはそれがあると思います、例えば日本評論の「学生と読書」みたいなものもよい、私は或る小さな雑誌に如何にして学ぶべきかということを書いたら、それに対する投書がかなり来る、もつと具体的な名前を挙げるとか何とか投書が来る、そういう風に読者の側からどうして本を読むか、どうして専門の研究をすべきかということはかなり要求して居ると思います。所がそれに対して恰好な指導書がない、アメリカなんかではパブリック

コンビニオンというような方法をやつて居りますが、読者カードなんかもそういう方法だと思ひます、そういう方法で何か出来はしないかと思ひます。

三木

私はこういうことを考えて居る、各読書俱樂部を作つて、それに各方面の良心的な権威者を集めて、毎月十円なら十円、五円なら五円でもよい、その人が選択した本を会員は全部買うというような組織も考えられると思うが、どうでしょう。

辰野

フランスには十七世紀に既にそれがあります。フランスのサロンというのはそういう役目をした。それは大体教養ある夫人の家そこにサロンがあつて、その時代の知識階級が沢山集つて来る、外国から来たインテリもそこに行く、それでフランスの一般的カルチャーを維持し、高めた。

三木

今のようない時代、日本で読書俱樂部といううなものを作つて専門的な良心的な権威者が本を選択して会員がそれを読むというような組織が拡大されることは非常に望ましいと思ひますね。

栗田

実は本屋としても、小売店などではこんな本がほしいとか、こういう方面についての本はありませぬかと言つて来られても、その分る本屋は先ずないと言つてもいい位です、だから読書相談所を拵えようと言う声も大分前からありました。何とか文部省あたりにそういう会が出来て、そうして而もその推薦されたものを組合などで陳列する経費を補うというようなことがあつてもいいと思うんです。

三木

そういう間接的なものでなく、或る良心的な文化人が集つた団体で推薦するというような機関があるといいと思ひます。

栗田 所が中々そういうものは出来ぬのですよ、だから文部省あたりから推薦してやればいいと思います。

辰野 今日本評論、改造、中央公論、文芸春秋、などという大雑誌には毎月何日会というようなものがある、ああいうようなものをもつと拡張したらどうですかね、中央公論倶楽部、日本評論倶楽部、文芸春秋倶楽部というようなものを段々大きくして行くことは考えられませぬか。

三木 図書館で読書相談をやっておりますか

藤野 図書館でやつて居る読書相談は読書案内という程度のもんです。館員の中で目録に通じて居る者がこういう研究をするにはどんなものがいいかということを紹介する、所謂読書案内というようなものをやつて居りますが、今仰る読書倶楽部というようなものは是非やらなければならぬと思います、東京市で子供の読み物の調査

会を作つてから二三年ばかりになりますが、私共の方で面白くて為になるような良い子供の読み物を調査してやつて居ります。今やつて居るのは図書館の連中と教育者側から委員が集つて大体やつて居るのですが、それよりも図書館とか教育とか、そういうことに携わつて居ない文化人の本当の批評を確立して戴くことが必要でないかと思ひます。というのはどうしても我々の頭は偏るのです、それで我々がこれは良書として推薦した本と、実際子供の読んで居る本とは違ふ、そこに挙げてあるのは我々委員がこれは優秀だと太鼓判を捺した本だが、実際に於いては、私共がこれは読んで貰いたいと思うような本は余り読まれて居ない。併し最近この時局関係でございましょうか、子供らはこの時局に関する絵本のようなものをよく読みます、それから昔の日本の英雄豪傑の物語は喜んで読みま

すが、どうもこちらが与えたいと思う本と子供の要求とピッタリ行かない憾みがある、是は批評も遅れて居るし、指導もこれから十分手を加えて行くことが必要だと思います。

待望されるもの

記者 よく読まれる作品は一方に於いて相応な文学的価値を持つているものでしょうか、たとえば大衆文学とか何とかいうようなものを除外したものの中で。

辰野 一つの作品の価値は中々現代人は分りませぬね、本当の価値はその人が死んでから三四十年経たないと分らない。

三木 最近出て居るような日本の小説で後世に残るようなものは殆どないと言つていいのではないかと思いますね。

加田 私も人の真似をして「麥と兵隊」を読んだが、

僕も非常に詰らなく感じた。麥が植わつて居つて、何処までいつても麥ばかりだという長い文章があるので実はがっかりしたんです。所が今度支那へ行つて見渡すと成程あの感じが出て居る。それで実感を伴うと割合読めるのではないかと思つたのです。

辰野 現代人が文学史を書く程危険なことはありませぬね。十七世紀の文学は完全に出て居る、十九世紀の文学は実に不完全です。

田辺 それは十九世紀から見るとでしょう。

辰野 見透しが付かないのです、もう一つは十九世紀になつてから古典文学と言う基準的な文学を少し高め過ぎた、そうすると十七世紀の文学が基準文学だ。そうすると思想的に非常に面白い、十八世紀の文学は純文学より遠のいて少し輕蔑し過ぎた。十八世紀の文学の研究もかなり出来て居るが、これからでしょうね、十九世紀はもつ

と危なっかしい、これから色々十九世紀、十八世紀の文学史が出るのではないかと思えます。

田辺 併し二十世紀に生きる人間としては仕方ないでしょう。

辰野 二十世紀から見た文学史が出来ていいと思います。一九世紀から見た十八世紀の文学、十八世紀から見た十七世紀の文学というものは今研究されて居りますからね。

記者 どうも色々ありがとうございます。

底本：『日本評論』1939（昭和14）年5月号

座談会「知性文化の方向を語る」

佐藤信衛

中島健蔵

仁科芳雄：1890～1951、岡山県出身、東京帝国大

学工科大学卒、理化学研究所からヨーロッパ留学、

同所に仁科研究室を設置し量子力学研究

藤岡由夫：1903～1976、東京出身、東京帝国大学卒、

物理学者、東京文理大学教授、戦後埼玉大学学長、

山梨大学学長

三木清

(1939.3.28 於偕楽園)

文化は如何に変わったか——

その顕著なるものは何か

記者 今日には御多忙のところ御出席下さって、有

難うございます。これから「知性文化の新方向」

に就て皆様の御意見を伺いたいと存じます。一つ
中島さんに司会を御願います。

中島 なるべく具体的ことから、今の日本の文化の現状と、それをどういう風に変えて行ったらよいかということなどの話を承りたいのです。科学が常に大きな問題になって居る。それから哲学が大きな問題となつて居る。そしてその両方をどういう風に一致させるかという問題がある。

三木 それは文学にも関係があらうね。

中島 文化が非常に変つたということが普通に言われるけれども、事実果して変つたか。変るとすればどういう契機に依つてどう変るかということが真先に問題になると思う。哲学の方面で言えば何か最近に非常に変つたという事実が出て居るのでしょうか。

三木 最近特に変つたというようなことはないと思

う。まア新しいものとしては、日本学とかいうような傾向、或は又民族といったような問題が前面に出て来たということはあるだろうね。

佐藤 それから外国とちよつと縁遠くなつたようなことですね。

三木 従来は外国のものを熱心に、客觀的に研究したけれども、この頃ではその研究が便宜主義的になつたということがありはしないかね。

論文なんか見ても、前には外国人の著作の引用なんかが多かつたのだけれども、この頃では外国人から思想を借りて来ても、それを黙つて伏せておいて、外国のものを無視した風を装うというような傾向があるのぢやないかと思う。ともかくこの頃の「獨創的」とか「劃期的」とかいうものは全くやりきれない感じがする。

佐藤 うまい工合に外国から持つてくる思想がないのぢやないんですか。

三木 でも結局あるのぢやないか。

佐藤 向うにエミネント【eminent 高名な】な思想家があれば、直ぐこれを研究するという事を前にはやつてたんだが、今あいにくそういうものがないというんぢやないんですか。

三木 でも独逸あたりの全体主義の影響が段々深くなりつゝあるのぢやないか。

哲学の世界的潮流と我國の思想問題

中島 今の日本のそういう変化が何か世界的な動きとやはりちゃんと同時代的な関聯があるのか、それともそういうものに先んじて居るのか、或は遅れて居るのか。そういう問題は哲学なんかはどうですか。哲学では世界的な潮流というのは今ではなくなつて居るのですか。

三木 政治の哲学支配ということが一般的な傾向であつて、日本の哲学なんかもそういう風に政治

から影響され、そういう哲学が流行して居るのぢやないか。その意味における転向が目立つてきたね。もちろん人間の思想は固定したものでない。しかし転向といつても、本当に自分で良心的に考えて、色々な悩みを経て後に発展的に転向したのか、或は御都合主義に依つて転向したのか、それに従つて価値に大へん相違があると思う。哲学者の資格としてはそこが重要なことぢやないかと思う。簡単に言えば、最近の哲学は多くの場合昔の高等師範の学問になつたのだね。

中島 今までの日本の哲学は、一般的には言えないけれども、大部分要するに一つの知識であつて、その知識という意味も着物みたいに平氣で着たり脱いだり出来る出来合いの知識で、それがいわば皮膚のように一つの身についたイデオロギーなり何なりになつて居ることが、非常に

少なかったということは、かなりはつきり云えると思うね。

三木 それと同時にこういうことがあると思う。日本の哲学はこれまで封建的なところを脱却していなかったのだな。そこで新カント派の哲学が初めて日本に近代主義を入れたのだが……勿論明治初年にフランス、イギリスあたりの啓蒙哲学が流行したことはあるが……カントならカントを研究しても、ヘーゲルなどに直ぐ関係づけて、カントの持つて居つた啓蒙主義的な要素をばかして来たと思う。そういう傾向は、社会的に言えば、日本に残存して居る封建的なものとの関係があつたと思う。そういう傾向があつた所へ最近の政治的風潮というものがそれに適合して居るので、哲学者と称する人々は割に悩みなしに転向出来たのだと思う。哲学者というものは思想家なんだけれども、所謂思想問題を起し

たという例が日本では殆どないのだ。経済学部、法学部などには起つても、文学部という思想問題に一等深い関係のある所で思想問題が起らなかった。ということは特徴的なことで、それが哲学と社会との関係の実状を示して居ると思う。

中島

そこには一つ疑問があるけれども……、哲学にしても科学にしても、根柢的な或点まで個人的な要求から出発し、その要求に貫かれて先へ発展して行くとする。個人的な欲望や直観が、色々に遺産を摂取して裏うちされたり、自己発展をしたりして、段々に普遍性を得て行くと思うが、そういう点は日本ではどうですか。単に哲学が面白いからやって見ようというのではなく、色々考えているうちに、どうしても哲学をやらなければならぬということがはつきりして来て腰を据えるのが順序だろうと思うが、そういう基礎の強弱は日本の哲学ではどうです。

知性文化の方向を語る

佐藤

これまでの哲学は専門家でなくても誰にでもやれた。つまりただ習ってたんです。これからはそうは行かなくなつて、そういう習うというものは別になくなつたという過渡期にあるのぢやないですか。哲学というものはそう誰にもやれるというのぢやない訳なので、これからはほんとにその為の人だけがやり、ほかの人はやれず、やつてもしかたがないということになつて行くんだと思う。

三木

それは以前でも何か要求というものはあつたと思う。いわゆる煩悶だね。煩悶というものが哲学へ行つたということがあつたろうと思う。併しその煩悶というものが知識的な性質のものではなかつたのぢやないか。煩悶というものは必ずしも知識的なものではないにしても、知識的に究明していつて知識的な問題として把握された煩悶と、それからナイーブな気分的な煩悶

があると思う。所がこれまで哲学に入つた人は割にナイーブな、詰り文学青年的な煩悶から入つて居はしないかと思う。一度知性の反省を経て、その形に直された煩悶から哲学に入つたのではない。同じ煩悶から出発しても、知識的な形に直された煩悶から出て居る場合には科学というものとの結付き、それからその時代の社会的な問題とも結付く。日本のこれまでの哲学者には科学に行き切れないで、全くの中途から文学青年的な煩悶で転向して来たような人が多い。

佐藤 さつき二木さんが日本ではカントにもともとある啓蒙主義の要素をばかしたと言つたけれども、素地のないところへふいに持つて来ようとしたんだから無理ない。西洋では、初めにルネサンス、それから自然科学が生れ、そして十七世紀の大体系となり、それからやつと啓蒙運動になつてロックだとかアンシクロペヂスト【フ

ランス百科全書派】だとかの働いた時代が来た。そしてその大きな反動としてルソーが現れ、そうしてこの二つの大きな傾向を合せて初めてカントというものが出て来た。日本は何もそういう時代的な煩悶とか闘いとかいうものがなくて、突然そういうませた思想で一躍大人になつちやつた。向うはそういう風に何百年か掛つて営々とやつて来たことを日本はそっくりその遺産を貰つてらくに暮そうというようなことをした。ところがそういうことではいいいけなくなつて、これからは裸一貫でやらなければいけないということになつて来た。

伝統に欠けた日本の科学とその弱点

中島 そういう点は科学で一番はつきりする。近代科学の伝統が日本にはなかった。そういう点が今の科学の現状にどういう影響を与えて居る

でしようか。考え様に依つては、吾々の年代は、割に幼い頃から科学的なことをそう珍しいものとしなくて受取つた最初の時代に属するのだらうと思う。それにしても歴史的な意味での伝統というものと、それから唯単に、何か曲りなりにも出来上つた文化の中に育つた結果の獲得というものとの差があると思う。やはり僕は最後の所に行くと、科学の歴史的な伝統がない所から来る欠陥が一般にあるだらうと思う。

藤岡 それはありますね。

仁科 佐藤さんの今のお話のような転換期を吾々は経験して居ると思います。さっきのお話のように日本の科学は何の伝統もなしに模倣でやつて来た。今まではそれでやつて行けたのだが、段々追付いて来ると、当然固有の科学——固有と言つては変ですが、兎に角オリザナリティーをどうしても出さなくてはならぬようになるし、一方

知性文化の方向を語る

今日の国際的状況では模倣ということが出来なくなつて来たから、自然そういう風に独自の進展が要求せられる。随て当然そういう転換期にあつて……。

佐藤

いつも僕は考えるんですけども、日本人が何故速く科学を取入れたかと言うと、一つは思想の伝統というものが無いから、あのような実証的な思考法というものがすぐ体得出来た。併し西洋の近代の科学というものは、実証だの経験だのそんな手取早いことではなくて、古い伝統を基としてそこから出て来ているんですね。私達の場合には何も思想の伝統がないということから、却つて実証科学をやすやすと受入れることが出来ただけでも、しかしそれではやはり本当の意味で人間の思想としての科学というものはなかなか根付かないということになるだらうと思う。西洋では科学ははつきりと哲学

から出た枝であるのに、日本ではただ科学だけだから。

仁科 科学の伝統がなかったということが、今まで日本に大きな科学者が出なかった理由になるのですが、併し今申したように、これからはだんだんとオリヂナリティーを持った科学者が出て来て、我が科学の伝統を築き上げるでしょう。そういうものが新しい日本文化になるのぢやないですか。

三木 伝統破壊は惜しい

不幸なことには、折角これまで出来かけてきた伝統を、最近容赦なく棄ててしまうような風潮があるのではないかと思う。折角五十年なり六十年なりかかって西洋から学んで築かれ始めた近代文化の伝統であるのに、最近では簡単にそれを放棄しようとして居る。実はこれからそ

の伝統の上に新しいものを作らねばならぬ場合であるのに、その伝統を大切にしないで破壊してしまつては何にもならない。日本が五十年とか六十年とかの間に西洋文化を卒業してしまつたように言われるけれども、そんなことがあり得ないことは、最近の風潮が拡大してゆくに從つていよいよ明瞭になってくるのではないか。

中島 やはり何か基礎的な検証を尊ばないで、だしぬけに結果だけを出そうというような考えが、明治以後殊に多いと思う。それと同時に、高いところへ引き上げる教育が不足である。文学の場合でもそうですね。日本の文学の教育というもののは、文学の教育ではなくて、いわゆる読み方の教育だ。綴り方、書き方を含めて、国語の教育はあつても、国文学の本当の教育はない。世界中何処へ行つても国文学の教育というものがこれほど遅れている所はない。国語と言つて

単に字を書き読むことの教育しかない。そういう所から来る一番の不幸は、専門外の仕事をお互に非常に縁遠く評価する。詰り科学者は科学ばかりしか知らない。文学者は科学や哲学なんていうものは自分の仕事と正反対のものであると考え、哲学者は哲学者で、文学なんか極く低い表現であると思う。こういうようなことが非常に起り易いと思う。それは立派な専門家の間には起り得ないと思うが、一般にそういう風潮があるということが、非常に文化全体の向上を阻害して居ると思う。広く深いことが求められず、広く浅いか、狭く深いかしないことになる。科学の内部でも細かい分野に付て言えば、そういうような孤立的なことが随分ありはしませんか。

仁科 それは確かにありますね。自分の余り関知しないような専門の事柄はトリヴィアル【trivial】自

明】と見てしまう。そうして相当その中に這入って見て、これは大変難かしいものだと思うと、反動的に却って恐れるというような傾向の人があります。例えば数学の人は動物学なんかトリヴィアルと見る。物理の人は物理以外のものはトリヴィアルだとするような傾向は非常にありますね。

藤岡 先程のお話の伝統がないということですね。これは科学の方でも随分あると思います。伝統がないということの結果は、今の一般の科学的常識が——もつと広い意味になるかも知れませんが——一般に非常に低いのぢやないかと思う。それでですから日本にも非常な天才が居るかも知れないけれども、一般の常識が或る程度まで発達して居なければ、進んだオリヂナルな仕事は出来ません。一般の国民的のレベルが相当に進んで居れば、少し勝れた人は更にどん

どんなに進むことが出来る。そういうわけで日本にはオリヂナルな仕事が遅れたということは、一般的教義のレベルが低かった。詰り伝統がなかった為だということになるのぢやないかと思ひます。

科学者の二つの型——思索家と技術家

佐藤 そのことは私達からすればやはり科学にも罪があるのぢやないかと言いたくなります。科学者の書物を見ますと、それはとても専門的なテクニカルなものです。僕は科学者というのはその正体を究めてみたらやはり哲学者と同じに思索家というものでなければいけないと思うんです。所が科学者の書いた物を普通の人が読みますと、むしろ計算家とか実験家とかいうような印象を主に受けますね。実際にそういう物理的な思考のほんとうの骨組になつて居る筈のイ

デーというようなものが非常に乏しいと思う。普通人というものはどうしてもイデー以外には頼り様がありません。いろいろの数学とか実験とかいうことには通じませんから、どうしてもそういうイデーというものに頼りたがる。僕はそれでいいんだと思う。そういうものなんだと思う。だのに科学者がそういうことを伝えるということがないのぢやないんですか。

藤岡 それは非常に難かしいことです。建物を建てるのも大体設計をして行く人と、コツコツ細かい部分を作つて行く人とある。一般に科学者と云つても、そういうような色々な役をする人が混つて居るのでしょうね。実際技術的なことをするのも必要なことですから、それなしには科学は進めない。

佐藤 勿論そうです。

藤岡 それで科学者の中でも本当に最も根本的な思

想を進めたという位の仕事をする人というものは、結果に於いては余り多くはないかも知れません。ですから如何にもお話の通り科学の方の本というものは、テクニクの本が多いのでしよう。イデーを伝える本というのは望ましいものでしょうけれども、併し非常に難かしい、仲々出来ないことぢやないですかね。それからもう一つは、数学のようなことが使われると一般の人は非常に嫌いますね。ですけれども科学というものは数学があるから出来るので、物理学にしろ——物理学には限りませんが——、科学的の思想を量的にエクスプレス【express】する言葉が数学ですから、それを除いて科学を正當にエクスプレスするということは非常に難かしい。難かしいばかりではなく非常に誤解を招く怖れがあると思う。例えば普段口で喋って居るので出来て居る概念を、口を利くことなくして手真

似で伝えるという風な結果になりやしないかと思う。科学の方では兎に角数学なり何なり表現の方法がありますから、その言葉の上の間違ということは比較的少ないのぢやないかと思う。詰り議論でも言葉の上の誤解ということが比較的少ないように思います。

仁科

佐藤さんの仰るイデーということとテクニクということですね。科学の方には両方必要なんです。どっちかと言えばそういうイデーの方に勝れた人は、テクニクの方には劣って居るというのが普通ですね。私はよく言うが、此二つは所謂相補の關係にあるのではないかと思えます。一人で両方持つて居る人もありますけれども、それは頭の転換をして居るのだと考えられます。つまりテクニクを実施して居る時の頭と、それからイデーの方に突込んで行つて居る頭とは同じ人の全然違った面を表して居る。

そういう風に思つて居るのです。

佐藤 併し新しい理論を出すとか、発明家——理論の方の発明家、そういうのは皆イデーの型の人ですね。

仁科 所が新しい理論や発明を出すだけの実験的の根拠がなければならぬ。その新しい実験を実施する人は誰かと言うと、多くはテクニクスの勝れた人がそれまで出来なかつたテクニクを用いる。その新しいテクニクで行われた実験結果に基いて、イデーの人が新しい概念を作る。そういう風に分業的に物理の方は進んで居ると思ひます。

三木 テクニクそのものもイデーがなければ発展しない。理論的なイデーばかりでなくて技術的なイデーというものがあるのぢやないですか。

藤岡 それはそうです。
佐藤 併し近代科学を設計したガレリイなんてい

う人は、今からみれば科学者というよりも哲学者で、極くスペキュラチーフ【speculativ 思弁的・推論的】で、主に頭で考えていては偶々実験する、思索してはその必要からおりおり物に触れて行くというような人のように思われるのです……。

藤岡 所が今の世の中は非常に分業が盛んになって来まして、同じ科学者でも理論をやる人と実験をやる人は全然別という様なことになって、中々ガレリイ時代のような人は出て来なくなつた。
佐藤 ファラデー^{*}だつてそうですね。

専門的研究を単純な形に綜合せよ

三木 専門家というものは必要であつたし、それに依つて科学は発達して来たが、今日では、それぞれの専門的研究を何か極めて単純な形に綜合することが必要になつて来ているのではない

ですか。誰にもすぐ理解できるような単純なイデーから物を説明して見ようという専門家とは逆の方向がなければ、近代文化は救われないといったような不安が科学者にはないのでしょ

か。

仁科 科学の方、少なくとも吾々のやって居る物理の方では、もともと出来るだけ少ない仮定の下になるだけ多くの事柄を説明しようというのが今までやって来たことでありまして、そういう風に出来るだけ単純にしようということは皆努めて居る訳です。所が実際は実験のテクニクが段々進んで来まして、一つの原子を捉え、一つの電子を追うということが可能になった結果として、始めの予期に反して事物は非常に複雑になって来ました。今の所では寧ろ単純に把握することの逆の方が真理のような形になって居りますけれども、併し之は過渡期の現象であつ

て、当然将来は単純化されなければいけないものと考えて居ります。

中島

大分古いことですが、ポアンカレ*が、『科学

と方法』のはじめのところで、数学の場合ですが、専門が非常に細かく分化し過ぎた為に、数学そのものが一つの科学として進歩しなくなる危険があるということを書いて居るのを読んだが、そういう危険が現在の科学では別にあるのですか。例えばニュートロン【neutron 中性子】とか、ポジトロン【positron 陽電子】とか……原子内の現象や原子破壊に就いての研究の進歩に対して、それと一般物理現象とを繋ぎ合せる関係に就いて何か不安定だというようなことはありませんでしょうか。

仁科

その恐れは少ないと思います。現在原子とか電子とかいうような物質の窮極の構造を把握して、これを普通の物理現象の根拠として使おう

というように進んで居る訳です。例えば簡単な話が、電気が銅線の中を伝わる理論とか、光が物質に吸収される理論とか、そういうものは電子、原子の立場から少なくとも定性的には説明されて居る訳です。だから今お説のような欠陥は段々これからなくなつて来るだろうと思います。

藤岡 さつきのお話の様に、実際には或る特殊の現象を発見した人が、他の関聯したことをちつとも知らなかったということは、一人だけの個人的問題としては非常に多いのです。それはさつき仁科さんが仰つたように、科学も非常に分業になつて居りますから、寧ろそれ位な人でなければ深い突込んだ研究は出来ないでしょう。併し一面あらゆる方面の人が非常に沢山居つて、一人の発見の結果は直ぐに世界中の学界に報告される。何かその人が発見をすれば、その他の

方面との関聯の意味は世界中の人が皆考えますね。尤も科学にも色々な方面があつて、極くスペシャルな日本の植物とか、岩石の研究というものとは別でしようけれども……。そういうように個人的に取つて見れば、或ることだけしか知らないというような科学的の片輪みたいな人は沢山あります。それは殊に西洋人に多い。だがあらゆる方面のスペシャリストや深いイデーを持った人が多いのでそれだけで間に合う。日本は比較的に科学者の数が少ないだけに、色々なことを一人で知つて置かなければいけないということが稍々多いかも知れない。それは特殊の事だけしか知らない科学者というのは欠陥と言えど欠陥かも知れないが、そういう風でなければ科学は発達しない。ニュートンとかガレリーの時代は一人だけの仕事でもつて本を出して居るが、今ではあゝいう仕事は寄つて集つて皆で

する。それは総てのものが発達して居りますから……。

佐藤 併し例えば近くボーア^{*}という人が出ますね。

そうするとあゝいう人がたくさんいちどに種子を蒔くのぢやないんですか。一人の人が種子を蒔いて、あとは大勢でめいめいそれを育ててゆくというようなところが……。

藤岡 それは詰り或る科学の法則というものが見付かるまでには、色々の技術的実験が沢山行われる。そして今までの理論ではどうしても解釈出来ないような事実があった時に、それを纏めるような意味で一つの新しい法則が出来ますね、そうするとそれを実際にどういう場合にも当嵌めるかという事をテストして見る訳ですね。そういう時には今仰る種子を拾うのに当る訳でしょう。併し種子を拾って居る間に又その種子に向つて合わないようなことが色々見付かつて

来ると、又更に新しい法則の出来る基を作る訳ですね。だから種子を拾って居るというように見えても、実は将来の新しい種子の基を作つて居る積りで皆居るでしょう。

仁科 それはやはり種子を拾つて居る訳でしょうね。

佐藤 併し科学の発達はなだらかではなくて何かところどころ節があつて、その節に居る人というものとは単なるスペシャリストではなくて、科学者というよりはむしろ哲学者、思想家、科学とは何ぞやということから把んで居るように見えます。

仁科 それはそうです。さつき三木さんが仰つたように、単純に把握するということ人はえらい人です。科学を一步先に進める人です。併しそれだからと言って、そういう氣運を作り、準備をした沢山の人達の努力を無視することは出来ないと思

います。

三木 それはそうですね。科学的精神や科学的知識が大衆の間に普及するということは、つまり大衆が専門の科学者を支持して居る訳で、そういう支持がなければ科学は進歩し難いでしょう。

佐藤 それは本当ですね。

仁科 吾々のやって居りますことも、若し国民に科学に対する関心というものがなかったならば、進めることは出来ないと思います。

啓蒙方法の改善とジャーナリズム

中島 現に今行われて居る科学の普及の方法とか、或は啓蒙的な仕事のやり方が、現在の俤でよいか、或は何か大きな欠陥があつて、もう少しこういう所は改善しなければいけないというようなことはありませんか。

仁科 その方法ですか。

中島 具体的な方法です。詰り私共の目に触れる通

俗科学なるものは、一番困つたことには実用化された部分だけを強調するのですね。それは非常に面白いし、重要なことであると思うけれども、そういうものだけを出して置くと、どうしてこういう実用的な結果を得たかという経過に対する興味が少なくなつて、常に何時でも結果の模倣に終る。模倣だけは出来るけれども、新しい発見は出来ない。それが極く通俗的な、殊にジャーナリズムの科学に対する扱い方です。それからもう一つは理論的なことでも、実験的なことでも新しいことをどんどん知らせるといふ傾向があります。それも非常に面白いのですけれども、やはり何故こういう新しいことが必要で、それがどの位の意味があるかということがは抜きにして唯宇宙線というものが見つかったそうだというように知らせる。何か珍しいもの

で軽気球で高いところの上ったり地面の下へもぐったりして調べるものだというような工合で、皮相な興味を刺戟するだけで、それぢや宇宙線というものはどういう重大な意味を持つて居るかということにはさっぱり触れない。そういう基礎的な啓蒙の上に相当に欠陥がありはしないかと思うのですが……。

仁科 それについて先ず云わなくてはならぬのは今お話のジャーナリズムですね。この方を改良して貰わぬと本当の啓蒙は出来ない。詰り歪められるのです。早い話が新聞記者が私の所へ話をして呉れと言つて来ます。所が話した中で都合の好い所だけ書く。(笑声) 私は何時もそれを書いたら持つて来て呉れ、そうしなければ初めから話さないぞと言うのですが、書いたものを見ますと途徹もないことが書いてある。それを直すと向うは氣に入らない。こんなものは人が読

まないと言う。併し初めの約束があるから直したのを持つて帰るのですが、直した通り出すのは殆どないですね。結局向うの思つた通り出す訳です。そういうことが先程お話のような結果に導く一番大きな理由ぢやないかと思うのです。そういう点を直さなければならぬ。そういう点を直し、国民一般の考え方を直さなければならぬ。そうしないと売名の為に科学をやつて居るようになって来るので非常に困ります。

三木 所が或るジャーナリストの言う所に依ると、この頃ではジャーナリズムを利用して自分を宣伝しようとする科学者も相当あるらしいですね。ジャーナリズムが低級であるのは国民の教養が低級であることを示しているのです。ジャーナリズムは国民の求めて居るものを与えようとしてゐる訳ですから……。吾々の希望する所は、科学者が唯結果だけを教えないで、科学的な考

え方とはどういうものか、科学思想とはどういうものであるかを国民に教えて貰いたいのです。

教養の蓄積が必要

藤岡 それは科学者の仕事と言え、そうですね。けれども、やはり子供の時代からの頭の持ち方によろと思えますね。つまり国民一般の科学的教育を高めるという点が、一番根本問題ぢやないかと思うのです。今お話のように科学的の結果だけの教育をやるのぢやなくして、科学的に物を考えるというその考え方を養うのです。これは——先天的のものがあるかも知れませんが、子供の時分の教育で非常に影響されますからね。これは難かしいことですね。仲々そう簡単には行かないと思えますね。独逸の自然科学は今非常に進んで居りまして、さっきのお話のボーアの相補性理論の出る頃の量子力学の

発達した頃など非常に盛んでしたが、その当時盛んに仕事をした人にはハイゼンベルグ^{*}を始め、二十代の人が非常に多い。学生で非常に立派な仕事をした人が居った。一般的に非常に科学的教育がよく行われて居るから、学生でも相当な頭を持つて居る。そうして第一線の仕事を教授達がして、学生がそれにタッチして居れば、その頭が殆ど学界の第一線の問題まで行つて居る。それから先は少し優れた人であればオリヂナルな仕事が出来る。詰り一般的なレベルが非常に高いということの結果だと思えます。それはドイツの物理学だけが進んで居ったというよりも、独逸国民の一般的性質が非常に科学的であつたということによるような気がしますね。本当に赤ん坊を抱えて居るお母さんから町の人まで、何となく科学的に物を考える頭を持つて居るような気がします。

三木 教養が社会的に蓄積された所で直感という

ものが生きて来ると思います。例えば二十代の若い人は直感に勝れて居る訳ですが、そういう直感は文化的な伝統がある場合生きて来る地盤をもっているのです。しかるに伝統のない所では直感というものが空虚になり、自分自身で相当地教養を積んで来た年齢になると今度は直感力がなくなっているということになります。文化が蓄積されて居る所へ若い人がその伝統に頼って直感力を働かせると大きな仕事が出来けれども、吾々のような場合には、先ず第一に若い時に蓄積しなければならず、そうしてその中に想像力や直感力が衰えて来る時になって何か独創的な仕事をしなければならぬというような困った状態に置かれて居るのではないですか。これは日本のあらゆる文化に於いて、天才的な大きな仕事が出て来ない一つの原因ぢやないか

知性文化の方向を語る

と思う。

中島 それにもう一つ根本的な所から直してかから

なければならぬと思う。例えば学者の自分の研究の結果に対する信念の深さ広さの問題だ。日常生活なり、或は普通の社会なりで、自分の信念と全く相反することが通用して居る。ところが、そういう自分の信念とは相容れない、どう考えても間違つて居るといふようなことに対して、割にのんきに見逃しすぎる傾向があると思う。露骨な例を挙げれば、専門的な科学者でありながら、日常生活では或種の卑俗な迷信を持つて居つて、それを冗談事のように而も重大な結果を及ぼすように生活の上に取り入れて居る。そういう矛盾は自然科学者に限らず、特に文化科学者によくあることだと思う。自分の生活態度が既にそうだから、世間で変なことが言われ、変なことが行われているのを見ながら、あんな

ことを言つて居るのだけれども、俺はそう思わぬと言いながら、それに対してどうしようという闘志を起さない。文化科学の方では実にそれが激しい。どう考えても訳の分らぬことだが、まア向うは科学者ぢやないからそれで宜かろうと高を括つて、間違いを正そうともせず、矛盾を究めようともしない。それでは科学の目指して居る普遍性というものを自分で投出して居ることになると思う。そういう所の反省も大変必要ぢやないかと思うが、どうでしょう。外国の科学者で教育の問題に非常に熱心な人が多いのは、一つはそういう矛盾に堪えられない徹底的な気持があるからぢやなからうかと思う。日本では、今は不幸にしてそういうことが好ましい方向に向いて居るかどうかということも疑問だ。

外国では偉い学者でも通俗書を書く

佐藤 それから向うには——独逸でも仏蘭西でもそ

うですけれども、非常に良い通俗書がありますね。えらい人が皆通俗書を書いておりますね。

藤岡 皆ということはないでしょうが……。

佐藤 例えば新しい所ではブローイやボルンとい

うような人の書くものを見るとにかく何かそういう新しい物理学のイデーというものが分ると思う。ハイゼンベルグの通俗書というものは、そういう教育的の意味はないと思いますが……。

やや古くはプランクでもそうでしょうし、それからヘルムホルツとか、マッハとかボルツマンとかもそうです。ポアンカレのも通俗書と言えますね。こういうのはやはり科学者が一段降つて来てそういうことをしたというのではなく、やはり科学者その人の思考がえらいほんとうのものだから、そういう風な通俗家にもなり得たのだと思う。

三木

それと同時にこういうこともありやしないか。西洋では社会的意識が一般に発達して居るので、その為に学者というものもそういう社会的意識に基いておのずから教育的精神を皆持つて居る。所が日本では教育はただ高等師範とか、師範学校というものの仕事であるかのように考えられて、学者が社会的見地から人間を教育しようというような、そういうヒューマニスティックな考え方、精神というものが乏しいのではなにかと思う。それにはやはり社会的意識の発達ということが基礎になるので、西洋の学者はそういう伝統に従つて皆教育的精神を持つて居るのぢやないか。それで好い啓蒙書なんかも書いて見ようという気になるのぢやないか。日本では教育と言うと何か特別なことのように考えられている。

藤岡

一種の技術のように考えられるようですね。

知性文化の方向を語る

三木

そうです。学者ばかりでなく要するに社会の人全部が誰も皆教育家であるという自覚を持たなければならぬ。政治家でも、文学者でも、哲学者でも、科学者でも、本来から言えば皆教育家であるということが理解されねばならぬ。

中島

そういう点は科学者ばかりを責めてはいかぬ。文化科学の人もそうだし、殊に哲学者なんかも甚しいと思う。哲学者全部がそうぢやないか、一つの世界像を組上げるのは結構である。ところがそれがどういう生きた意味を持つて居るかということは自分でも分らず、社会意識などは全くお座なりに片づけて居る傾向が相当あるということが一番困るのぢやないかと思う。

封建的ギルド意識に捉われた学者達

三木

それは今なお哲学が封建的なギルド的な意味のもので真に社会的の意味を持つて居ないこと

だ。仲間だけで通用する言葉を以て、仲間のあいだでうまくやって行けば商売になるということだから……。詰り真の意味のヒューマニズムの上に立つた教育的精神というのが、日本の学問なり芸術なりを変えて行かねばならないのぢやないかと思う。所が文学者なんかにもこれが必要なかったのは、封建的なギルド的意識というものがあつて、社会的なヒューマニスチックな教育的精神というものがなかったからぢやないか。

中島 それは文学の場合ならば文学理論というものと、文学作品というものが全く縁なしに勝手に存在して居る。而もそれが大して気にならないというのが非常な欠陥だと思う。全体的な関聯の意識や感覚が薄いのだ。それから専門家のギルド的傾向から発する不幸な結果の一つは、いわゆる専門から外れて少し広い仕事を目指すと、

あの男はもう我々の島の人間ではない、哲学者はよしてしまつたのだとか、ジャーナリストになつてしまつたとか、或はこの頃は八百屋になつたとかいうような扱いをする。そういう偏狭な専門家意識の害毒というものが非常にあると思う。自然科学の場合にもそれがあつて、文化科学の場合には更に激しいと思う。専門の狭い学者も勿論必要だが、実際の生きた社会と結付くと、それはもう学問ではないのだと思われることが、日本の文化の一つの欠陥ぢやないかと思う。

三木 それは民間に居る人も悪い。民間に出て来ると、今度は学究的精神を失つてしまつて、ジャーナリズムとか世間の常識とかに迎合し過ぎる。それは両方悪いと思う。

佐藤 西洋の学問の通俗性というものはそもそも近世の初めからのことですね。ただの通俗という

ことぢやありませんね。

三木 俗流化であつてはいけない。学問の社会的、教育的意義というものの自覚なんだ。

仁科 良い通俗書が書ける人はえらい人です。物理でもそうですが、誰が読んでもすつと解るようなのは、非常に根柢を把握した人でなければ出来なと思います。

佐藤 それならよいのです。そうぢやなくして、僕達が何か軽んじられるのぢやないかというようなところがあるのです。

仁科 先程の新聞記者の話ですが、自分はどうしても新聞記者を教育しなければいかんと思ひましたので、やつて来る人達に話して、君達は一つのグループを作れ、そうして時々良い人を呼んで来て話をさせるとか、方々見学に行くとか、そういうことをしろと言つてやりました。これは日食の時に沢山の新聞記者に攻められて考え

付いたことです。それでこれをきっかけにそんなことをやり始めたのですが、事変が起つて壊れてしまいました。兎に角そういう風に難かしいことですよ。それは無理もないことです。話してもとても解りそうもないようなことを訊くのですから……。併し新聞記者の方も、この頃進歩したことは非常なものですよ。吾々が相当専門のことを話してもかなり巧く把握することは感心します。ちよつと聴いて直ぐ書きますからね。ここ六七年前と今の新聞記者とはまるで違ふと思います。それだけ社会全体が科学的に進んだのだらうと思います。然し先程お話の一般のレベルを上げるのに具体的にどうしたらよいかということはちよつと困難な問題ですね。

佐藤 僕は科学者に総て責任があると思つて、いつもそつちばかり見て居るのですが……。

仁科 なかなか難かしいことです……。例えば先程

お話のように自分から通俗書を書こうという衝

動に駆られても、逆もそれを実行する勇氣がありませんね。というのは、毎日々々の仕事が忙しくてそれどころの話ではありません。ですから私は何か書く時には本屋から註文を持つて来られて、無理やりに書けと言われて仕方なしに書く、そういう風にして書くのですから良いものが出来つこはありません。

佐藤 いい科学者の通俗書を見ると決してライツク

【Lais 俗人】のために書いて居るのではなくその人が自分自身のために書いて居るのだという気がしますね。通俗ということを特に頭に入れて書いて居るのではなくて、ちゃんと割引なしの本当のフィジシャンとして書いて居ると思います。

三木 つまり自分の複雑になった頭を単純化し整理するために書くということがあるでしょうね。

1 フランス語の *Unphysicien* 物理学者だろう

通俗書というものは……。

佐藤 つまり僕の言うアイデアですね、それは数字と

か、実験とか、そういうものでいわば歪められた頭を元のナイーブな思索に直す、それが通俗的に書くということになる、数学や実験で汚れた物理的な思索をもう一度洗出して行こう、そういう意味があるだろうと思いますね。いったい西洋の科学の通俗性ということはそもそもガリレイがそうですし、デカルトなんかもみんなライツクのためにだけ書いて居るのです。学問しない人の方が学問した人よりも利口に決って居るからなんていうことを書いて居るんです。自分の書くのは決して文字のある人のために書くのでないということを繰返して言っています。

三木 デカルトの場合は中世のスコラ哲学に対する近代のヒューマニズムの精神の一つの現れです。ところが日本ではなお封建的な意識が残ってい

て、科学者の場合でも、仲間だけで認められ、ばよいというようなギルド的な意識があつて、それだから良い意味に於ける通俗化というような、大衆の良識に愬えるといったものが出てこない。

本格的啓蒙はまだ大いに意義がある

中島　そういう点から行つてもやはり一つの錯覚があると思う、明治から大正、昭和にかけての啓蒙運動に依つて、一応済んだと思つて居るのが間違つて居るので、たつた僅かの年月の間にそういう根本的な啓蒙が済むことはないと思う。学者が出来ればギルド化するという程度に進んだので、やはりこれからも新しい文化の方向として、低俗化するという意味でない啓蒙だね、それが重大だと思う。これには異論がないと思うが、具体的にどう行ふかということになつ

知性文化の方向を語る

て初めて難問にぶつかると思う。例えば電気というものがはじめて実用化されると、あれは電線を張つてそれに赤ん坊の血を塗るのだとかいうことが云われるね、そういうことを考える人はもうない、その程度で安心してはいかんのだ。それに近いことがまだまだ片付いていない、江戸的の馬鹿馬鹿しいものが非常に残つて居ると思うね。自然科学上の啓蒙ということは重要だと思ふけれども、それ以上に社会科学にしても、ちゃんとした人が本気で啓蒙に掛らなければ日本全体が進展しないと思う。狭い専門家の作ったギルドの中で、かなり高いものが出来たとしても、それはそれだけの話で、ギルドと云つても単に知識的なギルドに過ぎないのだから、今までの地盤が崩れて来れば、金を呉れなくなつたり、そんなものは止せといつて止めさせられてしまつたならば、それさえも滅びると思う、

もつと本格的の啓蒙が学者の任務であろうと思う。

三木 反動的の傾向が盛んになればそういう危険も出て来ると思う。まだまだ日本では啓蒙、アウフクレーレンク【Aufklärung】というものが意味を持つて居ると思う。

佐藤 そうです、文化の発達に順序がないからいけないので、まずアウフクレーレンクを経て行つて、その中にはそれに反対という思想が出て、そしてそれからその総合というようなことになる。それをみんな一度にやろうというんですね。

中島 樂觀的に言えば、今一応かたがついて、これから順序立てようという時期だということも考えられる。しかしその樂觀は強く通すことが出来ないと思う。

三木 折角そういう時期にさしかかつて居つたのだ

けれども、最近情勢が変化して偏狭になつてきたのは残念だと思うな。

中島 政治的情勢がどうなるうとも、やはり政治的情勢に応じてちゃんとしたものが起るためには基礎が大事だと思うね。

佐藤 だからいま民族なんていうことを言い出さずに、どうしたつて僕は科学というものを中心にして、啓蒙ということをやつて行くよりほかないと思う。そうして兎に角或る程度まで啓蒙ということをやつて行く、そうなければ必ず反動が生まれようがそれでいいので、そんなやうでなければ嘘だと思う、ちよつとやつてはすぐ反動、またちよつとやつては反動、そんな工合にみな一度に何でもやろうとするから徹底しないと思う。

科学の民族性は自ら出なければ嘘だ

中島 例えば科学の民族性などと言いつ出すのは本当の科学者ぢやない。科学を知らない者がそういうことを言いつ出して、何かの勢力を持つことは残念だね。

佐藤 だけでも科学者にもそんなのが居るぢやありませんか、名前は言えませんが……（笑声）本格的な科学者が一人出ると云うことが日本の科学と云うことだ。

中島 民族性ということを言う場合にでも、主観的であろうと客観的であろうとそれがどこまで誠実だか検討して見ると怪しいと思う。

三木 民族性というものはおのずから出て来るものだと思う、自分から出そうというのぢやない、例えば僕自身がどんなものを書いて僕の個性は出ざるを得ない、それは運命的なものなのだ。併し自分が自分の持つて居る特殊性ばかり強調しようとすれば却つて駄目になつてしまう。ど

こまでも一般的なものを求めながら、それにも拘らず出てくるものが自分の本当の個性なんだ。科学でもその結果を歴史的に見れば皆な個性があるし、民族性があると思う、併し現在研究をやつて居る当人がそういう民族性ばかり考へていては学問は進歩しない、やはりどこまでも普遍的なもの一般的なものを求めるということがあつて初めて学問が進歩する。吾々の行為の問題にしても、自分のやることが普遍的な意味を持つて居るといふ風に努めて行かなければ本當に道德的になることが出来ない。もちろん一切の行為は、客観的に後から見れば自分の個性を逃れることが出来ないけれども、自分の主観的な意図としては普遍的なものを求めて行くといふところがなければならぬ。それがなければ凡ゆるものが進歩しないと思うね。

中島 科学の民族性とか、個人性とかいふものは必

殊的なものとの統一が真の個性なんだ。

研究と啓蒙のジレンマ―伝統がないから起る

中島 今の話でもそれを一般に通用させるにはもつと啓蒙的な表現が要ると思うね。凡ゆる点からちゃんとした人がちゃんとした啓蒙をするということは、絶対的の必要だと思うね。

三木 ところが問題を自分のことにして考えて見ると、日本には悲しいことに哲学の伝統が乏しい。それで啓蒙家の仕事もしなければならず、然し学者として専門的の仕事もしなければならぬというジレンマに陥つて居る。一方では専門的の学問を進歩させるような仕事をしたいという欲望があり、他方では啓蒙的の仕事をしなければならぬ必要を感じる、つまりソクラテスにもならなければならぬと同時にプラトンにもならなければならぬというジレンマに陥つて居る。

ず出る。同じ結果に到達しながらその経過がフランス人とドイツ人と違うということは明かである。それと同様に日本人は日本独得の物がたくさんないでも出来ると思う。そういう根源的な民族性というものがあるので、言葉だけの民族という被りもので出るものぢやないね。

三木 それはいわゞ運命なんだ、どうしても逃れ難いもので、我々は個性を持つて生れて来るのと同じように民族性を負うて生れて来ている。ところがあらゆる運命は単にそれに従うのではなく寧ろそれを超克しようというところに科学とか哲学とかの意味がある、ただ運命に従つて生きるのならば科学も思想も要らない。運命を超克しようとすることによって却つて真に運命を生かすことができる。自分の特殊性を超えようと努力して初めて自分の特殊性が生きて来る。個性とは単なる特殊性でなく、一般的なものと特

中島 そういうジレンマが起る原因はどこにあるのか。

三木 つまり伝統がないところから生ずる。科学でも哲学でもそれを職業とする人でなく素人でこつこつやって居る人がもつと殖えなければいけないと思う。そういう人々が吾々のバックになって、吾々を押し進めて行かなければ本当の仕事は出来ない。

中島 科学の方でもそういうことをお考えになりますか。

仁科 先程の三木さんのお話のジレンマ、それは毎日のように経験して居ります。どうしてその両方に対するバランスを取るかということ……。(笑声) 恰度綱渡りをやって居るようで、どっちかに傾けばすぐ引つ繰返つて落ちてしまうという様な状態です。

中島 人数が少ないということもありますか。

知性文化の方向を語る

仁科 外国に較べればずっと少ないですね。吾々の方の専門の話ですけれども、日本は人の数からいえば、例えばイギリスならばイギリス一国と同じ位の科学者の数はあります。ところが向うはドイツ、イギリス、フランス——少し離れればアメリカも一緒になって始終デスカッションをし、手紙のやり取りをして居りますが、日本は悲しいかな地理的に離れて居りますから孤立の立場に置かれて居る、それにも拘らず向うと互角にやって行こうとするには、非常に人の数も多くなければいけないし、独立して対抗するだけの設備がなければならぬ、悲しいかなそれが十分でないように思いますね。

中島 人間の問題だけではなく、設備の問題にしても、随分重大だ。文化科学でも、本など或る一箇所に集つて利用される範囲が決つて居る。科学の方の公開的な設備はもつと少ないでしょう

ね。設備を利用出来る人が少ない上に、どうも簡単な実験をちよつとしようと思つても出来ないでしようね。

仁科 吾々の方は少なくとも出来ません。

三木 中学校や小学校あたりから教育を始めようと思つてもそういう設備がないでしょう。

中島 日本でも一時中等学校などで特に科学の実験を重んじようという時代があつたが、金がなくては折角の実験室などを今は全部使わなくなつてしまったという事実があるらしいね。私共は幸福なことには実験全盛時代に教育を受けたのでよほど宜いのですが、今はそれほど実験をやらせて居るところがない、科学は教科書の暗記一方です。実験的教育がないというのは、科学的のイデーなどは出つこない。暗記ものでは困る、歴史でも何でも暗記では話にならぬが、そういうことは科学で特にひどいだろうね。

藤岡 それはひどいですね、小学校、中学校、専門学校凡ゆる程度の学校で夫々の意味に於いて暗記が多いですね。

三木 イデーというのは自分でやつて見て困らなければ出て来ない。ところが今の教育は困るような問題にはなるべく打つからないようにして居る。これだけ覚えておればよいというように学問が暗記的になつてゐるから、問題に打つかることはない。日本の教育はもう少し問題に打つからせるようにしなければならぬ。問題に打つかるということは、物理ならば物理現象とか、化学ならば化学現象とか、そういう現実に打つかることだ。哲学でも同じことで、そういうふうに問題に打つかるような教育の仕方をしなければ本當の学問的精神は養われない。ところが暗記でやつて行くということは東洋に於いては古い伝統で、支那の学問がそうだし、日本の学

問もそうだった。その伝統は今日に至るまで強く残っていると思うね。

教育制度の欠陥を改善するのが急務

佐藤 文章でもそうですね、文章を書くというのではない、表現というのぢやない、ただ古い文章の型を暗誦してそれを取合わせてこしらえるのです。

三木 作文だね。

中島 作文どころではない。この頃或る中学生の作文の話を聞いたが、教科書の中に出て来る文章を如何に繋ぎ合せるかという仕事をやらして居る。ほかのことを書いては悪いというのだ。こういうことが事実行われて居ると言っても大人は信用しないだろうと思う。教育理論は別にちゃんとあるのだからね。馬鹿々々しいけれども現実にはそういうことが行われて居る。大人が立

派な仕事をすることは勿論必要だが、あとをふりむいて見ると、これぢやかなわんという事情が余り多過ぎる。恐らく専門の科学者は、まさかこのようなことが小学校なり、中学校で行われて居るとは考えられないでしょうが、そういう注意も怠けずにやって行かないと、日本の科学は或る少数の科学者が出るというだけで全体的に進まないのぢやないかと思う。藤岡さんなど御意見があれば伺いたいのですが、ただ文章を教えることだけから言っても実にそれが多いのですね。

三木 それに就いては教育制度の改革が必要なことは言うまでもないが、その場合専門家の意見が尊重されねばならぬ。ところが今までは専門家でない者の方が発言権が強い、科学も何も知らない人、思想について深く研究したことのないような人が、思想問題、科学問題に付て干渉し

ようにするのは困ったことだと思う。もし思想統制をやるうというのなら、その方面に於いて本当に苦しんで深く研究した人によつて貰いたいと思う。

中島 専門家を尊べという声が正しいとすれば、専門家の方でもつと積極的に物を言うべき時期だろうね。

三木 同時に専門家自身もヒューマニズムの立場に立つて、真の意味に於ける社会的意識、教育的精神を持つ必要があると思う。日本の学問を進歩させるためには、自分の専門的なアルバイトも必要だし、また啓蒙を行うという義務もある。そこに前に言つた我々のジレンマがあるので、学問のことを真面目に考える人はその点で皆な焦つて居るのではないかと思う。

仁科 実際そうですね。一般を教育しなければ吾々の方の科学も進まないのですから、一般を教育し

なければいけない。ところが日本の科学の存在を認められるためには、日本で相当の仕事をしなければならぬ、それが吾々の悩みです。

中島 もう一つは——実際の事情をよく知らないのではつきり言えないが——小学校、中学校、専門学校、大学の連絡がよほど悪いのぢやないかと思ひますね。

藤岡 難かしいですね。今の日本の教育制度ではどんなに良い教育をしようとしても、入学試験地獄がある限り本当に百日の説法屁一つという結果になると思ひますね。例えば中学の四年修了で高等学校に入れるということのために五年は附けたりみたいのもので五年でやる分はどうせ入学試験に出ないというならば、入学試験に熱心な学校は五年の授業は全然無視しますし、そうでなくとも一般的の入学試験に出ないようなことは全く無視されるということになる。どん

なに良い教育をしようと思っても結局上の学校に入る様にしなければ今の日本の制度では、早い言葉で言えば偉い人が出来ないということになる。そうすれば良い教育とは言えないことになります。結局先刻の問題になるが、暗記々々ということが良い答案を書く近道ですから、そればかりが行われるということになります。

中島 今言った作文の話というのも、実は入学試験

の準備教育の産物なのです。そんなものに苦勞して居るよりも入学試験の点が採れるような勉強をした方がよいというので、基礎的なものを無視される。ところがその悪い結果としては、外国語の場合などに出て来る。外国語の意味は取れても、訳すと日本語になって居らぬということが^{てきめん}觀面に出て来る。そういう欠陥がいろいろの方に影響して文化的にも表現力が無いといふことが至る所にある。こういう具体的の問題

知性文化の方向を語る

にまで我々が一々神経を使つて居つてはやり切れんが、自分の身近の者が試験勉強をさせられている場合などにぶつかると、そういう注意を怠けてはいかんという気がする。本当の科学者でちゃんとした人が、今の科学教育はどうなつて居るかということを具体的に検討して見て発表して呉れたならば随分大きい反響があると思う。

佐藤 この話ではすべて専門家の方は良いということ

になつて居りますが……（笑声）科学者養成とか、専門家養成ということ、何か仁科先生御意見がありませんか。専門家を養成するといふことでどういふ欠陥がありますか。

仁科 日本に於いてですね——サア、欠陥は沢山ありましようね。

専門家養成の経済的基礎が足りない

三木 専門家を養成するためには第一に経済的の基礎が足りないのではありませんか。

藤岡 そうですね、僕は総ての方面にそうだというのではありませんが、大体の傾向として人の将来の身分を余り保障してしまうので熱心に仕事をしなくなるのではないかと思う。例えば大学を出ますね、そうするとこれは良く出来るというので、先ず割合に早く良い地位に抜擢しますね、その様に抜擢されたことが成程と思う様な結果を示すことはむづかしいと思います。ところがドイツの物理学界などではそういうように、仕事をしない前から抜擢されるということはないと思いますね。実際大学を出る頃から苦んで仕事をして、そういう人が沢山ある中で、良い仕事をした人が抜擢されてよい地位に就くでしょう。日本ではどうしても若い研究をする人が少ない。例えば助手であるとか、大学院の学

生であるとか、そういうところに沢山研究をして居る人がいなければいけないと思う。それには今の経済的問題が起つて来る。そこで確かな地位につく前の人に対する奨学金制度ということも必要ぢやないかと思います。日本では奨学金は学校を出るまでの育英金という風なものは幾らもありますが、学校を出てからは研究費を補助するということはありますけれども、生活費を補助して研究させるという一般的の機関は割合に少ないのぢやないかと思います。

仁科 最近服部報公会¹とか、日本学術振興会とか、つまり自然科学者養成の機関があるのです。唯俸給をやつて研究さして置く、あゝいう風なものを沢山作らなければならぬと思います。

藤岡 ドイツなどでは戦争の後で非常に困つて居

1 服部時計店(現セイコーHD)の創始者が1930から始めた

る時代にも、いろいろの基礎にたつ研究者に奨学金をくれる制度がありました。もつと非常に良い制度ではアメリカのロックフェラーのインターナショナル・エジュケーション・ボードなどがありますが、ドイツではあの困つて居る当時から非常に金を使つて科学者の研究をさせるということをやつて居りました。

三木 それは考え方、大きくいえば人生観、世界観にも関係があると思います。月給を払つてゐる以上は何かすぐ眼に見える仕事をさせようとする、又月給を貰つてゐる以上は何かすぐ眼に見える仕事をしなければならぬと考える、活動しなくても自分が存在して居ることそのことに大きな意味があるという風に考える自覚が必要だと思ひます。官吏でも月給を貰つて居る以上何か仕事をしなければいかんというので、余計なことをして却て悪くするというような

ころが多いのです。自分が存在して居ること、ことに意味があるので、月給を貰つて居るから何かすぐ眼に見える仕事をしなければならぬというような考え方をなくすることが必要だと思ふのです。金を出した以上は早く結果を得ようとする。また金を貰つて居る以上は早く仕事をしなければならぬと考える。自分が存在して居ることに意味があるのだと考えて、ゆつくり落付いて物事を広く見てやつて行くというのでなしに、何でもがしゃ／＼やろうとするのですね。そこには人生観とか世界観とかの変化が必要でしょう。

中島 皮相的に仕事を強いられるために、心にもない仕事をしなければならなかったり、愚劣な無理をしなければならなかったりする。つまり人に見せるための仕事をしなければならぬ、又その逆にすぐ隠遁してしまふ、日本では隠遁が出

来易く出来て居る、苦勞して危険を冒して物を言わなくても隠遁してしまえばよいという氣持がある。正直にやつて愚図愚図言われるのは馬鹿正直なのである。馬鹿々々しいという危機がある。面倒臭いから黙ろうぢやないかという暗黙の諒解がある。

佐藤 それが偉いように見える。そういうことは絶対にないのだけれども……。

仁科 先程の専門家を養成するということが、少なくとも吾々の方では良い専門家が出る環境といえますか、雰囲気といえますか、そういうものを醸成することが非常に必要です。それは一人の人で作ろうとしても出来ることぢやないのですから、その方をやつて居る人がお互に氣を付けて出来るだけそういう良い環境を作つて行く、それが非常に大切だと思いますね。

佐藤 それは自然科学でも数学でもそうだと思います

ますが、それが学問だというところをもつと強調しなければいけないと思いますね。例えば数学でもいろいろのスペシャライズされた研究ばかりではなく、いったい数学とは何を研究するものかというような大本からやる。それから自然科学もあまり細かにばかりならず、自然というものを研究するのだということを吹き込んで、そうすれば学問もそれに携わる人の人生観というようなものになつて行き、そういう学問をする学者は自然その身のまわりに或る雰囲気を作つてゆくことになる。そういう何か取り止めないようなものが実に大切だと思いますね。何か皆なテクニシャンに仕立てしまわずにやらなければいけないと思います。それには私はこういうことを考えます。今の科学は哲学とまるで離れてしまつております。一時科学者が哲学に注意するということがあつたのですけれども、

それは新カント派と言うもので、あれは私は哲

学の正常な代表者ではなかったと思います。あれでは科学と哲学との正常な関係と言えない。

そういうものでなく、近代の科学はそれよりもつと根柢の広い哲学から岐れて実際に生れて来たのですし、今でも科学が一口にこそ出す必要はないのですけれども、やはりその仕事は人間の思索の根本を掴んだ哲学というものを根柢にしてそこから出て来なければいけないと思いますね。そうしていろいろテクニツクの習得以外にそういう本源から科学ということを教えなければいけないと思いますね。いまの単科大学のようにあの様に学問が分化したために何かそういう大本を掴んだ学問という気分がなくなり、学問に遊ぶというようなところも段々なくなるのではないんでしょうか。それでなくとも私の見るかぎり学者としての風儀の墮落はひどいも

のだ。

中島

本当の学問の喜びというものは専門家でなければ知らんことだろうけれども、これがなければよい学問にはならない。専門家以外の人々も、学問の喜びというのはどういふものかということとを理解して、共に喜ぶということがなければ文化は進歩しないね。

佐藤

学問の進歩の為に学界のギルド制を打破せよ。そういう気分がないからちよつとした業績を挙げることに急いで、我は学者なりという襟度がない。自分は人間として一生の仕事として学問をして居るのだというそういう誇りとか自覚とかいうものが段々なくなつて来る。もすこし旧い頃の学者というのは昔の儒者気質が何か承けて、兎に角そういう氣風を存していたといえますね。むろん今の科学者でも偉い人は……。

三木 楽しんでやってゆかねばならない。学問の進

歩のためには学界のギルド性を打破することが必要だ。例えば大学を卒業する時に助手、次に助教授、次に教授というように、親分子分の関係で約束をしてしまう。他の連中はアルバイトに依って自分の地位を獲得するという見込がないから熱心にやらない、約束された者は親分の氣に入らないことは避ける、学問における革新的なことはなるべくやらないようにする。革新的なことをやれば睨まれるから止めて置いた方がよいということになる。

佐藤 私達専門の外にいるものから見れば、業績の新しい古いということは魅力ぢやない、いくら古くもまた目立たずともやはり地面から生えた一本の木のようなどころのある学問が何かずつと尊いように見えます。促成栽培のような新しい業績が出来ても、それが自分で種子を下して

こやしをやつて地面から生やしたようなものでないとしたならば、それを一人の人間の仕事としてみると詰らないような氣がするのです。学問としてももの足らなく思います。

藤岡 仰ることの意味がはつきり分らないのかも知

れませんが、今の自然科学などは随分分業が盛んですから、根柢から総てを自分一人の体系として作り上げることは事実上不可能ですし……。そういう意味ではないのですか？

佐藤 そうぢやないのです。勿論科学に寄与するという場合には、一寸した業績で寄与しなければならぬ。併しその僅かな仕事で底では何かその人全体に結付いて居る。その人の世界観という大げさですが何故自分は科学をやるかというようなことが根柢にあつて、全体を自分で作るのではないのですけれども、個々の業績にもそれが映っている。そういう人間の偶々した仕事

がこれなのだという、何かそういう気組といひますか科学者の自覚といひますか……。

仁科 それはそうです。つまり吾々の方で——他

でも勿論そうでしょうが——根から生えたものでなければ大きいのです。そうでないと仕事皆な小さいのです。科学者の仕事は結局人格の現れです。科学というものは全然そういう人間味の無いものと考える人もありますが、それは反対で偉い人に会つて見ますと明らかに其仕事に人格が出て居るのが解ります。そういう意味から言つて根から生えたものでなければ本当の大きいものが出ないだらうと思ひます。

佐藤 科学がまだまだと言われるのは日本人の科学の才能は低いということではないと思ひます。反対にまた例えばボーアという人は特に天才ぢやないと言へると思ひます、しかしどうしてボーアという人が偉いことができたかというところ

知性文化の方向を語る

ただのスペシャリストではなくて物理学の根柢に通じていた、ただそれだけだらうと思ひます。あの人は特別の天才というものでなくて、物理という学問はこういうものというものを掴んで居るために、特に勝れた才能でなくてもあいう風にその学科全体に視野を開いたということになつて居るのぢやないかと思ひますね。

仁科 それも二通りありましてね、ああいう風に非常に広い方面に興味を持つ人と、例えばデラック*のように非常に狭い範囲を突進んで行く人もあります、結局その人の性格ぢやないかと思ひますね。

藤岡 先程三木さんの仰つたのでは科学者は啓蒙的の仕事を一種の義務として為さなければならぬという風に伺つたのですけれども、やはりいろいろ型がありますね。そういう事をする人も、しない人も、ボーアさんなどは仁科さんが師事

して居られたのでよく御存知でしょうが私などはちよつとお目に懸つただけですけれども、本当にヒューマニストといえますか、分らない人には幾らでも教えて置かずには已まないというような人間味、暖か味が感ぜられますね。ああいう方は特に珍らしいでしょうが、ボーアさんの学問の上にもボーアさんらしい性質の反映が自ら現れて居ります。自然科学というものは、学問的情勢全体として欠陥のある方を直して行くよう直して行く方向に進んで行くものですが、併しボーアさんの様な方は学問の進歩を非常に助けると思えますね。通俗書の問題になりますが、これを書くにも全然書かない人もあります。通俗書を書くということと少し違うかもしれませんが、弟子を作ることがありますがこれもいろいろです。今お話のデラックという人は殆ど弟子らしい人を作りません。沢山弟子を作

る人とどちらが良い悪いというのではなく、性格がかなり反映して居るではないかと思えます。他の方面でもそうでしょうが学者の型は斯くあるべしとは言えないのでしょうか……。

天才の出づる条件―先ず余裕が必要

仁科

ボーアの話ですが先生は天才というものはな
いというのです。所謂天才というのも後天的の
ものである。その証拠にはある事に非常に秀で
た所謂天才も自らを天才と考える人はなく、顧
みて自分が非常に努力して居るということを自
覚するであろう。どんな秀でた人も、別段勉強
もしないで偉くなつたとは考えないであろうと
いうのです。

三木

世間から見れば楽に仕事をして居るように見
えても、見えないところでやはり努力して居る
のですね。

仁科 天才というのはつまり努力する自信を小さい

時から得て来るということです。勿論素質も違いまして誰でもそんなことが出来る訳ではありませんけれども、もともと世の中にそんなに違った天才という種類の者があるのぢやないというのです。これは結局遺伝の問題ですね。人間のこういう素質が遺伝するか、どういう性質が後天的の教育で育て上げられるかということを決まるもので、非常に困難な問題でしょう。然し少なくとも今まで皆が考えて居る程先天的の所謂天分というものが、そんな大きな役目をするものではないということです。

佐藤 ニュートンの伝記などは典型的な科学者の話として非常に面白いと思います。もとは非常に熱心にアルシミー【Alchimie: Alchemy 錬金術】をやっていたんだそうですが、実験を重ねるばかりで何も成績が上らない。ところがその中光

学をやり出し、これは実験をあまり頼らない謂わばよほど勝手なものだったのだそうです。つまり自由なイマジネーションをゆるしたわけでしょう。ところが却ってどしどし捗って兎に角はじめてまとまった仕事になったということです。それから一年ばかりケンブリッジから離れて仕事を休んだということがありますね。二十何歳かですが、ペストが流行って田舎に帰って一年ほどぼんやりしているときに万有引力や光学や微分法や後年の業績の基礎がみなその間に出来たということが書いてある。これは暗示に富んでいる話だと思う。

中島 それとは違うが、パスツール*の話も面白い。あの人は元来物理学の人で偏光の研究をやって、絶えず酒石酸の小さな結晶などを扱って、顕微鏡を使つて小さいものの研究をして居った。ところがそういう種類の科学では食えない。どう

も生活が出来ない。バクテリア等をやると経済的な援助を受け易いので已むを得ずやった。ところが偏光の研究の時に苦勞した細かいものに対する取扱いとか、技術とか、感覚とかが非常に役に立つて、あゝいう大きな発見が出来たのだという話を聞いたことがある。

三木 簡単に言えば文化に余裕が出来て、ぼんやりしていてもやって行けるような閑がなければ駄目です。大きな発見というものは、余裕があつて自分のイマジネーションを自由に働かし得るでなければ出来ないのです。

中島 思いつきを思いつきの俣で生のまま出さな
いで、それを根拠づけて新しいちゃんとしたものに組み上げる文の条件が少ないと思う。思いつきはある。しかし、それが一つのオリジナリティーとなつて育ち上るためには、思いつきを立派に物にするだけの基礎条件がなければ駄目

だ。

三木 思いつきの糸を手繰つて段々体系化して行く、それに理論的根拠を与えるということがないのだね。

中島 それは文化の輸入にいそがしかった悲しさです。現在ではいろいろの個性を生かして、それが一つに綜合されて立派な文化になるという条件が一番大事ぢやないかと思う。愚劣なものが勢力を得る条件を先ず排除して、専門家も素人もあらゆる生活面の人が文化の確立に努めることが一番根本的問題だと思ひますね。

記者 いろいろ有難うございました。

人物簡単解説

フアラデー Michael Faraday 1791 ~ 1867、イギリスの化学・物理学者、電磁気学の研究。
ヘルムホルツ Hermann Ludwig Ferdinand von

Helmholtz' 1821 ~ 1894' ドイツの生理・物

理学者、電磁波の研究。

パスツール Louis Pasteur' 1822 ~ 1895' フラン

スの生化学者・細菌学者

マッハ Ernst Waldfried Joseph Wenzel Mach' 1838 ~ 1916' オーストリアの哲学・物理学者、

ボルツマン Ludwig Eduard Boltzmann' 1844 ~ 1906' オーストリアの哲学・物理学者、熱力学

を統計力学から説明。

ポアンカレ Jules-Henri Poincaré' 1854 ~ 1912' フランスの数学・物理学者、数学ではトポロジー

概念の確立。

プランク Max Karl Ernst Ludwig Planck' 1858 ~ 1947' ドイツの物理学者、量子論の父とも言

われる。

ボーア Niels Bohr' 1885 ~ 1962' デンマークの物理学者、核分裂予想、コペンハーゲン学派の

中核。

ボルン Max Born' 1882 ~ 1970' ドイツの物理

学者（ナチス時代はイギリスに逃れる）、波動関数の確率解釈。

ブローイ Louis Victor de Broglie' 1892 ~ 1987' フランスの物理学者、電子の波動性の発見。

ハイゼンベルグ Werner Karl Heisenberg' 1901 ~ 1976' ドイツの物理学者、不確定性原理。

ディラック Paul Adrien Maurice Dirac' 1902 ~ 1984' イギリスの物理・数学者、反粒子予想。

底本：『知性』1939.5第2巻5号

【参考】矢崎弾「三木氏との雑談」

内容…学生とインテリ、ナチスの哲学者、民間アカデミー、スタイルについて、文学者とポーズ、日本インテリと伝統

矢崎弾：1906～1946、本名は神蔵（かみくら）芳太郎、新潟県佐渡出身、慶応大学英文科卒、「三田文学」同人、文芸評論家



僕はいわゆる三木哲学の心酔者ではなかった。もちろん、氏の著書の熱心な研究家でもなかった。ジャーナリズムに現れる氏の諸評説には従来たいていのばあい感覚的なある空虚感と、安易な合理的解釈への反撥と、解釈学的な批判家の陥る生命力の稀薄とにかるく嫌悪の情を抱いていた。僕はまた氏の評説に対して感性的印象的な批判に甘んじてそれ以上の興味を覚えぬほ

ど関心は深くなかったのであるが、最近三木氏の所説における合理的ダイアレクテックな解釈が基本的な常識の解説でありながら、今日の功利的現実主義の矯正として、思考の基礎的な訓練の方向から重要視されねばならぬのを痛感するにいたった。

氏の所説の時代的意義は、功利的な現実主義の氾濫から日本文化を救済するというだけにとどまらず時勢の混乱に捲きこまれてフアナテック【fanatic 熱狂】に流されようとする知性の母胎擁護という役割をはたしつつあるところに存在理由をもっているように見える。六月末の雨の日、僕は氏を訪れ、一時間半にわたって雑談を交わした。

次の記録はその日の対談の要旨にすぎない（責任はすべて僕にある）

学生とインテリ

矢崎 「あなたが今日の学生に脅威を感じないとある座談会¹で述べた事が、大分問題になっているし、また事実僕等の接触する学生はなにかあの言葉に反撥しているという風に感じますが……勿論その反撥が一種の精神的自決だと認められるのですが……そんな事について具体的に説明して下さい」

三木 「まあ、いわば、これまで新しい思想の興隆は大抵青年によつて捲き起されたが、今どこに青年が身を打込んでいるという思想の胎動とか方向とか感じられるであろうか。ヒューマニズムとか日本主義とか云っているが、新しい胎動として身を託しそれを思想的に基礎づけることを怠っているのではないか。一種のオポチュニズム opportunism の横行が感じられるだけで

1 「平賀肅学を学生はどう観るか」の後半の事か

……」

矢崎 「そういう意味になると、さっきの学生の反撥というものは全く頼り薄いものになるつまり脅威云々に反撥する学生は、旧来の世界観にとぐろをまき、全体が良心や誠実を棄てて省みないとき俺だけが良心を保存しているという気休めに生きてるだけで、その良心は積極的な行動性をもちえず観念的な停滞に陥っていると思う。……僕は多くの論者が学生やインテリを概念的に挑めたり、総括的に説得したりするところに矛盾があるように考えています。今日の学生インテリは幾様にも分裂していると僕は考えます。そして大体三つの類系を僕は区分しているのですが。一つは、旧来の世界観に固執して観念的反撥や良心の自決で生き甲斐を感じている憂鬱な群、二はふところ手で傍観者をきめこむ隠遁派や反動的なデカダンスの群。三は在来²の思想

の影響をうけず、伝統をもたずに、真に現代に適應した陽気なエピキュリアン【epicurean 快楽主義者】。まあ大体この三つに区分して挑めています。勿論そのパーセンテージとなると問題ですが。そして為政者や批評家もこの三つの類型を分析せずに青年を説いて失敗しているように見えるのです」

三木 「それらすべてが一種のデカダンスとかニヒリズムの傾向と見なされるんじゃないかね。」

矢崎 「ニヒルやデカダンスの解釈によるが、僕は全体をニヒルという事には反対ですが、所謂厭世的な群れは別として、現代に適應した陽気な連中は明日への確かな理想追求がないというオポチュニズムで、なんらかの良心的反撥を嘯みしめている連中は行動的インポである点で広義なデカダンスというような事は云えても、僕は一応これを細分して眺めなければならぬように思

うのです。」

——（三木氏は総括的にニヒルの傾向を見ているが、僕はこの概念化を肯定できかねた、これは青年の疾病に対する救済とか治療とかに僕があまりに性急で自意識過剰に陥っているためか氏が哲學的理想家であるための食違いだろうか。）——

三木 「これからが、たいへんです。もうそろそろ全体が、時勢に対する焦燥感というものを持ちはじめているように思われる……。」

矢崎 「そうです、ことに日本人の性急は結論への要求というものが、こんな時とくに警戒されねばならぬように思われるのです。」

——絶えず煙草を喰わえて横向に話していた氏も向きなおつてこの焦燥という言葉に対して悲觀的に顔を曇らせたように見えた。けつして机上のユートピアンでない表情が瞬間チラと覗いたように思う。多分、この焦燥を未然に喰いとめね

ばならぬ氏の焦慮と、その全体的焦燥の必然性の脅迫にうなだれそうな心境との格闘というようなものを僕は感じねばならなかった。

ナチスの哲学者

矢崎 「ナチスの哲学者のことについて何か話して貰えませんか」

三木 「何も話す事がないんじゃないですが。大抵偉い奴はアメリカやその他へ亡命して残っているのはハイデッガー位なものです、みんなナチスの政治の方向に順応したというだけで、とくべつ……」

矢崎 「然し、あれだけ哲学的伝統の地盤のある国なんだから日本などとはがいアカデミックな純粹哲学の研究が、大学の研究室の奥深く行われていると想像されるんですが。」

三木 「いや、アカデミックな純粹哲学の研究も停滞

しているようです。政治的空語に浮かされて何も手につかぬ情勢で……どこでも結局そういう風になるんでしょう現にそうじゃないですか」

民間アカデミー

矢崎 「こんど設置された『国民学術協会』とあなたの主張する民間アカデミー論とを結びつけて何かいろいろ批判するもの、失望するもの等あつて、あの会に真実の民間アカデミーの確立があるやぶまれるというひとがいるのですか。」

——『国民学術協会』の趣意書には民間アカデミーをめざすと書かれてあり三木氏は、この協会の理事と常務理事を兼務している。——

三木 「あれと僕の主張とは何も関係はないんですよ。なにも僕があのかの会のイニシアティブをとつてい

1 豊島与志雄は三木が「国民学術協会の実質的幹部であり」と書いている。

るといわけではないんですから……」

矢崎「世間のとかくの批評はあなたの民間アカデミー論を勝手に協会とを結びつけた誤謬ですね。」――

――（もうこれ以上、僕もこの問題にふれる興味を失った、大抵どんなものか、すでに想像していたからである）

『スタイル』について

矢崎「あなたの評説にスタイルがないなどと批評するものがありますが、そういう観察の起る根拠について何かお考えになることはありませんか」

三木「大体今日スタイルをもつようなものが書けると思いますか。自分の考えが、全的に流暢に表現されることが可能でないとき、つまらぬ対立や反撥を避けよう避けようと腐心するようなとき、スタイルが生れるということは考えられな

いではないか」

矢崎「そうです、そのいみからそう云えます。然し、僕は、あなたのものにスタイルの喪失を発見する人々は時代の認識が足りぬばかりでない、時勢に無感動になったり、あまりに今日的な文章表現の仮装や身振に厭気がさしているのだと思うのです。その反動として、かれらは生のまゝ人間の肌とか体臭とかを撞れている結果ぢやないですか。」

三木「そのいみからなら僕だつてスタイルはある筈なんだが……然し、哲学者にスタイルというようなものをもつたものがありますかね、まあ、文学的なニーチェなんかそうだけれど、……」

矢崎「それからショーペンハウアーなどスタイル（体的臭的な）の濃く浮出している方でしょうね。尤もカントもスタイルがあるというような事になれば、世界中の人間みんなスタイルをもつてい

るわけになりますが、……」

文学者とポーズ

三木 「日本では文学とポーズがつきものなんで、たとえば、学生なんかにもてるのは阿部知二と島木健作、古くは夏目漱石、近くは山本有三の人氣とかはみんなポーズに關聯しているんじゃないですか。」

——（僕には、これら四人の作家を類型化して眺める三木氏の概念化には少々辟易したんだが、そしてそのことで二三問答えをくり返したが略す。）——

矢崎 「まあ大体そんな事はいえましょう。こんな事をいう学生もありますからね。島木や阿部は単純な事をくどくど廻り道して説明するんで、なにかそこに含んでいそうに思えると。漱石の流行にはいろいろ根拠があつて、大学の先生が小

説をかいたとか、和漢洋、主として英文学の日本化ですが、ちょうどあの程度が日本のインテリ教養にびつたりした解釈だからうけいれられたんでしょう。島木の『生活の探究』などはむしろ作者の顔が覗いていないので所謂ポーズが稀薄ですよ。いわば、井戸端會議の寄せ集めですからね、唯あれをよんで何か良心のヴァニティ【vanity 虚榮】とか気休めとかを充たし、時代觀察の足しにしている人でしょいうね。」

三木 「そこが日本的ですよ。つまり日本のインテリや学生は一体に甘いんですよ。あんなものゝなかで足踏みして生活意識を停滯させているんだから、」

——（日本文学のポーズ説は氏の年来の持論だった。）

日本のインテリと伝統

三木「日本にインテリっていうものがあるかね」

——（恐れいった言葉を氏はこともなげに投げた。）——

矢崎「そうですね。ある時、日本で誰が一番自分をインテリだと確信しているだろうかという事が話題にのぼった時、あるひとが『そうだね、まあ一番はつきりそう見えるのは大学の先生だろうな、彼らは確かにインテリの第一線に立っていると自認してる表情だよ』といいましたが。」

三木「日本のインテリはほんとにインテリ気分を享樂したことがなく、たんに技術の切売に甘んじて来たが……」

矢崎「そうですね、明治維新の大業がもう一世紀早かつたらよかったですかね、あいにく……」

三木「日本インテリの論理的基礎の訓練のないことには呆れるばかりです。大抵の理論がすぐ枝葉に走ってはA B Cに帰り、またすぐ枝葉の問題

に花が咲く。大抵この間を循環して、ついにA B Cからの本質的な発展がない。」

矢崎「同感です、文学論なんかいつもその調子です。どんなものでも一時流行する可能性があつても、決して主流となりえぬという悲劇です。この点、中国のインテリも東洋的に同質な筈なんです、西洋的思考の素直な受容が感ぜられるんですがね。文学なんかも、近代の伝統浅い癖に日本のそれよりオーソドックスなりアリズムの移植が感じられるのです。」

三木「そうかも知れない。支那は日本より生活や思考でも西洋に近いという事はいえましょうね」

矢崎「これは余談ですが、この頃の学生に羽仁五郎氏の『ミケランジェロ』なんか割合よまれているようですね、学生はあんなものに何か時代的類似性というようなものを感じているんでしょうね」

三木「それが甘いというんですよ。類似性やなにかによつて現代人を鼓舞するというようなことはもうすでに古い手ですよ。あんなことは一時代前の方法ですよ……」

——（氏はこの時まで傍観者流に、そつぽを向きがちな対談家であつたがこのときかすかに熱を帯びたまなざしで僕をみつめた。一部からユートピアンと罵られる氏がたんなる非現実的ファンタジーの捕虜になりきつていないことが感じられたのはそのときである。）——

矢崎「いわば明治維新を描いて日本人を振いたゝす、あれと同じに、……」

三木「あゝいう事も、時代遅れで、よしんば同時代性が感じられても振いたつ方法とか現実性とかがなければ無駄です。」

矢崎「僕はこう考えています。日本のインテリにおける傍観性や無感動性は民族的伝統の悪質な部

分に根があつて始末が悪いそしてその特質や振いたゝす方法について為政者は鈍感で方法喪失に見えるんです。これでは困るという風に考えます。これがナチスなどの独裁国家になれば、たとえ理智的な傍観者や反撥者であるとしても、ヒットラーの個人的な魅惑というようなものに引きづられる部分も多いと思うのですが、日本の政治形態ではそういうものを見出すことが困難なのではないでしょうか。この点傍観者の再組織ということは日本独特の困難に逢着していると考えられるのですが、この点でもつと論究されねばなりません。……」

▽……△

他は以上の外、日本のインテリについて、日本や世界の将来や民族的伝統の問題について私とのあいだに数々の問答をくりひろげたが要旨

は大体以上に盡きている。言葉と表情のニュアンスに現れた氏の心理表現を憶測すると、日本文化救済への欲望と、その救済への無力感との交わりとまないものを感じねばならなかった。こゝに学者的良心や文化的メシア主義やその他数々の時代的直観の認識と良心的意慾との闘いがあるようである。

だが、氏が果してどこまで氏の良心を時代に沿うて、時代の悪気流に抗して闘わずであろうか、または時代的性格の前にひれ伏し、信念を時代に売り渡すか、これは今日の日本文化にとつてけつして小さな課題ではないように見える。ただ、氏の今日の所説をたんにユートピアンの戯れとのみ一笑に附するものは氏の時代的意義を究明しない功利的な現実家の日和見にすぎないだろう。僕はどうしたはずみか、最初に課題としてふところねじこんでいた氏に対する重

大な問いを忘れた。『あなたのお書きになるものの今日的意義は何か』これは最大の課題でありながら、僕がついに氏との対面で忘却したというのは、氏との対談中に略々予測したためだろうか、問いつめる以上のものを氏の胸中から掘りだからだろうか。僕は次の訪問の機会にこのことを最先に訊ねたいと考えている。

そして、こゝで僕が氏の言葉のニュアンスから感じた氏の所信を語らせてもらえば、三木氏は今日の混乱する無思想とデカダンスを救済するにもつとも妥当なものとも基礎的な作業に筆を走らせているのだ、ということを躊躇しないのである。知性の基礎的な訓練と地盤と欠け、その秩序の混乱をいやがうえにもたかめるものの往来繁き時代にもつとも必要なABCの解説のなかに暮すことは、今日の日本文化にとつて重大な意義を含んでいる。この救済事業は氏の

ような知性の重大な任務でありこの任務を果すことは氏の時代的責務であり榮譽であるはずだが、氏個人の学的発展ということにとつて悲喜劇の判定は困難である。

『A、B、Cから枝葉への、枝葉末節からまたA、B、Cへの循環を繰返すところにおいて、現実偏重主義やオポチュニズムの跳梁する時代においてはとくに…』

【尻切れトンボのように見えますが、続く文章は見当らず。】

底本：『日本学芸新聞』（第六十八号）1939.7.5

討論 国民動員と輿論

軍部側

松村秀逸中佐：1900～1962、熊本県出身、関東軍参謀からこの時には陸軍省軍務局新聞班か、後「大本営陸軍部報道部長」として戦時下の言論統制に携わる。広島で被爆、戦後参議院議員

長谷川宇一少佐：宮城県出身、陸士33期、関東軍報道部、後に報道部長

民間側

三木 清

杉山平助

小松東三郎：1902～1985、長野県生れ、中央大学卒、南西方面艦隊民政府総務局情報課長としてマカッサルに赴任。1944年、ボルネオ民政部タラカン州知事に就任。この座談会当時は国民精神総動員運動本部の幹事

杉森孝次郎

津久井龍夫【龍雄】

記者

それでは一寸御挨拶致します。本日はどうもお忙しいところをわざわざお出で下さいまして有難うございました。事変も二週年を迎えましたが、時局は益々重大、愈々国民全体の緊張と総力の発揮を要求している状態であります。今夜軍の方々及び評論家の方々にお出でを戴きましたのも、そういう意味で、如何にしたら国民の総力を十分に今後動員出来るかということ为主题として、当面の問題を批判し、論議していただくと思います。杉山さんから一つ。

杉山 テーマというものは別に無いのでしょうか。情報部の方と意思の疎通を図る。というようなことでしよう。

記者 ええ。

杉山 この間、朝日の学芸展望【注.. 参考記事後記】

三木 正確なことは私も知らないんです。

杉山 学芸展望……。

杉山　そういうことは情報部としてはあり得ること
ですか。

長谷川 情報部としてはそういうことはない。たゞ個人として、そういう考があつたのを誰かが聞いて書いたのでしょうか。

1 そういう匿名記事を多数書いているが、これは自分ではないと言ったのだろう。

三木 混同される虞がある。誰か一人軍部の方が言

長谷川　　そういう点があると思いますね。最近こう

いうことを聞いた。情報部というのは、軍で東亜協同体論は絶対に反対だと。そういうことが言われているというんです。それだから東亜協同体について論ずるには何か言っているのかということを陸軍へ問合せに來たことがあります。が、どういう所からそういうことが出たか知りませんけれども、よく、そういうことに出つくわす。

杉山 困りますね。東亜協同体論が盛んな時分に僕はその批判をかいたら、南支那の方の人がかんに怒って、あの野郎、怪しからん野郎だ、と言った。ところが北支那の方ではこれに対し

て又反対があつた。要するにそんな風なものだ。あの東亜協同体論の動いて来た様子を見ると、随分微妙な、政府の鼻息を窺つてびくびくやつたような傾きはありませんでしたか。

三木 そうでしょうか……。

津久井 東亜協同体というようなのは誰が言い出したんですか。最初は……。

杉山 あれにも随分本家争いがあるんです。俺が言い出したんだ、と言っているのがあつちにこつちにあるらしい。

記者 雑誌に発表されたのでは、蟬山政道氏が書かれたのが最初らしい。

杉山 要するに、あれは近衛さんが年末に何とか言つたんで非常に盛んになった。それで蟬山という人が近衛さんの一寸知り合いだから、というので皆が勝手にそれを臆測するんです。また昭和塾が近衛さんと関係があるという、そんな

大したことはないんだが、それを世間では近衛内閣の何かの如く考える。それで、その後をくつついて行く意気地なしなインテリのあることも事実ですね。

三木 あれは困りますね。われわれも関係しているんですけど、近衛さんと何か特別の関係があるかの如く言われる。そのために来る人もあるし、またそのために要らない攻撃を受けることもある。

津久井 だいたい、そういうことがあることによつて協同体論でも何でもがああいう影響を持つようになる。若し、あれが政府なり近衛さんの意向が反映しているんで無ければ、あれだけのものにはならない。

杉山 しかし平沼さんになると、協同体論を弾圧するというデマが飛んだので、随分動揺しましたね。

三木 昨日も或る人に聞いたことだが、やはり、東

亜協同体論者の某々どもをやつつけなければならぬ、と軍部で言っている、というんです。

杉山 けれども火のない所に煙は立たぬのだから、

そういう劃策はあるんですよ。それは軍ぢやありませんよ。ジャーナリズムに色気のあるインテリだ、それについて、滑稽な話がうんとある。

三木 それが何か一寸した繋りを軍に持っている、非常に誇大に言つて、利用するということころが多いんじゃないかと思う。こういうことはインテリの社会的に根柢のない無確信の一番いい表現で、困ったことだと思ふんです。権力者と関係があるということを誇大に吹聴して物を言うという風潮がありはしないかと思う。

杉山 それは僕にもあるし、あなた（三木氏）にもあると思う。それは人間すべてが幾分かづつ持っていることで、あまり露骨に出す奴と出さない

奴のちがいだけだ。こういう時は少し位政府の力でも借りて突き抜いた方がいいという意味で反省的にやるのならいいが、あまり無反省にやる人が多い。

津久井 兎に角一応真面目だと思われるような人柄なり態度なりの人で、東亜協同体論はいけない、という意見がありますよ。僕等の仲間には随分ある。

記者 そのいけないという意見の根柢は、どういう点ですか。

津久井 それは一種の平等な立場で、日本と支那とがやるということはいけない、ということぢやありませんか。

杉山 私もそう言っているんです。平等の立場に立つということはいけない。併しこつちがイニシアティブを取るということは、合理的には説明し得ないことです。私は、そう言っているんです。

三木 イニシアティヴを取るということは、皆言っているでしょう。

杉山 言っているけれども、合理的にはなかなか説明出来ないですよ。

三木 この事変というものは、日本が主動的な地位にあるので、軍事的に考えても現在は日本がこの事変を思う通りに処理し得る立場にある。どういう方針で処理して行くかということは日本のイニシアティヴにかゝっているんじゃないませんか。

杉山 将来、協同体の指導権を持つものが日本であるから……。

三木 そりゃア、先のことをいえば、すべて実力が決定することであつて、日本が弱くなれば支那にリードされるかも知れないが、日本が優勢をつづけて行く限りに於いては日本がリードして行くわけです。

杉山 それを理論的にも支那人に説得させ、支那人自身も、成程そうでございます、という風に説明しなければならぬでしょう。その根本が行き悩んでいるから、難しいところだろうと思うんです。協同体諸君の説明で、僕等が腑に落ちないのは、そこなんです。合理的立場から言つてね。だから私共は別の原則から出発すべきじゃないかという意見を持つけれども、しかし是は今の問題には触れないから……。要するに軍としては、そういうことについて処士横議で以つて、われわれが勝手に議論した方がいいと御覧になるんでしょう。

松村 いいでしょう。だが、現実の問題と理想の問題とはちがうんじゃないかね。それをごっちゃにしてしまうと……。

長谷川 この前、中支派遣軍の名にくつついて思想対策研究会とかのパンフレットで協同体論を述

べてあつた。それであれが軍の協同体論であるという風に思っている人があるかも知れないが……。

杉山 あれをあなた（三木氏）も引用してしまいましたね。加田君【加田哲二】もかいていた。それで、あれにお守りのようにしがみついてゐるんだらう。と言つて笑つたんだが……。

三木 私は、あれより先に言つた筈ですが……。

杉山 言つていても、あれによつて安全感を持ちたい、という気持は……。

松村 お守りにして貰うなら、もう少し……。

杉山 しかし、あれはどういう意味に理解すべきですか。

松村 そう權威のあるものぢやないんでしよう。

津久井 単なる理解としてよりも、北支を中心にして行くとか中南支を軽く見るとかいう考えがありますから、そういうものとの結びつきが大事

ぢやないんですか。それを考えないで東亜協同体論なんて言つても意味がない。

杉山 實際北支では稀薄ですね。確かに中南支ではあれを利用することが相当必要だと思ふ。そうすると非常に政策的になつて、学者の理論としては徹底しないことになる。

小松 とにかく、われわれのように国民運動をやつてゐる者は、理論がどんどん出て、しかもそれに対して反対論が起つて、そういうことが盛んになつて、いいものが出来て呉れなくちゃ困るわけです。その理論を主張なさる方はどんな反対論があつたら、その反対論を駁撃して、益々理論の確實性を確立して貰いたいと思ふんですね。

三木 私なども、そう思うんですが、議論を始めると、途中で嚇して黙らせようとする者が出て来る。悪い癖ですが、何か、へんなデマを飛ばして、

そういう議論を封じ込めようとするところがあり

ますね。

津久井 仕様がありませんよ。

杉山 殊に、今の世の中は、平和の時の理論闘争とはちがつて、蔭から出て来て陰謀で足をすくわれても仕方がない。厭なことだがそれが現実だ。覚悟しなければならぬ。積極的にやるんだね。

小松 私共の実際運動は非常に批判が多いんですが、批判されている間に於いて、批判される方もする方も、やはり向上して行くんです。実際運動は、やはりそうなりながら進んで行く。

杉山 それは、そうですね。

小松 私は絶対などというものは求められないと思う。やっているうちに、自然に良くなって行く。

三木 それは、そうですね。現実の動いて行くうちに理論もやはり内容を多少共変えて来なければなら

らない。

記者 松村さん、どうですか。

松村 杉山君の言ったように、ともすれば政策的に見たがるけれども、学者は学者の理論として或る程度までやっているのはいいでしょう。実際問題として国策上害があれば止めなければならぬが、そういう蔭で何を言ったって、そういうことは研究して貰わなければいけないでしょう。

津久井 真面目な議論は出来るだけ放っておいていいですね。何か、為めにする議論は別だが、今どき、そんな危険なことをする者はいませんね。そりゃア算盤を弾いてみても損ですからね。

三木 それはそうですね。自由主義にも非ず、共産主義にも非ず、それを超えた理論を作ろうというんですから、一朝一夕に出来る筈はありません。

小松 やはり必要の前に、理論でも実際でも進められて来るんですから、私共などは實際運動に当って東亜協同体論というものは非常にいい教えになった。

杉山 それは確かに、あれだけのものは出来ない。

小松 昭和研究会で作った「新日本の思想原理」というんですか——あれなどは僕などのように實際運動をやっている者に取っては、その説全体が引用されなくとも、その説のいい所はわれわれが實際にどんどん活用しているんですから、私は今までの協同体論というものは一つの効果を持つている、という風に思いますね。

杉山 だから、あれを批評する場合はどんどん批評して直していいんです。それを僕等は希望したんですが、やはり、あの時は非常にくすぶってしまつて、それに対する批判も本当に事実在即1 これらの一連の文書を『関連資料第5輯』に収録した。

した批判というものがなかった。唯、實際問題に当って、一番協同体論で問題になる点は、例のイニシアティヴを取る点がはつきりしていないので、大衆に説く場合に工合が悪いんじゃないかと思いますが、三木さんはああいう点はどういうように考えたらいんですか。

三木 イニシアティヴをとるものがなければならぬということとは、理論的にもちろん言えることですが、誰がイニシアティヴを取るかということになれば、それは理論的に決められることではなくて、現実に日本がイニシアティヴを取っているわけだから、日本がどういう理論を以って、この事変を解決するか、ということが、東亜の新秩序にとって一つの決定的な意味を持つていることであり、そこで日本がどういう理論を以てやるかといえれば東亜協同体論で行く、ということですね。

杉山 それが正しい、ということを証明しなければいけない。あなたの今のままでは、力の強いものが勝た、ということになってしまっている。

三木 それは力のあるものでなければ、或る一定の道徳的な理論を持ったところで、実行出来ないわけでしょう。殊に、現在の状態では……。

杉山 だけど、力の強いやつだつて悪い道徳でも実現出来ますからね。

三木 だから、そういうことを防ぐために東亜協同体論を言うのです。

松村 それならいいんじゃないか。

杉山 それならいいが……。

津久井 三木さん、有田外務大臣【平沼内閣有田八郎】はイニシアティヴどころではない、支那を指導するなどということは大それた話だ、と議会で言っている。

小松 要するに全部が既成の事実の上に立つて、こ

れを何とか出来るだけ良くしようということだからね。まア過去は問わずに……。

杉山 僕などは、その立場で現実的に行くんだが、もう少し世界史的に見ると、どういう意味か、ということとは非常に難しいと思う、その方面までもっと広く理論を展開させないと、広汎なインテリは、なかなか獲得しにくいと思いますね。僕等はまるで別な立場から見ているから、そういうものの考え方は受け容れられるけれど、もうやり出したらそれで押して、出来るだけ早く秩序を回復するということを心から切望している。ところが、今まではそうでない別の理論がうんとある。これはあなた（三木氏）などが能く知っている筈だ。だから、この方面を如何に説得するかということが問題で、それにはもう少し理論上の展開がなければならぬのではないかと思うんです。是は大いにやって戴きたい問題の一

つだな。それから国民の精神を緊張さすという点に於いて、事実をどこまで発表していいか、ということです。これは今一番デリケートな問題で、常識的な問題ですけれども、これは情報部の方と雑誌の編輯者とが一番接触しているんですね。これは、いかんとか、いいとかいう指令は編輯者が受けているようですが、われわれは非常にその所が難しい。大体常識的な問題だと思ふんですけれど、たとえばわれわれ文学の方から見ますと、戦争そのものには、醜悪な面と美しい面と両方ある。それを文学に書くと、両方書かなければ、本当の文学として高いところまで行かない、醜悪なものも美しいものも書いて、尚且つこの戦争を肯定して新しい希望を持たせる。その時にこそ文学は強い力になる。併し現在の立場に於いては、醜悪なものは書けない。勝つて了わなければならぬ。そうする

と文学はリアリティの全体を掴んでいないから、半端なものになる。極ぐ頭の弱い人間は征服することが出来るが、頭のシッカリした人間は、そういう文学ではマスターする能力はない。だから醜悪な面を描いてもいいから、そうしてそれをもつと高いところまで導くだけの熱誠さに燃えているものならば、根本のスピリットが良ければ、これを肯定してもいいんじゃないか。これは今一番熱望している一つの希望です。唯しかしこれは悪く利用され易いんです。その一面だけ取つて翻訳されてデマ宣伝に使われては眼も当てられないから、どうも希望としては言つても、現実的には難しいな、という感じは持っています。

記者 対外関係を非常に当局者としては顧慮しているらしい。

松村 純粹の文芸上の立場からいえば、實際の取

本としては、今のように行くよりは仕方がないんじゃないかと思う。

三木

事実をどこまで知らせるかというような問題にしても、積極的なものがあれば、いくら事実を知らせても驚かないと思うが、そういう積極的なものが足りないんじゃないかと思う。事実というものはどうにでも解釈出来る。その正しい解釈の仕方を積極的に示すことができれば、いくら事実を知らせても宜い。事実を知らせれば大へんなことになる、というのは、そういう積極的なものがないからではないでしょうか。

松村

軍事問題では、軍機上、報道に制限を受けることは当然だが、あなた（三木氏）の言われるのは政治問題が多いと思うが、これは或る点まで知らせても構わんと思う。外交上の問題であってもですね。私等の観念としては多少の不利不便を忍んでも国民精神の昂揚を主題にして考え

締技術が非常に難しくなる。それだけ大がかりに複雑な方法で取締るとなると、相当の面倒が要るんです。見た感じでやるということでも難しい、勢い、法律的なものになって来るが、そうすると非常に難しさがある。また主観の持ちようでも違って来る。ドイツの新聞記者が来て、帰る時に話していたが、日本の新聞雑誌は実に良く外面的にはナチと変らないくらい統制されている。併し裏を見ると、全然反対だ。それはナチの方は根本的にいかん奴は全然排撃して行くという遣り方だが、こっちは枝葉の問題を突っついているだけだから手を緩めれば直ぐはね返る。平沼さんが全体主義じゃない、それなら自由主義だ、というような書き方だ、総親和といえどもでも親和で文句を言うことが出来ないような書き方をする。だから根本的な問題は一朝一夕に片付くものぢやない。今のような過渡期の日

れば、もう少し思い切って知らせてもいいんじゃないかという気持は多分に持っているが、実際問題はなかなかそういうように行かないことが多い。知らせたからといって、そうびくびくすることもない。

杉山 物資の不足などは、今年の末になると、眼の前に出て来るでしょうが、今から甘いことを言っているのは、年末になったらびくびくりするだろう。だから予備知識を与えて、びくつかないようにしておいたらいんじゃないか。

小松 そういう問題は私も痛感するんです。私共が国民運動をやって行く建前から、事実の問題というものも、やはり外交問題でも財政問題でも知らせ得ない部分というものが常にある。常にあるけれども、そこに政治的な技術があり、それに伴う組織があれば、私は事実を知らせるということよりも政策を知らせるということに

よって、或る程度事実というものは国民にはつきりするだろうと思うんです。そういう意味合に於いては今度出来た中央聯盟¹というようなのを政府は極力これを民間団体として活用する必要はあるんじゃないか。たとえば外交にしても外交の機微な事実を知らせるということよりも、日本の政策としてはこういうように行くんだという政策をはつきりさせれば、私は国民大衆は外交上の安住の……知的満足というものを十分に得られると思う。資本主義に対してはどういうように修正して行くのだという一つの政策があれば、それを理解する程度が段々高まって来る。それは必ずしも事実そのものを正直に打明けるんでなく、政策でいいと思う。そういうものすらない、ということが問題だろうと思う。私は政策的には国家が中央聯盟というもの

1 1937.10 国民精神総動員中央聯盟か？

を拵えて百万円の予算を与えたのだから、大いに活用して欲しいということを切望しているんですから、政策がはつきりすればいい。

松村 活用するとしてもはつきりした目標が示されていないということもあるが、また、そんなに何も彼も言うたからといって、そう巧く行くものぢやない。言うていいこともあり、いけないこともある。殊にあらゆるものが統制され、言論も不自由になつて来ている際には、こういう方針で行くんだという具体的の指標を示すことが必要だと思ふ。皆が寄つてたかつてわあわあ批判し、こつちでもない、あつちでもない、このへんで御輿をあげよう、というようなことは平和時代の行き方だと思ふ。そういうことぢやもう追いつかない時勢になつてゐる。だからわあわあ言つていないで、或る点まで来たら怖がらないで、こつちへ行くんだということをはつ

きり言つて、それに向つて総親和しなければいけないと思ふ。事変処理にしても、総力の發揮は非常にいい。国家総動員もいいが、それをまぢまちに發揮されると困る。まぢまちに総親和されると、どつちに親和していいか分らない。そこにはつきりしたものを示さないから、あらゆる所で困つておられるだろうと思ふ。中支から出したあれを東亜協同体の聖典みたように思つてゐるという話があつたけれども、そんなものはそれほど聖典とも何とも思つていない。根本は、殺されても構わないから、「こういう方向に行くんだ」ということを為政者がハッキリと示さないところに悩みがある。

杉山 理性に訴えるということは結構ですが、もつと国民の感情を動かさなければならぬと思ふが、それが揺り動かされてゐない。遊離してゐる。居ても立つても堪らない、という氣持が起つ

ていない。理性の上で、愚図々々言っても、そこまで来なければ何ものならない。だから、もう少し困って来たらいいだろう、というようなことを放言してしまう。飛行機が一台ぐらい来て、爆弾を落せばいい、というようなことを言い言いにくくなる。ヒットラーがあれだけ国民を掴んだのは、国民の感情を動かす基礎があった。つまり口惜しいのと苦しいのと、滅茶苦茶になつているところへ火をつけたのだが、日本では勿論そういうものは出来ていない。それが一番の重要点だろうと思う。

三木 今後経済的な問題がもつと深刻になつてくる。その時には国民が必ず躍り出して来る。それをどこへ持つて行くか、ということが大問題で、その方針を早く確立しなければならぬ。唯火をつけるだけではどうにもならない。

杉山 それもある。その一つとして共產主義に奔る

ことと国内分裂に陥ることだけは、絶対に避けなければならぬ。これはこの間も書いて置きました、それに似つかわしいことは出来るだけ避けて行かなければならない。

三木 避けるということだけでは非常に消極的で、どういう方向に国民を組織するか、という積極的なものが必要だと思う。

松村 これは日本人の特長だと思ふ。なかなか国内改革というやつは、押し詰められなければやらない。満州事変でも、どうして五ヶ年間持つて来たかという、その一番の功労者は国際聯盟であつたと思う。あの事変で、国民的意識の昂揚したのは、十一月にやつた錦州爆撃だつ

一 1931.10.8、石原莞爾の指揮による張学良の拠点の攻撃で、航空機による都市爆撃の嚆矢でもあるが、若槻内閣の不拡大方針をあざ笑う行動として行われた、と見る事が出来る。後に行われるようになった都市爆撃からすると軽微なものであつたようだが、防空という意識のまったく無かつた中国では大きな影響を与えた。

た。それまでは中外に声明することは原駐地へ
 帰る／＼ということばかりで、南さんは辞表を
 懷ろにして働かれたが、そのほかではわあわあ
 言つて騒いでいる。錦州爆撃からスチムソン・
 ドクトリンとなり、これはどうしてもやらなけ
 ればならぬということになった。押しつめられ
 て輿論が起つて来た。私は兵隊として戦さに
 行つて一番感ずるのは、行軍の時は日本兵がそ
 れほど強いとは思わないが、一旦戦友が斃れ、
 傷つてから難境に立てば立つほど益々強くな
 る。支那は取巻かれると、大がいは逃出す。そ
 こが日本人の特質だと言う。外圧と国内改革
 は平行して行われると思う。言い換えれば五・
 一五、二・二六事件の時は国民一般に十分に外圧
 が見えていなかったが、今度は十分見えている

一ヘンリー・スチムソン、アメリカ國務長官による満州国
 不承認

筈である。百万の大軍は海を渡つて大陸で戦つ
 ている。しつかりやつて呉れ、という気持は澎
 湃として起つてゐる。それに対して具体的に今
 何をすべきかということをはつきり為政者が示
 さないで愚図々々している、それだけの問題だ
 と思う。背後にいるものは英国だ、ロシヤだ
 ということをはつきり言つて、本當にやつて行く
 ということになれば国民精神総動員は一ぺん
 に行く。それを何とか彼とかなつてゐる。軍事同
 盟をやるのかやらないのか一致したと言つてい
 るが、何が一致したのか、それがまだはつきり
 出て来ない。併し現実にはロシヤ、英国が敵だ
 ということがはつきりする事態になりつゝある。
 ノモンハン*にしても天津*にしてもそうぢやない
 か。要するに、あれはどうせ好むと好まざると
 に拘らず、これだけ乗しかゝつて来ている以上
 ははつきりして来る。日本は今、急速に転換し

つゝある。ファツシヨの本山のように言われた末次²さんが木戸³さんに代つても、やっていることは末次さん時代よりもひどいことをやっている。最初総動員法⁴を發動した時は引っくり返えるような騒ぎだったが、今は国民徴用令⁵を出しても誰も何とも言わない。そういうようになって来ている。しかし、その際、渋々つて行くか、喜んでつて行くかの違いがある。元來戦争の要件は大事なポイントに全力を傾注するところにある。今まではあつちで親和、こちで親和、ばらばらで力の集中が出来ていない。それは今言うように事態を示さないからだと思ふ

2 「末次信正」海軍、第1次近衛内閣の内務大臣、のち大政翼賛会中央協力会議議長
3 木戸幸一、第1次近衛内閣の文部・厚生大臣、つづく平沼内閣で内務大臣、以後内大臣として昭和天皇の側近。
4 国家総動員法、第1次近衛内閣（1938.4.1）公布
5 国家総動員法に基づく、1939.8.1最初の徴用として建築技術者に召集令状を送付、後には白紙の徴用、即ち無差別に民間人は官吏の指定する仕事に一定期間つかされるようになる。

う。それさえはつきり示せば、他のことは大体に於いて問題はない。嫌だといつても好きだといつても仕方がない。悪いものなら弾圧し、いいものならば之を挙げる。新聞だろうと、雑誌だろうと、軍事だろうと、政治だろうと、外交だろうと何も彼も之に向つて力を集結すれば一年か二年あれば十分に片付く。力の集結が出来なければ二年のものは五年、五年のものは十年、十年のものは二十年、三十年とかかつてしまう。はつきりした外圧は加わっているけれども、寧ろ内政の方が之に追つかない。近衛声明にもあるように、必要なる改新は断行せよと言いたい。

* 1939.5.12 ノモンハンにてソ連軍と戦闘にはいり、参謀本部の優柔不断の前に関東軍が独走し、8.20 第23師団は全滅的損害を受け敗北が確定する。9.15 停戦協定に調印。この座談会の頃は、攻撃しては負けたソ連を繰り返していた。この戦争で甚大な損害を受けたソ連の指揮官は後に、日本の前線兵士・指揮官は優秀だが高級幹部は無能と評す。

* 1939.6.14 イギリス・フランスの天津租界を日本軍が封鎖する。親日官僚殺害犯の引き渡しが主要要求だが、他の要求もからんで長引き、結局イギリスが譲歩的対応をする。しかしアメリカがそれに反発し、1939.7.26 日米通商航海条約の破棄を通告してきた。

杉山 問題は全部、内部ですね。

松村 えゝ。嫌でも応でも外圧がこれだけ加わっている以上徐々とはなるだろう。それが遅い。六ヶ月前の日本と今の日本とは随分変わっていますよ。もう半年もしてごらんなさい、そう洩々しないです、快く思い切つてやったらよかつたとなるに違いない。

杉山 民衆の大部分は、高い理想によつて動くものではない。寧ろ、自分の生存を脅かされること——お前は死ぬぞ、ということによつて動くことが一番多い。高い理想によつても一部の者は動くでしょうが、民衆全体は決してそののみ

では動かない。それに火をつけ、且つ高い理想も揚げる。

松村 そういうわけで眼に見えることは、非常に強さがあると思う。あなた（杉山氏）のような方が……。

杉山 僕自身は個人的には思想の調子は非常に低い。ただ、日本は潰れては困るという消極的立場でがん言っているだけで、お恥ずかしいくらい調子は低いです。それであつても必要な場合には大きな役割をなし得ると思う。

小松 日本の民衆というものは地理的關係で、内地は非常に恵まれていて爆弾も降つて来なければ大砲の音も聞かない。恵まれ過ぎた所にいて、しかも日常生活の大切な食物には困らないから、なかなか実感を持つには骨が折れる。

松村 事変処理は小細工ではないかんのではないかな。小手先でやってみても、今の時局はどうに

もならんだろうと思う。机の上でいろいろなことをしてみても、桜井さんの唄ではないが、「今日も五相会、明日も五相会」と『大陸』に書いてあったが、やはり小手先の一寸としたことではなかなか動かないんじゃないか。何か、大きな手を打ってやらんことには、今の時局はなかなか乗切れるものぢやないと思う。智よりも寧ろ勇が必要だ。

杉森 私の新東亜建設という言葉を使っています。

それは新世界秩序の建設でも何でも構わんが、目標はこれでなければいかんと思います。即ち新東亜建設というものは、少くとも支那事変に内在する目的の一つの要点です。それから新世界秩序の建設と申しましたのは具体的にいえば、第一にドイツ、イタリアと十分力を協せて行く。或はこつちから向うを出来るだけ援ける。この場合には直接の目的は新東亜をどうするという

んぢやなく、ヨーロッパをどうするとか、或はもっと抽象的にいえば世界をどうするというところにあるわけで、では、その時に世界をどうするんだといえ、私は正義と進歩です、正義と進歩を現在の事実を条件として実現して行く。それを更に具体的には世界の歴史というものは現段階に及んでは領土秩序の或る改正を必要とするものである、と、こう思っています。或は改正を再改訂と言つてもいい部分があります。何れにしても之にはつきり手を著けなければ、現在の国際不安というものを解決することは絶対に出来ない、と思います。然らば、その理由は何であるか、是が国民精神総動員の根柢にしなければいかんと思います。然らざればアメリカに向つて積極的にどう動くか、イギリスに向つてどう動くか等々というようなことも出来ないと思います。それは世界歴史の進歩の論

理に立つて、こうすることが必要であるということをはつきり掴んでいなければならない。それから新東亜の建設ということからいえば、今は進行中でありますが、租界の如きものも出来るだけ早く無くする。九ヶ国条約とか租借地とか或は半植民地的乃室完全植民地的状態を少くとも東亜から成るべく早く無くするということが必要である。これは恥であり、そしてこれを振り落すために必要なものは文化力です。それから日本の自らどうしても為さなければならぬのは、或る程度の国内改造と国内の合理化ということである。決して外へ伸びるための手段としてのみではありません。元來、日本の国際関係と国内生活の間に二元的の区別はありませんが、私は却って實際に於いては外に伸びる態度を或る程度まで大胆に取ることは国内進歩を促すためにも大へん効果的であると思います、

御維新の時を見ても、廃藩置県とか、王政復古、或は民族主義日本を建設するというようなことも抽象的には或る少数の人々にはそれは出来るだけ早くやった方がいいということが考えられたかも知れませんが……慥か考えられておったでしょう。が、しかしこれが国民的に十分有力となつて実現されるためには、やはりペリリが来たとか、その前後にロシヤがこつちまで窺きに来たとか……。恰度安政五年は日本が修好通商の仮条約を結んだ年でありますが、あれはイギリスとフランスが恰度天津を攻めつゝある時で、一八五六年にアロー号事件があつて、簡単に支那をやつつけて英仏は北上して、天津を攻めつつあつた。これが一八五八年で、日本では今言う通り井伊大老が修好通商の仮条約を米、露、蘭、英、仏の五ヶ国を相手にして結んだ時である。やはり、幕末の時代には、あゝ、いう形

勢が眼前に展開したから、その後凡そ十年にして新日本が生れた。ですから、国内改革を目的として事を起すべきだとは申しませんが、またそういうわけで起きたとも申しませんが、併しながら、満州事変以来の日本の国際発展というのは随分大胆性と冒険性を持っている。持っているけれども、これを断然物にするということは絶対が必要であつて、そのためにはその過程に於いても国内の改革がどうしても必要になつて来ると思ふのです。まあ目標としては新東亜建設と新世界秩序の建設で、その根柢の理由は両者を通じて大体同じです。

記者 今、その目的を実現するためには何等かの国内改革が必要である、ということでしたが、津久井さん、それについて如何ですか。

津久井 国内改革はこの頃自信がなくなつて言う元氣もないんですがね。しかし、その点は大い

に言わなければならぬ気がするんです。そうでないと、国民大衆はどうでもいいということはないが、国内の有識者が、殊に青年とか知識階級とかいうものがやはり事変に一抹の水臭い態度を持つてゐるということは、その方が併行して行かないから、そういうことになると思ふ。今、革新ということを昔のように概念的に言つていても、昔とちがつてすべての点でせつぱ詰つてゐるから、そういう点では以前よりも深い考慮を廻らさなければならぬと思ひますけれども、今の支那に対する日本のやり方というものには、どうも僕は感心出来ない点があるように思ふ。僕等はそう理想主義的のことばかり言うのは何だから現実的にもいろいろ考えなければ、そう立派なことばかりではないんだが、しかし、日本の今度の戦争に対する解釈は非常に一面に於いては立派なことを言つてゐる。だから、そ

れに全部副はないでもいいから三分の一なり半分だけでも、それに応ずるようなことをやる必要があると思うんだ。又支那の経済的なことでも、結局三井、三菱と言った大財閥がやっている形跡が多いと思う。そういうことも一面からいえば已むを得ない、というようなことも言えるかも知れないが、しかし、それでは国民は本當の情熱を以つて随いて行けないんじゃないか。やはり日本の對外發展は国民全体的の全国民的の發展でなければ意味がないので、資本家は国内は統制だとか何とか言っているけれども、支那などでは少しあこぎなことをやつてもいいんじゃないかという考え方を持っているのが多いらしい。それで随分向うでは日本側からも支那側からも非難がある。大阪の栗本某というような人達を中心とした大阪經濟調査何というものは、向うで、「とにかく、これだけわれわれも

犠牲を払っているんだから、北支だけでも絶対に日本の勢力の下に確保して思う存分に儲けさせて貰わにや困るぞ」と言つて、天津の或る軍人などはその席に居つて聴くに堪えなかつたという話がある。そういうことでは、本當の新秩序というようなことも、實際は滑稽な話で、その点をどういう風にするか。今は、イギリスを大いにやらなければならぬということは當然起る叫びであつて、日本とイギリスというのはどうしても対立するんだし、又杉森先生のお話のように、正義と進歩の立場からいつてイギリスなどは碌なことをしていないけれども、そういうものを打倒して行く上に於いては、日本の方が立派な行動の現実と実践を持つて行かなければ、本當に人類の文化史的の意義が薄いんじゃないかという気がする。それでは今は国内の改造はどういうようにやつたらいいかというこ

となると、これは自分にあまり自信がないけれども、あらゆる人が真面目に考えて、マルクス主義も駄目だったし、今日までの所謂右傾派のような概念的なラフなものでも間に合わない、そういうものを越えた、何か真面目な、もっと立派な考えを生み出して、それが急速に実現して行くという努力をしなければならぬと、私は痛切に感じています。

三木 私は国民を動かすには、どうしても国内改革というものが何等かの形で眼に見えて来なければならぬと思う。東亜の新秩序といつても、国民にはそうピンと来ないんだから、国内に新秩序の曙がはつきり見えて来なければならぬと思う。それからもう一つ、東亜協同体の時にも問題になることだが、イニシアティブの問題を誤解してはいけなだろうと思う。つまり国内改革は政府官僚のイニシアティブでやるとい

う。これは、それに違いないにしても、やはり大衆の輿論というものを作り、その力を借り、又輿論を基礎にしてやって行かなければ、どうしても本当に力強いものにならないと思うんです。東亜協同体の場合のイニシアティブも同じことで、支那人にとつて理論的に実践的に承認出来ることでなければならぬので、イニシアティブといつても勝手なことをやってはならない。国内に於いてもイニシアティブということを誤解して、何か上からやって行けば、それでイニシアティブを取ることになると考えてはならない。国民の内部から湧き上つて来るようなもの、その種を蒔いて行くというような遣り方が必要ではないかと思うんです。それが足りないような気がしますね。

杉山 支那の場合は、さつきも言ったが、日本人と同じように見ることはどうか。或る場合には抑

象を持っています。

えなければならぬという感じを僕は強く持つてゐる。勿論、支那人に悪い気を持つちやいけないが、支那人と仲良くやつて行けるかどうかということは、今でも心の中で疑問に思っている。頑迷主義者ですが……。

津久井 抑えなければいかんと、と言つても、日

本は或る程度抑えてゐるぢやないか。——まあ、抑え方が足りないという意味も出て来るかも知れないが、抑える方は相当抑えていると思うんだ。しかし抑えてもきりがないと思うんです。あの支那全体を日本の軍隊を全部やつても抑え切れるものぢやない。今日支那事變の解決については必要があれば何年かかつてでも已むを得ないが、今やるべきことは抑えるのは急所急所を抑えておくことにして、もつと積極的に支那人がこつちに協力して来るような風に導く方策を講ずることの方がもつと必要なことだという印

杉山 それは段階の問題ですね。究極に於いて支那人を幸福にしたいという気持は私でも持つてゐる。いやしくもインテリで、それを持たん奴があるか。しかし同時に、或る場合は張り倒しても、やるより仕方がない。

津久井 しかし今、日本は張り倒しているぢやありませんか。

杉山 僕などは、或る場合に張り倒せという気持になつた。日本のインテリは実感として張り倒せ、という気持になつていない人が大部分ぢやないか。その違いが随分ある。私は支那へ行く時に、日本人の悪口ばかり言いながら行つたが、歸つて来る時は、もう少しやつつけてやれという氣特になつて歸つて来た。それはいいとは思わなければいけません。一ぺんそれを潜らないと、どうも話の棲が合わないんですよ。いつまでも幣原外

交の流儀でいたら、何かの時にギャップが出来やしないかと思う。それを一ぺん通つておれば、支那人を大事にするということは何よりやりたいんですが、それを潜るか潜らないかというこゝとです。そんなことを言うとい誤解をされますがね。

記者 松村さん、国内改革については、どうですか。
松村 戦時中はどこでも平時と変る。欧州戦争でも

各国のやり方は変つて行つた。五相会議などともうだが、もう少し敏速に力の集結が出来るように、首相の権力が増加するようなことが必要ぢやないか。有機的に結合されて会議々々でなくてテキパキ処理して行けることが必要ぢやないかな。企画院の拡大も貿易省もやつて見たらどうか。

記者 その首相の力が増加する場合に、国民の輿論との結びつきはどういう形で……。

松村 さつきもお話があつたように、一方に於いて

国民の輿論も十分に起す。そうして純正な輿論は飽くまでも擁護して、国民が本当に国策を背負つていゝという氣持にすることが必要だが、一方に於いては又それを阻碍する者もあるから、それは斬つて除けなければ仕様がなない。もう少し、テキパキとやれるようにしなければならんのぢやないかな。輿論の起るに委せて、あつちでもこつちでもわア／＼言つていたんでは二年経つても三年経つても恐らくなんにも出来まいと思う。この際は善いものは助長すると同時に悪いものは叩くようにしてテキパキやらなければ総力の集中が出来ない。出来なければ、それだけ長くかゝります。

小松 つまり国民に責任を持たせるということだと思ふんだ。国民に責任を持たせるには、何か人ごとでないようにさせる、自分たちがやつてい

るんだ、というようにしなければならぬ。それにはどうしても輿論とか国民組織というものが大きくなると、国内改革でも東亜の新秩序でも

自分たちが本当の責任者だという感じを起さなければ、誰がやっている、よければ協力するが、嫌ならやらない、というようなことにある。

松村 実際、そういうことも必要だが、小松さんの方の運動も一ヶ月で決めるのが三ヶ月経つても決らないというような、そういうことでは仕方がないではないか。

小松 私共も目標としては東亜の新建設、国力総動員の二つをはつきり掲げてやつてた。ところが、それが今のように国民全体が人ごとのような感じをしているために、はつきりしないんです。びつたり来ないんです。

松村 出発点があり身に迫っていないんでしょうね。支那の背後にある英国とかロシアが相手だ

ということをはつきり見せて行けば逼迫感が身に迫つて来るんですからそうしたらやるが、どっちにするか分らないような遣り方では……。

小松 私等の説き方は支那事変は支那との戦争ではない。今日の時勢は世界を離れて、単独に支那事変だけを考えることは出来ないから、英米仏露が最も密接な関係がある。これに対しては三国干渉と等しい見方をして大衆の輿論を昂揚するように努めているんです。ところが、実際に当ると生活にまで触れて来ない。戦争しているという切実感が起つて来ないから、枝葉末節にまで論議が触れて来る。だから銀座を歩いてみても、どこで戦争しているのか判らないというようなのは、或る程度まで枝葉末節の問題だと言われても、枝葉末節を覚悟しても、そういう所から入って行くのが一つの手であると私共は考えているんです。そういう意味合に於いては、

批評する指導階級の人が、そういう問題を末梢的問題なりとして具体的問題だけを取上げて論議されることは私共としては迷惑するわけです。私共としては総合計画の一つの方法として出来ていることなんですから、それを以つて一つの具体的な実践として取上げられることは私共としては非常に迷惑を感じてゐるんです。それは指導階級の人々には理解して貰わなければならぬ。

三木 しかし、それはそうでしょうが、肝腎なこととは示されないで枝葉末節ばかり先に来るから、しびれを切らして言うんでしょう。

小松 それで今言つたように、政策なり理解なりのはつきりした迫力のあるものが出て来れば、それによつて国民の思想はだんだん昂揚されて来ると思ふんです。私共としては独りでに自然発生的に出て来るように指導しなければならぬと

思つて努力しています。いですが如何にせん、今の組織が各方面のバランスから考えて、そういう人的組織から出来上つてゐるから、委員会も六十人の練達堪能の士が集つてゐるので議論沸騰してなかなかまとまらない。

杉山 議論が沸騰すれば民間から手弁当で出て行きます。

松村 もう少し逼迫感が眼に見えて迫つて来なければいけない。東亜新秩序の建設とか世界秩序の建設とは何であるかという、英国とロシアとをやつつけることだ、ということがはつきり言い切れない。英国は怖いというような気がする。そこで既に足並みが揃つていないが、もう少しそれを具体的に権力者が目標を示すだけの力が必要ではない。そうなれば逼迫感が出て来る。

三木 逼迫感の問題ですが、それは経済生活の問題

です。経済生活が行詰つてしまつてから、その上に建設して行くということは、条件が悪くなつて困難になる。だから経済生活の行詰らないうちに早く政治的な改革に乗り出すことが必要なので、逼迫感ばかり待っている、愈々それが来たらもつと混乱する虞がある。

杉山 だから、その逼迫感は、本当の逼迫が来ないうちに起させることが必要だ。

松村 そのために、はつきりした意思表示をすることが必要だと思ふんですね。日独伊の軍事同盟もテキパキやる必要があると思ふ。

杉山 本当の逼迫が来たとき、ぎゃアぎゃア騒ぐことはない。

津久井 いったい、日本を指導している力というものはどこでしょうね。

松村 一つの勢いでしょうね。事変が始つて以来、あらゆる権力者が抑えようとしたが、ズーッと

ここまで来たのは、何の力かというと、一つの勢いだと思う。或る意味では大衆の力だと言えるかも知れない。

杉森 お話の途中で何ですが、それに関したことですから申しますが、今日日本で一番遅れているものは大体からいつて政治だと思います。御維新までは政治が一番遅れていた。ところが政治というものは空論ではなくよきにつけ悪しきにつけ国民生活を実際に決定しますから、その政治がいつまでも遅れておつていいということはありません。伸びる力がどこかに保存されている国民にはあり得ないことです。そこへ御一新が来た。それを刺戟したものは先刻お話があつたように外圧です。内に於いては玉川の水を上野まで持つて来て、番茶をわかせて一杯十兩で飲ませた。そんなことをやつていたが伸びる力があつたから、窮すれば通ずる維新の改革が断

行された。そうすると今度は政治が一番先に進んだ。国家機能のどれよりも先に進んだ。これは、あの当時のいろいろな文献にもその証拠はある。軍事に対しても何に対しても進歩的目標を具体的に示した。その努力が明治十年、二十年と大体日清戦争までその形で政治の方が進んで、あとの国民機能がとにかくあすこまで追いつかなければならないというので、昼夜兼行的に努力勉強した。それが日清戦争まで続いたと見て宜かろうと思います。ところが、そのうちに遅れたものが進んで来た。最近に於いては政治以外のすべてのものが政治よりは進んでいた、といつていいと思う。軍——軍と言つては失礼かも知れないけれども、軍も進んでおつた。軍というものは直接の責任に於いては国防ですね。そこで政治というものは国防に対して大なる責任と認識がなくちゃならぬが、しかし政治が遅

れているものですから、満州事変が発生した。日本の大陸発展が当時の形式政治の好むと好まざるとに拘らず始つてどんどん行つたでしょう。今度の北支事変にしても現地というか、局地解決が形式政治の或る部分に於いては望むところだったかも知れないが、実際はどんどん拡大してしまつた。左様に軍を見てもそうだし、産業を見てもそうであり、教育を見てもそうである。學術、文芸を見てもそうである。形式政治よりは内容の方が遙かに進んでいた。ですから誰が指導しているかといへば政治以外の実力です。ところが政治という責任上指導すべき位置に在るものが遅れているから、いろいろな齟齬、扞格、矛盾、浪費が今生じている。そういう意味に於いて早く政治らしく正しく先に進んで他の国民諸機能をこつちに來いといつて指導するようにしなければならぬと思いますね。

松村 そうですね。非常に政治が貧困ですね。

小松 戦時中の政治の機能というものは、大本営が持つてゐるんですか。

松村 そんなことはありません。あれは一つの統帥の幕僚だから。聯絡機関として政戦両略がびたりと一致しないと、この事変はなかなか乗切れない。私はこういう時期には何とか彼とか言うよりも実行力のある奴の方が勝つと思う。事務を執つて行く上に、こう行くんだ、と言うことは学者からいえば嫌われることなんでしょうか。どっちがいいか悪いか判らないことが多い。それなら右なら右とはつきり行つた方がいい。戦さで一番いけないことは「為さざると遲疑するは指揮官の最も戒むべき所なり」と、はつきり書いてある。目標を示して断行する。多少間違つていたら、やり直せばいい。愚図々々するのはいけない。好機を逸してしまふ。こういうよう

に国際關係がデリケートになつて波瀾に富んでゐる時は或る点迄善と信じたら思い切つてやつてみる。右顧左眎氣兼してゐては駄目だ、そうでなければ乗切れない。ああでもない、こうでもないと言つてゐてはチャンスをしてしまふ。愈々窮境に立つ。政治が貧困になればなるほど、ああでもない、こうでもないで追い詰められて行く。

小松 政治が非常な停頓状態ですね。

松村 私等は兵隊として、そういう訓練を受けてゐるから、非常にまどろっこしくてならない。

津久井 政治が貧困だ、という、その内容ですね。どういうことが政治が貧困であつてどういうことが貧困でないか。日本の政治が貧困ならば、それを進歩させるには、どうしたらいいかという事です。

杉森 貧困から救われつつあるという樂觀が或る程

度には成立しますね。懷ろ手をしつゝ樂觀する
んではない。手を働かせつつ樂觀するんですが、
その意味に於いて政治は貧困から救われつつあ
ると見ていいと思うんですね。詰りこれぢや困
るというんでしょう。満州なんて——と言っちゃ
悪いが、あれは別に議會が欲したとも思われな
い。寧ろ、飛んでもないことだ、日本が破産し
てしまうと考へた者も多少はあつたと思います。
しかし事實は彼等がどう思つたにも拘らず、拡
大してしまつたでしょう。そうして結果から見
て、私は無論いいと思うし、あれがなかつたら
と較べてみてどうかというと、断然国力全体か
ら見ていいと思います。それから北支の場合に
於いてもそうである。かように国民生活の内容、
實質が形式政治より相当先に進んで行くもので
すから、軍は抑えるより却つて政治を引張つて
来たでしょう。その他は力がないから、いい意見、

いい考へを持つていても抑えつけられてしまふ。
そうしてだんだん政治はよくなる。いい政治と
はどんなものであるか、といへば国防に關して
も、學術に關してもすべてに認識を持つことで
ある。少くとも最近は国防に關しては軍の方が
認識を持つていた。今は一例を国防だけに取つ
て申しますが、国防に關しては今のうちに擴張
主義というか、擴張主義の方に真理があつたと
いうことが事實に於いて証明されて来た。まア、
ほかの方にもそう云つたようなことが多々ある
と思ひますね。

記者 政治形体は今のままで行くんですか。

杉森 形体とは、議會とか。そういうものですか。

記者 それとか今の内閣制度というものを變へると
いうところまでは行かないんですか。

杉森 まア議會の形体のようなものは事実上かなり
變つて行くものと思ひます。既に昭和七年以來、

変つていますね。議会の形体といつてもいいが、
 実質はだいぶ変つて来ましたね。それから政党
 なんてものも遠い将来は別として、世界歴史の
 現段階に於いて二大政党対立が定石であると
 云つたようなことは、是は無くなると思います。
 これを制度的に認めるなんてことは、事実上出
 来ないことで、或は名ばかりは存在するかも知
 れないが、事実に於いてはどうあつても拳国一
 致的になると思います。

杉山 将来の日本の社会で戦鬭力の強いのは左翼
 ぢやないか。これは今眼に見えませんが、
 何かの時にはやはり出て来る可能性が強いと思
 う。今は左翼は殆ど戦鬭力を奪われているが、
 これを抑えつけている官憲なりの力が何かの機
 会に衰えて、施すべき策を知らなかったような
 場合には、一番煽動力を持つのは左翼だと思ふ。
 だから一番要望するのは健全なる右翼の起るこ

とですが、これは今の右翼ぢやあまりにも情け
 ない。

三木 どういう意味で凄いですか。

杉山 潜勢力です。たとえば今でもずい分黙つて沈
 んでますよ。共産黨員というものはどこかにい
 る。僅かの聞込みは別にして……。

三木 左翼があつても大衆が動かなければどうにも
 ならない。

杉山 その地盤の揺れが来た場合ですよ。左翼の指
 導者というものは相当民衆の把握力に長けてい
 る。

三木 それがどうして右翼に欠けているのでしょ
 う。兎に角、国民を動かして行くということが
 一番根本の問題だから……。

杉山 それに対立する意味に於いて右翼というんで
 すから……。

三木 しかしこれまで右翼というものは、国民大衆

の中に入つて行くことについて非常に……。

杉山 それだから、右翼にすっかり新しいものになつてもらいたいのだ。今のところ徒らに派を作つてゐるといふ感が多い。だから本當に對立時代になつて、若し左翼が出て來たら、向うは百戦練磨ですヨ。齒が立たぬだろうと思う。それまでにしつかりした合理的な、民衆の本當の魂を掴んだ党が出現することを希望する。つまり健全なる右翼の起ることを希望するわけです。

津久井 健全なる右翼といつてよいか、健全なる左翼といつてよいか。ともかく今まで右翼や左翼を超えた新しい国民運動が起るべきですヨ。

杉山 それは何といつても民衆を掴んでいなければ駄目ですヨ。

三木 それは支那の問題でも同じであつて、如何に支那事變が困難であるかといふことは數量の問題——人間の數の圧力を示している。支那事變

は、支那の大衆の圧力が如何に強いかということとを明かにしたと思うんです。

津久井 大衆というものを信ずる氣持があるかないかということが問題だと思う。大衆なんて全然問題でないという風な考え方をする運動は、僕は駄目だろうと思う。左翼が強いといふことは、大衆を信頼して、そこに結びついてゆくから強いと思うんだ。

三木 今の日本の政治には国民に対する信頼というものが多いと思います。何となしに國民を敬遠してゐるようを感じるのです。

津久井 少いというより、無いんですヨ。國民の中の相當有力な人間にだつて一應意見を訊かうといふような氣持はないんですヨ。それならそれで民衆を引摺つて行く立派な国策でもあるかといへば何もない。その日暮しだ。僕はそういう意味で内閣が駄目ならば組織した力は軍部が

持っているんだから、たとえば軍事同盟だつて軍部がこれは正しいんだ、こういうことが国家を救うんだということに持つて行けば、それでもいゝと思つていらっしゃるが、そうも行かないんですかね。

松村 大いに持つて行き得るんですがネ。これが正しいのだ、日本のためになるんだといつて、ひたむきに行く奴に、やはり民衆は着いて来ると思う。人間というものは強いものに惚れますヨ。これが日本のためになるんだから、こうするんだ、いう立場から行つたならば、身を捨てゝ行つたならば従いて来ると思う。あまり権謀術数を用いて妙なことをすれば従いて来ないが、公平な眼から見てこれが日本の為めになるといえば、多少のごたごたはあつても着いて来ると思う。そういう意味で、軍事同盟でも非常に正しいことをしていると思つていらっしゃるが、唯、来よ

うが遅い。それだけの問題だと思ふんです。

記者 来ようが遅い、というところに問題はないんですか。何故来ようが遅いかという……。

松村 それで益々不利な逼迫した情勢の下にやつて行くということになる。一日早くすれば、それだけ日本は良くなると思う。

三木 政治というものは時の問題だと思ふんです。たとえば物価政策でも何とか言つていらっしゃるうちに、どんどん物価が先に行つてしまふ。益々やりにくくなつてくる。もつと早く先を見落して物価対策をやつておけば、簡単にやれたものが、だんだん困難になつてくる。

杉山 国民全体が支那に対する幼稚な敵愾心でも持つておつたら、むしろ平和の希望が持てたが、今ぢや遅蒔きでネ。

松村 戦時経済というものは初めはショックを受けるから、だんだんやつて行くのが政治としては

巧者な方法だと話をいつか聞きましたが。しかし、それぢやもう背負い切れんぢやないか、それだけ損をした。先手を打って政治家はリードし、指導しなければならぬ、杉森先生の言われたように政治の貧困から、国民の気運が出来るまで政治家は拱手見ているのも困るし、気運が出来てもやらないのは尚困ると思う。

小松 私は政治記者を十年ばかりやって、最近の政治を見ると、いつでも政治が遅れている。満州事変以来、いつでも内閣が事変に引摺られて、その後始末ばかりしている、今度の支那事変でもそうだ。事変が起った時は不拡大主義でやってた。それが北支へ拡大し、海南島、広東の攻略でもこれ又危険である冒険であるという見方をしてそういう議論の起らないようにということを中心掛けていた。そういうように後手ばかり打っていると、国民に対して魅力がない

と思う。

松村 だいたい官吏の考え方というものは消極的なものが多い。何でもないことでも幻影に驚き、疑心暗鬼でやる。一番顕著な例は広東爆撃¹です。これはイギリスではカンタベリー僧正²まで起つてさんざん毒吐いた。それであれを取つたら非常にひどいだろうと思つたが、やってみると何のことはない。予想に反している。非常に取越し苦勞が多い。何でもはつきりやらないから隙が多いが、やってしまえば何のことはない。

杉山 政治が遅れたという話がありました、満州事変の時のインテリの認識はどうかという問題がある。それが今日までずーッと続いて来てい

1 1937.8.15近衛内閣による全面戦争宣言と同時に行われた南京爆撃に続いて、8.31海軍による渡洋爆撃が広東等に対して行われた。この座談会のあった1939年に始まる重慶爆撃が都市への爆撃として最大規模であった。
2 カンタベリー大司教の事か？當時は「William Cosmo Gordon Lang」がその役に付いていた。

る。

杉森 あの頃のインテリの政治意識というものはや

はり遅れていましたね。殊に国防方面に関して遅れていた。

松村 国防の安全感というものはボールドウィンの言葉にあるように、ドーバーからラインの上まで伸ばさなければ守れない。つまり或る大きな土地にならなければ国防の安全感は得られない。単に軍事的に見てもそうだし、自給自足の立場から見てもそうだと思う。国防の安全感というものとは土地と大きな資源を持ったブロックにならなければ、単に飛行機の発達ということから見ても軍事的にも不可能である。満州事変の時に、そういうことを認識していた人は少いと思う。

1 イギリスの首相を務めた保守党の Stanley Baldwin のことか？対ソ連戦略としてナチス・ドイツに対して宥和政策を採った一人。

津久井

僕等は満州事変の時は片隅で片棒を担いだけれども、満州は国防的にも必要な所だろうけれども、あれが国内革新の動機になるというところで僕等もやったし、当時の軍人さんもそういうイデオロギーでやった。そういう点から見れば、今日の満州は半分は日本に取って意味が深いが、半分の理想は殆ど達成されていない。日本の革新はまだ出来ていない。満州自体もそうです。例の王道楽土というスローガンは、一見して抽象的だが、あれには一定の具体的な内容があつたはずです。それが実現されているかどうかは疑問です。そういうことがいつでも頭にこだわる。単に国防上領土が伸びることが必要だというのは僕等でさえ納得の行かないものがあるんだから、一般人、殊に自由主義とか社会主義的考えを持っている人は、非常にそういう点はこだわるだろうと思う。何も一々そんな

ことにこだわっている必要はないといえ、そうだけでも、そういうことも一応考慮の余地がある。殊に左翼というものが恐しい力を将来持つという見透しがあるならば尚更そういう点を考えなければ非常に空虚な対外発展になるという気がする。

杉山 要するに資本家を目標とするものを、相当に発展しなければならぬということですね。しかし今資本家を全面的に打倒するということは目下は政策的に不可能ですが、これをどうするかということでしょう。これは技術的問題としては非常にむずかしい。資本家自身の革新を俟つといつても出来ない。

津久井 それからデモクラシーの眼でどうのこうのということは別問題だが、もつと国民の総力を發揮するように——インテリはインテリの力を發揮し、金持は金持の力を發揮し、労働者は

労働者の力を發揮させるという努力が足りない。こういうことをやっちゃいけない、あゝいうことをやっちゃいけないとは言うけれども、もつと積極的に情熱と感激とを持つて起ち上らせるというものがない。僕等はそのことは實際肚の中ではいろいろ考えてはいるけれども、こういうことはない。当局などは非常に事大主義でたとえば新聞などにしても八社なら八社だけのいわゆる大新聞は、非常に愚にもつかないものもあるに拘らず政治部長を招んで話をする。それ以外の小さい新聞は非常に内容としていい意見を持つていても殆ど無視する。今の新聞統制でも下らない新聞もあるでしょうけれども、ただ、うるさい奴は潰してしまえという無責任な、民の声とか民の力というものをちつとも尊重しないものがあると思うんです。そうして一面では都合のいいことだけは民衆にやらせる。献金

しろ、貯蓄しろ、頭を刈れ——。しかし本当に国民の総力を発揮させるという謙虚なものを持っているかというのと、僕は、ない、と思う。そういう民に対して謙虚な気持を持つということと、民の意見に盲従するということはちがうと思う。時局が切迫すればするほど民衆に対して謙虚に振舞って肚の底から総力を発揮させる方法を取る必要があると思う。

杉山 その謙虚さというものは、一部分兵隊に対しては行われて非常に兵隊を大事にする。それから最近の国民徴用ですネ。あの中で徴用されて、内地にいる人間に対しては、いちばん待遇が少い。われわれを如何に使うかという考え方が一番足りないというんでしょう。

杉森 外的発展では空虚なものになってしまふという話だったが、空虚でも何もで実際では不可能になるね。伸びることは……。

三木 戦争というものが過去の戦争とは非常に性質の違ったものになっていることを考えねばならないでしょう。

津久井 思想的内容とか国民生活とかいう方面を取れないで伸びようとしても結局出来ないものですね。

杉山 しかし戦争に勝っているのは、日本の民衆が戦っているからですね。実際一生懸命に戦っているからね。これに対しては皆感謝するでしょうし、発言権は相当強く認められているんですよ。それを社会的にもしなければならぬというわけですが、その来方が遅いというわけでしょう。

津久井 無論、勝ってはいるでしょうが、支那人は自分の方が勝っていると思っているんですからね。また、必ず勝つ、と思っているんですヨ。

記者 今の当局の輿論や言論に対する考え方に就い

て津久井さんのお話がありました、三木さん、如何ですか。

三木

私なども全く同感ですが、国民の持っている力を引出して来て働かせようというには、やはり国民を尊重することですね。人を重んじなければ人は動かないと思います。これはデモクラシーというようなことでなく、もつと、根本的な人間の関係だと思えます。そういう国民の尊重ということが足りない。悪くいえば、内心は国民を恐れているとも見られるのです。本当に親しんで一緒にやろうというところまで行かなければならないが、何か外にあるもので訳が分らないものだという風に考えている、同じ日本人だから一緒にやるという気になればよく判ると思うんです。それが足りないので、随つて民間で何かやろうとするとすぐ猜疑心を以つて見られるというようなことがあるんじゃないです

か。

杉山 これは両方です。政府ばかりではなくてイン

テリも悪い。

津久井 それはそうです。

小松 その問題は私共が實際運動をやつていて一

番必要を痛感するのは津久井さんの言われた事大主義というか、一つの輿論に呼びかける際に、本質的にしつかりした指導的人物が中核となつてやるという具体的の方法に非常に不便を感じているのです。それはやはり人的要素を集める際にも、やはり事大主義というのか、デモクラシーというのかバランスばかり考えている。

松村 有機的に結合していかないということですね。

三木 人を使う場合に、官庁でも軍でも便宜主義というものがありはしないかと思えます。自分の所へ寄つて来る者を使う。それが本当に有力な人間であり、大衆に対して指導力を持つてい

るかどうかということでなしに、これはまあ自分の手近にいて便利だからということが多いんじゃないかと思う。その人の社会的信用とか力倆とか、人物の誠実さということを考えないで、自分に都合がよさそうに見える人間だけを手取り早く、使つて、少し手硬い者を使つてみようとするところが足りないんじゃないですか。

杉森 日本に於いては今行詰つてゐる部分がある。

権力の位置に在る人は概ね改革さるべきイデオロギーを持つてゐるんです、自分たちが改革さるべきイデオロギーの上に立つてゐる。その立場から自分達に都合のいい人間を択ぶという所に弊害がある。これが一度改革されたならば、その人の立場から自分達に都合のいゝ奴を択ぶということになります、それならばそれで宜しいですね。だから問題は私心を捨てなくちゃならぬ、というようなことではなくて政治の方

にはやはり改革さるべきイデオロギーが日本には蓄積されている。結局それですね。それが直れば構わんですヨ。

三木 イデオロギーの問題についても、本当に徹底的に研究しよう、確立しようという意志があるのか、便利なもので間に合せて行こうというのか、はつきりしませんね。

杉森 指導階級にその意思がある筈がありませんね。総てぢやありませんけれど、頭が悪いのと立場ですからね。

松村 確かにそういうことがあるでしょうね。それは友は類を以つて集るで、イデオロギーの同じ奴は集るものですヨ。やはり一つの自然の方向ではないかと思う。しかし人間は感情もあるからイデオロギーというものはいつも接して知つてゐるから、あいつは大丈夫だ、という信頼の念は見もしない者を信頼しろといつても

無理です。

三木 そのイデオロギーがイデオロギー的にはつきりしていればまだいいが、どうもそうぢやない。便宜主義ではありませんか。

小松 便宜主義は多少傾向ではあるが従来の便宜主義よりだんだん開けて来ているが、問題は形式主義です。その人の地位とか、名誉とか年配とか、その人の属しているところの会社なら会社の財産状態というような形式に因る場合が非常に多い。これはまだ相当打ち破らなければいけないんじゃないかという気がします。便宜主義の点については多少変つて来ているんじゃないか。

松村 総力を發揮して行くということは非常に必要ですから、事変処理とか或る一つの方向に行かなければならない時——六頭の馬に大砲を曳かせて行く時一緒の方向に引摺らなければならな

いが、それを邪魔するような發揮の仕方をして貰つたら困る。それぢや伝染病と同じように隔離室に隔離しなければならぬ。それでイデオロギーというのか何ていうのか知らないが、事変処理に向つて或る力を集中するのを妨害するようならお断りしなければならぬ。方向を示さないと、あっちへ行つたり、こっちへ行つたりする。

三木 だから形式的な総親和ということはい味が無い。

松村 何に向つて総親和するか、目標を決める。

津久井 僕はそれを決めるのに各方面の意見を聞かないから、今のうちに決らないのだと思う。若し力で決めるのならば政府でも軍でも決る筈だと思う。それがちつとも決つていない。

松村 決つても言い切らない。あっちこっちに摩擦があつて……。

三木 国民の本当の支持を得ておれば言い切れる。

国民に事態を判らせて支持を受ければちゃんと決つて行くんではありませんか。

松村 概念的には言い得るかも知れないが、有機的にはばらばらですからね。断じて決らない。今まで一週間で決つたのが多人数で評議をすると、三ヶ月経つても決らない。そこは現実の問題を余程考えて貰わなければならぬ。誰だつて顔のちがうように考えも違つているが、事変処理の上からは隔離して貰う人も出来て来るだろうし、そう一人々々の人間に当つてみると、いつまで経つても出来ない。

三木 国民の代表といつても、代議士とか町長さんというようなのが代表者だと思つていいといかない。

松村 今の代議士でも或る意味の代表者です。そういうものがいろいろあるんで、その代表者の意

見を纏めて行くということは必要だが全部意見を聞いてまとめる等ということは言うべくして行うことは不可能です。

杉山 形式打破ということは注文としては結構だと思う。しかし形式の打破は各自が実力で叩き壊して行くより仕方がない。津久井さんにしろ、自分の力で怒鳴り込んで、なぜ俺を無視するか、というところまで行つてこそ形式を打破することになる。自分の力を駆使することによって、形式を打破しなければ、いつまで経つても打破出来ないんです。形式的なことが悪いことは決つている。

小松 比較的若い人の間には、所謂形式的総親和ぢやなく、質的の総親和というか同志意識に因るところのものが最近著しく高揚されて来つた。これが私は本当に新日本を建設する源泉になるんじゃないかと思う。

杉山 それは鬭争を通じて行われるもので、永い間

それで行けるものぢやない。どうしても鬭争なしにはそういうものは出て来ぬと思う。自分の反対者を皆潰すことによつて盛りあがつて行く。

松村 イタリア、ドイツもあれだけになるためには皆鬭争をやつて来ている。それまでには乱暴なこともあつた。だからなかなか概念論だけでは實際問題は行けないと思つてゐる。これは一つの鉄則だと思つてゐるんです。いけない奴には飽くまで争闘してやつて行くより仕方がないと思ふんです。

記者 さつきから大分インテリゲンチヤという言葉が出てゐるんですが、東亜協同体でも東亜新秩序でも、中央聯盟でも、結局インテリというのは僅かの数で力は弱いものですから、本当の国民層に届くような強力なものが必要ぢやないかと思ふんですが、そういう点はどういうよう

にお考えでしょうか……。

松村 必要でしょうね。

杉山 青年でも、勤労青年が今度の事変で如何に力強いものを發揮したかということをも、僕等は見せつけられたんですからね。ぎつくばらんに言う、この人たちは理屈の上でそう高い理想は持つていませんヨ。いい悪いは別として……。

松村 私は兵隊だから言うんじゃないが、士官学校の教育は勤労教育ですヨ。ああでもない、こうでもないというよう学者的なタイプの人間は、諸先生方を前において失礼ですが、大体実務者としては落第です。或る目標に達するまでにいろいろひねくつて行くというのは、実務を取る上に於いてはあまり為にならんですヨ。それより健康と善悪の判断です。大体、本を見たつてそう読めるものぢやなし、健康と判断力だけが資本だと思ふんです。ぐずぐずしたねぢくれた

根性になることは、実務をとる上には却て害がある。

小松 それは非常に高い理想は少いかも知れないが、少くとも若い人が持つている一番尊いものは熱情ですね。

杉山 高い理想に結びつくのが好ましいのは判っているが、現実的には本能的な直感とか、熱情とか、時代の雰囲気もあるでしょうし……。

長谷川 勤労者全部に高い理想を与えて理解をさせて引張って行くということは平時に於いてはいいでしょうし、又理想的でしょうけれども、今お話があつたように今と六ヶ月前とは丸で情勢のちがつてしまつているというような時代にな、そういうことをやろうというのは、それこそ昔と相も変らぬ、デモクラシーだと思ふんですね。そういうことをいうことが古いと思ふんです。

杉山 それは急場の場合ですね。理解させることは如何なる場合でも必要でしょう。

三木 それでなければ持久力は出て来ないんですよ。唯、一時の情熱だけに終つて……。

松村 しかし、あまり懷疑的なものを持たせるということはいかんですね。五里霧中のところへ引つ込んでしまふということは非常に悪いんぢやありませんか。

三木 小松さん、いろいろ民間の文化団体がありますね。そういうものについて、精動¹はどうお考えですか。

小松 私共はあらゆる方面に連絡を取つて取入れて行きたいと思つています。

三木 現に、そういう具体的のことをやつておられますか。

1 国民精神総動員、第一次近衛内閣に於いて、戦争に国民の精神を総動員せよとの政策・運動で、小松は幹部の一人。

小松 今のところ加盟団体を優先的というか先に考

えています。たとえば日本文化中央聯盟のような所と手を携えて事を議するということのようなこと、それから指導性を持つ文書とか、七月七日の国民的誓詞というようなものを作る際には国民精神文化研究所等で研究されているものを現実の問題と結びつけて考えて貰うような方法を講じています。これは成るべく広い範囲に今後及ぼして行こうという方針でございます。これは是非ともやらなければならんことだと思つています。

三木 これまでのところでは民間のいろいろな文化団体には殆ど精動と聯絡がないというようなところがあつて、あるのは非常に限られたものであり、一部に偏したものだということがないでしょう。

小松 そういう点については先程来お話があつたよ

うに一つの形式論でなく物を考えて行かなければならんという風に考えています。形式論もやるが、同時にそれに捉われざる方法もあらゆる部門について考えて行くつもりでやつていきますけれども、現実の手の及ばないところは相当ありますが、恐らく今後とも努力してやつて行かなければならぬものだ、という風に考えています。

記者 杉森先生、最後に今までのデモクラシーとちがつた意味に於いて何等か、尊敬しながら同時に実勢の急場に間に合うように的確にやつて行く、というようなことについて、結論的に仰しゃつて下さい。

杉森 今までのデモクラシーは一つの問題に就いて関係のある皆に意見を發表して貰う、ということをやつて来ましたが、そこまではいいと思うんです。そこまででも実際にはなかなか巧く行われない。買収したり、嚇したりしたので本音

でない意見を發表したが、そこは直さなければいけないと思いますが、形式的に行つて一人一票とか、普選とかいうんですが、皆に本音を吐いて貰うことが出来るならばいいが、しかし一つの問題に対して賛成とか反対の手の数で最後の行動を決定してしまうことが悪いと思う。つまり多数決というのは悪い。多数決でいい場合がある。それは海へ行くか山へ行くか好きな方へ手を挙げろというんで一つでも多い方へ行くというような場合ならいいが、戦不戦の如き皆の生活の根本に強く変化を及ぼす場合は困る。今政府はそんな時代ではない。少くとも戦争というものは或は現実であり、或は可能である。それには相当大きな生活上の理由がある。これは皆の本音を聞くということはやらなくちゃならんが、これも今までは行われていない。どうすれば皆の本音が聞き得るか、それを十分に知つ

て、然る後にそれを決定するまでには——問題によつては多数決に依りますが、問題によつては多数決に依らない、或る少数者——場合によつては一人、場合によつては一人でなくてもいいが、極端に言えば一人が十分に理解し、評価して全体のためにこれがいいということを、その人の創造力を加えてクリエーチヴに考えて、決行する。だから初めの半分だけは従来のデモクラシーにも取るべき点があると思います。あとの多数決というところにはいかん点が大いにある。だから今のヒットラーやムッソリーニのやっていることがあつて完全だというようなこととはない筈だと思ひますけれども、時代としてはあすこに一つの指標的なものがあると思ひます。ただどこまでも皆の本音を聞くかということとは宜いでしょう。しかし決める方向だけははっきりしている。だから今後の行くべき途は本當

の総力を發揮させるために皆の本音を十分傾聴するようにし、最後の決定は唯頭数で決めるような責任のないことはやめる。そこに将来の政治の一つの姿があると思う。

記者 それでは時間も経ちましたから、これで……有難うございました。

底本：『改造』1939.8 21巻-8号

【参考】

「学芸展望」1939.6.19 東京朝日新聞

出揃った七月の文芸雑誌を眺めると、所謂時局物が、まるで姿を消して了った。どれも時局の際物を排しましたという馬鹿面である。眺めていると、変な気がしてくる。

○……

今日ほど、文学者が書くのに困難な条件の揃った時は嘗て無かった。そして今日程文学者が、安易に書いている時も嘗てなかった。嵐は来ているのに、精神の嵐は何処にも見えぬ。

○……

愚作「東洋」の問題から、編輯者の責任を問うという武田麟太郎の愚問が出る。編輯者の責任には、自ら限度がある、という中村武羅夫の愚論が応ずる。何たるデマか。我国の雑誌ジャーナリズムは、単に企業化の点で、文明国なみであるに過ぎぬ。

三木清の「全体と個人」【三木全集第十四巻収録】（文春）に対して、陸軍情報部が、駁論を持ち込んだと伝えられる。いい事だ。大いに論戦してほしいものだ。編輯者を呼んで懇談などしているよりは、どれほどいいか知れやしない。

○……

日本文化連盟が、皇紀二千六百年を迎えて行う芸

能祭の準備を始める。おぜん立てを見ても一向に智慧の無いものだが、智慧のないお祭りは、松本学の得意とする処だそうだから、それもよからう。

○……

お祭りは来年だが、今日の芸能界なるものがすでに、金がばら撒かれたお祭り騒ぎ以外の何であるか。ほんとのお祭りが始まる頃には、芸能家どもの知らない国民思想の様々な深刻な面がそろそろ現れて来るだろう。

(天地人)

「学芸展望」1939.7.31 東京朝日新聞

最近「一日戦死」と言う妙な言葉が出来た。首相の「一日戦死」は二十六円三十銭になるそうである。又しても何という非文化的な言葉だ、と人々は慨嘆するのであるが「文化的」と言ったところが、「一日戦死」より日本語として高級なわけではない。「文

化ダンタイ」が「文化サルマタ」より、その意味するところが、深長なわけでもない。

◎……

【略】

◎……

今月の雑誌を見て、恐らく常識ある読者は「東亜協同体」論もいよいよお終いだ、と思つたろう。つい先だつての「日本主義論」と同一の轍を踏むであろう、とは少し気の利いた者なら誰でも直覺していた筈である。要するに思想と思想とが戦つたという様なものではない。思想家達は、ジャーナリズムの上で新しい言葉の使用による新しい思想問題を提供するが、実際に提供されるものは、思想問題などではない。彼等の意に反し、いわば言語上の当世風に関する極めて難解な問題が提供されるに過ぎないのだ。

◎……

そんなことを言つたら、身も蓋もないではないか、

と思想家等は言うだろう。しかし、言えば身も蓋もなくなるから黙っている人間は、君等が考えているより遙かに世の中には多い事を知り給え。そう言う人間が最上の批評家なのだ。ファンから批評家の生れた例はない。その点映画ファンも思想ファンも同じである。

(天地人)

座談会「青年学生に待望する」

三木清

島木健作

佐藤信衛

(於・鎌倉)

学生の読書力は果して低下したか

島木 学生の読書力が低下したと云うのだけであ
れはどう云うことですか。

三木 それは自主的に自分で撰択して本を読む能力
がなくなつたのではないかしら。

島木 古典を読む力の低下と云うことも云うのぢや
ないかな。

三木 そう云うこともあるね。外国のものでも、第
一、外国語の力が足りない。漢籍を読む力もな

いし、日本の古典だつてあまり読めない。そう
云う力は次第に低下しているらしいね。之れは
どう云うわけだろうか。外国語の時間だつて相
当あるし、国語漢文の時間も中学から合せてみ
れば随分あるが、どうして読書力が低下したの
かしら。

島木 そう云う時間はあるけれども、古典をよむの
は特殊のものゝことで、一般にはそんな必要が
ないと云う風潮は強いと思う。

佐藤 毎日読んで居る新聞や雑誌の文章にも古典を
読むことを刺戟するようなものがないから。

島木 刺戟するものもないし、教育だつて、力なん
か注いでいやしない。

三木 でもこの頃は伝統とか何とかと随分やかまし
く言つて居る。

島木 だからだ、古典とか伝統とかつて、声だけは
さかんだが、それを撰取する道については考え

てなんかいないんだ。たとえば、漢字制限だろう、外国語の時間を減すと云うだろう。古典を原典でよむなどは特殊な人間だけに、必要なことで、そしてそう云う特殊な人間は益々必要だと思っているだろうが、では、そういう人間は一体どうして作られるのか、漢字制限論者も、外国語排斥論者も、誰も考えていないぢやないか。特殊な人間だって、一般的風潮とは無関係に生れはせんからね。

三木 第一読めないのだね。伝統のことなどやかましく言つて居る連中だってあまり読めないだろう。

島木 僕だって何もよめない。ところで読める人、明治時代の教育を受けて、自分は読めるでしょう、其処から良いものを沢山摂取して自分の今日をつくつた人、そう云う人がやはり、漢字制限で、もう外国語が要らないとい

う。そういう人は自分が受けた教育をどう思つて居るのかね。今の教育に較べてどう思っているのかね。自分は損をしたと思つていいのかね。古典はいらぬとは誰もいわぬ。漢文も外国語もよめないでも、古典の真の摂取の法はあるというのかね。新しい道を拓かないで、古い道をとぎしておいて、古典古典というのは、随分、おかしな無責任なことぢやないか。

三木 やはり原語で読むほかない。いくら良い翻譯ができてても翻譯は原典とは違う。古典の尊重は原典の尊重だ。

島木 教育の制度にもなつて来るけれども、特殊の人を養うと言つたつて、今の教育の制度で、そう云う特殊な人間を養う別な教育の系統はないから、一般の中から出て来るのですからね。

イデーのない技術教育の欠陥

三木 古典を尊重するというような人文主義的教育

理想に対して、教育者の中にも近来随分反対があるね。もつと実際の教育、技術的に役に立つ教育をやらなくてはならぬと云う意見が強いでしょう。

島木 その二つを直ちに対立したものと考えるというのがおかしいぢやないかな。

三木 これまでは中学は人文的教育をやり、工業学校とか商業学校とかは実業的な、技術的教育をやつて居たのだけれども、今はそう云う区別をなくして、すべて実際に役に立つ教育をやらねばならぬという考え方が強いのではないかしら。そしてそれが進歩的な教育であると考えられて居やしないか。

島木 三木さんも教育改革同志会と云うのに入つて居るでしょう。あれのプランを読んだけれども、あれはどうです。

三木 あれにもかなりそう云う傾向がありますね。

島木 高等学校、専門学校をなくする案ですね。

佐藤 目的を弁えない盲な教育はいけない。何によらずたゞの技術教育と云うものは非常に危険だと思ふね。教育が或る特殊の特能だけを仕込むと云うことだけをやつていて、もしそう云う人間だけになったとしたら恐らく困つたことになるよ。

三木 そう云う弊害が相当現れて居ると思ふね。人文教育だつて、矢張り一つの技術の習得である。それは自然科学的の技術とは違うけれども、文

一 1930.5教育研究会発足、1933.10昭和研究会発足共にその下部組織となる。1937.7同会を拡大改組し「教育改革同志会」を「識者86名を会員として、霞山会館に独立總會を開催」したという。

章を読むと云うことだつて、古典を解釈すると云うことだつて、一つの技術だからね。近頃言つて居る技術はそう云う技術ではなく、物質的生産の技術なのだが、かような技術の必要は勿論どこまでも認められねばならぬけれども、それだけになつてしまうと、悪い意味の専門家だけが出来て、大きなイデー、深いイデーを捉えることのできる人間が作られない。専門家や技術家ばかりになると、科学にしても結局大きな進歩がなくなる。詰り袋小路に入つてしまうようなもので、本当に新しいものを発見するような人間は出て来ない。

島木 今みたいに専門教育を受けるまでに、相当の長い期間があつて、高等学校があつて、いわゆる人文教育を受ける機会がある今日でも、技術家などには今言つたような欠陥が指摘される訳でしょう、それなのに是からはそういう過程

青年学生に待望する

もなしに早くから技術教育ということになれば、今言つたような危険性は増して来ないかな。片輪な機械的な人間が出来ると云う危険が。

佐藤 併し詰め込むだけではそう云うものは出来ないのだよ。技術だけを習わせるのではほんとうの技術者が出来ないと云うことになるね。

学生の人文的教養を高めよ

三木 現代文化を全体的に考えて見ても、昔は兎も角、西洋であればキリスト教と云うようなものがあつて、一つの共通な世界観が与えられて居つて、其処に纏まりがあつた訳だ。文学をやるうが、哲学をやるうが、其処に何か共通のものがあつて、社会に一つの纏まりがあつたろうと思う。所が今日ではそう云う共通の世界観が失われている。これが何か新しい形で出て来なければ人類と云うものは救われないと思う。そして

科学だけではどうしてもそう云うものは出て来ないだろうと思う。

島木 教育の制度などは次のことということになるね。

三木 現在の日本の教育制度は諸外国に較べて劣っていないのではないか。外国の良い所を取り入れて作ったものだから。教育問題の根本は制度にあるのではない。制度をいくら改革しても五十歩百歩の違いだ。根本は教育の精神を何処に置くかと云うことにあるね。

島木 僕もそう云う感じだね。第一明治と較べて見ても制度其のものは変つて居ないでしょう。それで教育の効果と云うものはうんと變つて来て居るからね。

三木 そういうわけで、今日の学年に対しても、いたい我々は何の為に生れて来たのか、何の為に生きているのかと云うようなことについて、真

面目に追究して考えて貰いたいと思う。

島木 本を読むつたつて見当が付かないからね。

佐藤 文学をその例に取つてみてもこれが何の為のことかと云うことがだんだんはつきりしなくなっているね。文字が人間を抑えている。人間が文字に負けている。何のつもりか分らなくなつて来ることもある。これは文字としては却つて墮落だと思う。どうしてそうなつたかという、すべてを人間のすることゝしてみる人文主義精神が衰えたからだ。明治よりも衰えてるからだ。どうも各方面に真に衝に當つてやる人がないというのは、完全人がないことなんだ。技術家はそれはありますよ。たしかにすぐれた技術家が養成されていますよ。しかし、そういう人文教養というものを欠いた技術者がほとんどの技術者かどうかは疑問だ。その技術もきつとどこか欠けるちがいない。

文化の交流に欠けた日本の社会

三木

そう云う教義と共に僕は斯う云うことを考える。日本人の交際と云うものは、是が随分偏して居るのぢやないかと思う。西洋人は交際を楽しみ、政治家にしても政治家同志だけでなく、軍人とか学者とか文芸家とかと親密に交際している。其の間に自ら人間を通じて文化の交流が行われて居ると思う。所が我が国ではとかく政治家は政治家だけ、軍人は軍人だけ、学者は学者だけで交際するという事になっている。だから人間を通じての文化の交流が行われない。そこにまた専門家的な弊害が生ずる原因がある。高等学校時代の良いところもそういうところにあるのではないかと思う。理科の生徒と文科の生徒とが一つの所に居て交際して居る。其の交際から文化の交流のようなものが生じてくる。

青年学生に待望する

つまり文化の交流と云うことも人間の交友といふことから考えられねばならない。

島木

どうして日本はそうなんですか。

三木

さあ、どう云う訳ですか、交際とか社交とかいうものゝ、本当の意味が理解されていないのではないかな。社交と云うものが日本では何か取引のように考えられ、功利的の目的を以て行われている。外国では交際が交際として純粹に楽しまれる。一晚を楽ししく過す為にいろんな人が集まつて駄弁る。その駄弁ると云うのもくだらないことを話さないで、文化的な話をして楽しむようにする。所が日本では集ると云うには何か目的を以て集まる、陰謀を企だてるとか金儲けの相談をするとか……そこで待合などが盛んに利用される。目的のない交友と云うものであつて交友から教養が生ずる。

佐藤

だからいろいろな専門家が交際う時はわざと

専門家の資格を棄てゝ交際おうとする。それがいいけない。だから碎けて交際うと云う交際しかない。交際うと云う時には本当の特色がなくて

……

三木 だから、違つた職業の人は飯を食うとか酒を飲むとか芸者買いをするとかという、人間共通の本能的なところで交際する。

佐藤 それでは交際いにはならない。それでは誰と誰がやっても同じになる。どんなに交際つたつて何もならない。

島木 此処数年、自分達の世界にだけこもつて居ると云うことがいかぬと云うことで、それは社会の動きそのものが要求したのだが、色んな仕事に携わつて居る人が接触する機会があるようになって来たでしょう。文学者の例なんか取つて見てもね……併しそれは実際の感じで言えば長続きしない感じだね。文学者でも、軍人でも、

官吏でも、実業家でも、みんなに、底の方に共通のものがあつて……ちよつと言ひ現しにくい、そう云うものゝ上に立つた専門家同志ならば良いのだよ。それがないからお互に通じ合わなければならぬと思つて会つたのが、却つて、お互いの差別を感じて一層はなれてしまうということにもなるのだ。

佐藤 文学者は文学者として平気で居る、実業家は実業家として平気で居る、そうして平気で他に氣を兼ねずに旨く交際えなければいけないのだ。それにはまた互に結びつける共通点がなくてはならないが、その共通のものが僕がさつき言つた人文教養と云うものなのだ。

島木 それがないから困るのだよ。何か言うに言われぬものが欠けて居るのだね。

佐藤 話が飛ぶようだが高等学校の生活がなぜいゝかというところ云うものがあるからなのだね。

人によっては一生で一番いいところかも知れない。なぜってというと、世の中をまだ知らないだろう。誰も職業人ぢやないからね。そう云う世の中を知らなくて専門家でも職業人でもないということが、人間の生活の大切なものだけを持たせてるようなことになるんだ。その氣心が互に通じ合うんだと思うな。

三木 併し高等学校の生徒もだんだん變つて來たのぢやないかね。

佐藤 僕は若い人が惡くなつたとは思わないがね。いや、会う人会う人みない、これからの若い人でなければ他に頼みになる人はないがね、しかし、實際そう云うことになつたようだね。

才能平均化時代だ

島木 どうすれば宜いのだね實際。

三木 教育が變るといふことも結局政治が變らなけ

れば駄目だね。政治が變らなければ今日の青年が變るといふことも難しい。

島木 其の政治から皆そつぽを向きたがるような状態だからね。

佐藤 だから昔のように少し桁の外れたようなぼんやりした生徒が居なくなつたそうですね。監督はきびしいそうだ。

三木 居ないね。高等学校ばかりではない。学生全般にね……

島木 学生ばかりではないよ。何処にも居ないね。

佐藤 突飛な風変りな人間を言つて居るのぢやないのだから。

島木 例えば才能なんと云うものを見てもだ。いわゆる平均化時代だ。

佐藤 一つは斯う云うこともあるのぢやないかね。ちゃんと一本の道が付いていて何処迄も其処を行けば宜いと云うことがないのぢやないのかね。

その道が今はないのだ。道をさがしてかゝるの
では、どうせ半信半疑の努力しかできない。道
があればそこに殉ずるということにもなる、昔

はこの道があつたというだけなんだ。つまり、
今の人にはものに殉ずると云うようなことをさ
せるものがないんだね。

島木 安心して此の道に行けば宜いと云うようなこ
とがね……例えば何か研究するにしても、それ
に安心して腰を据えられるという気がしない。

三木 昔はそれを一生懸命にやって居れば何とかな
ると云うことがあつたね。だから自分の個性に
頼ることができた。今ではそれが氣持としても
出来ないのではないか。

島木 例えば本当に腰を落ち着けて研究しようと云
う心組みになつて、相当の頭と、意志さえあれば、
次から次へと学問の階段をのぼって行けるんだ
からね。古典をよむ力の低下だつて問題になら

ずにすむ。何と言つても昔の辞書も碌なもの
がなかつた時代から較べればね。だから先ずそ
ういう落着ける氣持なんだ。

青年自身の意慾を確立せよ

三木 一冊読めば次に読むべきものが自ら決まつて
くる。ところが今の人は始終何を読んだら宜い
かと訊くね。今の人はデパートの子供部、婦人
部というのと同じように、学生部と云うような
ものが作られて、そこにならべてある本なら何
でも自分に關係があるものと考え、そうでない
ものは自分に關係がないと考える。自分自身で
発見しようという氣持が足りない。デパートの
学生部でレディメードで、売つて居るものなら
安心して何でも買つて読んでみる。そういう氣
持だね。つまり外部から何か与えられることを
望んでいるので、自分で発見して行こうと云う

ところが少ない。

佐藤 とにかくどこでも徹底してみると云う氣持がなくてはね。

島木 自分の要求に対して誠実でないということでもあるんだ。

三木 何か一つのこと徹底を求めるといふ氣持は昔の青年にあつたと思う。

島木 僕は山上という人の甲冑の本をよんだけれども。あの人は二十何歳かであゝ云う大部な仕事をやって居るが……早稲田の高等学院か何かに入つて居た時からすでに手がけて、十年ぐらゐみつきり一つことをやって居る訳でしょう。事情はともあれ。そういう人間がなくなつて来たのだ。

佐藤 抜群のことを仕出かそうと云う氣持が欲しいね。

島木 落ち着いてやろうと云う氣持が持てなくなつ

たのが第一なんだ。

佐藤 しかし是は若い人の責ばかりではないね。
三木 社会的の原因に依ることもあるね。

島木 其のなかで生きてゆかねばならんのだからね。社会に原因があるとだけ言つては居れない。

三木 青年自身の意慾を確立しなければならぬ。社会がどうあつても。

佐藤 昔はドイツ語の字引を一冊暗記してしまうなんていうばかなことを、反省も何もなくたゞやれたが、今はそう云うことをやらせる空氣がないよ。

三木 そう云う憧れがなくなつたね。僕等の学生時代には本と云うものが大きな憧れだった。僕等のような田舎の中学生には、丸善の目録を見るだけが非常な楽しみだった。問題はやはり青年自身の意慾を確立することにある。それには青年運動と云うようなものを通じて青年の氣持を

互いに育て、行き纏めてゆくことが必要であると思う。教育制度の改革よりも青年運動の方が重要である。新しい形に於ける学生運動と云うものが起つて来なければならぬと思う。ドイツでも前から渡り鳥運動というようなものがあり、ヒットラー青年運動になったのだが、日本でも新しい学生運動とか青年運動とか云うものが学生や青年自身の中から起つて来なければならぬと思う。社会と言っても、社会は誰かゞ変えるのでなければ變つて来ない。志を同じうした者が互に励まし合つて行く青年運動と云うものが起つて来れば、教育も自ら變つてくるので、単に制度の改革だけでは駄目だね。

自主的な青年運動を期待したい

佐藤 昔の教育が特に今より良かったと云うことはないからね。

島木 今の人が教え方も丁寧でしょう。

三木 今日の青年が変るには、青年自身の主体的な運動が起つて来なければならない。学徒隊というようなものにしても、本当に自主的に起つて来るものであれば宜いね。官製で上から組織したものではありません。一般にいつて、国民運動が起つて来ることが今日の非常時局を打開する要件だと思うね。その国民運動の先駆として、或いは一翼として、新しい青年運動を期待したいね。

島木 何か形あるものとしてでなくても風潮としても、どうも感じられないね。いつでもそう云う流れと云うものを感じられたがね。何か組織的な行動でなくてそういう流れそのものがどうも感じられないのだよ。

三木 今の一つの希望は、女が偉くなると云うことではないか知ら。女が偉くなつて来ると、それ

に影響されて男もしつかりしてくるかも知れない。

島木 どうかね。併しそれは一つの刺戟でしょう。

そう云う刺戟と云うものは、今でもない訳ぢやないだろう。刺戟がない訳ぢやないのだが、感じる方がね。反撥して起たないと云う、何かそこに欠けたものがある訳なんだ。だから新手的刺戟が出て来ても、今のまゝぢや仕様がなと思う。例え女だつてね。

三木 支那事変なんかも大きな刺戟なのだから、之を機会に何か起つて来なければならぬのだけれども、主体的にはまだ何か弱いところがある……

島木 政治が頭におつかぶさつて、何か暗い氣特になっている。

三木 大臣の演説を聴いたつて、感激がないからね。国民がそれに感激する訳はない。まして青年は

ね。そう云う感激のない政治には誰も付いて来ない。

島木 だから政治に対しては無関心的傾向でしょう。無関心というのは適切にいい表さないが、何と云うかね、関心を持って居つたつて引付けるものがないから、積極的にこつちから働き掛ける氣持と云うものは持てないやね。

佐藤 いろいろ持たそうとしては居るがね。
三木 もつと行詰らなければ政治は変らないのだろ
うか。

優秀な学生は現実から逃避するか

島木 だから勉強する学生なんてものは、現実の社会から眼を閉ぢて、一種の書齋派、そう云う傾向を、優秀の学生ならば学生程、そうなつて行くのぢやないかな。

三木 併し書齋派と言つても、何かはつきりした目

的があるかね。

島木 そう云う目的のない書齋派だよ。

佐藤 昔は学問とは何事ぞと云うことがとにかく分つてやつて居たが、それがどうも今はなくなつてしまった。しかし、新しい人は前の人を真似るんだから、前の人がいとも正しいと云うことにばかりはゆかないので、つまりデグラダシオン【Degradation 格下げ・退落】だ。

三木 先輩の作つた型を破つて、新しいものを作つて行こうと云う気持があつたが、今はそれが足りないのぢやないかね。殊に従来のも、唯一の大問題であつた就職問題が最近好いだろう。だから余計その気魄がないね。詰り引つ掛りが無くなつたからね。

佐藤 就職のせいにばかりするのはどうかね。

島木 併し昔の学生だつてみながみなはつきりした目標、何の為に生きるとか、学問は何の為に云

うことが、はじめからはつきり分つて勉強した訳でないからね。憧れとか知識慾そのものだったりしたのだろう。例えば知識慾と云うようなものだね。そう云う風なものを取つて考えて見ても、どうなんだろう。そう云う知識慾だつて減退して居るのぢやないかね。

佐藤 昔の青年には、ちゃんと土台石が判つて居た。兎に角古くから残つていたものがあつた、それが段々判らなくなつた。学問と言わず文学と言わず、一体どうすれば宜いと云うことがちゃんと見当が付いて居たと思う。今のようない。

島木 今のような状態が、一層はげしく知識慾を刺戟するとだつていけないことはないだろう。

佐藤 何か知識慾といつてもいろいろあるのですね。真に知識慾というには純粹な動機に由つて知識を求めると云うことが分つていなければならな

いのだが、それには若い人が分らないでも周囲にそう云うことを感じさせる模範なり空気なりがなければね。今学問をしようとしたつて、どんなことをして、それがどうなる、と云うことが分らないではだめだよ。

苦勞が足りない五十代の人々

三木 今の実權を握つて居る五十代の人間、是が悪いと思うね。宜い加減にやつてゆけた平和の時代に、日本の資本主義の上昇期に育つて来た人間が今大体權力階級だから、そう云う者に氣に入るようにやらなければ成功が出来ない。そう云う者に氣に入ろうとすれば、大体詰らない人間にされてしまふ。

佐藤 そう云う時代は極く「好い時」なんで、みんな苦勞がない。苦勞がないから反省もなく、いつまでも自分が良いものだと思ふかも知れない。

時代が循環して新らしく良い者が出て来ると云うことが分らないんだな、きつと。

三木 そう云う今の実權を握っている人達が日本を詰らなくして居ると言つても宜いと思うね。寧ろ七十の老人の方が今でもしつかりして居る。

島木 闘つて来たからね。

三木 自分達が闘つて新しい道を作つて来たのだから、五十代の人にはそれに乗つかつて、均らされた道を歩いてゆけば出世が出来た。そう云う連中の考え方、生き方に追隨してゆかねばならぬとすれば、今の若い人は氣の毒だと思う。

佐藤 明治以来の日本はたゞそれより前の古い時代の文化を使い減らしたもので、本当の天才の作つたものはないと思う。明治の時代に、新しい才能が出て作つたものでなく、古い時代の遺産をたゞ使い減らして来たのぢやないかと思う。それがすつかり使い盡されてこんな全く新しく

なつてしまつては、古い模範はもう役に立たないから、本当にそう云う才能が出て来て作つて見せて、外の人がそれを見て成る程そう云うものかと云うことが分り、そしてそれを模範とするようにならなければ駄目だと思う。斯う新しくなつてしまつては、昔に還ると云うことはちよつとむづかしい。だから、古いものが手本にならないから、何事によらずどう云うものでなければならぬかと云うことを、ちゃんと実例で見せる者が出て来なければ駄目だ。新しいものを、言葉はおかしいが、救うのにはそれよりほかにないと思う。文章がいゝ例です。文章が悪くなつたという。しかしそれを昔に還れと云うことはできない。第一今の人には昔のものはよく読めない。「我輩は猫である」は若い人はほんとはもう読めないだろう。どうすれば宜いかといえ、矢張

り斯う云う崩れたしかし新らしい文章や用語で本当に書く著作家が出て来て、皆がみとめて是が成る程文章かと云うことになって来て、初めて文章と云うものが新しくなるのぢやないかと思う。明治文化と云うものは天才が出て作つた文化でなくして、古い時代があんなにして、終つたものだ。

島木 天才が出現して、新しい抛り所を作らなければ駄目だと云うのかい。

佐藤 そうだよ。天才と云つても大袈裟にしないでいゝ。

島木 古典というものはどうなる。

佐藤 明治前後の日本ほど、古い、らしい、と云うものがなければ、古典と云うものは生きて居るけれども、古いことがそのまゝ生きて居ないでも、古典が次のものを養ひ、それがまた次のものを養うというようにして、ずっと繋がりがあ

るだろうが――。

島木 だから古典の摂取などと云うことも意味が非常に違ってくるね。

佐藤 そんなに古いことを言わないでも、例えば現存の永井荷風氏の作品が読まれたところでアップレシエエシオン【appreciation 正当な評価】はないと思う。戯作者の文学に養われて古い東京の生活をした、そう云う人が書いた文章が今の若い人に分りつことがない。今流行の小説を見れば分りきっている。

中途半端に終った西洋文化の摂取

島木 西洋から学ぶと云うことが中途半端になつて了つた。それがやはり不幸ぢやないのか。

三木 学び切る必要があるね。

佐藤 西洋の理解も明治人は却つてよくできた。それは明治人と云うものがそれなりにちゃんと出

来たものだつたからだね。向うと対等に話が来たよ。

島木 明治のものは建築にしても何でもそうだよ。満州や朝鮮を旅行しても、明治時代のもものは宜いよ。

三木 軍人会館【今の「九段会館」】式の物を拵えて喜んで居るのだから救われない。

佐藤 だからそう云うことを考えると、政治とか何とか云うものより、もつと底の方の物が腐つて来る、と云うといけなけれども、弱くなつて来るのだらうと思うね。

三木 そう云うことの起る原因は政治でもあるね。矢張り両方だね。

佐藤 だからそう云う政治は何処から出て来るかと云うと、矢張り其の時代から出て来ると思う。僕は是は世界に關聯ある問題でも何でもなくて、矢張り日本だけのものだと思うね。日本は是非

其処に還つて、其処からやり直す。

三木 そうでなければ、支那の方に先鞭を付けられてしまふね。うっかりして居るとね。

佐藤 支那と云う弱大国が隣にあると云うことが何かにつけて非常にいけないよ。

三木 日本は神風が吹き過ぎるよ。神風が吹き過ぎるから、本当の深い大きいものが出て来ないと云うことにもなるね。

佐藤 そう云う時代だから、本当の文化と云うものに対する感覚が欠乏して居る。本当に文化的に価値のあるものを心から尊重すると云うことがないね。皆お互いに牽制し合つて途中の所で浮んで居つてね。

島木 繋がりか日本と外国と違うというのはどうしてそんなんだい。

佐藤 いったい明治と云うものは、殊更ら新しがろうとしたのだね。例えば漱石が自身言つてるよ

うに自分の教養の基と云うものは青少年時代に読んだ古いものなんだ。それでいながら自分はそう云うものをおくびにも出さないのだ。たゞ新しがつて見せたのだ。だから、次の世代の人はそう云う蔭のことを知らないで、新しいところばかり観て居たから、だから本当に教養の基になつたという古いものゝことを段々に忘れたのだよ。だから徳川時代の学者の文章でも著述でも見てだね、若しあれだけ心がけの上でも文章の上でも立派な前例と云うものがあつて、それがずつと明治で殊更ら棄てられるということがなくて続いて来たならば今どころではない。もつとく立派な洗練ある文化になつたろうと思う。どうしてあんな立派な古典がすこしも生きて居ないのかそれが不思議なんだよ。

連続性に欠けた我が国の文化

三木 それは日本の文化の根本的特長かも知れないね。詰り連続性と云うものが足りないのではないか。連続して次から次へ積み重ねられて大きくなつて行くと云うことが足りないだろうと思う。文化が非常に流動的であつて、建築的な大きさと云うものが出て来ない。併しそう云うところを克服してゆかなければ世界性をもつた日本文化と云うものは作られないように思うね。

島木 文化全体の上に構成が足りないんだね。それは国民性と云うようなものかい。

三木 国民性と云うことも……

佐藤 外国の影響がいつも日本に多過ぎたと云うことがあるのぢやないかな。しかし、いつたい創造と云うものはそんな突飛なものぢやないのだから。

三木 影響を受けて出て来るものが創造だからね、それ以外に創造はあり得ない。所が日本では

妙にオリジナリティを尊ぶと云うことが多いのぢやないか。そして独創的とか、劃期的とかという言葉が安売りされている。

佐藤 だからオリジナリティに余り拘泥して居るね。

三木 だから日本では学派というものが発達しない。アカデミックということとオリジナルということとは或る意味で両立しないということをアカデミーの人が考えないでオリジナリティという言葉を好いている。

佐藤 いちばん地味なことがオリジナルということなんだけれども、……

三木 オリジナリティと云うことは長年経つてから初めて決ってくる。妙にオリジナリティを喜ぶのは日本の芸術、殊に学問なんかの弊害だと思ふね。矢張りもう少し人のやつたものを基礎にして、少しづつでも延ばして行くと云う氣持が

なければいけないだろうと思う。

佐藤 一つは学問や文学でほんとの交際と云うものがないし——。立ち廻るようなことはあるがね。

何も彼も寒心に耐えないと云うものだね。

三木 交際と言えば皆裸になるか、さもなければ功利的な目的から、おべつかを言いに行くとか、名前を覚えて貰いに行くとか云うことなんだよ。

島木 行動の上の、何か生活の上の交際と云うこともだが、書かれたものゝ交際と云うことも無いね。ちがった世界の人間の書いたものがほかの世界の人に興味を起させないし……表現の問題でもあるがね。反対するにしても、賛成するにしても、何にしてもさ、第一読ませないよ。よむ気を起させないよ。困ったことだ。

佐藤 そう云う論争というものがあつたと云うことは嘗てないね。

島木 言葉にしても、皆、学者は学者、官吏は官吏、

軍人は軍人で、其の世界だけで通用する言い方をして居るのだから。

三木 その弊害がなくなるにはジャーナリズムが発達することも必要だと思う。そう云う所から共通のものが出来て来る。高度のジャーナリズムが出来て来なければならぬ。

島木 併し高度のジャーナリズムと云うことより、もつと本質的なことだと思う。例えば役人の書いたものなんかを読んでもさ、僕は満州のことを知るために此頃随分よんだんだがね、さあなんと云うのかなあ……

三木 第一文章になつて居ないね。

島木 文化的センスと云うようなものだが……。

三木 我国の大臣の演説とヒットラーの演説やチェンバレンの演説と較べてみると全然違うね。あゝ云う所が根本的な問題なんだよ。

佐藤 電文を読んでみても、ちゃんと感情もあるし、

理性もある。

島木 第一魅力がないし、引付け得ないだろう。趣

旨に賛成させる前に先ず聞く気を起させなきゃだめだ。従つて色んな世界の交流なんと言ふこともあり得ないのだ。最近はそう言ふ点を、日本語の問題として論じて来て居る人もあるが。

三木 言葉と言ふものを抽象的に問題にしても駄目だと思う。

島木 単なる言葉の問題ではないからね。ものゝ考え方やセンスのことでしょう。それにしても文学者なんかゞもつと偉くならねばだめだ。

佐藤 だからそれを進めると、今日日本で最も責任のあるのは文学者と云ふことになる。だが日本と言ふ国民は、とやこうのことがあつても、土台はしっかりした国民のようだな。

三木 土台が確りして居ると云うのは。

佐藤 つまりね、政治やその基の文化についてい

ろいろ欠点が認められるような状態になつても、それで日本が危いかと云うと、そう云うことは感じさせない。

三木 日本人には強い生活力、行動力と言ふものがあるけれども、それだけ現実的で危い所まで行かないから、文化の上では深いものも立派なものも出て来ないだろうと思う。危険な深淵に臨むと言ふようなところが日本人には無いのぢやないかね。思想家でも、文芸家でもそう云う所はないね。だから日本の文化は生活文化としてはしっかりして居るけれども、精神文化としては光彩が乏しいね。どちらが宜いかは別問題だがね。偉大なる文化を作つて早く亡びるか。長く生きて居るのが宜いか。

佐藤 日本が長く生きて居るのには地理的關係がある。それが善くも悪くもある。もしこの実力でヨーロッパの真ん中に置いて見給え。

三木 果して一流国と云えるかな。

佐藤 それに、本当に他の民族との比較と云うものが出来て居ないね。一人の人に訊くと比較にならない程良いと言うし、又他の人はどうも言うし。

島木 我々自身分らないからね。外国にでも行かなければね。そう云う点は不幸でもあり、幸福でもあるのだろうね。

佐藤 或点是非常に優れ、或点是非常に劣つて居るとも云う。

島木 民族的反省と云うものを本当に深刻に持つ機会がないのだろう。

三木 だから支那でも偉くなれば、本当に考えるようになるだろう。そう云う悲劇的精神と云うか、または怒りと言うか、そう云うものが少いのぢやないかね。そう云う悲劇的精神が無いから、本当の精神的のものが出て来ないのだな。日本民

族の生活力については疑いがないけれども、立派な文化を作るということについては余程考えねばならぬ。

佐藤 日本が例えばヨーロッパにないと云うようなことから、日本と他の国とは比較されないのだけれどもね、だからまた、優劣と云うものは本当に決まらないけれども、これから世界と云うものですべて一緒くたになると、段々はつきりして来るのだよ。そして真剣な問題になる。実は今でもかなりはつきりして居るからね。

島木 併しそう云う時になつて居る今、文化的な一種の鎖国的風潮が益々盛んでしよう。これは大変なことぢやないかね。

三木 それは大変なことだよ。

佐藤 学問でも日本の中でいゝと言つても外に出して比較したら通らないと云うことがあるだろう。
三木 独りよがりでは駄目なんだよ。

佐藤 交換教授と言つたつて、貰つたものを返しに

行くようなことになる。ただ他にないというものを威張るのもだめだ。それは比較ぢやない。

三木 それでも宜いけれども、それならば自分は向うの学派のどれに属していて、此の学派に於いてはどれだけのことを改良したとか、進歩させたと云うことがはつきりしておれば宜い。ところが日本人は大体折衷主義者で（笑声）妙なもんだよ。

島木 つまり嫡出の子が居ないのだね。

青年よ！ 本当の日本精神を生かせ

佐藤 要は一つなんだから。これからの若い人に偉い人が出ることだね。まだ浮んで来ないんだから望みがあるのだ。

三木 今そこでもう少しね……斯う云うことを言うといけないが、反撥心が出て来なければ駄目だ

ね。

島木 犠牲を払わないで何かやろうと言つたつて駄目だからね。

三木 倒れる者が出て来なければ駄目だね屍を踏み越えて行くと云う者が出て来なければ駄目だよ。そう云う氣持を持つた若い人が出て来なければ駄目だと思うね。どうせ我々が生れて来たと云うことが一つの冒険かも知れないから、そう云う冒険を自分で責任を背負つてやつてみて、それで旨く行かず、又人に迷惑を掛けたと思えば腹を切れば宜いのだから。そう云うまあ一種の宗教と言うか捨て身な氣持だね。それが出来なければならぬのだと思うのだが、其の無いものをどうして作るかと云うとは非常に……

島木 併しそう云う精神は元来日本人の中に脈々として居る筈だ。そう云う意味の悲劇的精神はね。

三木 本当の日本精神と云うものが生きて来れば宜

いのだと思うけれども……

島木 それを青年ばかりでなく、有ゆるものに。

三木 有ゆる部分、我々もね。結局妥協し過ぎて居るのだね。

底本：『知性』1939.11 第2巻 11号

座談会「文化の空虚を衝く」

辻 二郎：1896～1968、東京出身、東京帝国大

学卒、機械工学者、理化学研究所所属。

三木 清

芦田 均

菅井準一：1903～1982、山形県出身、東京帝大卒、

科学史家。

於・山水樓

あまりに貧困な我国の科学政策

記者 今日とは難局にある現在の日本の政治、経済、

外交、学術などに就いて、是から余程新らしく
やつて行かなければならぬような時が来て居る
と思うので、手近な所からでも、実際に斯う改
めればよくなると云うようなことが、現在行わ

辻

れて居ないとすればどういふ点であるか、それ
からそれがどう云う理由で出来ないのか、と云
うようなことを、成るべく皆様の御専門に関係
しながら、御話願いたいと思います。一番最初
に科学の進歩が大変色々な方面に関係して重大
な問題になって居りますから、日本の科学政策
と云うようなことに就いて、現状と将来の方針
を含めて、辻先生にお伺いしたいと思います。

そう云うことは余り沢山あり過ぎるようです。
現在は非常に重要な問題になったと云う御話で
すけれども、今の状態ではかけ声だけが重要に
なって、（笑声）本当に政治家や其の他の方々
が科学の重要性を感じて居られるか。まあもう
少し露骨に言えば、分つて居られるかどうかと
云うことは疑問だと思えます。科学と云うけれ
ども、科学も斯う云う時局になって、色々な物
が足りなくて、鉄もないし、石油もないし石炭

も無い。それだからそれを早く出さなければならぬ。斯うなると科学と云うものか、それとも技術と云うものか、科学と技術が非常に混同されて居るようです。色んな技術的な物の進歩と云うようなものは、結局科学が基礎になつて居りますから、そう云う意味で科学と言われるのは、技術のことを科学々々と言われて居るので、まあ事実上差支ないと思いますが、かけ声程認識されて居ない。手近の例を言いますと、文部省で研究助成の為に非常に莫大な金を出す。今年度は三百万円の研究助成費を出されるようになって居りますけれども、三百万円位は、今の日本の経済から見たならば殆ど話にならぬ。年予算の何分の一になりますかね。

芦田 千分の一ですかね。

辻 三十億の予算と見れば千分の一ですね。千分の一と云うと、我々の方の言葉で言うと〇・一

パーセントですね。(笑声) 千分の一と云うのは、それは実験誤差の範囲内です。(笑声) 今のような時は三十億所ではないでしょうね。事變の予算も加えれば百億ですから一万分の三位になる。是位のコで非常に後れて居る科学の助成が出来れば結構なものだと思いますが、少なくともこの百倍やそこらは出して貰わなければ、ちよつとむづかしいと思いますね。

外国では売上の一割を研究費に

芦田 一つは政府に研究の総ての負担を負わせると云うことでなくして、各方面に於いてそれぞれの事業家が科学研究の為に相当の費用を投じて宜い訳なんですな。

辻 それは既に今日迄にそれをやって居らなければならぬ。急に遽で、此処でさあ金を出すから研究して見ろと言われても、なかなか研究な

んと云うものは、そんな簡単に出来ませぬから矢張り十年とか二十年も掛ります。人も揃えなければならぬ。それを前からやつて居らなければならぬのですが、政府がそれ位の認識ですから、民間も矢張り大同小異です。外国の大きな会社の話を聞くと、会社の売上げの二パーセント乃至十パーセント位を技術改善の研究費にあてて居ると云うことを言つて居ります。そうすると此の頃では一億円位の売上のある会社はウヂヤウヂヤありますから、一億円の売上として其の十パーセント一千万円ですね。二百万円乃至一千万円と云うことになりますね。外国ではその位掛けて居る所がありますよ。

芦田 一体株主と云うものは、研究費を出すなんと云うことよりも、配当を増やせと云う要求の方が強いのでしょうか。

辻 株主よりも会社の経営者である社長とか取締役

役が既にそれなんです。最近はまだ沢山に利益金を積んでも皆税金に取られる。それ位ならば一つ研究費にしようとか或は研究機関に寄附しようとか云うようなことが大分あるようですが、万と云う位の金を出したがっている会社がぼつぼつ出て来た様です。

三木 そう云うことになつて居る時にはもう資材がなくなつて居るのでしょうか。研究設備をする材料がないと云うことになつていませんか。

辻 資材の問題ですが研究に要する資材と云うものは極く僅かのもので、殆ど問題にならない位で、研究が非常に重要であると云うことは、ドイツや其の他の国の例を見てもはつきり解るのです。自分で研究をするより外に、進歩の道はありません。何処の国でも旨い事を考えたら秘密にして教えて呉れませぬ。良い技術なら技術程益々秘密にするから、自分で考えるより仕方がない。

何を基にして考えるかというと研究を基にして考えるより仕様がなない。そう云うことを大分認識して来たらしい。研究と云うことは非常に重要なことであると云うことに對してはもう異論がないだろうと思いますね。そうとするならば、其の研究の爲には少々は外のことを犠牲にしなければならぬ。将来の種ですから。兵器にしても航空機にしても何でもそうである。此処で頑張らなければならぬ訳です。

研究者を優遇せよ

三木 斯う云うことがありませぬか。近頃軍需会社なんか景気が好いものですから、技師なんかも、第一に馬鹿に忙がしいし、又収入もよくなつて来たと言ふことから、学者的と云うか技術家的の良心が多少緩んで来て居ると云うようなことではないですか。

辻

そう云うことは確かにあるでしょう。それは詰り技術が非常に忙がしくて、今迄の何倍と拵えなければならぬ。急いで作らなければならぬと云うことから技術が荒れる。従つて研究どころではない。毎日の仕事の分量も今迄の数倍になつて居るから、迎も今迄のようにやつては居れぬと云うことは勿論である。併し生産に従事する技術家に研究しろと云うことはむづかしい。どうしても研究は研究者でやつて、生産の技術者が之に干与することは必要であるが、研究は研究部を置いてやらなければならぬ。

芹田 生産部門が忙しい為に研究所の人を引っ張り出して、毎日の生産部面に使うという傾向が多くなつて居るのではないですか。

辻

それは多少あるでしょうね。併し研究所の人でも皆手を空けて遊んで居る訳ではない。研究所は研究所で毎日仕事があります。例えば今の軍

需関係で研究が殖えるとか、生産に少しでも関係のある研究でしたら其の方から、自分の仕事の範囲から又研究をしなければならぬような手間が殖えて居ります。研究者も普段よりは遙かに忙しいですね。

芦田 但し實際に作つて居る方はボーナスも多いし、研究者はボーナスが少ないと云うことはありましようか。

辻 それは研究者は少ないと云うことは確かにありますね。併し研究者は自分で研究して居る、学問をして居ると云うので、余り自分の待遇に対して不平を言う人が、少ないと思います。併し研究者を十分優遇出来ないと云うことは、矢張り研究に対して認識が不足して居ると云うことになります。研究は種になる、脳髓みたいなものですから、其の仕事に従事して居る人を優遇すると云う時勢にならなければならぬと思います。

文化の空虚を衝く

発明、研究の実用化は容易でない

芦田 私が一番初歩の問題を採り上げる訳ですが、日本に農事試験場と云う看板を掲げて居るものが、かなり多数にあります。又農学校にも研究所的の設備を有つて居る。それが日本の實際農業発達の上にどれ丈貢献したかと考えて見ると、あれだけの研究機関があつて、其の齎らした結果が案外に少ないことに驚くのですね。それは何処に欠陥があるかと云うと、事業研究の結果を實際に採用する働きに於いて、日本人が鈍いのではないですか。同じ問題は例えば……近年東京、大阪等に出来た工業試験所とか、或は航空研究所と言いますか、そう云うものが沢山出来、而も實際仕事をして居る機関との連絡がうまく行つて居ない。研究所は唯研究の為の研究所と云うことで、之を実用化する迄の距離が遠

くて、實際役立たないと言ったような欠陥がありはしませぬか。

辻 それは確かにあります。併し研究は研究の為の研究で宜いと思います。併し研究の結果を具体的に工業に移すと云う仕事は、研究よりも更に十倍も二十倍もむづかしい仕事で、是が又一つの研究なんです。

芦田 あゝそうですね。

辻 例えば有名な話ですが、ハーバー¹が空中の窒素を固定して、非常に取れ難い空中の窒素を捉えることを考えたと云うことは、もう非常に昔に行われて居る。併し其の空中窒素を固定すると云う、実験室で成功したことを、之を実際に具体化して、そうして空気の中から肥料を取ると云うようなこと、今の所謂空中窒素を拵える

¹ Fritz Haber 1868 ~ 1934、毒ガスも開発したが晩年はナチスに追われる。

仕事、それは今では立派な工業になつて居りますけれども、其の仕事をする為にはハーバーの最初の実験からは数十年も経つて居ります。それはハーバーでなしにボッシと云う別の人でした。それだから研究発明の具体化と云うことは、研究それ自身よりも仕事として困難な仕事です。それも一つの研究なんですからね。研究、発明の結果を具体化すると云うことは容易ではありません。是は一例に過ぎませんがこんなことはまだ沢山……。

芦田 電気なんかそんなことでしょね。発明したと云うことゝ、之を今日の如くに実用化したと云う間には、相当多くの苦心があつたでしょうね。

辻 発明を具体化すると云うことは、発明それ自身よりもむづかしくて、それが為には非常に多くの研究を重ねなければならぬ。例えば石灰を液

化すると云う其の原理は、もう余程以前から我々にも分つて居る訳です。触媒を使つて圧力と温度を加えて液化して、液体燃料が取れると云うことは分つて居ります。併し液体燃料を工業用として引合うようにする仕事は、そうなかなか容易には出来ない。日本ではこれからやつと出来掛けようとして居ります。ですからそれの一つの研究ですから、それ迄含めて考えなければなりません。

記者 今の理化学研究所は原理的研究ばかりでなくて、それを工業化する迄やつて居りますね。

辻 やつて居ますね。

記者 それから、研究の結果作り出された製品を、理化学研究所の名で盛に売り出して居るけれども、あれは研究費用の補いをつけると云うだけの理由ぢやないのですか。

辻 そうぢやないのです。そこ迄行かなければ本

当の研究でないでしょう。例えばお米を使わないで——お米から酒を搾えるのは勿体ないから、お米を使わないで、製鉄の時に自然に出来て来るベンゾール【ベンゼン】から作ろうと云う訳ですね。是は鈴木先生（梅太郎）や、加藤正二氏、鈴木正策氏、其他の研究所の人達が此の考えを出して研究をしたのですが、もう僕等が知つてからでも十五六年になります。当時はこんな臭い酒が飲めるかと云うことでしたが段々研究を重ね今日では立派に工業化しています。現在十五六万石も酒を出して居る。もう十五年の間に其の研究は完成した訳ですが、此の十五年は毎日絶えず其の研究に従事して居つた訳です。飲めるお酒にすると云う研究でした。

芦田 今ちよつと思ひ出したのですが、ベンゾールは今酒に使う以上に色々必要な用途がある為に、今年の米の、酒造米の制限をやる時には、芋で

無水アルコールを取って、是から酒を造ると値段に於いて六分の一で日本酒が飲める、そう云う説を頻りに唱えて居る人がありますね。

辻 ベンゾールの中からコハク酸と云うものが取れます。人造の酒の中には色んなものが入っています。例えば、コハク酸、アミノ酸、アルコール等ですね。アルコールは又別に作らなければならぬ。そう云うものを混ぜて作るので、コハク酸を作るのにベンゾールを使うのです。それからアルコールは芋から採ったものでも、糖蜜から採ったものでも宜いのです。

芦田 無水アルコールだけでは酒は出来ないのですね。

辻 それはウオッカは出来るかも知れませぬけれども（笑声）味を付けなければなりませんから……

記者 斯う云う時代になって来ますと、何か全体の

中の或部分を犠牲にして他の部分を補強しなければならぬと云うことがあるようです。そう云う場合に、不急なように俗解されながら、実は全体の上から見て、犠牲にされては困るもののが不当に犠牲にされると云うようなことがあると思います。科学の方ではどうでしょう。

辻 それは研究所では殆ど凡ゆるものが犠牲にされて居ると言つても宜いかも知れませぬね。

記者 研究資材は惜みなく与えよ、特に具体的に見れば？

辻 例えば化学実験で使う流しを作りたいと思えば、鉛管がない。それから実験用の写真材料が足りない。鉄が無い。どうしても銅でなければならぬものに銅が得られない。併し研究に使う資材と云うものは極めて僅かのもです。殆ど問題にならないのです。ですから研究と云う仕

事を、本当に世間の方が科学々々と言うように認識して居るならば、少なくともどんな研究でも宜いが、研究に使う資材だけは、もう文句なしにやる。外の物を犠牲にしても気前よくやる。

斯う云うと甚だ我田引水のようにですけれども建前を取って貰いたい。なぜならば研究者が使う資材は極めて僅の分量ですから、惜みなく与えると云うことにしても大した数量にはならないのです。仁科博士のサイクロトロンと云う有名な研究があります。原子核の研究ですが、世界的に重要な研究で、非常に鉄を使つたと云うことで、又有名です。大きなマグネットを作るのに鉄を五十トン使つた。そう云う筈棒な大きな装置は他の科学実験にはめつたにありませんが、それでも僅か五十トンです。

芦田 マジノ線を作る為には、フランスは五千万トンの鋼鉄を使つたそうですね。

記者 そう云う不便の中で研究して居られる実際の方面から、もっと研究用の資材を得られるように抗議をされたことはないのですか。

辻 そう云うことは去年の秋ですか、研究に対しては充分の資材を与えて呉れと云うことを言つた。研究に必要な人も十分に与えて貰いたいと云うことを、是は確か理研なんかも加わつて色々な人の連名で嘆願書を出したと思います。

芦田 そう云う人の声はえて小さいですよ。

辻 研究に要する資材は惜みなく与えて呉れ、金額にしても僅かの額だから決して不自由のないようにして欲しい、学者の欲しい研究の書物などは惜みなく取つて呉れ、と云うことを方々で、色々な人が雑誌などでも言つて居りますけれども、大して反響はありませんが……

三木 研究員のことですが、近頃大学の卒業生で研究の方に行こうとする者が少いと云う傾向はあ

りませんか。

辻 他の所は知りませぬが、理研なんかは殆ど割当がないも同様です。それは理研には今千五百人居りますが、其の中で大学出の者が何百人と居るから、そんなには要らないだろうと云うようなことではないかと思えます。

日本の科学は廿年位後れている

芦田 少し根本論になるようだけれども、元来日本人は科学的の頭ではないですね。

辻 全く、極端に科学的でないですね。

芦田 むしろロマンティックであつてメタフィジックの段階にあるのではないかね。三木さん。あなたはそう云うことの専門家だが……

三木 ……

辻 結局文化がそこ迄行つてないのではないですか。

菅井 それは結局日本では科学者の側でも為政家

の方でも科学的な心構えを培うことが十分でなかった、少なかったということが土台になっているのではないのですか。

辻 芦田さんあたりから囂々たる反対が出るかと思

いますが、どうも日本のそう云う方面の文化が

……

芦田 いや。私は決して反対どころではありませぬ。

夙に日本はもつと努力しなければならぬと云っている。寧ろ日本はもう是で何処の国に較べても技術に於いては劣ることがないのだ、精神文化は勿論欧州の物質文明よりも進んで居ると云う話を余り多く聞かされるのを危ないと思つて居るので、あなたの御説に全然賛成です。

辻 私は機械に関係したことをやつて居りますが、

機械工学なんかはどう考えても二十年後れて居るようですね。併し農芸化学の方は、お酒を拵

えたりビタミンを拵えたり、鈴木先生が研究所で非常に立派にやって居られるので農芸化学だけは世界のレベルから進んで居ると思つたのです。いつだったか先生に伺つたのですね。鈴木先生は落着き払つて、先ず三十年位は後れて居ると云われた（笑声）。日本人は兎も角西洋人の間に知名な鈴木先生が三十年位後れて居ると云うのですからね。

記者 心ある人は十分に認識を有つて居ると思いますが、そう云う認識を実際に働かして戴かなければならぬ政治方面の人などが、悪く樂觀的であることが貧困化の原因の一つでしようね。

辻 例えば外国から帰つた時に何か話をしろと言う時に、もう日本の飛行機は大したものだ、兵器で負けるものはない、機械工業の如きは紡績を見ろ、日本が世界一だと云うので大変威張ります。期う云う話をすればわつと喝采です。其の

あべこべに何も彼も後れて居る、十年も二十年も遅れて居ると言えば余り喜ばれない。併しそれは事実です。段々其の差が激しくなるように思います。

三木 そう云う事実を正直に認識してスタートしなければどうにもならないですね。

辻 それで日本の再出発と云うことは賛成です。然し私の關係して居る機械工学と云う方面では頭も宜いし世界的のオリヂナリテイもアビリティ【ability】も充分な日本人も居ります。確かに居ります。悲觀することはない。併し宜い氣特に自惚れて居ると云うことは最も危険ですね。日本人は非常に出発が遅れて居りますからね。近代の機械文明が入つてから先ず六十年位のものでしよう。

記者 自惚れすぎて居ると云うことは確かですから、それが皆に分るように啓蒙しなければなり

ますまいね。

三木 どの方面でも自己批判がなくなっているね。

記者 遅れて居ると言えぱがっかりしたり怒ったりするが、人より遅れて居るとすれば兎に角追付かなければならぬと云うことになりますからね。

三木 それは人間の本性でもあると思いますね。

記者 そう云う心理も研究しなければならぬと思います。

辻 日本人は遅れて居ない、偉いのだと云うことを少し誇張して居る。例えば京大の湯川教授の新学説は非常に世界で注目を惹いて居ると云うことは本当ですね。日本にもそう云うピツと飛び出した人が居るのは事実です。外国にもそう云う人は居ります。沢山居ります。日本は全体のレベルが低いのですね。

三木 国民の文化水準の向上が問題ですね。

科学的教養の与え方も拙かった

辻 菅井さん如何ですか、専門家で。

菅井 私は成るべく自分ではしゃべらずに、皆さんの話を伺おうと思つてやつて来たのですし、今まで大変具体的な、面白いお話を伺つてとても参考になった訳ですが、日本では科学とか技術とかいうものを見る場合に、何か科学の大変厄介な抽象的な、例えば相対性理論とか、量子力学とかいったものの出来上った体系に何とはなしにそこがれたり、びっくりしたりする。技術の出来上った形、例えば機械のすばらしさとか、建物の美しさとかに驚く。それだけでこういったものが、どんな風にして出来上ったか、どんな技術上の苦心が必要だったか、技術的な問題に対して科学の理論がどんな風に役に立ったかといったようなことなどはあまり問題にしない。普通の人は問題にしようたつて出来ない。

いものときめてしまっている。こう云う点が一番問題になるのではないでしょうか。それがどうしてそうなったかと言えば、さつきも一寸いったことですが、日本人のこれ迄の科学的にもものを見るとか、科学的な心構えとかが一体どういうものかというようなこと、一口にいえば科学的教養の与え方にとても拙い所があったからだと思いますね。

三木 日本の西洋文化輸入は急いでやらねばならなかったから、結果だけを問題にした。結果さえ取つて来ればよいと云うことが多かったと思う。だからほんとの科学的精神の発達が足りないのだと思います。

辻 日本は歴史が浅いから仕方がないと思います。
菅井 それはそうですが、研究者が啓蒙的なことまでやって行くということはできないでも、一方科学教師という役目を兼ねている人、全く科

文化の空虚を衝く

学教師になり切ってる人が沢山いますね。そういう人がほんとうに科学的な教養にもつと本腰をいれて、研究者だけではとてもやり切れない問題を、どんなに小さい部門でもいゝからやつて行く。こういうことがもつと出来たら日本人がそうまで科学に無理解になるということはなかったのぢやあないでしょうか。根本的な研究が大切だということをどんなに大きく叫んでも一向反響がないということには、こんな方面の欠陥がとても大きい理由の一つになつてゐるのではないかと思うのです。科学日本では第一線と銃後との調和、連絡がひどくまずいんですね。まあこれまでのことは仕方がないとして、これからをもつと立ち直つて行かなければなりませんね。

辻 そう云うことを頑張らなければいけないと思います。我々日本人は誰でも日本精神、大和魂の

強烈なる意識を持つて居る。是が実に立派なもので、外の国に較べて実に立派なことだと思ひます。併し技術者の方では品物を作る、同じ機械を作るにしてもドイツの機械と日本の機械とを比べて見て日本の機械が直ぐ毀れるのでは日本精神だと幾ら頑張つても駄目ぢやないですか。

実際出来た品物は高く掛つて拙いものが出来たら、幾ら日本精神がどうだと威張つても駄目なんです。技術者の競争なら腕で来い。腕が鈍くてはいくら精神がよくても問題になりません。(笑声) 科学とか技術とか、そう云う具体的問題ははつきり結果が出て来て居りますからね。

情けない我国の技術

芦田 むづかしい機械は別として、我々が毎日接触して居る戸の引手一つ、其の引手に付て居るバネ、或は電燈の設備、之を比較して見ても随

分情けないと思ひます。輸出品は買うに及ばず、国産品で間に合わせようと思つても、結局高いと思つた輸入品の方が安上りになるのですね。

辻 実際そう云う所は情けないです。

芦田 それは家具類から金具に至る迄極めて脆弱だと思ふのです。

辻 つい最近の話ですがバリカンの歯ですね。あれは僕は気が付かなかつたのですがね、今迄舶来品を使つて居つたが最近舶来品が入つて来ないので日本品を使うのですが、何処の工合がどう違ふか分りませぬが、同じ恰好をして居るけれども、国産品は直ぐ駄目になるそうです。一体日本人がバリカンを使い出してから何年になりますかね。情けないと思ひますね。

芦田 之れは安全剃刀の刃も同じで、日本で沢山出来るけれども結局どつちが安いかと云うと、初めは高い金を出してもザレットの刃の方が安上

りになる。

辻 だから一事が万事、日本の技術で安心して居られるものではありません。バリカンなんかでも学者が本気になつて切れるように作ろうと思つて研究してやればもうとつくに出来て居る訳ですが、そう云うことには技術者が本気で取りかからなかつたのでしょうか。

記者 我慢しろと言えば幾らでも我慢しますが、つまらぬ我慢をしなければならぬからそれをよくしようと云う気構えはないようですね。舶来品を「貴重品」などと云うようになりましたね。下らないものでも外国製だと言うと貴重品だと半分笑話のように云う。一方から言えば怪しからぬことでしようけれども、技術上の劣勢を何とかもう少しよくしたいと云う気持がないものでしょうかね。我慢しろ、我慢しろと言えば幾らでも我慢するけれども、もう少し積極的な

文化の空虚を衝く

らなければ萎縮するばかりで日本の再出発などは出来ぬのではないかと思いますな。

辻 之を要するに舶来品を喜ぶ声が高過ぎて、根本的に根柢から研究して掛ると云う氣組が足りないのでしょうか。

記者 「一休和尚の髑髏」のようないましめが必要だと云う訳ですな。

非常時には応用科学を尊重すべきか

菅井 だから差し当り現在は技術そのものの根本的研究でしようね。

辻 よく此の頃この非常時に宇宙線の研究をしたり、星の研究をしたりするのは不急の仕事であると言ふようなことを言われますが、一番よく

1 「門松は、冥土の旅の一里塚　めでたくもあり、めでたくもなし」は、一休和尚の歌で、一休和尚は正月には、杖の先にドクロを付けて、この歌を詠みながら街を練り歩いたという話。

グルンド【Grund】をやらなくて、それで応用だけと云うことは甚だ近道のものであつて結局いけないと云うことになりますね。あれだけ進歩して居るドイツが矢張りピュア・サイエンスで世界を圧倒して居りますからね。是は総ての温床ですからね。科学の研究の盛んでない様な所で技術の盛んである筈はないのですね。

菅井

そう云うことはたしかにあるでしょうね。僕は今こんな風に考えているのです。ドイツなどでは今あなたが仰つたように純粹科学が圧倒的になつてはいたのですが、ナチスになつてから、数理論物理学とか、理論物理学とかはひどい弾圧を受けましたね。あれは日本などではユダヤ人排斥と結付けて、一部のインテリ達から大変不評判だったのですが、僕は必ずしもそんなイデオロギーからだけでは理解できない面もあったのではないかと思っています。あの頃ドイツは

何をおいても生産拡充の必要に迫られていたのでしたからね、僕はドイツの科学政策を一概には非難できない気がするのです。どうしてもあいつた場合には仕方なしにも応用科学に眼を配つて、この部分をみっちりやつて行くのが先決問題になるんですから。そういう時には、まあ純粹科学の研究者たちも多少辛抱してゆくということになつていいように思えるのですが。

辻

菅井

ナチ政府になつてからドイツが抽象理論排斥をやり出したのは、所謂理論物理学者の中にあるまり抽象的な研究が過ぎて、現実との間に相当の距離が出来た、学校でつかう教科書【Lehrbuch】などにもそういう影響が出て来る、形式的【formell】なやり口が跳梁する。ところが一方では技術上の改良、発達はどうしても進めて行かねばならぬというのですから、両方の線が平行す

るだけで、結ばれて行かない。もつともドイツの伝統は流石なもので、どんなに形式的になったって、日本で見られるようにはなりませんからね。でも、こんな行き方は実験室内でコツ／＼何か一つの具体的な問題に首を突込んで苦勞してる学者や工場で活動している技術家の側からは極めて現実離れがしたように受けとれたのでしょうか。それに偶々そういう方面の研究者たちにもユダヤ系が多い。まあこんなこともあゝいう奇妙な現象が起つた原因、少なくともその一つに数えられはしないでしょう。レナードとかシュタルクとかがかいているのを見ると如何にも筋道の立たない主張が前面にでていて、処々読むに堪えないものもあるんですが、しかし、彼らがそれまでの形式一点張り、体系化だ

1 Philip Eduard Anton Lenard, Johannes Stark どちらもナチスに協力したノーベル賞受賞のドイツ物理学者。

文化の空虚を衝く

けに没頭するやり口などに極力反抗して、直観的な、実際の生活とか生産技術とかから醜態した問題を忽がせにしないで追跡して行こうという態度は買ってやらねばならぬと思います。日本などでも生産拡充が大変重要になつてきているんですから今差当りのところはやはり技術そのものの土台になる応用科学部面の研究に重点を置いて行くことは当り前のような気がします。どうも云い方が旨くないんで、云い足りないですが、これ位で……

芦田 例えば病人が沢山あるから治療の上手な医者を沢山持たなければならぬ。病理学はあるけれども、治療の上手な人が入用だと云うことになりますね。

辻 私は御医者さんのことは分りませんが、学問としての病理学の盛んな国には治療の旨い医者も生れると云うことは事実ぢやないかと思えます。

菅井 私のいうのは、治療が一層発達するためには、直接その治療という仕事の中から出た問題を、例えば病理学的な問題を学問的につくり上げて行く、そういうことを是非ともやって行かなくてはならぬ、という意味です。

記者 俄か作りの医学校を拵えても、医者は何んでも直ぐに出来ると云うものではない。殊に医者とか技術者とかは急拵えは禁物ですね。病気になるってもわざわざ俄か作りの学校を出た医者に自分の身を委せると云うことは出来ないでしうからね。

芦田 外の人は兎に角私はそう云うことは出来ませぬね。(笑声) 師範学校を出て二十歳やそこらの若い先生に自分の子供の小学一年生を安心して託する訳に行かない。丁度医学校を卒業した者に自分の大病を委せると云うことは不安であると同じです。それで御役人でもそうだと思います。

す、学校を出て三年四年、少しばかり御役人をして居った位では日本の統制経済が其の人で全部旨くやって行けると云うことは考えられない。どの仕事だつて三十年四十年半生を没頭して相当の仕事の主脳者になるのだから、今のよう急拵えの若い役人ばかり集めて来て、日本の経済機構が旨く行くとあれば不思議なことだと思う。だから先程来辻さんの仰るように、要するに或る一定の年月みっちり努力しなければ基礎のある科学的の仕事は出来ない。一夜作りには出来ないのだと云うことですね。

辻 人造ゴムやナイロンの出来るまで
人造ゴムやナイロンの出来るまで

そうです。どんな研究だつて宜い、研究は二十年三十年経つて居ります。ドイツが人造ゴムを作った。あれは三十年掛つて居ります。あれは欧州大戦前からやつて居ります。

芦田 あれはナイロンの研究者が矢張り人造ゴムの

……

辻 ナイロンは私は余りよく知りませんが、デュポ

ンと云う会社にいる人です。デュポンと云うのはネオ・プレーン【Neoprene】と云う矢張り人造ゴムを出して居る会社です。ドイツのはフカブナと云われアセチリン【acetylene】から拵えた似たようなもので、ヒットラーはニュールンベルグのナチ大会の時に、ドイツはゴムが出来たから安心して呉れと言ったそうです。ヒットラーがそう大喜びするように人造ゴムを作る為にドイツは三十年研究して居ります。

記者 パスツールの研究所の収益で普仏戦争の戦債を全部払えたと云う話がありますね。

芦田 それは少しおかしい。フランス人は金を死蔵

1 化学的にブタヂエン系に属した方法で造られ当時の人造ゴム中の最高峰といわれた。

する癖があるので、筆筒の底や靴下の中から出て来たのでしょうか。パスツールの収益で戦債が払えたと云う説はどうか。

記者 パスツールの研究所の発明品の収益が戦債を

払うに十分であつたと云うことでしようが、事実それで払つたと云うことではないでしょうね。

辻 そう云う研究をすれば実際の問題として、そ

れは間接、直接に金に見積つた利益と云うものは、是は驚くべきものです。唯今どなたか仰つたように、研究機関と之を利用するシステムとは確かに日本では不備だと思ひます。研究機関は相当ありますけれども実家の方で利用する、国策的に之を利用するシステム、それは実に不備な所があると思ひます。

研究統制は命令恋愛の類か

記者 科学研究の統制と云うようなことが将来行わ

れるとすれば、色々好いこともあるうし、不便なこともあるうと思いますが、科学の実際的な用途を全くの素人が考えて、而も命令的に研究させると云うようなことですね。これは今迄のお話と大変矛盾すること、どちらかと言えば統制の結果、却つて科学の貧困化を来すということになりはしないでしょうか。

辻 今朝の新聞に出た研究の統制と云つた事は直接伺つて見た訳でありませぬが、あまり賛成出来ないようなことですね。決して研究機関を活かして使うことにはならないと思います。

三木 科学動員と云うことですか。

辻 ちよつと出た記事を読んだだけですから、はっきり分りませぬが、あゝ云うことでは活かして使うのではなくして、下手すると研究の活発性を殺してしまうことになりはしませぬかね。

芦田 併しそう云うことは一般の人に多く知らせる

必要がありますね。今の政界上層部の人達が考えそうなことだと思ひます。大体あゝ云う考えが……

辻 あゝ云う方法は研究と云うことの本質を知つた人の案ではないでしょう。第一研究に命令なると云うことは実に官僚臭いではありませんか。

芦田 命令を出して発明が出来れば是程簡単なことではないですね。

記者 そう云う滑稽な考えは、研究と云うことの本質が分らないからだと思ひますが、例の国策文学の要求などにもそれがあるのですね。あゝ云う身勝手な考えがどうして起るか、よく分りませぬね。

辻 今に命令戀愛なんて云うことが起りはしませぬか。(笑声) 人口増殖の問題ですね。

記者 簡単なことのようにですけども、矢張り協力とか、共同と云うことの本当の意味を上も下も

分らないと困るでしょうね。

芦田 今の多くの人は、協力とは形態を同じくすればそれが協力だと考えて居る。是は全体主義の一つの通弊でしょうね。ユニフォーミティとユニティ（単一と統一）と云うことの意味が分らない。同じ色のシャツを着たり、シャツポを被つて、同じように歩くことが協力だ、そうしなければ統一がないものと思つて居る。統一と云うものはそんなものではない。

記者 統一は必要ですが、統一されるものは、依然として多様でなければならぬと云う原理がはつきりして居ないし、是はなかなかむづかしいことでしょうね。

辻 併し是は僕は政治家ではありませんから勝手なことを言いますが、併しお前やれと言つたら何も出来ない。勿論手も足も出ませぬが、政治家はそれぞれの専門家に相談したら宜いのだと思

文化の空虚を衝く

います。

芦田 辻さんの御話のように日本人は能力に於いても智力に於いても随分優秀な人間だと私は考えて居るが、優秀な人間を生かすように使わないといけない。今日は随分之を殺して居るのではないか、現在の教育でもそうですし、一体の世の中もそうではないか。

辻 そこを政治家はうまくやつて貰わないと殺してしまいますよ。

記者 政治家にも当然専門家として担当しなければならぬ技術があると云うことを、忘れてくれると困りますね。政治家は唯全体を曖昧に支配するのでなくて、政治と云う一つのテクニクがあると云うことは、当り前のことであるけれども、実際の政治では、得てしてそれが曖昧で抽象的です。

辻 勝手なことをお喋りして、皆様の御話を伺わ

ないで甚だ失礼ですけれども、ちよつと他の人と約束して居りますからお先きに失礼申します。

(辻氏退席)

割拠的な日本の科学者達

記者 菅井さん、科学と技術の問題ですがね、政治学と実際の政治技術、科学でいえば純正科学と生産の技術としての科学ですね。そういうものの連絡が何か日本では共通に悪いのではないのでしょうか。

菅井 前にも一寸申したことです、そういうことはとてもあるようですね。

記者 そういうものが遊離しているのを更に結ぶ技術なり、科学なりが必要だというような何か実例はありませんか。

菅井 そうですね。あまりあけすけにいえばすぐに叱られる、まあそんな立場なので困りますがね。

さつきも辻さんが話しておられたように、科学日本なんてどんなに新聞で書き立てても、現在の日本の学問はまだまだというところですから、普通純正科学と応用科学と分けてる、その両方ともこれからもつと立て直しをする必要があると僕は何時も考えています。先程独逸のことが話に出ましたが、日本では純粹科学の研究の方でも、応用方面でも、何といいますが、虎の威をかりる猫とでもいえましようかね。どうも本格的な伝統もあまりないのに、少々旨くやつたからといって、とてもえらくなつた気分になる。ドイツの理論家たちは現実離れがしていても、学問としては本格的なものを身につけている。ところが、日本の理論家たちの多くは、本格的になつてもいないのに、俺のやつている純正科学さえやれば応用などは何でもないと簡単に思ひ込んでしまつて、残念なことに、知らない間

に現実と遊離して、そのくせ大した理論的な仕事もやらずにしてしまうというような人もなきにしもあらずですね。僕は何だか日本人科学者は何かまだほんとうに、封建的なとでも云いますか、身分的なものともいいえますか、そんなものが抜け切っていないのではないかという気がするんです。自分のやつてることの独得な意味を自覚するということもあるでしょうが、それだけでなく何か自分の仕事が他人のやつてることより上だ、上だと無闇に思ったがるというようなこと、それから又他と協同しないで、何か異を立てることが独創だなんて思い込むことですね。これは何も純正科学の方面に限ったことではないので、技術家などにも相当にあるようです。純粹科学なんぞいくらやつたつてエンジン一つ、ダイナモ一つ改良できんぢやあないかという気分で、ほんとうにそういう問題に突き進んで行

けば、純粹科学の理論にさえも問題を沢山提供して呉れるというようなことを割にしたがらないのです。こんなことでは生産拡充の当面の問題を押し進めて行くのさえ、何か心もとない気がします。何時でしたか、名前はお許し願いたいのですが、ある非常に勝れた化学者にお会いしたとき、こんなことをいっていました。「どうも近頃工科方面の連中には困りますね。ほんとうに科学的な土台さえもたない癖に、自分のやつてるのばかりが科学だなんて思ってるんだから。それでいて、そういう頭の人が文部省などの大切な委員になつて自分の畑のことばかりまくし立てるんで困るよ。」こういう気持は理科方面の学者には相当にあるようです。その中には手前勝手な割拠主義から云うのも多いですが、今申しました学者の方は非常に良心的な方です。この言葉はいろいろの意味で中々味わいがある

と思いますね。つまり何ですね、科学と技術との間にどんな密接な関係があるかというようなことは分り切ったことのように見えて、日本ではまだまだほんとうの理解に行き着いていないでしょう。それで、僕としてはこれからはエンジニアの人達と純粹科学者とがもつと縄張りを取り外して歩み寄る、例えばいろんな異論もきゝますが東大工学部にできた綜合試験所というような仕方をもつと広く一般に押し及ぼして行く、そしてそこでは例えばアメリカのベル研究所とかG・E会社の研究所とかのように、各方面の理論家も実験家も技術家ものエキスパート連を集める、というようなことをやつたらよいと思います。理論物理などやる奴は現実に遠いんだから来て貰いたくないなどということではなく、こういう人々はとても技術家ではもてないタレントの持主なのだから、技術家の行詰つ

た問題を打開するのに協力して貰う、又理論家たちもどんな生産活動の部面に積極的に進出して、応用なんぞつまらんなどと高をくくらないで、技術の与える問題をも打込んでやつて行く、そんな風に行けたらいいがなあと日頃考えています。僕の持論かも知れませんが、純粹とか応用とか、そんなに分けられる性質のものじゃないと思うんです。生産部面の技術の改善に関係して、提供される問題は、近頃の言葉でいえば「複雑怪奇」な、困難な問題がとても多いし、物理などの理論家が普通やつている研究の武器を働かしたらかなりの程度まで解決できる代物もあるし、出来ないとしても、そういう問題と取組んでいる中に意外に自分達のやつてゐる専門の根本に反省を加えねばならぬ破目になることも多いのぢやあないでしょうか。現に科学史などをしらべているととてもとてもこんなことは

ザラにあることなのです。何といつても日本のエンジニアはそこまで行かなければ本格的とはいえないでしょうね。考えて見ると結局、さつきも出たようですが政府の統制とか何とかいうことも問題かも知れませんが、科学者や技術家がほんとうに「科学的」にやっているかどうか、も相対に反省を要することではないかと思ひます。研究のため、時には無駄な費用がかかるのは止むを得ないことなんですし、研究費の多いのは大切ですが、正直にいつて僕は日本の科学者がもつと「科学的」な心構えを研究の隅々まで徹底していたとしたら、これまででももつと費用と設備とを有効につかえたのではなかったかと考えられるのです。

記者 芦田さん、外交なんかでは、別に今お話のような弊害は出ていませんか。

芦田 具体的にどういう弊害ですか。

文化の空虚を衝く

記者 理論と實際とをつなぐ技術の欠乏ですね。

外交は芸術である

芦田 外交はサイエンスに非ずして技術なりとビスマルクが云った。そうでしょう。技術なりという言葉を更に誇張して云えば外交は一つの芸術なりと言いたい。それだから理論の為に禍されることはありませんね。

記者 それでは外交が芸術であるとしてやはり絵や文学によしあしがあると同様によしあしがあり、特徴があると思ひますが、一番特徴的なものは何でしょう、今の日本の外交を考えて見て。

芦田 さア日本の外交と言われるとどうも問題が甚だ困難ですが、現在の日本はそれ程外交をやつて居ないでしょう、日本に本當の意味の外交があるかないかが根本の議論の種と思ひます。それは日本人は聡明な国民であるに拘らず國際的

の心理を掴むことに於いては頗る下手だと思うんです。インターナショナル・サイコロジと云う点に弱点がある。實際それを巧みに掴まえる国民でなければ活潑な外交は出来ないのだと思う。そうして日本の外交が国民的の支持を受けて動くとか、国民運動として外交が動いて行くとか云うような機会は非常に少かつたからですね。今日もそうと思う。そうすると外交の動く原動力が何処にあるかというと政府から月給を貰った人が一存で引受けてやって居る訳で、だから内政に現れていると同じような官僚的な弊害弱点が外交にも出て来るのだと思いますね。

記者 方々に見受けられるそう云う弱点に何か共通の基礎問題があるのでしょうか。三木さんから見られて特別に……

芦田 思い切って何か悪いことを言いなさい。

三木 そうですね、矢張り日本人は世界の田舎者で

そう云う国際的な心理なんか分らないのぢやないんですかね。

芦田 むづかしい意味でなく、例えば日本と支那とが大事変をやって居つて、此の事変に対して支那人はどう考えるだろうかと云うことは田舎者でも分りそうだと思うが。

三木 併しそれは国内の政治に於いても国民がどう云うことを考えて居るか、その心理まで付度して政治をやって居る政治家はいんではないですかね。矢張りまだ封建的な上からの政治と云う考えが抜けない訳で、それが外国に対しても同じやり口になるのではないのでしょうか。

芦田 無論そうですね、それは先程私が国内政治と同じような欠点が外交運用の上に現れて居ると言つたのはそう云う意味なんです。

記者 併しさつき辻さんも言つて居られた通り、日本人にアビリティが少ないと云うことは一般的

には言えないのでしょね。

三木 それは時が経つてみないと分らないが、併し日本人にアビリティがないとは我々信じたくないね。

記者 少なくともそう云う現実の貧困に気が附いて居る人間が、大まかに考えられるよりも案外多いのぢやありませんか。

三木 我々はそう云うことに気が附いて居る者に多く接して居るが、世間一般には寧ろ案外少ないではありませんか。

何故官僚独善政治が生まれるか

記者 政治家などの中に、却つてそう云う現実家が少ないと云うようなことは？

三木 それは殆んどないと云つても宜いと思うね。近年政治がないとか、官僚独善とか云うが、逆に考えると、それをそうさせて居るのは国民だ

から、国民にも責任がありますね。国民が本当に偉ければ官僚独善だって生じない訳だし、そう云う意味で矢張り国民全体が考え直すことが必要です。

菅井 それは三木さん、矢張り科学界などでさっきの問題でも、結局国民の教養が余り高い水準でないと云うことが一つの大切な問題だと思いませんか。専門学者やえらい人達が技術が進歩したとか、科学日本の躍進がどうか言うのと、無批判に安心し切つてしまう。日本の大衆には科学と云えばとても近づきにくいもの、いわば神話、二十世紀の神話ですかね、そんなものになつてゐる。新聞で愚にもつかないインチキ学者の意見をまことしやかに報道されれば、一躍その人を世界的大学者と思ひ込む。ところがわれわれ専門家から見れば馬鹿馬鹿しくてお話にならぬ。こんな具合ですからね。どうも他の学問の方はど

うか知りませんが、科学界では間違いだらけの表向きだけ整った顔をしている著書が売行がよくつて、ほんとうに、身の入った、味わいのある本はあまりよく売れないというようなことが多いのですよ。その癖読めもしないむづかしい、相対性理論とか量子力学の本などを書斎の装飾に買いこむんですからね。あれなどは丁度インチキ宗教信者の偶像崇拜とどうやら同じですね。

三木 啓蒙時代をもう一度位経験しなければいけないと思います。ところが其の啓蒙を軽蔑すると云うのも矢張り一つの日本的な、封建的と云つて宜い特徴ですね。大衆教育と云うか、国民教育と云うものに相当優秀な人が首を突込んでやる必要がありますね。

菅井 どんな学問でもそうかもしれませんが、科学研究者と科学教育家とを比べると、どうも科学教育家という人たちが一枚落ちますね。良い人

があまり行かない上に、科学教育などやるのは科学の第一線に立つもののやることぢやないという気持がかなり支配的です。それにこういう人達になると教育とか啓蒙とかがどんなに大切かということを考えるなどということは殆んどやらないのです。

記者 少し広く云えば、高い意味の理論家など一般国民との間に繁りがなき過ぎるということ、これもどちらを非難すべきか分りませんね。

三木 それにはいろいろ理由がありますね。

記者 優れた専門家が自ら啓蒙に当る暇がないと云う事実もありますよね。

三木 忙し過ぎるんだ。

記者 そうすると啓蒙の専門家と云うものも必要になる……。

三木 啓蒙が徹底するためには政治を初め色々な方面における日本人の封建的な考え方と云うもの

をどうしてもなくしなければならぬ。

芦田 容易ならぬ大事業ですよ。

記者 政治が国民運動を基礎にしていなないと云うのも、本当の理由はそれでしょう。

芦田 結局、今の政治の病根は何処にあるかと云うと、数年来幾ら内閣を取替えても強力な内閣が出来て来ない。何故強力内閣が日本に生れて来ないかと云うと、イギリス、アメリカの政治を見れば分る通り、結局の処は強い内閣は国民の絶対多数が支持して居るからこそだ。今の時勢では矢張りアメリカではルーズベルトが強いし、イギリスに行けばチェンバレンが一番強い。それは国民の多数が彼を支持して居るからである。日本では政治的に組織されていないんです。日本国内には国民的政治組織がないのですよ。それだから国民に基礎をもつ内閣が出来様がない。漸く最近まで日本で政治組織を造つて居った唯

文化の空虚を衝く

一のものとは政党であつた。是は数年来叩き潰されたと云うか、自分で小さくなつたと云うか、現実の事実としては非常に限られた組織になつてしまつた。だから何処へ内閣を持込んでも強い内閣が出来ない。それでは其の組織を誰が作るかと云うと、無論政府が作るのではない。国民銘々が発奮して自発的に作るより仕方がない。然し現在そう云う風な傾向に動いているかと云うと、私はちつともそう云う傾向が現れて居ないと思ふんです。だから前途甚だ遼遠だ。

すべての方面で啓蒙が必要だ

記者 国民運動を要望する前に国民の啓蒙が必要なのですか。

三木 だから極めて手近な処から、お互いに一人の人間を掴えればその一人を先ず啓蒙して行くとうう風にならなければ駄目だと思います。外国

では晩飯に家族の者が集つても、カフェーで友人が集つても、たいいていその日の新聞の話、殊に政治の話をする。ところが日本ではそういうことはないですね。酒でも呑みにゆけばそういう話は全然なくなる。

芦田 御高話拜聴、芸妓から話を聴いて来る。(笑声)

三木 そう云う風で、社会的政治的関心の程度がまだ低いのだやありませんか。今も私はバスの中で経験したんだが、大学生が二人乗っていて、何処かの採用試験を受けに行つたらいいんだが、それに問題が出たんですね、「シューカイツ」と云うのが出た、あれは何だと一人が訊く。するともう一人がそれはどうも周佛海¹でないかねと答えそうして言うには、あれは学者だろう、そうしたら前の一人が、僕は文章家と書いたが、

¹ 汪兆銘の新政権に加わつた政治家、三木との対談あり(第4輯に収録)。

僕の友達にはあれは汪兆銘²の息子だと書いたのがあつたと話して居るんです。大学生が其の程度なんです。今支那の新政権が重要な問題になつて居るし、周佛海の日本に來たと云うことが新聞にも出たし、岩波新書で周佛海の三民主義解説も出て居るんですが、そう云うことは頭になく、「シューカイツ」は文章家だと云うんです。

芦田 我々の時代に、高等学校の入学試験に安禄山と云う名前が出たら、安禄山は支那の山なりと云う答案を出した者があつて、話の種になつて居るが、何時の世にもそう云う者があるんだ。

国民は政治に無関心にされる

記者 それが多過ぎるのでしょうか。稚氣愛すべしと云うが、愛することが出来ないような稚氣が、

² 1883～1944、孫文死後国民党の重鎮、この頃日本軍占領下の南京に新政権の樹立を宣言(1940.3)。

全体に瀰漫して居るのではありませんかね。

芦田 それは必しも学生ばかりを責められない。日本では社会国家の為に関心を有てと云う理論だけは掲げて居る、併し実際に有つことは政府、官僚が之を好まない。簡単な例を言えば、市会議員、府会議員の選挙が始ると、街の角々には棄権するなど大童の宣伝をするが、是は公共のことに関心を有てと云うことでしよう、然し実際に公共のことに関心を有てて行動を起す者は警察から非常な猜疑の眼を以て見られる、議員候補者と云うものは犯罪人の仲間位に見られて居るでしよう、苟くも選挙に携わつたら、必ず警察官が注目して悪くすれば蚤取り眼で微細な犯罪でも選挙違反で打込まれる。一方では棄権をするなど云って宣伝しながら、一方では政治行動を実際にやる者は危険人物にせられて居る、実に矛盾です。だから公共のことに関心を有と

うと云う人が非常に減じつゝあると思う、平たく云えば天下、国家のことは誰かにやつて貰え、俺達の知ったことでない、斯う云う気持ちで無関心に暮す者が大部分です、困ったことですよ。

三木 此の間も或る処で、或る哲学者が国家哲学の話をした、国家哲学の話をすると云うことは哲学者として現実の問題に関心を有っていることである筈ですが、ところが其の話のあとで、学生がそれでは支那事変は一体どうすれば好いのだ、欧州の戦争は一体どうなるのかと言うようなことを訊いた。そうするとその哲学者は、そう云う政治的問題は自分のことではないと怒るように答えたという話です。支那事変がどうなるか、欧州戦争がどうなるか人類の運命がどうなるかと云うようなことは真剣に考えないで国家哲学と云うものを議論する、それが今の日本でないかと思う。それが今、菅井さんの言つた、

科学と技術との乖離と云うことにもなるのです。

菅井 理論家が誰でもそうだというのではないのですが、例えば原理だけ研究すれば宜いのだと云う気持ちの底にはそう云う現実と関係しないで……

三木 逃避しよう。

菅井 逃避的態度が相当にあるのではないかと思う。科学の原理とか理論とか云うものは生産技術と直接、間接に大変繋がっている。その結びつき方にはいろいろの現れ方があるし、時間的にも相当の隔たりをもつこともあります。こういうことも明瞭に把握して自覚的に仕事を進めている人が割に多くないですね。だから「科学の為めの科学」と云うポアンカレの言葉があると、その言葉が提出された背景などはちつとも考えないで、日本の学者は自分の研究の立場を守る申訳けに用い出す。ポアンカレが云

えば何でもないことも日本へ来れば非常に遊離された形になってしまふ。こんなことは非常に問題としますね。日本などでは少数の勝れた理論家たちだったら、或はこんな言葉も一応許せるかもしれないが、研究室を外部から閉鎖するために云い出されるのでは全くやり切れない。

記者 今の日本の病根が何処にあるかと云うことがお話によつて大体明瞭に分つて来たようですね。では此の辺で……どうも有難うございました。

底本：『知性』1940.1第3巻第1号

「国内の現実を打開せよ」座談会

城戸幡太郎：1893～1985、愛媛県松山市出身、東

京帝国大学卒、心理学・教育学者、政法大学教授、

教育科学研究会創設

津久井龍雄

三木清

三輪寿壮

山崎靖純

「#底本には、伏せ字である「×」に加えて、特定の話題で空白となった箇所が多数ある。「・」で字数分記す。」

国民を離れた官僚政治

記者 それでは挨拶は抜きにして、最近国民の中に政治に対する関心が非常に起って来たという言葉葉を聞くのですが、そういう問題から入って行っ

て戴きたいと思います。

山崎

僕はこういうことを最近痛感して居る。昭和

六年の満州事変を契機として、既成政党の没落となり、その後を官僚が——この場合の官僚は勿論軍人をも含めたものだが——背負って立つて、既成政党的な弊害を多少修正して行つた点に於いて、幾らか進歩的な役割を勤めたかも知れないけれども、併しこの大きな激動期日本に於いては、要するに彼等が為し得る限界点が来たと思う。何故ならば、生活して居る国民というものは、或る一つの要求を持つて居るが、その要求に対する対策が樹立された時には、その瞬間に次の要求を持つて居るのです。所が官僚というものは、国民の或る一つの要求に基いた制度が出来る、法律が出来る、その時から、その法律、制度に束縛されて行くのです。国民は絶えず将来の方に向つて体を向けて居るのだが、

官僚は絶えず過去の方に姿勢を向けて居るので、そこに国民と本質的に違う所があると思うのです。所で東亜新秩序の建設というようなものが

必要になつてゐるこういう激動期に於いては、常に国民を指導して行く、時局を前進せしめる政治力というものが出来なければならぬ。その意味から言つても、官僚がこれを指導出来ないことは明白だと思います。もう少しこれを技術的に見れば、官僚といった所で、皆一つの思想に基いて集つて居るグループぢやないのです。唯試験を通過してやつて来て、それが局長になつたり、課長になつたりして居るけれども、今も言つたように、彼等が束縛されて居るのは、過去の要求に基く所産としての法規に束縛されて居るので、将来を創造する力などというものはない。てんでに考え方が違つて居る。そうしてそういう官僚が常に更迭される。だから空間に

は相互の連絡はないし、時間的にも前後の連絡がない。それで政治が実にばらばらになつてしまふ。

それから、勿論僕は今まで考えられたような古い意味に於けるデモクラシーというものを信奉して居るのぢやありませんが、併しこゝに一人の優れた指導者があつて、国民の要求を綜合的に解決する理論と方式を持つて居るにしても、それは単なる一片の理論ぢやなくて、現に生活し、生きて居る無数の大衆の要求に副つて、觀念的に、飛躍することなしに、一切の政治を運営して行かなければならぬのだから、どうしても国民の息使いに接触して、国民の具体的な要求というものと肌を離さぬようにして、国民と深い理解の下に政治を運用して行かなければならぬ。そういうものから離れてしまうと、何処に政治が走つて行くか分らん。滅茶をやつてし

まう。一般国民を何処に連れて行くか分らん、政治の飛躍になつてしまふと思います。そういう意味から言つても、やはりこういう高度社会体制を運営して行くのには、どうしても国民の肌を離れた政治というものは全体を誤ると思います。

政党没落と日本政治

津久井 今政党政治の復活というようなことを国民が言つて居るようですが、それは必ずしも政党を信頼するというのではなく、今の官僚政治というものに対する不満の反動で、せめて政党の方がまだこれよりましなのぢやないかという考え方が基調になつて居ると思うのです。一体政党が段落したということの真の原因、そういうものを僕は考えて見る必要があるのぢやないかと思ひます。

国内の現実を打破せよ

三輪 それは津久井さんの方で解答を持つて居る筈だから……。

津久井 持つて居ないのですよ。併しその点を考えないで又政党を復活させるというようなことでは、丁度シーソーゲームのようなもので、政党にやらせたら駄目だから官僚にやらせる、官僚が駄目だから又政党に持つて行くというようなことでは、政治は唯眼先きの変化はあるかも知れないが、ちつとも前進して居る訳でもないし、新しい政治が出て来る訳でもないと思う。

三木 簡単に言えば、時勢の進歩に随いて行けなかつたのぢやないでしょうか。最初は或る程度までは時勢の進歩、時勢の動きに副つて行つたのだらうと思ひますが……。

津久井 政党の没落の普通に考えられる原因というものは、例えば対外的に非常に軟弱というか、殊に大陸政策などに対しても認識が足りない。

それからワシントン条約、ロンドン条約というような亡国的の条約を結んだりして、日本の軍備などというものは独立の体面を維持して行く上に於いても事欠くような状態になつて来た。そういうことが軍の方などを刺戟したというようなこともあると思う。併し、例えば政友会などは、大陸などに対しては非常に積極的な考えを持つて居たです。そういう点で、本質的に何か政党というものが時勢の要求に應ずることが出来ないで没落したのか、或はもつと外に、例えば既成勢力、内部の勢力の対立というようなことでそういう風になつたのかというようなことが考えられる余地がある訳です。

山崎 僕はそこに特に日本的な原因の外に、本質的な問題もあるのぢやないかと思う。ということとは、現代のような意味に於ける社会というものが、一人人間の過去の歴史の中に果してあつた

だろうか。人間の社会詰り今現に吾々が住んで居る社会、そうしてこれから更に一層發展して行こうという社会というものは、人類が未だ嘗て経験したことのないような高度の体制が要求されて居るし、又それ程複雑な關係を持つて来つゝあると思う。そういうものを支配して無数の人々の要求を達成する原理と方法というものが、まだ実は何処の国でも本当にはつきりと発見されて居ないのぢやないかという風にも考えるのです。今までは経済そのものが、自由主義経済であつたから、議會も多数決主義の議會政治というようなものであつたし、よしんば論争があつたにしても精タイギリスに現れたような、自由貿易か保護貿易かというような点が論点の一番主なるものになつて、政党的な対立をするにも意味があつたかも知れないが、もうそういう時代はとつくの昔に過ぎ去つてしまつて居る

ので、もつとく高度の政治方式が考えられなければ、本当の意味の民意を解決する道というものは、生れて来ないのぢやないかと思ひます。デモクラシーという言葉は、今までの或る種の形式を意味するという限りに於いて行詰つて居ると思うけれども、その中に託されて居る一つの要請というもののまでが全部間違つて居るのぢやないので、従来のそういうデモクラシー的なものの中に託されて居つた要求というものは実はデモクラシーそのものに依つて解決されるのぢやない。もつともつと何か高められた或る方式が生れて来なければ、その要請を達成することが出来ないのぢやないか。日本ではそれを最も高く解決する方法が、即ち我が国体を顕現することに依つて可能になるのだ、こう言つて居る。私はその考え方が決して間違つて居ないと思ひ込んで居ますが、併し具体的方法になつ

国内の現実を打破せよ

て来るとこれは中々難しいことで、我が国体といつても、その表現の仕方は昔から常に變化し、或は進歩して来たのです。例えば「広く會議を興し万機公論に決すべし」というような表現の仕方は大昔からあつた表現の仕方ぢやない。日本の国体表現の方法も、常に進歩を辿つて來るのに、具体的な表現の方法というものを現代の社会に当てはめて考えると、未だ曾て人類が十分に説明し、それを意識付ける所まで行つたことがないというような、本質的な問題もあつた。それにプラス日本的な事情、日本的な複雑怪奇性が加つて來たのがこの既成政党の居残りだと思ふ。

日本政治の貧困

津久井 デモクラシーとか多数決とかの弊害が政党政治を退却させたというようにも言われるし、

そういうこともあると思うが、日本の政治はそういうデモクラシーなどというような御大層なものであったかということを考えて見ると、日本の議会というものは衆議院の外に貴族院というのがあり、貴族院というのは殆ど華族さんが、大多数を占めて居るのだし、その外に枢密院などという特殊の存在もあるし、又軍も一つの特殊な存在をなして居るので、殆どデモクラシーとか自由主義などという典型的なものから比較すれば、日本のは非常な制限を受けて居るような所があるように思う。政党の一時盛んだった時は、相当政治的な力を持ったように見えた時もあつたけれども、併し日本の政党そのものが一面から言えば非常に官僚的なもので、殆ど幹部の独裁主義のようなものだし、其政党の中には官僚の出身者が幹部の数を非常に占めて居りその点に於いては民政党などは代表的で、民政

党の幹部などというのは殆ど官僚出身というか、官僚そのもののような者が多かったが、そういう点で政治を革新するという上に於いては、日本では、デモクラシーというと語弊があるけれども、そういう風な意識をもつとはつきりさせ、もつとそれを徹底させるということが一応必要であるのぢやないかというようにも考えられるのです。その所が、全体主義とかなんとかいうことで、逆に益々飛躍して行つて、もうデモクラシーどころぢやない。まるで神憑り政治になつて来て居るのだが、そういう点にもう少し考える余地が私はあるのぢやないかと思うのです。それで今日本の革新ということを叫んで居る人は、皆その方向は神憑りか、或は独裁政治か、そういう方面に行つて居ると思うのです。だから革新を言つて居る連中が何時まで経つても共鳴もされないし、それがちつとも発展しない。

僕はイタリーとかドイツのやつは、まだデモクラシーを超えてのデモクラシーという面影があると思うが、日本のはそこが全く文字通りの飛躍であり、或は反動的であつて、一つもその所に合理的な発展というものがないように思う。その所から解決して行かないと、全体主義というようなことを言えば言う程全体から離れて行つてしまうような傾向になるのぢやないかというようなことを考えるのですが……。

三輪

ドイツにしてもイタリーにしても、ロシアにしても、ロシアは今津久井さんの御話しのやうな過程は取らなかつたにしてもやはりその指導者になる人は、今まで社会の下積みになつて、社会運動というか、一般大衆を本当に生かそうという考の下に、或は牢獄に入つたり、色んな苦勞をして来る人が指導者になつて居りますから、それが所謂全体主義と言おうがなんと云お

うが兎に角その考え方というものは、今津久井さんの仰しやるやうなデモクラシーの考え方をその中に包含して居ると思うのです。日本では御話しのやうに、そういうやうなものの考え方をすることを好まない。今の政治上層部というものがそういうものを好まないし、嫌惡するし、革新を叫ぶ者もなんとなくそういう所に遠慮するとか、迎合するとか、徹底し得ないものが生じていると思いますね。

国策協力の道を開け

城戸

輿論を指導するということがないからぢやないでしようか。押付けることはかり考えて居る。政党政治でも、選挙の時にはなんとかかんとか言つて選挙して貰つても、さて政策ということになると、政策を押付けただけで、国民が国策というものに関与して居るといふことは日本で

はなかったのぢやないかと思ひます。現在でも国策の線に副えということは、決して国策に参与せよと言つて居る訳ではないと思う。何か新しい思想が起ると、唯それを弾圧することばかり考へて、その中から好いことを引出して指導して行くという力がなかったのぢやないかと思ひます。

三木 そればかりぢやなくて、大衆の中から運動をして、そうして鍛え上げられて出て来たという人がないということもあるし、それから、それと共に現在の官僚のような者は、学校時代から、大体如何に人に使われるかという教育ばかり受けて居つて、本当に人を指導するような精神な人を作つて来なかつたと思う。日本の大学などというものは大体官吏の養成所で、官吏の養成ということは要するに技術家、寧ろ指導されたことを唯忠実に実施して行くという人間を

作つて行つた訳だが、現在はそういう人間が逆に指導者になつて居る訳だから唯教育という点から言つても、これまでに非常に大きな欠陥がそこにあると思う。

山崎 それでも中心が居ればまだ宜いが、何処にも中心がない。何万もの官僚が居つてその中心がないのだから始末が悪い。

城戸 今国民が政治的にそういう関心を持つて来たというのは、誰かやるのだ、誰かやるのだと言つて居つた所が、結局誰にも策がないから、あんなことなら俺が考へた方が宜いのだというようなことが知識階級の国民層には出来て来たのぢやないでしょうか。

三木 併し私はまだ本当にそれ程強い政治的要求が積極的な形で現れて居るかどうかということを疑問に思ふのです。非常に消極的な、抛げやりな氣持で現れて居る。これが非常に危険ぢやな

いかと思う。積極的な政治的要求として現れて、それが段々一つに纏るということなら宜いが、寧ろ非常に消極的な形で、詰り一種のサボタージュというような形で政治的の関心が現れて来るということは危険ぢやないかと思つて居ります。

城戸 政治的意識が昂まつて来たというのは現在の政治に附いて居ない一種の政治的の関心を持つて居る相当教養の高い者の間には昂まつたということが言えるけれども、一般の国民にそういう意識が昂まつたとは言えないと思う。第一学生などは全然そういうことはない。国策に関与して見るとかそれを批判するだけの力は今の所はないと思う。

津久井 詰りそれは、今国民が国策に協力するといつても、協力する途が何もない訳です。一般的に言つて、国民が今政治に関与する方法は、

国内の現実を打破せよ

選挙権を持つて居ることだけです。そういうことでない、詰り国民がもつと政治に関与するか、協力することが出来る方法、それが詰り新しい政治の飾りになるだろうと思うのです。

三輪 政治に関与すると言ひましても、中央政治に自分が加わるとか何とかいうような意味では勿論ない訳なんで、實際国民の思つて居ること、国民の政治的な意思というものが何等かの形でずつと上の方に伝わるというか、所謂下意が上達するというような途、それが政治に関与するとか、協力するということぢやないでしょうか。それ以上のものは考えられないのぢやないかと私は思うのですが……。

津久井 それが今は議會というものですな、それを通じて、国民の意思が反映すると言えばそれだけの話ですが……。

三輪 それは御話のように、そんなものでは通じ

ないことになって来て居るのですから、やはり新たなそういう一つの組織を作り上げて行くという事でなければならぬのぢやないかと思ひますが……。

より高き民意尊重政治

山崎 国民が政治に付て何か要求を持つということ

は、これは必ずしも箇々の政策に付て要求を持つということを意味するのぢやないと思ひます。若しそうだとすれば、それは、千差万別になつて来て、容易に歸一する所がないだらうと思ふ。それでも或る生活の形を通して、自分等は今こういう立場にある、それ故にこの点をもう少し改善されたいというような意味での要求が、それぐゝの問題の大きさ、或いは性質に従つて解決される、局に通じて行くような形が出来上ら

なければいけないと思ひますが、それが通じて来た場合に、そういうものを綜合して解決する一つの原理と方策を持った非常に高い指導者が上に居なければ、公平な解決は生れて来ないと思ひます。だから民意というが、その民意というのは、国民の一人々々が持つて居る素朴なありの俣の要求を全部ごつちやにして、ごたぐに一つの所に纏めて解決するというのがなく、詰りそういう国民の要求を現在のその要求が起つて来る社会の水準に於いて解決するのでなく、ずっと高めた所で解決するという理論と方式を知つて居る人のみが民意尊重の政治を為し得ると思ひます。殊に現在のように総てが行詰つて来た社会状態の中では、一層そういうことが必要になつて来るので、随つて私は今迄のような意味での多数決主義というような、そんな素朴な方法というものは、何等民意尊重の政

治にはなり得ないと思う。だから、先程ドイツやイタリーというものは、デモクラシーを乗り越えたものだということを、津久井さんが言われたが、あれは私は決して完全な形だとは思わな

いけれども、併し又あれを専制政治だ、或は独裁政治だといつて、古い觀念に当て嵌めて非難ばかりして居るのも間違つて居ると思う。やはりまだ人類に依つて本當の現代の社会に合うような政治が創造されて居ないことは事實だから、向つて行くべき方向は、国民全体の要求の綜合性を高く解決する所の指導者と、それから国民というものをびつたりと合致せしめるような何等かの形が生れて来なければならん。それは往々にして過去の古い觀念に於ける独裁政治というものとの混同され易いけれども、そうして又日本などでは最もそれを混同してしまつて居り、寧ろ反動に陥ろうとして居るけれども、私は全然

国内の現實を打破せよ

似て非なるものではないかと思つて居ります……。

全体主義と一主体主義

三木

大体現在の国民精神総動員などのやるべき仕事は、要するに民意を上達するということが仕事だと思う。詰り人民に接して人民の話を聴いて、それを直接為政者に伝えるというのが国民精神総動員のやるべき本来の仕事だと思う。それが唯上から説教ばかりして廻つて居るのではなくにもならない。寧ろ下に説教するのぢやなくして、上に説教するということが精神総動員の任務だと思う。それが又国民再組織の出发点になり得るのだと思うのです。

城戸

所謂民意を聴き得る組織というものが出来て居ないのぢやないかね。

津久井

民意と、それを指導するということの関係

が問題になると思いますが、それに付て僕の考えて居ることは、その関係を今日本では、全体主義或は一部の人は、全体主義ぢやいかん、一体主義でなければいかんというようなことを言う。一体で行く。その一体性の中に色々箇々の要求というものを融け込まして、そうしてそこにより高い要求を実現する。こういう意味だろうと思うのですが、所でその一つの現れ方というものは、例えば産業報国聯盟¹というものです。産業報国聯盟というものは、労資一体主義で行くのだ、それが根本の精神である。そこでその精神を組織に現して労働者も資本家も一つの産業報国聯盟というものゝ中に入つて居るのです。そうして一体でやつて行くかうというので

1 日中戦争開始後の1937年からの左翼的労働運動弾圧（人民戦線事件）によつて実質的労働運動はなくなる。1938年官制の労使協調組織として作られる。三輪壽壯は創立に関わりその理事である。

すが、私はその考え方がどうもおかしいのぢやないかと思う。一体というものはそういう形で表現すべきものぢやなくて、資本家と労働者いふものはやはり利害の相反する部面を持つて居るのだから、労働者は労働者で組織される、資本家は資本家で組織される。そうしてその両者の利害というものを基調にして、そこに一つのバランスを取る。それから又より高い段階に於いて両方の利害を融和させて、そうして一致を図つて行く。かういう風に行くべきぢやないかと思う。然るに利害の違うものを一つに集めて、所謂一体というようなことで行くことは、どうもそこに嘘のようなものが混つて、資本家も労働者も、その組合のような気もしないし、又実際それに依つて両方とも自分の利害を代表されないし、中途半端なもので、全く精神を失つたようなものになる。又実際そういうようになつ

て居るのぢやないかという気がするのですが……。

三輪

今の津久井さんの御話も御尤もな所があると思うのですが、これは理想的に飛躍した型を先ず取つて、そうしてその実体が備わらないものだから、そういう矛盾が来て居るのぢやないかと思うので、私は一体組織というものは不可能ぢやないと思う。一体組織というその組織をした中に於いてもやはり、自由に労働者の意見が反映しようとする為には、労働は労働者全体、やはり皆一緒になつて、そこで自由に話が出来るようにして、こういう意見だということが出て来るようにし、そうしてそれが又全体として話をする時にも、その意見が対立関係を生むことをなくして出て来るようになるということが私は理想形ではないかと思う。唯現実では利害相反して居るような部面があるに拘らず、それ

を隠蔽したようなことになつて居るといふ所に、今御話のような不純さ、不自然さがあるとも言えると思うのですが、私は一つの形を作つたら、その内容を、労資一体でやるのだということとで、資本家もそういう考え方になつてしまふということになれば、やはり一つの理想形を追つて、それは全部が直ちにそうならないまでも、或る部分に於いてはそういう形が出来るといふことになる。それが政治の全体の指導ということに付て、先程御話のような仕組になりさえすれば、その仕組は生きて来るのではないかと思います。

三木

兎に角デモクラシーとかなんとかいうことでなく、この事変が明瞭に証明して居るように、国民の力を十分生かして使うということが一番必要なことだと思ふ。所がその国民の力を生かして使うということに付ての方策がないのでは

ないかと思いますが……。

津久井 ないのでしょ。だから一体主義だの道義だのというような立派なことだけ出して、そうして実際はまるで空虚になつて居る。そのギャップが段々ひどくなつて行つて居ると思います。これが一番の問題だと思いますね。

三木 こういう社会的な、政治的な情勢になつて来れば、もう国民の力しかない、と思う。国民の力が本当に完全に發揮されるということしかこの時局を乗越える力というものはない。官僚にも、何処にもないと思う。そういう段階まで来て居るのぢやないかと思っています。

城戸 だから官僚でも国民の協力を非常に望んで居るが、実際は協力を望んで居るのぢやなくて何かしら押し付けて居るのぢやないかと思う。だから産業報国聯盟のみならず、青年団というようなものがあつても、そういうものを十分に理

解して居ない。そうして押し付けて居る。

三木 兎に角東洋で日本だけがこういうように發達して来たということは、歴史的に見ても、朝鮮あたりのように人民が始終圧迫し通されて来た国は榮えなかつた。支那のように大衆が非常に遅れて居る所は榮えなかつた。日本では歴史的に見ても下層階級が段々力を得て来た形なんだから、やはり下からの国民の力が出て来るという所に日本の国が東洋に於いて發展した大きな理由になると思う。だから今日でも、やはり国民の力を發揮させるということが一番重要なことだと思う。

山崎 それはそうだ。全体主義といつても一体主義といつても、本当の狙い所は、有ゆる部門に意義と位置を与えるということなんです。結局有ゆる部門を生かすということだと思っています。そうだとすれば、頭から布団をおつ被せてしまつ

たようなものが全体主義である筈はないので、一番正しい全体主義は、人間の体がこれを示して居るように。吾々は指の先に一寸した傷をしても、それを大事にして労つて居る。而もそれぞれの部門はそれ／＼の位置に於いて、それぞれの意味に於いて、而も統一的に活動して居るので、こういうものが私は人間社会に非常によく現れて居ると思う。先ず一番完全に現れて居るのは人間の体であり、次に完全に現れて居るのは家族であり、次に宗主に現れて居るのは部落であり、段々大きくなつて国家という情勢に向つて行きつゝあるのですが、それが国家だけでは済まなくなつて、更に幾つかの国家が集つてそういう關係を構成して行こうという方向に歴史は動いて居ると思います。

国民性の改造へ

国内の現実を打破せよ

三木

これまでのように、国民に対して兎も角おつ被せることが出来た時は宜いが、今日では政治の力はずつと弱くなつて、寧ろ国民が悪く言へば政治力を輕視する。どうせ大したことはやれないだらうというようになり、有ゆる統制力というものを輕視する傾向が近頃現れて来たのぢやないでしょうか。

最近色んなことで感ずるのだが、官僚ばかりでなく、国民でも、どうも日本では社会とか公とか、そういうことがぴんと頭に來ないのぢやないでしょうか。結局まだ消極的な意味に於ける個人主義というものが盛んなのぢやないかと思うが……。

津久井

私は今の日本の有ゆる部面の欠陥というのは皆その点から來て居ると思う。それは政治の部面にも現れるし、經濟の部面にも現れるし、この戦争が長く続いて來た結果、有ゆる部面に

それが着々として現れて来て居るように思う。だからこれは根本的に考えれば、政治をどうするとか、経済をどうするとかいうことより、もっと深い所に欠陥があると思う。

三木

結局私は国民性の改造という所まで行かないと政治も好くならん、まして大陸経営などということは中々出来ないのぢやないかと思う。

山崎

この場合僕は日本国民としての自信を失わしめることぢやなくして、逆に吾々は日本国民として不完全であつたという反省に依つて、飽くまで立派な日本国民でなければならんという国民的信念の復活の下に積極的に国民性の改善が行われないと、力強い、澎湃たるものにならんとする。

日本人としての誇り

津久井 僕等は今まで、総て日本の好い所とか、日

本の優秀な所とかということの大いに誇張することに依つて、民族としてのプライドを持たせて行くことが必要だ、殊に最近十数年来の日本の欠陥というものは、或は社会主義であるとか、自由主義であるとかいうものに感染して、日本的な好いものを失い、又そういうものを認識する能力がなかつた、そういうことの欠陥だから、それに対してはやはり所謂日本的なものをもつと自覚させて行くということが必要だということに総ての部面で考えて来たのですが、今はそういうことが真面目な意味で深刻に考えられ、そういう自覚を国民に本当に喚起させるということなら宜いが、唯訳の分らん、非常に空虚なものを好い／＼と言つて押付ける。好いか悪いか訳が分らん。大多数のものは好くないのだ。大多数の今言われて居る日本主義とか日本精神というようなものは、大体一種の封建主義だ。

そういうものは非常に禍いするし、そんなものぢや連も駄目なんだ。又日本国民が、今日の成長を見た以上、一体西洋的なもののない、外国的なものゝ影響を受けていない日本というようなものがあるかないかということも疑問だとも言えるし、そういう点で、その所をもう少し深い高い立場から考えて、国民を再教育して行くということが必要だろうと思う。

三木 だから本当のプライドを持たせなければならんと思う。誇りがなければ人間は駄目になってしまうのだから……併しその誇りなるものゝ上に立って、やはり自己批判というか、自己反省というものは非常に必要だと思ひます。

城戸 国民性の好くないという所を何も表明する必要はないので、それをどうしたら宜いかということを言つて呉れたら宜い。所が初めから昔の好い所ばかり出して、これだ／＼と言うから、

国内の現実を打破せよ

どうして宜いか分らなくなる。欠陥があつても、何もその欠陥が悪い／＼と言う必要はないので、それを自覚させることが出来れば宜いと思うのです。

三木 だから、本当に好い画描きを作る為には好い画ばかり見せなくちやならんというような意味に於いて、国民にも悪い所ばかり言うより、例えばイギリス人はこういう所が好いとか、支那人はこういう所が好いということを教えることに依つてでも僕は教育出来ると思う。

城戸 現在では日本人が支那に行つて何をやつて居るか。色んな欠陥を暴露して居るのだから、それを社会教育の材料にでも、学校教育の教材にでもしたが宜いと思う。こういうことだからこうしなければならんということを言えば宜いのだが……。

津久井 それはこれからのお互の義務であり、責任

になって来ると思う。今の政治家というものはそんな深いことは毛頭考えて居ないし、眼先きのことでも全く考えはないのですから、これでは迎もいけないと思いますね。

反省を通して自己完成へ

三輪 客観的に見ればこういうことも言えるのぢやないでしょうか。吾々の見透し得る将来というのは、非常に困難なことになって来る訳だと思ひます。物質的にも、精神的にも、非常な苦勞をしなければならん。深刻な苦しみをしなければならんことになると思うのですが、そういう所まで行つて見ないと、今言う国民性の改造とでも言われるような、本当に出直して、清新な、澁刺たる日本人を建設して行こうというような考え方は生れて来ないのぢやないでしょうか。今言われて居るのは、少し上滑りして居る、唯

附和雷同的に空しく唱えられて居ることであつて、深刻味を持たないのぢやないかと思ひます。
三木 だからやはりぶつつけて鼻血を出して見た方が早いかも知れない。

山崎 私が日本国民的信念を復活させなければならんと言つた意味は、唯日本を外国と比較して、徒に自惚れるべきだというような意味ぢやなくて、吾々が、例えば一個人にしても、国家社会のことを考えるということは自己完成への途だと私は思つて居る。そういう考え方をするのが、それは特にアジアばかりぢやない、日本ばかりぢやないでしょうか、それは少くともアジアの立場というか、日本の立場というか、そういうものに於いて非常に濃厚なのです。それは自惚れというような、他に対して自分を比較して、あれより自分がましだとか、劣つて居るとかというような比較の問題ぢやないのです。自己を

宇宙の中心に置いて物を考える考え方だと思う。そういう考え方に立つのでなければ、真の力は出て来ないと思うのです。だから日本という国家の場合に於いても、非常に大きな飛躍を遂げようとする場合には、結局自己完成への途として非常な力を出さなければ大きな飛躍力は出来ないと思います。ですから、その場合、この点に於いて日本はヨーロッパより劣つて居る、この点に於いて日本はドイツより負けて居るということをはつきりは認めることも自己完成への一つの途だと思ふが、根本に於いては自分というものを尊重することが絶対必要だと思ひます。

三木 又明治時代のように、国民が自から自信があつた時代には、相当自己批判というものを鋭くやつて、日本人の島国根性というものを言い合つたと思うのです。信念がなければそれは出来ないことです。個人でもやはりそうなんで、

悪口を言われてもびくともしないというのは、やはり自分に自信があるからです。自信がない時には、人が自分の悪口を言えば、直ぐに参つてしまうという訳ですからね。そういう深い信念を喚起すというような意味に於ける日本精神の復活というものは僕は絶対に必要だと思ひます。

津久井 本当を言えば、この戦争というようなものは非常に日本国民の魂を向上させて、本当のものを教えるというのには非常に好い機会だつた筈です。それを逆に言葉だけ美しいものを出して、實際はそれと非常に遠いようなことが至る所に見られるというような指導の仕方をして居るといふことは非常にいけないことだと思ひます。

三木 それは類推的に言えば、やはり指導者自身に自信がないからぢやないでしょうか。

山崎 何も分つて居ないのだから……。

自信のない経済統制

三木 指導者自身に自信があれば、もう少し余裕が出来るとは思ふのです。だから例えば統制経済などと言つた所で、実際に於いてその意味を国民などは殆ど理解して居ない。なんのことか分らない。本当にその真の意味を理解させる努力というものがなされて居ないと思う。唯要するに戦争だから辛棒しろというような説きぢや駄目だと思います。

山崎 理解させる努力をするにも、理解させる方がまるで理解して居ないのだから、理解させようがない。今の統制経済ということは、自由主義経済の最も悪い所と、統制経済の最も悪い所を取つて来て一つにしたものだから、もう一つ具体的に言えば、自由主義経済の中に於ける国

家或は社会が個人の生活を保証しないという所を相変らず存続させながら、統制経済が個人の活動の自由を許さなくなるといふ所だけをそれに継ぎ足したようなものが今の日本の統制経済だから、大衆の立場というものは一刻一刻非常な光明のない、希望のないものに陥りつゝある。その中で大衆は尚お何に期待して生きて居るかという、こういう状態は恐らく長続きしないだろうという淡い間違つた認識と希望の下に生きて居るので、若しこれが長続きするばかりでなく、段々この状態は激成されて行くのだということに意識がついて来ると、非常に動搖を起す惧れがあるに違ない、だからこれはどうしても統制経済の好い面をずっと生かして来なければどうにもならないと思います。

三木 それにはやはり経済機構の相当内部まで入つて行かなければ、今のようなほんの上滑りのこ

とばかりやって居たのではどうにもならんのだぢやないかと思う。

三輪　やはり今日話に出て居るような官僚統制に対

する非常な不満、そういう点が代議員の声として一番感知されたのです。又今話に出たように、政治上層部にも政治指導力がないということに付て鋭い批判がなされて、而もそういう状態に於いて、我が党こそは一つ指導力を確立する為の捨石になろうというような、そういう機運が非常に顯著に現れたということで、昨年や一年の大会とは格段の相違があると思います。又或る意味に於いて、そういう点での一つの自信を持ち出して来たというような感じを持ちまし

国内の現実を打破せよ

た。勿論党として考えるからそういうことになるかも知れないが、既成政党に対する期待などが現れて来て居るようなことに対する皆の考え方が、あんなものを迎えて見た所で到底駄目だというような点なども、相当一般の声として述べられて居りました。

強き日本精神を

三木 今後国民思想の問題が相当問題になって来るようなことはありませんでしょうか。

津久井　ありますね。私は××関係の調整ということは相当・的な空気を煽るのぢやないかと思うのですが……・というと語弊があるが……。

三輪 私はその点はそうぢやないというように思います。詰り昔流の、・ ・ ・ ・ ・というような意味に於ける、・ ・ ・ ・ ・的な思想を煽るという

ようなことはなからうかと思う。．．．．．というものに対する知識階級の認識も、今まで言われて居った．．．．．というのは、何か実に平和の神様のような、非常な尊敬を持ったような意味に於いて．．．の間に流布されて居りましたが、そういう観方が、最近のソビエトのポーランド、或はフィンランドに対する態度、帝国主義的な態度¹というか、そういうものを見せつけられて居ると、既に．．．．．とかいような意味では引きつけ得ないのぢやないか。そういう意味での．．．．．というものが又盛り返して来るようなことはないのぢやなからうかと思ひます。

津久井 これは戦争に依つて．．．の批判という

ものが、当る所が今はつきりして来て居ると思

1 1939ドイツ軍のポーランド侵略と同時に、東部ポーランドを占領、11.30フィンランド攻撃開始。

います。だから．．．．．字も知らんその辺の魚屋さんとか八百屋さんとか、小さい商店の主人公というような人の言う批判が、往々にして．．．．．偶然一致するような、そういう状態が一方にあると思うのです。そこに持つて来て、非常に日本的な空気というものが高くなつて、又そういう風な圧力で．．．．．したようなこともある訳だが、併しそういう状態になつて見て、そうして出て来た日本主義とか日本精神というものは一体何かと言へば、さつぱり訳も分らん、積極的な力にも、科学的検討にも堪えないものであるということになつて見ると、結局．．．．．まだましではないかというようになるのではないか。それ以上の思想なり感情なりが一方にあれば別だと思うのですが、そういうものがないということになると、やはり一種のそういう．．．

な思想が起る可能性が非常にあるのぢやないか
というように考えるのですが……。

山崎

僕は……が積極的な力を持つて、日本に
復活して来るとは考えませんが、唯内容空虚な、
その実は現状維持をやりたいのだというような
性格を潜めたような……主義運動が余
り横暴な極めると、それに対する反動として
の……が起る惧れは必ずしもなきに非ずと
思います。併しそれは反動の程度であつて、決
して……の現状にも、亦あの未熟な理論
と方式というものに心から積極的に共鳴する日
本人はこれから先には余り出ないだろうと私は
思うのです。唯こゝで必要なことは、同じ日本
精神といつても、日本哲学といつても、もつと
非常に積極的なもので、その積極的なものゝ前
には、それが……であろうが、資本主義で
あるうが、物も恐れるというようなことは絶対

国内の現実を打破せよ

あろう筈はないと思うのです。

津久井

私はその点では、恐れるという意識を……
に對して割合多く持つて居るのです。というこ
とは、……の思想というものが大した思想で
ない、つづいて行けば随分ぼろだらけだとい
うことは、何も今日になつて分る筈のものぢや
ない。然るに一時日本の滔々たる大勢は凡ゆるも
のをあの……の中に捲込んでしまつた
のです。その時私共は、これは何も自慢する訳
ぢやないので、偶然そういう立場になつた訳だ
が、吾々はその反対の立場に立つて居つて、内
心実に恐れた。吾々は時勢に取り残されてしま
つて、そうして袋叩きになつてしまふのぢやな
いかというような考え方が逆も強かつた。今内務
省あたりで……とか言つ
て居る連中も、皆あの時は……に押された
のですからね。だから私は、あゝいう風な状態

にはならんかも知れないけれども、併し實際のことを言つて、それなら思想的に相当客觀的の批判に堪え得るようなものを持つて居るかどうかということになると、正直な所を言つて、そうも言えないと思うのです。

政治の常識化

三木 これから後に色々な經濟的困難、国民生活の苦勞というものが当然段々深刻になつて行く。そういう場合に、そういう問題に兎も角光明を与えるような、或は解決をされるというような積極的なものが本當に用意されて居るかどうかということです。それが用意されて居なければ、やはり・思想というようなものが自然發生的に出て来る危険はあると私は思います。

城戸 恐れてはならんが、恐れるに足らざるものを持つて居なくちゃね。

三木 今度は頭から来るのぢやなくて、下からの生活體驗から来るだけに、却つて或る意味では恐しい力がある訳だから、随て今度はそれを解決するだけの積極的な思想が用意されて居なければならんと思います。これまでのような簡単な甘いお題目でやつて行けると思つたら相当間違ぢやないかと思う。

津久井 今の学生などが時局に冷淡だということも、そういうことが一つの原因ですからね。何も積極的に与えて居るものがないのだから、懷疑的にもなつて居る訳で、そういうものは直ぐに一方に結び付く性質を持つて居るものだと思う。

城戸 ナチスなどでも、・・・・・つた時は弾圧もしたが、弾圧しただけでなく、それに対する積極性を持つて居たからとどの詰りは・・・・・結んでも宜いということになつ

たのぢやないかと思う。日本でも……結べるだけの政策を持つて居れば恐れるに足らんのだぢやないかと思う。思想問題というのは、今までは国内情勢というか、社会問題というものから起つて来たけれども、これからはもつと国際的な世界政策というような所から思想問題が起つて来るような気がする。今までの思想というものが世界政策の立場から、一遍アウフヘーベンされて来なければならんような気がするのだが、……

三木 それは指導者としてはそうだが、国民としては、生活の中から懷疑なり批判なり不満なりというものが現れて来て、そうして出て来るのだから……

城戸 そういう所から不満を起させるような政策をやつて居つたのでは駄目だと思うが……

山崎 これは私は自信を持つて申上げるのぢやない

国内の現実を打破せよ

のですが、政治というものは本来低調なものぢやないでしょうか。(笑声)それで政治を余り高い所から出発させようすると大概失敗してしまふ。

八紘一字の大道を頭から説くのは、一応思想運動としては宜いかも知れないが、政治の場合には、イタリーがエチオピアを取るのだといったような具合に、あそこまで低調化してはいかんかも知れないが、もつと卑近な所から出発するのが本当なので、例えばこれを個人にしましても、徒に理想を説き、徒に道徳ばかり説いて居る人に、往々にして非常に悪い人がある。寧ろ始終利害で話の出来る人の方が割切れるものがあつて、大變原理が単純で、交際し易い人がある。

——まさかそんなに低調になれと言うのぢやありませんが——併し同じ利己主義でも、少し聡

明になった利己主義というものは、大変話のし易い所があると思うのです。

国家の政治というものも、元来私は政治そのものが大衆を率いて行くものだから、低調な所に水準があるのぢやないかと思うので、聡明化された利己主義、達観された利己主義である方がより好いのではないか。そうして人間の道義、大義というものが段々拡大されて行って、そうして聡明の広さ、聡明の区域が拡大して行くのが人間の歴史の発展の方式ぢやないかという風にも私は考えるのです。併しこれは私は決して断定的に言うのぢやない。

津久井 イギリスの強みというものはそういう所にあると思う。あれはそういう意味の常識的な政治、余りに理論走ったことを言わない現実的政治ですね。随て共產主義などに余り脅かされない。余り内容のない立派なことを言う国は、

却つて共產主義に対して危いと思う。

城戸 生活に即して政治を行えば宜いのですが、思想問題と結び付いた政治はいかんと思いますね。

日本ではすぐに思想問題と結び付けるが、こういうものでなく、やはり生活と結び付いた政治でなければいかんですね。

三木 現実主義というものは実は理想主義に裏づ

けられて居なければならぬ。そうでなければ、歴史の必然の道なり、人頭の行動、そういうものに副わなければいけないのだらうと思います。そういう点に於いて、どうも日本ではまだ本当の道義というものが確立されて居ない。詰り昔の日本なり東洋の道義というものは大したものだったけれども、今日はそういうものがないのぢやないかと思ひます。今日の指導者でも、結局立身出世主義で、自分が偉くなつて、故郷に錦を飾つて帰つて、御宮にでも参つて村の人に

挨拶すること位が理想であつて、本当の人類なり社会というような立場に立つたものがないからぢやないでしょうか。そういう本当のものが出来て居れば、却つて非常に卑近な所まで下つて行ける。詰り聖人というのは大きな道を説いた訳ぢやないので、皆最も卑近な所に行つた訳です。但し掴んで居つたものは深いと思うのですが、今日は寧ろ逆で、やることは非常に立身出世主義的なことが多くて、言うことは非常に高遠な——実は高遠でなくして空虚だろうと思うが、そういうものが非常に多いのです、その点に於いても、まだ／＼本当の意味に於ける道義というか、そういうものが確立されることが必要だと思ひます。

城戸 西洋の方では、クリスチャンというのが一つの道義になつて居つたと思う。だからイギリスのように帝国主義で侵略した所は、クリスチャ

ンというものに依つて旨くそれを道義化して行つたから、あゝいう植民地政策というものが成功したのぢやないかと思うが、日本のはそうぢやない。日本の宗教政策というものは何処でやつて居るかという、文部省の宗教局でやつて居るのだろうが、今度宗教法が通過しても、何をやるかといへば、坊主の財産管理のことばかりやつて、宗教をどういう風にして活用させるかということは考えない。宗教政策というものは全然ない訳です。支那などに対して、宗教政策というようなものも、もつと考へて宜いのぢやないかと思うのですが……。

愛国心について

山崎 やはり官僚政治というものは形式的になるのですね。官僚の功績というものを評価する物指しというものは、形式より外にないのですから

ね。国家の全体生命というものを官僚は把握して居りませんから……。

三木 それはやはり根本を言えば一種の宗教心だと思えますね。詰り自分を本当に知るという気持、これはやはり非常に広い意味に於ける宗教心だと思えますが、そういうものが段々なくなつて来て居るのぢやないでしょうか。そういう意味では、仏教でもなんでも非常に衰退して居るのでしょうか……。

城戸 官僚が滅私奉公ということを言うが、それは自分がやらなければならんことだ。官僚が所謂国民の公僕として、自分でやらなければならんことを国民に言つて居る。そこに大きな見当違いがあると思う。

三輪 政治家というものは本当に国民の間にまで降りて来て、そうしてそれとくつつかなければいかん。それが今の政治家ではくつつけないのだ

から、国民の間の者が政治する立場にならなければいかんということになるのですね。

三木 ボールドウィンの書いたイギリス論という講演集¹のようなものを読んでも、愛国心というものに非常に卑近な所に浸み出るのは。本當にイギリスが好きだというような所がある。所が日本では愛国心というのを非常に油象化して、何か訳の分らん、天上まで昇らなければ愛国心でないというようなことで、本當に自分の生れた国の景色とか、その隣りに住んで居つた人間に対する愛情とか、そういう所に発露するといふ所がない。そういうものは皆持つて居ると思う。所がそういうものゝ把握がなくて何か遠い所に行かなければ承知しないといふ所があるのぢやないでしょうか。

山崎 そういう卑近な所から出る政治が本當に大

1 「Stanley Baldwin "An interpreter of England"」か。

局を誤らない政治だと思ひます。本当に正しい理想がそこから出て来るのぢやないかと思ひます。だからどうしても国民の生活の全体性に肌を接して居り、その中から盛り上つて来る政治でなければならん。そういう政治というものは、考え方に依つては非常に卑俗な政治のように考えられるが、実はそうでなく、そういう政治程、却つて正しい理想を生み出して来る政治になるのぢやないかと思ひます。

城戸 愛国心といつても、日本精神といつても、此頃の云い方は丁度吾々に与える一種の興奮剤みたいだね。もう少しじっくりと榮養を与えなければ、愛国心というものは本当の力を出さない。国民の榮養になるものでなくぢやならんと思う。おやつ位に時々呉れるのは宜しいが、始終やられては、神経衰弱か神経質に国民はなつてしまひますよ。

国内の現実を打破せよ

三木 だからそういうものを説くのも、自分の生れた河なり山なり、自分の學んだ学校なり、そういうものに対する愛着を喚起しながら説けば宜いのだが……。

權威に対する感情

津久井 どういう訳か知らんが、日本人の一種の形式主義というか、直ぐに一つのポーズを作る。だから個人同志で話して居る時には、軍人でも役人でも、よく話が分るが公の者になるとそれが生きて来ないで、他処行きのポーズになる。どういふ訳でしょうかね。

三木 それはやはり封建的なんぢやないでしようか。本当に市民的になるということがシビリゼーションの根本だと思ふが……。

津久井 平民的になるということが平民的の一つの形式になるのだからね。(笑声)

城戸 誰でもそうだろうが、日本人には社会的な者

というか、オーソリチー【authority】に対する一つの妙なアンナーメ【Annahme 見せかけ】が出来る。

三木 だから文壇で見ても、大家というのはやはりポーズがあるからね、それがなければ大家にない。学界でもそうですよ。ポーズを持って居なければ大家にならないのだから……。

城戸 殊にお役人にはそれがひどいですね、こういうことを話して居る時は宜いが、お役所に行つて話す時には、ふんぞり返つてまるで態度が違ふのだからね。

津久井 その代り役に離れるとしよげ返つてきつぱり氣勢は揚がらんですよ。（笑声）

城戸 何か知らんがオーソリチーというものが妙な所にあるのだ。

山崎 併しそれは或る意味では日本の国民性かも知

れませんね。何等かの機会に、従来官僚でなかった人が急に官僚になったりすることがある。例えば××院あたりの××官にもそういう者が居ますが、その人の態度は、従来の官僚よりもつと遙に鼻持ちならんような官僚的な態度になつて居る。日本人というのは普段官僚を非難して居る癖に、自分が官僚の立場になると、逆も官僚たることを有難いと思う国民ぢやないか思うが……。

三木 それはそうですね。というのは、官僚に独善などをさせて居るのは、自分が悪いのだから仕方ありませんよ。

山崎 官僚をして独善たらしめるのは、独善たらしめるものがあるからだね。

城戸 それは唯そうぢやなくて、×××員などが威張るでしょう。それで実は僕は聞いて見たのです。すると、何時も俺達は威張られて居

る。こういう時でなければ威張れないと言うのです。平生威張られて居る為に癪に障って居る。それでやはり自分もそういうことをやって見たい。一種の腹いせですね。それが威張って居る奴に行けば宜いが、威張らない奴に行くのだから……。(笑声) だから何時でも下へくへ行く。下から上に行くだけの反撥心が国民にあれば頼もしいと思うが……。

山崎 私はそういう問題が一朝何かの機会に……飛んでもない過……をやるのぢやないかという気がするのだが……。

三木 自制心がないから、止めどが無くなるのですね。結局やはり根本から言えば国民性の改造まで叩き直さなければならぬのかも知れませんか。

城戸 反省を促すべき機会というものは今まであったと思うが、それを社会的教育の教材にしない。

国内の現実を打破せよ

捨身になれ

三木 だから、吾々の商売を弁護する訳ではないが、本当の意味に於ける社会教育家というか、そういう者の偉い者が出現しなければいかんね。明治時代に於いては、福沢諭吉にしても、新聞記者達にしても、あゝいうのは社会教育家だった。それが国民を教育してきたと思う。所が最近になつてジャーナリズムの指導力というものが失われて来て、社会教育家というのがなくなつて来た。

そういう新しい意味に於ける社会教育家という者が、政治家であろうが、ジャーナリストであろうが、その他どういう人であろうが、出て来なければならぬのぢやないかと思いますが……。

城戸 だが一つはインテリ層というものが、理窟はよく言うし、批判もするが、実行しないという

のは、捨身にならんということが根本にあるのぢやないかね。

三木

併しそういう捨身は必ずしも出て来ないという訳ぢやない。あの・・・は、牢獄にぶち込まれることは分つて居ても、捨身でやる奴もあつたのだから、時を得れば出て来ると思う。今ないということは、必ずしも出て来ないということにはならんと思う。

山崎

併しそういう一つの政治にせよ、思想にせよ、そういう運動を展開するには、何か一言で言えるスローガンがないといけないと思います。例えばさつきから此処でこうして話して居て、色々な話が出たけれども、スローガンがないから、別れて帰えると、何を言つたか分らんということになる。

理想と現実

山崎

僕は当面の支那事變の処理の問題は、日本が主張して居る非常に氣高い理想を、実践して見せるということも一つの方法だと思ふ。

従来私共はその方面を非常に主張したのです。

所が日本の国内情勢、或は現地に於ける社会情勢を見直すというと、そのことが如何に困難であるかということが直ちに分る訳です。

同時に支那の側を見渡しても、仮にそれを実践して見せるといつても、こつちが直ぐに今日から明日に掛けて、手の平を返す如くに翻る訳には行かないのだが、一寸翻り掛ろうとした時に、向うでもあの程度のものが分らないと、こつちでも翻ることは困難なので、こゝに實際問題として非常に困つたことがある。

随つて、そういう高度な所を狙つて、裏から政治を指導しようなどということは実は夢であつて、寧ろそういう理想を實踐しようという

ようなことに力瘤を入れるより、差当つての掛値のない要求を言つた方がより政治的なのではないかという疑惑を持つて居るのです。

これも単なる疑惑の域に止めて置きたいのですが……随て現在の間違は何処にあるかという、実践的には非常に低調過ぎる位低調なことをやつて居りながら、言う言葉は天高く舞上つたようなことを言つて居る。そうぢやなく、実践的に低調な所をもう少し高度にして、利己主義でも宜いから、もう少し聡明な利己主義にして、そうして言う所をもつと低くして、掛値のない要求を出した方が、より政治的であり、より実践的ぢやないかという氣持もするのですが……。

そういうことから却つて本当の理想も生れ、高い理想に到達する途が却つて其処から開けて来るのぢやないかという氣持もするのです。

国内の現実を打破せよ

三木 私はその一寸問題だと思いますね。

山崎 併し僕は勿論これは断定して居りませんよ。

三輪 山崎さんの日頃の意気に似合わないと思うのだが……。

三木 日本人が皆あなたのようなことになつては困るね。あなたの接触される部面でそういうものが出来たからというて、それで投げては駄目ですよ。

山崎 僕は理想を投げろということを主張するのぢやありませんよ。

併し飽くまで現在から出発しなければならぬのだ。その現在というのは、こつちに「も」向うにも非常に困難があるので、それを余り高い所から出発しようとする、これは何時まで経つても板に付いて来ないという感じがするのです。

現在の要求も間違つて居ないのですよ。それで、現在の要求の中から吾々は段々そこに向つ

て行かなければならんと思います。

城戸 そこは政治家と行政官というか、事務官、それが別になって居るからいけないのですね。政治家が相当高遠な理想をやるとその理想を具体化する事務官、行政官というのがしつかりやって呉れさえすれば宜いのぢやないですか。そこが一体になって居ないのぢやないでしょうか。それで、大きなことを言うても駄目だということになってしまふ。

山崎 実は僕は理想ばかりで行つて居つたのだが……。

津久井 僕はそれは山崎さんの進歩だと思ふね。そこから出る理想でなくちゃ……今のような状態で理想を言つたら、言うことが却つて滑稽になる。寧ろ僕は、立派なことは外に向つて言うより、内に向つて言わなくちゃならん。

それに就ては、・・に對する本質的な批判など

までも本当に言う勇氣のある者が——僕は言う勇氣はないが——出て来なければならんのぢやないか。そこまで行かなければ理想主義に徹底しないのぢやないかと思ふ。

三木 だから聖戰の聖戰である実を先ず国内に於いて示さなければならん。

組織の必要

三輪 併し僕は少し馬鹿正直かも知れないが、国家が国家の名に於いて声明したことは、馬鹿正直な国民がそれを愚直に、馬鹿は馬鹿なりにやつて行くという所に、ぶち当たるという所に進歩があるのぢやないかと思ふ。

例えば国内に對する色んな呼び掛けに付ても、一般大衆はその呼び掛けに應じてやつて居る。ああしろ、こうしろと言えば、聖戰貫徹の為にその通り一生懸命にやつて居る国民があるのだ

から、指導者がそういうことを呼び掛けるのだから、自分自身はそれを考えもしなければやりもしないというような事実が現れると、本当に正直な者は怒り出して来る。それはやはり一つの社会の大きな転換ぢやないかと思うが……。

三木 私などもそう思う。東亜共同体などというのは、初めからそうお目出度くは見て居らんが、寧ろ行詰つてから初めて、どうしても東亜共同体というものでなくては、どうにもこうにもならんということになるのだらうと思う。

城戸 そういうことを言つても、それは何処を通じて実現するかという組織がなければ幾ら言つても駄目だと思う。近衛内閣などでも、その組織を作らないで幾ら言つても輿論は指導出来ない。

山崎 その組織が仮に出来るとして、その組織が持つ政治的性格はどういうものでなければならんかという、従来の、或は現在の政治生活とい

うものは、日本全体の利益に立つ政治でなく、日本国内の或る階層、或る個人の利害に最も多く捉われて居る政治なんです。

そういうものから幾らか飛躍して、最小限度に於いて日本国民全体の利益というものに立つ政治が生まれて来ると、理屈から言えば利己主義かも知れないが、そういう利己主義というのは国民の或る部分の利己主義を代表する利己主義よりもっと達観的であり、もっと聡明であり、もっと叡智の優れたものになって来ると思う。私はその程度にまで日本の政治が進歩して欲しいと思う。

三木 所がその聡明さというものが一番ないのでしようね。

城戸 それがやはり一番初め問題になつたのですね。大きな理想を実現する為には、先ず卑近な所から、生活を組織してやるというような、下

からの組織が出来なければ駄目だと思う。

記者 ではこの辺で……。

底本：『文芸春秋』1940.1

対談「知識階級の使命」

三木清

佐藤信衛

何を知識人というか

記者 知識人というのは一体どういうものか、そんな所からはじめていただきたいと思います。

佐藤 僕は知識人というのは今日では時代遅れだと思いますね。

思いますね。

三木 そういう特別なものがあるように考えることが少し間違ってるんだろな。

佐藤 知識人と称するところがね。知識人というのは明治の文明開化のずつとこれは末っ子なんだ。その時は何もかも文明開化で今までの古いものは野蛮蒙昧だというわけですべて壊して、その

代りには新しい知識を採入れるというそういう時代の末っ子として生れたんだ。だから、明治の初めの知識人というのは居なかつたんぢやないか、そういう名を以て称した知識人というのは……。

三木 あの時代には大体、日本の指導的な政治家も実業家も技術家も、総て知識人であつた訳なんだろう。

佐藤 しかし今の知識人とは違うでしょう。

三木 今の知識人といううちには政治家とか実業家とかははいらない訳なんだからね。

佐藤 どうして今日知識人というような者が出て来たかつていうと、いつたい古い仕来りをなくすれば、やはりたよりになるのは理性とか知識とかいうもののほかにはない。そこで、伝統や因習に関わらないでやってゆけるものとして、知識や思想が重んぜられたんだろけれども、し

かし、これが今のように殊更取立て、言われる時には、そういうものが本来の建設のはたらきをしないで、批判とか懷疑とかそういうことだけになつてゐるように僕なんかには思われる。

封建遺制への批判者として

三木 大体知識人という觀念は、封建的なものに対する批判的な啓蒙的な意義を持つた思想なり知識なりを担当しているものとして、西洋に於いても出来たんだらうと思うんだけど、日本でそういうものが存在の意味を持つてゐるのはやはり、封建的なものが割に長く残つていたということと関係があるだらう。また封建的な残存物が有力に現れて来る色々な機会があつたものだから、それに対する批判者なり、啓蒙家なりとして、知識人というものが意義を持つて来たんだと思う。だから知識人という觀念は、発

生的に、批判的、啓蒙的な意味を持つてゐるので、積極的な建設的な意味はその中にあまり入っていないんだな。

佐藤 殊にそう時世が末になつて知識人というものが出て来る時代には、いろいろなものを疑つたり批判することは出来るけれども、さてどうすれば宜いかつていうことはないんじゃないだろうか。あゝ言えばこう言うのだ。そして單純なる理想というのはなくなつてゐるんだ。いろいろ細かに考へたり疑つたりしてはゐるけれども、單純な理想と單純な行動がない。これは知識の副作用だ。

三木 知性というものは根本において肯定的なものだ。その限りにおいて或る信仰的なものだと思う。そういう面が知性から全然奪われて來てゐるんだね。

佐藤 そういう風になれば、知識とか理性とかいう

ことを特に言わなくなると思うんですよ。それを個人の資格とし特徴として、知識人とか理性人とかいうことは言わなくなるだろうと思うんです。もし今がそういう時だとすれば、これからは単純なる理想を復活して、古い捨てた伝統もまた生かすべきものは生かすというようにし、そうすればまた健全になって、特に知識人というようなことは言わなくなるんだろう。

指導者的な気魄を持ちたい

三木 現在、支那あたりを見たって知識人は政治家なんだ、つまり国民の指導者なんだね。ところが今の日本では知識人はそういう指導者的な気魄もなければ、意慾もないし、たゞ批判者の立場に立つようになつて来ている。日本でも明治時代の知識人というものは、すべて其の時代の指導者だったんだが。現在斯ういう風になつて

きたということには、日本の大学というものの性質も関係しているんじゃないかと思う。西洋の大学は中世から発達して来たんだが、初は僧侶を養成する目的であつて、つまりその時代における指導者を作ることが目的であつた。指導者の意味はその後いろいろ変つたけれども、そういう伝統がちゃんと残つて居ると思うんだ。ところが日本の大学は指導者養成のためにでなく、官吏と教員、つまりサラリーマンを養成する目的で作られたもので、そういう伝統が今のようない時代になつても、ずっと続いて来ている。大体に於いてサラリーマン教育だね、そういう連中が或る意味では自分達を弁護する為に、知識人という觀念を作り出したものであつて、本質的にはサラリーマンじゃないかね。

政治学、政治哲学を確立せよ

だから現在知識人ていうものは、広い意味に於ける指導者という概念に置き換えられなければならないのではなかと思うんだがね。いつも言っているのだけれども、日本に最も欠けているのは政治学、政治思想なんだ。大学にしても根本はサラリーマン教育をしているのだから政治に対する関心などはむしろ余計なものである訳だ。従つて政治学は日本の凡ゆる学問の中で最も発達していないものになっている。科学としてもそうだし、哲学としてもそうだ。ところが大衆を何が最も教育しているかというところ、つまり政治なんだ。ところが現在政治がないという有様だ。明治以前には儒教というものが、とにかく政治学なんだ。そういうものに依つて教育されて来たんだから、政治家にならない人間も一種の政治思想、政治理想というものを自ら体得していた訳である。ところがそういう儒教教育が

現実に勢力を失つてきてから後は、それに代るべきような政治思想を本当に身を入れて教育したかというところ、それがいいのではないかと思う。だからデモクラシーとか何とか云つても、形だけ出来たけれども、そういう思想を身につけた人間というものはあまり作られなかった。今日の日本に於いて独特の政治学とか政治哲学とかが出来なければ、どうにもならないぢやないかと思うんだが。

佐藤 日本の歴史の変遷にはそういう意味の政治ははたらいてはいないとも言える。

三木 それは今後の日本と支那との関係に於いても大きな問題でないかと思う。支那の方が考え方がもっと政治的だと思うんだ。そこで僕は政治思想、つまり政治学及び政治哲学の確立ということが極めて重要だと考える。

佐藤 それには政治が困難を覚えるような事情が先

に出て来るかも知れない。

三木 それから初めて政治学というようなものに、真剣に打込んで来るだろうね。今日の政治は具體的な思想をもたないで、ただ抽象的な言葉で行われている。

佐藤 それだけ難しくないとも言えますね。或は西洋や支那の政治はそういうものがないと困った。

思想のない政治では行きつまる

三木 そうだね。これまで日本では思想がなくてもやつていったんだから。しかし今後は国民を纏めてゆくには、やはりそういうものがなければ、どうにもならなくなつて来ている。

佐藤 たとえば徳川氏の政治っていうのは大名の制御はしたけれども、国民を制御するっていうこととはないと言える。日本の政治では、上の勢力がいつも強くて、その勢力の交替があるだけだ。

三木 明治時代に於いて多少とも下から動かすものが自然出て来た訳なんだけれども。

佐藤 そう。

三木 だから今日官僚政治とかと言うが、官僚政治にもある意味の必然性があるにしても、その官僚が政治思想的に何等訓練されて来ていないのだからね。政治思想を持たない官僚政治はその欠陥も大きいわけだ。

佐藤 それでも自発的に全体的な生活をするという意思が個人にない。そして半面ではまた全体的な力には盲目的に服従しているということがある。

三木 それは矢張り自分に政治思想を持たないからだね。そこでまた政治に対する不当なる輕蔑、嫌惡というものが随分あるのだ。インテリゲンチヤと云つても西洋のインテリゲンチヤと日本のそれとでは政治の教養のあるなしということ

が根本的な相違だと思う。一般的教養として日本で求められているのは大体文学と哲学なんだ。ところが政治というものがもっと普遍的な現象なんだ。あらゆる人間がそれに関聯しているものだと思うけれども、それに付ては教養ということは殆ど問題にされていない。その逆に芸術でも哲学でも、日本では妙に尊敬されている所があると思うね。知識というものが日常化しないで、知識を持つということが普通のことにならないで、何か特別のことのように考えられているというのは文化がまだ普及しない一つのしるしなんだけれども。

佐藤 やはり文化全体の特徴でしょう。

三木 それがやはり知識人という特別の観念を作り出したものだと思う。知識人とは何かというと、凡ゆる人間は政治的人間なんだから、そういう普遍的なものに付て知識なり思想なりを先ず持

たねばならぬわけだがその自覚が足りない。是は教養というものを何か特別なものと考えるところからも来ていると思う。だから知識人の自覚というものがほんとの指導者的な自覚でなしに、一種の特権階級的な意識になっている。指導者というものは特権階級ではない。

佐藤 しかしこれは一つは政治事情だな。それから

もう一つはやはり新しい文化が行くところまで行っていないということもあつて、この両方だろうと思うんです。やはり人々が、政治的に関心を持てと云つても、何処に関心を持つていいか分らないという政治状態では、そういうのはやつぱり発達しない。だからどうしても国民の注意つていうのは文学とか哲学とかいう、何か不急なことにばかり向いていくんぢやないかと思う。

懷疑も徹底的でありたい

三木 日本の学生は割りに哲学が好きなんだが、是はどういう理由かね、この頃の学生は特にそういう傾向が多いんじゃない？

佐藤 文学も哲学も同じようなのぢやないか？哲学と云つても理性の働きをそこまで徹底させてそして何か得ようというような真面目なものではなく、やはり文学でイマヂネーションを満足させると同じような意味なのぢやないでしょうか？

三木 島木君の小説なんか読むのと似てるかも知れないね。

佐藤 そう思いますね。やはり学問の最も奥のところというようなことぢやない。

三木 一つの学問をやつていて、行き詰まったから、哲学をやらねばならぬというようなことぢやないね。

佐藤 大体に日本の知識文化はそういうものだ。

三木 行き詰つてそこに転化していったということが少ない。

佐藤 まだ知識とか理性とかいうものを、本当に所有していないんじゃないかな。却つてその理性を捨てて懷疑ということになつてそこから出直して……。

三木 そうなんだ、徹底した懷疑もなければ、徹底した非合理主義も日本には出ていないんだな。

佐藤 理性なんていうことは本当は人間が持てあますものなんだがな。まかり間違えば自分の身が危くなる、非常に危険なものなんだ。そういう目に遭わないつていうのは、何かなまぐらなものを持つてるからだと思う。だから日本の今までの知識文化はこゝでいろいろ欠点が出て来ても途中で止めないでもつと先へ行かして、徹底的な懷疑派を養成するまでにならないといけない。

三木 懷疑というものも本当の知的な懷疑ではない。

佐藤 知識と言うのはそうなんでしょう、無理想、無希望なんだ。つまり本当の懷疑も出来ない、本当の理性も使うことを知らないっていう。

知識人が単なる読書人であつてはならぬ

三木 しかしそれは東洋一般かも知れないがね、学問ということは要するに本を読むことだということになつてゐる。知識人即読書人でね。支那に於ける読書人という觀念、そういうのが脱けないんじゃないかな。知識人必しも読書人でないのだけれど。何か本に頼つてゐる。殊に日本では、昔から支那文化を輸入して來たのは、支那へ行つて本當に見て來て研究したつていうのは少なく、大体向うから來た本を読んで、やつていた。そういう傾向が今も多いんじゃないか

と思う。知識人即読書人という考え方、是が破れない限り、根本的に新しい懷疑もなければ新しい思想の出発点も出て來ない。

佐藤 つまり西洋の学問を受け容れる時に既にシステムに出来上がったものだけを見てそれが学問だと思つてゐる。つまり新しく出来た家を見せてもらうのに玄関から入つて客間から二階へ上つてそれから台所へ廻るといふようだけれども、ところが家を建てるのは土台からしているんだ。地面から家を建てゝいくようなそういう西洋の学問を知らない。学問なんて云つたつて、本當は僕たちがふだんこうして考えるようなことを段々詳しくして形造つて行つてそれがあの教科書のようなことになつたんですからね。極く素朴なものからはじめてそれを細かく組織して行くつていう、そういうことを知らない。そういうフワ／＼して育つてゆくもの、殻になつ

ていないもの、それが学問だということを知らない。それが今、三木さんが云ったように、昔からの学問の癖でね、何か書物を読むことが学問だという、学問や知識は皆本の中にあるってというような習慣がついてるからでもあるね。一つは西洋の学問の本当の心が分らない。お書物読まない学者なんていうのは昔の人には理解出来ない。

三木 妙に抽象的なことが好きだというのも、そういう所から来ているんだね。

佐藤 頭の中で何か出来上がる、それが学問だという考えがある。

三木 だから日本の僧侶なんかも、大体訓話註釈の学問をやつて来た。そういう傾向が西洋の学問をやるにも残つて来ている。

佐藤 若しそういう古い考え方の学問を今普及させようとしているなら、僕は寧ろそういう学問の

普及は、却つてやらない方が知識人のために良い。そんな学問を知識人の間に広めて、中途半端の知識人を養成したところで、仕様がないだろうと思う。だから国民学校で鍛錬とか芸能ということを主とすると言っているが、学者っていうことはたゞ書物より、芸能とか鍛錬とかいうことにむしろ近いだろう。たゞ書物を読むことが学者でなく、鍛錬、芸能、これに適した素質がなければ学問が出来ないんじゃないか。もつともこの鍛錬や芸能が学問とはなれたものではないかもしれないが。

三木 先ず書物だつて近頃段々系統的に読むなんていうことは、無くなつて来ている。

佐藤 それに西洋の書物を読まなくなりますね。

三木 それは最近洋書がなかなか入つて来ないということにも関係しているね。

佐藤 それから読書力もないんですね。一体学生の

外国書物を読むのは、初は読めないのをあくまで嘯りついてる中に段々どうやら読めて来るよ
うなんだ。

三木 そうなんだ。今でも昔の蘭学者がやったと同じような所がなければ、なかなか身につかない
と思う。

佐藤 ところがそういうことをやろうとしている時に、後から袖を引くような、そういうことは
しなくてもいいというような気分があるんでは、
学生は苦勞して外国の書物なんか読まなくなる、
学生街で買う洋書の古本は実に綺麗です。しか
し何の学問にしる日本の書物で足りるという学
科は実は少ない。文学や哲学のような個性的な
書物はもとより、他の科学でもそうだ。教科書
でも外国の方が便利でよく出来てるから、外国
の書物を学生が読まなくなればどうしたって学
力は、段々下がって来ると考えるより外ない。

三木 それはつまり良いものを読まないために、批
判力がなくなるんだな。

知識人はいかになすべきか

記者 そうすると日本の知識人というものの、是か
らどうなつて行くか。外国の知識人はどうか知
りませんが、そういうものと違つた特別な義務
なり使命なりというものがあるだろうと思いま
すね。今までお話になつた所は非常に同情すべ
き所や欠点やであつたんですが、是からどうなつ
てゆかなければならないかというようなことは、
当然お訊きしたいところですが。

佐藤 今までの知識人というのは何でも知識になつ
ていたんでしよう。つまり感情でも、意思でも
皆知識に変つてた訳ですね。何についても知つ
てるけれども、自分がそれであるということが
ないというのが知識人だ。だから、もつと素朴

な人間に還つてたゞ物を知つてるといふだけの知識は無力で無意味だつていうことを悟つて、もつと素朴に生活を取戻して、そうして何か皆単純な理想を持つようになることが大切だ。

三木 知識人が特別の人間だという考えが一度壊れなければならぬと思う。現在だつて實際、社会の動きに対して知識人は無力なんだが、それにも拘らず特別の人間と考へているのは滑稽なことなんだがね。

佐藤 それは素朴な自分の意思とか感情を持つていないから、知識さえ本当の自分の知識というものを持つていないから、批判力は実はないんですよ。疑つたり躊躇つたりすることはしますがね。それは自己がないと必ず現す徴候だけれども、しかし善い悪いを分ける、本当の批判力はないんじゃないか。本当の好き嫌いを云うことは出来ないんじゃないか。だから感情も弱くなつ

てね、純粹に感動するということはないんじゃないか。従つて何か是こそ正しいと思つて打ち込むような単純なことは皆疑うんだね。

三木 新しいものが出来てゐるのは、単純なところから出来てゐるのだ。思想というものも根本においては極めて単純なものに帰すると思う。それであれば思想に力が出て来ない。天才というのはその極めて単純なものを掴んだ人間である。哲学でも、科学でも、根本になつてゐるアイデアというものは単純なものでなければならぬ。ところが日本のものを讀んで見ると、一貫してゐる単純なものをもつたものが少ない。しかしこれも人間から叩き直していかなければ、どうにもならなくなつてゐるのかも知れない。人間というものも、社会が変化しなければ叩き直せないのだから。

佐藤 だから今日本人の性格つていふのはバラバラ

だ。何が日本人の特徴かっていま言われたら困って、たいがい古い所へ還つて、古い日本人の特徴を探して来る。明治以後に作り上げた日本人の特徴は何かつて言ったら困る。国民の教養はバラバラだ。成人した人の知識の内容を取つて見ても一定なものがない。複雑で変つてゐることは構わないけれども、何か斯う共通したものがなくてはならないんだ。

思想は生活に具体化されねばならぬ

三木

今のように思想というものが何かそれだけのものとしてあるかのように考えていては、思想の統一なんて出来はしない。具体的なものに入つて初めて一致が出来るのであつて、抽象的なものはどういう議論だつて成立ち得るから、一致ということはある得ない。思想が本当に国民の生活の中に入つてゆけば、自ら一致すると思う。

佐藤

それぢや今そういう状態で、今まで斯うしてやつて来たことは皆無駄骨折かつていうと、そうぢやないので、そういう素朴な人間に還つて、単純な感情や思想に還ると云つても、みな棄てなくてはならないのではなく、纏まる必要だといふので、つまり材料は既に揃つてると思ふんですよ。ただバラバラに色々なものが出来てゐるわけなんだ。それが統一されて単純な純粹な人間というものに纏まらないだけで居るんだから、是からそういう兎に角できてゐる文化に新しく向き直つてやり直していくんだ。今までのものには模倣もあり本当に動機がなくてただ因襲でやつて来たんだが、そういう風に目を醒まして今まで何か出来て来たものに対して、そのゴタゴタしたところに纏まりをつけるなり、選択して新しく統一をするなりする外仕方がないと思う。何しろこんなに古いものを捨ててし

まっつて新しく変つたんだから、一つづつ巧く梯子段を踏み外さないように上がっていくつて訳にはいきませんよ。やかましい人は絶望するんだけれども、やはり歴史というものはずっと続いていくものだとする、絶望というのはその時の状態で、あとになつて見れば何かになつたというようなことがある。

三木 そういう意気込がまだ足りないんじゃないかね。

佐藤 ただの懷疑では用をなさないから。

三木 懷疑というけれども、ほんとに懷疑しているという人は少ないんじゃないかね。案外暢気なんじゃないかと思うんじゃないかも。

依存性から来る暢気さ

佐藤 先程の暢気な国民という話をしたら……。暢気を賞めるという風習が日本人にはある。

三木 それはやはり結局、人に頼っているんだね。

人に頼っているから暢気なんだね。学問だつて芸術だつてそうぢやないかな。人に頼っているから、変な流行とか、訳の分らない権威とか勢力とかいうものが出来てしまふんだね。これは自由主義以前だがね。

佐藤 しかし大学の学生が一身を顧みず、一つ事をしようというようなことは殆どなくなつたらしい。

三木 それは全然ない。

佐藤 昔はあつたと思う。そういう風潮では先ず直接に政治が困るのかも知れぬが、学問でも芸術でもみな困る。

三木 日本文化は、西洋の知的な科学で、主体的だとか、或は情操的だとかいうように言われるんだけれども、そういう信念というものもなくなつてゐるんだな。そのものために身を滅ぼして

もいいというようなものがなければ、本当に生きて居るんぢやないと思う。

捨石となる犠牲心が必要だ

佐藤 何も空虚なもののために自分を犠牲にする必

要はないんだが、せめて深く読んでそしていま一石をそこへ置くというようなものがあってもいいな。目前のことばかり言わずにあとから生きて来るような石を打って見ようというような氣持が少しあつていい。

三木 そういう意味ぢやローマン主義者でなくなつてゐるんだな。冒険というものがなくなつてゐる。

佐藤 ものに殉ずるという精神がなかったら文明の進歩なんていうものはないと思う。しかし、それも絶望ぢや決してないので、そういう風になるのは日本の現代としては已むを得ないという

ところがあるんだ。しかし、是からその俣で墮落して行つてしまふのでなくて、そういうものがやはり土台になつて新しく變つていくと、あとから見ればそういうものはちゃんと一役してゐることになる。

三木 それと今の批判力がなくなつたということと關係して、現在の日本の文化が他の時代に比較して全体として質も劣り程度も低いものだということの自覺が足りないんぢやないかと思う。書いてる力も読んでる方も、逆も我々のやつてゐることは下のものだということを自覺してゐないのでないかね。書いてる方だつて好い氣になつてゐるんぢやないかな。

三木 我々だつて好い氣なものを書いてるかも知れないけれども、時々ひどく自分に対して懷疑的になる。

佐藤 それは一つは余程職業もある。やはり金にな

るか、それで生計になるとかしなければ、そんな馬鹿なことはしないとと思う。

三木 そういうことも非常にあるね。つまり日本の国は一体に貧乏なんだよ。

佐藤 自分でもうす／＼考えついてはいるんだろが、それをしなければ仕方がないからそうしてゐるっただけだ。どうすれば宜いかっていうことは、もつと正しい動機に戻してそれが抑々そもそも何のためにあるのか、何の役に立つのか、そういうことを考え直してやるのだ。

三木 だつて本を書くことは日本では副業になつてゐるだろう。それでは良いものが出来ないですよ。是だけは言つて置きたい、是だけ言つて置けば死んでもいいというので書かれた本はない。**佐藤** 書いて読ませるつていうことの社会的の機能も十分理解されていない。

三木 それからまた本当にものを作る喜び、或は苦

しみというものを感じながら出来たというものは、少ないんじゃないかと思う。そういう意味で今日の文化というものは、後世から見れば何か準備はしているかも知れぬけれども、それ自身の価値というものは乏しいと思うな。それを何とか破つていかなければならない時になつてゐる。

佐藤 しかし、そういう反省したり考えたりしてゐるつていうことが現代人の手には負えないつていうことかも知れない。

三木 だからやはり客観的な情勢というかね、つまり、社会なり政治なりが変らなければ出て来ないと思う。

佐藤 三木さん、学生の頃から今までに日本の学問はこれでも段々良くなつて来ている？

三木 全体からいえば良くなつたとはいえないと思うね。

佐藤 いつも今の学生の齒がゆさをよく聞かされる

が、それは何か個人的なことです。それともやはり時世ですか。

三木 それは社会一般の風潮だろうね。絶壁に立

たせられなければ覚悟は出来ないわけなんだが、その絶壁が客観的、社会的に与えられる時もあるし、昔の修業なんていうものは、主体的に絶壁というものを構成して、そういう所に向いながら、修行して来たと思う。ところが今の多くの人はそういう絶壁に立った経験がないんじゃないかな。だから最後の安心もなければそうかと云って本当の甘さもないんだ。国民としても絶壁に立たされた時に初めて、どれだけの力を持ち、どれだけのものであるかということが、はっきり試験されて来るんじゃないかと思う。そのことも遠くないんじゃないかと思う。

佐藤 しかしその頃と今とそう人間の素質は変って

いないと思うが。

三木 それは変っていないんだよ。

佐藤 どうしてそういう違いが出て来るのかな。

若い人をどしどし抜擢すべきだ

三木 それはいろいろな条件があると思うが、例えば欧羅巴人と比べて、日本人は頭が悪いかつていうと、むしろ良いと思うんだ。それでいて結局やった仕事から云えばそれまでに至らないということがあるんだね。それが大きな問題だと思うんだ。例えば人間修行ということを若い人は軽蔑するんだ。是は軽蔑するのもある意味では正しいのだけれども、新しい人間修行というものがあると思うんだ。西洋の科学者にしていろいろな人間修行をしていると思う。

佐藤 つまり身につけるといことが皆修行なわけだ。そういうことを知らない。本当にハイカ

うになりたい人なら一つ野暮をくぐつて来なければいけない。だが、しかし墮落つていうのは、段々墮落するんで先行者に罪がある。

三木 それはそうなんだ。

佐藤 教育も悪いし……。

三木 先輩も悪いね。

佐藤 指導がいけないんだ。

三木 何と云つたつて若い人に希望を与えなければいけない。

佐藤 若い人に任せないからいけないんだ。

三木 ドイツのナチだつてソビエトだつて、若い人をぐんぐん拔擢している。日本ではそうぢやない、五十、六十にならないと尊敬されない。

佐藤 老人が若い人に決して譲らない。これもデグラデエシオン【Degradation 格下げ 退落】の原因だね。それから若い人が時勢に抑えつけられていると、いうようなのはいけない。時勢、時勢と云つ

て圧えては却つて萎縮することもある。

三木 だから締るべきところはずんと締つて、他方息抜きのできる所をつくらなければね。外で機嫌の好い亭主は家へ帰つて女房に威張るものなんだ。そういう息抜きのできる所を今の政治は持つていないんだな。

佐藤 斯う外から圧力があつては自分自身でなくなる。一身を賭してやるつていうことはなく。何か重しの下で逃がれようとするからね。却つて献身的にものをしようということがなくなるんだやないか？、そういう点ぢや明治の前半なんか非常に自由ですね。僕はよくグッド・オールド・デイズというんだけど。二どとはかえらない……。

三木 まだしかし来るかも知れない。

佐藤 政治家もえらかった。

三木 そうなんだ。結局政治家がえらくなければ、

全体が善くならない。

佐藤 政治がどうでもいいというには国民がめいめいに力を持たなければ……。

三木 そういうこともあると思うね。現代のインテリゲンチヤは最後の抛りどころがない。是は大きな問題だと思う。宗教というか、理想というか、そういう最後の抛りどころがなければ、ほんとの冒険も出来やしない。

東洋と西洋とはいかに綜合されるか

佐藤 精神文化がない。たまに精神なんていうことを言い出すと、死んだ精神で、良くも悪くもない。本当に生きてる精神なんてない。三木さんは西洋に対して真つ向から推服して毫も批判しない時代に成長期が当って、それから西洋に行つても来たんだが、そういう人が今の日本にある西洋をどう処置したらいいか。ということにつ

いて何か考えが――

三木 僕は斯う思う。西洋文化に対して東洋文化というけれども、東洋文化というものを西洋の近代文化と比較すると、非常に違っているが、ギリシヤ文化なんかと比較すると、色々類似点がある。ラッセルなんかも支那の文化はギリシヤ文化と似ていると云っている。つまり辯證法みたいになるが、西洋文化も結局近代文化を経て、もう一度新しい意味に於ける、ギリシヤ復興というような所へ還らなければ、どうにもならないんじゃないかと思う。そういう意味に於いて東洋文化というものにも意味があると思う。我々がそこへ還つて来るには西洋の近代文化を徹底的に吸収して、然る後に還つて来なければならぬ。近代文化というものは自然に対する人間の支配、是まで云つて居つた意味に於ける技術ということを中心にして起つた文化で、科学的

文化なんだ。ところがその近代的な技術文化というものは、産業革命に於いて非常に大きな役割を演じて、それから後にその行きづまりというか、社会上、文化上の多くの弊害が出て来た。そこで今何が必要かという、今度は人間に対する技術、社会に対する技術だと思う。自然科学的な基礎に立った技術というものを無視するわけではなく、むしろそういうものを更に支配する技術だね。つまり社会的技術というものが、現代の最も大きな問題だ。是はまた前に言う政治なんだよ。それは哲学的に云えば、僕は法則に対する形というようなことで云っているんだけれども、法則というものに止まらないでもう一度形に具体化して来るということ、是がギリシャ文化への復興だと思うんだが、そういうことになると東洋の文化というものが意味を持つて来るんだと思う。つまり科学を抜けて来た後

の古典的文化への復帰ということに於いて、西洋文化と東洋文化とが本当に綜合されるんじゃないかと思うんだ。科学文化と東洋文化を綜合しようとしても直ぐには出来ない。そこに一方ではギリシャ文化の媒介が必要で、それから社会技術という所へ行くと、初めて東洋文化と西洋文化の綜合点を見出すことが出来るのでないかと思う。

佐藤 今の東洋人というのは、それほど東洋を持っているだろうか。

三木 東洋を持つていないから、西洋の悪い所ばかりを受けつぐことにもなる。だから真の西洋でもない、真の東洋でもないということになつてゐるんだろう。是が現代日本の文化の混乱ということであり、統一がない、力がない、落着きがない。

佐藤 日本は支那を大いに吸収したというんだがそ

れが事実かどうか。

三木 いや、それだつて支那の本当の所は吸収していいんじゃないかね。本を通して支那から学んだというだけで、支那の文化の本質的のものは、それほど吸収していいのではないかね。だから支那文化ももう一度再認識しなければならない。

佐藤 とにかく今まで西洋に依る啓蒙開発を通じて初めて分る支那なんだ。そういう支那が随分あると思う。昔の日本人が見なかつた支那だ。

三木 西洋文化だつて、やはり根本的に学び直さなければならぬ。西洋文化を学び直す方法論というものが確立しなければならぬと思う。是は新しい意味に於ける文献学の方法論を確立するところだ。ところがその方法論がない、学校でも教えて呉れない。たゞ語学は教えてくれるけれども西洋文化の学び方というようなことは教えて

くれない。演習とか何とか云つてゐるけれども、本当の学び方は教えていないんだ。

無駄骨だつたと云ふことは一つもない

佐藤 ところが西洋の正しい方法論というのはス
コラの学問を真似するなということだ。だから、それを正しく学べばね、西洋の方法を会得するということとはね、西洋の方法を学ぶなということになるんだ。そこが本当に分れば今の学問の困難はすべて結ばれはほぐれていくように思われる。西洋の方法を学ぶつていうことは、却つて西洋を徒らに学ぶなということで、西洋に服従することではない。

三木 方法というのはものを支配する技術なんで、方法さえ確立すれば支配出来る。そういう意味に於ける文献学というものが無いんだな。文献学というのは要するに訓話註釈になつてしまつ

て、文献学の最も幼稚な所に止まっている。中途半端の文献学だな。例えばドイツでフランス文学をやるとか、イタリー文学をやるとか、是は何かというとロマニツシエ・フィロロギー romanisch Philologie という中に入っている。ところが日本ではフィロロギーという方法論を確立して、イギリス文学とかドイツ文学とかを撰取しているかというところじゃないんだね。

佐藤

そこでこういうことになる。どう考えても今

までのことは、無駄骨折ぢやない、今までのやつたことが不完全なだけで、今までのことは是からもどれも無駄になるんじゃない。だから西洋の学問でもそれを今更捨てないで、一層もつとやるということが必要だし、今まで養つて来た日本人の理性というものでも、そういう明治以来の企てが決して誤つてるのでなくて、まだ理性が未熟な為いろいろな弊害があるんだから、

結局いまやったようなことも先に行つて役に立つ。そういうことだ。

記者

ではこの辺で、有難うございました。

底本：『知性』1940.4第3巻4号

参加者略歴

Whitworth College 卒業、中外商業新報・朝日新聞社のちフリーの評論家、『暗黒日記』。

芦田 均：1887～1959、京都出身、東京帝国大学卒、

外務官僚から衆議院議員。戦後連立政権の外務

大臣をへて総理大臣

青野季吉：1890～1961、新潟県佐渡島生まれ、早

稲田大学卒、文芸評論家。

阿部知一：1903～1973、岡山県生まれ、東京帝国

大学英文科卒、小説家・評論家、全集（河出書

房新社）。

石浜知行〔石濱知行〕：1895～1950、兵庫県出身、

東京帝大卒、九州帝大教授、読売新聞論説委員、マ

ルクス経済学。1928の三・一五事件で教授職を追われる。

尾崎士郎：1898～1964、愛知県生まれ、早稲田大学

政治科中退、小説家。

清沢 冽【清澤冽】：1890～1945、長野県出身、アメリカ・

佐藤信衛〔佐藤信衛〕：1905～1989、茨城県出身、

東京帝国大学哲学科卒、法政大学教授。

佐々弘雄：1897～1978、熊本県生まれ、東京帝大法学部政

治学科卒、九州帝大教授、昭和研究会、戦後参議院議員。

島木健作：1903～1945、北海道生まれ、東北帝国

大学法学部選科中退、小説家、作品『生活の探求』。

清水弥太郎〔清水彌太郎〕：1893～不明、早稲田大学

卒、読売新聞文芸部長。

杉森孝次郎：1881～1968、静岡県生まれ、早稲田大

学卒、官費留学生（ドイツ・イギリス）、評論家、

早稲田大学・駒沢大学教授（倫理学・社会学）。

杉山平助：1895～1946、大阪生まれ、文芸評論家、「文

芸春秋」「東京朝日新聞」に匿名評論多数。

関口 泰〔關口泰〕：1889～1956、静岡市出身、

東京帝国大学法科大学卒、東京朝日新聞論説部、

横浜市立大学学長。

武田麟太郎：1904～1946、大阪市出身、東京帝国
大学文学部中退、小説家、作品「日本三文オペラ」
など。

田辺茂一：[田邊茂一] 1905～1981、東京出身、
著述家、紀伊国屋書店創業者。

津久井龍雄：1901～1989、早稲田大学英文科中退、
赤松克麿・倉田百三らと「国民協会」設立。戦後は
公職追放。（龍夫と表記される場合も散見される）

戸坂 潤：1900～1945、東京生まれ、京都帝国大
学哲学科卒、哲学者、唯物論研究会。全集（勁
草書房）。

豊島与志雄 [豊島與志雄]：1890～1965、福岡県
生まれ、東京帝国大学仏文学科卒、法政・明治
大学教授、小説家。

中島健蔵 [中島健藏]：1903～1979、東京生まれ、
東京帝国大学仏文科卒、文芸評論家・フランス

文学者。

長谷川如是閑（萬次郎）：1875～1969、東京生まれ、
東京法学院卒、大阪朝日新聞社員、ジャーナリ
スト。

羽仁もと子：1880～1955、山口県出身、尋常小学校卒、
報知新聞編集長を経て、もと子と『婦人之友』創刊、
自由学園を創立

羽仁もと子：1873～1957、青森県出身、明治女学校
高等科卒、女性初のジャーナリスト、旧姓松岡、羽
仁吉一と再婚、本名「羽仁もと子」

室伏高信：1892～1970、神奈川県出身、明治大学
法科中退、ジャーナリスト。

三輪寿壮 [壽壮]：1894～1966、福岡県出身、東京
帝大卒、弁護士、社会大衆党から衆議院議員。

山崎靖純：1894～1966、ジャーナリスト（時事新報・
読売新聞）、経済評論家、著書「大東亜共栄圏の確立」

など

蠟山政道〔蠟山政道〕：1895～1980、群馬県出身、
東京帝国大学政治学科卒、同大法学部教授、行政学、
1942衆議院議員（大政翼賛会推薦）、戦後は民社党
の理論サポーター。

作成日：2010.8.14

修正追加日：2010.12.29

作成者：石井彰文